

水 上 遺 跡
赤 井 南 遺 跡
安 吉 遺 跡
棚 田 遺 跡
本江大坪Ⅰ遺跡

発掘調査報告

— 北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅳ —



2012年

水 上 遺 跡
赤 井 南 遺 跡
安 吉 遺 跡
棚 田 遺 跡
本江大坪 I 遺跡

発掘調査報告

— 北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅳ —

2012年

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は、日本海沿いに上越市、富山市、金沢市、福井市等の主要都市を經由し、東京と大阪を結ぶ路線として計画され、現在、金沢市までの建設が進められています。その建設に先立ち、当事務所では、計画路線内の遺跡で平成13年度から発掘調査を実施してまいりました。

本書は、平成21年度、22年度に調査を実施した水上遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡、棚田遺跡、本江大坪Ⅰ遺跡の成果をまとめたものです。

この五遺跡は、庄川右岸の射水平野南西端に位置し、射水市大門地区を貫流する和田川と下条川との間に点在する微高地上に立地しています。発掘調査の結果、古代から近世に至るさまざまな時代の生活の姿が明らかになりました。赤井南遺跡では、古代の道路跡が見つかり、その側溝から人面墨書土器が出土しています。水上遺跡、安吉遺跡では中世から近世にかけての方形に巡る区画溝や掘立柱建物からなる集落跡が見つかりました。また、安吉遺跡の調査では、文献史料にみえる寺院跡の可能性が高まるなど、貴重な発見となりました。

こうした発掘調査の成果が、文字の記録には現れることのない人々の生活をひもとく一助となり、地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

所長 岸本雅敏

例 言

1 本書は富山県射水市新開発地内に所在する水上遺跡、同赤井地内に所在する赤井南遺跡、同安吉地内に所在する安吉遺跡、同棚田地内に所在する棚田遺跡、同大門本江地内に所在する本江大坪Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。

2 調査は独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの委託を受けて、財団法人富山県文化振興財団が行った。

3 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記の通りである。

調査期間	水上遺跡	平成 22 (2010) 年 4 月 20 日～8 月 30 日
	赤井南遺跡	平成 22 (2010) 年 4 月 30 日～8 月 9 日
	安吉遺跡	平成 21 (2009) 年 4 月 17 日～7 月 16 日
	棚田遺跡	平成 21 (2009) 年 6 月 10 日～9 月 11 日
	本江大坪Ⅰ遺跡	平成 21 (2009) 年 8 月 24 日～11 月 19 日
整理期間		平成 22 (2010) 年 4 月 1 日～平成 24 (2013) 年 3 月 31 日

4 本書の編集・執筆は、菅田 薫、越前慎子、金三津道子、青山 晃、島田亮仁が担当し、執筆分担は文末に記した。

5 安吉遺跡出土古銭の判読は、富山工業技術センターに委託し、CT 撮影および画像処理を行った。

6 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大な御教示・ご協力を得た。記して謝意を表したい。(敬省略、五十音順)

伊藤 潔、黒崎 直、菅田 薫、鈴木景二、松山充宏

射水市教育委員会、射水市新湊博物館、富山県教育委員会、富山県工業技術センター、富山県埋蔵文化財センター

凡 例

- 1 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。
- 3 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。
遺構 建物：1/100，溝：1/40，土坑：1/40・1/80
遺物 土器・土製品：1/3～1/4，木製品：1/2～1/8，石製品：2/3～1/3，金属製品：1/1～1/2
- 4 遺構の略号は以下のとおりである。
SA：杭列，SB：建物，SD：自然流路・溝，SE：井戸，SF：道路，SK：土坑，SP：柱穴，SX：その他
- 5 遺構番号は、調査時に地区ごとに付した番号に一定の数値を加算して遺構番号とした。番号は、遺構の種類にかかわらず連番とするが、建物には新たに番号を付した。各遺跡の遺構番号は次のとおりである。
水上遺跡 加算せず
赤井南遺跡 加算せず
安吉遺跡 A地区：加算せず，B地区：+400
棚田遺跡 A地区：+200，B地区：加算せず
本江大坪I遺跡 A地区：加算せず，B地区：+100，C地区：+300
- 6 遺物は遺跡ごとに連番を付す。種類に関わらず連番とし、本文・挿図・一覧表・写真図版の遺物番号は全て一致する。
- 7 遺跡の略号は、市町村番号に遺跡名を続け、水上遺跡では「11MK」、赤井南遺跡では「11AM」、安吉遺跡では「11YY-地区名」、棚田遺跡では「11TD-地区名」、本江大坪I遺跡では「11HOI-地区名」とし、遺物の注記には略号を用いた。
- 8 遺構の地山及び炭化物層、遺物の煤付着部分及び赤彩等は以下のとおりに示す。これ以外については、図中に凡例で示した。

地山



炭化物・煤・コゲ



赤彩



- 9 土層及び遺構埋土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」を参照した。
- 10 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は以下の文献を参考にした。
掘立柱建物：奈良国立文化財研究所 1976「平城宮発掘調査報告Ⅵ」
井戸：宇野隆夫 1982「井戸考」『史林』第65巻第5号
- 11 遺物のうち、珠洲・輸入陶磁器・瀬戸美濃・中世土師器の分類と編年に関する用語は以下の文献を参考にした。
珠洲：吉岡康暢 1994「中世須恵器の研究」吉川孔文館
輸入陶磁器：山本 信夫 2000「太宰府市の文化財第49集 大宰府条坊跡XV 陶磁器分類編」太宰府市教育委員会
森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究No2』日本貿易陶磁研究会
上田 秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の型式分類について」『貿易陶磁研究No2』日本貿易

陶磁研究会

瀬戸美濃：藤沢良祐他 2005「施釉陶器生産技術の伝播」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年』中央大学文学部日本史学研究会

中世土師器：越前慎子 1996「梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

12 遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。

- ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に新>古のように記号で示す。
- ②規模の（ ）内は現存長を表す。
- ③法量の（ ）内数値は推定復元値を表す。また、残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。
- ④重量はg単位で示す。計測は大きさにより台秤と電子秤を使い分けた。
- ⑤胎土色調・釉色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』・財団法人日本規格協会『標準色票 光沢版』を使用し、釉調の和名は小学館『色の手帖』より似たものを使用した。なお、陶磁器のうち複数の色がみられる場合は最も多く使用されている色を記し、その他は特記事項に記す。但し透明釉の場合は記入しない。

目 次

第Ⅰ章 調査の経過	1
1 調査に至る経緯	1
2 発掘作業の経過と方法	4
3 整理作業の経過と方法	6
4 普及活動	6
第Ⅱ章 位置と環境	7
1 地理的環境	7
2 歴史的環境	7
第Ⅲ章 水上遺跡	12
1 概要	12
2 層序	12
3 遺構・遺物	17
4 総括 観察表	26
第Ⅳ章 赤井南遺跡	59
1 概要	59
2 層序	59
3 遺構・遺物	62
4 総括 観察表	99
第Ⅴ章 安吉遺跡	113
1 概要	113
2 層序	113
3 遺構・遺物	113
4 総括 観察表	134
第Ⅵ章 棚田遺跡	173
1 概要	173
2 層序	173
3 遺構・遺物	173
4 総括 観察表	184
第Ⅶ章 本江大坪Ⅰ遺跡	193
1 概要	193
2 層序	193
3 遺構・遺物	193
4 総括 観察表	203
第Ⅷ章 自然科学分析	212
1 種実遺体同定	213
2 自然科学分析	218
3 放射性炭素年代測定	229
4 石材鑑定	233
5 樹種同定	236
6 漆塗膜分析	241

插图目次

- 第 1 図 調査位置図・遺跡位置図
第 2 図 安吉遺跡発掘調査位置図 (既往の調査位置)
第 3 図 調査区区域図
第 4 図 地形図
第 5 図 周辺遺跡位置図
第 6 図 水上遺跡 遺構全体図
第 7 図 水上遺跡 遺構全体図
第 8 図 水上遺跡 遺構全体図
第 9 図 水上遺跡 遺構全体図
第 10 図 水上遺跡 遺構全体図
第 11 図 水上遺跡 主な遺構の種類別分布図
第 12 図 水上遺跡 遺構実測図
第 13 図 水上遺跡 遺構実測図
第 14 図 水上遺跡 遺構実測図
第 15 図 水上遺跡 遺構実測図
第 16 図 水上遺跡 遺構実測図
第 17 図 水上遺跡 遺構実測図
第 18 図 水上遺跡 遺構実測図
第 19 図 水上遺跡 遺構実測図
第 20 図 水上遺跡 遺構実測図
第 21 図 水上遺跡 遺構実測図
第 22 図 水上遺跡 遺構実測図
第 23 図 水上遺跡 遺構実測図
第 24 図 水上遺跡 遺構実測図
第 25 図 水上遺跡 遺構実測図
第 26 図 水上遺跡 遺物実測図 (土器)
第 27 図 水上遺跡 遺物実測図 (土器)
第 28 図 水上遺跡 遺物実測図 (土器)
第 29 図 水上遺跡 遺物実測図 (土器・土製品)
第 30 図 水上遺跡 遺物実測図 (木製品)
第 31 図 水上遺跡 遺物実測図 (石製品)
第 32 図 赤井南遺跡 遺構全体図
第 33 図 赤井南遺跡 遺構全体図
第 34 図 赤井南遺跡 遺構全体図 (古代)
第 35 図 赤井南遺跡 遺構全体図 (古代)
第 36 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (古代)
第 37 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (古代)
第 38 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (古代)
第 39 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (古代)
第 40 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (古代)
第 41 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (古代)
第 42 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (中世)
第 43 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (中世)
第 44 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (中世)
第 45 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (中世)
第 46 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (中世)
第 47 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (中世)
第 48 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (中世)
第 49 図 赤井南遺跡 遺構全体図 (近世)
第 50 図 赤井南遺跡 遺構実測図 (近世)
第 51 図 赤井南遺跡 遺物実測図 (土器)
第 52 図 赤井南遺跡 遺物実測図 (土器)
第 53 図 赤井南遺跡 遺物実測図 (土器・木製品)
第 54 図 赤井南遺跡 遺物実測図 (土器・土製品)
第 55 図 赤井南遺跡 遺物実測図 (土器)
第 56 図 赤井南遺跡 遺物実測図 (土器・土製品・石製品)
第 57 図 赤井南遺跡 遺物実測図 (土器・土製品)
第 58 図 赤井南遺跡 遺物実測図 (土器・石製品)
第 59 図 赤井南遺跡
第 60 図 赤井南遺跡
第 61 図 赤井南遺跡
第 62 図 安吉遺跡 遺構全体図
第 63 図 安吉遺跡 遺構全体図
第 64 図 安吉遺跡 遺構全体図
第 65 図 安吉遺跡 遺構全体図
第 66 図 安吉遺跡 遺構全体図
第 67 図 安吉遺跡 遺構全体図
第 68 図 安吉遺跡 遺構全体図
第 69 図 安吉遺跡 遺構全体図
第 70 図 安吉遺跡 遺構実測図 (中世以前)
第 71 図 安吉遺跡 遺構配置図
第 72 図 安吉遺跡 中世の安吉遺跡と周辺図
第 73 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 74 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 75 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 76 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 77 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 78 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 79 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 80 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 81 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 82 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 83 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 84 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 85 図 安吉遺跡 遺構実測図
第 86 図 安吉遺跡 遺物実測図 (土器)
第 87 図 安吉遺跡 遺物実測図 (土器)
第 88 図 安吉遺跡 遺物実測図 (土器)
第 89 図 安吉遺跡 遺物実測図 (土器)
第 90 図 安吉遺跡 遺物実測図 (土器)
第 91 図 安吉遺跡 遺物実測図 (土器)

第 92 図	安吉遺跡	遺物実測図 (土器)	第 108 図	棚田遺跡	遺構実測図
第 93 図	安吉遺跡	遺物実測図 (土器)	第 109 図	棚田遺跡	遺物実測図 (土器・石製品)
第 94 図	安吉遺跡	遺物実測図 (土器・土製品)	第 110 図	棚田遺跡	遺物実測図 (土器)
第 95 図	安吉遺跡	遺物実測図 (木製品)	第 111 図	棚田遺跡	遺物実測図 (木製品・金属製品)
第 96 図	安吉遺跡	遺物実測図 (木製品)	第 112 図	本江大坪 I 遺跡	遺構全体図
第 97 図	安吉遺跡	遺物実測図 (石製品)	第 113 図	本江大坪 I 遺跡	遺構全体図
第 98 図	安吉遺跡	遺物実測図 (金属製品)	第 114 図	本江大坪 I 遺跡	遺構全体図
第 99 図	棚田遺跡	遺構全体図	第 115 図	本江大坪 I 遺跡	遺構全体図
第 100 図	棚田遺跡	遺構全体図	第 116 図	本江大坪 I 遺跡	遺構全体図
第 101 図	棚田遺跡	遺構全体図	第 117 図	本江大坪 I 遺跡	遺構全体図
第 102 図	棚田遺跡	遺構全体図	第 118 図	本江大坪 I 遺跡	遺構実測図
第 103 図	棚田遺跡	遺構全体図	第 119 図	本江大坪 I 遺跡	遺構実測図
第 104 図	棚田遺跡	遺構全体図	第 120 図	本江大坪 I 遺跡	遺物実測図 (土器)
第 105 図	棚田遺跡	遺構全体図	第 121 図	本江大坪 I 遺跡	遺物実測図 (石製品・金属製品)
第 106 図	棚田遺跡	遺構全体図			
第 107 図	棚田遺跡	遺構実測図			

写真図版目次

図版 1	遺跡遠景	図版 31	赤井南遺跡	全景
図版 2	水上遺跡 全景 西区全景	図版 32	赤井南遺跡	全景
図版 3	赤井南遺跡 全景 古代道路	図版 33	赤井南遺跡	全景
図版 4	赤井南遺跡 古代道路側溝出土遺物	図版 34	赤井南遺跡	全景
図版 5	安吉遺跡 全景 区画溝	図版 35	赤井南遺跡 (古代)	溝・道路
図版 6	安吉遺跡 出土木製品・金属製品	図版 36	赤井南遺跡 (古代)	溝
図版 7	棚田遺跡 全景 出土木製品	図版 37	赤井南遺跡 (古代)	溝
図版 8	本江大坪 I 遺跡 全景 B 地区全景	図版 38	赤井南遺跡 (古代)	溝・柱穴
図版 9	航空写真 (1946 年撮影)	図版 39	赤井南遺跡 (古代)	柱穴・土坑
図版 10	航空写真 (2007 年撮影)	図版 40	赤井南遺跡 (中世)	柱穴
図版 11	水上遺跡 遺跡遠景	図版 41	赤井南遺跡 (中世)	井戸
図版 12	水上遺跡 全景・溝	図版 42	赤井南遺跡 (中世)	井戸
図版 13	水上遺跡 全景・溝	図版 43	赤井南遺跡 (中世)	溝
図版 14	水上遺跡 全景	図版 44	赤井南遺跡 (中世)	土坑
図版 15	水上遺跡 土坑・溝	図版 45	赤井南遺跡 (近世～近代)	溝
図版 16	水上遺跡 掘立柱建物	図版 46	赤井南遺跡	土器
図版 17	水上遺跡 井戸	図版 47	赤井南遺跡	土器
図版 18	水上遺跡 井戸・土坑	図版 48	赤井南遺跡	土器
図版 19	水上遺跡 土坑・溝	図版 49	赤井南遺跡	土器
図版 20	水上遺跡 溝	図版 50	赤井南遺跡	土器・土製品
図版 21	水上遺跡 土器・陶磁器	図版 51	赤井南遺跡	土器
図版 22	水上遺跡 土器	図版 52	赤井南遺跡	陶磁器
図版 23	水上遺跡 陶磁器	図版 53	赤井南遺跡	陶磁器
図版 24	水上遺跡 陶磁器	図版 54	赤井南遺跡	土器・陶磁器・木製品
図版 25	水上遺跡 陶磁器	図版 55	赤井南遺跡	土器・陶磁器・石製品
図版 26	水上遺跡 陶磁器	図版 56	安吉遺跡	遺跡遠景 全景
図版 27	水上遺跡 陶磁器	図版 57	安吉遺跡	全景
図版 28	水上遺跡 陶磁器	図版 58	安吉遺跡	全景
図版 29	水上遺跡 陶磁器・石製品	図版 59	安吉遺跡	全景
図版 30	水上遺跡 木製品	図版 60	安吉遺跡	溝

図版 61	安吉遺跡	溝	図版 82	安吉遺跡	木製品
図版 62	安吉遺跡	溝	図版 83	安吉遺跡	木製品
図版 63	安吉遺跡	土坑	図版 84	安吉遺跡	木製品
図版 64	安吉遺跡	土坑	図版 85	安吉遺跡	木製品・石製品
図版 65	安吉遺跡	土坑	図版 86	安吉遺跡	金属製品
図版 66	安吉遺跡	土坑	図版 87	安吉遺跡	古銭C T画像
図版 67	安吉遺跡	土器	図版 88	安吉遺跡	古銭C T画像
図版 68	安吉遺跡	土器	図版 89	棚田遺跡	遺跡遠景 全景
図版 69	安吉遺跡	土器	図版 90	棚田遺跡	全景
図版 70	安吉遺跡	土器	図版 91	棚田遺跡	溝
図版 71	安吉遺跡	土器・陶磁器	図版 92	棚田遺跡	土器
図版 72	安吉遺跡	陶磁器	図版 93	棚田遺跡	土器・陶磁器
図版 73	安吉遺跡	陶磁器	図版 94	棚田遺跡	陶磁器
図版 74	安吉遺跡	陶磁器	図版 95	本江大坪 I 遺跡	遺跡遠景 全景
図版 75	安吉遺跡	陶磁器	図版 96	本江大坪 I 遺跡	全景
図版 76	安吉遺跡	陶磁器	図版 97	本江大坪 I 遺跡	全景
図版 77	安吉遺跡	陶磁器	図版 98	本江大坪 I 遺跡	全景
図版 78	安吉遺跡	陶磁器	図版 99	本江大坪 I 遺跡	溝・土坑
図版 79	安吉遺跡	陶磁器	図版 100	本江大坪 I 遺跡	土器
図版 80	安吉遺跡	土器・土製品	図版 101	本江大坪 I 遺跡	土器・陶磁器
図版 81	安吉遺跡	木製品	図版 102	本江大坪 I 遺跡	石製品・金属製品

目次

第 1 表	既往の調査一覧	第 25 表	赤井南遺跡	土器・陶磁器・土製品一覧 (1)・(2)	
第 2 表	調査体制	第 26 表	赤井南遺跡	木製品一覧	
第 3 表	調査一覧	第 27 表	赤井南遺跡	石製品一覧	
第 4 表	整理体制	第 28 表	安吉遺跡	溝一覧 (1)・(2)	
第 5 表	周辺遺跡一覧	第 29 表	安吉遺跡	土坑一覧 (1)~(4)	
第 6 表	水上遺跡	出土土器組成表	第 30 表	安吉遺跡	土器・陶磁器・土製品一覧 (1)~(3)
第 7 表	水上遺跡	掘立柱建物一覧	第 31 表	安吉遺跡	木製品一覧
第 8 表	水上遺跡	柱穴一覧	第 32 表	安吉遺跡	石製品一覧
第 9 表	水上遺跡	井戸一覧	第 33 表	安吉遺跡	金属製品一覧
第 10 表	水上遺跡	土坑一覧 (1)~(5)	第 34 表	棚田遺跡	溝一覧
第 11 表	水上遺跡	大型土坑一覧	第 35 表	棚田遺跡	土坑一覧
第 12 表	水上遺跡	溝一覧	第 36 表	棚田遺跡	土器・陶磁器一覧
第 13 表	水上遺跡	土器・陶磁器・土製品一覧 (1)・(2)	第 37 表	棚田遺跡	木製品一覧
第 14 表	水上遺跡	木製品一覧	第 38 表	棚田遺跡	石製品一覧
第 15 表	水上遺跡	石製品一覧	第 39 表	棚田遺跡	金属製品一覧
第 16 表	赤井南遺跡	県内の古代道路遺構と近県の古代北陸道遺構	第 40 表	本江大坪 I 遺跡	溝一覧
第 17 表	赤井南遺跡	古代柱・杭一覧	第 41 表	本江大坪 I 遺跡	土坑一覧 (1)~(3)
第 18 表	赤井南遺跡	古代溝一覧	第 42 表	本江大坪 I 遺跡	土器・陶磁器一覧
第 19 表	赤井南遺跡	古代土坑一覧	第 43 表	本江大坪 I 遺跡	石製品一覧
第 20 表	赤井南遺跡	中世柱穴一覧	第 44 表	本江大坪 I 遺跡	金属製品一覧
第 21 表	赤井南遺跡	中世溝一覧			
第 22 表	赤井南遺跡	中世井戸一覧			
第 23 表	赤井南遺跡	中世土坑一覧 (1)・(2)			
第 24 表	赤井南遺跡	近世溝一覧			

第I章 調査の経過

1 調査に至る経緯

(1) 調査の契機

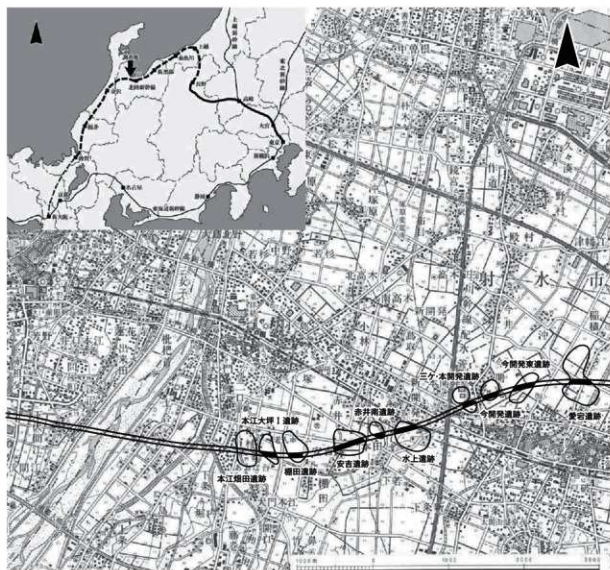
北陸新幹線は、東京を起点として高崎、長野、富山、金沢、福井を経由し大阪に至る延長約700kmの路線である。昭和48(1973)年に整備計画が決定し、全国新幹線鉄道整備法のもと建設工事が進められている。平成13(2001)年には上越・富山間が、平成17(2005)年には富山・金沢間の建設工事が、それぞれフル規格で着工しており、平成26(2014)年度までの完成が予定されている。

北陸新幹線の富山県内における駅及びルートの概要は、昭和60(1985)年に日本鉄道建設公団(現独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、以下、鉄道・運輸機構)から富山県教育委員会(以下、県教委)に示され、路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、日本鉄道建設公団北陸新幹線第二建設局(現鉄道・運輸機構)・県教委・富山県埋蔵文化財センター(以下、県センター)により協議が行われた。その結果、埋蔵文化財の分布状況を把握するため、路線敷の用地買収完了地域で早急に分布調査を実施することとなった。

昭和60(1985)年、県教委と県センターにより路線敷全長63.9kmのうち約38kmについて分布調査が行われ、周知の埋蔵文化財包蔵地(以下、包蔵地)を含め県東部で16箇所、県西部で11箇所の包蔵地が確認された。平成7(1995)年、平成14(2002)年には、県センターと当該市町村教委により県東部の未調査部分で分布調査が実施された。その結果、新たに包蔵地4箇所が発見され、周知の包蔵地6箇所が再確認された。また、県西部においては、平成18(2006)年の分布調査で6箇所の包蔵地が新たに確認され、4箇所で包蔵地の範囲が拡大した。

北陸新幹線建設に先立ち、用地内における包蔵地の確認調査の要望が鉄道・運輸機構から県教委に出された。両者の協議の結果、確認調査を財団法人富山県文化振興財団(以下、財団)に依頼することとなった。これを受け、平成8(1996)年、財団は小矢部市下川原遺跡において確認調査を実施した。平成11(1999)年以降は、県東部から順次確認調査を実施している。平成20年度は、安吉遺跡、棚田遺跡、本江大坪I遺跡を含む24遺跡で実施した。平成21年度は、水上・本開発遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡を含む14遺跡で実施した。

確認調査の結果を受けて、鉄道・運輸機構から範囲の確定している包蔵地について本調査の要望が出された。鉄道・運輸機構と県教委、財団の協議の結果、平成13(2001)年度から財団が北陸新幹線関連の本調査を受託することとなった。平成13年度に、新黒部駅・富山駅間の工事認可が下りるとともに、工事の急がれる新黒部駅以东の朝日町竹ノ内II遺跡・柳田遺跡・下山新遺跡の本調査を実施した。以後、東から順次本調査を実施している。また、県西部においては平成18(2006)年度に小矢部市下川原遺跡で本調査を実施して以後、西から順次本調査を実施している。射水市内では、工事の急がれる区間から本調査を実施しており、平成21(2009)年度に安吉遺跡、棚田遺跡、本江大坪I遺跡ほか2遺跡、翌22(2010)年度に水上遺跡、赤井南遺跡ほか6遺跡の本調査を実施した。



第1図 調査位置・遺跡位置図 (1:50,000)

遺跡名	既存調査			確認調査				本調査			
	年度	調査主体	文獻	年度	調査主体	調査面積 (㎡) (対象面積)	文獻	年度	調査主体	調査面積 (㎡)	文獻
水之上遺跡	昭和40	県教委 (HS-13遺跡)		平成21	財団	117 (3,790)	5	平成22	財団	2,017	7
赤井南遺跡				平成21	財団	116 (2,300)	5	平成22	財団	3,875	7
安吉遺跡	平成5	県教委・ 大門町教委	1	平成6	県教委 大門町教委	(271,000)		平成10	大門町教委	1,600	2
				平成20	財団	225 (2,200)	4	平成16	大門町教委	4,750	3
				平成21	財団	30 (1,380)	5	平成21	財団	5,999	6
榎田遺跡	平成4	県教委・ 大門町教委	1	平成5	県教委 大門町教委	(101,000)	1	平成21	財団	8,179	6
	平成5	県教委・ 大門町教委	1	平成20	財団	180 (3,600)	4				
水江大塚I遺跡	平成5	県教委・ 大門町教委	1	平成6	県教委 大門町教委	(61,000)	1	平成21	財団	5,408	6
				平成20	財団	261 (3,600)	4				

第1表 既往の調査一覧

文献

- 1 大門町教育委員会 1997 『大門東部地区埋蔵文化財発掘調査報告』 昭賀14場整備事業に伴う試験調査報告
- 2 大門町教育委員会 1999 『安吉遺跡発掘調査報告』 町営本国土合線拡幅改良工事に係る第3次発掘調査報告
- 3 大門町教育委員会 2005 『赤井南発掘調査報告(3)』 町営水戸守赤井線造成に係る埋蔵文化財発掘調査報告
- 4 財団法人富山県文化振興財団 2009 『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(9)』 上柳沢遺跡・水鏡金広・中尾塚遺跡・北代一万安遺跡・赤羽宮田町遺跡・小竹貝塚・HS-04・白石遺跡・愛宕遺跡・安吉遺跡・榎田遺跡・水江大塚I遺跡・下佐野遺跡・HS-18(諏訪)遺跡・比南遺跡・HS-21(蔵野町)遺跡
HS-20(蔵野町)遺跡・小竹B遺跡・HS-21(駒方南)遺跡・下老子菅川遺跡・江尻遺跡・開野大塚遺跡・五社遺跡・五社牟庫遺跡・HS-22(水牧)遺跡・HS-23遺跡
- 5 財団法人富山県文化振興財団 2010 『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(10)』 上柳沢遺跡 水鏡・上砂子坂遺跡 小竹貝塚 HS-04東遺跡 HS-04(愛宕)遺跡 愛宕遺跡 今開発東遺跡 今開発遺跡 水之上・本開発(水之上)遺跡 HS-03(赤井南)遺跡 赤井南遺跡 安吉遺跡 水江大塚I遺跡 HS-02(下黒田)遺跡
- 6 財団法人富山県文化振興財団 2010 『埋蔵文化財年報』-平成21年度-
- 7 財団法人富山県文化振興財団 2011 『埋蔵文化財年報』-平成22年度-

(2) 既往の調査

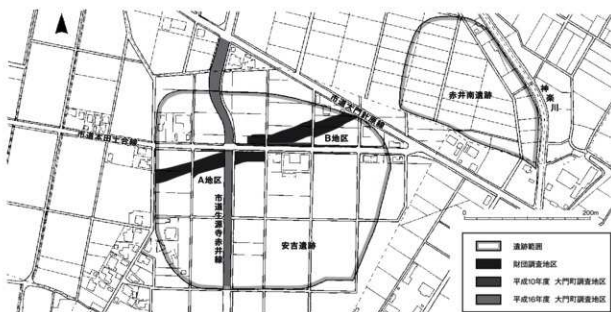
水上遺跡は、射水市本開発地区と水上地区にまたがって所在し、水上・本開発遺跡と称した。平成10年度には北陸本線以北の包蔵地北部で大島町教育委員会（現射水市教育委員会）が民間宅地造成事業に伴い本調査を実施しており、近世北陸道の下街道が確認されている。平成21年度の北陸新幹線建設に伴う確認調査は、北陸本線以南を対象として実施し、その結果を受けて射水市教育委員会（以下、射水市教委）により包蔵地の範囲変更及び名称変更がなされた。包蔵地範囲は北陸本線以南となり、水上遺跡となった。

赤井南遺跡はHS-03遺跡の中に大きく入りこんでいたが、平成21年度の北陸新幹線建設に伴う確認調査の結果を受け、射水市教委により範囲変更がなされた。赤井南遺跡はHS-03遺跡の西側を含む形で西へ拡大し、HS-03遺跡は包蔵地の登録抹消となった。

安吉遺跡は、平成5年度の県営ほ場整備事業に伴う県教委と大門町教育委員会（以下、大門町教委、現射水市教委）の分布調査により「Na15遺跡」と仮称され、翌平成6年度の試掘調査で中世～近世の遺跡として「安吉遺跡」と命名された。平成10年度には町道本田土合線拡幅改良工事（現市道）、平成16年度には町道生源寺赤井線造成工事（現市道）に先立ち本調査が大門町教委により実施されている。いずれも遺跡中央部で、14世紀後半～17世紀前半の区画溝を持つ集落が確認されている。また、検出された遺構は、市道本田土合線と生源寺赤井線の交差点付近に集中し、南北および東西に向かって遺構数が減少することが報告されている。平成22年度の北陸新幹線建設に伴う確認調査は、市道大門針原線以北の道路際を対象とし、調査の結果、射水市教委により範囲変更がなされ、安吉遺跡は市道大門針原線以南となった。

棚田遺跡は、県営ほ場整備事業に伴い県教委と大門町教委による平成4・5年度の分布調査により「Na7～10遺跡」と仮称された。平成5年度に試掘調査が実施され、縄文時代から近世の複合遺跡として、棚田遺跡と命名された。

本江大坪Ⅰ遺跡は、県営ほ場整備事業に伴い、県教委と大門町教委による分布調査で平成5年度に確認され、「Na13遺跡」と仮称された。翌平成6年度に試掘調査が実施され、遺跡南側に東西方向に延びる谷状地形が確認された。この谷を境に本江大坪Ⅱ遺跡と分割され、奈良時代～中世の遺跡として、本江大坪Ⅰ遺跡と命名された。平成20年度には財団が、北陸新幹線建設に伴う確認調査を実施し、遺跡東側の西部1号用水路から市道八塚申田線間についても、包蔵地範囲外であったが、対象範囲とし、遺構の広がりを確認した。この結果、包蔵地範囲が東へ拡大した。



第2図 安吉遺跡発掘調査位置図（1:6000）

2 発掘作業の経過と方法

調査の作業工程及びその方法・内容は、平成16(2004)年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準(報告)』に則って進めた。

発掘調査の基準となるグリッドの座標は、国土座標(平面直角座標系第7系)を基に設定した。南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、グリッドは2m方眼とした。各グリッドは北東角のX軸、Y軸の座標で呼称した。なお、日本測地系を基に基点を定めたので、国土地理院のWeb版TKY2JGDの変換プログラムにより世界測地系に変換した。

遺跡名	日本測地系	世界測地系
水上遺跡	X 79990, Y - 7920	X 80336.6065, Y - 8189.1591
赤井南遺跡	X 79850, Y - 8250	X 80196.6174, Y - 8519.1507
安吉遺跡	X 79700, Y - 8700	X 80046.6321, Y - 8969.1369
棚田遺跡	X 79550, Y - 10000	X 79896.6542, Y - 10269.0979
本江大坪I遺跡	X 79550, Y - 10000	X 79896.6542, Y - 10269.0979

発掘範囲は、水上遺跡でX2～45・Y2～82、赤井南遺跡でX5～50・Y4～91、安吉遺跡でX19～77・Y28～195、棚田遺跡でX25～58・Y298～440、本江大坪I遺跡でX20～39・Y149～290である。安吉遺跡は市道本田土合線を境に南西側をA地区、北東側をB地区とした。棚田遺跡は農道や用水路で西側をA地区、東側をB地区に分けた。本江大坪I遺跡は道路および水路で西からA・B・Cの3地区に分けた。水上・赤井南遺跡は、地区分けをせずに調査した。

なお、棚田遺跡では、調査途中にA地区の本線部分をB地区に含むものとした。この結果、当初の調査面積はA地区5,188㎡、B地区2,991㎡であったが、A地区3,335㎡、B地区4,844㎡に変更になり、変更後の地区割りでは航空測量及び図化を行ったため、本文中では、変更後の地区割りにて記述する。

実施年度	平成21年度			平成22年度			
	総括	所長 副所長	岸本雅敏 池野正男	総括	所長 副所長	岸本雅敏 池野正男	
調査事業担当	総務	総務課長 チーフ	竹中慎一 浅地正代	総務	総務課長 チーフ	竹中慎一 浅地正代	
	調査総括	調査第二課長	河西健二	調査総括	調査第一課長	久々忠義	
	調査員	主任	伊藤 薫	調査員	チーフ	菅田 薫	
		主任	金三津道子		主任	越前慎子	
主任		青山裕子	主任		青山 晃		
		埋蔵文化財技師	泉 英樹			主任	細辻真澄

第2表 調査体制

遺跡名	地区	調査期間	延べ日数	調査面積	調査担当者	検出遺構	出土遺物
水上遺跡		H22.4.20～8.30	67日	2,917㎡	青山 晃・細辻真澄	掘立柱建物・溝・井戸・土坑	中世土師器・珠玉・青磁・瀬戸美濃・越前陶磁器・木製品・石製品
赤井南遺跡		H22.4.30～8.9	55日	3,875㎡	菅田 薫・越前慎子	掘立柱建物・溝・井戸・土坑・遺跡	土師器・須恵器・中世土師器・珠玉・青磁・瀬戸美濃・八尾・越前陶磁器・肥前陶磁器・木製品・石製品
安吉遺跡	A	H21.4.17～7.16	61日	2,491㎡	伊藤 薫・金三津道子	溝・井戸・土坑	古墳時代土師器・土師器・須恵器・中世土師器・珠玉・青磁・白磁・瀬戸美濃・長瀬土器・越前陶磁器・木製品・石製品・金属製品
	B	H21.4.17～7.6	53日	3,198㎡	青山裕子・泉 英樹	溝・土坑	土師器・須恵器・中世土師器・珠玉・青磁・瀬戸美濃・越前陶磁器・肥前陶磁器・木製品・石製品・金属製品
棚田遺跡	A	H21.6.10～8.27	56日	3,335㎡	青山裕子・泉 英樹	溝・土坑	弥生土器・須恵器・珠玉・青磁・肥前陶磁器
	B	H21.6.15～9.11	64日	4,844㎡	伊藤 薫・金三津道子	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器・中世土師器・珠玉・青磁・白磁・瀬戸美濃・長瀬土器・越前陶磁器・木製品・石製品・金属製品
本江大坪I遺跡	A	H21.8.24～10.1	26日	1,532㎡	伊藤 薫・金三津道子	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器・珠玉・越前陶磁器・金属製品
	B	H21.9.9～11.19	47日	2,500㎡	伊藤 薫・金三津道子	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器・珠玉・青磁・越前陶磁器・木製品・石製品・金属製品
	C	H21.9.15～10.22	34日	1,386㎡	伊藤 薫・金三津道子	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器・珠玉・青磁・白磁・越前陶磁器・石製品・金属製品

第3表 調査一覧

3 整理作業の経過と方法

出土遺物は、現地及び埋蔵文化財調査事務所において洗浄・バインダー処理・注記・分類を行った。木製品・石製品・金属製品についてはメモ写真を撮影し、整理台帳を作成した。調査概要については『埋蔵文化財年報』（平成21・22年度）として発刊している。

報告書刊行に向けての本格的な室内整理作業は、平成22年4月に開始した。22年度は土器の接合・復元・実測、木製品・石製品・金属製品の实測及び写真撮影、遺構の図版作成、自然科学分析を行った。水上遺跡・赤井南遺跡は22年度8月まで調査を実施していたため、9月以降に整理作業を行った。23年度は自然科学分析、土器の写真撮影、挿図作成及び編纂、図版作成、原稿執筆及び編集、印刷、校正を行った。遺物の洗浄・バインダー処理・注記は現場整理作業員及び室内整理作業員が行った。土器・陶磁器の接合・復元・色塗りは室内整理作業員が行った。遺物の実測は、土器を調査員及び室内整理作業員が行い、木製品・石製品・金属製品は業者に委託した。遺構実測図及び写真は、各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパーソナルコンピューターを使用してデータ入力を行った。データ入力は職員が行い、整理作業員が補足した。遺構・遺物のデータは観察表として掲載している。遺構・遺物の挿図は業者に委託し、デジタルデータ化を行い印刷原稿とした。遺物の写真撮影は、業者委託し、デジタルカメラで撮影し、写真図版には、データを使用した。自然科学分析は、専門業者に委託し、結果報告を掲載した。また、劣化が懸念される遺物について保存処理を専門業者に委託して行った。一部木製品は、24年度に専門業者による保存処理を委託する予定である。

実施年度	平成22年度			平成23年度		
整理業務担当	総括	所長 副所長	岸本雅敏 池野正男	総括	所長 副所長	岸本雅敏 池野正男
	総務	総務課長 チーフ	竹中慎一 浅地正代	総務	総務課長 主任	竹中慎一 江本裕一
	整理総括	調査第二課長(兼任)	池野正男	整理総括	調査課長 チーフ	島田美佐子 越前慎子
	担当	主任	金三津道子	担当	主任	金三津道子 青山 晃

第4表 整理体制

4 普及活動

発掘調査結果を広く一般に公開するために、調査工程を検討しながら対象地区を選定して現地説明会を実施した。平成21年度は7月4日（土）に安吉遺跡を会場に地元対象の現地説明会を開催し、約50名の参加があった。中世の区画溝、井戸、土坑などを検出したA地区を対象に、見学ルートを設定し、あわせて出土遺物の展示・解説を行った。平成22年度は、7月31日（土）に、水上遺跡・赤井南遺跡を対象に実施し、地元を中心に約70名の参加があった。見学ルートは安全に配慮しつつ、遺跡全体の状態を見学できるよう調査区周囲に設定した。あわせて、出土遺物の展示・解説を行った。

調査終了後は、地元の公民館行事等で、発掘調査の成果や地域の歴史について講演を行った。平成22年12月5日（日）に赤井公民館建設10周年記念行事で、赤井南遺跡の調査成果についてパワーポイント等を使用して解説した。同じく、12月11日（土）には大島地区ボランティアグループの集いで、水上・赤井南遺跡の発掘調査成果について解説を行った。

第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境

射水市は富山県のほぼ中央部に位置し、東は富山市、西は高岡市、南は砺波市と接している。北部は富山湾に面し、南部には射水丘陵が控えている。中央部の射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの低湿地帯である。縄文時代前期の縄文海進の頃は、海岸線が内陸へ進行して平野が狭まり、現地形で標高約5m以下は海中に没していた。その後の気候の寒冷化に伴う海退によって、砂丘と後背湿地が形成された。この後背湿地内部では、河川によって運ばれる土砂により埋積が進み上部泥層が堆積するが、その過程で河川の流れて淀んだ箇所に、不湖（フゴ）・渾（アワラ）と呼ばれる沼沢地が形成された。これらの沼沢地等に泥炭が堆積して、現在の射水平野が形成され、海岸線の一部埋積されずに残ったのが放生津潟（現、富山新港）である。

遺跡周辺は射水平野南西端、庄川及び和田川によって形成された扇状地上にあたる。和田川は南部の丘陵地帯を蛇行しながら流れ、射水平野を貫流して庄川に合流する一級河川である。別所川と坪野川とが合流する砺波市池ノ原ではじめて和田川と称し、旧柳田郷竹原領に入ってから神楽川と呼び名が改まる。平地に出る円池から市井・竹鼻・本田・鳥取・作道・久々湊を経て放生津潟へ注ぐのが、古い神楽川の本流で、東神楽川と称される。竹鼻付近で分岐し、開口・本江・棚田・八塚・北高木・沖塚原・朴木を経て放生津で富山湾に注いだとされるのが、古い西神楽川の姿で、現在の内川がその名残りである。現在の和田川は、円池付近で西流し、庄川に合流する。

水上遺跡、赤井南遺跡、安吉遺跡、棚田遺跡、本江大坪Ⅰ遺跡は、この和田川流域に点在する微高地上に立地する。水上遺跡はJR北陸本線の南側線路際に位置し、標高は4.7～5.3mを測る。もと水上・本開発遺跡と称したが、平成21年度に名称及び範囲変更がなされ、水上遺跡となった。赤井南遺跡は、県営西部一号排水路の南、市道大門針原線との間に位置する。標高は5.9～6.2mを測る。安吉遺跡は市道大門針原線以南の標高5.8～6.5mを測る水田地帯に位置する。北側は市道大門針原線をはさみ赤井南遺跡と近接する。棚田遺跡は、大門高校南西側の市道市井二口線と市道八塚串田線間に在る。標高は7.3～8.2mを測り、東へ向かい緩く傾斜している。市道八塚串田線をはさみ本江大坪Ⅰ遺跡と接している。本江大坪Ⅰ遺跡は市道八塚串田線と市道柳町大門本江線間に位置し、市道柳町大門本江線をはさみ本江畑田Ⅰ遺跡と隣接する。標高は西側で8.4m、東側で7.9mを測る。

2 歴史的環境

遺跡の位置する射水平野南西端は、遺跡の密集地帯で、遺跡範囲が複雑に入りこんでいる。遺跡の存続年代は個々の遺跡としては断続的であるが、地域的には縄文時代から近世まで連続と営まれており、それぞれ時代ごとに概観していく。

縄文時代は、大沢山と呼ばれる独立丘陵上に中期後葉の「串田新式」の標定遺跡である国指定史跡串田新遺跡をはじめ、和田川河岸段丘に立地する生源寺新遺跡、庄川右岸扇状地に前期から中期の小泉遺跡、後期の集落が確認された二口遺跡などがある。

弥生時代になると平野部の遺跡数は急激に増加する。遺跡周辺は弥生時代から古墳時代にかけての

時期に存続していた遺跡数は多く、密集している。弥生時代後期から中世までの複合遺跡である二口油免遺跡、王造りを営んでいた弥生時代後期～古墳時代にかけての本江畑田Ⅰ遺跡、弥生時代後期～近世に至る集落遺跡である本江畑田Ⅱ遺跡、弥生時代中期～古代までの集落遺跡である本田宮田遺跡、弥生時代後期の方形周溝墓が確認された布目沢北遺跡などがある。

古墳時代では南部丘陵地帯に、全長約42mの前方後方墳である五歩一古墳や変電所西古墳、県指定史跡の大塚古墳などが築かれる。遺跡周辺でも二口油免遺跡で墳丘は消失しているが、一辺19mの方墳が確認されている。

古代では、遺跡周辺は奈良時代の越中国守大伴家持が歌に詠んだ「三島野」の地の中核にあたることされ、本田天水遺跡、本江大坪Ⅱ遺跡、多量の墨書土器をはじめ版木木製品が出土した北高木遺跡などの集落遺跡が確認されている。また、丘陵部には飛鳥から白鳳期の瓦陶兼業窯と工人集落である国指定史跡の小杉丸山遺跡をはじめ、小杉流通業務団地内遺跡群、上野南遺跡、石太郎G～J遺跡などの生産遺跡が立地している。これらの生産遺跡は、須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数え、県内屈指の規模を誇っている。

平野部には、奈良時代に占定された東大寺越中壘田根田庄をはじめ、鎌倉時代以降は、東福寺領として東条、河口、曾禰の各保、西大寺領中野荘、室町時代には石清水八幡宮の社領として姫野保、金山保などの多くの神社領が置かれていた。鎌倉時代、守護所の置かれた放生津は戦火で焼けたが、国支配機構は残り、日本海交易により繁栄した商人達により発展を続けた。南北朝時代は越中守護桃井直常が足利直義に殉じ、反尊氏闘争が展開されたことにより、放生津の町は焼失する。その後は、室町時代を通して、畠山氏が越中守護をつとめ、射水・姫負郡の阿郡は守護代神保氏が治めており、神保氏の下で放生津は再興し、繁栄するが、再び戦火にあい焼失している。遺跡周辺は、越中の政治、経済の中心地であった放生津と神保氏の拠点である増山城を結ぶ和田（神楽）川に近く、越中の東西を結ぶ主要な街道が付近を通る交通の便に恵まれた地域であったと考えられる。このため、中世の散布地が密に分布する。しかしながら、遺構が確認されている遺跡は少なく、安吉遺跡、八塚C遺跡、本田畑田Ⅰ遺跡などである。八塚C遺跡は、「愛染坊常住」と墨書のある折敷が出土するなど、寺院の可能性が高い遺跡である。安吉遺跡は、区画溝の巡る屋敷地が検出され、その報告書では、中世期の遺跡周辺の環境を古地図をもとに復元されている¹⁾。

近世は、天正13(1585)年の豊臣秀吉による佐々成政征討の後、明治4(1871)年の廃藩置県までの約300年間、前田氏によって治められ、小杉新町に砺波射水郡奉行所が置かれていた。遺跡周辺は、承応3(1654)年に前田利長が整備を進めた近世北陸道の下街道が通り、交通の要の地であった。現在のJ R北陸線以北の本開発地内では、この近世北陸道の下街道が確認されている²⁾。

中世～近世の集落の多くは、現集落へ引きつがれており、遺跡周辺には現在と同じように水田が広がっていたものと考えられる。
(金三津道子)

注

注1 大門町教育委員会 2005「安吉遺跡発掘調査報告 町道生瀬寺赤井線造成に係る埋蔵文化財発掘調査報告書」

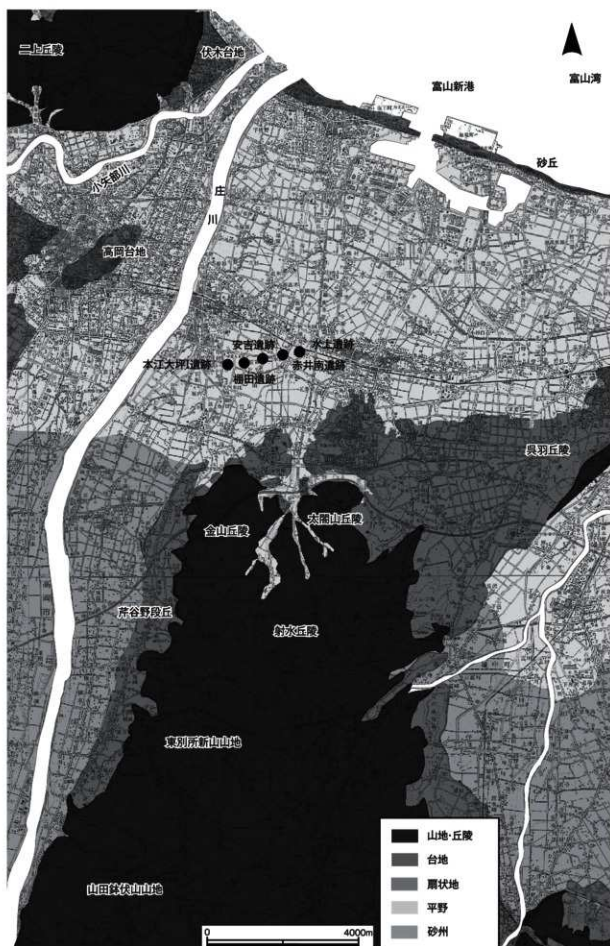
注2 大島町教育委員会 2000「水上・本開発遺跡 近世北陸道発掘調査報告書」

参考文献

大島町 1989「大島町史」

大門町 1981「大門町史」

高橋 保 1993「国史 富山県の歴史」河出書房新社



第4図 地形図 (1:100,000)



第5図 周辺の遺跡 (1:50,000)

No.	国庫跡No.	財水遺産跡No.	遺跡名	所在地	種類	時代	備考
1	301006	211006	水上遺跡	三ヶ(水上)、本田、本間発、新開発	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世	旧称：水上、本間発遺跡
2	304019	211451	赤井遺跡	赤井	敷布地、集落	古代、中世	
3	302050	211435	安宅遺跡	安宅、本田	敷布地、集落	縄文、弥生、古代、中世、近世	
4	302049	211491	瀬田遺跡	瀬田	敷布地、集落	縄文、古墳、古代、中世	旧称：大門東部No.7、8、9、10遺跡
5	302054	211438	本江大坪1遺跡	本江本江	敷布地、集落	古代、中世	旧称：本江大坪遺跡
6	302057	211411	本江畑田1遺跡	本江畑田1丁目	敷布地、集落	縄文、弥生、古代、中世、近世	
7	302056	211412	本江畑田2遺跡	大門本江	敷布地、集落	弥生、古代、中世、近世	旧称：本江畑田遺跡
8	302056	211410	本江其田遺跡	大門本江	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世、近世	
9	302055	211409	本江大坪2遺跡	大門本江	敷布地、集落	古代、中世	旧称：本江大坪遺跡
10	302053	211407	本江其田遺跡	安宅、本田	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世、近世	
11	302059	211413	本江畑田遺跡	本江字畑田	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世、近世	
12	302051	211406	本江天永遺跡	安宅、本江字天永	敷布地、集落	古代、中世、近世	
13	302073	211419	本江杉田遺跡	本江字杉田	敷布地、集落	古代、中世	
14	304016	211450	野村社遺跡	新開発	敷布地	古代、中世	
15	304013	211445	赤井遺跡	赤井	敷布地、集落	古代	
16	302002	211363	二口遺跡	二口	敷布地、集落	縄文、古墳、古代、中世、近世	
17	302001	211362	二口五反田遺跡	二口	敷布地	弥生、古墳、古代、中世、近世	旧称：大門東部No.1、2、5遺跡
18	302048	211403	二口池田遺跡	二口、中村	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世、近世	旧称：二口五反田遺跡、大門東部No.6遺跡
19	304016	211448	八坂C遺跡	八坂字川田	敷布地、集落	縄文、弥生、古代、中世、近世	
20	304015	211447	八坂A遺跡	八坂字川田	敷布地、集落	中世、近世	
21	304017	211449	八坂土田遺跡	八坂字土田	敷布地	古代	
22	304008	211440	小林遺跡	小林	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世、近世	
23	304001	211433	北高木遺跡	北高木	集落、祭祀、集落	縄文、弥生、古墳、古代、近世、近代	旧称：荒畑遺跡
24	203031	211029	高木、荒畑遺跡	高木、春日、鏡宮、作道、殿村	敷布地	縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世	旧称：高木遺跡、荒畑遺跡、殿村遺跡
25	303028	211027	高島A遺跡	作道、鏡宮	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世、近世	旧称：高島B遺跡
26	303032	211030	作道遺跡	作道	敷布地、集落	弥生、古代、中世	
27	303056	211052	野村遺跡	野村、殿村	敷布地	古代、中世	
28	303049	211045	津橋江遺跡	津橋江、殿村	敷布地	古墳、古代、中世	
29	303044	211041	今井遺跡	坪、今井	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世、近世	
30	304006	211455	三ヶ、本間発遺跡	本間発	敷布地、集落	弥生、古代、中世、近世	旧称：三ヶ遺跡
31	304021	211453	今開発遺跡	今開発	墓、敷布地	中世	非指定四方弘多墓場を含む。
32	304030	211459	今開発東遺跡	今開発、三ヶ	敷布地	古代、中世、近世	
33	301002	211063	愛宕遺跡	三ヶ(愛宕)	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世、近世	
34	301004	211064	大江遺跡	大江	敷布地、集落	縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世	旧称：目5-04遺跡
35	301030	211090	針原西遺跡	戸能字針原	敷布地、集落	縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世	
36	301044	211104	沼沢尺目遺跡	沼沢字尺目	敷布地、集落	弥生、古墳、縄文、弥生、古代、中世、近世	
37	301301	211361	赤田1遺跡	柳下森	敷布地、集落	弥生、古墳、古代、中世	
38	301296	211356	大白北遺跡	下森字大白、字下森新	敷布地	弥生、古代、中世、近世	
39	302075	211421	生原寺遺跡	生原寺	敷布地	古墳、古代	
40	302070	211416	赤井谷田遺跡	赤井	敷布地	中世、近世	
41	302008	211368	春日北遺跡	春日北、藤内	敷布地、集落、墓	縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世、近代	
42	302072	211418	鹿沢遺跡	鹿沢	敷布地	古墳	
43	302041	211399	李田新遺跡	李田新	敷布地、集落、墓	旧石器、縄文、弥生、古墳、中世、近世	非指定史跡
44	302011	211371	春日南遺跡	春日南	敷布地、集落	縄文、古代、中世	
45	301089	211149	日の宮遺跡	柳下森日の宮	集落、城郭	弥生、古代、中世	非指定史跡
46	301201	211261	上野遺跡	上野字高島	敷布地、集落	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世	非指定史跡
47	301173	211233	小林丸山遺跡	青井字丸山、生原寺、水戸田字西郷	集落、井、集落	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世	非指定史跡
48	302028	211266	生原寺新遺跡	生原寺	敷布地、集落	縄文、古代、中世	
49	302015	211375	小泉遺跡	小泉	敷布地、集落	縄文、古代、中世、近世	
50	301171	211231	五ヶ一古墳	青井谷	古墳	古墳	旧称：小杉堤遺跡No. II、I遺跡
51	301096	211156	荒畑西古墳	南太郎山7丁目	古墳	古墳	

第5表 周辺遺跡一覧

参考

富山県GISサイト: <http://www.gis.pref.toyama.jp/toyama/main.asp>

第Ⅲ章 水上遺跡

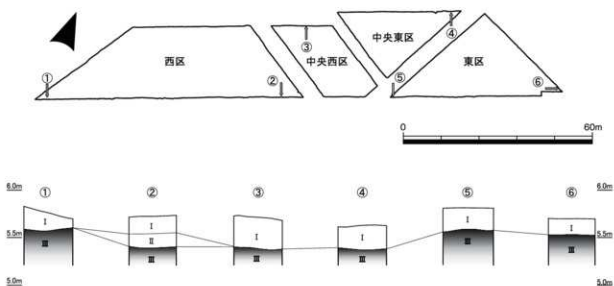
1 概要

水上遺跡は庄川右岸に形成された射水平野の南西部に位置している。射水平野を流れる神楽川右岸の微高地上に立地し、現況の標高は約5.7~6.1mを測る。調査区は北東へ緩やかに低くなる地形を呈する。遺跡の西側には熊野神社遺跡、南西には赤井南遺跡が隣接する。検出遺構は掘立柱建物4棟、井戸26基、土坑396基、大型土坑11基、溝67条である。出土遺物から中世：12世紀後半から15世紀代と、近世：17世紀から18世紀代の2時期に分かれる。中世は掘立柱建物を中心として、井戸や土坑など大半の遺構が該当する。建物の棟数に対して、井戸の数が多くあることから、確認しきれなかった建物や、調査区外への建物群の広がりがあった可能性もある。調査区外へは直線的な溝も延びており、調査区周辺には溝による区画が続いていたと考えられる。近世は溝と大型土坑からなる。溝は水路としての機能とともに、区画溝の役割もあったと思われる。区画内には建物は確認されていないため、日常的な居住域として土地利用されたのかは明かでない。

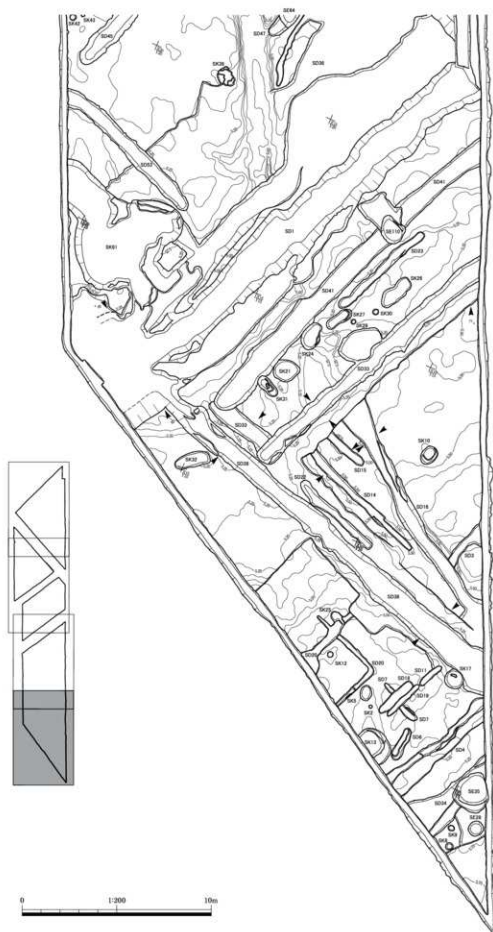
2 層序

基本層序はⅠ~Ⅲ層に分層した(第6図)。Ⅰ層は黄灰色シルトで、現況田面の耕作土である。Ⅱ層は暗灰黄色粘質シルトで、中近世の遺物を包含する。西区の北東側のみ確認された。その他の範囲では、Ⅰ層の直下でⅢ層となる。Ⅲ層は灰黄色シルトの地山で、この上面で遺構を検出した。Ⅲ層の検出は西区南西端や東区では標高5.6mを測るが、西区北東から中央東・西区にかけては標高5.4mとやや低くなる。

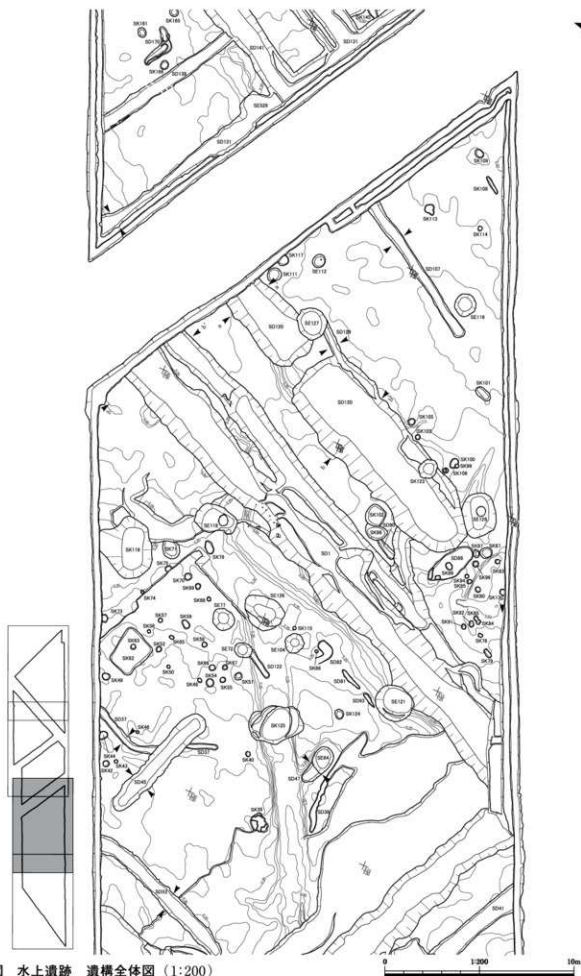
調査地区は既存の農道や水路のために4地区に分かれている。調査段階では特に区割をおこなわなかったが、報告段階では遺構の位置を示すため、西から西区・中央西区・中央東区・東区と名称を付けて記述していくこととする。



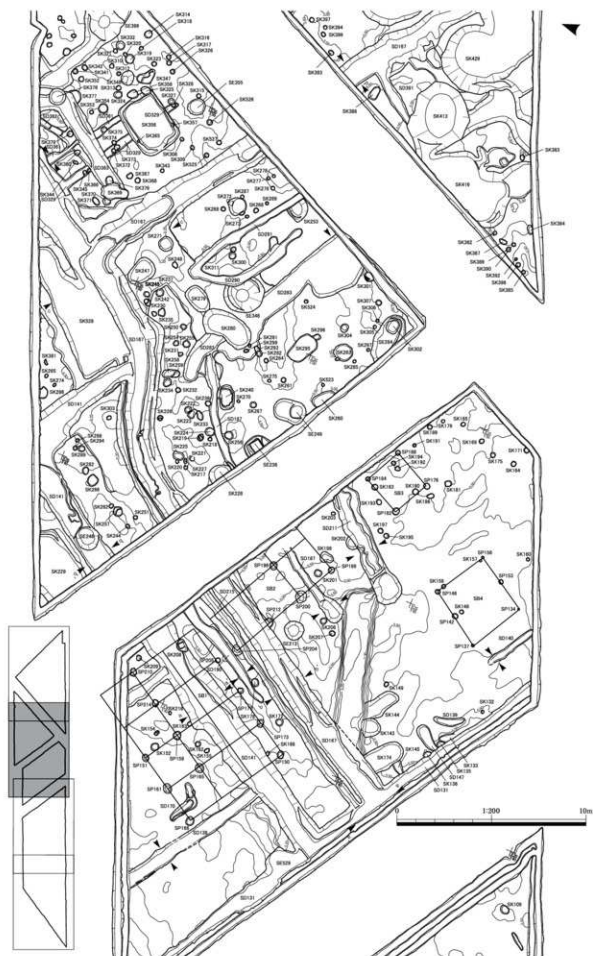
第6図 水上遺跡の調査区割り (1:1,200) と基本層序 (1:40)



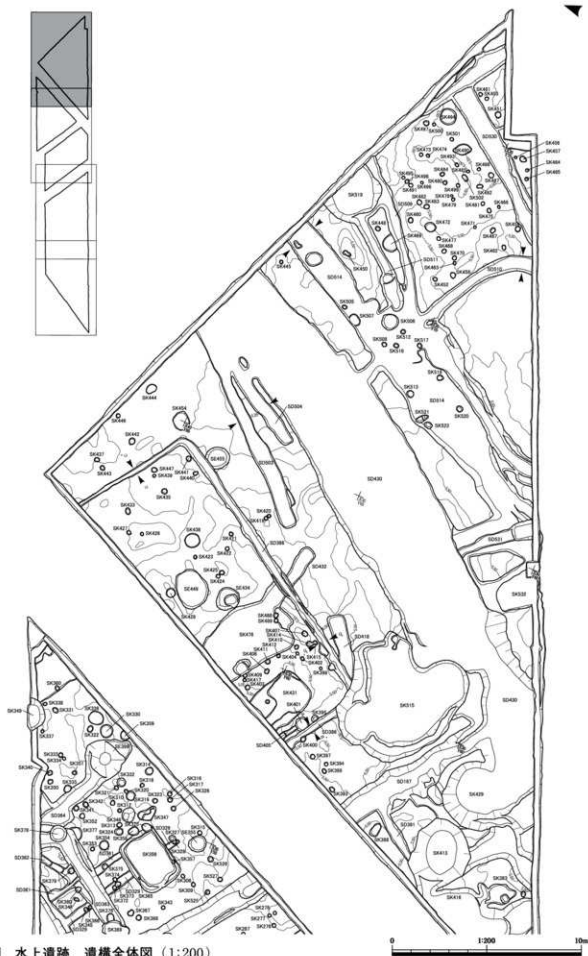
第7図 水上遺跡 遺構全体図 (1:200)



第8図 水上遺跡 遺構全体図 (1:200)



第9図 水上遺跡 遺構全体図 (1:200)



第10図 水上遺跡 遺構全体図 (1:200)

3 遺構・遺物

(1) 掘立柱建物

掘立柱建物はいずれも中央西区で検出された。柱穴からの出土遺物は皆無であるが、重複する遺構との関係から中世の所産と考えられる。

1号掘立柱建物（SB1, 第12図, 図版16）

4×3間の総柱建物で、桁行8.1m、梁行6.0m、面積48.6㎡を測る。南北棟の建物で、主軸方位はN-31°-Eとなる。柱穴は円形もしくは楕円形プランを呈する。埋土はオリーブ褐色のシルトもしくは粘質シルトとなる。いずれの堆積も単層で、柱痕は確認されていない。SD141との重複により、東から2列目の柱列が消失していることから、SB1の方が古い。

2号掘立柱建物（SB2, 第12図, 図版16）

調査区外に広がるため全形は不明だが、少なくとも3×2間の総柱建物になると思われる。桁行6.6m、梁行3.9m以上の規模となる。東西棟の建物で、主軸方位はN-115°-Eである。柱穴は円形もしくは楕円形プランを呈し、埋土はオリーブ褐色のシルトとなる。いずれの堆積も単層で、柱痕は確認されていない。SB1の北東側に隣接しているが、その間隔は約0.8mと狭いため、両者は同時併存していなかった可能性が高い。前後関係は不明である。

3号掘立柱建物（SB3, 第12図, 図版16）

1×1間の側柱建物で、桁行2.2m、梁行2.1m、面積4.62㎡を測る。南北棟の建物で、主軸方位はN-27°-Eとなる。柱穴は円形プランを呈する。埋土はオリーブ褐色、もしくは黄灰色のシルトとなる。いずれの堆積も単層で、柱痕は確認されていない。主軸方位はSB2と直交していることから、SB2の付属屋であった可能性が高い。

4号掘立柱建物（SB4, 第12図, 図版16）

2×1間の側柱建物で、桁行3.4m、梁行3.1m、面積10.54㎡を測る。南北棟の建物で、主軸方位はN-32°-Eとなる。柱穴は円形もしくは楕円形プランを呈し、埋土はオリーブ褐色、もしくは黄灰色のシルトとなる。いずれの堆積も単層で、柱痕は確認されていない。主軸方位はSB1とほぼ同じであることから、主屋との間に空間を設けて配置された付属屋であった可能性が高い。

(2) 井戸

井戸は26基検出された。調査区全体に分布するが、南西端と北東端付近の分布密度は低い。木組井戸は2基のみで、素掘り井戸が24基と多い。素掘りの井戸については、底面が湧水層に達していることを目安に井戸と認定した。また、素掘り井戸は掘方の平面形態から2種類に分類する。円形のA類、楕円形のB類である。さらにA類は長軸1.5m未満のA1類と、1.5m以上のA2類に細分する。いずれも中世の所産である。

28号井戸（SE28, 第13図）

西区の南西端に位置する素掘り井戸A1類である。中世土師器、珠洲が出土する。SE35と隣接するが埋土は異なる。時期が異なる可能性があるが、土層断面からは前後関係は明かでない。

35号井戸（SE35, 第13図）

西区南西端に位置する素掘り井戸A2類。平面形は不整な円形で、西側の壁面は階段状になる。

64号井戸（SE64, 第13・28図, 図版25）

西区中央に位置する素掘り井戸B類である。珠洲、瀬戸美濃（78）が出土する。78は灰釉の仏供

と思われる。薄い軸が内外面全体に施される。古瀬戸編年前～中期までの時期幅を考えておく。

72号井戸（SE72, 第13・29図, 図版24）

西区中央に位置する素掘り井戸A1類で、周囲にはSE77・104・126が近接して位置し、井戸の分布密度が高い。珠洲（89）が出土する他に、土師器が混入する。89はⅢ期の播鉢で、体部から口縁部まで直線的に立ち上がり、口縁端面は外傾する。

77号井戸（SE77, 第13図）

西区中央に位置する素掘り井戸A1類である。壁はやや傾斜している。

104号井戸（SE104, 第14・28図, 図版22）

西区中央に位置する素掘り井戸A1類である。中世土師器（74）、珠洲が出土する。74は平らな底部から口縁部にかけてゆるやかに立ち上がり、浅い器形を呈する。口縁部のヨコナエにより底部と口縁部の間に屈曲が生じる。時期は14世紀後半から15世紀前半頃。

110号井戸（SE110, 第14・28図, 図版25）

西区中央に位置する素掘り井戸B類である。井戸の北側には2×1.5m、深さ0.1m程の掘り込みが付随する。珠洲、青磁（77）、漆器が出土する。77は龍泉窯系青磁の碗I-1類で、破片資料であるため見込み文様の有無は不明である。

112号井戸（SE112, 第14・28図, 図版17）

西区北東に位置する素掘り井戸A1類である。中世土師器（72）が底面直上から出土する。72はやや丸みのある底部から1段のヨコナエによる口縁部が外傾する。器厚は薄く、丁寧な作りで、13世紀後半～14世紀代のもの。

116号井戸（SE116, 第14図）

西区北東に位置する素掘り井戸A1類である。

118号井戸（SE118, 第14・30図, 図版17・21・30）

西区北東に位置する木組井戸である。楕円形を呈する掘方の中央からやや南寄りに2段の曲物（112・113）が設置される。その外側に縦板が巡っているが、縦板を保持する柱や棧は存在せず、曲物と縦板によって井戸側が構成している。木組井戸の分類³¹には縦板組無支持のBⅡa類と曲物積上げのBⅢ類があり、SE118の井戸側はこれらが組み合わされた型式となる。112・113は釘結合曲物の底板を外して転用したもので、112が下段、113が上段にあった。112は側板を1箇所1列8段の内綴じとし、側板に3段の帯を装着する。3段の帯には本綴じと小綴じが確認される。下段の本綴じは2列綴じとなる。中段と上段は樺や側板に欠損があり不明な点が多いが、下段と同様と思われる。側板の上端には釘孔が13箇所確認され、一部には木釘も遺存している。実測図では埋設されていた天地の状態で図化しており、井戸側に転用する際には逆位に設置していたことになる。113は側板のみが遺存する。底板を結合するための釘孔は27箇所確認される。上部が欠損しているため、綴じ方は不明である。出土遺物には珠洲、円形板（111）がある。111は完形の円形板で、側面に釘孔はない。111～113と図化していない縦板も樹種は全てスギである。

121号井戸（SE121, 第15図）

西区中央に位置する素掘り井戸A2類である。壁面は傾斜あるいは、階段状になる。

126号井戸（SE126, 第15図）

西区中央に位置する素掘り井戸B類である。埋土の下層には植物遺体が含まれる。

127号井戸（SE127, 第15・28図, 図版17・21）

西区北東に位置する素掘り井戸A 2類である。壁面は上部では傾斜を持つが、中位から下ではほぼ垂直となる。中世土師器(73)が出土する。73の底部はやや丸みがあり、口縁部は1段のヨコナデ調整となる。13世紀後半～14世紀代のもの。

128号井戸(SE128, 第15・30図, 図版17・30)

西区北東に位置する素掘り井戸B類である。底面中央からやや東寄りには水溜用の曲物(115)が埋設される。曲物内から漆器(114)が出土する。115は欠損しているため、全形は不明である。側板は1列内綴じで、6段以上となる。帯は2段残っている。本綴じは下段が1列4段内綴じとなる。上段が1列5段の内綴じで、外面返し留めである。釘結合曲物の底板を外した転用品であるならば、釘孔は欠損した上部にあったことになる。実測図は埋設時の天地のままであり、設置は逆位であったこととなる。114は全面黒漆塗りの椀で、樹種はケヤキである。内面に赤色漆で文様が描かれる。節のある茎が描かれていることから竹文様と考えられる。高台が欠損して全形は不明であるが、久々編年²² II a～b期(15世紀～16世紀中葉)とする。

213号井戸(SE213, 第16図)

中央西区の中央に位置する素掘り井戸A 1類である。掘立柱建物群に隣接しており、関連する可能性が高い。

236号井戸(SE236, 第16図, 図版17)

中央東区の南西壁際に位置する。調査区外に続くため全形が明らかでない。掘方の底面から横棧の一部と、地山に打ち込まれた隅柱が確認された。板材は遺存していなかったが、おそらく縦板組隅柱横棧どめの型式であったと考えられる。

246号井戸(SE246, 第16図)

中央東区の北西隅に位置する素掘り井戸A 1類である。SD243の底面から検出される。

249号井戸(SE249, 第16図)

中央東区南西壁際の中央に位置する素掘り井戸B類である。底面の南側を円形に0.15m掘り窪めている。水溜用に曲物の設置した痕跡と考えられる。

284号井戸(SE284, 第16図)

中央東区の南東隅に位置する素掘り井戸B類である。底面の東側を楕円形に0.13m掘り窪めている。水溜用に曲物の設置した痕跡と考えられる。中世土師器が出土する。

339号井戸(SE339, 第17図, 図版18)

中央東区の北東に位置する素掘り井戸B類である。土層断面から井筒内への堆積は、①・②層であり、井戸として機能していた段階では、直径0.8m程の円筒形の井筒であったと考えられる。一度、大きく楕円形に掘削した後、その底面中央を円形に掘り込み、上部は③・④層を充填して井戸を構築する。③・④層の充填に際しては、井戸側の設置があったと考えたほうが妥当と思われるが、土層断面にはそうした痕跡は確認できなかった。

346号井戸(SE346, 第17図, 図版18)

中央東区の中央付近に位置する素掘り井戸A 2類である。検出面からの深さは1.75mと、今回の調査で検出された井戸の中では、最も深く掘削している。中世土師器が出土する。

355号井戸(SE355, 第17図, 図版18)

中央東区の北東に位置する素掘り井戸A 1類である。壁面はほぼ垂直で、SE112と同様に他の素掘り井戸に比べ、平面・断面形が整っている。珠洲が出土する。

434号井戸（S E 434, 第17・30・31図）

東区の北西に位置する素掘り井戸A1類である。珠洲、底板（110）、砥石（122）が出土する。110はヒノキ製の円形板で、釘孔が2箇所ある。復元径は約29cmとなる。122は流紋岩製砥石である。

449号井戸（S E 449, 第17・29図, 図版18・24）

東区の北西に位置する素掘り井戸B類である。珠洲（90）が出土する。90はI～II期の播鉢で、内湾しつつ口縁部まで立ち上がり、口縁端面は水平となる。

455号井戸（S E 455, 第18図）

東区の北西に位置する素掘り井戸A1類である。断面形は底部が外側へ膨らみ、フラスコ状になる。

529号井戸（S E 529, 第18図, 図版18）

中央西区の南西に位置する素掘り井戸である。S D 131に切られており、平面形は不明であるため分類は出来ない。おそらく楕円形を基調としていたと思われる。

（3）土坑

土坑は掘立柱建物を検出した中央西区から東区西側にかけて分布密度が高い。遺物の出土は少ないため、時期を特定できる土坑は少ない。近世の遺物は含まれないことから、中世の所産が中心であると考える。

13, 17号土坑（S K 13, 17, 第18図）

西区南西端に位置する。S K 13から中世土師器、珠洲、越前、S K 17からは中世土師器が出土。

42, 44, 57, 86号土坑（S K 42, 44, 57, 86, 第8・18・28図, 図版19・22・29）

西区北側の中央で検出された小規模な円形の土坑である。S K 42, 44では径0.1～0.15mの柱痕が確認された。建物の一部であった可能性がある。S K 57からは中世土師器（70）が出土する。70は口縁部が緩やかに立ち、低い器形を呈する。口縁部は1段のヨコナデ調整で、13世紀後半～14世紀代のもの。S K 86からは流紋岩製砥石（121）が出土する。

62号土坑（S K 62, 第18図, 図版19）

西区北側の中央に位置する浅い方形の土坑で、中世土師器が出土する。周辺にはS K 42, 44, 57, 86などの建物の可能性がある柱穴状の土坑が多くある。S K 62は建物に関係するような堅穴状土坑であった可能性もある。

123号土坑（S K 123, 第19図）

西区北東に位置する円形の土坑で、S D 120を切る。

125号土坑（S K 125, 第19図）

西区中央に位置する不整な楕円形となる土坑である。埋土には炭化物が多く含まれる。

143, 144, 174号土坑（S K 143, 144, 174, 第19図）

中央西区で検出され、掘立柱建物群によって囲まれる南側の空間に位置する。S K 144からは中世土師器が出土している。

228, 253, 300, 311号土坑（S K 228, 253, 300, 311, 第19・28図, 図版19・22）

中央東区の南西側で検出された。S K 228から中世土師器・青磁碗、S K 253から中世土師器（71）が出土している。71は浅い器形で、口縁部をやや尖り気味に仕上げる。15世紀前半に比定する。S K 300, 311は隣接する円形の土坑で、S K 311からは中世土師器が出土している。中央東区ではS K 300, 311のような規模の土坑が多く検出されたが、明確な柱列配置は確認されていない。

349号土坑（S K 349, 第20図, 図版19）

中央東区の北東隅で検出された。中世土師器の他に、古代の須恵器も出土する。調査区北東側では他にも古代の遺物が散見され、周辺では古代にも活動があったことが推測される。

356号土坑（SK356、第20・29図、図版18・21・24）

中央東区の中央で検出された方形の竪穴状土坑で、壁面は一部を除き階段状になっている。この階段状の部分では径0.15～0.2mの小規模なピットが2箇所確認された。珠洲（88、93）が出土する。88はⅡ期の播鉢で、口縁端部の内側に爪状に仕上げている。93はⅠ～Ⅱ期の壺R種で、埋土下層から出土した。耳部は欠損しているが双耳壺となる。肩部には波状文を施す。

401、438、454、494号土坑（SK401、438、454、494、第20・28図、図版25）

東区に位置する円形の土坑である。SK401からは中世土師器、青磁（75）が出土する。75は龍泉窯系青磁碗Ⅱ-b類で、体部外面に鋪蓮弁文を施す。SK438、454、494は径0.8m、深さ0.5m前後の規模で、壁面の立ち上がりは垂直に近い形態となる。SK454は埋土の下層に薄く炭化物層が形成されている。

（4）大型土坑

大型土坑は11基が検出され、中世と近世のものがある。中世はSK229、413、416、429、431、476、515、近世ではSK61、119、519、528が該当する。

61号土坑（SK61、第21・27・28図、図版19・27～29）

西区中央の北側で検出された。SD1に隣接し、溝で連結している。SD1の流水を引き込む溜池として機能していたと考えられる。また、底面は湧水層に達していることから、SD1の流量が少ない場合でも、ある程度は滞水するような状況であったと思われる。中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸（50、79、80）・唐津（81）が出土する。50・80は鉄軸の内瓦皿で、軸止めの段は無い。50には「三」の墨書が底部外面にある。宮田編年¹³Ⅲ期以降の所産。79は鉄軸の丸碗。81は灰軸の皿で、胎土目積みの痕が残ることから、九州陶磁編年¹⁴Ⅰ-2期に比定する。

119号土坑（SK119、第21図、図版19）

西区の北西で検出された。浅い溝が南へ続き、最終的にSD1に連結する。溝がSD1につながる箇所では、SD1の壁面に礫や杭を配して護岸している。SK119の底面は湧水層に達しており、溜池として利用されたと考えられる。周囲で水を利用した後に、SD1へ排水するような利用形態が窺える。

229号土坑（SK229、第21図）

中央東区の南西端で検出された。調査区外に続くため全形は不明であるが、方形の竪穴状土坑になる可能性がある。

413、416、429、515号土坑（SK413、416、429、515、第22・28・29・31図、図版18・20～22・24・25・29）

東区の南西側で検出された。いずれも湧水層に達しており、溜池として機能したと考えられる。SK413からは珠洲（92）・温石（118）・砥石（123）が出土する。92はⅣ期の播鉢で口縁端面を水平とし、幅広で浅い注口を付ける。118は滑石製の温石である。長方形の板状を呈し、中央付近に1.3×1cmの孔が開けられる。123は比較的大型な流紋岩製砥石で、線状の使用痕が残る。SK416からは珠洲が出土する。SK429からは中世土師器・珠洲（91）が出土している。91はⅣ期の播鉢で、口縁端部を外側に引き出し気味に仕上げる。SK515からは中世土師器（68、69）・珠洲・青磁（76）が出土する。68は平底から短い口縁部が外傾して立ち上がる。69はやや丸みのある底部から、口縁

部にかけて内湾しつつ立ち上がり、口縁部は1段のヨコナデ調整となる。13世紀後半から14世紀代のもの。76は龍泉窯系青磁碗Ⅱ-b類で、体部外面に鎬進弁文を施す。

431, 476号土坑(S K 431, 476, 第22図)

東区の西側中央で検出された。隣接した浅い方形状の土坑である。S K 476の範囲では床面が硬化し、北東隅には同様な深さのS D 432がつながる。

519号土坑(S K 519, 第22図)

東区の北東で検出された。S D 514から分流したS D 509, 511が南側につながっている。S K 519はその流水の一時的な溜池として機能していたと考えられる。

528号土坑(S K 528, 第9図)

中央東区の西側に位置する。S D 167に隣接し、溝の流水を利用するために周囲より一段低くした平坦面であったと考えられる。

(5) 溝

溝は調査区全体で検出された。多くが区画溝であり、水路としての機能も考えられる。時期は中世と近世に分かれる。ここでは中世の溝として、S D 37, 45, 47, 53, 107, 120, 129, 131, 138, 140, 141, 211, 361, 363, 364, 386, 510, 530を示す。近世の溝ではS D 1, 14, 15, 16, 33, 38, 41, 167, 187, 215, 283, 430, 503, 504, 509, 511, 514を挙げておく。

1号溝(S D 1, 第22・26～28・30・31図, 図版19・21～23・25～30)

西区の北側を区画するようにL字状に掘削された近世の溝である。最大幅4.72mで、部分的に幅2.6～3.2mと幅1.3～1.5mの2条に分かれる。出土遺物には土師器、須恵器、中世土師器(1～3)、珠洲(12, 26, 28)、越前、瀬戸美濃(61)、越中瀬戸(31～43, 46～49, 51, 52, 55, 62～65)、伊万里(57, 60)、唐津(56, 58, 59)、漆器(109)、碁石(117)がある。

1は口縁部にかけて内湾しつつ立ち上がる14世紀～15世紀前半頃のもの。2・3はロクロ成形で口縁部は直線的に外傾して立ち、底部は糸切り無調整となる。胎土は砂粒を含み、硬質な焼き上がりとなる。17世紀以降の所産である。3は口縁部に煤が付着する灯明皿である。珠洲は甕・壺・播鉢が出土している。12はV期の甕で、方頭を呈する口縁部が外屈する。26は壺T種の口縁部で、Ⅱ～Ⅳ1期までの時期幅が考えられる。28は四耳壺と考えられるが、破片資料であるため、耳の個数は不明である。四耳壺はK種として確認されるが通例であるが、28には胴部にタキ目が残り、K種のような削磨技法は認められない。壺T種に耳を取り付けたものと考えられ、壺K種四耳壺がV期に盛行することから、28についてもV期に比定しておきたい。61は灰釉瓶子Ⅱ類がある。詳細時期は明かでない。越中瀬戸の出土は多く、皿・丸碗・火入れがある。皿には31～43, 46～49, 51, 52がある。43が鉄軸と灰軸を掛け分ける以外は鉄軸の製品で、全て内禿となる。器形は底部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がるものと、口縁部が外反気味に仕上げられるものに分かれる。前者は31～34・36・38・39・41・47・52が該当する。後者には35・37・40・42・43・46・48・49・51があり、この内の40はひだ皿となる。底部は全て削り出し高台である。内面に軸止めの段がある40については、宮田編年のⅡ期に遡る可能性があるが、他はⅢ期以降となる。墨書土器としては46～49に「三」があり、51・52には不明の墨書がある。40には高台周辺に墨痕が認められる。丸碗には55, 65があり、全て鉄軸の製品である。55は削り出しの輪高台が付く。62～64は火入れである。体部は直立し、口縁端部に水平な面が作られる器形を呈する。器高の高い62, 低い63・64に分けられる。口縁部内面から体部下半まで鉄軸が施される。63・64は口縁部に円孔が開けられ、削り出しの高台が付く。

63・64 は口縁部や底部外面に煤の付着が認められ、口縁端部には器面が小さく剝離した箇所が多くあり、敲打された可能性がある。伊万里では 57、60 の皿がある。高台皿付け以外は全面に施軸される。57 は無文である。60 は見込みに銀杏文があり、口縁部にも文様帯を設ける。九州陶磁編年¹⁰Ⅱ-2～Ⅲ期に比定する。唐津には銅緑釉の椀・皿がある。56 は銅緑釉の椀で、削り出し高台内には兜巾状の削り残しがあり、九州陶磁編年Ⅱ期に比定する。58・59 は銅緑釉の皿である。58 は見込みの蛇の目軸刺ぎのみで重ね積みがなされており、九州陶磁編年Ⅳ期に比定する。59 は見込みに砂目積みの痕が残ることから、九州陶磁編年Ⅲ期に比定する。漆器には 109 の椀がある。樹種はブナ属で、内面赤色、外面黒色漆塗りとなる。高台は 3 cm あり、高台脇から立ち上がる体部は途中で緩く屈曲する。久々編年Ⅱ c 期（16 世紀後葉）に該当する。117 は黒色頁岩製の碁石である。

14, 15, 16 号溝（SD14, 15, 16, 第 24 図）

西区の南西に位置し、SD33, 38 によって区画される範囲内にある近世の溝。SD14 から越中瀬戸、SD15 から中世土師器、珠洲が出土する。

33, 38, 41 号溝（SD33, 38, 41, 第 23・24・26 図, 図版 12・20・23）

西区の南西に位置する近世の溝。SD33, 41 は SD1 の南側に平行し、両者の西端は浅い溝で連結する。SD38 は西区の南西端から直線的に延び、SD1 に合流する。SD38 から V 期の珠洲甕(13) が出土する。SD33・41 と SD1 の平面プランは他の遺構を検出した面より約 0.2m 低い平坦面で確認された。この平坦面を設けることで、SD1 の北側や SD33 の南側を、溝のある箇所より一段高い場所とする意図があったのかもしれない。そのように区画された範囲は居住域などに利用されていた可能性もあろう。

37 号溝（SD37, 第 24 図）

SD120 の西側に位置する中世の溝である。SK62 やその周辺の井戸・土坑の位置する範囲を区画していた可能性がある。中世土師器が出土する。

45, 53 号溝（SD45, 53, 第 24・26 図, 図版 20・22）

SD120 の西側にある中世の直線的な溝。SD45 は東西方向、SD53 は南北方向を長軸方向とする。両者によって SD53 の東側、SD45 の南側が区画されるが、その範囲内に遺構はほとんど分布していない。SD45 からは須恵器、中世土師器(4)、珠洲、SD53 からは鉄滓が出土する。4 は平底で口縁部が緩やかに立ち、浅い器形を呈する。

47 号溝（SD47, 第 24・26 図, 図版 23）

SE64 と重複する中世の溝で、SE64 より新しい。土師器、中世土師器、珠洲(18) が出土する。18 はⅣ期の播鉢で、口縁部まで直線的に立ち上がり、口縁端部を外側に引き出し気味に仕上げる。

107 号溝（SD107, 第 24 図）

SD120 の東側に位置する中世の溝。約 5 m の間隔をあけて平行している。小区画を形成していたと思われるが、周辺の遺構分布は希薄である。

120, 129 号溝（SD120, 129, 第 24・26・31 図, 図版 20～23・25・29）

SD120 は西区の北東に位置する中世の溝。一部が土橋状に掘り残されている。土橋により分断された溝を SD129 がつないでいる。SD120 の底面は湧水層に達しており、排水性は低い。水の溜まり易い状況であることから、土橋より南西側では降雨により溜まった水が溢れ出ないようにするために、SD129 を設けて北東側に排水していたと考えられる。そうした機能を想定した場合、SD120 は調査区外へ延びた先で SD131 と連結し、排水性を確保していたと思われる。また、土橋の北と南では

埋没過程が異なる。南側では短期間に埋没が進んだのに対し、北側は段階的に埋没し、その途中で炭化物層が2回形成される。S D120の西側ではS D37, 45, 53が、東側ではS D107が小区画を構成する。

出土遺物は中世土師器(5~7)・珠洲(10, 15, 16, 22, 27)・青磁(29)・砥石(119)がある。5・6は丸みのある底部から、口縁部にかけて内湾しつつ立ち上がる浅い器形を呈する。7は口縁部のヨコナエにより底部と口縁部の間に屈曲が生じる。いずれも13~14世紀の時期幅がある。珠洲には甕、壺、播鉢がある。10はI期の甕で、S D120とS D1との接合資料である。15・16・22は播鉢である。15はI~II期で、やや内湾気味に体部が立ち上がる。口縁部に向かって器厚が薄くなり、口縁端面は外傾する。16・22はII期で、口縁部まで内湾気味に立ち上がる。16は口縁端部の内側を爪状に仕上げる。22の口縁端面は水平で、内面には曲線文が施される。27はI~II期の壺R種で、肩部に波状文が施される。完形品で、底部は静止糸切り無調整となる。29は龍泉窯系青磁碗II-b類で、体部外面に鎬蓮弁文を施す。119は流紋岩製砥石である。

131号溝(S D131, 第24図)

中央西区の西壁際に沿って検出された中世の溝。東西の端は調査区外に延び、大きな区画を形成していたと思われる。中央付近からS D141が分流し、北東に延びる。中世土師器、珠洲が出土する。

138, 140号溝(S D138, 140, 第24図)

S D131に平行する中世の溝。S D138はS D131西端の約3.5m北側に位置する。西端は調査区外へ延び、東端はS D141につながる。S D140はS D131東端の約1.8m北側に位置し、調査区外へ延びる。S B4の南辺にも平行しており、建物群との関連も考えられる。

141号溝(S D141, 第25図)

S D131より分岐し、北東方向に直線的に延びる中世の溝。中央東区まで続いた後、南東方向に直角に曲がる。さらに北東方向に直角に曲がり、調査区外へと延びる。中世土師器、珠洲が出土する。

167, 215号溝(S D167, 215, 第25~29・31図, 図版20・23・26~29)

中央西・東区で検出された近世の溝。S D167は中央西区の南西壁中央から直線的に北東方向に延び、中央東区へ続く。中央東区では緩やかなクランク状に屈曲した後、南東方向に直角に曲がる。そのまま直線的に東区へ延び、S D430に連結する。須恵器、中世土師器、珠洲(14)、越中瀬戸(44, 53, 54, 66)、伊万里(67)、唐津、土鍾(107)、砥石(120)が出土する。14はV期の甕で、方頭を呈する口縁部が外屈する。口縁部と胴部との境は不明瞭である。44・54は灰釉、53は鉄軸の内禿皿で、54には内面に軸止めの段がある。54は宮田編年II期、他はIII期以降とする。53・54の底部外面には墨痕があるが、内容は不明である。66は香炉で、口縁部内面から胴部下半まで鉄軸が施される。欠損しているため形状は不明であるが、脚部が付く。67は九州陶磁編年II-2~III期に比定される皿で、見込み中央に巴文を配し、周囲に圏線が多重に巡る。107は細辻分類³⁴の椀型C類に該当する土鍾である。一部が欠損するが、重量は124.59gとなる。120は流紋岩製砥石である。

S D215はS D167の北西側の肩に沿って掘削された幅の狭い溝で、中央西区と中央東区の一部で確認される。

187, 283号溝(S D187, 283, 第25~27図, 図版22・23・25)

中央西・東区で検出された中世の溝。S D187は中央西区から中央東区にかけて延びる溝で、最終的にS D283とつながる。S D283は中央東区の南東側に位置する。S D187からはV期の珠洲播鉢(24)が出土する。S D283からは中世土師器(8, 9)、瀬戸美濃(30)が出土する。8は平底か

ら短い口縁部をつまみ上げるように作り出す。9 は底部から口縁部にかけて内湾しつつ立ち、口縁部は1段のヨコナデ調整となる。30 は鉄軸の天目茶碗で、底部は浅い内反り高台で露胎となる。後Ⅲ～Ⅳ期(古)に比定する。

190号溝(SD190, 第25図)

中央西区で検出された近世の溝。SD167に平行する。越中瀬戸が出土した。

211号溝(SD211, 第25・26図, 図版23)

中央西区の南東で検出された中世の溝。南端が土坑状に深くなる。珠洲(17)が出土する。17はⅠ～Ⅱ期の播鉢で、口縁部まで内湾しながら立ち上がり、口縁端面を水平にする。

361, 386号溝(SD361, 386, 第25図)

SD361は中央東区の北側、SD386は東区の北西側で検出された中世の溝。両者は幅、深さ共に類似した溝で、位置関係から両者による区画を形成していたと考えられる。その範囲は少なくとも19×16.4mとなる。中世土師器、珠洲が出土する。

363, 364号溝(SD361, 363, 364, 第10図)

中央東区の北側で検出された中世の溝。SD363, 364はSD141の東側に小区画を形成する。SD363はSD361を切っており、SD361・386による区画よりも新しいと考えられる。

510, 530号溝(SD510, 530, 第25・26図, 図版23)

SD510, 530は東区の北東側で検出された中世の溝。両者とも小区画を構成する溝である。SD510からは中世土師器、珠洲(23)、SD530からは珠洲が出土している。23はⅤ期の播鉢である。

430号溝(SD430, 第22・25～28図, 図版20・23・26・28)

東区で検出された近世の溝。SD430は東区の南西から北東に向かって直線的に延び、南・北端ともに調査区外に延びる。SD1と同様に近世段階の水路として機能し、同時に区画溝としての役割も果たしていたと考えられる。

SD430からは中世土師器、珠洲(11, 19～21, 25)、越前、瀬戸美濃、白磁、青磁、越中瀬戸(45, 65)、伊万里、唐津が出土する。11はⅤ期の甕、19～21はⅢ期の播鉢、25はⅤ期の播鉢である。45は灰釉の内壳皿で、見込みに菊花印を施している。65は鉄軸の丸碗である。SD430からは近世に加えて中世の遺物も多く出土するが、これはSD430が中世のSK515などを壊して構築されていることに起因する。

503, 504, 509, 511, 514号溝(SD503, 504, 509, 511, 514, 第25図)

東区で検出された近世の溝。SD503・504はSD430に合流する。SD514はSD430の東側に平行し、SD430へつながる幅1m前後の溝が2箇所ある。SD430とともに水路として機能していたと考えられる。SD509・511はSD514から分流し、SK519へ続く。

(6) 包含層出土遺物(第29・31図, 図版24・25・27～29)

珠洲には82～87があり、全て甕である。82～84・87はⅠ期で、長い口縁部の端部を水平もしくは、やや下方に引き出す。85・86はⅤ期に比定される。方頭を呈する口縁部が外屈する形態となる。

龍泉窯系青磁には94～99がある。97は碗Ⅰ-1類。99は碗Ⅰ類で、見込みに片彫りの蓮花文を施す。94・95・96は碗Ⅱ-b類で、体部外面に鑄蓮弁文を施す。98は杯Ⅲ-3a類で、口縁部を外屈させ、口縁端部をつまみ上げる形態をとる。

瀬戸美濃には100～103がある。100は灰釉の丸皿で、大窯期の所産と考えられる。101は鉄軸の天目茶碗である。輪高台になるが、詳細時期は明かでない。102は灰釉の袴形香炉である。底部は回

転糸切り無調整で、低い脚が貼り付けられる。後Ⅲ期に比定する。103 は灰釉の小鉢で、底部は削り込み高台となる。後Ⅲ期に比定する。

越中瀬戸には 104～106 がある。104 は鉄軸の丸椀で削り出しの輪高台が付く。105 は鉄軸の内禿皿で、底部外面に「三」の墨書がある。106 は火入れである。体部は直立し、口縁端部に水平な面が作られる器形を呈する。

108 は細辻分類の椋型 C 類に該当する土鉢。土製品ではこの他に近世の土人形が出土している。

116 は磨製石斧で、両側縁部も研磨され面を作り出す。基端に面は作り出されていないが、いわゆる定角式石斧となる。124・125 は凝灰質砂岩の砥石で、線状の使用痕が残る。

4 総括

水上遺跡の調査では、大きく分けて中世と近世の 2 時期の遺構が検出された (第 11 図)。

(1) 中世

中世の出土遺物には 12 世紀後半から 16 世紀代までの時期幅が認められた。その内、13 世紀から 15 世紀前半の時期が中心となる。

掘立柱建物は中央西区に集中する。規模から S B 1 が主屋的な役割となり、同等の規模と思われる S B 2 も同様な機能を有していたと考えられる。S B 1 と S B 2 は近接していることから同時併存ではなく、前後関係は不明であるが 2 時期の建物変遷があった可能性が高い。S B 1・2 の主屋に小型の建物である S B 3・4 が伴っていたと考えられる。建物の主軸方位から、S B 1 と S B 4、S B 2 と S B 3 の組み合わせが想定される。

井戸は木組井戸 2 基、素掘り井戸 24 基となる。調査区の東端を除いた範囲に分布する。掘立柱建物の近くで検出された S E 213・236・529 等は、建物に伴って利用された可能性の高い井戸である。また、素掘り井戸は平面形態から円形の A 類、楕円形の B 類とした。B 類では S E 128 に水溜用の曲物が設置され、S E 249・284 ではその痕跡が認められた。さらに S E 339 では井戸側が設置されていたことを示すような土層堆積が認められた。このように B 類は単純な素掘りではなく、井戸側や水溜を設けた井戸であった可能性を含んでいる。

土坑は調査区全体に分布する。柱痕が確認されるものは少ないが、規模の点から柱穴の可能性もある土坑もある。また、方形の竪穴状土坑となる S K 356・431・476 や大型土坑である S K 413・416・429・515 は調査区の東側に集中している。

溝は多くが直線的で、区画溝として掘削されたものと考えられる。S D 120・131・141・530 は幅・深さのある溝で、大きな区画を形成していた。そうした大区画内を区切るような溝として S D 45・53・107・187・283・386・510 等が存在する。

主な遺構について、出土遺物や重複関係から変遷を考えると以下ようになる。

I 期：12 世紀後半～14 世紀代

S B 1～4 に S E 213・529 が付随し、集落の中核となる。他に S E 72・110・449、S K 356 などがある。区画溝となる S D 131・141 も当期であるが、掘立柱建物や多くの井戸を切って構築されることから、それらよりも後出である。S D 131 と連結していた可能性のある S D 120 も同時期となる。S D 120 には土橋が設けられ、区画の出入口となる場所である。西側の方が遺構の分布が多くあり、区画の内側であった可能性がある。調査区の東端では S K 253 や大型土坑の S K 413・416・429・515

が形成される。以上のように、当期では掘立柱建物の機能していた古段階から、溝による区画が形成された新段階へと景観が変化していったと考えられる。

II期：15世紀代

S D187・283, S E128 が該当する。井戸が存在することから集落であった可能性があるが、当期の出土遺物は少なく、集落の中心は調査区域外と考えたほうが妥当であろう。遺跡に隣接する熊野神社には室町時代の所産とされる五輪塔や石仏が残されている⁸⁷。このことから、当該期の活動が調査区域外で継続されていた可能性を指摘できよう。

今回調査した範囲では16世紀代の遺物は極めて少なく、それ以降は近世まで土地利用は停滞していたものと考えられる。

ここで、水上遺跡の性格を考えるために出土土器の組成を確認しておく(第15表)。中世の土器は中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・瓦質土器・白磁・青磁によって構成される。種類別の構成では珠洲が71.58%と高く、中世土師器は22.33%に止まる。中世の土器組成においては、中世土師器の比率の高い遺跡が地域の中心的な役割を担っていたとされている⁸⁸。水上遺跡においては土器組成の中心を占めるのは調理・貯蔵具となる珠洲であり、中世土師器を大量に消費するような場所ではなく、日常的な生活空間としての利用を中心とした一般的な集落であったと考えられる。

さて、水上遺跡の位置する神楽川流域には中世の遺跡が濃密に分布している。これらの遺跡群は河川を利用した水上交通で、当時の地域的な中心地であった放生津と密接な関係性を有していたとの指摘がある⁸⁹。また、水上遺跡の周辺は神楽川を利用した水上交通と、射水平野を横断していた当時の陸上交通路との結節点となり得る地域に位置するとされる⁹⁰。こうした環境下で放生津や周辺の遺跡と有機的な関係を持ちつつ、水上遺跡も成立・展開していったものと考えられる。

また、遺跡の所在する射水市大島地区と隣接する大門町地区付近は、東条保の比定地でもある。東条保は「吾妻鏡」の中で延応元年(1239年)に記述があるのが古い。射水郡内にあった摂関九条家領の四箇保の一つとされ、文明14年(1482年)まで文書にその名が確認されている⁹¹。東条保に関わる集落の一つであった可能性もあろう。

(2) 近世

近世は出土遺物から17世紀後半から18世紀前半が中心となる。

S D1・430による大きな区割が形成され、S D167が設けられる。これらは水路としても機能していたと考えられる。大型土坑には溝と連結していたS K61・119・519があり、溜池として利用を想定する。建物は確認されず、居住域としても利用されていたのかは明かでない。S D1からは当該期の遺物出土が比較的多くあり、S D1による区画内が屋敷地であった可能性もある。

近世の土器には土師器・越中瀬戸・唐津・伊万里・不明陶器があるが、越中瀬戸と肥前陶磁器によって土器組成の9割以上が構成される(第15表)。また、越中瀬戸・唐津・伊万里の皿・碗を合わせると全体の63.08%を占める。さらに越中瀬戸・唐津の播鉢は12.41%となり、食膳具・調理具が中心となることが分かる。遺構からは居住域としての利用が不明確であったが、出土土器の用途からは生活の場に近しいことが推測される。種類別では越中瀬戸が56.97%と過半数を占め、次いで伊万里が19.90%、唐津が17.35%となる。近世の農村集落においては、海岸部よりも内陸部の方が越中瀬戸の比率が高いことが指摘されている⁹²。用途別のあり方も含め、近世前半における農村集落の様相を示していると考えられる。

(青山 晃)

注

- 注1 宇野 隆夫 1982 「井戸考」『史林第65巻第5号』
 注2 久々 忠義 1986 「富山県内の漆器について」『大境第10号』富山考古学会
 注3 宮田 進一 1997 「第4章第2節越中瀬戸の変遷と分布」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会
 注4 盛 峰雄 2000 「陶器の編年1. 甕・皿」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁器学会
 注5 野上 建紀 2000 「磁器の編年(色絵以外)1. 碗・小杯・皿・紅皿・紅猪口」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁器学会
 注6 細辻 真澄 2001 「任海宮田遺跡出土の土師について」『富山考古学研究第4号』財団法人富山県文化振興財団
 注7 大島町教育委員会 1989 「大島町史」
 大島町教育委員会・新聞発自治会 1993 「北陸街道と新聞発集落」
 注8 宇野 隆夫他 1992 「越中」『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』北陸中世土器研究会
 宇野 隆夫 1997 「越中における陶磁器の流通と組成」『中・近世の北陸』桂書房
 注9 久々 忠義・林寺観洲 1994 「射水平野の遺跡-神楽川流域を探る-」『大境第16号』富山考古学会
 注10 大島町教育委員会 2005 「安吉遺跡発掘調査報告(3)」
 注11 阿部 猛・佐藤 和彦編 1997 『日本荘園大辞典』東京堂出版
 注12 宮田 進一 1998 「越中瀬戸の成立と展開」『情報と物流の日本史』雄山閣

種類	器種	器種小計	種類毎合計	種類別比率	種類・器種別比率	種類別器種構成	種類内合計
中世土師器	皿	238	238	22.33%	22.33%	100.00%	100.00%
	漆鉢	237			22.23%	31.06%	
珠洲	甕	67	763	71.58%	6.29%	8.78%	100.00%
	甕	456			42.78%	59.79%	
	不明	3			0.28%	0.39%	
	漆	7			0.66%	87.50%	
越前	不明	1	8	0.75%	0.09%	12.50%	100.00%
	碗	5			0.47%	23.81%	
瀬戸美濃	皿	4	21	1.97%	0.38%	19.05%	100.00%
	漆	1			0.09%	4.76%	
	甕・瓶	8			0.75%	38.10%	
	不明	3			0.28%	14.29%	
瓦貫土器	六鉢	1	1	0.09%	0.09%	100.00%	100.00%
	碗	2	3	0.28%	0.19%	66.67%	100.00%
白磁	甕	1			0.09%	33.33%	
	碗	31	32	3.00%	2.91%	96.88%	100.00%
青磁	碗	1			0.09%	3.13%	
	合計	1066	1066	100.00%	100.00%	(組み合わせの破片数を集計)	

中世出土土器組成表

種類	器種	器種小計	種類毎合計	種類別比率	種類・器種別比率	種類別器種構成	種類内合計
土師器	皿	7	7	1.19%	1.19%	100.00%	100.00%
	皿	162			27.55%	48.36%	
越中瀬戸	碗	28	335	56.97%	4.76%	8.36%	100.00%
	漆鉢	66			11.22%	19.79%	
	香炉・火入れ	17			2.89%	5.07%	
	漆鉢	2			0.34%	0.60%	
	甕・瓶類	59			10.03%	17.61%	
	灯明受皿	1			0.17%	0.30%	
	不明	61			10.37%	59.80%	
常津	碗	17	102	17.35%	2.89%	16.67%	100.00%
	漆	17			2.89%	16.67%	
	漆鉢	7			1.19%	6.86%	
	皿	45			7.65%	38.46%	
伊万里	碗	58	117	19.90%	9.86%	49.57%	100.00%
	瓶	4			0.68%	3.42%	
	他・不明	10			1.70%	8.55%	
	不明陶器	27			27	4.59%	
合計	588	588	100.00%	100.00%	(組み合わせの破片数を集計)		

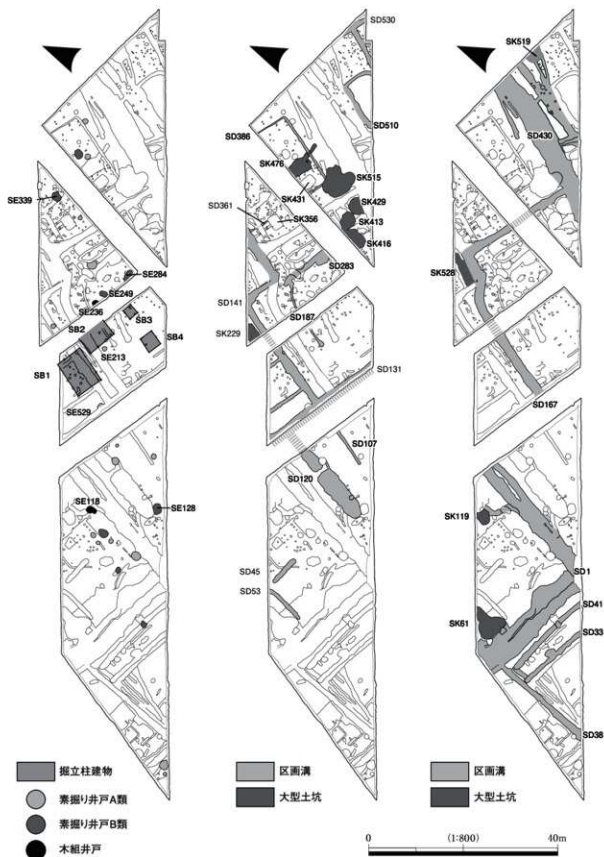
近世出土土器組成表

第6表 水上遺跡出土土器組成表

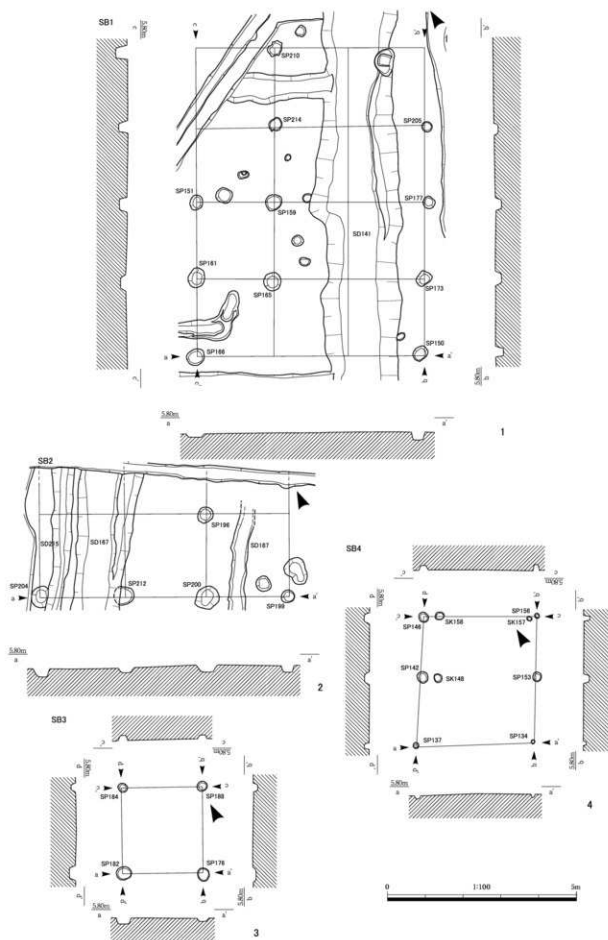
中世：掘立柱建物・井戸

中世：区画溝・大型土坑

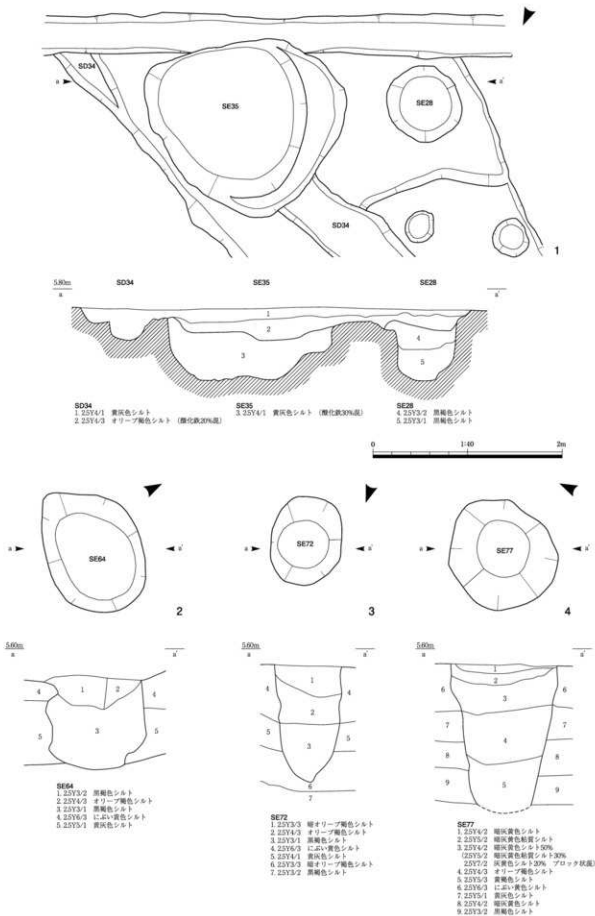
近世：区画溝・大型土坑



第 11 図 主な遺構の種類別分布図

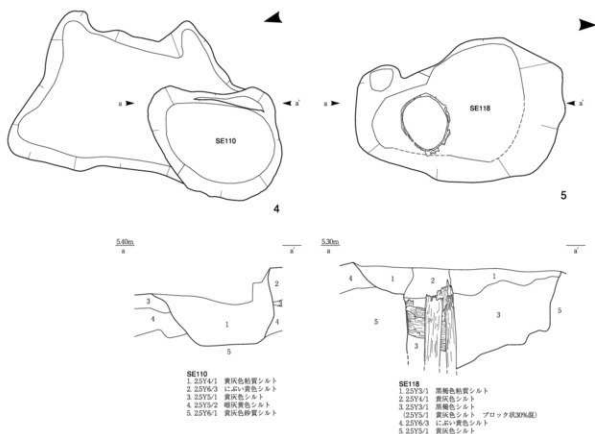
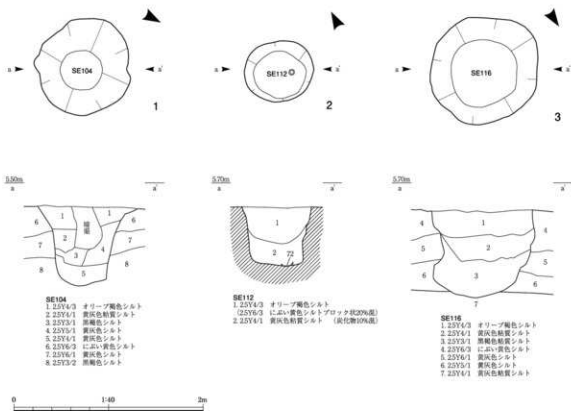


第12図 水上遺跡 遺構実測図
1. SB1 2. SB2 3. SB3 4. SB4



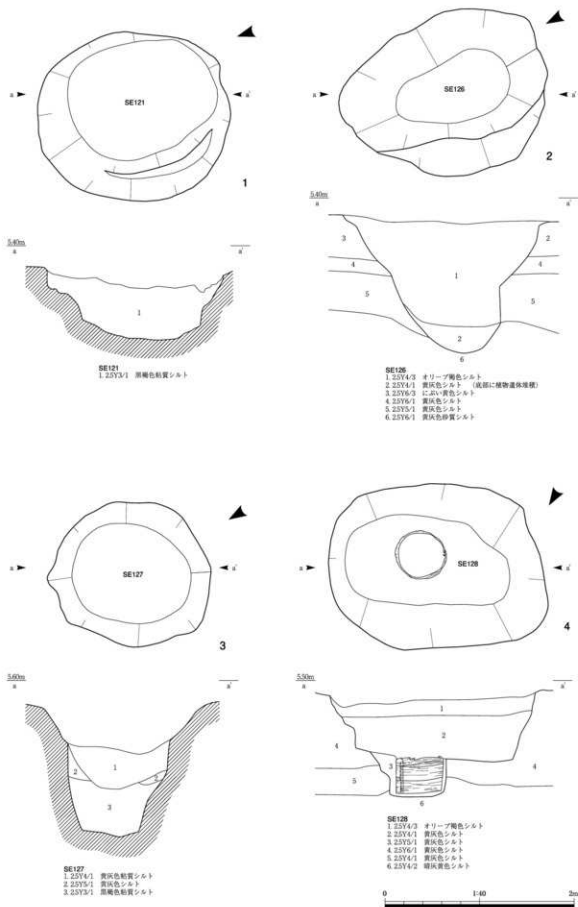
第13図 水上遺跡 遺構実測図

1. SE28・SE35・SD34 2. SE64 3. SE72 4. SE77

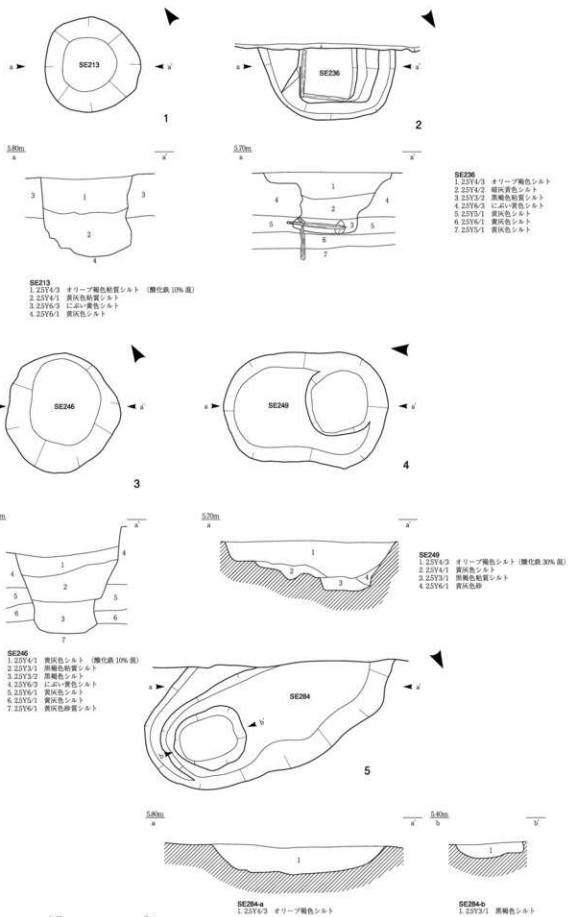


第14図 水上遺跡 遺構実測図

1. SE104 2. SE112 3. SE116 4. SE110 5. SE118

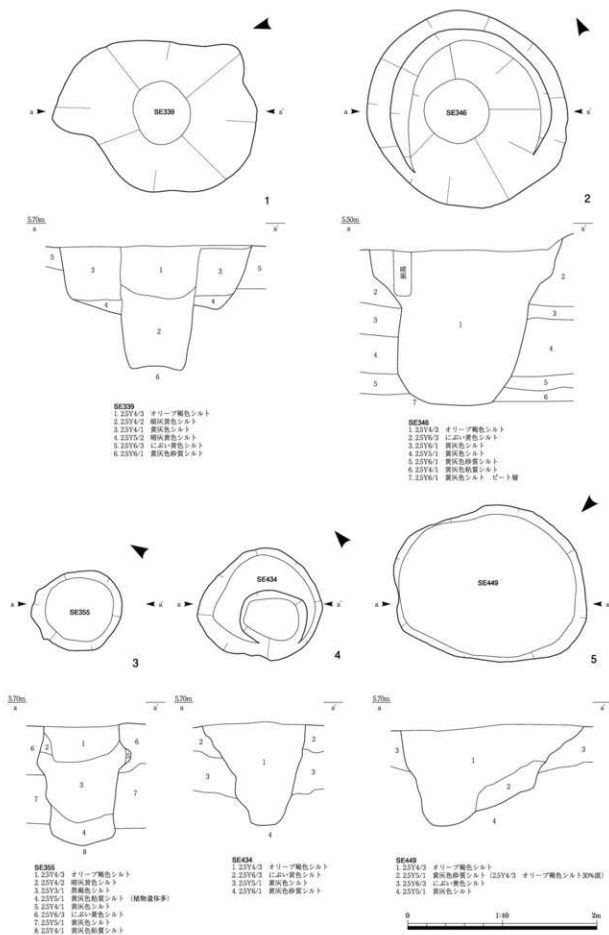


第15図 水上遺跡 遺構実測図
1. SE121 2. SE126 3. SE127 4. SE128



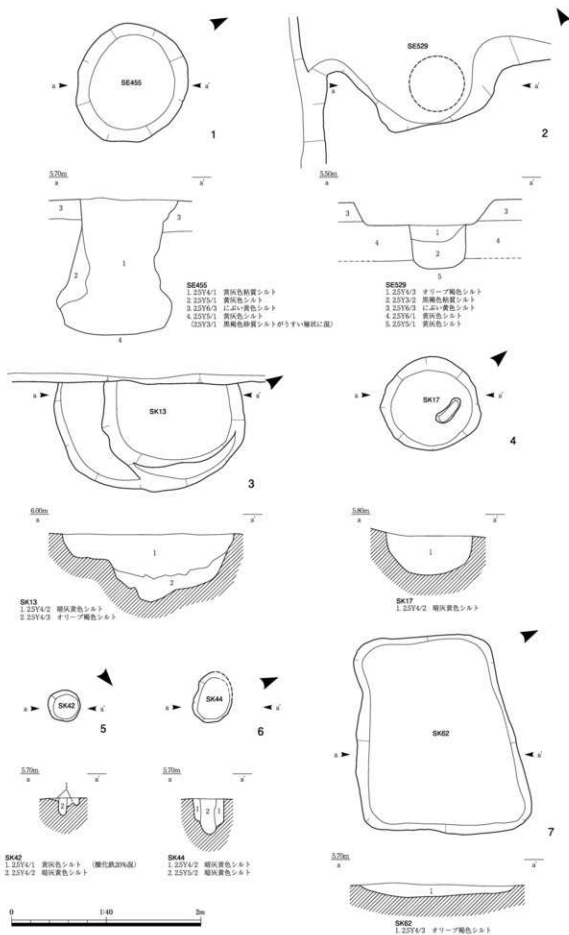
第 16 図 水上遺跡 遺構実測図

1. SE213 2. SE236 3. SE246 4. SE249 5. SE284



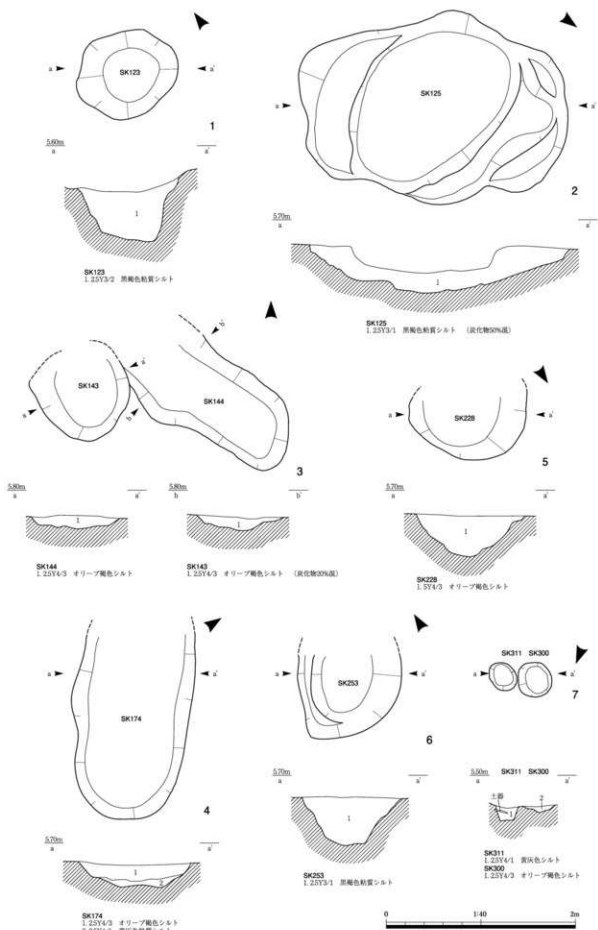
第 17 図 水上遺跡 遺構実測図

1. SE339 2. SE346 3. SE355 4. SE434 5. SE449



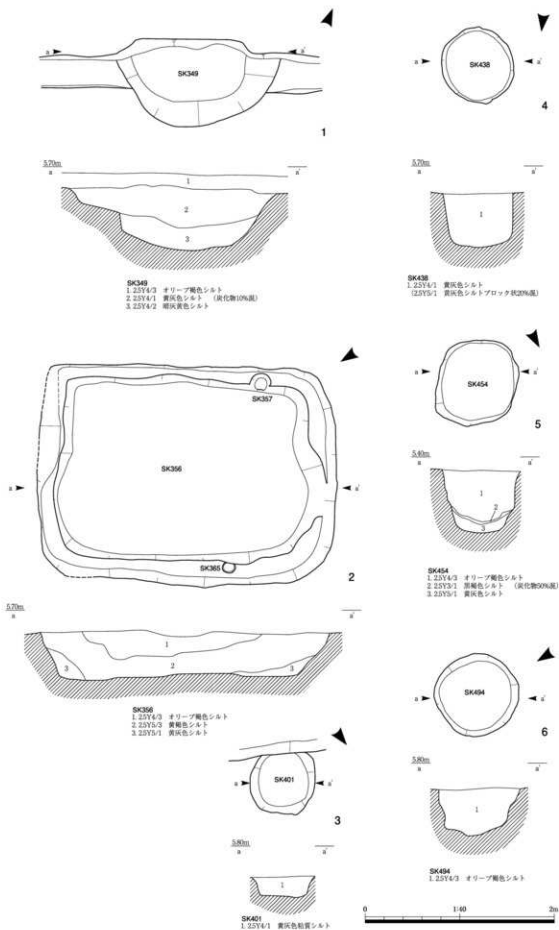
第18図 水上遺跡 遺構実測図

1. SE455 2. SE529 3. SK13 4. SK17 5. SK42 6. SK44 7. SK62



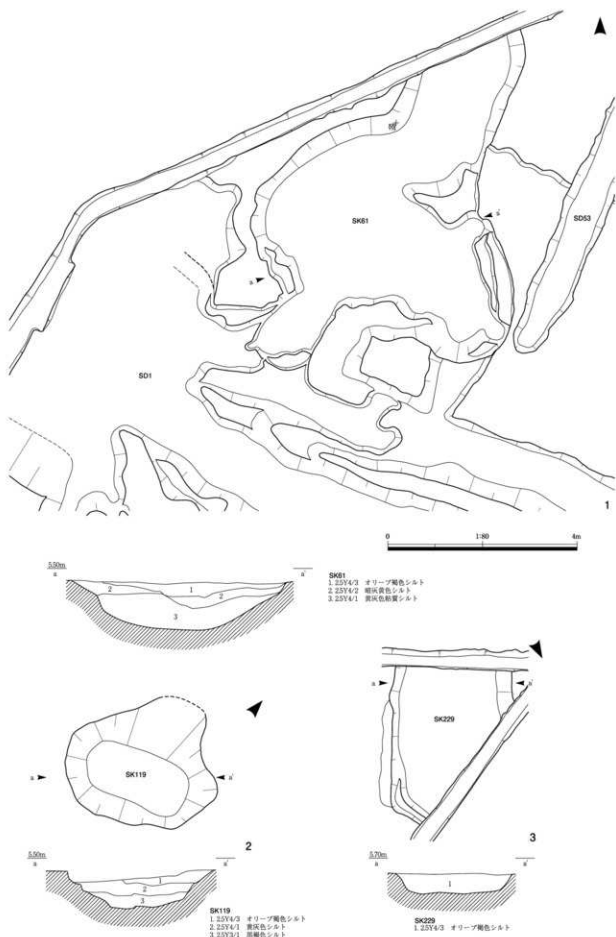
第19図 水上遺跡 遺構実測図

1. SK123 2. SK125 3. SK143-SK144 4. SK174 5. SK228 6. SK253 7. SK300-SK311



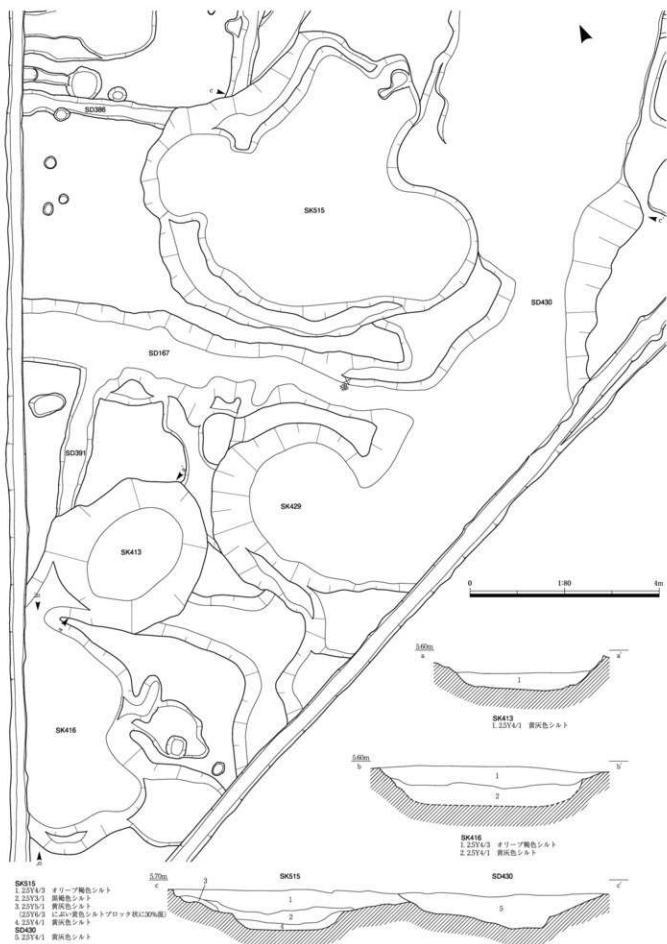
第20図 水上遺跡 遺構実測図

1. SK349 2. SK356・SK357・SK365 3. SK401 4. SK438 5. SK454 6. SK494



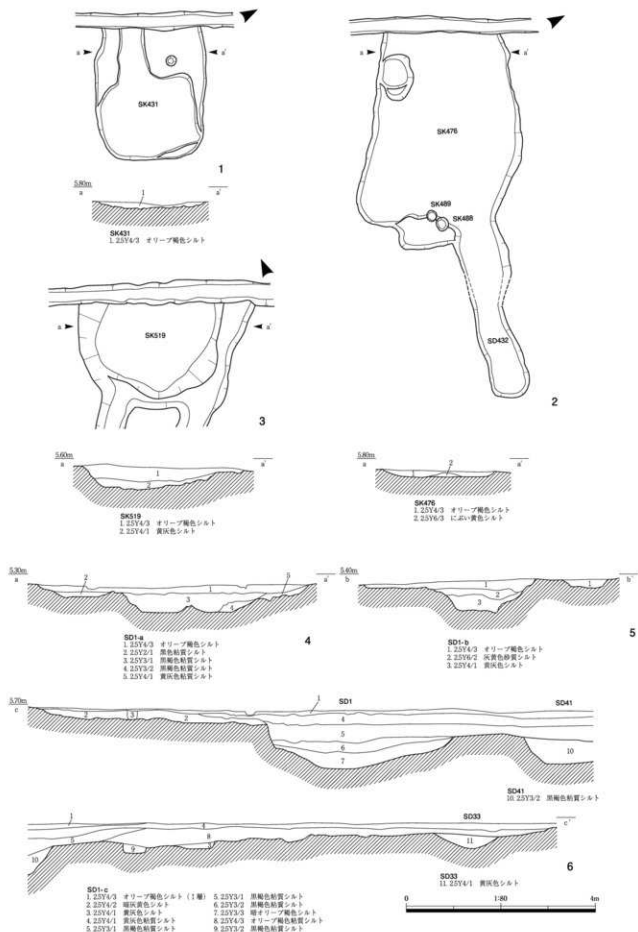
第 21 図 水上遺跡 遺構実測図

1. SK61・SD1・SD53 2. SK119 3. SK229



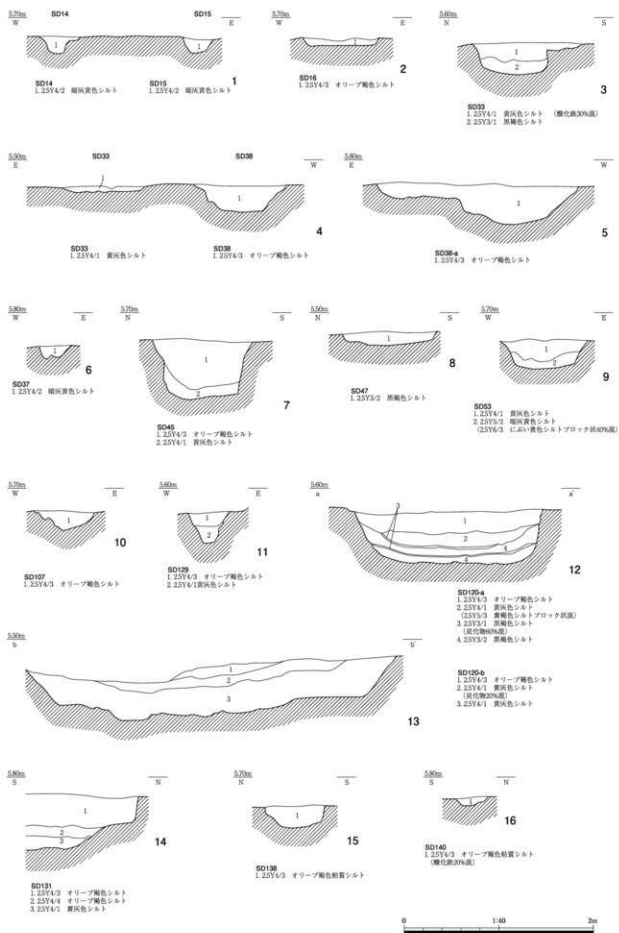
第22図 水上遺跡 遺構実測図

SK413・SK416・SK429・SK315・SD167・SD391・SD430



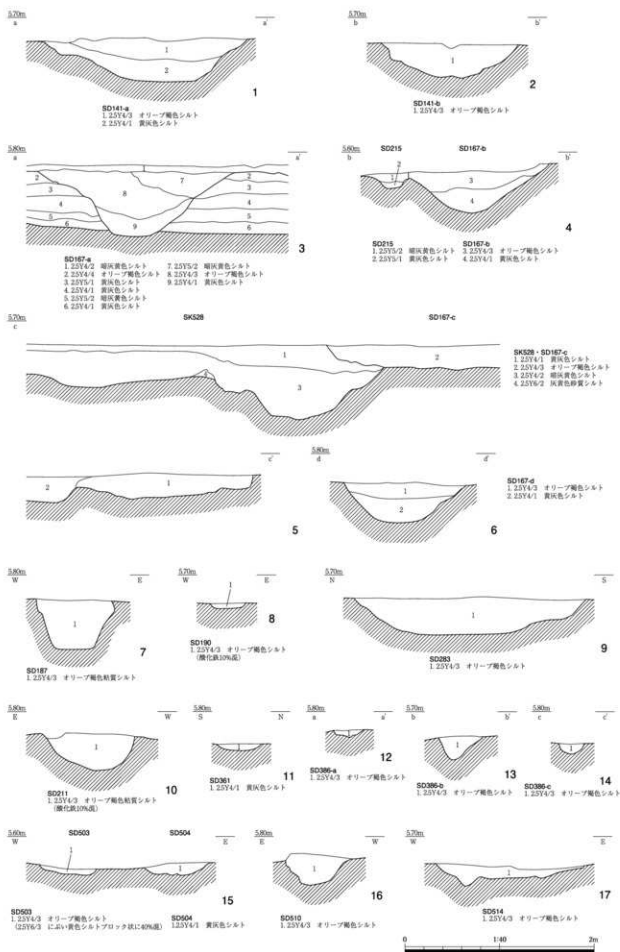
第23図 水上遺跡 遺構実測図

1. SK431 2. SK476・SD432 3. SK519 4・5. SD1 6. SD1・SD33・SD41



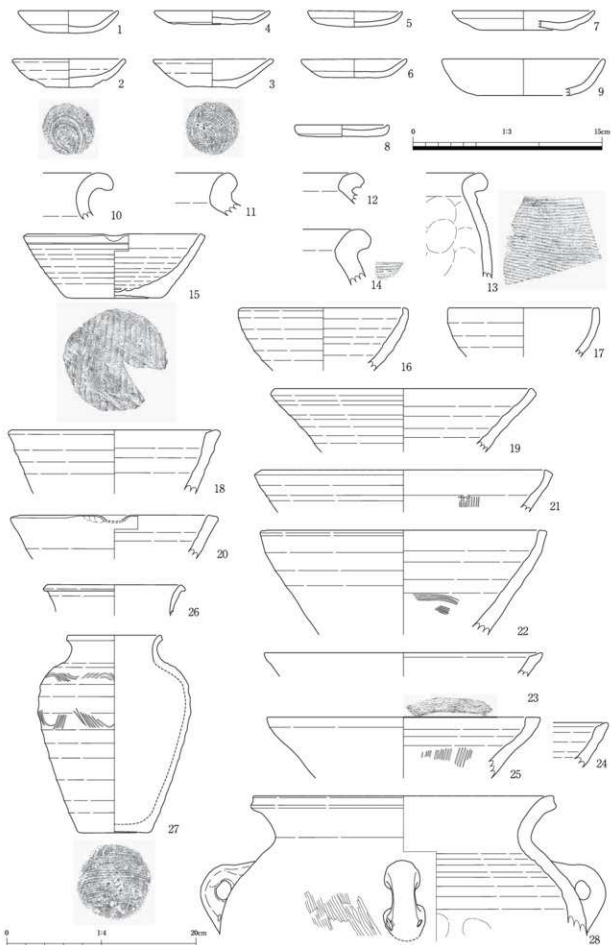
第24図 水上遺跡 遺構実測図

1. SD14・SD15 2. SD16 3. SD33 4. SD33・SD38 5. SD38 6. SD37 7. SD45 8. SD47 9. SD53
10. SD107 11. SD129 12・13. SD120 14. SD131 15. SD138 16. SD140



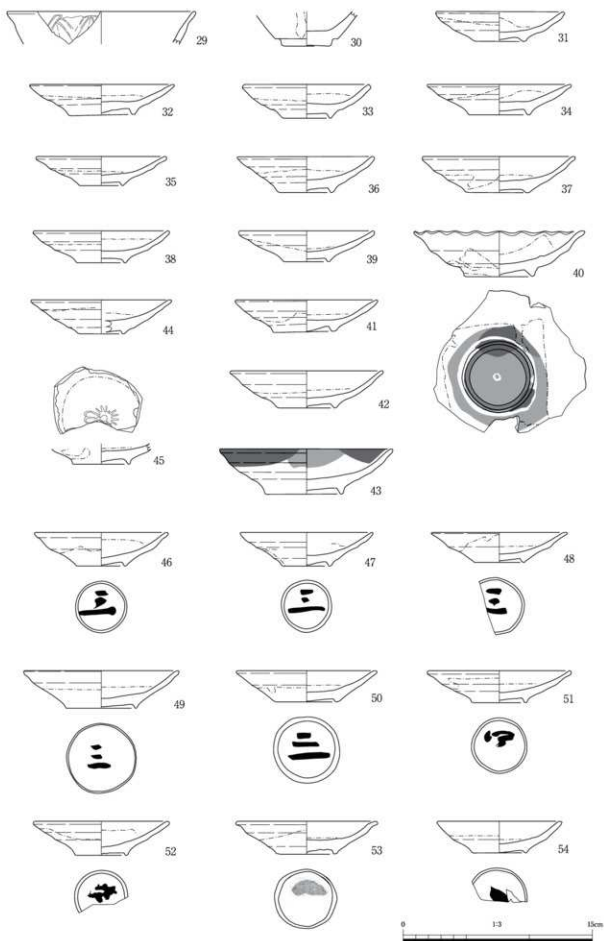
第25図 水上遺跡 遺構実測図

1・2. SD141 3. SD167 4. SD167-SD215 5. SD167-SK528 6. SD167 7. SD187 8. SD190 9. SD283
10. SD211 11. SD361 12~14. SD386 15. SD503・SD504 16. SD510 17. SD514



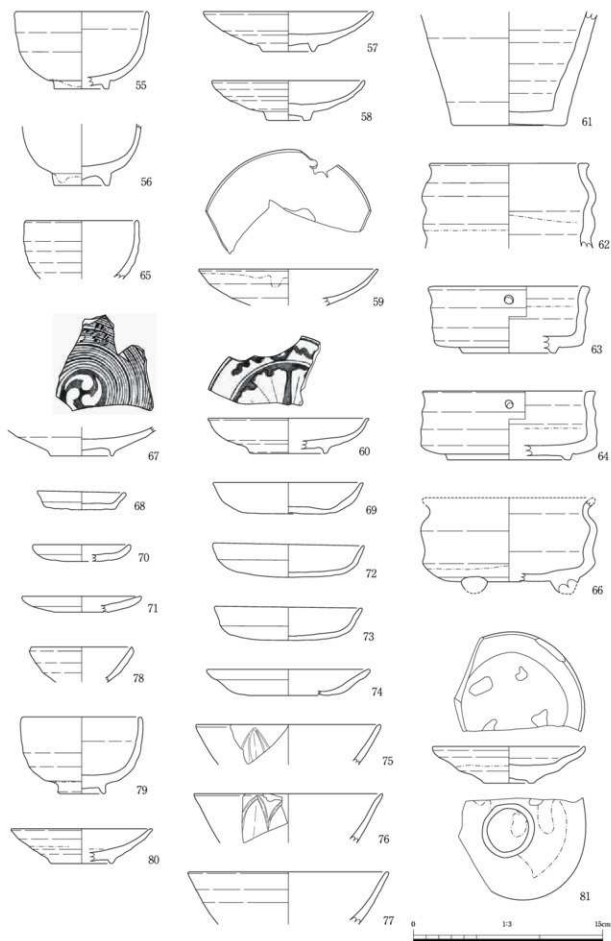
第26図 水上遺跡 遺物実測図 (1~9 1/3, 10~28 1/4)

SD1 (1~3·10·12·26·28) SD45 (4) SD47 (18) SD120 (5~7·10·15·16·22·27) SD167 (14)
SD187 (24) SD211 (17) SD283 (8·9) SD430 (11·19~21·25) SD510 (23)



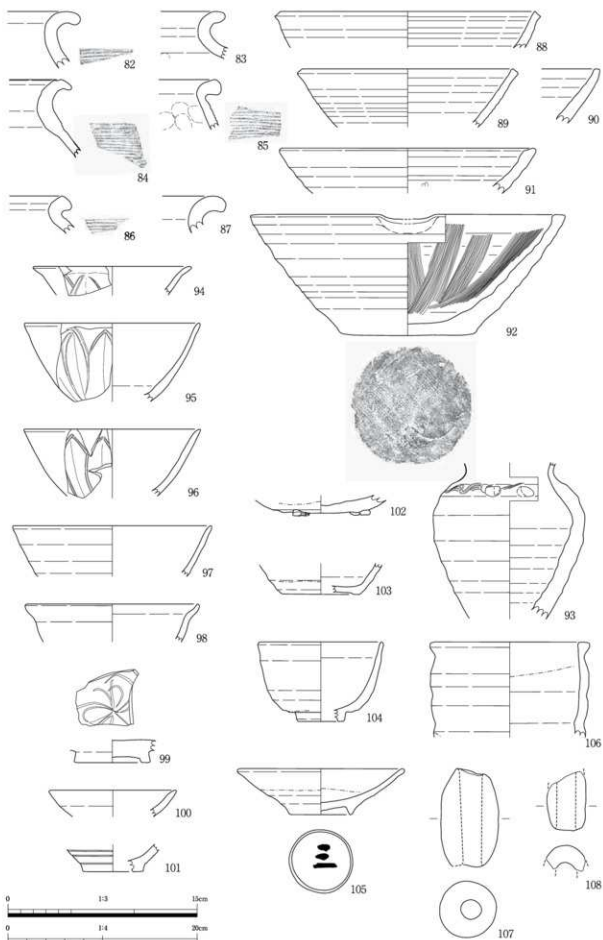
第27図 水上遺跡 遺物実測図 (29~54 1/3)

SD1(31~43・46~49・51・52) SD120(29) SD167(44・53・54) SD283(30) SD430(45)
SK61(50)



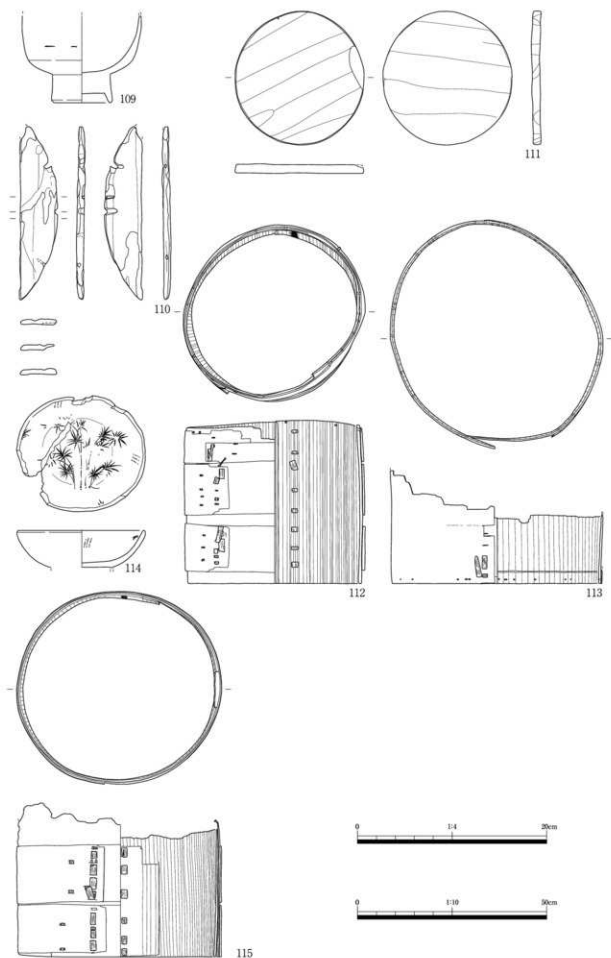
第28図 水上遺跡 遺物実測図 (55~81 1/3)

SD1 (55~64) SD167 (66・67) SD430 (65) SE64 (78) SE104 (74) SE110 (77) SE112 (72) SE177 (73)
 SK57 (70) SK61 (79~81) SK253 (71) SK401 (75) SK515 (68・69・76)

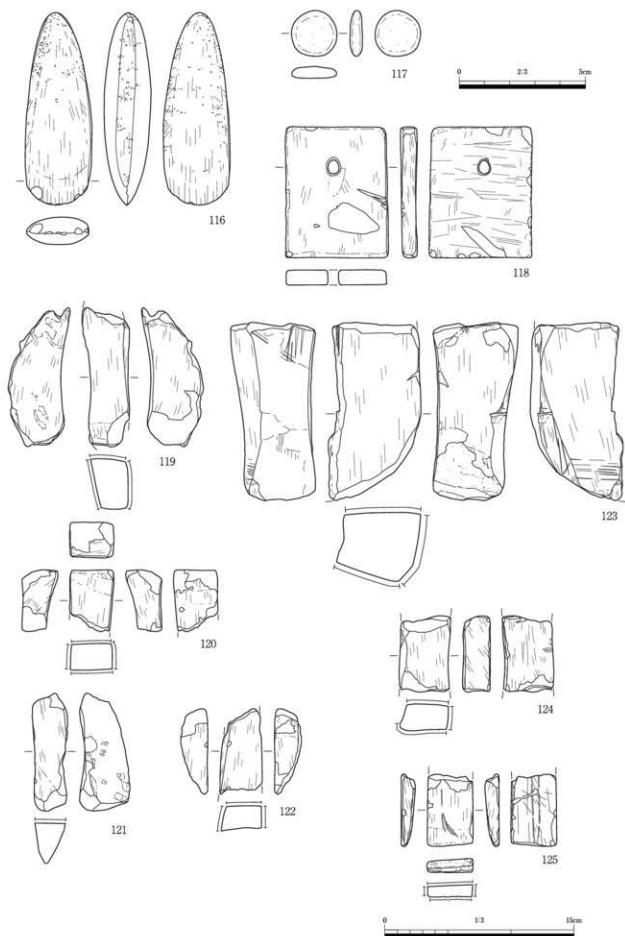


第29図 水上遺跡 遺物実測図 (82~93 1/4, 94~108 1/3)

SD167 (107) SE72 (89) SE449 (70) SK356 (88・93) SK429 (91) SK413 (92)



第30図 水上遺跡 遺物実測図 (112・113・115 1/10 その他 1/4)
 SD1 (109) SE118 (111 ~ 113) SE128 (114・115) SE434 (110)



第31図 水上遺跡 遺物実測図 (117 2/3, 116・118~125 1/3)
 SD1 (117) SD120 (119) SD167 (120) SK86 (121) SK413 (118・123) SK434 (122)

第7表 掘立柱建物一覽

建物番号	桁行柱間	梁行柱間	桁行長(m)	梁行長(m)	面積(m ²)	方位	桁行柱間距離(m)				梁行柱間距離(m)				柱穴	時期	切り合い	探函番号	写真回数
							1	2	3	4	1	2	3	4					
SB1	4	3	8.10	6.00	48.60	N-31°-E	2	2	2	2	2	2	2	2	SP150,151,159,161,165,166,173,177,205,210,214	中世	<SD141	12	16
SB2	3	(2)	6.60	3.90	25.70	N-115°-E	2	2	2	-	-	-	-	SP196,199,200,204,212	中世	<SD167,215			
SB3	1	1	2.20	2.10	4.62	N-27°-E	2	-	-	2	-	-	-	SP176,182,184,188	中世				
SB4	2	1	3.40	3.10	10.50	N-32°-E	2	2	-	3	-	-	-	SP134,137,142,146,153,156	中世				

第8表 柱穴一覽

建物番号	遺構番号	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	出土遺物	切り合い	探函番号	写真回数
SB1	SP150	楕円形	0.42	0.32	0.19			12	16
	SP151	円形	0.42	0.34	0.16				
	SP159	円形	0.46	0.41	0.25				
	SP161	円形	0.54	0.52	0.24				
	SP165	円形	0.48	0.46	0.13				
	SP166	楕円形	0.50	0.40	0.18				
	SP173	円形	0.41	0.33	0.14				
	SP177	円形	0.34	0.30	0.13				
	SP205	円形	0.28	0.28	0.10				
	SP210	円形	0.44	0.38	0.29				
SB2	SP214	円形	0.38	0.32	0.15				
	SP196	円形	0.44	0.40	0.25				
	SP199	円形	0.38	0.34	0.13				
	SP200	円形	0.62	0.56	0.27				
	SP204	楕円形	0.56	0.42	0.11				
	SP212	不明	0.48	-	0.31		<SD167		
SB3	SP176	円形	0.35	0.30	0.05				
	SP182	円形	0.40	0.34	0.09				
	SP184	円形	0.26	0.22	0.07				
	SP188	円形	0.28	0.25	0.07				
SB4	SP134	円形	0.12	0.12	0.05				
	SP137	円形	0.15	0.15	0.14				
	SP142	円形	0.30	0.30	0.17				
	SP146	円形	0.29	0.25	0.09				
	SP153	円形	0.23	0.23	0.12				
	SP156	円形	0.14	0.14	0.15				

第9表 井戸一覽

遺構番号	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	出土遺物	時期	切り合い	備考	探函番号	写真回数
SE28	円形	0.84	0.74	0.74	中世土師器・珠洲	中世		裏掘り井戸A 1類	13	
SE35	円形	2.15	1.84	0.75		中世		裏掘り井戸A 2類		
SE64	楕円形	1.45	1.03	1.10	珠洲・瀬戸美濃	中世		裏掘り井戸B類		
SE72	円形	0.94	0.74	1.23	土師器類・珠洲鉢	中世		裏掘り井戸A 1類		
SE77	円形	1.21	1.09	1.57		中世		裏掘り井戸A 1類		
SE104	円形	1.05	1.03	0.85	中世土師器・珠洲	中世		裏掘り井戸A 1類		
SE110	楕円形	1.54	1.25	0.83	珠洲・青龍・漆器類	中世	<SD41	裏掘り井戸B類		
SE112	円形	0.75	0.65	0.63	中世土師器	中世		裏掘り井戸A 1類	14	17
SE116	円形	1.21	1.16	0.91		中世		裏掘り井戸A 1類		
SE118	楕円形	2.19	1.53	1.11	珠洲・漆物・円形板・井戸銅板	中世	<SD1	水堀井戸		17
SE121	円形	2.05	1.83	0.78		中世	<SD1	裏掘り井戸A 2類		
SE126	楕円形	2.23	1.74	1.45		中世		裏掘り井戸B類	15	
SE127	円形	1.75	1.53	1.38		中世	<SD120	裏掘り井戸A 2類		17
SE128	楕円形	2.24	1.73	1.12	漆物・漆器類	中世		裏掘り井戸B類 水堀に漆物設置		17
SE213	円形	1.02	1.02	0.84	土師器	中世		裏掘り井戸A 1類		
SE236	不明	1.45	(0.75)	0.64	井戸枠材	中世		水堀井戸		17
SE246	円形	1.29	1.19	1.13		中世	<SD243	裏掘り井戸A 1類	16	
SE249	楕円形	1.75	1.22	0.51		中世		裏掘り井戸B類		
SE284	楕円形	(2.79)	(1.38)	0.57	中世土師器	中世		裏掘り井戸B類		
SE339	楕円形	2.18	1.57	1.31	土師器・珠洲	中世		裏掘り井戸B類		
SE346	円形	2.13	2.05	1.75	中世土師器	中世	<SD283,290	裏掘り井戸A 2類	18	
SE355	円形	0.97	0.85	1.25	珠洲	中世		裏掘り井戸A 1類		
SE434	円形	1.33	1.20	1.09	珠洲・円形板・磁石	中世		裏掘り井戸A 1類	17	
SE449	楕円形	2.11	1.66	1.01	珠洲	中世		裏掘り井戸B類		18
SE455	円形	1.28	1.17	1.41		中世	<SD436	裏掘り井戸A 1類	18	
SE529	不明	1.49	(0.78)	0.73		中世	<SD131			18

第10表 土坑一覽(1)

遺構番号	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	出土遺物	時期	切り合い	棟目番号	写真 掲載
SK2	円形	0.18	0.18	0.06		中近世			
SK5	楕円形	0.81	0.62	0.33	珠洲宿	中近世			
SK8	円形	0.39	0.37	0.12		中近世			
SK9	楕円形	0.35	0.31	0.03		中近世			
SK10	楕円形	1.00	0.79	0.29		中近世			
SK12	円形	0.30	0.29	0.04		中近世			
SK13	不明	2.00	(1.15)	0.70	中世土師器・珠洲・越前	中世		18	
SK17	円形	1.05	1.01	0.41	中世土師器	中世		18	
SK21	円形	1.43	1.18	0.15		中近世			
SK24	楕円形	1.50	0.90	0.18		中近世			
SK25	不整形	0.93	0.50	0.14		中近世	>SD20		
SK26	楕円形	1.95	0.73	0.15		中近世			
SK27	楕円形	1.50	0.51	0.14		中近世	>SD23		
SK29	楕円形	0.27	0.24	0.05		中近世			
SK30	円形	0.33	0.31	0.05		中近世			
SK31	楕円形	1.30	0.56	0.14		中近世			
SK32	楕円形	1.96	0.79	0.13		中近世			
SK39	不整形	1.02	0.87	0.30	唐津	中近世			
SK40	楕円形	0.28	0.24	0.09		中近世			
SK42	円形	0.35	0.35	0.18		中世		18	19
SK43	円形	0.24	0.19	0.01		中近世			
SK44	楕円形	0.53	0.41	0.38		中世		18	
SK46	円形	0.16	0.13	0.09		中近世			
SK48	楕円形	0.26	0.20	0.15		中近世			
SK49	楕円形	0.42	0.36	0.12	珠洲	中近世			
SK50	円形	0.17	0.17	0.03		中近世			
SK51	円形	0.41	0.38	0.09		中近世			
SK52	円形	0.30	0.28	0.15		中近世			
SK54	円形	0.42	0.40	0.08		中近世			
SK55	円形	0.31	0.28	0.10		中近世			
SK56	円形	0.17	0.17	0.04		中近世			
SK57	円形	0.23	0.23	0.02	中世土師器	中近世		8	
SK58	円形	0.28	0.27	0.07		中近世			
SK59	楕円形	0.52	0.34	0.09		中近世			
SK60	円形	0.18	0.18	0.08		中近世			
SK62	方形	2.11	1.75	0.14	中世土師器	中世		18	19
SK63	円形	0.28	0.27	0.04		中世			
SK65	楕円形	0.26	0.19	0.05		中近世			
SK66	円形	0.32	0.30	0.10		中近世			
SK67	円形	0.27	0.25	0.04		中近世			
SK68	楕円形	0.24	0.19	0.07		中近世			
SK69	楕円形	0.33	0.29	0.06		中近世			
SK70	円形	0.40	0.39	0.08		中近世			
SK71	楕円形	(0.98)	0.86	0.21		中近世			
SK73	不明	0.41	(0.29)	0.09		中近世			
SK74	楕円形	(0.19)	0.17	0.10		中近世			
SK75	楕円形	0.37	(0.27)	0.04		中近世			
SK76	楕円形	0.74	0.40	0.06		中近世			
SK78	楕円形	0.23	0.18	0.04		中近世			
SK79	楕円形	0.52	0.25	0.04		中近世			
SK80	楕円形	0.30	0.26	0.16		中近世			
SK83	楕円形	0.27	0.23	0.06		中近世			
SK84	円形	0.26	0.20	0.17		中近世			
SK85	円形	0.17	0.14	0.16		中近世			
SK86	円形	0.16	0.16	0.04	磁石	中近世		8	
SK87	楕円形	0.65	0.55	0.14		中近世			
SK89	楕円形	0.42	0.33	0.14		中近世			
SK91	楕円形	0.29	0.24	0.07		中近世			
SK92	楕円形	0.34	0.26	0.14		中近世			
SK94	円形	0.21	0.20	0.04		中近世			
SK95	楕円形	0.25	0.22	0.04		中近世			
SK96	円形	0.31	0.31	0.04		中近世			
SK97	楕円形	0.39	0.31	0.07		中近世			
SK98	楕円形	1.17	(0.74)	0.14	中世土師器	中近世	<SK102>SD90		
SK99	円形	0.21	0.21	0.03		中近世			
SK100	楕円形	0.51	0.50	0.06		中近世			
SK101	楕円形	0.88	0.48	0.13		中近世			
SK102	方形	1.10	1.00	0.12	中世土師器	中近世	>SK98		
SK103	円形	0.27	0.26	0.06		中近世			
SK105	楕円形	0.39	0.37	0.11		中近世			
SK106	円形	0.29	0.28	0.07		中近世			
SK108	楕円形	1.05	0.20	0.04		中近世			
SK109	楕円形	0.52	0.40	0.04	珠洲	中近世			
SK111	円形	0.76	0.67	0.16	珠洲	中世			
SK113	不整形	0.63	0.54	0.09		中近世			
SK114	円形	0.26	0.23	0.07		中近世			
SK115	円形	0.20	0.19	0.05		中近世			
SK117	円形	0.59	(0.42)	0.05		中近世			
SK123	円形	1.10	0.80	0.68		中近世		19	
SK124	楕円形	0.53	0.45	0.12		中近世	>SD120		
SK125	楕円形	2.90	2.04	0.51		中世		19	

第10表 土坑一覽(2)

遺構番号	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	出土遺物	時期	契り合 ¹⁾	検出 番号	写真 図版
SK130	不明	0.31	(0.25)	0.18		中世前期			
SK132	円形	0.18	0.17	0.13		中世前期			
SK133	楕円形	0.85	(0.40)	0.06		中世前期			
SK135	楕円形	0.36	(0.31)	0.06		中世前期			
SK136	楕円形	0.45	(0.26)	0.10		中世前期			
SK143	円形	0.95	(0.81)	0.14		中世前期		19	
SK144	楕円形	(1.65)	0.65	0.14	中世土師器	中世前期		19	
SK145	不明	(0.68)	0.43	0.40		中世前期	<SK174		
SK148	楕円形	0.24	0.19	0.09		中世前期			
SK149	楕円形	0.27	0.22	0.13		中世前期			
SK152	楕円形	0.42	0.37	0.12		中世前期			
SK154	楕円形	0.30	0.18	0.16		中世前期			
SK155	楕円形	0.29	0.22	0.07		中世前期			
SK157	楕円形	0.14	0.10	0.12		中世前期			
SK158	楕円形	0.24	0.20	0.10		中世前期			
SK160	円形	0.18	0.17	0.12		中世前期			
SK162	円形	0.31	0.29	0.09		中世前期			
SK163	円形	0.23	(0.21)	0.07		中世前期			
SK164	楕円形	0.30	0.28	0.14		中世前期			
SK168	楕円形	(0.25)	0.18	0.07		中世前期			
SK169	楕円形	0.29	0.25	0.12		中世前期			
SK171	楕円形	0.28	(0.22)	0.16		中世前期			
SK172	円形	0.41	0.37	0.12		中世前期			
SK174	楕円形	(1.89)	1.26	0.23		中世前期	<SD167, SK145	19	
SK175	円形	0.29	0.27	0.11		中世前期			
SK178	楕円形	0.43	0.37	0.17		中世前期			
SK179	楕円形	0.19	0.17	0.11		中世前期			
SK180	円形	0.33	0.31	0.09		中世前期			
SK181	楕円形	0.36	0.31	0.29		中世前期			
SK183	円形	0.32	0.32	0.12		中世前期			
SK185	楕円形	0.24	0.22	0.16		中世前期			
SK186	楕円形	0.39	0.24	0.18		中世前期			
SK189	円形	0.26	0.26	0.09		中世前期			
SK191	円形	0.19	0.18	0.15		中世前期			
SK192	楕円形	0.27	0.23	0.10		中世前期			
SK193	楕円形	0.31	0.26	0.25		中世前期			
SK194	円形	0.24	0.22	0.10		中世前期			
SK195	楕円形	0.30	0.26	0.22		中世前期			
SK197	円形	0.27	0.27	0.23		中世前期			
SK198	楕円形	0.72	0.41	0.20		中世前期			
SK201	円形	0.39	0.38	0.11		中世前期			
SK202	不明	0.74	(0.39)	0.17		中世前期			
SK203	楕円形	0.22	0.17	0.05		中世前期			
SK206	楕円形	0.37	0.31	0.10		中世前期			
SK207	楕円形	0.32	0.27	0.17		中世前期			
SK208	楕円形	0.73	0.48	0.33		中世前期	<SD141		
SK209	楕円形	0.31	0.25	0.16		中世前期			
SK216	楕円形	0.19	0.13	0.10		中世前期			
SK217	円形	0.22	0.20	0.05		中世前期			
SK218	楕円形	0.21	0.19	0.19		中世前期			
SK219	楕円形	0.40	0.31	0.20		中世前期			
SK220	円形	0.16	0.16	0.15		中世前期			
SK221	楕円形	(0.27)	(0.24)	0.10		中世前期			
SK222	楕円形	0.39	0.30	0.14		中世前期			
SK223	楕円形	0.55	0.29	0.19		中世前期			
SK224	楕円形	0.48	0.43	0.13		中世前期			
SK225	楕円形	0.59	0.40	0.27		中世前期			
SK226	円形	0.30	0.29	0.30		中世前期			
SK227	楕円形	0.28	0.17	0.03		中世前期			
SK228	不明	1.23	(0.64)	0.43	中世土師器・青磁	中世前期		19	
SK230	楕円形	0.28	0.24	0.16		中世前期			
SK231	楕円形	0.24	0.19	0.21		中世前期			
SK232	円形	0.28	0.26	0.16		中世前期			
SK233	楕円形	0.54	0.32	0.20		中世前期			
SK234	楕円形	0.47	0.40	0.13	中世土師器・珠洲	中世前期			
SK235	楕円形	0.45	0.37	0.13		中世前期			
SK237	円形	0.44	0.41	0.23		中世前期			
SK238	楕円形	0.31	0.26	0.16		中世前期			
SK240	楕円形	1.31	0.79	0.24		中世前期			
SK242	楕円形	0.41	0.31	0.29		中世前期			
SK244	楕円形	0.24	0.21	0.11		中世前期			
SK245	楕円形	0.29	0.28	0.09		中世前期			
SK247	楕円形	1.41	1.06	0.19		中世前期			
SK248	楕円形	0.25	0.25	0.06		中世前期			
SK250	楕円形	0.31	0.28	0.15		中世前期			
SK251	楕円形	0.24	0.21	0.09		中世前期			
SK253	楕円形	1.09	(0.86)	0.51	中世土師器	中世前期	<SD291	19	
SK254	楕円形	0.31	0.28	0.07		中世前期			
SK255	円形	0.37	0.36	0.08		中世前期			
SK256	楕円形	0.47	0.42	0.05		中世前期			
SK257	円形	0.51	0.49	0.32		中世前期			
SK258	楕円形	0.65	0.39	0.22		中世前期			
SK259	楕円形	0.38	0.18	0.19		中世前期			
SK260	不明	1.26	(0.47)	0.35		中世前期			

第10表 土坑一覽(3)

遺構番号	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	出土遺物	時期	切り合い	探照番号	写真 図版
SK261	円形	0.28	0.26	0.14		中近世			
SK262	楕円形	0.26	0.20	0.14		中近世			
SK263	円形	0.98	0.92	0.37		中近世			
SK264	円形	0.25	0.24	0.20		中近世			
SK265	楕円形	0.21	0.17	0.11		中近世			
SK266	円形	0.57	0.53	0.20		中近世			
SK267	円形	0.34	0.33	0.27		中近世			
SK268	円形	0.27	0.24	0.11		中近世			
SK269	円形	0.18	0.17	0.14		中近世			
SK270	楕円形	0.19	0.15	0.04		中近世			
SK271	円形	0.74	0.74	0.29		中近世			
SK272	円形	1.01	0.96	0.38		中近世			
SK273	楕円形	0.20	0.16	0.11		中近世			
SK274	楕円形	0.21	0.15	0.14		中近世			
SK275	楕円形	0.19	0.17	0.04		中近世			
SK276	円形	0.19	0.22	0.08		中近世			
SK277	円形	0.19	0.17	0.07		中近世			
SK278	円形	0.18	0.17	0.02		中近世			
SK279	楕円形	(1.54)	1.01	0.23		中近世	<SK280		
SK280	楕円形	2.80	1.27	0.35		中近世	>SK279		
SK281	円形	0.17	0.15	0.10		中近世			
SK282	楕円形	0.41	0.32	0.17		中近世			
SK285	楕円形	0.20	0.16	0.12		中近世			
SK286	不明	0.58	(0.42)	0.30		中近世			
SK287	楕円形	0.22	0.19	0.08		中近世			
SK288	円形	0.24	0.24	0.11		中近世			
SK289	円形	0.31	0.30	0.24		中近世			
SK292	楕円形	0.33	0.28	0.18		中近世			
SK293	楕円形	0.24	0.19	0.04		中近世			
SK294	円形	0.22	0.20	0.16		中近世			
SK295	楕円形	1.62	1.03	0.39		中近世			
SK296	楕円形	(0.33)	0.29	0.09		中近世			
SK297	楕円形	0.18	0.16	0.07		中近世			
SK298	楕円形	0.22	0.18	0.10		中近世			
SK299	楕円形	0.28	0.18	0.11		中近世			
SK300	円形	0.37	0.35	0.05		中世		19	
SK301	円形	0.52	(0.41)	0.17		中近世			
SK302	楕円形	0.76	0.61	0.29		中世			
SK303	楕円形	0.26	0.21	0.13		中近世			
SK304	楕円形	0.46	0.39	0.32		中近世			
SK305	楕円形	0.19	0.17	0.14		中近世			
SK306	円形	0.17	0.16	0.09		中近世			
SK307	円形	0.31	0.29	0.19		中近世			
SK308	楕円形	0.21	0.19	0.06		中近世			
SK309	楕円形	0.24	0.20	0.11		中近世			
SK310	楕円形	0.26	0.23	0.05		中近世			
SK311	円形	0.33	0.26	0.12	中世土師器	中世		19	19
SK312	円形	0.21	0.21	0.04		中近世			
SK313	楕円形	0.28	0.25	0.07		中近世			
SK314	楕円形	0.43	0.39	0.28		中近世			
SK315	円形	0.24	0.22	0.09		中近世			
SK316	楕円形	0.26	0.23	0.21		中近世			
SK317	楕円形	0.26	0.25	0.18		中近世			
SK318	楕円形	0.24	0.22	0.14		中近世			
SK319	円形	0.46	0.46	0.13		中近世			
SK320	楕円形	0.22	0.20	0.13		中近世			
SK321	円形	0.24	0.23	0.08		中近世			
SK322	楕円形	0.35	0.27	0.10		中近世			
SK323	円形	0.26	0.26	0.17		中近世			
SK324	楕円形	0.44	0.34	0.23		中近世			
SK325	楕円形	0.56	0.44	0.15		中近世	>SK326		
SK326	円形	0.27	0.26	0.10		中近世			
SK327	楕円形	0.37	0.32	0.27		中近世	>SK328		
SK328	楕円形	0.24	(0.19)	0.16		中近世	<SK327, SK329		
SK330	円形	0.69	0.67	0.15		中近世			
SK331	楕円形	0.35	0.25	0.17		中近世			
SK332	円形	0.45	0.44	0.10		中近世			
SK333	楕円形	0.26	0.21	0.08		中近世			
SK334	円形	0.19	0.17	0.04		中近世			
SK335	楕円形	0.45	0.37	0.10		中近世			
SK336	楕円形	0.81	0.67	0.16		中近世			
SK337	円形	0.19	0.17	0.09		中近世			
SK338	楕円形	0.21	0.17	0.07		中近世			
SK340	楕円形	0.30	0.24	0.07		中近世			
SK341	円形	0.29	0.28	0.09		中近世			
SK342	楕円形	0.33	0.27	0.13		中近世			
SK343	円形	0.21	0.19	0.10		中近世			
SK344	楕円形	0.29	0.15	0.08		中近世			
SK345	楕円形	0.24	0.20	0.08		中近世	<SK329		
SK347	楕円形	1.04	0.61	0.27		中近世			
SK348	楕円形	0.76	0.65	0.32		中近世			
SK349	不明	1.65	(0.81)	0.59	銅器類、中世土師器	中世		20	19
SK350	楕円形	0.27	0.25	0.10		中近世			

第10表 土坑一覽(4)

遺構番号	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	出土遺物	時期	切り合い ¹⁾	採掘 番号	写真 掲載
SK351	楕円形	0.26	0.20	0.08		中近世			
SK352	円形	0.27	0.27	0.10		中近世			
SK353	円形	0.21	0.20	0.12		中近世			
SK354	円形	0.50	0.50	0.08		中近世			
SK356	方形	3.16	2.33	0.50	珠西	中世	<SD329	20	18
SK357	円形	2.20	1.90	0.13		中近世			
SK358	楕円形	0.55	0.44	0.18		中近世	>SK366		
SK359	円形	0.52	(0.35)	0.18		中近世			
SK360	楕円形	0.29	0.23	0.32		中近世			
SK365	円形	0.14	(0.11)	0.04		中近世			
SK366	円形	0.22	0.21	0.04		中近世	<SD329		
SK367	楕円形	0.36	0.27	0.13		中近世			
SK368	円形	0.29	0.27	0.21		中近世			
SK369	不整形	1.43	0.85	0.37		中近世	>SK370,376,SD363		
SK370	楕円形	0.43	(0.29)	0.23		中近世			
SK371	楕円形	0.50	0.29	0.13		中近世			
SK372	円形	0.24	0.22	0.17		中近世	<SD329		
SK373	楕円形	0.28	0.21	0.08		中近世	<SD329		
SK374	楕円形	0.26	0.22	0.12		中近世	<SD329		
SK375	楕円形	0.33	0.27	0.16		中近世	<SD361		
SK376	楕円形	(0.40)	0.39	0.10		中近世			
SK377	不明	0.73	(0.39)	0.09		中近世	<SD363		
SK378	円形	0.88	0.86	0.19		中近世	<SD363		
SK379	円形	0.33	0.32	0.03		中近世	<SD363		
SK380	楕円形	0.33	0.25	0.30		中近世	<SD363		
SK381	楕円形	0.29	0.14	0.12		中近世			
SK382	円形	0.21	0.19	0.20		中近世			
SK383	楕円形	0.31	0.24	0.12		中近世			
SK384	楕円形	0.48	(0.29)	0.19		中近世			
SK385	円形	0.21	0.20	0.14		中近世			
SK387	楕円形	0.45	0.24	0.15		中近世			
SK388	楕円形	0.75	0.42	0.24	珠西	中近世			
SK389	円形	0.25	0.23	0.21		中近世			
SK390	楕円形	0.22	0.19	0.15		中近世			
SK392	円形	0.15	0.15	0.08		中近世			
SK393	楕円形	0.29	0.22	0.19		中近世			
SK394	円形	0.21	0.20	0.14		中近世			
SK395	楕円形	0.38	0.32	0.15		中近世			
SK396	円形	0.25	0.23	0.16		中近世			
SK397	円形	0.25	0.24	0.16		中近世			
SK398	円形	0.17	0.14	0.12		中近世			
SK399	楕円形	0.26	0.20	0.22		中近世			
SK400	楕円形	0.34	0.27	0.21		中近世	<SD386		
SK401	円形	0.70	(0.64)	0.21	中世土師器・青磁	中世		20	
SK402	楕円形	0.22	0.18	0.08		中近世			
SK403	円形	0.26	0.25	0.20		中近世			
SK404	円形	0.17	0.16	0.05		中近世			
SK406	楕円形	0.27	0.22	0.14		中近世			
SK407	楕円形	0.33	0.27	0.15		中近世			
SK409	円形	0.22	(0.18)	0.19		中近世			
SK410	楕円形	0.25	0.22	0.11		中近世			
SK411	円形	0.30	(0.25)	0.16		中近世			
SK412	円形	0.21	0.21	0.12		中近世			
SK414	楕円形	(0.41)	0.29	0.18		中近世	<SK415		
SK415	楕円形	0.26	0.17	0.17		中近世	>SK414		
SK417	円形	0.17	0.17	0.13		中近世			
SK419	円形	0.20	0.17	0.15		中近世			
SK420	楕円形	0.21	0.18	0.09		中近世			
SK421	楕円形	0.24	0.21	0.13		中近世			
SK422	円形	0.22	0.20	0.11		中近世			
SK423	楕円形	0.22	0.18	0.13		中近世			
SK424	円形	0.22	0.20	0.12		中近世			
SK425	楕円形	0.25	0.24	0.16		中近世			
SK426	楕円形	0.19	0.15	0.04		中近世			
SK427	楕円形	0.23	0.20	0.15		中近世			
SK428	円形	0.49	0.49	0.07		中近世			
SK433	楕円形	0.38	0.26	0.11		中近世			
SK435	楕円形	0.29	0.28	0.20		中近世			
SK437	楕円形	0.29	0.23	0.21		中近世			
SK438	円形	0.80	0.76	0.56		中世		20	
SK439	楕円形	0.18	0.16	0.10		中近世			
SK440	楕円形	0.28	0.18	0.05		中近世			
SK441	楕円形	0.30	0.27	0.05		中近世			
SK442	楕円形	0.39	0.32	0.32		中近世			
SK443	楕円形	0.27	0.23	0.35		中近世			
SK444	楕円形	0.61	0.42	0.12		中近世			
SK445	楕円形	0.20	0.18	0.09		中近世			
SK446	円形	0.22	0.22	0.15		中近世			
SK447	楕円形	0.32	0.26	0.13		中近世			
SK448	楕円形	0.27	0.25	0.16		中近世			
SK450	楕円形	0.46	0.20	0.23		中近世			

第10表 土坑一覽(5)

遺構番号	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	出土遺物	時期	切り合い	補図番号	写真 図版
SK451	円形	0.33	0.30	0.15		中近世			
SK452	楕円形	0.26	0.22	0.09		中近世			
SK453	円形	0.21	0.20	0.10		中近世			
SK454	円形	0.91	0.85	0.65		中世		20	
SK456	円形	0.16	0.15	0.08		中近世			
SK457	楕円形	0.40	0.32	0.10		中近世			
SK458	楕円形	0.36	0.30	0.15		中近世			
SK459	楕円形	0.32	0.28	0.11		中近世			
SK460	楕円形	0.31	0.28	0.08		中近世			
SK461	楕円形	0.20	0.19	0.09		中近世			
SK462	楕円形	0.28	0.19	0.08		中近世			
SK463	楕円形	0.18	0.16	0.05		中近世			
SK464	円形	0.18	0.16	0.11		中近世			
SK465	円形	0.19	0.17	0.17		中近世			
SK466	楕円形	0.18	0.14	0.08		中近世			
SK467	楕円形	0.31	0.24	0.16		中近世			
SK468	楕円形	0.25	0.22	0.08		中近世			
SK469	不明	0.87	(0.68)	0.24		中近世	<SD509		
SK470	円形	0.24	0.22	0.07		中近世			
SK471	円形	0.15	0.14	0.09		中近世			
SK472	楕円形	0.59	0.50	0.07		中近世			
SK473	円形	0.20	0.19	0.16		中近世			
SK474	円形	0.21	0.18	0.14		中近世			
SK475	楕円形	0.26	0.21	0.10		中近世			
SK477	楕円形	0.24	0.19	0.09		中近世			
SK478	円形	0.14	0.12	0.05		中近世			
SK479	楕円形	0.19	0.18	0.10		中近世			
SK480	楕円形	0.24	0.22	0.18		中近世			
SK481	楕円形	0.22	0.19	0.03		中近世			
SK482	楕円形	0.27	0.26	0.12		中近世			
SK483	楕円形	0.28	0.26	0.16		中近世			
SK484	楕円形	0.26	0.21	0.15		中近世			
SK485	円形	0.17	0.16	0.11		中近世			
SK486	円形	0.18	0.16	0.08		中近世			
SK487	楕円形	0.29	0.25	0.12		中近世			
SK488	楕円形	0.28	0.25	0.19		中近世			
SK489	円形	0.22	0.19	0.20		中近世			
SK490	楕円形	1.00	0.59	0.20		中近世			
SK491	楕円形	0.24	0.21	0.15		中近世			
SK492	楕円形	0.32	0.19	0.10		中近世			
SK493	楕円形	0.23	0.16	0.10		中近世			
SK494	円形	0.89	0.84	0.49		中世		20	
SK495	円形	0.17	0.16	0.09		中近世			
SK496	円形	0.16	0.14	0.09		中近世			
SK497	円形	0.30	0.29	0.17		中近世			
SK498	円形	0.23	0.20	0.07		中近世			
SK499	円形	0.19	0.20	0.16		中近世			
SK500	楕円形	0.18	0.16	0.12		中近世			
SK501	楕円形	0.22	0.18	0.15		中近世			
SK502	楕円形	0.36	0.21	0.05		中近世			
SK505	楕円形	0.27	0.21	0.23		中近世			
SK506	円形	0.87	0.76	0.23		中近世			
SK507	楕円形	0.66	0.53	0.09		中近世			
SK508	楕円形	0.28	0.23	0.14		中近世			
SK512	楕円形	0.28	0.24	0.21		中近世			
SK513	楕円形	0.38	0.34	0.15		中近世			
SK516	楕円形	0.29	0.23	0.11	土師器	中近世			
SK517	楕円形	0.29	0.23	0.14		中近世			
SK518	楕円形	0.35	0.29	0.14		中近世			
SK520	楕円形	0.34	0.31	0.09		中近世			
SK521	楕円形	0.72	0.32	0.22		中近世			
SK522	楕円形	0.42	0.31	0.15		中近世			
SK523	円形	0.16	0.15	0.14		中近世			
SK524	円形	0.21	0.19	0.12		中近世			
SK525	円形	0.25	0.25	0.08		中近世			
SK526	円形	0.31	0.29	0.12		中近世			
SK527	円形	0.26	0.24	0.08		中近世			

第11表 大型土坑一覽

遺構番号	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	出土遺物	時期	切り合い	特記事項	補図 番号	写真 図版
SK61	不整形	6.12	3.90	0.50	中世土師器・珠洲・青磁・伊万里・唐漆	古世		SD11に残り遺でつながる	21	
SK119	不整形	3.32	2.74	0.83		近世		SD11につながる		
SK229	不明	(3.30)	2.62	0.41	土師器・珠洲	中世		方形か		
SK413	円形	3.39	3.33	0.74	珠洲・黒石・磁石	中世			22	
SK416	不整形	4.93	(2.50)	(0.83)	珠洲	中世				
SK429	不整形	3.76	(2.90)	0.54	土師器・中世土師器・珠洲	中世	<SD430			
SK431	方形	(2.80)	2.37	0.14		中世		底面硬化	23	
SK476	方形	(4.60)	3.18	0.15	中世土師器	中世				
SK515	不整形	7.22	6.43	0.86	中世土師器・珠洲・青磁	中世	<SD430		22	15-20
SK519	不整形	3.52	(2.28)	0.38		近世			23	
SK528	不整形	7.24	2.43	0.44		近世			25	

第12表 溝一覧

遺構番号	幅(m)	深(m)	出土遺物	時期	切り合い	特記事項	補記番号	写真 図版
SD1	4.72	1.18	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・越中瀬戸・伊万里・唐津・鎌形輪・赤石	近世	>SK11R121		23	13・19
SD3	0.90	0.18		近世		SD16につながる		
SD4	1.38	0.18		近世		SD38につながる		
SD6	0.58	0.15		中近世				
SD7	0.46	0.13	中世土師器	中近世	<SD18,19			
SD11	0.34	0.12		中近世				
SD14	0.54	0.18	土師器・越中瀬戸	近世				
SD15	0.53	0.14	中世土師器・珠洲	近世			24	
SD16	1.50	0.08		近世				
SD18	(0.50)	0.09		中近世	>SD7			
SD19	0.35	0.05		中近世	>SD7			
SD20	0.43	0.08	中世土師器	中近世	<SK25			
SD22	0.61	0.11		近世				
SD23	0.54	0.10		近世	<SK27			
SD33	1.20	0.34		近世			24	12・24
SD34	0.63	0.18	中世土師器・珠洲・瓦貫・越中瀬戸	近世				
SD36	0.33	0.04		近世				
SD37	0.45	0.12	中世土師器	中世	<SD45		24	
SD38	1.60	0.42	珠洲	近世		SD1につながる	24	12
SD41	1.55	0.20	珠洲	近世	>SK110			
SD45	1.14	0.64	須恵器・中世土師器・珠洲	中世	>SD37		24	20
SD47	0.75	0.14	土師器・中世土師器・珠洲	中世	>SE64		24	
SD53	0.99	0.31	鉄滓	中世			21・24	
SD81	0.28	0.08		中近世				
SD82	0.53	0.05		中近世				
SD88	1.25	0.14		中近世				
SD90	0.45	0.10		中近世	<SK98			
SD93	0.22	0.04		中近世				
SD107	0.67	0.21		中世			24	
SD120	4.10	0.55	須恵器・中世土師器・珠洲・青磁・砥石	中世	<SK123,>SK127		24	20
SD122	0.35	0.07		中近世				
SD129	0.49	0.32		中世		土構で分割されたSD120と つなぐ小溝	24	
SD131	(0.68)	0.57	中世土師器・珠洲	中世	<SD167,>SK529			
SD138	0.92	0.22		中世		SD141につながる		
SD139	0.43	0.11		中近世				
SD140	0.45	0.08		中世		SD131に平行する	24	
SD141	2.45	0.45	中世土師器・珠洲	中世	>S E 246	SD131につながる	25	
SD147	0.66	0.13		中近世				
SD167	1.70	0.78	須恵器・中世土師器・珠洲・越中瀬戸・伊万里・砥石	近世	>SD131,SK174,212		22・25	20
SD170	0.64	0.17		中近世				
SD187	0.93	0.50	珠洲	近世		SD167に平行する		
SD190	0.68	0.05	越中瀬戸	近世				
SD211	1.26	0.38	珠洲	中世			25	
SD215	0.63	0.16		近世		SD167の西に平行する細い溝		
SD283	2.50	0.39	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃	近世	>SK279,280,346			
SD290	0.66	0.19	土師器・珠洲	中近世	>SK346	SD291につながる		
SD291	1.21	0.27		中近世	>SK253	SD290につながる		
SD329	0.48	0.19		近世	>SK328,345,356,366,372,373,374, SD363			
SD361	0.44	0.07	中世土師器・珠洲	中世	>SK375		25	
SD362	0.40	0.37		中近世				
SD363	1.13	0.35		中世	<SK369,376,SD329>SK378,379,380		10	
SD364	1.32	0.45		中世	<SE339			
SD386	0.68	0.26	中世土師器	中世	>SK400,455,476,SD432		25	15
SD391	0.66	0.16		中近世			22	
SD405	0.34	0.14		中近世				
SD418	0.90	0.14		中近世				
SD430	5.17	0.72	須恵器・中世土師器・珠洲・越前・越中瀬戸・白磁・青磁・越中瀬戸・伊万里・唐津	近世	>SK515,SD531		23	20
SD432	1.08	0.15		中世		SK476につながる	22	
SD503	0.86	0.06	珠洲	近世			25	
SD504	0.78	0.12	土師器	近世				
SD509	0.68	0.23		近世	>SK469	SD514から分岐し、SK519に つながる		
SD510	0.81	0.33	中世土師器・珠洲	中世			25	
SD511	0.63	0.19	珠洲	近世		SD514から分岐し、SK519に つながる		
SD514	2.60	0.23	珠洲	近世			25	
SD530	1.28	0.36		中世			10	
SD531	1.04	0.61		中世		SD514底面で横溝		
SD532	2.25	0.27		中世				

第13表 土器・陶磁器一覽(1)

群	種別	号外 図次	遺物	出土地点	種類	器種	容量 (cm ³)			時期	群属時期	胎土色調		胎土色		備考
							口径	器高	底径			高台径	記号	胎土色	記号	
26	1	22	SD1	X30738	中世土師器	甕	7.6	1.8		中世	13C後半～14C	10YR8/2	灰白色			
	2	SD1	X19725	中世土師器	甕	8.4	2.3	3.7		近世	17C～	10YR7/3	にがい黄褐色			
	3	21	SD1	X17725	中世土師器	甕	9.0	2.2	4.0		近世	17C～	10YR7/2	にがい黄褐色		
	4	22	SD45	中世土師器	甕	9.0	1.1			中世	13C後半～14C	10YR7/3	にがい黄褐色			
	5	21	SD120	X22732	中世土師器	甕	7.4	1.2			中世	13C後半～14C	10YR8/2	灰白色		
	6	SD120	X30730	中世土師器	甕	8.2	1.4			中世	13C後半～14C	10YR8/2	灰白色			
	7	SD120	X30736	中世土師器	甕	11.2	1.3			中世	13C後半～14C	10YR8/2	灰黄褐色			
	8	SD283	中世土師器	甕	7.4	0.8			中世	13C後半～14C	10YR8/2	灰白色				
	9	SD283	中世土師器	甕	12.4	2.9			中世	13C後半～14C	10YR8/3	浅黄褐色				
	10	SD1	X22730	珠西	甕					中世	I期	N6/	灰色			
	11	SD40	X34765	珠西	甕					中世	V期	N6/	灰色			
	12	SD1	X18V13	珠西	甕					中世	V期	N6/	灰色			
	13	SD28	珠西	甕						中世	V期	N6/	灰色			
	14	SD167	珠西	甕						中世	V期	N6/	灰色			
	15	21	SD120	X22733	珠西	甕鉢	18.0	6.8	10.0		中世	I期	N6/	灰色		流石跡止糸入り
	16	SD120	X30733	珠西	甕鉢	17.0				中世	I期	N5/	灰色			
	17	SD211	珠西	甕鉢	14.8					中世	I期	N5/	灰色			
	18	SD42	珠西	甕鉢	21.4					中世	IV期	7.5Y7/1	灰白色			
	19	SD430	X28760	珠西	甕鉢	27.0				中世	前期	N6/	灰色			
	20	SD430	X28760	珠西	甕鉢	19.6				中世	前期	N6/	灰色			
	21	23	SD430	X31762	珠西	甕鉢	29.6				中世	前期	7.5Y6/1	灰白色		内面に灰付着
22	SD120	X22732	珠西	甕鉢	28.6				中世	I期	7.5Y7/1	灰白色				
23	SD610	X32768	珠西	甕鉢	29.4				中世	V期	N6/	灰色				
24	SD187	珠西	甕鉢						中世	V期	N6/	灰色				
25	SD40	X34760	珠西	甕鉢	25.8				中世	V期	7.5Y7/1	灰白色				
26	SD1	X19726	珠西	甕	14.0				中世	Ⅱ～ⅢI期	N6/	灰色				
27	21	SD120	X24725上層	珠西	甕	9.4	20.9	7.8		中世	Ⅱ～Ⅲ前期	7.5Y9/2	灰黄褐色		流石跡止糸入り	
28	23	SD1	X18725	珠西	甕					中世	V期	N6/	灰色		内面に灰付着	
29	SD120	X31732	青森	甕	15.0				中世	13C前半	7.5Y7/1	灰白色	5G76/1	オリーブ灰色	龍巻草土(古)	
30	25	SD283	龍ノ洞遺跡	天目茶碗					40	中世	15C	2.5Y7/1	灰白色	5YR3/2	暗赤褐色	鉄粒 雄黄・方石(古)
31	SD1	X19725	龍ノ洞	甕	10.0	2.4	4.0		近世	17C後半～	10YR8/3	浅黄褐色	5Y6/1	灰色	鉄粒 宮田編年並期～	
32	SD1	X19725	龍ノ洞	甕	11.0	2.5	5.2		近世	17C後半～	2.5Y7/3	浅黄褐色	7.5YR3/2	暗赤褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
33	SD1	X22727	龍ノ洞	甕	9.8	2.6	3.8		近世	17C後半～	10YR6/4	にがい黄褐色	5YR3/2	暗赤褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
34	SD1	X15171上層	龍ノ洞	甕	11.2	2.4	4.8		近世	17C後半～	10YR7/4	にがい黄褐色	10YR3/2	暗赤褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
35	SD1	X19725	龍ノ洞	甕	10.4	2.3	3.5		近世	17C後半～	10YR6/2	灰黄褐色	5YR3/3	暗赤褐色	鉄粒 雄黄・方石(古)	
36	SD1	X22727	龍ノ洞	甕	10.4	2.8	4.4		近世	17C後半～	10YR8/3	浅黄褐色	7.5YR3/1	暗褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
37	SD1	X30726	龍ノ洞	甕	12.0	2.9	5.0		近世	17C後半～	10YR7/3	にがい黄褐色	5YR2/1	暗褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
38	SD1	X15171上層	龍ノ洞	甕	10.8	2.6	4.0		近世	17C後半～	2.5YR7/3	浅黄褐色	5YR3/2	暗赤褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
39	SD1	X30728	龍ノ洞	甕	10.4	2.4	3.6		近世	17C後半～	2.5YR3/3	浅黄褐色	5YR3/1	暗褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
40	SD1	X19725	龍ノ洞	甕	13.0	3.6	5.2		近世	17C前半～中期	7.5YR6/4	にがい褐色	5YR2/1	暗褐色	鉄粒 流石跡付に雄黄 のみ付着 宮田編年並期～	
41	SD1	X20726	龍ノ洞	甕	11.0	2.6	3.7		近世	17C後半～	7.5YR7/4	にがい褐色	7.5YR3/2	暗褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
42	SD1	X22727	龍ノ洞	甕	12.0	3.0	4.7		近世	17C後半～	10YR7/3	にがい黄褐色	2.5YR3/2	暗赤褐色	鉄粒 宮田編年並期～	
43	SD1	X19725	龍ノ洞	甕	13.4	3.6	6.0		近世	17C後半～	10YR7/4	にがい黄褐色	5Y6/1	灰色	鉄粒 雄黄 宮田編年並期～	
44	SD167	X30748	龍ノ洞	甕	11.0	2.8	3.5		近世	17C後半～	7.5YR7/3	にがい褐色	5Y7/1	灰白色	鉄粒 宮田編年並期～	
45	SD40	X34760	龍ノ洞	甕	11.0	2.8	4.5		近世	17YR5/3	にがい褐色	5Y6/1	灰色	鉄粒 宮田編年並期～		
46	SD1	X30728	龍ノ洞	甕	10.2	2.7	4.0		近世	17C後半～	2.5Y7/2	灰黄色	7.5YR3/2	暗褐色	鉄粒 『2』雄黄 宮田編年並期～	
47	SD1	X30728	龍ノ洞	甕	10.2	2.6	3.8		近世	17C後半～	7.5YR5/3	にがい褐色	5YR3/1	暗褐色	鉄粒 『2』雄黄 宮田編年並期～	
48	SD1	X19725	龍ノ洞	甕	10.7	2.4	4.0		近世	17C後半～	7.5YR5/2	灰褐色	5YR4/2	灰褐色	鉄粒 『2』雄黄 宮田編年並期～	
49	SD1	X22727	龍ノ洞	甕	12.0	3.0	5.6		近世	17C後半～	10YR6/3	にがい黄褐色	5YR3/3	暗赤褐色	鉄粒 『2』雄黄 宮田編年並期～	
50	27	SK61	龍ノ洞	甕	10.6	2.4	3.0		近世	17C後半～	2.5YR5/5	明赤褐色	2.5YR3/1	暗赤褐色	鉄粒 『2』雄黄 宮田編年並期～	
51	SD1	X19725	龍ノ洞	甕	11.0	2.5	4.2		近世	17C後半～	10YR7/4	にがい黄褐色	5YR3/1	暗褐色	鉄粒 雄黄付着不可 宮田編年並期～	
52	SD1	X22727	龍ノ洞	甕	10.6	2.7	4.2		近世	17C後半～	10YR6/3	にがい黄褐色	5YR3/2	暗赤褐色	鉄粒 雄黄付着不可 宮田編年並期～	
53	SD167	X33745	龍ノ洞	甕	11.0	2.6	4.6		近世	17C後半～	10YR7/3	にがい黄褐色	7.5YR3/2	暗褐色	鉄粒 雄黄あり 宮田編年並期～	
54	SD167	X36750	龍ノ洞	甕	9.4	2.6	4.2		近世	17C前半～中期	7.5YR7/3	にがい褐色	2.5Y7/1	灰白色	鉄粒 雄黄付着不可 宮田編年並期～	
55	28	SD1	X20726	龍ノ洞	丸瓶	10.5	6.1	4.3		近世	17C	5Y7/1	灰白色	7.5YR3/3	暗褐色	鉄粒 雄黄 九州海城編年並期
56	SD1	X15725	唐津	瓶			4.4		近世	17C前半	5Y6/1	灰色	10Y4/2	オリーブ灰色	鉄粒 九州海城編年並期	
57	SD1	X15725	伊万里	甕	13.2	3.2	4.2		近世	17C代	10Y7/1	灰白色	7.5YR8/1	明褐色	鉄粒 九州海城編年並期 Ⅱ～Ⅲ前期	
58	29	SD1	X19725	唐津	甕	12.0	3.2	3.5		近世	17C末～18C	2.5Y7/1	灰白色	5Y4/4	暗オリーブ色	鉄粒 九州海城編年並期
59	SD1	X24730	青津	甕	14.0	3.2			近世	17C後半	2.5Y7/1	灰白色	7.5G4/1	暗褐色	鉄粒 九州海城編年並期 砂目積み	
60	SD1	X15725	伊万里	甕	12.6	2.8	4.0		近世	17C代	2.5Y8/1	灰白色			中世 九州海城編年並期 Ⅱ～Ⅲ前期	
61	25	SD1	X17171	龍ノ洞遺跡	電子		8.7			近世	2.5Y7/2	灰黄色	5Y6/2	灰オリーブ色	鉄粒 電子土層	
62	SD1	X12726	龍ノ洞	瓦入丸	12.5				近世	2.5Y7/2	灰黄色	7.5YR3/3	暗褐色		鉄粒 灰付着	
63	SD1	X30728	龍ノ洞	瓦入丸	12.0	5.3	7.4		近世	10YR6/4	にがい黄褐色	5YR3/3	暗赤褐色	鉄粒 灰付着		

第 13 表 土器・陶磁器一覽 (2)

種別	遺物 番号	遺物 図版	遺物	出土地点	種類	形状	寸法 (cm)			時期	詳細時期	胎土色		釉色		備考
							口徑	器高	底径			高台径	記号	胎土色	記号	
28	64	SD1	X3Y20	龍中瀬戸	丸入れ	13.5	5.5	9.6	近世	10YR6/4	1.5~1.5黄褐色	5YR3/3	暗赤褐色	鉄赤	龍崎 腰付巻	
	65	SD1	X3Y94	龍中瀬戸	丸柄	8.8			近世	2.5Y6/2	灰白色	7.5YR3/3	暗褐色	鉄赤	龍崎	
	66	SD467	X3Y65	龍中瀬戸	香炉			11.0	近世	2.5Y6/2	灰白色	7.5YR4/3	褐色	鉄赤	龍崎 腰付巻	
	67	SD467	X3Y68	伊万里	皿			5.0	近世	17C代	N6/	灰白色		鉄赤	龍崎	
	68	SD515		中世土器部	皿	6.6	1.4	5.6	中世	13C後半~14C	10YR7/3	1.5~1.5黄褐色				
	69	SD515		中世土器部	皿	11.6	2.5		中世	13C後半~14C	10YR8/3	1.5黄褐色				
	70	SD327		中世土器部	皿	7.6	1.3		中世	13C後半~14C	7.5YR7/3	1.5~1.5褐色				
	71	SD283		中世土器部	皿	9.2	1.2		中世	13C後半~14C	7.5YR6/4	1.5黄褐色				
	72	SD112		中世土器部	皿	11.8	2.6		中世	13C後半~14C	10YR7/3	1.5~1.5黄褐色				
	73	SD127		中世土器部	皿	11.4	2.6		中世	13C後半~14C	10YR7/3	1.5~1.5黄褐色				
	74	SD304		中世土器部	皿	12.8	2.1		中世	13C後半~14C	10YR7/2	1.5~1.5黄褐色				
	75	SD461		青磁	瓶	14.4			中世	13C前半	5Y7/1	灰白色	2.5Y6/1	オリーブ灰色	龍崎赤漆2~b型	
	76	SD316		青磁	瓶	15.0			中世	13C前半	5Y7/1	灰白色	2.5Y6/1	オリーブ灰色	龍崎赤漆2~b型	
	77	SD316		青磁	瓶	15.6			中世	13C後半	2.5Y6/1	灰白色	5Y6/2	灰オリーブ色	龍崎赤漆2~1a型	
	78	SD84		龍戸美濃	仏具?	8.0			中世	13C~14C前?	2.5Y7/1	灰白色	5Y6/2	灰オリーブ色	龍崎 赤漆?龍崎半型~半型b?	
	79	SD61		龍中瀬戸	丸瓶	9.4	6.1	3.5	近世	17C前半~	2.5Y7/1	灰白色	7.5YR4/3	褐色	龍崎	
	80	SD61		龍中瀬戸	丸瓶	11.0	2.8	4.8	近世	17C後半~	2.5Y7/2	灰白色	7.5YR3/3	暗褐色	龍崎	
	81	SD61		唐津	皿	12.0	2.9	4.0	近世	17C前期	5YR5/4	1.5~1.5赤褐色	5Y6/2	灰オリーブ色	龍崎 大内陶磁器半1~2期 新土目録A	
	29	82		X2Y70	1 唐洲	壺				中世	1期	N6/	灰色			
		83		X1Y27	1 唐洲	壺				中世	1期	7.5Y6/1	灰色			
		84		X2Y71	1 唐洲	壺				中世	1期	5Y6/1	灰色			
		85		X1Y28	1 唐洲	壺				中世	V期	N7/	灰白色			
		86		X3Y69	1 唐洲	壺				中世	V期	N5/	灰色			
		87		X2Y70	1 唐洲	壺				中世	1期	N6/	灰色			
		88	SD36		唐洲	磁鉢	26.6			中世	2期	5Y6/1	灰色			
		89	SD72		唐洲	磁鉢	22.0			中世	前期	N5/	灰色			
		90	SD449		唐洲	磁鉢				中世	1~2期	N6/	灰色			
		91	SD429		唐洲	磁鉢	26.6			中世	前期	N5/	灰色			
92		SD413		唐洲	磁鉢	31.0	12.8	14.0	中世	2期	N6/	灰色				
93		SD36		唐洲	壺				中世	1~2期	N6/	灰色				
94			X3Y70	1 青磁	瓶	12.4			中世	13C前半	7.5Y7/1	灰白色	5GY6/1	オリーブ灰色	龍崎赤漆2~b型	
95			X2Y60	1 青磁	瓶	12.6			中世	13C後半	2.5Y7/1	灰白色	7.5Y5/2	灰オリーブ灰色	龍崎赤漆2~b型	
96			X3Y71	1 青磁	瓶	14.0			中世	13C前半	5Y7/1	灰白色	5GY6/1	オリーブ灰色	龍崎赤漆2~b型	
97			X1Y78	1 青磁	瓶	15.6			中世	13C後半	5Y6/1	灰色	7.5Y5/2	灰オリーブ色	龍崎赤漆1~1前期	
98			X3Y71	1 青磁	瓶	13.4			中世	13C中~14C初	5Y7/1	灰白色	2.5Y6/1	オリーブ灰色	龍崎赤漆2~3a型	
99			X3Y62	1 青磁	瓶			6.0	中世	13C前半	5Y7/1	灰白色	7.5GY6/1	緑灰色	龍崎赤漆1期 片割履	
100			X1Y78	1 龍戸美濃	丸壺	9.8			中世	18C代	2.5Y6/1	灰白色	2.5Y5/3	黄褐色	龍崎 大内期	
101			X1Y78	1 龍戸美濃	丸口蓋壺			5.0	中世		2.5Y8/1	灰白色	N1.5/0	暗色	龍崎	
102			X2Y79	1 龍戸美濃	樽形壺形香炉			4.0	中世	13C前期	2.5Y8/2	灰白色	5Y4/3	暗オリーブ色	龍崎 古瀬戸(龍崎)後並型	
103			X3Y70	1 龍戸美濃	小鉢			6.0	中世	13C前期	2.5Y8/2	灰白色	7.5Y6/2	灰オリーブ色	龍崎 古瀬戸(龍崎)後並型	
104		28	X1Y71	1 龍中瀬戸	丸瓶	9.6	6.4	3.5	近世		2.5Y7/1	灰白色	7.5YR4/3	褐色		
105		27	X2Y73	1 龍中瀬戸	皿	12.8	3.6	4.8	近世	17C後半~	10YR7/3	1.5~1.5黄褐色	7.5YR4/3	褐色	龍崎 (三) 龍崎 穴内陶磁器1期~	
106		28		龍中瀬戸	丸入れ	11.0			近世	10YR2/1	灰白色	7.5YR4/4	褐色			
107		SD467	X2Y43	土器	丸入れ	12.8	6.6	12.4	近世	10YR7/2	1.5~1.5黄褐色					
108			X2Y71	1 土器		63.0				10YR8/3	1.5黄褐色					

第 14 表 木製品一覽

種別	遺物 番号	遺物 図版	遺物	出土地点	種類	材質	寸法 (cm)			備考
							長さ	幅	厚さ	
30	109	30	SD01	X3Y27	漆器	ブナ属	-	漆厚 3.8	器高 9.2	榎木取り
	110		SD44		内形板	ヒノキ	(18.3)	4.0	0.7	板目
	111		SD118		内形板	スギ	14.2	15.6	1.0	板目
	112		SD118		漆物	スギ	17.8	45.8	漆厚 46.0	板目、井戸縁に転用
	113		SD118		漆物	スギ	-	漆厚 50.2	器高 (29.8)	板目、井戸縁に転用
	114		SD128		漆器	ケヤキ	13.8	-	器高 (3.0)	榎木取り
	115		SD128		漆物	スギ	-	漆厚 52.5	器高 36.2	板目、井戸縁に転用

第 15 表 石製品一覽

種別	遺物 番号	遺物 図版	遺物	出土地点	種類	材質	寸法 (cm)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
31	116		SD1	X2Y96	1 磨製石斧	輝石質凝灰岩	14.99	5.23	3.69	261.90	
	117		SD1	X1Y27	1 磨石	黒色頁岩	1.82	1.81	0.51	2.70	
	118		SD413	1 磨石	磨石	輝石	10.21	6.56	1.20	221.10	
	119		SD120	X2Y70	1 磨石	凝灰岩	10.81	3.73	4.84	220.90	
	120		SD167	X3Y48	1 磨石	流紋岩	4.83	3.48	2.82	50.30	
	121		SD36	1 磨石	流紋岩	流紋岩	9.18	2.79	3.96	98.30	
	122		SD434	1 磨石	流紋岩	流紋岩	6.65	3.35	2.10	50.80	
	123		SD413	1 磨石	流紋岩	流紋岩	13.89	7.27	6.64	886.70	
	124		X1Y71	1 磨石	凝灰岩砂岩	凝灰岩	5.94	4.61	2.18	92.60	
	125		X1Y78	1 磨石	凝灰岩砂岩	凝灰岩	3.65	3.60	1.12	31.10	

第Ⅳ章 赤井南遺跡

1 概要

赤井南遺跡は射水平野西部に位置し、下条川と和田川に挟まれた微高地上に立地する。遺跡の東側には和田川の支流である神楽川が流れ、遺跡はその自然堤防上にある。現況は水田で、標高 6.0～6.3m を測る。遺跡の東側は神楽川を挟んで水上遺跡、西側は市道東老田・高岡線を挟んで安吉遺跡と接する。調査地区は遺跡のほぼ中央を東西に横断している。調査区は道路や水路により4区に分断されており、遺構の位置等の記述については、便宜上、西から順に西区・中区・中東区・東区とする。検出した遺構は掘立柱建物2棟、道路2条、溝47条、井戸15基、土坑159基で、西区から中区の東側では古代の道路・溝と近世以降の溝、中区から東区では中世の掘立柱建物・井戸・溝・土坑を中心とした遺構を検出した。出土遺物には、弥生時代後期の弥生土器、古代(8～9世紀)の土器・木製品、中世(12～16世紀)の土器・陶磁器・木製品・石製品・鉄滓、近世(17世紀以降)の陶磁器・石製品があるが、主体となるのは8世紀後半～9世紀及び12～14世紀のものである。

2 層序

基本層序は、Ⅰ層：黒褐色シルト(表土・耕作土)、Ⅱ層：黒褐色粘土(古代～中近世遺物包含層)、Ⅲ層：遺構検出面・地山である。Ⅲ層は西区ではⅢa層：灰黄色粘土及びその下位のⅢb層：灰黄色砂質シルト、中区ではⅢb層、東区ではⅢc層：褐灰色砂・にぶい黄橙色砂の混じる灰黄褐色砂に細分される。Ⅱ層・Ⅲ層とも西側が粘性が強く、東へ行くほど砂質となる傾向がある。Ⅱ層の遺物包含層は、西区では10cm前後の厚層があるが、中区以東はほとんどが削平されⅠ層直下にⅢ層が露出する。遺構検出面の標高は、西側で5.7～5.8m、東側で5.5～5.6mを測り、東に向かって緩やかに傾斜している。

3 遺構・遺物

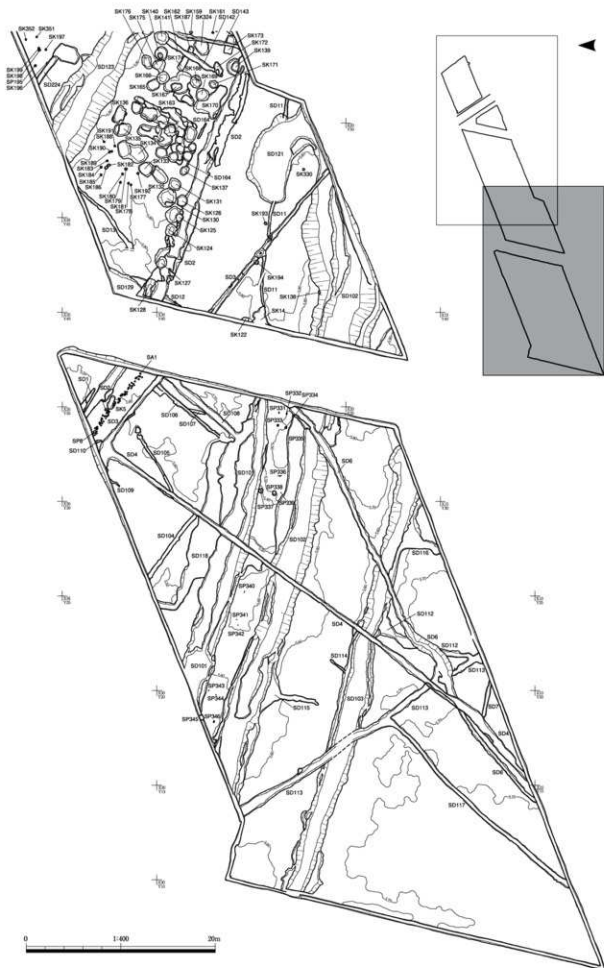
(1) 古代

古代の遺構は道路、杭・柱列を伴う整地層、溝、土坑を検出した。中世の遺構と同一面で検出しているため、古代の遺構と断定できるものは少なく、古代の遺物がまとも出土している遺構や、埋土の切り合いから古代と推定できる遺構のみを扱った。

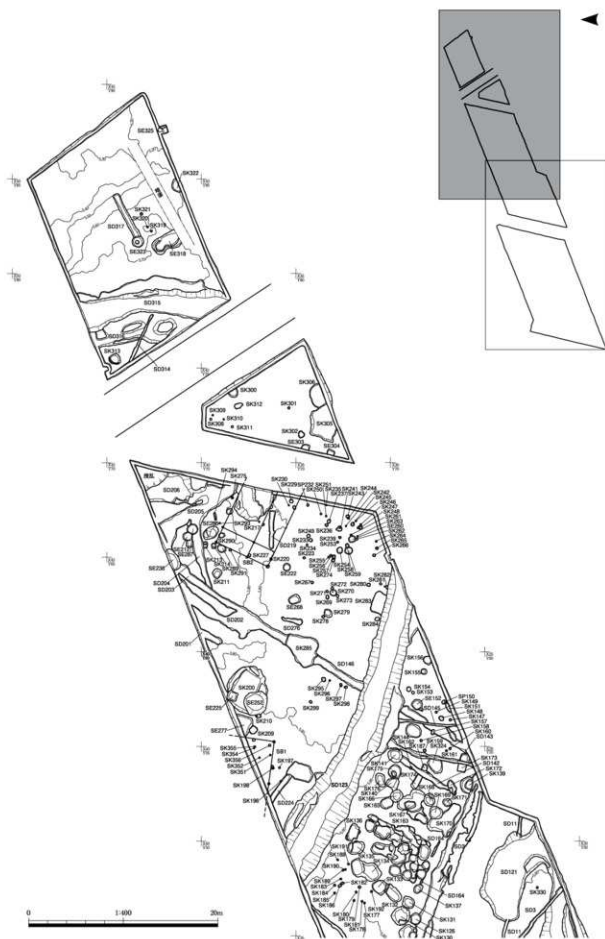
A 道路

1号道路(SF1, 第36図, 図版35)

西区のSD102を北側側溝、SD103を南側側溝とする東西方向の道路。溝の中心間の距離は約11m、遺構検出面での路面は幅約7.0～7.5mを測る。側溝の肩口は浅い段になっている部分もあり、崩落していることが考えられるため、道路として使用された当初は約7～8mの幅があったものと推測される。調査では、礫敷または路面の整地、硬化面などは認められなかった。長さ約60mにわたって検出した。この道路は、E-15°-Sの振れをもつ。



第32図 赤井南遺跡 遺構全体図 (1:400)



第33図 赤井南遺跡 遺構全体図 (1:400)

2号道路 (S F 2, 第39図)

中区のS D142・S D201を西側側溝, S D146・203を東側側溝とする北北東から南南西方向の道路。路面幅3.5～4mを測る。路面の礫敷, 整地は検出していないが, 平行する溝を道路側溝と推定した。側溝は浅く, 途切れているが, 一直線上にあることから本来つながっていたものが後世の削平により途切れたものと考えられる。N-30°-Eの振れをもち, S D102・S D103とは直交しないが, S D142・146・202出土遺物や埋土の切り合い等からS F1と同時期の道路と考えられる。

B 整地・杭列

1号整地・杭列 (S X1, S P331～S P346, 第36・38・39・53図, 図版37～39・50)

西区のS D101とS D102の間で検出した整地層及び中区のS D121とS D102の間で検出した整地層。S D102は西区から中区へと続くが, S D101は西区と中区の間の農道に境に途切れ, 代わって中区南側にS D121が現れてそれぞれS D102との間に整地層を形成する。

西区のS D101・102間では16基 (S P331～S P346)の柱または杭を検出したが, 柱の掘方は, 整地層を除去して検出している。掘方を確認したものを便宜上柱としたが, 先端を杭状にとがらせるものも含む。S D101・102間のⅢ層面がS D101以北およびS D102以南よりはほぼ水平に約10～20cm下がっていることから, 一旦地山を削平した後に改めて盛土し整地を行ったと考えられる。盛土は黒褐色粘土・褐灰色粘土・にぶい黄褐色シルト・にぶい黄褐色砂質シルト等の混合層で, 層厚がある部分では水平堆積の2層に分かれることが確認される。柱・杭の規格にはばらつきがあり, 芯持半割材, 割材, ミカン割り材, 柱目板材, 細杭状のものがある。柱間間隔は一定していない。当初S D101を築地内溝, S D102を道路側の溝として, 築地状の遺構を想定したが, 杭・柱列が不規則であることなどから, 築地ではない。しかし, 整地層はS D101を掘削して積み上げた土と考えられ, その埋土の土量からすると, 現況で確認された以上の高さの基壇状の盛土がなされていたと推測される。また, これらの杭・柱は長さ約50～70cm, 直径約30cm, 板状のものでは幅約20cmといった比較的規格の大きなものが多く, 特に太い芯持半割材と厚みのある割材を使用したS P331・332及びS P345・346はそれぞれ半割断面が向き合う状態で据えられており, 板壁等何らかの構造物を構成していた可能性がある³¹⁾。柱・杭の内, 樹種同定を行った8本の内7本はスギ, 1本はブナであった。放射性炭素年代から推定される年代は, S P340が3世紀後半～5世紀初頭, S P344が6世紀中頃～7世紀前半, S P332・S P337・S P345が7世紀後半～8世紀後半である。古木効果も考慮に入れると, 道路側溝の遺物の中でも古い時期(8世紀後半)に近い年代といえる。

中区のS D102・S D121間では, S D102に向かって緩やかに傾斜するⅢ層を褐灰色粘土質シルトを基調とする整地層が覆っており, 整地層上面では, 数個体の土器器腕(59～63)が破碎された状態で集中して出土した。完形に復元されるものが少なく, 正確な個体数は不明であるが底部の残存状況から少なくとも5個体以上あったものと考えられる。59～63は, 底部は回転糸切り, 体部は内外面口クロナデで, 9世紀末頃のものである。

このように西区と中区の整地層は途中の農道に分断されるためそのつながりが明確ではないが, 西区の整地は杭・柱を用いた何らかの構造物を伴う基壇状の盛土, 中区の整地は道路側溝に向かって緩やかな傾斜地となった部分の表面を補強したものと推測される。

C 溝

101号溝 (S D101, 第36～38・51図, 図版37・38・46・49)

西区北側に位置する東西方向の直線的な溝で, S D102に平行する。約34mを検出した。幅3.25～3.55

m、深さ 0.32 ~ 0.48m である。埋土は黒色粘土を基調としている。上層は溝の北側に幅広く堆積し、北側の肩部はシャープさに欠ける。さらに北から浅い溝 S D118 が北縁に沿うように合流し、肩付近は緩やかな傾斜となる。埋土については花粉分析・珪藻分析・種実同定を行った。分析試料の採取位置は、試料①は東区北壁の黒褐色粘土、試料②は表土と黒褐色粘土の間層、試料③は表土である。花粉・珪藻分析では、溝は低湿な状態で、溝周辺はイネ科、カヤツリグサ科等の草本が多く分布する開けた環境であり、水田稲作も行われ、周辺地域にはスギ林を主に、ハンノキ属等の落葉広葉樹林が分布していたと推定された。種実同定では木本は検出されず、やや浅い水域に生息する水湿地性の草本植物を主に、やや乾燥した環境に生育する陸生の草本植物も検出された。ただし種実の種類・個数は道路側溝 S D102・103 に比べて著しく少なく、開口期間が短かったと推測される。

遺物は、弥生土器（1）、須恵器（2）、土師器が出土した。1は有段口縁の甕で、内外面ヨコナデを施す。2は須恵器杯で、底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。体部はロクロナデで、外面上半に自然軸がかかり重ね焼きを行ったと考えられる。完形で、やや歪みがある。8世紀後半～9世紀初頭のものである。須恵器は他に甕、土師器には椀・甕がある。

102号溝（S D102、第36～38・40・41・51～53図、図版35～38・46～51）

西区中央を横断し、中区の南西隅にのびる東西方向の溝。S D101の南側3mに平行する。S F1の北側側溝と考えられる。約60mにわたり検出した。幅365～410m、深さ0.78～1.00mである。埋土は、黒褐色粘土を基調とし、地山のふい黄橙色砂、灰黄褐色粘土等を含む。上層は、S D101と同じ黒色粘土が覆う。埋土については花粉分析・珪藻分析・種実同定を行った。分析試料はeセクションにおいて、17層（褐灰色砂質シルト）で試料①、9層（黒褐色粘土）の下位から上位へほぼ均等間隔に試料②～④を採取した。珪藻・花粉分析では、S D101埋土ときわめて類似した植生が推定され、特殊なものとしてはベニバナが検出された。〔延喜式〕ではベニバナは越中の中男作物とされており、付近で栽培された可能性もある。種実同定では木本が少なく草本が卓越し、陸生のイヌコウジュ属が最も多く、水田や溝などやや浅い水域に生息する水性植物も検出された。栽培植物としてイネ・シソ属が検出された。

遺物は、弥生土器（3～7）、土師器（8～15・17・18）、土錘（13・14）、須恵器（16・19～46）が出土した。須恵器水瓶は、調査区東側で、溝の底部よりやや高い位置から、体部下半を欠くが木製の栓をした状態で出土した。土師器甕17・18は調査区西側のS X1整地の土師器集中地点の近くで出土した。溝の北側肩口からやや下がった地点で、破砕された状態で2個体が重なり合って出土しており、17は人面墨書土器である。人面墨書土器を使った水辺での祭祀の跡と考えられ、18についても人面が描かれていた可能性があるが、上半部はほとんど欠損しているため不明である。また、他の出土土器も、溝底よりも肩口の斜面に張り付いた状態での出土例が多い。土錘（14）は溝の底から出土した。

3～7は弥生土器で、3は口縁に擬凹線をもつ甕、8は厚手の平底甕である。6は台付甕の胴部から脚台部の破片で、全面ナデを施す。7は高杯で表面は磨滅しているが、ナデ調整か。8～12は土師器碗で9世紀後半のもの。8・10は底部の外周に手持ちヘラケズリを施す。9・11・12は内外面ロクロナデである。9・10・12は回転糸切りで、12は糸切り後ヘラケズリか。14はほぼ完形の土錘で、外面に指頭圧痕が残る、全体にスガが付着している。15・16は小型壺で、内外面ロクロナデの後、胴部外面下半から外底面はヘラケズリを施す。15は器壁が薄く、S D103出土の51・52に似る。17・18は長胴で、口縁端部は内側に巻き込み、内面に段がつく甕で、9世紀末のものとする。外面上半はロクロナデ、下半は平行叩きで、内面調整は上半はロクロナデ、下半は17は当て具をナデ消し、18は同心円当て具痕を残す。17は外面上半に人面墨書があり、眉、目、鼻、人中線、口、髭が描かれる。

19・21は口径に対して器高が高く端部は断面三角形を呈する蓋で、9世紀前半のもの。全面ロクロナデで、21は内面中央に仕上げナデを施す。19の内面には「林家」の墨書がある。24は全体に扁平で端部はやや長めに折り曲げる蓋で、8世紀後半のもの。20・23は全面ロクロナデ、22は頂部ヘラ切り後ナデを施す。25～39は杯で、25・26・33～36・38・39は高台がつく。底部はヘラ切りで、36・39はヘラ切り後軽くなる。厚手の32と深身の37～39は8世紀後半のもので、そのほかも8世紀後半～9世紀前半の範疇におさまる。27には言偏あるいは「主」等かとみられる墨書があるが、欠損のため不明である。31の底外面の墨書は「小女大□(女か)」。28・32は口縁部にススが付着し灯明皿として使用されている。40は小型の壺である。底部はヘラ切りで、ヘラ記号がある。肩部には1条の沈線を巡らし、後より下は回転ケズリを施す。41は端部が外反する小型の広口壺である。42・43は横瓶で、出土位置も近く同一個体の可能性が高い。外面は並行タタキ及びカキメ、内面は同心円当てで具で、内面の端部はロクロナデの後、内面に指押さえ痕の残る円盤状の粘土を貼り付けて塞ぐ。水瓶(44)は器壁が薄く作工も精良である。全面ロクロナデで、胴部と頸部の境界内面に2重の圏線状の粘土接合痕を残す。押し込まれた木栓はヤナギの芯持ち材で、頭部は上端を山形に削り、出土時は全周に樹皮が残っていた。挿入部分は水瓶の頸部内径に合わせて細く削られる。長さは遺存している分で8.3cmである。45は圏足円面視の靦足部で、一方は透かし穴として削り取られており、中程には横位の沈線がある。46は口縁部外面を突帯状とした甕である。

103号溝(SD103、第36・38・40・53図、図版35・37・48・50・51・54)

西区南側を東西に横断する溝で、SD102の南側7mに平行する。SF1の南側側溝と考えられる。約47mにわたり検出した。幅2.35～3.20m、深さ0.76～0.85mを測る。断面形は底面が平坦で逆台形状になる部分と、底面が狭く逆三角形に近くなる部分がある。埋土は黒褐色粘土を基調とし、上層は、SD101・102と同じく黒色粘土層に覆われる。埋土については花粉分析・珪藻分析・種実同定を行った。分析試料はhセクションにおいて、6層(黒褐色粘土)で試料①、1層(黒色粘土)の下位から上位へは均等間隔に試料②～④を採取した。分析の結果、SD102埋土と類似した植生が推定された。

遺物は、弥生土器甕、土師器(47～53)、須恵器(54・55)、木製盤(56)が出土した。木製盤は、溝底から出土した。土師器・須恵器には図示したほかに甕がある。木製品ではほかに箸状の棒材、板が出土した。

47～50は碗で、48・50は底部が糸切り、49はヘラ切りである。49は9世紀中頃～後半、47・50は9世紀後半、48は9世紀末に位置づけられる。51・52は小型甕で、外反する頸部から口縁部を上方に引き上げ、さらに端部を短く外傾させる。端部外面には沈線がめぐる。胴部上半はロクロナデ、下半から外底面にかけては手持ちヘラケズリ、内底面は不定方向ナデを施す。9世紀後半のもの。53は口縁部が外反し端部を上方につまみ上げる甕で、9世紀前半のもの。須恵器甕(54)はSD102出土の46に似ており、同一個体の可能性もある。55は甕の胴部で外面は平行タタキ、内面は同心円当てで具で、タタキには一部長割の格子状になる部分もある。56はケヤキの柁目材をロクロ挽きした木製盤で、器壁が薄く作工は精良である。内外面に線状痕が残る。

115号溝(SD115、第36・37図)

西区SD102の南側に直交する溝。幅0.56m、深さ0.08mを測る。埋土は灰黄褐色シルトでSD102との切り合いはみられない。SD102の北側には続かないことから、SF1の路面の排水のための溝の可能性が考えられる。

118号溝 (SD118, 第36・37図)

西区の北縁からSD101に向かって南北方向に走り、東に折れてSD101の北肩に沿う浅い落ち込みとなる。SD101に平行する部分では幅2.80m、深さ0.08mを測る。埋土は黒色粘土でSD101との切り合いはみられない。

121号溝 (SD121, 第38・53図, 図版37・46・50)

中区SD102の北側に派生した浅い落ち込み状の溝。幅4.40m、深さ0.30mを測る。埋土は褐灰色粘土を基調とし、灰黄褐色砂が帯状に混入する。上層はSD101～103と同様に黒色粘土に覆われ、SD102との切り合いはみられない。遺物は、須恵器(57)、土師器(58)が出土した。SD102・SD121間の整地層(SX1)直上で数個体の土師器碗(59～63)がまとめて出土しているが、58もそれらと同じ形態のものと考えられる。57は端部が断面三角形を呈する蓋で、9世紀後半のもの。

142号溝 (SD142, 第39図)

中区中央に位置する幅0.62m、深さ0.10mの溝。埋土は灰黄褐色粘土質シルトを基調とする。本来は同一直線上にあるSD201につながっていたものが削平を受けたものとみられ、SF2の西側側溝と考えられる。遺物は土師器碗、弥生土器甕の小破片が出土した。

146号溝 (SD146, 第39・53図, 図版46)

中区中央に位置する幅1.20m、深さ0.12mの溝。埋土は灰黄褐色シルトを基調とするが、北側では、黒褐色粘土質シルトに変わる。SD142に並行して37mを検出した。SK285を挟んでSD203につながり、SF2の東側側溝と考えられる。遺物は土師器碗、須恵器(64)が出土した。中世の遺構SK285では珠洲の他に土師器・平瓦が出土しているが、SD146・203の遺物が混入した可能性もある。64は全体に扁平で端部は長めに折り曲げる蓋で、擬宝珠状のつまみがつく。全面クロコナデを施す。8世紀後半のもの。

201号溝 (SD201, 第39図)

中区中央北側に位置する幅0.80m、深さ0.18mの溝。浅いため途切れているが、本来は同一直線上にあるSD142につながっていたものが削平を受けたものとみられ、SF2の西側側溝と考えられる。埋土は灰黄褐色粘土質シルトを基調とする。

203号溝 (SD203, 第39・53図, 図版48)

中区中央北側に位置する幅0.80m、深さ0.24mの溝。中世の遺構SK285を挟んでSD146につながる。埋土は褐灰色粘土質シルトである。SF2の東側側溝と考えられる。遺物は須恵器(65)が出土した。65はやや肩が張る壺である。SK285では中世の珠洲の他に土師器・平瓦が出土しているが、SD146・203の遺物が混入した可能性もある。

D 土坑

210号土坑 (SK210, 第39・53図, 図版39・49)

中区中央北側に位置する。平面形は不整形で、中世のSE252と重複し、SE252が新しい。一辺0.57m、深さ0.19mを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトで、底部は平坦である。完形の須恵器杯2個体(67・68)が仰向けの状態で埋土の上層で出土し、さらに1個体(66)が下から出土した。67は約半分が欠損しているが、66・68はほぼ完形であり、意図的に埋納されたと考えられる。67・68は高台がつく。底部はヘラ切りで、67はヘラ切り後なで。8世紀後半～9世紀前半のもの。

(2) 中世

中世の遺構は、掘立柱建物・溝・土坑・井戸を検出した。土坑は Y45 ～ 57 付近にかけて集中的に検出しており、いわゆる土取穴と考えられる。土坑の中には、古代の遺物が出土するものもあるが、単発的であり、ほとんどを中世の遺構として扱った。掘立柱建物や柱穴状の小土坑、井戸についても、時代を特定する遺物に欠けるものが多いが、中区以東は概して中世の遺物が出土する遺構が多いため、遺物の出土していない遺構も中世のものとして扱った。

A 掘立柱建物

1号掘立柱建物 (S B1, 第44図, 図版40)

中区北側に位置する。東西2間、南北1間分を検出したのみで、建物の規模は不明である。建物の主軸はN-5°-Eである。S P195は、柱痕が認められた。柱穴は直径0.22～0.30m、深さ0.06～0.20mある。埋土は、黒褐色粘土質シルトで地山のにぶい黄橙色シルトが混入する。

2号掘立柱建物 (S B2, 第44図)

中区やや西寄りに位置する。南北3間(4.8m)、東西3間以上の建物になるものとみられる。建物の主軸は、N-26°-Eである。柱穴は、直径0.18～0.66m、深さ0.08～0.33mある。埋土は、黒褐色粘土質シルトで地山のにぶい黄橙色シルトが混入する。

B 柱穴

建物としての柱穴の並びは確認できなかったが、柱を残す柱穴1基、土層断面で柱痕と認められる層を確認した柱穴2基がある。

150号柱穴 (S P150, 第44図, 図版40)

中区中央南端に位置する。長径0.47m、短径0.36m、深さ0.34mの平面楕円形を呈する掘方で、直径15cmの柱を据える。埋土は、褐灰色粘土質シルトである。建物と認められる柱列はないが、付近には埋土に柱痕が確認されたS P153等、柱穴状の小土坑がある。

153号柱穴 (S P153, 図版40)

中区中央南端に位置する。直径0.30m、深さ0.38mの平面円形を呈す。埋土には柱痕がみられる。

232号柱穴 (S P232, 第44図, 図版40)

調査区中央東寄りに位置する。直径0.29m、深さ0.08mの平面円形を呈す。埋土は、黒褐色粘土質シルトを基調とし、柱痕とみられる部分には、多量の炭が認められる。

C 溝

123号溝 (S D123, 第43・54図, 図版43・47・48・52～54)

中区を東西に横断する。幅3.1～4.7m、深さ0.76mを測る。約30mにわたって検出した。東西方向の溝であるが、やや湾曲する。断面形は逆台形を呈する。埋土は、灰黄褐色粘土質シルトを基調とし、にぶい黄橙色シルト等を粒状に含む。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器(69～73)、平瓦(74)、中世土師器(75)、珠洲(80～87)、青磁(76)、瀬戸(78)、瀬戸美濃(77)、八尾(79)、鉄滓、骨が出土した。弥生土器は器台、土師器には碗・甕がある。須恵器は図示したほかに蓋・甕がある。鉄滓は径約4.9cm、重量約64gのもの1点のみである。古代・中世のものが一定量出土したが、埋土の上下層で遺物の時期が分かれるわけではなく、中世に開削された溝に古代の遺物が混入したと考えられる。骨は焼けたヒト上腕骨²⁾、底面よりやや高い下層埋土中から出土した。

69～73は須恵器。69～71は杯で、69はやや高めの高台、70・71は低い高台がつく。底部はヘラ切りで、71は板状圧痕がある。8世紀後半～9世紀前半のもの。72は肩の張る壺である。73は口径部外面

に波状文のある甕。74 は平瓦。凹面が布目、凸面が縄タタキで、凸面には多量の離れ砂が付着する。75 は中世土師器皿。口縁部は一段のヨコナデで、右回りになで抜く。底部は丸底に成形しナデを施す。76 は青磁碗で、鎚連弁をもつ。13 世紀前半のもの。77 は瀬戸美濃天目茶碗で、鉄軸がかかる。78 は灰釉を施した瀬戸香炉。79 は口縁部が受け口状に屈曲する八尾甕で、13 世紀後半のもの。80～87 は珠洲。80 は口径約 20 cm の小型の片口鉢で I 期のもの。81～84 は播鉢で、放射状の卸目があり、底部は静止糸切りである。81 は体部が直線的に開くもので、II 期のもの。82～84 は I～II 期のもの。85 は肩部に 2 条の波状文がある壺で、I 期のもの。86・87 は甕で、86 はやや長めの円頭で II～III 期、87 は円頭で III 期のもの。

129 号溝 (SD129, 第 54 図, 図版 52)

中区西端に位置する。調査区の隅にかかる遺構で規模は不明だが、深さ 0.35m を測る。埋土は、褐灰色粘土質シルトを基調とし、中間層に黒色粘土を挟む。SD2 と重複し、SD2 が新しい。遺物は、土師器碗、須恵器 (88)、珠洲 (89) が出土した。88 は杯で底部はヘラ切りで板状圧痕がある。8 世紀後半～9 世紀前半のもの。89 は播鉢で、3 cm 幅に 10 条一単位の卸目がある。II 期のもの。

143 号溝 (SD143, 第 54 図)

中区中央南側に位置する。埋土は南側で黒褐色粘土質シルト、北側では灰黄褐色シルトを基調とする。幅 0.60m、深さ 0.22m を測る。遺物は須恵器 (90)、珠洲が出土した。90 は杯で、底部はヘラ切りで高台が貼り付けられる。

202 号溝 (SD202, 第 43・55 図, 図版 52)

中区中央北側に位置する。幅 0.66～1.20m、深さ 0.16～0.20m を測る。約 9m にわたり検出した北東から南西方向の溝である。SD203 と並行し、南側で拡張して SD203 に接するが切り合いは不明瞭である。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。遺物は、土師器、須恵器、珠洲鉢 (91) が出土した。土師器は碗・甕が一定量出土しており、須恵器は杯・壺が各 1 点あるが、珠洲は図示した 1 点のみである。91 は口縁端部が外傾する播鉢で、I～II 期のもの。

204 号溝 (SD204, 第 43・55 図, 図版 43・48)

中区中央北側に位置する。幅 0.9～1.15m、深さ 0.35m を測る。東西方向の溝で、SD205 に合流する。埋土は、黒褐色粘土質シルトで下層は地山の黄橙色シルトを多量に含む。井戸等との切り合い関係では、それらより新しい。遺物は土師器、須恵器 (92・93)、珠洲が出土した。土師器は碗・甕、須恵器は図示したほかに蓋、珠洲には鉢・甕がある。92 は口縁端部が外屈しやや垂下する甕。93 は双耳瓶の肩で、体部に 1 条の沈線をめぐらし穿孔された耳が貼り付けられる。

205 号溝 (SD205, 第 43・55 図, 図版 47・52・53)

中区中央北側に位置する。幅 1.55～2.40m、深さ 0.17～0.35m を測る。北西から南東に延びる溝。SD204・SD206 が合流する。埋土は黒褐色粘土質シルトで合流する SD204・SD206 と同じ埋土である。SD206 との合流部付近で多数の遺物が出土した。遺物には、土師器、須恵器 (94・95)、珠洲 (96～100) がある。図示したものの他に土師器碗・甕、須恵器甕、珠洲甕がある。94・95 は杯で、底部ヘラ切り後高台が貼り付けられる。96 は片口がつく播鉢で、卸目は 2.6 cm 幅に 7 条 1 単位の櫛歯原体を用い縦横に交差させる。I～II 期のもの。97・98 は小型の鉢で内外面口ロナデ、底部は静止糸切りである。I 期のもの。99 は口縁部は方頭を呈し外方にやや肥厚する壺で、内外面口ロナデである。100 は肩部に 2 条の波状文をもつ壺で、頸部直下にヘラによる記号文「>」がある。I～II 期のもの。

206号溝 (S D206, 第43・55図, 図版46・52・53)

中区中央北側に位置する。北東側は、圍場整備時に攪乱を受けている。S D205に南側で合流する。埋土は黒褐色粘土質シルトである。遺物は、土師器(102)、須恵器(101)、中世土師器(105・106)、珠洲(103・104)が出土した。101は擬宝珠状のつまみがつく蓋で、頂部は回転ヘラケズリ、外面下半と内面はロクロナデである。102は甕で、口縁端部は内側に巻き込み、内面に段がつく。103は肩部に2条の波状文がめぐり、頸部直下に「九」の刻字文がある。104は放射状の卸目が密に施される播鉢で、内面に径9mmの器具で押捺した「田」の記号文がある。105・106は非ロクロ成形の皿で、一段のヨコナデを施す。図示したほかには土師器椀・甕、須恵器壺・甕、珠洲甕がある。

315号溝 (S D315, 第43・56図, 図版47・48・52～55)

東区に位置する。ほぼ南北方向を向くが、やや東に湾曲する。幅3.60～4.20m、深さ0.77mを測る。検出面ではS D316との切り合いが不明瞭であったが、断面観察により、S D316の埋土である褐灰色粘土質シルト、にぶい黄褐色シルト、黄灰色砂質シルトで肩を補修している事が想定され、平面的にも延長線上で地山の盛り上がりを確認でき、別の溝と判断した。時期的には隔絶したものではなく、 routesを改修したものと考えられる。

出土遺物は、須恵器(108～114)、中世土師器(121)、珠洲(115～120)、越中瀬戸(124)、伊万里(122・123)、平瓦(107)が出土した。須恵器は図示したほかには蓋がある。近世の遺物として越中瀬戸鉢1点と図示した伊万里が出土しているが、遺物の大半が古代・中世のものであり、近代の暗渠が切り合う部分もあることから、後世の混入と考える。また、出土層位によって遺物の年代が分かれることもないので、S D315・316は中世の閉削と推定される。107は平瓦で凹面は布目、外面は磨蝕のため不明である。108～110は須恵器杯で底部ヘラ切りで高台を貼り付ける。111・112は須恵器甕で、111は口縁端部が外屈しやや垂下する。112は外面平行タタキ、内面同心円当て具を施す。113・114は須恵器壺で、113は内外面ロクロナデ、外面上半はカキ目を施す。外面肩部の稜に沈線をもつ。114は外面は回転ヘラケズリで、内面上半はロクロナデ、下半は工具痕をナデ消す。脚を貼り付けるが端部は欠損している。115～118は珠洲播鉢で、115・116・118は放射状の卸目、117は波状の卸目を施入する。底部は静止糸切りである。卸目がまばらな115、口縁端部が外傾する118はⅠ～Ⅱ期、117はⅡ期、幅広の原体を用いる116はⅡ～Ⅲ期のものと推測される。119は叩打成形の壺で、口縁部端面をやや拡張させ、端部と口端部内面に波状文を施す。120は甕で、口縁部が短く屈折する方頭を呈し、外面平行タタキ、内面は円礫の当て具で成形する。121は非ロクロ成形の中世土師器皿で、口縁部にスガが付着する。122・123は伊万里皿で、見込みは蛇の目軸剥ぎ、底外面は露胎で削り出し高台である。122は銅緑釉、123は白磁釉を施す。123は高台内に墨書「小」がある。124は越中瀬戸播鉢で、断面三角形を呈し錆釉がかかる。

316号溝 (S D316, 第43・56図, 図版52・54)

東区に位置する。幅1.20m、深さ0.25～0.35mを測る。断面観察からS D316の埋土で肩を補修してS D315としていられる。出土遺物は、土師器、須恵器、中世土師器(125)、珠洲(127・128)、青磁(126)が出土した。125は非ロクロ成形の皿で、口縁部はヨコナデ、見込みは一方ナデ、底外面は無調整である。口縁部内面にスガが付着する。126は龍泉窯系の椀で、肉厚の削り出し高台である。高台内と皿付の軸は掻き取られる。12世紀中頃～後半のもの。127は装飾叩打文の甕胴部で、四筋で枠取りした四方櫛文の中に「×」を配す。128は無文の鉢で底内面のロクロ目が顕著である。底部は薄く、静止糸切りである。体部下半は焼け歪みのため外反している。

D 井戸

井戸は、15基検出した。各井戸からの出土遺物は少なく、また、直径1mほどの素掘りの井戸が大半を占めている。古代の遺物が出土する井戸もあるが、小破片で時期の詳細を決定する資料もないため、すべて中世の遺構として扱った。

152号井戸（S E152、第46図、図版41）

中区中央南側に位置する。平面形は、円形を呈し、直径1.10m、深さ0.76m、井戸底の標高5.08mを測る。曲物、井戸側等、検出されず、素掘りであったと思われる。埋土は、上層が灰黄褐色粘土質シルト、下層に黒褐色粘土がある。遺物は、土師器、箸状の木製品、種実（モモ核）が出土した。モモ核の放射性炭素年代は13世紀後半である。

212号井戸（S E212、第46・57図、図版46）

中区東寄りに位置する。平面形は、円形を呈す。直径0.90m、深さ0.88m、井戸底の標高5.11mを測る。埋土は、黒褐色粘土質シルトである。底部には、曲物を据えたと思われる地山の浅い窪みがみられる。S D204、S E287と重複し、S D204、S E287より古い。遺物は、須恵器（129）が出土した。扁平な蓋で内外面口ロナアである。ほかに壺破片もある。

222号井戸（S E222、第46図）

中区東寄りに位置する。平面形は、円形を呈す。直径0.78m、深さ1.04m、井戸底の標高4.76mを測る。埋土は、黒褐色粘土質シルトである。遺物は、土師器椀・甕が各1点出土した。

225号井戸（S E225、第45図、図版41）

中区中央北側に位置する。平面形は、方形を呈す。長軸1.00m、短軸0.88m、深さ1.44m、井戸底の標高4.42mを測る。埋土は2層で、上層は黒褐色粘土質シルト、下層に黒褐色粘土が堆積する。底部には、曲物を据えたと思われる地山の浅い窪みがみられる。S K200と重複し、S K200より新しい。出土遺物は、珠洲播鉢の小片1点である。

238号井戸（S E238、第48・57図、図版52）

中区東寄りに位置する。北側は調査区外のため半分のみを調査した。最大長2.85m、深さ1.28m、井戸底の標高4.46mを測る。埋土は、上層が黒褐色粘土質シルト、下層が黒褐色粘土である。遺物は、須恵器、珠洲（130・131）が出土した。130は体部が直線的に開き口縁端部が内傾する。Ⅲ～Ⅳ1期のもの。131はロクロ目が顕著で卸目はまばらに施入される。Ⅰ～Ⅱ期のもの。須恵器は壺が2点、珠洲にはほかに甕がある。

252号井戸（S E252、第45図、図版41）

中区北側に位置する。平面形は、不整形を呈す。長径2.60m、短径2.48m、深さ1.32m、井戸底の標高4.54mを測る。埋土は、3層に分層でき、上層に黒褐色粘土質シルト、下層に黒褐色粘土で、中層に、地山に近い灰黄色シルトが堆積する。S K200と重複し、S K200より新しい。遺物は、土師器、須恵器の小破片が各1点出土した。

260号井戸（S E260、第46図、図版41）

中区東寄りに位置する。平面形は、隅丸方形を呈す。長径0.73m、短径0.62m、深さ0.73m、井戸底の標高5.08mを測る。埋土は、上層が黒褐色粘土質シルト、下層が黒褐色粘土である。出土遺物は無い。

268号井戸（S E268、第47・57図、図版41）

中区東寄りに位置する。平面形は、楕円形を呈す。長径1.20m、短径0.94m、深さ1.05m、井戸底の標高4.55mを測る。埋土は、上層が黒褐色粘土質シルト、下層に黒色粘土が堆積する。下層の黒色粘土は、

幅 0.45m、厚さ 0.18m であり、地山に据え付けられた曲物の痕跡とも考えられる。遺物は、珠洲鉢の小片が 1 点出土した。

286 号井戸 (SE286, 第 46・57 図, 図版 41・54)

中区東寄りに位置する。平面形は、不整形を呈す。長径 1.75m、短径 1.20m、深さ 1.26m、井戸底の標高 4.57m を測る。埋土は、黒褐色粘土質シルトである。底部には、曲物を据えたと思われる地山の浅い窪みがみられる。遺物は、中世土師器 (132)、珠洲甕が出土した。132 は非ロクロ成形の丸底の皿で、外面は口縁端部のみの幅の狭いヨコナデ、底部にかけてはユビオサエで器面調整する。内面は右回りのナデ抜きである。内面全面と外面口縁部にススが附着する。

287 号井戸 (SE287, 第 46 図)

中区東寄りに位置する。平面形は円形を呈す。直径 1.25m、深さ 1.37m、井戸底の標高 4.42m を測る。埋土は、4 層に分層できる。最下層に他の井戸と同じ黒褐色粘土質シルトが堆積する。黒褐色粘土質シルトの上層は、にぶい黄褐色～灰黄褐色粘土質シルトで地山層に近似しており、井戸廃絶後に埋め戻された土と思われる。底部には、曲物を据えたと思われる地山の浅い窪みがみられる。切り合いでは、SD204 より古く、SE212 より新しい。出土遺物は無い。

303 号井戸 (SE303, 第 47 図, 図版 42)

中東区に位置する。西側は、調査区外になる。平面形は、隅丸方形を呈す。一辺 0.85m、深さ 1.17m、井戸底の標高 4.37m を測る。埋土は、上層に黒褐色粘土質シルト、下層に黒色粘土が堆積する。黒色粘土からは多数の草本植物遺体を検出した。出土遺物は無い。

304 号井戸 (SE304, 第 47 図, 図版 42)

中東区に位置する。西側は、調査区外になる。平面形は、隅丸方形を呈す。一辺 0.79m、深さ 0.93m、井戸底の標高 4.60m を測る。埋土は、上層に黒色粘土、下層に黒褐色粘土が堆積する。遺物は、土師器甕、須恵器甕、珠洲鉢の小片が出土した。

318 号井戸 (SE318, 第 47・57 図, 図版 48)

東区に位置する。平面形は、不整形を呈す。長軸 2.94m、短軸 1.42m、深さ 0.85m、井戸底の標高 4.85m を測る。埋土は、上下の 2 層に分層されるが、黒褐色シルトを基調としている。平面形から他の機能を持った土坑とも考えられるが、当該地区で検出した SE323、SE325 の井戸底の標高と同じ 4m 代であることから井戸として扱った。遺物は土師器、須恵器 (133) が出土した。133 は瓶類の口縁部で、口縁部は外反し端部を丸く収める。

323 号井戸 (SE323, 第 47 図, 図版 42)

東区に位置する。平面形は、円形を呈す。直径 1.36m、深さ 1.50m、井戸底の標高 4.32m を測る。上面は SD317 と重複し、SE323 が古い。埋土は、黒褐色粘土質シルトである。底には、幅 0.45m、高さ 0.28m の窪みがあり、地山に据えた曲物の痕跡と考えられる。出土遺物は無い。

325 号井戸 (SE325, 第 47 図, 図版 42)

調査区の最も東に位置する。調査区の排水溝で確認され、直上は、圍場整備に伴う盛土層に覆われる。平面形は、方形とみられるが井戸の掘方を確認できなかったので不明。縦板組井戸と思われる。縦板は、地山にわずかに刺さったような状態で、保存状態も悪かった。水溜の曲物は、地山に押し込まれるように据えられており、曲物を据えるための掘方は無い。曲物底の標高は 4.50m を測る。曲物は、直径 42 cm、高さ約 40 cm であったが残存状態が悪く、取り上げる事ができなかった。遺物は他に、土師器、須恵器の小破片が各 1 点と、曲物内中程からモモ核が出土した。モモ核の放射性炭素年代は 14

世紀前半～15世紀前半である。また、曲物内の埋土を試料として花粉分析・珪藻分析を行った。その結果、ソバ属、キュウリ属、アブラナ科等の畑が周囲に分布していたと推定された。

E 土 坑

135号土坑 (SK135, 第48・57図, 図版44・46・47)

中区中央に位置する。Y50ライン付近に集中する土坑のひとつ。長径1.80m, 短径1.45m, 0.56mを測る。平面形は楕円形を呈す。埋土は、灰黄褐色粘土質シルト・褐灰色粘土質シルトである。古代の須恵器が出土しているが、付近に集中する土坑と同じ埋土であることから、土坑の時期は、中世以降とみられる。土取穴か。遺物は、須恵器(134・135)が出土した。134は杯で、底部はヘラ切り後高台が貼り付けられる。135は蓋で、全面ロクロナデを施し、頂部に「S」字状の墨書がある。

136号土坑 (SK136, 第48図, 図版44)

中区中央に位置する。長径1.85m, 短径1.05m, 深さ0.45mを測る。平面形は楕円形を呈す。SK135と同様の土坑である。埋土は灰黄褐色粘土質シルトである。出土遺物は無い。

163号土坑 (SK163, 第48図, 図版44)

中区中央に位置する。20基以上の土坑の集まり。埋土は、SK135・136と同じく灰黄褐色粘土質シルトを基調とし、平面での重複関係の判断はできなかった。Y50ライン付近に集中する土坑群は同様の性格を持ち、いわゆる土取穴とみられる。遺物は、土師器甕、瀬戸美濃碗が出土した。

200号土坑 (SK200, 第45・57図, 図版41・46・48・53)

中区中央北側に位置する。長軸5.03m, 短軸4.47m, 深さ0.56mを測る。不整形な平面形を呈し、底部は平坦である。埋土は、黒褐色粘土質シルトを基調とし、最下層に薄く黒色粘土が堆積する。SE225, SE252と重複し、SK200が古い。遺物は、土師器、須恵器(136・138)、珠洲(137)が出土した。土師器は碗・甕、須恵器には図示したほかに杯・壺、珠洲には壺がある。136は擬宝珠状のつまみがつく蓋で、内面及び外面頂部はロクロナデ、外面下方は回転ヘラズリを施す。137は口縁端部を嚙状に挽き出す甕で、I期のもの。138は口縁部が外屈しやや垂下する甕。

259号土坑 (SK259, 第48・57図, 図版52・53)

中区東側に位置する。長軸0.80m, 短軸0.75m, 深さ0.46mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、底部は平坦である。埋土は、黒褐色粘土質シルトである。東側で浅い土坑SK258と重複し、SK258が新しい。遺物は、珠洲(139・140)が出土している。図示したほかに壺がある。139は甕で外面上半は平行タタキ、下半はロクロナデで、底部は静止糸切りである。140は鉢で外傾する口縁端部がやや拡張する。

270号土坑 (SK270, 第48・57図, 図版44・51)

中区東側に位置する。長径0.74m, 短径0.62m, 深さ0.29mを測る。平面形は円形を呈し、底部は平坦である。埋土は黒褐色粘土質シルトである。遺物は、底部よりやや浮いた位置から土師器(141)が完形で1点出土した。付近に古代の遺構がなく単発的であるので中世の遺構に含めたが、古代の可能性もある。141は碗で体部はロクロナデ、底部は回転糸切りである。

285号土坑 (SK285, 図43・57, 図版46・50・52)

中区中央に位置する。長径3.60m, 短径3.07m, 深さ0.25mを測る。不整形な平面形を呈し、底部は凹凸がある。埋土は、灰黄褐色粘土質シルトである。遺物は、土師器(143)、珠洲(144・145)、平瓦(142)が出土した。図示したほかに土師器は碗、珠洲は甕がある。142は平瓦で凹面は布目、凸面は縄タタキで雫砂が多量に付着する。143は甕で口縁端部を内側に巻き込み、内面に段がつく。144・145は口縁部端面が外傾する鉢で、I～II期のもの。

305号土坑 (S K 305, 図43・57, 図版55)

中東区に位置する。最大長 3.90m, 深さ 0.27m を測る。不整形な平面形を呈し、底部は凹凸がある。埋土は、黒褐色粘土質シルトである。S K 306 と重複し、S K 305 が新しい。遺物は、珠洲甕、砥石 (146) が出土した。146 は3面が砥面として使用され、表面は剥離している。石材は流紋岩。

322号土坑 (S K 322, 第48・57図, 図版47)

東区南側に位置する。直径 1.38m, 深さ 0.40m を測る。南側は調査区外であるが、平面形は円形とみられ、底部は平坦である。埋土は黒褐色粘土質シルトである。古代の土器だけが出土するが、埋土の共通性から中世の土坑とみられる。遺物は土師器、須恵器 (147) が出土した。土師器は甕、須恵器は図示したほかに壺がある。147 は杯で底部へラ切りである。

(3) 近世

近世の遺構は、調査区の西側を中心に検出した。溝および溝に伴うとみられる杭列があり、これらは、近世の水田等の区画に伴うものとみられる。ここでは、主要な遺構のみ説明する。

A 溝

1号溝 (S D 1, 第50図)

西区北側に位置する。S D 2 に平行する溝。幅 0.40m, 深さ 0.14m を測る。埋土は、灰黄褐色粘土質シルトである。遺物は、珠洲鉢が1点出土した。

2号溝 (S D 2, 第50・58図, 図版45・55)

西区北側から中区に位置する。北北西から東南東方向の溝。調査区の西端では、幅 0.80 ~ 1.30m, 深さ 0.35m で、東側で幅が広がる。埋土は、灰黄褐色粘土質シルトで、下部に砂が混入する。中区の X30 Y40 付近から溝内には杭が不規則に並ぶ。西区では、南側で検出した溝、S D 3 と並列するが、中区では S D 2 が北向きに開く事から別の溝の可能性もある。遺物は、須恵器、中世土師器、珠洲、唐津 (151)、伊万里 (148 ~ 150)、近現代の陶磁器、骨が出土した。骨は焼骨の小片で、ヒト頭部のほかに砕けて種類不明のものが数点ある²²。148 は網目文の染付椀。149 は筒型椀で見込みにコンニャク印判がある。壺付は露胎である。150 は染付皿で、蛇の目軸剥ぎする。151 は鉄軸を施軸した三島手で、内面に白泥による刷毛目と唐草文の意匠がある。

3号溝 (S D 3, 第50図, 図版45)

西区北側から中区に位置する。北北西から東南東に延びる溝。幅 0.43 ~ 1.30m, 深さ 0.04 ~ 0.20m を測る。直線的に東に延び、約 38m にわたり検出した。埋土は、黒褐色砂質シルトである。西区では、S D 2 と並列するが、中区では、S D 2 が北寄りに向きを変えるため並列したようには見えない。遺物は、S D 4 との合流部でまとも出土した。土師器、須恵器、珠洲、唐津、伊万里、木製品、棒状の金属製品が出土した。木製品は一部深くなる穴 (K1) から板・杭等が重なって出土した。

4号溝 (S D 4, 第50・58図, 図版45・47・52・55)

西区中央に位置する。S D 3 から直角に南西方向に直線的に伸びる溝。約 55m にわたり検出した。幅 0.52 ~ 0.95m, 深さ 0.09 ~ 0.18m を測る。埋土は、灰黄褐色粘土質シルトである。この S D 4 に直行する溝に S D 104・S D 113 がある。遺物は、須恵器 (153 ~ 156)、土師器、中世土師器 (157)、青磁、珠洲 (158・159)、越中瀬戸 (160)、伊万里 (161)、近代陶磁器、硯 (152)、蹄鉄が出土した。

152 は硯で、石材は凝灰岩シルトである。153~156 は須恵器杯で、底部はへら切り、154~156 は高台を貼り付ける。153・154 は体部がやや開き気味に立ち上がる。155・156 は底部から体部への立ち上が

りが角張り、高台はやや内側につく。157は非ロクロ成形の中世土師器皿で表面は磨滅している。158・159は珠洲播鉢で、158は口縁端部がやや丸みをもって内傾する。159は口縁部端面が外傾し体部は直線的に開く。160は越中瀬戸播鉢で、鉄軸を施し卸目を密に施入する。底部は回転糸切り。161は伊万里碗で外面に竹と鳥の染付がある。

6号溝(SD6)

西区南側に位置する。北東から南西方向にやや湾曲して伸びる溝。約50mにわたり検出した。幅0.56～1.28m、深さ0.05～0.25m、埋土は、灰黄褐色粘土質シルトで下層は細砂が堆積する。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、越中瀬戸、伊万里、剥片が出土した。

B 杭列

1号杭列(SA1, 第50図, 図版45)

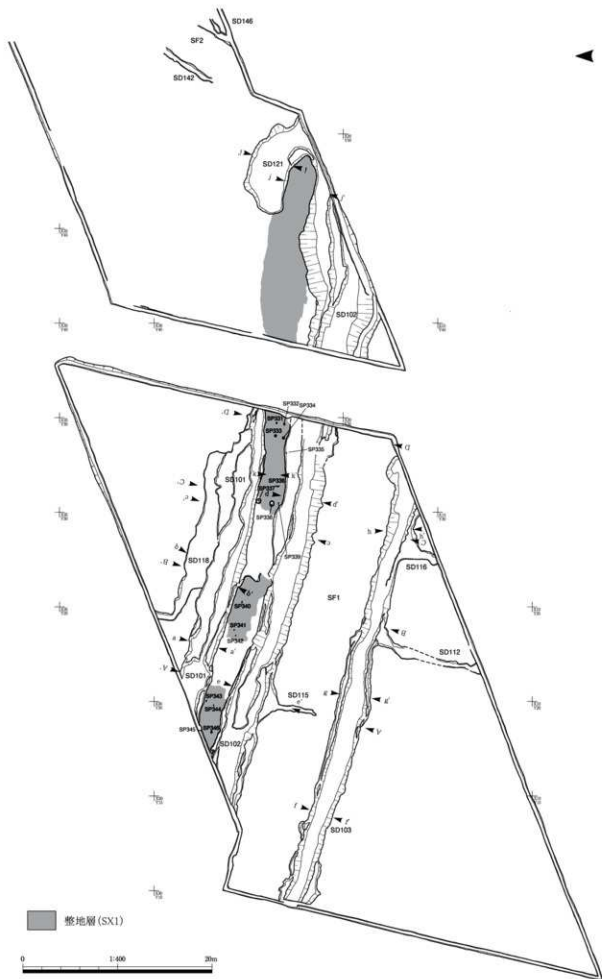
西区北側に位置する。X30Y37付近から西側のSD2・SD3間に位置する。溝の中心間で1.85mの距離を測り、中央部に約4.5mにわたって不規則に並ぶ直径0.05～0.15mの杭痕とみられる穴を66基検出した。

(4) 包含層出土の遺物(第58図, 図版48・53～55)

包含層出土の遺物には、須恵器(162・163)、中世土師器(164・165)、珠洲(166～169)、青磁(170・171)、越中瀬戸(172～174)、唐津(175・176)、伊万里(177・178)、瓦質土器(179)等がある。

162は須恵器長頸瓶で全面ロクロナデである。163は須恵器甕で口縁外面に凸帯を貼り付け、波状文を施す。8～9世紀のもの。164・165は非ロクロ成形の中世土師器皿で、口縁部はヨコナデ、外面は無調整である。165は口縁部にススが附着する。13～14世紀のもの。166～169は珠洲壺で、167・168はブリッジ状の耳がつく。I期のもの。166・168は肩部に波状文を施し、166は頸部直下にヘラによる刻文があるが、欠損のため意匠は不明である。169は静止糸切りで板状圧痕がある。170は龍泉窯系の青磁後花皿で、15世紀のもの。171は龍泉窯系の青磁碗で見込みに圏線と花文の印刻がある。やや肉厚の削り出し高台で、高台畳付より内側は軸を剥ぎ取る。13世紀中頃～14世紀初頭のもの。172は越中瀬戸乗燭か。灯芯立てには透かしが入る。底部は回転糸切りで穿孔がある。体部には光沢のある鉄軸がかかり、底部は露胎である。173・174は越中瀬戸皿で174は見込みに菊の印花があり174には軸止めの段がある。灰軸を施し、見込みと外面下半は露胎である。17世紀のもの。175・176は刷毛目唐津皿。175は口縁部が外反し内面上端は溝状にくぼむ。176は削り出し高台で、高台部は露胎であり外周に砂が附着する。17世紀後半～18世紀のもの。177は伊万里の紅皿。内面と口縁部は白磁軸を施し、外面は露胎である。19世紀初頭～幕末のもの。178は伊万里瓶類で、外面に染付がある。17世紀のもの。179は瓦質土器火鉢で、口縁部外面の突帯下に格子目状の菱文が押捺される。16世紀のもの。

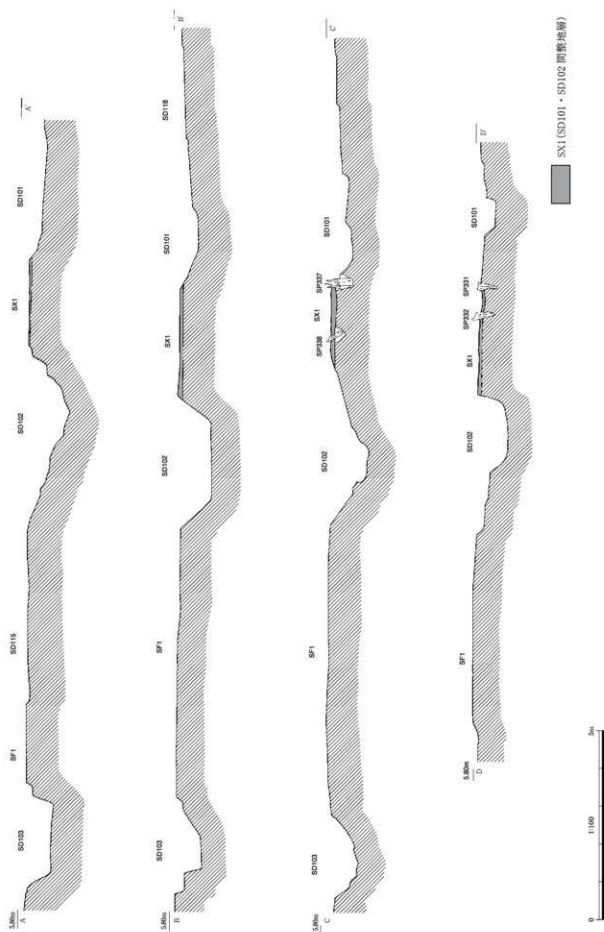
(菅田 薫・越前慎子)



第34図 赤井南遺跡 古代遺構全体図 (1:400)



第35図 赤井南遺跡 古代遺構全体図 (1:400)



第36図 赤井南遺跡 遺構実測図

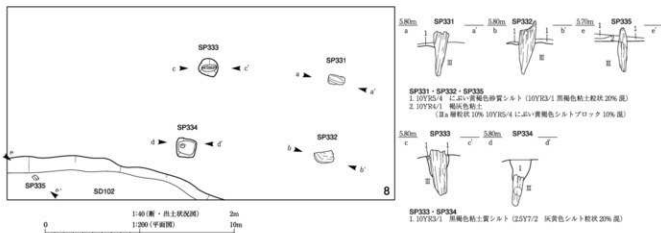
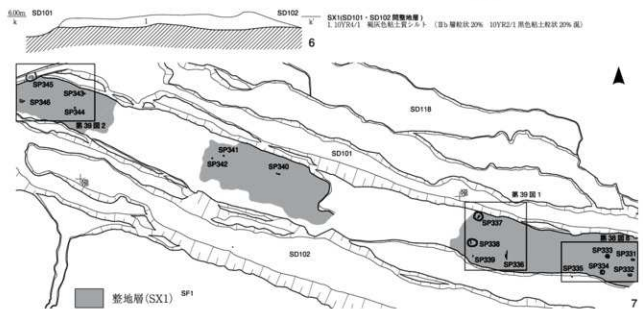
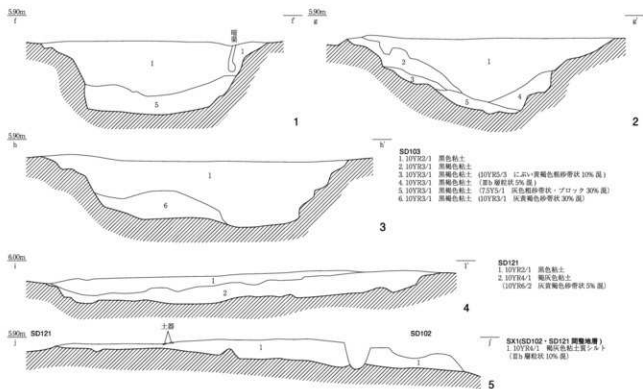
SF1 SD101～SD103・SD115・SD118・SX1・SP331・SP332・SP337・SP338



第 37 図 赤井南遺跡 遺構実測図

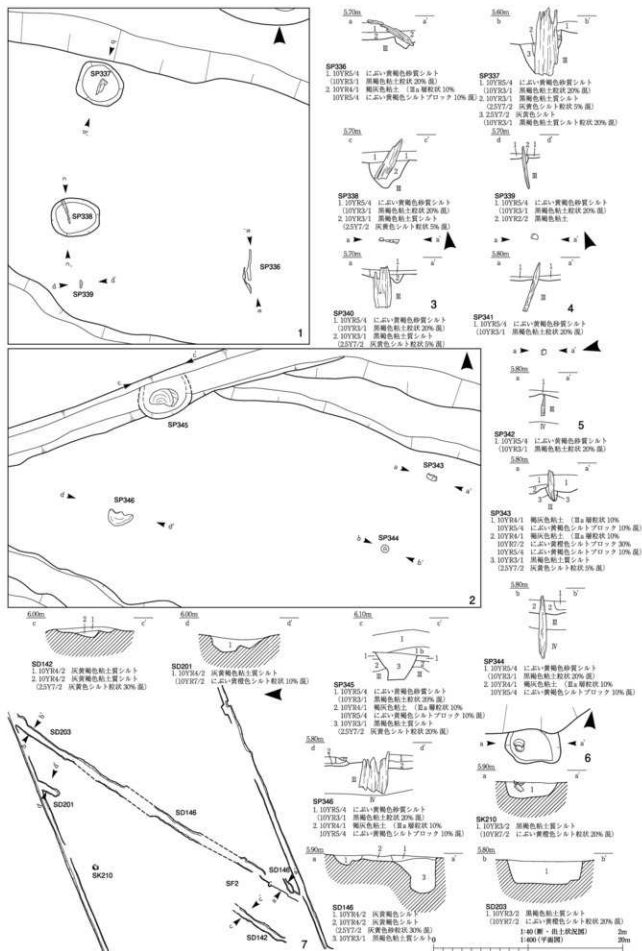
1. SD101 2. SD101・SD118 3. SD101・SD102・SD118 4. SD102 5. SD102・SD115

3 遺構・遺物



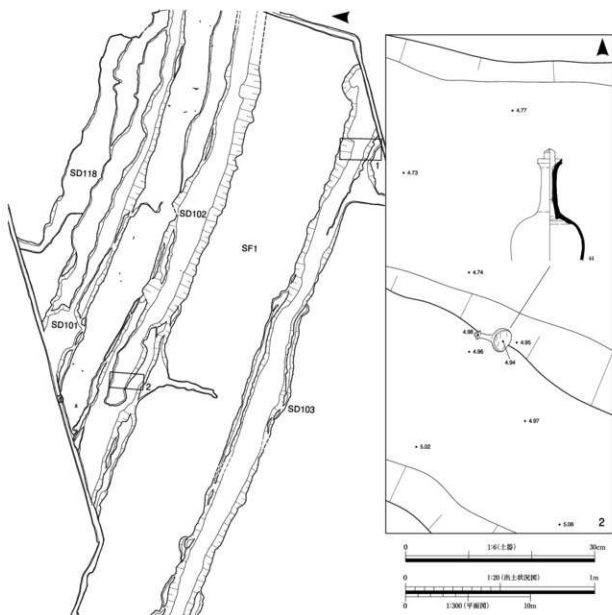
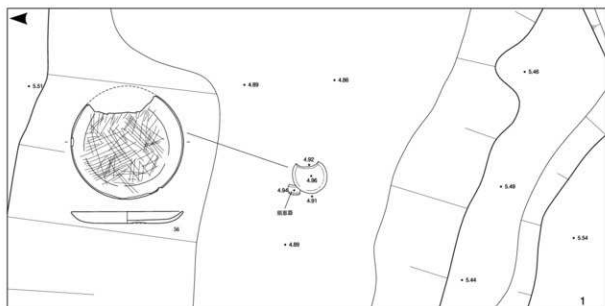
第38図 赤井南遺跡 遺構実測図

1~3. SD103 4. SD121 5. SX1(SD102-SD121 間柱地層) 6. SX1(SD101-SD102 間柱地層)
 7. SD101-SD102 間柱杭列 8. SP331・SP332・SP333・SP334・SP335

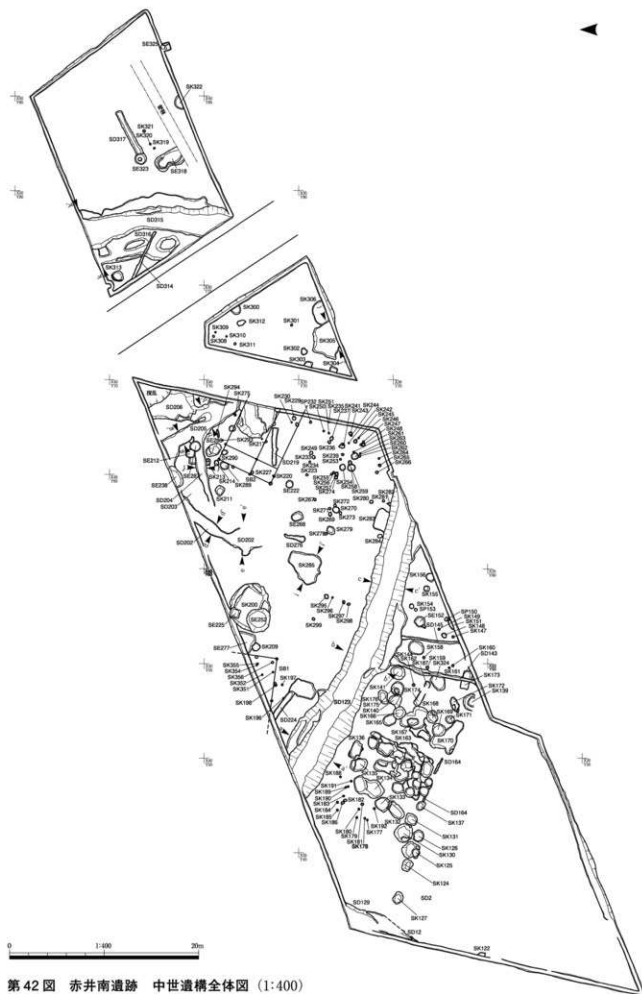


第 39 図 赤井南遺跡 遺構実測図

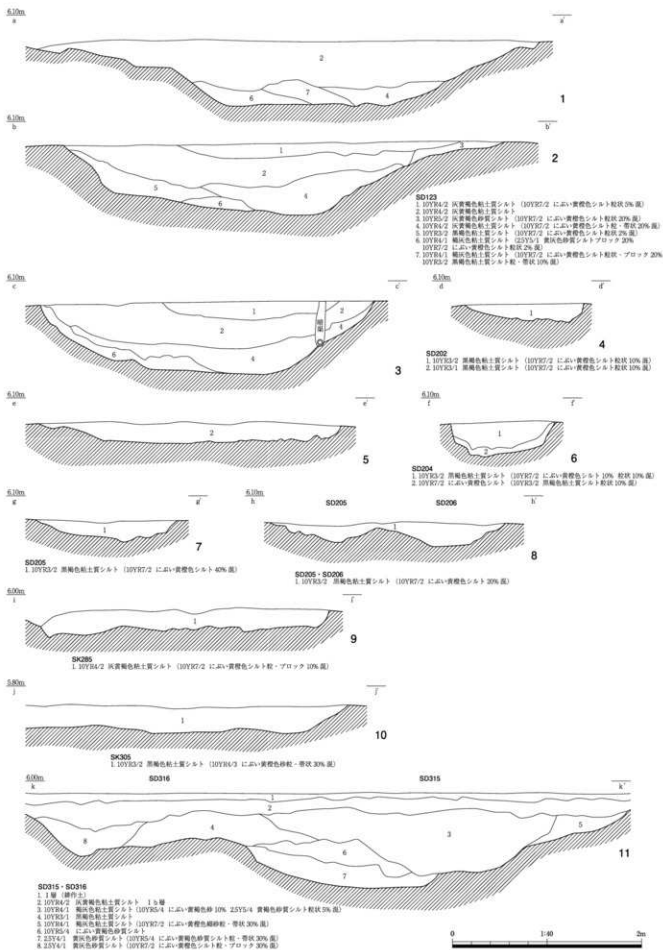
1. SP336 ~ SP339 2. SP343 ~ SP346 3. SP340 4. SP341 5. SP342 6. SK210
 7. SD142・SD146・SD201・SD203・SF2



第40図 赤井南遺跡 古代遺構実測図
SD102 出土状況・SD103 出土状況

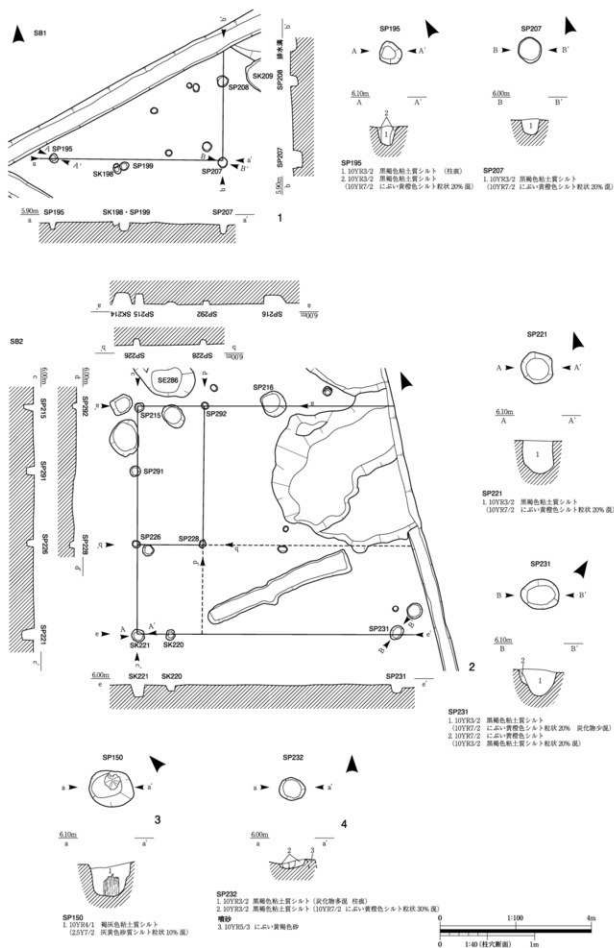


第42図 赤井南遺跡 中世遺構全体図 (1:400)



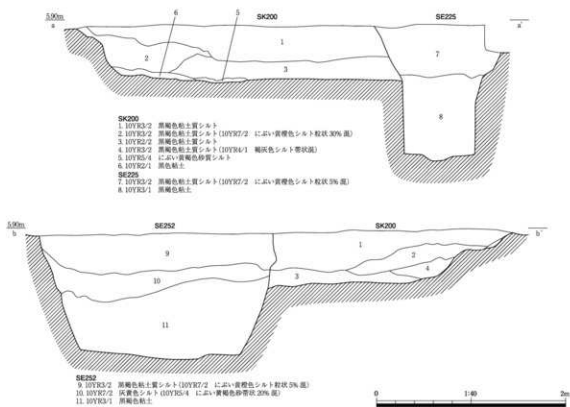
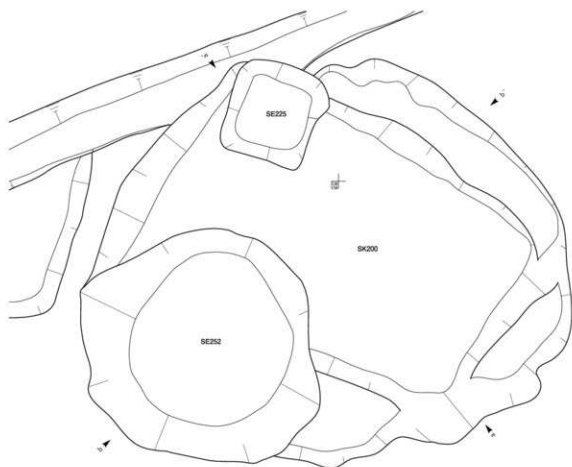
第 43 図 赤井南遺跡 中世遺構実測図

1-3. SD123 4・5. SD202 6. SD204 7. SD205 8. SD205・SD206 9. SK285 10. SK305
11. SD315・SD316

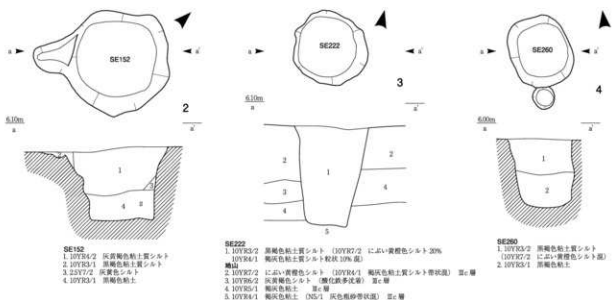
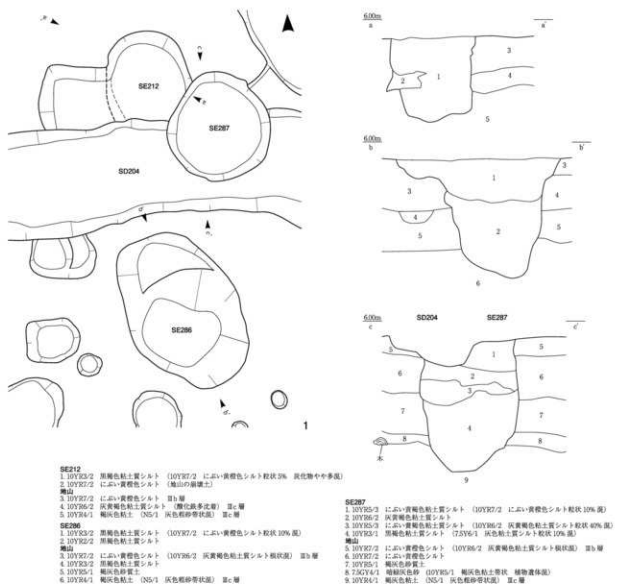


第44図 赤井南遺跡 中世遺構実測図

1. SB1 2. SB2 3. SP150 4. SP232

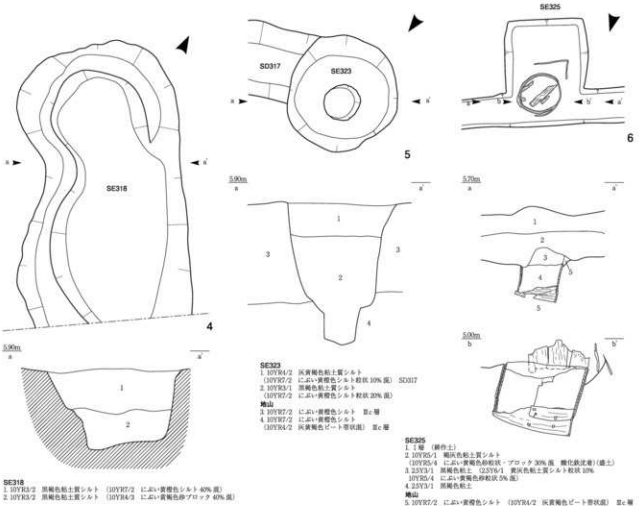
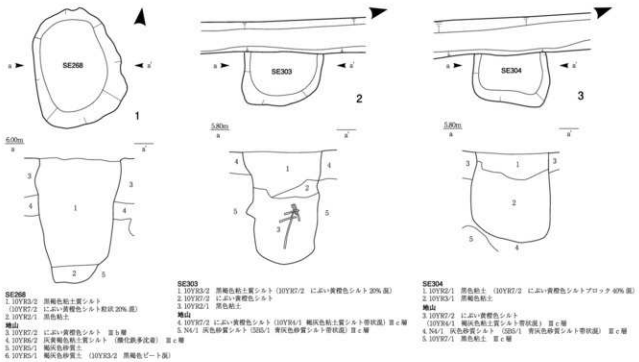


第 45 図 赤井南遺跡 中世遺構実測図
 SK200・SE225・SE252



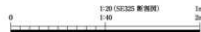
第46図 赤井南遺跡 中世遺構実測図

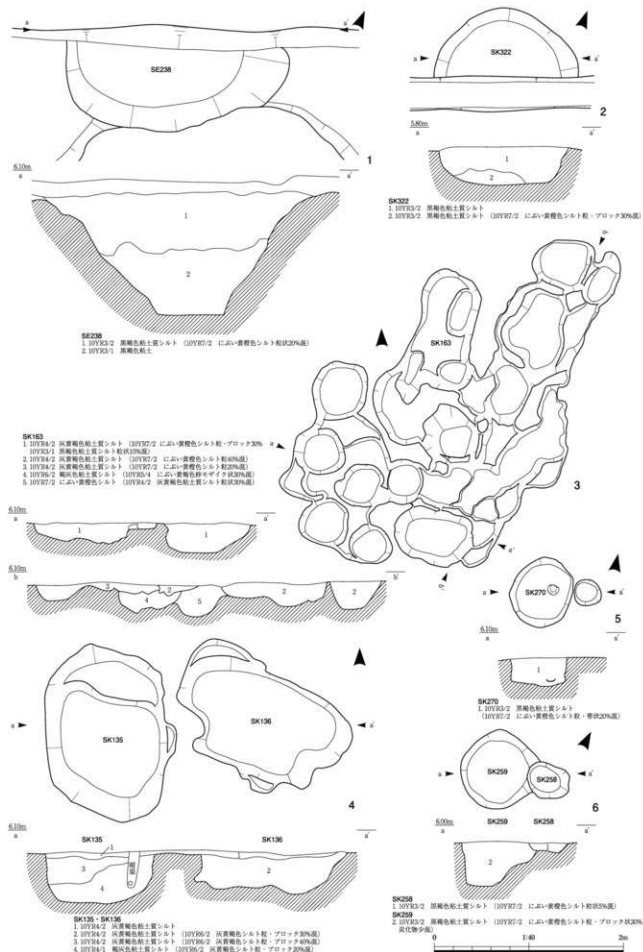
1. SE212・SE286・SE287 2. SE152 3. SE222 4. SE260



第 47 図 赤井南遺跡 中世遺構実測図

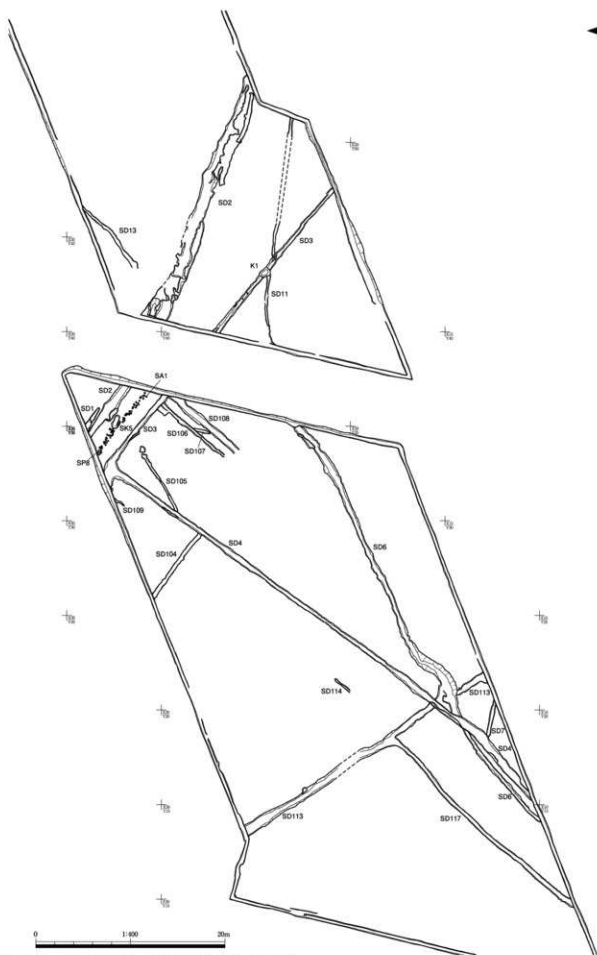
1. SE268 2. SE303 3. SE304 4. SE318 5. SE323 6. SE325



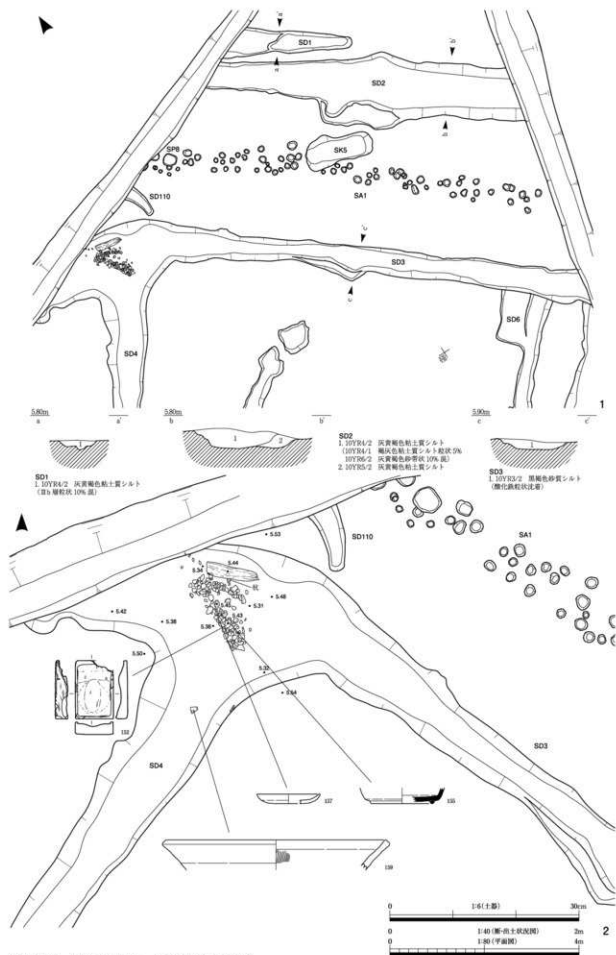


第48図 赤井南遺跡 中世遺構実測図

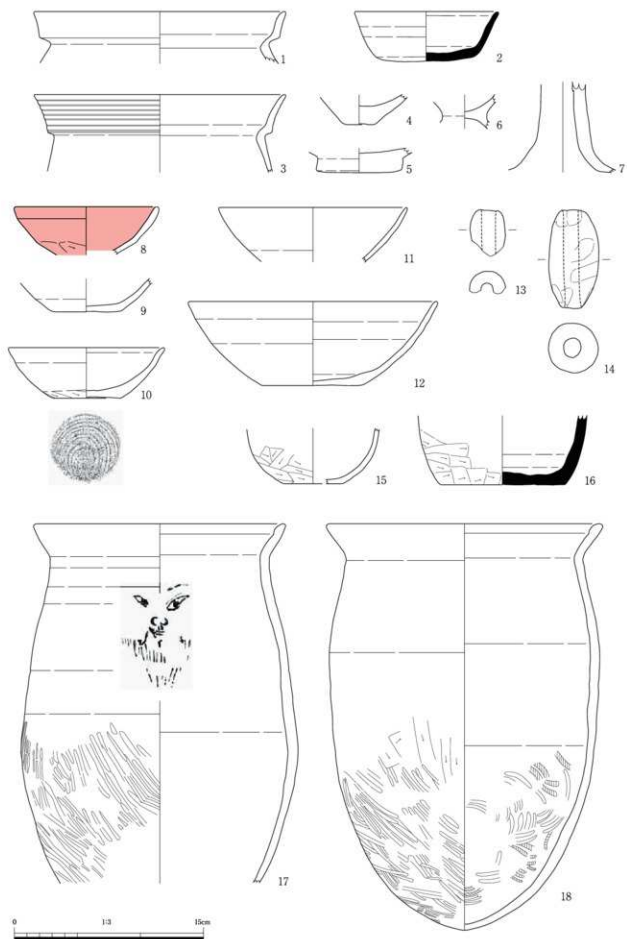
1. SE238 2. SK322 3. SK163 4. SK135・SK136 5. SK270 6. SK258・SK259



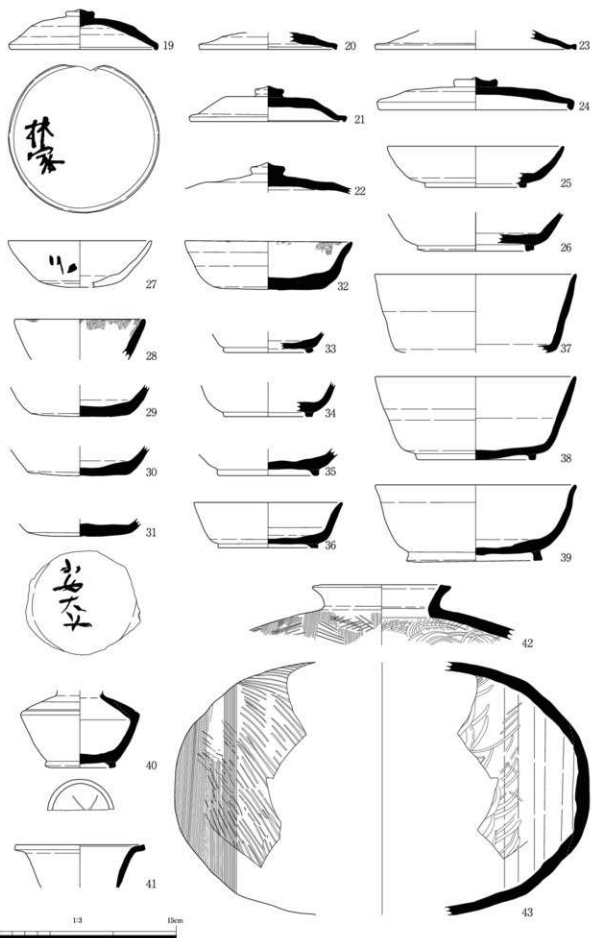
第49図 赤井南遺跡 近世遺構全体図 (1:400)



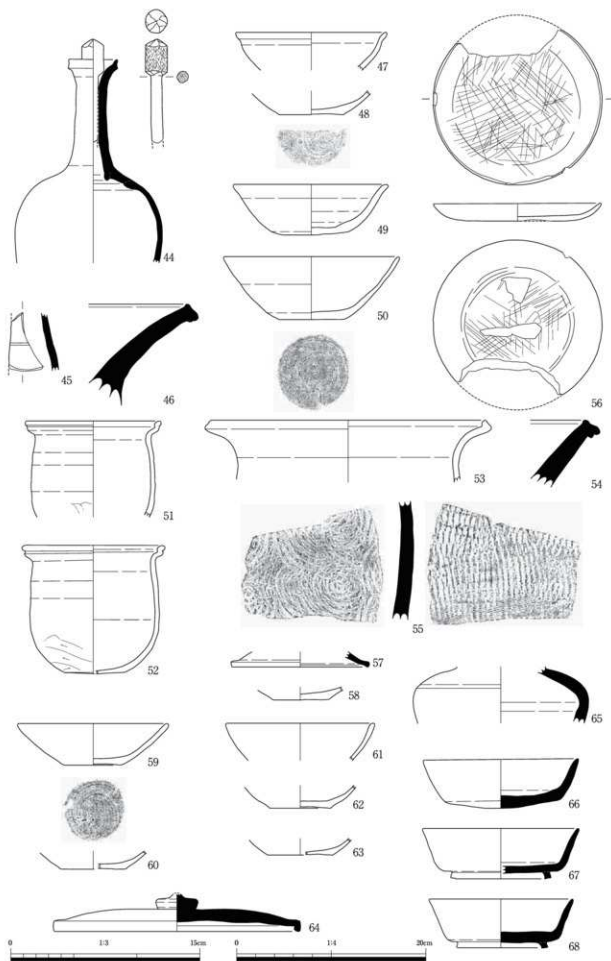
第50図 赤井南遺跡 近世遺構実測図
1. SA1・SD1・SD2・SD3 2. SD3・SD4 出土状況



第51図 赤井南遺跡 遺物実測図 (1/3)
SD101(1・2) SD102(3~18)

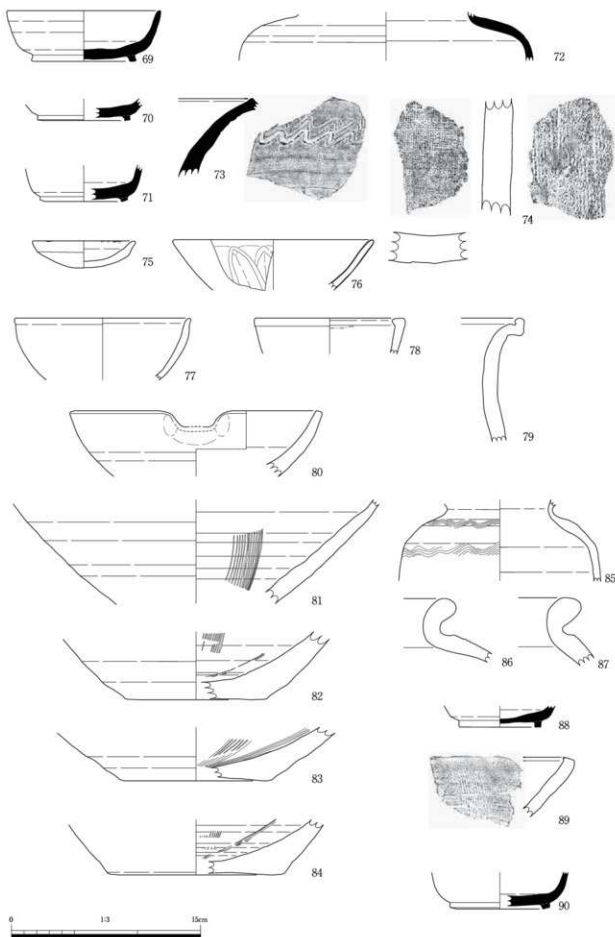


第52図 赤井南遺跡 遺物実測図 (1/3)
SD102(19~43)

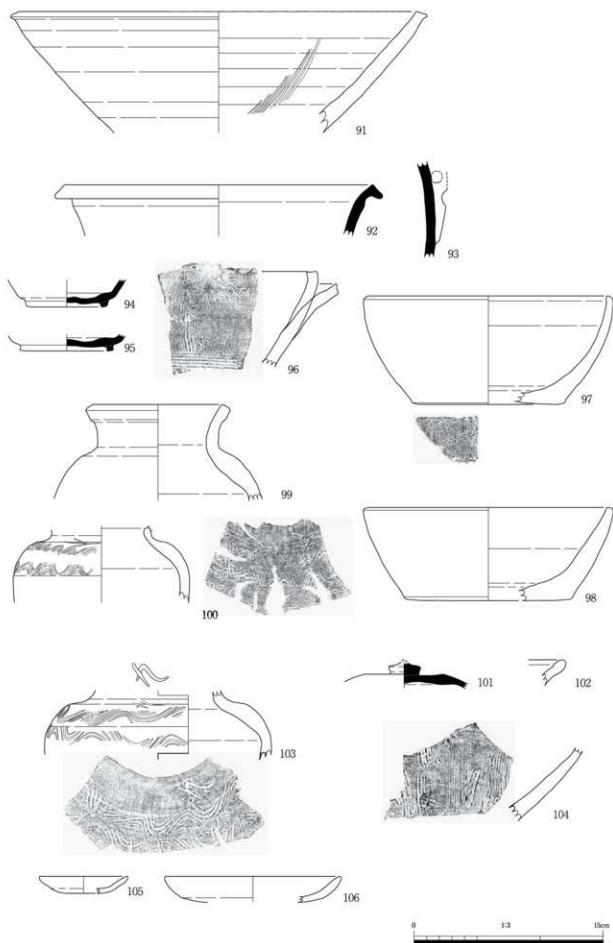


第53図 赤井南遺跡 遺物実測図 (44~55・57~68 1/3, 56 1/4)

SD102(44~46) SD103(47~56) SD121(57・58) SX1(59~63) SD146(64) SD203(65)
SK210(66~68)

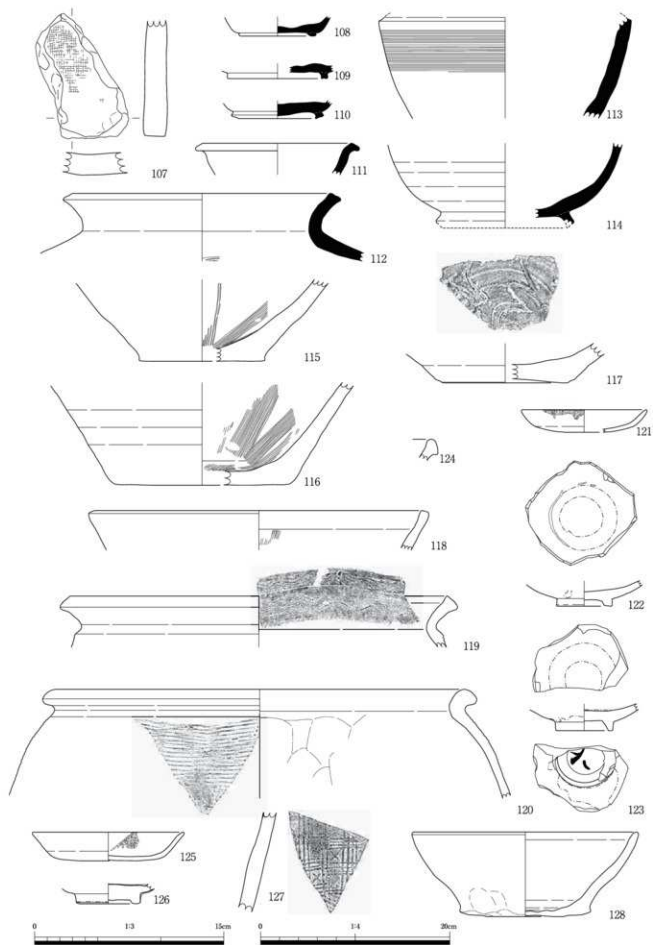


第54図 赤井南遺跡 遺物実測図 (1/3)
SD123(69～87) SD129(88・89) SD143(90)

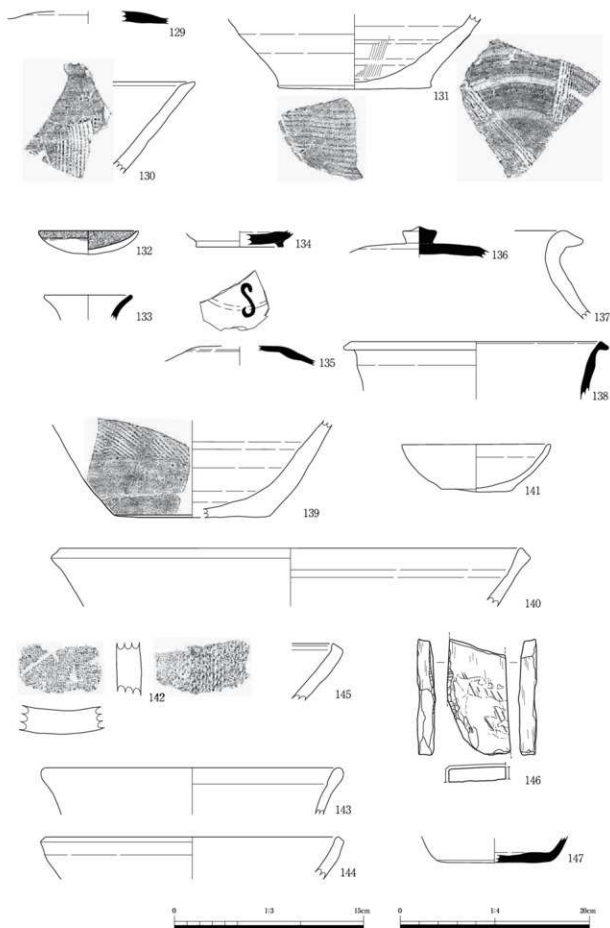


第55図 赤井南遺跡 遺物実測図 (1/3)

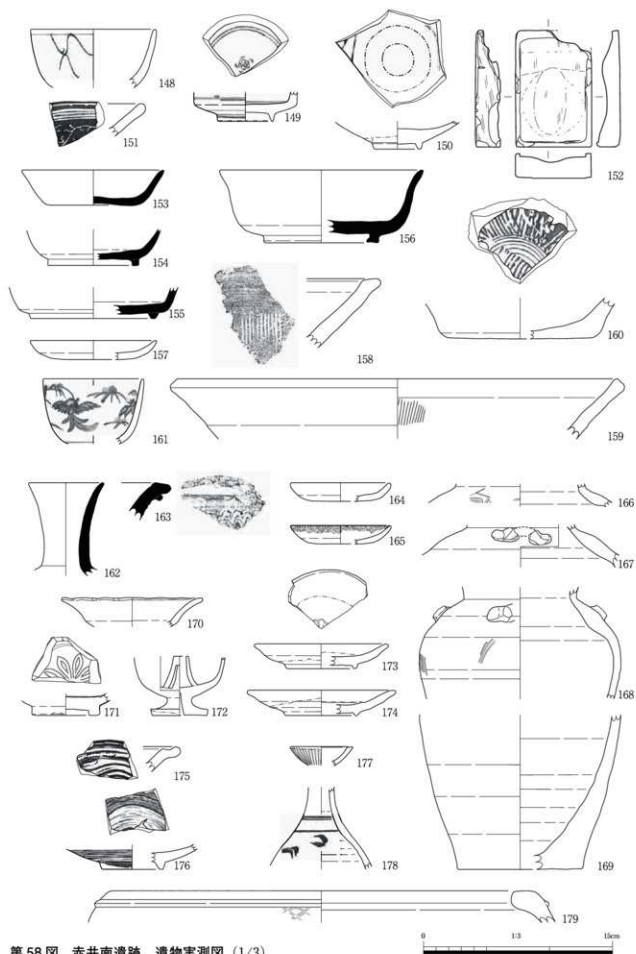
SD202(91) SD204(92・93) SD205(94～100) SD206(101～106)



第56図 赤井南遺跡 遺物実測図 (107~117・121~128 1/3, 118~120 1/4)
SD315(107~124) SD316(125~128)



第57図 赤井南遺跡 遺物実測図 (129~137・139~147 1/3, 138 1/4)
 SE212(129) SE238(130・131) SE286(132) SE318(133) SK135(134・135) SK200(136~138)
 SK259(139・140) SK270(141) SK285(142~145) SK305(146) SK322(147)



第58図 赤井南遺跡 遺物実測図 (1/3)
SD2(148～151) SD4(152～161)

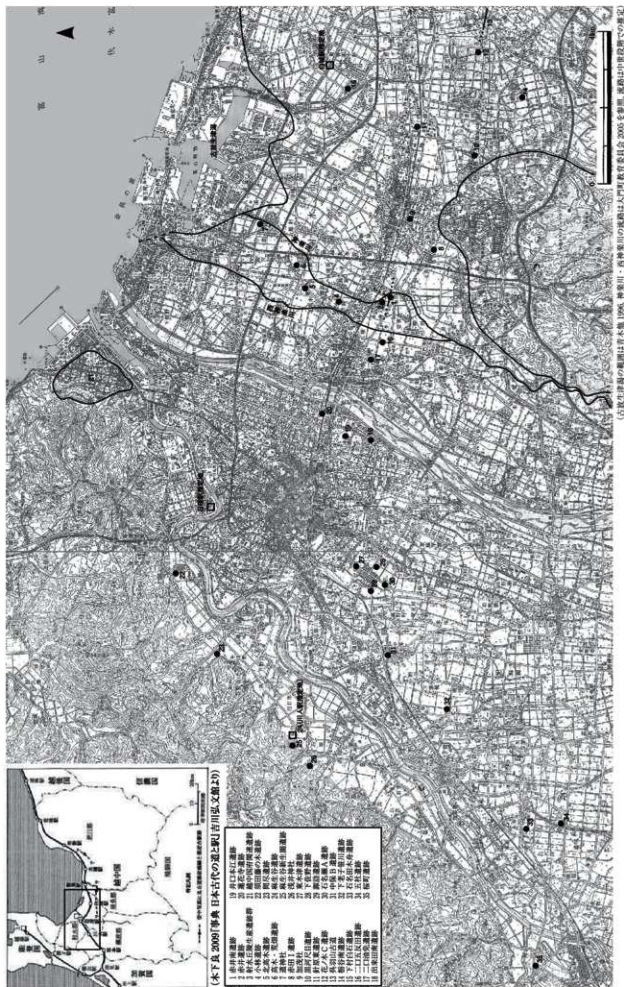
4 総括

赤井南遺跡では古代（8世紀後半～9世紀）の道路、柱と杭列を伴う整地遺構、溝、土坑、中世（12～16世紀）の獨立柱建物、溝、井戸、土坑からなる集落跡、近世（17世紀以降）の溝が検出された。特に古代の道路は、交通史研究において駅路とされている大型道路の規格に並ぶものであり、不確定な要素が多い越中の古代北陸道を考える上で看過できない事例のひとつといえる。また、その側溝からは寺院や祭祀に関連するとみられる特殊な遺物が出土しており、側溝に併設された柱と杭列を伴う整地遺構も重要な遺構と考えられる。ここでは主にそれら古代の遺構の性格についての考察と、中世以降の遺構の変遷を述べて総括としたい。

（1）古代道路（第16表・第59図）

赤井南遺跡では2条の道路SF1・SF2を検出した。両者とも平行する2本の溝を側溝とみなして道路と考えており、路面の整地、硬化面などはみられなかった。SF1はほぼ東西方向、SF2はほぼ南北方向の直線道路で、遺物から同時期の道路とみなされ、交差していたと考えられるが、交差点の位置は調査区外に当たるため実際の交差点の状態は未確認である。しかし交差点に近い調査区南端では、SF1の側溝SD102の肩から続く緩やかな傾斜面の上を盛土整地しており、整地上面で土師器碗を使用した土器祭祀が行われている。

SF1は路面幅約7～8mで、側溝の中心間の距離では約11mを測る。県内で発掘された道路遺構の幅としては最大級のものであり、五畿七道の北陸道諸国のうち、古代北陸道の遺構が確認された石川県津幡町加茂遺跡、同金沢市観法寺遺跡、同野々市町三日市A遺跡や、東山道との連絡道の可能性があるとされる新潟県上越市今池遺跡、子安遺跡の道路幅とほぼ同規格である。加茂遺跡では、路面幅が8世紀段階は約9mであったものが9世紀段階には約6mに縮小されることがわかっている。赤井南遺跡のSF1側溝からは8世紀後半から9世紀末の遺物が出土しており、遺物の年代と道路の規格は「延喜式」期以前の奈良時代の駅路の条件に合うといえよう。しかし一方で、富山水橋金広・中馬場遺跡では、道路の方向が延喜式に何える駅路のルートとは異なるものでありながら、8世紀中頃～9世紀後半の間に機能し、古段階に約8～9mであった道路幅が新段階には約5～6mに縮小されると考えられる道路を検出しており、道路幅のみでは古代北陸道と即断できないことを示唆している。そこで、現在古代北陸道の可能性が考えられている遺跡や、延喜式に記載されている駅名の遺称地等から駅家に否定されている場所と²³、赤井南遺跡の位置関係を確認しておきたい。越中国の駅家については「延喜式」兵部省諸国駅伝馬条に坂本・川人・日理・白城・磐瀬・水橋・布施・佐味の8駅がみえる。この内、坂本駅は泉境付近の深見村から俱利伽羅峠を越えた峠下の小矢部市蓮沼付近と推定され、俱利伽羅峠の踏査では約6～7mの掘削平坦面をもつ古道が確認されている。また米軍撮影の空中写真にみえる蓮沼付近から小矢部市街に向かう直線痕跡が地籍図では大字界になることが確認され、これが小矢部市桜町遺跡の道路遺構にはほぼつながることから古代道路痕跡と推定されている。ただし、桜町遺跡の道路遺構の路面幅は加賀国で発見された駅路跡に対して狭いため、奈良時代の駅路が別路であった可能性もあるとされている。川人駅は高岡市福岡町赤丸の「川人明神」とされる式内社の浅井神社付近と推定され、官衛的な遺構・遺物を検出した麻生谷遺跡を川人駅とみる説がある。日理駅は遺称地のうち、能登国に至る道との分岐点に近く中世には守護所が置かれた可能性があるなど、交通の要衝である小矢部川左岸の高岡市守護町渡付近が有力視されている。白城駅は遺称地がなく、射水市白石・同市小杉白石を転化地名とする説がある。白城駅を挟んだ前後の駅路は古放生津湯



第 59 図 越中国北西部に古代北陸道関連遺跡と主要な古代の遺跡 (1:10,000)

の南方を迂回して、射水市作道の道神社付近を通っていたと推定されている。磐瀬以東の駅は海岸沿いの富山市岩瀬・水橋、魚津市布施爪の布施神社、朝日町泊の佐味神社の遺称地付近がそれぞれ推定地とされており、道路遺構と官衛的な遺構・遺物を検出した水橋荒町・辻ヶ堂遺跡を水橋駅とする説があるが、その道路幅も桜町遺跡と同様に奈良時代の駅路としては狭い。以上のように県内では奈良時代の駅路、駅家として確実視される遺構は未だ見つかっていない。赤井南遺跡は小杉町白石より約5 km南西に位置し、延喜式期の推定路線より内陸にあるが、呉羽山丘陵の踏査で約5～13m幅の掘削平坦面をもつ古道が確認されており、海岸部を通る延喜式駅路に対して内陸部を通る旧駅路が存在した可能性が指摘されている。呉羽山古道と赤井南遺跡SF1の道路方向をみると、方向的に無理なくつながる位置関係にあるといえるが、両者を結んで奈良時代の駅路とするかどうかは即断できず、両者間に所在する遺跡等の今後の調査の進展に委ねたい。しかし仮にこのルートを奈良時代の駅路とみると、沿線には木製祭祀具が多数出土した赤田I遺跡、石帯・硯等官衛的な遺物が出土し掘立柱建物の倉庫群が検出された黒河尺目遺跡、瓦が出土した針原東遺跡、約1.5 km南下するが国分寺期の瓦陶兼業窯があり仏教関連遺物が出土した栃谷南遺跡等がある。また小杉流通業務団地内遺跡群や太閤山ランド内遺跡群等古代の生産遺跡が集中する射水丘陵にも近く、国府・郡家が管理する上で利便性がある。西へルートを延ばすと、古代の集落遺跡である二口五反田遺跡、二口油免遺跡等があり、庄川左岸には人面墨書土器・硯・木簡・木製祭祀具等が出土した出来田南遺跡、墨書土器・施釉陶器・硯等が出土した井口本江遺跡、硯等が出土した蓮花寺遺跡がある。このような遺跡の分布からもSF1を古代北陸道とする蓋然性は高いと思われる。

SF2は路面幅約3.5～4mで、側溝の中心間の距離は約4～4.5mを測る。SF1よりは路面幅が狭く側溝も浅いが、県内の一般的な集落道と考えられる道路の規格に比べるとやや幅の広い規格といえる。SF1南側側溝に直交し連結するSD112・116の方向が側溝に対して直角であるのに対し、SF2は北側側溝に対し直角よりやや東にふれることから、前二者がSF1敷設後の土地区画に則して掘られた溝であるのに対し、SF2は既存の集落道をSF1に連結させたものとも推測される。SF2が北へ直進すると仮定すると、約2.5 km先で人面墨書土器・硯・瓦・木簡・版木状木製品・木製祭祀具等が出土した北高木遺跡、高木・荒畑遺跡の東縁に接し、約4 km先で式内社である道神社に行き当たるが、実際にどのようなルートを辿るのかは今後の調査に負うところである。

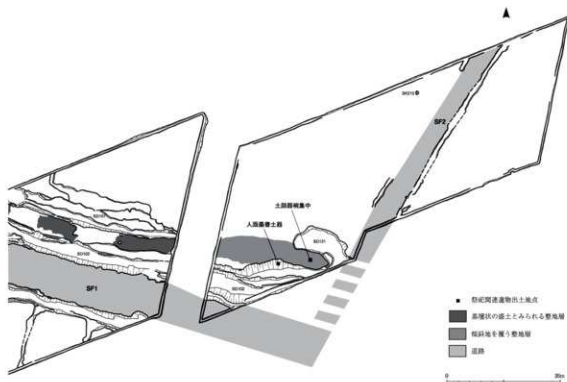
次に、古代道路と道路側溝に関する祭祀の状況について整理しておきたい。SF1の側溝であるSD102は、西区ではほぼ逆台形状の断面を呈し直線的に延びているが、中区南東端では北側の肩が緩やかに広がる。溝の深さはあまり変化しないが肩が広がることにより法面の傾斜は緩やかになっている。また、浅い落ち込み状の溝SD121が派生しており、SD102との間は盛土整地がなされる。整地はSD102とSD121の分岐点に向かって緩やかに傾斜する地山を覆っており、SD102の肩口が最も厚く約28 cmの堆積がみられる。整地層上面では少なくとも5個体以上の土師器碗が破砕した状態で集中して出土しており、祭祀の跡と考えられる。掘り込みはないが、整地層にややめり込んだ状態のものもある。土師器は9世紀末頃のもので道路側溝の遺物の中では最も新しい時期のものであり、道路が使用された最終段階の遺物と推測される。

ここで、道路に側溝が付随する目的について考えてみると、路面の排水、管理のための敷地境界の明示の他に、大型の側溝を備える駅路では軍事面での防御、農民の逃亡の防止等が挙げられるが、一覽表に挙げた遺跡をみても、当遺跡のSF1ほど深く幅広い側溝はあまりみられない。当遺跡においてこのような側溝を開削した目的の一つとして、調査区の北東側に接する神楽川から取水して物資を

運ぶ運河として利用した可能性が考えられ、自然科学分析の結果からも側溝内は灌水した状態であったと推測される。側溝の埋土の状況を見ると、最下層に砂の帯状の堆積が見られるものの、ほとんどが黒褐色の粘土の堆積であり、流れがあまり無い淀んだ状態と推測され、側溝が使用されなくなった後の埋没過程は自然に湿地化したかあるいは水田化されたものと考えられる。整地上面での遺物は上層にも10世紀以降のものが無く、調査区に再び掘立柱建物等の遺構が出現するのは12世紀後半以降であることから、10世紀以降には側溝は埋没し、集落的な営みも一旦途絶えるようである。整地上面での土師器碗の祭祀が行われた地点より約6m西のSD102の肩の落ち際では人面墨書土器が出土している。人面墨書土器は溝や河川等の水辺に流すことによって罪穢れを祓う祭祀具と考えられていることから、側溝には水が湛えられていた可能性が高い。人面墨書土器は土師器甕で、土師器碗と同様の9世紀末頃のものと考えられ、同時に行った祭祀の可能性もある。また、人面墨書土器が出土した付近の側溝内では、その他にも「林家」墨書土器等の須恵器・土師器が、多くは肩口の斜面に張り付いた状態で出土しているが、祭祀に関わるものかどうかは不明である。

再びSD102・SD121付近の祭祀について推論を加えると、土師器碗や人面墨書土器による祭祀が行われた場所はSF1とSF2の交差点の北西隅にあたるといえる。この道路の交差点付近の祭祀は「延喜式」に記載されている「道饗祭」のように、道路が分岐する「衢」において祭祀を行い、鬼魅の進入を阻止する祭祀の可能性が高い。『続日本紀』天平7(735)年8月12日条には、太宰府管轄内で疫病が流行したため山陽道を中心とする諸国司に道饗祭を行うよう国が通達した記事がある。発掘調査例では、奈良時代から平安前期の主に都城において、道路の交差点で人形・人面墨書土器等の律令祭祀遺物を用いた祭祀が行われており、祭祀遺構は8世紀を中心として9世紀中頃まで検出されている¹⁴。また、『本朝世紀』天慶元(938)年9月2日条には

「近日東西兩京、大小路衢、刻木作神、相對安置、凡厥体像、髣髴丈夫、頭上加冠、鬢辺綬、以丹塗身成綵彩色、起居不同、遞各異貌、或所作女形對丈夫而立之、臍下腰底刻繪陰陽、構机案於其前置坏器其上、兒童猥雜、拝礼懇慙、或棒幣帛、或供香花、号日岐神、又称御靈、未知何評、時人奇之」



第60図 SF1・SF2交差点付近の祭祀

とあり、道路の衝で木を刻んで作った神を祀り杯を机上に置いて祭祀を行う様子が述べられている。道饗祭は公的な性格の祭儀であり、このような道路での祭祀が国家あるいは出先機関の国司によって行われたものとすれば、SF1が駅路か、少なくとも官道であるということを裏付けるものといえよう。SF2の先には先述したように北高木遺跡等の古代遺跡が多数存在しており、赤井南遺跡の衝の祭祀はこれらの集落を意識したものである可能性が高いと考えられ、換言すればこれらの集落は律令国家の支配者階級にとって重要な役割を果たした集落であったともいえよう。

また、SF1・SF2の交差点より約40m北になるが、SF2の西側約4mの地点には須恵器杯3点を埋納したSK210がある。SK210出土の須恵器は8世紀後半～9世紀前半のもので、交差点付近における側溝の最終期の祭祀と異なり道路が敷設された時期に近い祭祀跡の可能性が高く、道路敷設にあたって地鎮祭を行ったものとも考えられる。さらに、前項の記述では中世の遺構として扱ったが、SF2から東に約6mの地点に位置する土師器椀が完形で出土したSK270も、道路からやや離れているが、同様の祭祀関連の遺構であるかもしれない。

(2) 整地遺構

SF1北側を面して、SD101と道路側溝SD102の間に築かれた柱・杭列を伴う整地遺構SX1(西区部分)は板塀等何らかの構造物を伴う基壇状の盛土と考えられる。SD102に平行するSX1がSF1敷設後に道路に面するように構築されたものであることは明らかで、側溝の遺物は古いもので8世紀後半であることと、柱・杭16点の内、放射性炭素年代を測定した5点中3点が7世紀後半～8世紀後半、2点はこれよりやや古い測定値であることから、8世紀後半に道路が敷設されて間もなくSX1が構築されたと考えられる。今回の調査では北側に古代の建物は確認されなかったが、SX1の存在と、側溝等から人面墨書土器・墨書土器・須恵器水瓶・圀足円面硯・瓦・木製盤等の一般集落にはみられない特殊な遺物が出土していることから、何らかの特殊な施設が北側の調査区外に存在することが予測される。当遺跡のおかれた地理的環境からみると、遺跡が面する神楽川は、近世に至るまで帆掛け船が漕上するなど水上交通に重要な役割を果たしていたが、中世には現在の神楽川の東に東神楽川と呼ばれる支流があったとされ⁸⁵、赤井南遺跡は西側の神楽川が蛇行する部分の左岸に位置している。上流は古代の生産遺跡が集中する射水丘陵の裾野を流れ、下流には北高木遺跡、高木・荒畑遺跡、古代集落跡である小林遺跡等が二股に分かれた神楽川の間に広がっている。当遺跡はこれら律令期中核的な集落と生産遺跡の中間に位置し、また官道と水路の結節点に位置するといえる。越中では陸路と内陸水上交通が密接に関わっているとされ⁸⁶、これを裏付ける発掘調査例として船着き場・倉庫群等の遺構と官衙的な遺物が出土した高岡市中保B遺跡があり⁸⁷、近在する下佐野遺跡・東木津遺跡・諏訪遺跡などでも律令的な祭祀具等が出土している。当遺跡も水陸の交通の要衝であったと推測される。出土遺物の面から考えると、少量の瓦や栓が挿し込まれた状態の水瓶が出土していることから、予測の域を出ないが小規模な仏堂が存在したことが推測される。さらに上述の外郭施設を伴う可能性が高いと考えられるため、村落内の寺院とするより郡衙やその他の公的な施設内に併設された寺院の可能性もある。山中俊史氏によれば、郡衙周辺寺院には、渡河点に近接した場所に位置している例が少なくないとされる⁸⁸。しかし、射水郡の郡衙については、遺構は未確認ながら越中国府付近に存在したとする説が早くから提起されており⁸⁹、郡衙の可能性は低い。また、官衙的配置の建物群等は未確認であるため、その他の公的な施設についても可能性を示唆するにとどまる。

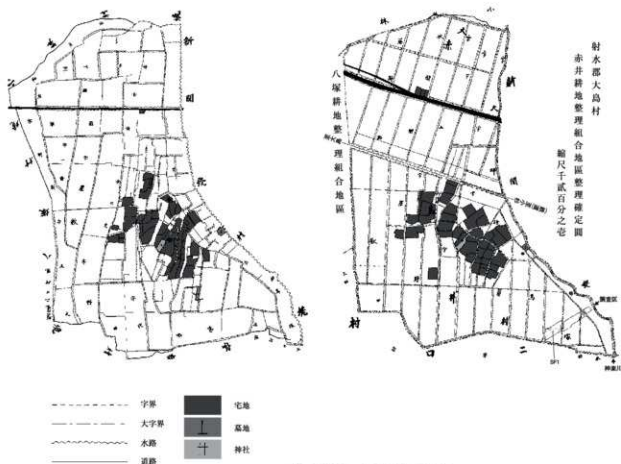
補足であるが、先に大規模な側溝を開削する目的の一つとして運河としての利用を挙げたが、このような外郭施設を伴う重要な施設と道路を遮断し橋架からしか出入りできないようにして施設を警護す

るためのものとも考えられる。しかし、溝の中に橋脚状のものは検出されておらず、S P 335・336・339等の杭が橋を固定した可能性もあるが、対岸に杭が検出されていないため不明である。

一方、中区で検出したS D 102・S D 121の間の整地は上述の西区の柱・杭列を伴う整地と性格が異なり、水辺へ降りるための地盤の補強と推測され、それは祭祀行為のためだけのものではないと思われる。隣接するS D 121は船が停泊できる程の深さはないが、調査区外の道路交差点付近に船着き場が存在し、その荷揚げのために掘り窪めた船着き場関連の遺構であった可能性も考えられる。整地もこれに伴うものかもしれない。

(3) 地籍図

旧射水郡大島町赤井村の明治初期の地籍図では、調査地付近の字名は「馬塚(うまづか)」「蛇前(じゃのまえ)」となっている¹⁹⁾。馬塚は神楽川沿いの細長い区画で、神楽川の自然堤防の一部にあたる。「蛇前(じゃのまえ)」の字名は耕地整理後の「地区整理確定図」からは消滅しているが、旧赤井村の南縁の区画を指す。古代官道は現在の郡市町村境界となって現れることが多く、古代道路S F 1が蛇前の細長い区画の中を字・村境界とほぼ平行に走っている点に着目しておきたい。大島町史は「赤井」の地名の由来を「付近の水が赤く、俗に赤そふといわれたところからつけられた」、「馬塚」は「太閤山にいた豊臣秀吉が馬を土手に葬った」としているが²⁰⁾、出土遺物から寺院等が付近にあった可能性を考えると、「赤井」は仏教において仏前などに供養される水(開伽)を汲むための井戸「開伽井」が、「馬塚」は道路遺構に関連して駅家が想起される地名でもある。「蛇前」は民俗学的には蛇が湖沼・河川・雨等に関連することから、水路に面した土地に付されたと考えられる。いずれにしても地名は傍証でしかなく、由来も推測の域を出ないが、参考としておきたい。



第61図 旧赤井村区画整理前後の地籍図

(4) 墨書土器

赤井南遺跡で出土した墨書土器は、S D102 出土の須恵器蓋「林家」（9 世紀前半）、須恵器杯「小女大口（女？）」（8 世紀後半～9 世紀前半）、土師器椀「主？」（9 世紀）、S K135 出土の須恵器蓋「（S 字状）」（8 世紀後半～9 世紀）、S D315 出土の伊万里皿「小」（16 世紀末～17 世紀）の古代 4 点、近世 1 点である。

県内の類例として、「林家」は高岡市中保 B 遺跡¹¹²、「林」は北高木遺跡¹¹³、富山市吉倉 B 遺跡¹¹⁴・栗山椿原遺跡¹¹⁵ から出土しており、関連性が伺える。また「小林」は北高木遺跡、吉倉 B 遺跡、「子林」は富山市南中田 D 遺跡¹¹⁶・栗山椿原遺跡から出土している。赤井地区の北側には「小林」地区があるが、関連するものであろうか。S 字状の須恵器は破片のため全容が不明で、絵画の一部の可能性もある。

(5) 中世以降の変遷

中世の遺構は、掘立柱建物・溝・井戸・土坑からなる集落の様相をもち、調査区の中央から東側にかけて広がっている。遺物は珠洲が最も多く、その他に中世土師器・青磁・八尾・瀬戸・瀬戸美濃・瓦質土器・砥石があり、一般的な集落の日用雑器がほとんどである。

掘立柱建物として柱穴の並びを確認できたものは 2 棟のみで、調査区外にかかるため建物の正確な規模は不明である。また、その他にも柱や柱痕が残る柱穴、柱穴状の小穴がある。建物の柱穴からの出土遺物はないが、井戸は建物の付近に多く同時期に存在したものと考えられる。S B 1 に隣接する S E 225・S E 252 は前後関係が不明であるが、12 世紀後半の遺物が出土した土坑より新しく、13 世紀前半以降の遺構と推定される。S B 2 周辺には井戸が多く、どの井戸が建物に付随するのかわからないが、最も建物に近い S E 286 では 15～16 世紀頃のものと考えられる中世土師器が出土しており、約 4m 離れた S E 238 からは 13 世紀前半の遺物が出土している。また、柱が残る柱穴、柱穴状の小穴が多い中区南側に位置する S E 152 では祭祀に使用されたと推測されるモモ種実の放射性炭素年代が 13 世紀後半、遺構がまばらな東区の S E 325 では同様のモモ種実で 14 世紀前半～15 世紀前半の測定結果であった。溝は、S D123 が断面逆台形状を呈する大規模なもので、出土遺物は古代から中世後期までの年代幅をもつが、12 世紀後半～13 世紀のものが主体を占め、15～16 世紀のものが少量みられることから、中世前半を主体として後半にも存続した遺構といえる。S D315・316 も同様の規格で遺物から 13～14 世紀を中心とする時期の溝と考えられ、S D123 とはほぼ同時期の遺構とみなされる。建物や井戸との切り合いがないことから、中世段階の全体的な様相としては、13 世紀～14 世紀を中心とした水路で区画された集落であったと考えられる。S D123 の流路はやや湾曲しているものの古代道路にはほぼ平行しており、古代の地割が中世にも継続されているといえよう。また、S D123 の南側には円形や楕円形の土坑やそれらの集合体のような不整形な土坑が集合しており、遺物はほとんどないが、中世のものが数点出土している。断面は円筒形のものが多く若干オーバーハングしたのもあり、形状から土取穴と考えておきたい。射水丘陵周辺では 20 例以上の遺跡で粘土採掘坑が確認されている。時代は主に古代で、須恵器・瓦の製作や須恵器窯・製鉄炉・炭焼窯の構築等に使用されたと考えられている¹¹⁷。当遺跡の土取穴周辺の地山はシルト～砂質シルトが主で粘土ではなく齋業には不向きであるが、集落での大規模な土木工事などに使用されたものであろう。

近世以降の遺構は、土地区画及び水田の用排水路等のために開削されたと考えられる幅約 0.2～1.3m、深さ約 0.3m 以下の直線的な溝と、溝に伴う横列のみになる。切り合いや溝の方向から 2 時期以上の変遷が伺え、近世から近代にかけて大規模な土地の区画整理が行われたと考えられる。（越前慎子）

注

- 注1 黒崎直氏のご教示による。
 注2 骨は坂上和宏氏・河野礼子氏に同定して頂いた。
 注3 木下 良 2009『事典 日本古代の道と駅』吉川弘文館
 注4 久世康博 1996『注の祭紀考』『研究紀要 第2号』御京都市埋蔵文化財研究所
 注5 大門町教育委員会 2005『安古遺跡発掘調査報告(3)』
 注6 金坂清則 1996『北陸道—その計画性および水運との結びつき—』『古代を考える 古代遺跡』吉川弘文館
 注7 根津明義 1998『古代越中国・中保B遺跡における船着場遺構と内陸の水上交通』『古代交通研究』第8号 古代交通研究会
 注8 山中俊史 2005『地方官衙と周辺寺院をめぐる諸問題』『地方官衙と寺院—都府周辺寺院を中心として—』
 独立行政法人 奈良文化財研究所
 注9 和田一郎 1959『国府と郡府』『高岡市史』高岡市史編纂委員会
 注10 地籍図は赤井地区在住の加藤正美氏より借用させて頂いた。
 注11 大島町教育委員会 1989『大島町史』
 注12 高岡市教育委員会 2002『中保B遺跡調査報告—中保土地区画整理組合による高岡市中保地区の区画整理事業に伴う調査—』
 注13 大島町教育委員会 1995『富山県大島町北高本遺跡発掘調査報告書』
 注14 富山県埋蔵文化財センター 1994『富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告(4) 吉倉B遺跡』
 注15 富山県埋蔵文化財センター 1990『富山県総合運動公園内遺跡発掘調査概要Ⅰ 栗山椋原遺跡・南中田D遺跡』
 注16 富山県埋蔵文化財センター 1991『富山県富山市南中田D遺跡発掘調査報告書』
 注17 金三津道子 2004『2 粘土探検坑について』『黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告書』御富山県文化振興財団

参考文献

- 青木一彦他 1996『射水平野の遺跡—古代北陸道を探る—』『大境』第18号 富山考古学会
 池野正男 1997『越中における9世紀代の土器様相』『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
 2011『古代食器の中の木製品』『大境』第29号 富山考古学会
 石川考古学会・北陸古代土器研究 1988『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』
 伊万里市史編さん委員会 2006『伊万里市史 陶磁器編 古唐津・鍋島』
 川藤 誠 1997『木製食器からみた9世紀』『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
 木下 良 1998『日本を知る 道と駅』大巧社
 木本秀樹 2009『環日本海歴史民俗学叢書13 古代の越中』高志書院
 国土地学考古学会編 2006『古代の信仰と社会』六一書房
 古代交通研究会 2004『日本古代道路事典』八木書店
 佐賀県立九州陶磁文化館 1984『国内出土の肥前陶磁』
 菅原正明 1989『西日本における瓦器生産の展開』『国立歴史民俗博物館研究報告』第19集 国立歴史民俗博物館
 田邊勝利 2005『年表形式 繊維と染料の博物誌(染料編)』銀河株式会社
 独立行政法人 奈良文化財研究所 2005『地方官衙と寺院—都府周辺寺院を中心として—』
 2006『在地社会と仏教』
 富山市教育委員会 2004『フォーラム 奈良時代の富山を探る』
 輪崎彰一他 2010『特別展 古陶の譜 中世のやまもの—六古窯とその周辺—』
 根津明義 2005『内陸の水上交通にかかる考古学的一点—主に船着場遺構への認識をめぐって—』
 『石川県埋蔵文化財情報』第13号 御石川県埋蔵文化財センター
 北陸古代土器研究会 1988『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』
 北陸中世考古学研究会 1999『第12回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の石文化1』
 2006『第19回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』
 2007『第20回北陸中世考古学研究会資料集 中世前期北陸のカワラケと輸入陶磁器・施輪陶器・瀬戸美濃製品』
 北陸中世土器研究会 1990『中世北陸の在地窯—生産と流通の諸問題—』
 前田晴人 1996『日本古代の道と駅』吉川弘文館
 水野正好 2005『井戸をめぐるまじない世界』『考古学ジャーナル』No.537 ニューサイエンス社
 宮田進一 1997『第4章第2節 越中瀬戸の窯運と分布』『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会
 森 隆 2006『越中八尾窯の流通に関する一様相』『吉岡康輔先生古書記念論集 陶磁器の社会史』桂書房
 日本考古学協会三重県実行委員会 1996『シンポジウム2 国府—畿内・七道の様相—』
 八尾町教育委員会 1985『長山遺跡・京ヶ峰古窯跡緊急発掘調査概要』
 山本信夫 2000『太宰府の文化財第49集 太宰府桑坊跡 XV—陶磁器分類編—』太宰府教育委員会

第17表 赤井南遺跡 古代柱・杭一覽

遺構	平面形	幅横 (m)			出土遺物	時期	特記事項	探洞番号	写真図版
		長さ	幅	深さ					
SP331				0.36	杭	8世紀後半	径30×15×8cm	36-38	38
SP332				0.36	杭	8世紀後半(AMS7 8世紀後半-8世紀後半)	径50×15×10cm	36-38	38、39
SP333	円	0.24		0.42	柱	8世紀後半	径50×16×5cm	38	38
SP334	方	0.24	0.20	0.49	柱	8世紀後半	径38×8×6cm	38	38
SP335				0.39	杭	8世紀後半	径50×8×6cm	38	38
SP336				0.22	杭	8世紀後半	径50×7×8cm	39	38
SP337	円	0.44		0.58	柱	8世紀後半(AMS7 8世紀後半-8世紀後半)	径72×25×5cm	36-39	38、39
SP338	楕円	0.43		0.38	柱	8世紀後半	径50×12×5cm	36-39	38
SP339				0.36	杭	8世紀後半	径45×8×3cm	39	38
SP340				0.40	杭	8世紀後半? (AMS3 8世紀後半-9世紀初頭)	径50×12×3.5cm		39
SP341				0.38	杭	8世紀後半	径50×3×5cm		39
SP342				0.26	杭	8世紀後半	径30×5×3cm		
SP343				0.29	杭	8世紀後半	径45×7×5cm	39	39
SP344				0.62	杭	8世紀後半? (AMS6 8世紀中頃-7世紀前半)	径75×8×5cm	39	39
SP345	円	0.46		0.28	柱	8世紀後半(AMS7 8世紀後半-8世紀後半)	径50×30×15cm	39	39
SP346				0.28	柱	8世紀後半	径46×26×16cm	39	39

第18表 赤井南遺跡 古代溝一覽

遺構	幅横 (m)		出土遺物		時期	切り合い	特記事項	探洞番号	写真図版
	幅	長さ	幅	深さ					
SD101	3.55	0.48	赤生土層・土層跡・埋蓋跡		8世紀後半-9世紀				36-37、38
SD102	4.10	1.00	赤生土層・土層跡・埋蓋跡・礎石・礎石・礎石・土層		8世紀後半-9世紀		SP1北側溝	36-37、38-40、43	35、36、37、38
SD103	3.30	0.85	土層跡・埋蓋跡・礎石・礎石		8世紀後半-9世紀	<SDM-106	SP1南側溝	36-38-40	35、37
SD112	1.24	0.22			8世紀後半-9世紀	<SDM			
SD115	0.56	0.08			8世紀後半-9世紀				36-37
SD118	0.42	0.11			8世紀後半-9世紀				
SD119	2.80	0.58			8世紀後半-9世紀				36-37
SD121	4.40	0.30	土層跡・埋蓋跡		8世紀後半-9世紀				38
SD142	0.62	0.10	赤生土層・土層跡		8世紀後半-9世紀		SD001とTSF2西側溝		39
SD146	1.20	0.12	埋蓋跡・土層跡		8世紀後半-9世紀	<SD125-SD145-SK167	SD003とTSF2東側溝		39
SD201	0.80	0.18			8世紀後半-9世紀		SD142とTSF2西側溝		39
SD203	0.80	0.24	埋蓋跡		8世紀後半-9世紀		SD146とTSF2東側溝		39

第19表 赤井南遺跡 古代土坑一覽

遺構	平面形	幅横 (m)			出土遺物	時期	切り合い	特記事項	探洞番号	写真図版
		長さ	幅	深さ						
SK210	不整形	0.07	0.33	0.19	埋蓋跡	8世紀後半-9世紀前半	<SK202	土層埋納	39	39

第20表 赤井南遺跡 中世柱穴一覽

遺構	遺構種類	平面形	幅横 (m)			出土遺物	時期	切り合い	特記事項	探洞番号	写真図版
			長さ	幅	深さ						
S B 1	SP195	柱穴	不整形	0.23	0.23	0.20			柱痕あり	44	40
	SP199	柱穴	円	0.21	0.19					44	
	SP207	柱穴	円	0.22	0.16					44	
S B 2	SP198	柱穴	円	0.30	0.06					44	
	SP213	柱穴	円	0.26	0.29					44	
	SP216	柱穴	楕円	0.66	0.58	0.34				44	
	SP218	柱穴	楕円	0.36	0.18	0.22				44	
	SP221	柱穴	円	0.30	0.33					44	
	SP226	柱穴	円	0.19	0.17					44	
	SP228	柱穴	円	0.18	0.13					44	
	SP231	柱穴	楕円	0.40	0.28	0.28				44	
	SP251	柱穴	円	0.24	0.29					44	
	SP262	柱穴	円	0.20	0.08					44	
SP130	柱穴	楕円	0.47	0.36	0.34	柱			44	40	
SP153	柱穴	円	0.30	0.36				柱痕あり		40	
SP222	柱穴	円	0.29	0.08				柱痕あり 噴砂	44	40	

第21表 赤井南遺跡 中世溝一覽

遺構	幅横 (m)		出土遺物	時期	切り合い	特記事項	探洞番号	写真図版
	幅	長さ						
SD12	0.72	0.36						
SD104	0.48	0.10						
SD110	0.28	0.05	土層跡					
SD113	1.21	0.16			<SDM			
SD114	0.28	0.08				SD1111?とS B 1?		
SD117	0.68	0.16						
SD120	4.7	0.18	赤生土層・土層跡・埋蓋跡・中世土層跡・溝跡・瓦片・瓦片・礎石・溝跡・溝跡・溝跡・溝跡	13-14世紀		>SK262		43
SD129	2.16	0.35	土層跡・埋蓋跡・溝跡	13世紀		<SK20		
SD143	0.60	0.22	埋蓋跡・溝跡			>SK173-SK204		
SD148	0.34	0.12				>SD146		
SK202	1.20	0.20	土層跡・埋蓋跡・溝跡	13世紀				43
SK204	1.10	0.30	土層跡・埋蓋跡・溝跡	13-14世紀		>SD211-SK213-SK280-SK287		43
SK205	2.40	0.30	土層跡・埋蓋跡・溝跡	13-14世紀				43
SK206	3.20	0.48	埋蓋跡・中世土層跡・溝跡	13-14世紀				
SK219	0.52	0.30	土層跡					
SK224	0.56	0.15			<SK190			
SK276	0.48	0.19						
SK315	4.2	0.77	土層跡・埋蓋跡・溝跡・溝跡・溝跡・溝跡・溝跡・溝跡・溝跡・溝跡	13-14世紀		SD194と分層土		43
SK316	1.20	0.35	土層跡・埋蓋跡・中世土層跡・溝跡・溝跡・溝跡	13-14世紀		SD315と分層土		43

第22表 赤井南遺跡 中世井戸一覽

遺構	平面形	距離 (m)		出土遺物	時期	取り合い	特記事項	詳細番号	写真掲載
		長さ	幅						
SE152	円	1.10	0.76	土師器・管?・磚実	13世紀			46	41
SE212	円	0.90	0.88	須恵器		SE212<SE204-SE287		45	
SE222	円	0.78	1.04	土師器				46	
SE225	方	1.00	0.88	1.44	珠洲	>SK200		45	41
SE238	円?	(2.65)		1.28	須恵器・珠洲	13世紀		48	
SE252	不整形	2.60	2.48	1.32	土師器・須恵器		>SK200-SK210	45	41
SE260	隅丸	0.73	0.62	0.73				46	41
SE268	隅円	1.20	0.94	1.05	珠洲			47	41
SE286	不整形	1.75	1.20	1.26	中世土師器・珠洲	13世紀前半~10世紀		46	41
SE287	円	1.25	1.37				SE212<SE287<SE204	46	
SE293	隅丸?	0.85	0.96	1.17				47	42
SE294	隅丸	0.79	0.92	0.93	土師器・須恵器・珠洲			47	42
SE298	不整形	2.94	1.42	0.85	土師器・須恵器			47	
SE299	円	1.36	1.50					47	42
SE325	方			0.90	土師器・須恵器・磚実	14~15世紀		47	42

第23表 赤井南遺跡 中世土坑一覽 (1)

遺構	平面形	距離 (m)		出土遺物	時期	取り合い	特記事項	詳細番号	写真掲載	
		長さ	幅							
SK122	不整形	0.72	0.40	0.67						
SK124	隅円	1.32	0.91	0.42		<SD2			43	
SK125	不整形	1.92	1.75	0.90						
SK126	円	1.20	0.49							
SK127	隅円	1.20	1.05	0.39						
SK128	不整形	(1.90)	0.80	0.35						
SK130	円	1.40	0.47		須恵器					
SK131	隅円	1.28	1.08	0.59	珠洲					
SK132	隅円	1.83	1.10	0.48	珠洲					
SK133	不整形	1.50	1.30	0.60						
SK134	不整形	3.30	1.60	0.70	土師器・須恵器					
SK135	不整形	1.80	1.45	0.56	須恵器		鎌倉院遺跡出土 土取穴?	48	44	
SK136	不整形	2.85	1.05	0.43			土取穴?	48	44	
SK137	不整形	1.09	0.79	0.39	珠洲?		>SD164			
SK138	不整形	0.35	0.22	0.14						
SK139	円	1.75	0.60			<SD2				
SK140	円	1.45	0.83							
SK141	隅円	1.50	1.38	1.32						
SK144	隅円	1.69	1.35	0.20						
SK147	円	0.54	0.36							
SK148	隅円	0.55	0.48	0.14						
SK149	円	0.20	0.14							
SK151	不整形	1.50	(0.30)	0.25						
SK154	円	0.39	0.11	土師器						
SK155	円	0.64	0.29							
SK156	円	0.83	0.66							
SK157	不整形	0.58	0.38	0.38		<SD146				
SK158	円	0.25	0.36							
SK159	円	0.35	0.40							
SK160	隅円	0.28	0.22	0.34						
SK161	円	0.35	0.14							
SK162	円	0.53	0.30			<SD142				
SK163	不整形	7.50	4.70	0.64	土師器・瀬戸瓦葺	16世紀	>SD164	土取穴?	48	44
SK165	隅円	1.33	1.11	0.46	須恵器?		>SK160			
SK166	隅円	1.82	1.16	0.66			>SK149-SK167			
SK167	不整形	3.17	2.90	0.57	珠洲		<SK146-SK168			
SK168	隅円	1.54	1.30	0.50	土師器?		>SK147			
SK169	不整形	1.30	1.25	0.75			>SK170			
SK170	不整形	3.32	2.58	0.80	土師器・須恵器		<SK149	土取穴?		
SK171	不整形	0.68	0.63	0.15						
SK172	不整形	1.68	0.78	0.20						
SK173	方	1.90	0.92	0.22		<SD143				
SK174	方	2.65	0.70	0.29		<SD142				
SK175	不整形	1.40	0.95	0.58		>SK176				
SK178	不整形	1.48	0.95	0.45		<SK175				
SK177	隅円	0.18	0.12	0.39						
SK178	円	0.13	0.17							
SK179	円	0.21	0.10							
SK180	円	0.22	0.04							
SK181	隅円	0.30	0.25	0.20						
SK182	不整形	0.32	0.19	0.05						
SK183	円	0.15	0.12							
SK184	円	0.23	0.09							
SK185	円	0.24	0.10							
SK186	隅円	0.35	0.27	0.10						
SK188	不整形	0.20	0.14	0.15						
SK189	円	0.22	0.14							
SK190	円	0.15	0.06							
SK191	円	0.17	0.13							
SK192	方	0.22	0.18							
SK193	円	0.32	0.04							
SK194	不整形	0.49	(0.30)	0.20		<SD3				
SK196	不整形	0.27	0.18	0.32		>SK224				
SK197	円	0.19	0.26							
SK198	隅円	0.26	0.18	0.13		<SP199				
SK200	不整形	5.03	4.47	0.56	土師器・須恵器・珠洲	13世紀	<SE225-SE252	43	41	

第23表 赤井南遺跡 中世土坑一覽(2)

遺構	平面形	規模 (m)		出土遺物	時期	埋方含む	発見事項	発見 番号	写真 記録
		長さ	幅						
SK209	隅丸	0.84	0.73	0.66					
SK211	隅丸	0.91	0.72	0.26					
SK213	円	0.70		0.69					
SK214	不整形	0.56	0.44	0.57	埋方跡				
SK217	円	0.12		0.24					
SK220	円	0.20		0.11					
SK223	円	0.18		0.16					
SK227	円	0.25		0.15					
SK229	円	0.37		0.11					
SK230	円	0.15		0.12					
SK233	円	0.31		0.38					
SK234	円	0.16		0.18					
SK235	円	0.15		0.06					
SK236	不整形	0.30	0.28	0.18					
SK237	楕円	0.45	0.28	0.49					
SK239	円	0.21		0.15					
SK240	不整形	0.58	0.56	0.04					
SK241	円	0.16		0.28					
SK242	円	0.15		0.12					
SK243	円	0.38		0.15			<SK204		
SK244	円	0.21		0.08			>SK203		
SK245	楕円	0.45	0.30	0.41					
SK246	円	0.12		0.11					
SK247	円	0.16		0.07					
SK248	楕円	0.32	0.37	0.20					
SK249	円	0.30		0.14					
SK250	円	0.13		0.42					
SK251	円	0.19		0.35					
SK253	円	0.18		0.08					
SK254	楕円	0.76	0.60	0.15					
SK255	円	0.23		0.28					
SK256	円	0.24		0.15					
SK257	不整形	0.45	0.36	0.50					
SK258	楕円	0.49	0.40	0.12					
SK259	隅丸	0.80	0.75	0.65	溝跡	13-14世紀	<SK206		45
SK261	円	0.15		0.13					
SK262	円	0.18		0.29					
SK263	円	0.18		0.08					
SK264	円	0.20		0.07					
SK265	円	0.22		0.14					
SK266	円	0.26		0.42					
SK267	円	0.22		0.27					
SK269	不整形	0.46	0.35	0.27					
SK270	楕円	0.74	0.62	0.29	土障跡				46 44
SK271	円	0.21		0.24					
SK272	円	0.25		0.27					
SK273	不整形	0.31	0.27	0.30					
SK274	円	0.29		0.46					
SK275	円	0.25		0.19					
SK277	方	1.60	(1.20)	0.38					
SK278	不整形	0.22		0.16					
SK279	不整形	0.60	0.79	0.55	土障跡				
SK280	円	0.27		0.32					
SK281	円	0.22		0.28					
SK282	不整形	0.30	0.22	0.16			<SD123		
SK283	隅丸	2.16	(1.37)	0.96					
SK284	楕円	0.49	0.30	0.10					
SK285	不整形	3.60	3.07	0.25	土障跡・溝跡・瓦				43
SK289	不整形	0.84	0.76	0.94					
SK290	楕円	0.67	0.50	0.23	土障跡				
SK293	円	0.12		0.07					
SK294	楕円	0.84	0.18	0.07					
SK295	隅丸	0.46	0.36	0.08					
SK296	円	0.20		0.11					
SK297	楕円	0.33	0.24	0.07	土障跡				
SK298	楕円	0.28	0.22	0.14					
SK299	楕円	0.40	0.24	0.04					
SK300	円	0.98		0.43					
SK301	円	0.21		0.06					
SK302	不整形	0.74	0.58	0.33					
SK305	不整形	3.90	(2.20)	0.27	溝跡・礎石		>SK306		43
SK306	円	2.48	(1.20)	0.30			<SK305		
SK308	円	0.22		0.24					
SK309	円	0.18		0.20					
SK310	円	0.18		0.07					
SK311	円	0.26		0.18	土障跡				
SK312	不整形	0.68	0.53	0.03					
SK313	不整形	1.25	1.15	0.37					
SK319	楕円	0.18	0.14	0.06					
SK321	円	0.22		0.22					
SK322	円	1.38		0.40	土障跡・溝跡跡				45
SK324	不整形	1.58	(1.40)	0.36			<SD143		
SK330	円	0.20		0.10					
SK331	円	0.13		0.20					
SK332	円	0.15		0.15					
SK333	不明	0.25		0.25					
SK354	円	0.14		0.20					跡長遺り溝城 北側新掘内
SK355	円	0.16		0.22					
SK356	円	0.21		0.20					

第25表 赤井南遺跡 土器・陶磁器一覽(2)

群	種別	写真 図録	遺構	出土地点	種類	形状	径長(mm)		時期	胎土調査		釉色調査	備考			
							口部	底径		底径	底径			胎土色	釉色	
B	91	52	SK002	XJ0752	焼肉	鉢	53.0	90.0	1-1前期	90.0		褐色色				
	92	48	SK004		磁器部	壺	26.0	(4.1)	9C-9D	9C	233V-1	黄灰色				
	93	52	SK004	XJ0755	磁器部	杯			9C	9C	233V-1	黄灰色				
	94	47	SK005	XJ0756	磁器部	杯	(2.2)		6.A	9C-9E	233V-1	黄灰色				
	95	47	SK005	XJ0756	磁器部	杯	(1.3)		7.A	9C-9E	233V-1	黄灰色				
	96	54	SK006	XJ0759	焼肉	碗			1-1	9C	90.0	灰色				
	97	52	SK006	XJ0759 No.2	焼肉	鉢	19.0	6.4	1前期	9C	233V-1	黄灰色				
	98	50	SK006	XJ0759	焼肉	鉢	19.0	7.4	1前期	9C	233V-1	黄灰色				
	99	54	SK006	XJ0759	焼肉	鉢		11.4	7.6	1前期	9C	233V-1	黄灰色			
	100	53	SK009	XJ0759 No.4	焼肉	皿	(6.1)		1-1前期	96.0		褐色色	焼肉灰土・黄土			
	101	46	SK008		磁器部	杯	(2.0)		9C-9E	9C	233V-1	黄灰色				
	102	52	SK008	XJ0759	焼肉	杯	(2.1)		9C-1	9C-1	233V-2	白・黄褐色色				
	103	50	SK008	XJ0759	焼肉	杯	(5.0)		1-1前期	93.0		黄灰色	焼肉灰土・黄土(大)			
	104	50	SK008	XJ0759 No.1	焼肉	鉢	(5.6)		1前期	96.0		黄灰色	焼肉灰土・黄土(大)			
	105	54	SK008		焼肉	皿	6.9	4.4	13C-14C	233V-2		黄褐色色	焼肉(定形)			
	106	54	SK008	XJ0759	中土上層部	皿	13.0	52.1	13C-14C	233V-2		灰白色				
	107	56	SK010		平丸	筒	19.0	10.1	13C	233V-1	厚(3.0)	黄褐色色				
	108	47	SK010		磁器部	杯	(1.2)		6.C	9C-9E	233V-1	灰白色				
	109	47	SK010		磁器部	杯	(1.3)		6.B	9C-9E	196.0	灰色				
	110	47	SK010		磁器部	杯	(1.4)		7.3	9C-9E	196.0	黄褐色色				
	111	48	SK010		磁器部	壺	7.0	(2.2)	9C-9E	9C	233V-1	黄灰色				
	112	48	SK010		磁器部	壺	20.0	(5.4)	9C-9E	9C	233V-1	黄灰色				
	113	48	SK010		磁器部	壺	(8.0)		9C-9E	9C	233V-1	黄灰色				
	114	48	SK010		焼肉	皿	(6.4)		11B	9C-9E	233V-1	黄褐色色				
	115	52	SK010		焼肉	鉢	(6.3)		1-1前期	96.0		灰色				
	116	52	SK010		焼肉	鉢	(6.2)		2-1前期	96.0		黄褐色色				
	117	54	SK010		焼肉	鉢	(4.2)		1前期	93.0		黄褐色色				
	118	52	SK010		焼肉	鉢	(6.0)		1-1前期	233V-1		黄褐色色				
	119	52	SK010		焼肉	壺	6.0	(1.4)	厚(0.6)	96.0		黄褐色色				
	120	50	SK010		焼肉	皿	13.0	(11.0)	厚(0.6)	96.0		黄褐色色	焼肉灰土・黄土			
	121	54	SK010		中土上層部	皿	10.0	3.8	13C-14C	233V-2		灰白色				
122	52	SK010		伊予川	皿	(2.0)		4.B	17C-18C	233V-1	灰白色	17.0	灰白・白・黄褐色色			
123	52	SK010		伊予川	皿	(2.1)		4.A	17C-18C	233V-1	灰白色	100.0	黄褐色色			
124	52	SK010		伊予川	皿	(2.1)		4.B	17C-18C	233V-1	灰白色	100.0	黄褐色色			
125	52	SK010		伊予川	皿	(1.7)		16C-17C	233V-1	白・黄褐色色	233V-1	白・黄褐色色				
126	54	SK010		中土上層部	皿	13.0	3.8	13C	233V-2		灰白色		焼土(1.0)			
127	54	SK010		伊予川	皿	(1.4)		5.3	12C-13C	90.0	90.0	白・白・黄褐色色				
127	53	SK010		焼肉	壺	7.0		96.0			黄褐色色	焼肉灰土				
128	52	SK010		焼肉	壺	16.0	10.4	1前期	233V-1		黄褐色色					
129	48	SK012		磁器部	壺	(1.0)		9C-9E	9C	202.0	灰白色					
130	52	SK028		焼肉	鉢	(7.2)		10-1前期	233V-1		黄褐色色					
131	48	SK028		焼肉	鉢	(6.0)	10.0	13C	233V-1		黄褐色色					
132	54	SK036	1層 No.1	中土上層部	皿	7.9	1.9	15C-16C	109.0	2	白・白・黄褐色色		内径最大・外径最小(大)			
133	48	SK038		磁器部	壺	7.0	(2.0)	96.0			黄褐色色					
134	48	SK038		磁器部	壺	(1.3)		7D	9C-9E	233V-1	黄褐色色					
135	48	SK038		磁器部	壺	(1.5)		9C-9E	9C	236.0	黄褐色色					
136	46	SK030	XJ0735	磁器部	壺	(2.3)		9C-9E	9C	236.0	黄褐色色					
137	48	SK030	XJ0735	磁器部	壺	(1.7)		1前期	9C	236.0	黄褐色色					
138	48	SK030	XJ0735	磁器部	壺	26.0	6.1	9C-9E	9C	236.0	黄褐色色					
139	58	SK059		焼肉	壺	(7.7)	12.4	9C-9E	233V-1		黄褐色色					
140	58	SK059		焼肉	壺	26.0	(4.4)	1前期	233V-1		黄褐色色					
141	51	SK070	No.1	上土層	壺	11.0	5.8	9C	9C	107.0	灰白色					
142	46	SK080		平丸	筒	(4.2)	10.6	厚(2.0)	9C-9E	107.0	白・黄褐色色					
143	52	SK080		焼肉	壺	23.1	(5.7)	9C-9E	107.0		白・黄褐色色					
144	52	SK000-200	XJ0335	焼肉	鉢	23.0	(3.3)	1-1前期	233V-1		黄褐色色		1層上層部・鉢			
145	50	SK080		焼肉	壺	(4.2)		1前期	233V-1		黄褐色色					
146	47	SK080		焼肉	壺	(2.1)		9C-9E	9C	233V-1	黄褐色色					
148	58	SK074	伊予川	壺	10.0	(4.4)		96.0			灰白色		形状130.0	縁高5.0		
149	58	SK074	伊予川	壺	(2.4)	4.4		13C-14C	96.0		灰白色		形状130.0	縁高5.0		
150	58	SK074	伊予川	壺	(2.2)	4.4		17C-18C	96.0		灰白色		形状130.0	縁高5.0		
151	58	SK074	伊予川	壺	(2.6)			17C-18C	96.0		白・白・黄褐色色		7.5	17.0	縁高5.0	
152	47	SK4	XJ0729	磁器部	壺	11.2	3.8	6.B	9C-9E	233V-1		黄褐色色				
153	47	SK4	XJ0733	XJ0719	磁器部	壺	(2.9)		7.2	9C-9E	233V-1	灰白色				
154	47	SK4	XJ0733 No.08	磁器部	壺	(2.5)		9B	9C-9E	233V-1	黄褐色色					
156	47	SK4	XJ0733	磁器部	壺	16.2	5.8	9C	9C-9E	233V-1	黄褐色色					
157	54	SK4	XJ0733 No.14	中土上層部	皿	10.0	1.5	13C-14C	233V-2		灰白色					
158	52	SK4	XJ0730	焼肉	鉢	(5.5)		厚(0.6)	96.0		灰白色					
159	52	SK4	XJ0733 No.1	焼肉	鉢	26.0	(4.8)	1前期	233V-1		黄褐色色					
160	56	SK4	XJ0717	焼肉	壺	(5.3)	11.4	16C-17C	107.0	2	黄褐色色		7.5	17.0	縁高5.0	
161	58	SK4	XJ0733	伊予川	壺	8.0	(5.2)		96.0		灰白色		形状130.0	縁高5.0		
162	48	XJ0728		焼肉	壺	6.0	(7.4)	9C-9E	96.0		灰白色					
163	48	XJ0708		焼肉	壺	(3.6)		9C	96.0		黄褐色色					
164	54	XJ0719		中土上層部	皿	8.0	1.5	13C-14C	107.0	2	黄褐色色					
165	52	XJ0740		中土上層部	皿	8.0	1.5	13C-14C	233V-2		灰白色					
166	53	XJ0751		焼肉	壺	(1.8)		1-1前期	233V-1		黄褐色色					
167	53	XJ0708		焼肉	壺	(3.4)		1前期	94.0		黄褐色色					
168	53	XJ0709		焼肉	壺	(8.0)		1前期	92.0		黄褐色色					
169	53	XJ0730		焼肉	壺	(11.2)	10.0	1前期	98.0		黄褐色色					
170	54	XJ0731		焼肉	壺	(1.1)		1前期	98.0		黄褐色色					
171	56	1	焼肉	壺	35.0	20.0	5.6	13C	98.0		灰白色		130.0	2.0	縁高5.0	
172	54	XJ0743		焼肉	壺	11.8	2.0	5.6	13C-14C	98.0		灰白色		100.0	2.0	縁高5.0
173	56	1	焼肉	壺	(2.7)	6.4		19C	97.0		黄褐色色		7.5	17.0	縁高5.0	
174	56	1	焼肉	壺	35.0	20.0	5.6	17C-18C	97.0		黄褐色色		107.0	2.0	縁高5.0	
175	52	XJ0742		焼肉	壺	(2.0)		17C-18C	233V-2		黄褐色色					
176	52	XJ0747		焼肉	壺	(2.0)		17C-18C	233V-2		黄褐色色					
177	58	XJ0743		焼肉	壺	5.0	1.0	17C-18C	233V-2		白・黄褐色色		縁高5.0			
178	58	XJ0746		伊予川	壺	(6.3)	7.0	9C	96.0		灰白色		形状130.0	縁高5.0		
179	58	XJ0736		伊予川	壺	35.0	(5.3)	16C	93.0		黄褐色色		形状130.0	縁高5.0		

第26表 赤井南遺跡 木製品一覽

群	種別	写真 図録	遺構	出土地点	種類	形状	径長 (cm)		備考	
							口部	底径		
B	44	49	SD102	XJ0720 No.1	水取筒	ヤナギ	長さ18.0		1.8	志野大丸木・薪炭用 志野川(個人)
	56	54	SD103	XJ0720 No.1	籠	ヤナギ	17.4	19		掘目

第27表 赤井南遺跡 石製品一覽

群	種別	写真 図録	遺構	出土地点	材質	径長 (cm ± σ)			備考	
						長さ	幅	厚さ		
37	146	55	SK036	No.1	硯石	鏡石	9.2	5.1	1.5	91.0
58	152	55	SK4	XJ0733 No.13	硯	鏡石(引シルト)	9.3	6.1	2.0	136.6

第V章 安吉遺跡

1 概要

安吉遺跡は射水平野南西部に位置し、下条川と和田川にはさまれた微高地上に立地する。現況は水田で、標高 5.8～6.5 m を測る。遺跡の北側は赤井南遺跡、東側は本田天水遺跡と接する。調査地区は遺跡のほぼ中央を東西に横断しており、市道本田土合線を境に南西側をA地区、北東側をB地区とした。A・B両地区ともに道路や水路により3つに分割されているが、細分化はせずそれぞれに西地区・中央地区・東地区を付した。検出した遺構は、溝 92 条、土坑 357 基で、A地区に集中し、B地区では遺構の密度は低く、北方・東方へ向かうに従い遺構数が減少する。出土遺物は、14 世紀～18 世紀のものがあり、主体となるのは 14 世紀後半～16 世紀である。この他に、古墳時代中期の土器を伴う土坑を確認している。

2 層序

層序は、I層：褐灰色粘質土、黒褐色粘土質シルト（表土、耕作土）、II層：灰黄褐色～黒褐色粘質土、黒色粘土質シルト（遺物包含層）、III層：黄灰色～灰色砂質土、緑灰色粘土質シルト（遺構検出面、地山）、IV層：灰色砂質土（地山）、V層：灰色砂（地山）となる。調査区は東西に長いが、基本層序は概ね一致する。A地区西地区は南側 1/2 に盛土があり、この部分ではII層は削平されており、盛土直下がIII層となる。II層は概ね削平されており、部分的で、B地区西地区及び中央地区ではI層直下にIII層が露出する。調査区をとおしてIII層上面が遺構検出面で、現況水田面からの深度はA地区で 0.2～0.3 m、B地区で 0.2～0.5 m を測る。II層、III層は東へ行くに従い粘性が強くなる。IV層、V層は洪水堆積層で、砂及び黒褐色のビート層が互層になる箇所がある。

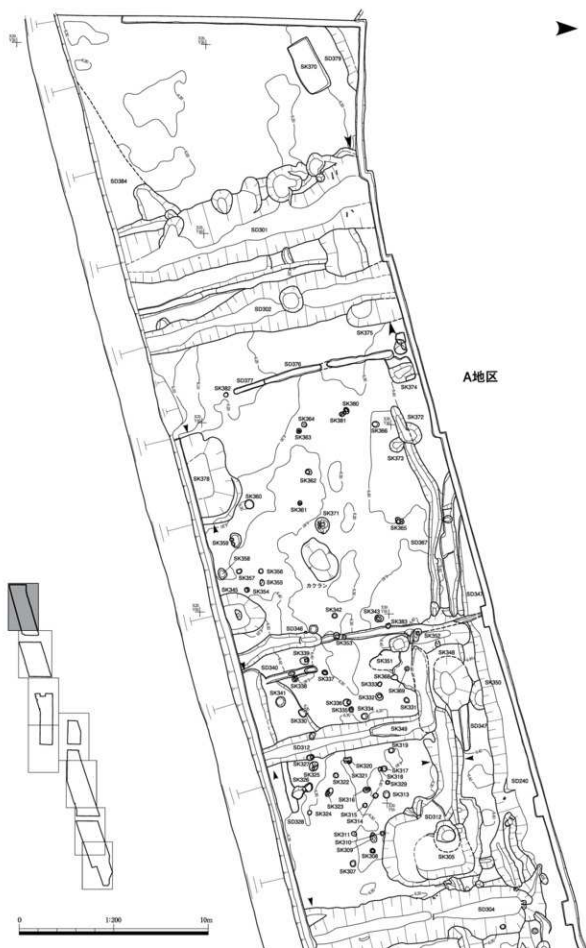
3 遺構・遺物

(1) 中世以前

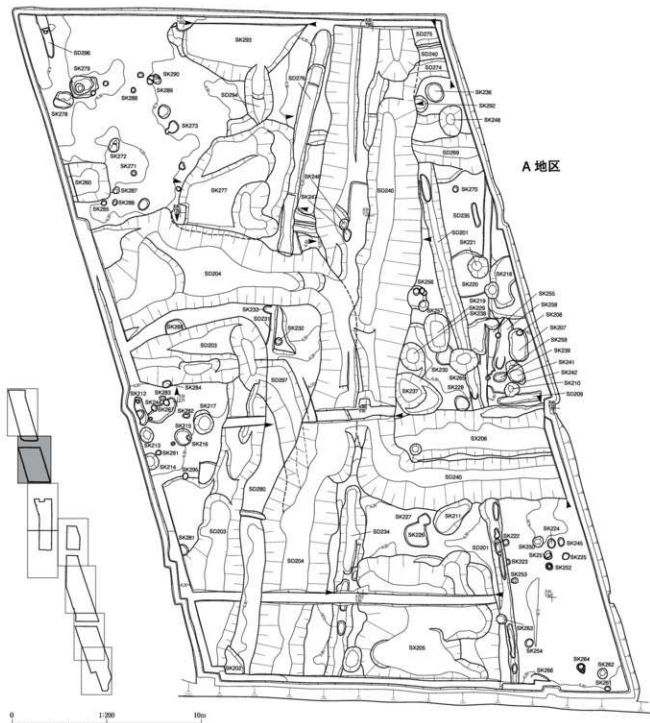
A 土坑

66号土坑（SK 66, 第70・86図, 図版63・67・68）

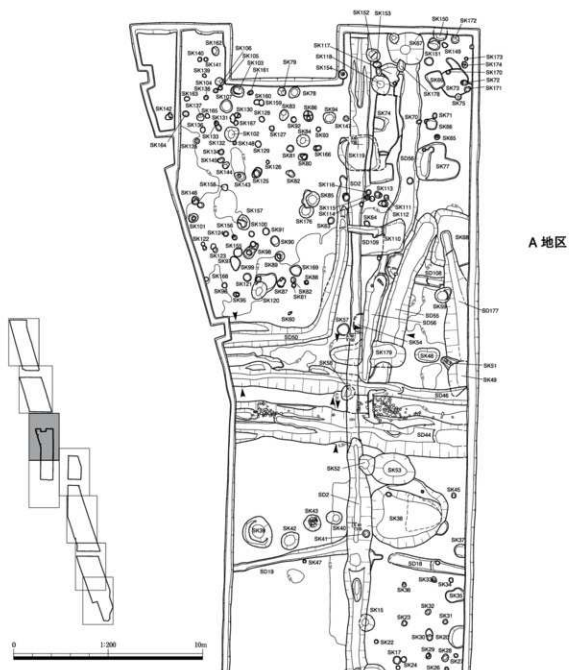
A地区東地区西よりに位置する不整形土坑。検出は他の中世の遺構と同一面で行っている。埋土は灰白色砂質土のブロック土と炭化物が混じる黒色粘質土の単層で、埋土中位から底面にかけて古墳時代土師器（1～8）が出土する。土師器はほぼ完形のものも含め、甕、壺、鉢、高杯の8個体が重なって出土している。1は外面ハケ内面ナデのくの字口縁甕で、外面は肩部以下にスガが付着する。2・3は球形の体部に長めの口縁がつく直口壺で、2は外面を丁寧に磨く。4・5は外面ハケ調整の鉢。6～8は高杯で、6は杯体部の途中から屈曲して外反する口縁を持ち、7・8は脚根部で強く屈曲して開く、畿内系の高杯。古墳時代中期のものと考えられる。



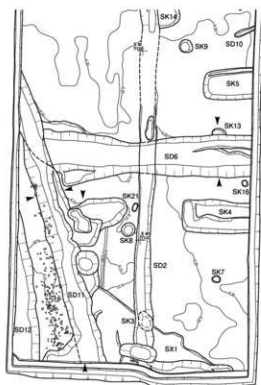
第 62 図 安吉遺跡 遺構全体図 (1:200)



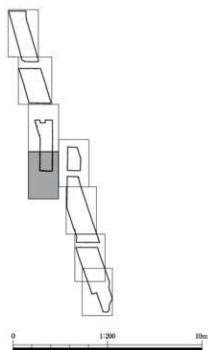
第63図 安吉遺跡 遺構全体図 (1:200)



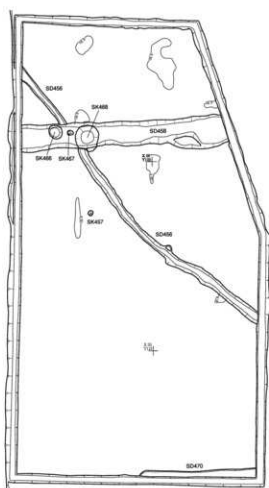
第64図 安吉遺跡 遺構全体図 (1:200)



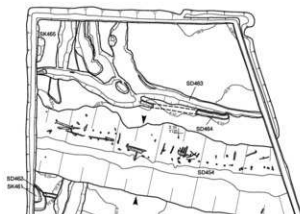
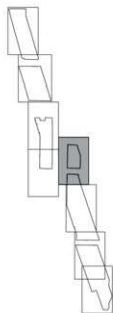
A地区



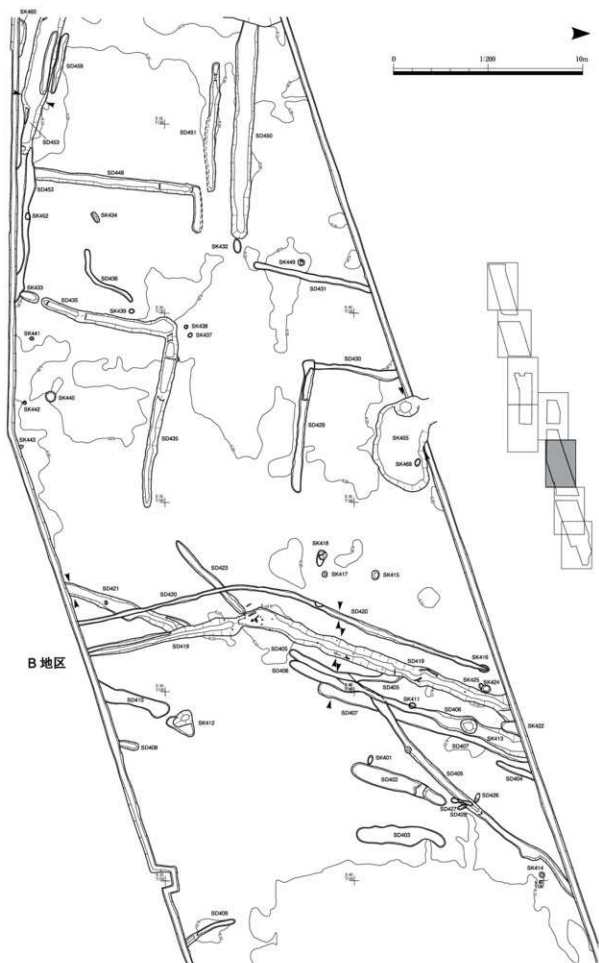
第 65 図 安吉遺跡 遺構全体図 (1:200)



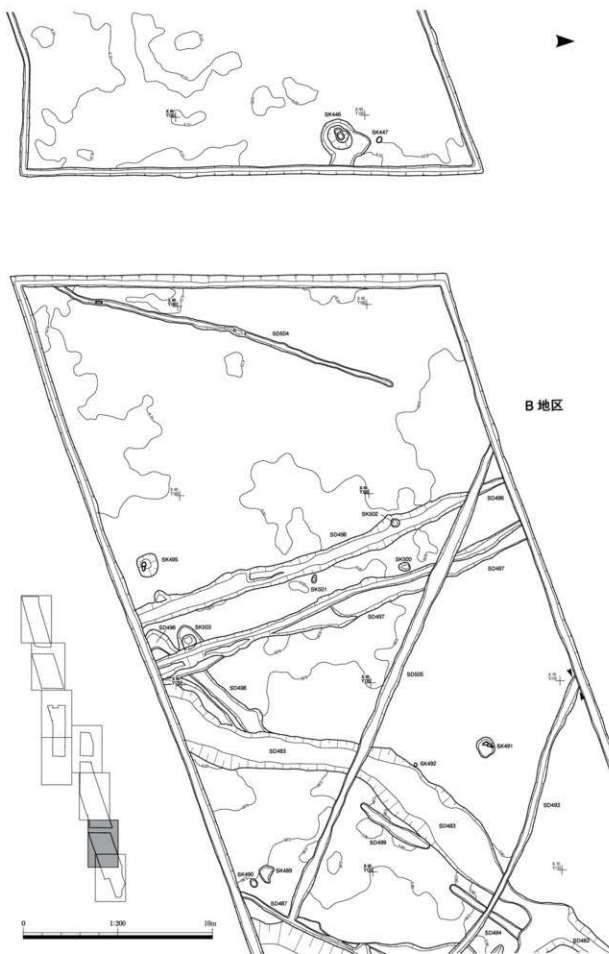
B 地区



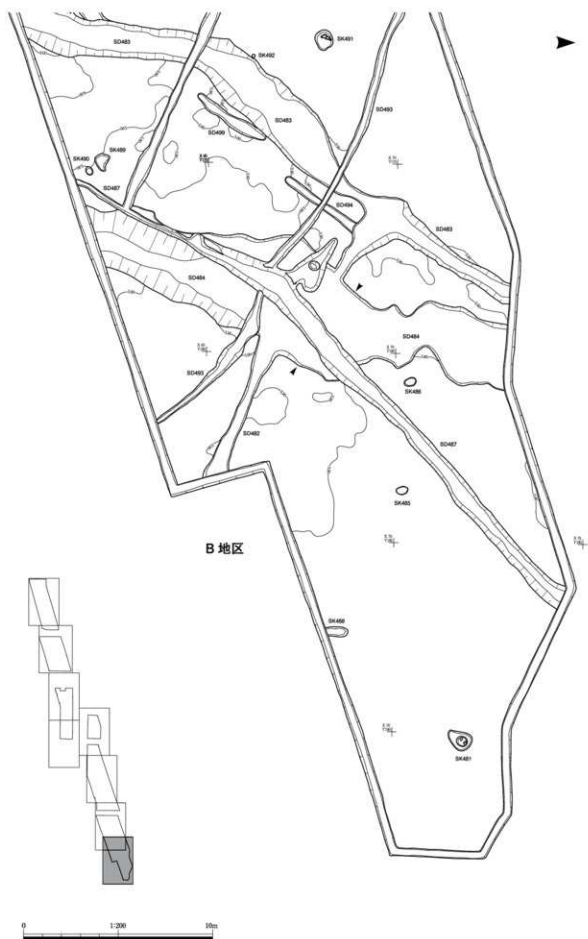
第66図 安吉遺跡 遺構全体図 (1:200)



第 67 図 安吉遺跡 遺構全体図 (1:200)



第68図 安吉遺跡 遺構全体図 (1:200)

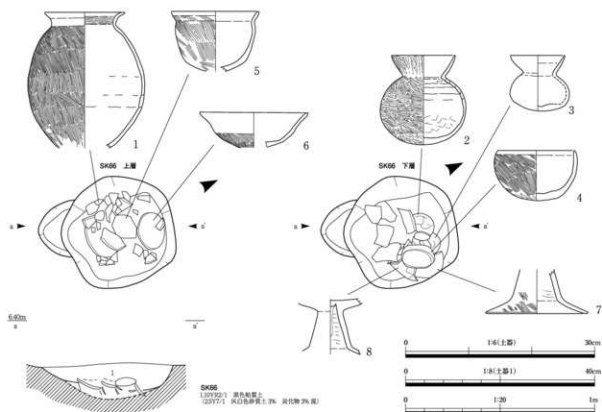


第 69 図 安吉遺跡 遺構全体図 (1:200)

B 包含層出土遺物

土器(第86図, 図版68)

中世以前の遺物として、縄文土器(9)、古墳時代土師器(10~13)、古代土師器(14~21)、須恵器(22~32)が少量だが出土している。古墳時代の遺物はA地区を中心に出土し、SK66が当該時期の遺構として確認されている。古代の遺物は確認されていないが、遺物はA地区東地区及びB地区から出土している。9は条痕の深鉢口縁部で、縄文時代晩期のもの。10は壺型のミニチュア。11・13は壺の底部で、弥生時代終末~古墳時代にかけての時期のものか。14~18は土師器碗で、15は黒色土器。17は底部に回転糸切り痕が残る。いずれも小片で、磨滅している。19~21は甕底部。22~28は須恵器杯で、概ね8世紀後半~9世紀代のものか。22はTK43~MT85併行のもの。29は杯蓋、30は瓶、31は双耳瓶。



第70図 安吉遺跡 遺構実測図
SK66

(2) 中近世

A 溝

1号流路(SX1, 第73・86・89・90図, 図版68・73・75)

A地区東端に位置する谷状地形。Y117付近から東側に向かい落ち込み、ほぼ埋まった後、SD2・SD11・SD12に切られる。埋土中位～下位にかけて土師器、須恵器、珠洲(138・142・154)などの遺物が出土する。土師器、須恵器は磨滅した小片で混入と考える。138は甕、142は壺肩部、154は鉢。154は内湾気味に立ち上がる器形で、卸目はなく1期のものか。

2号溝(SD2, 第76・81・91・93～95図, 図版61・74・79・81)

A地区東地区、中央地区を貫く東西溝で、長さ140mにわたり検出している。中央地区SD201及び、2004年度大門町調査のB地区(市道生源寺赤井線部分)SD42と同一遺構である。調査区内では最も新しい遺構で、II層途中から掘り込む近世以降の溝である。埋土は黄灰色粘質土を基調とする。出土遺物は、須恵器、中世土師器、珠洲(147・174・175)、青磁、越中瀬戸(232・233・238・239・244)、伊万里(261)、唐津(267)、木簡(294)がある。174・175は珠洲播鉢で、5本1単位の卸目が施される。175は内面及び断面にススが付着する。232・233・238・239は越中瀬戸皿で、232・233は見込みに16弁菊の印花が押捺される。238・239は高台裏に墨書がみられる。244は4本1単位の卸目を施された越中瀬戸播鉢で、17世紀代のもの。261は伊万里の染付皿。267は蛇の目釉割きの銅緑釉の皿で、内野山窯系のもの。294は埋土上面で出土した短冊形の木簡で、下端及び両側辺は欠損している。「七郎右衛門反わか手反」と読める。「七郎右衛門の田、その子の田」の意味で、水田の持ち主を表記したものとみられる。書体は近世のものに類似する¹⁰⁾。アスナロ材。

6号溝(SD6, 第74・91・95図, 図版74・81)

A地区東地区Y113付近に位置する南北溝で、SD11に切られる辺りで西側へ屈曲する。断面は逆台形を呈し、幅約2m、深さ0.45mを測る。埋土は暗褐色シルト、黒褐色粘質土を基調とする。埋土下位から中世土師器、珠洲(176)、漆器(273)、焼石が出土する。176は6本1単位の卸目が施された播鉢で、外面にススが付着する。273は漆器椀で、内外面ともに水銀朱を用いた朱漆で丸に扇とみられる文様が描かれる。

11号溝(SD11, 第73・74図, 図版61)

A地区東地区の南東角に位置し、SX1に流れ込む。調査区外に延び、部分的な検出であるが、15m南側をSD12が併走する。SD12との間は、III層上面に黄灰色粘質土を張った石敷きの中州状になっており、拳大の礫に混じり珠洲が出土している。道路側溝の可能性がある。出土遺物は土師器、珠洲、箸状の木製品がある。

44号溝(SD44, 第74・75・78・86・87・89～91・93・98図, 図版61・68～70・73～75・77・86)

A地区東地区Y102付近に位置する南北溝で、1m西側をSD46が併走する。SD2、SD46、SK53に切れ、SD55を切る。SD46との間に、長さ1.5mの範囲で拳大の礫を含むにぶい黄橙色砂質シルトを盛った石敷箇所がみとめられる。この盛土の下部でSD55の東端が検出されており、SD55を埋めて盛土を施していると考えられる。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土を基調とし、断面は逆台形を呈する。埋土中位～下位にかけて土師器、須恵器、中世土師器(33～35)、珠洲(124・133・156・177)、白磁、瀬戸美濃(216)、越中瀬戸、伊万里、唐津、銅銭(322)が出土する。33～35は14世紀後半～15世紀にかけてのものか。156は4本1単位の卸目が施された水平口縁の播鉢で、IV期か。216は灰釉の合子とみられ、底部に回転糸切り痕が残る。322は元豊通寶。

46号溝 (SD46, 第74・78・86・87・89～91・93・94図, 図版61・68・73～75・77～79)

A地区東地区中央付近に位置する南北溝で, SD44の西側を併走する。SD2に切られるが, SD44, SD55, SD56, SK49, SK58を切る。SD44とは切り合い関係があるが, 埋土が類似すること, 中州状の箇所に石敷があることなどから, 大きな時期差ではなくほぼ同時期に機能していたと考えられる。埋土は黒褐色粘質土を基調とする。出土遺物は, 土師器, 須恵器, 中世土師器, 珠洲(123・132・151・152・157・178), 青磁(93), 瀬戸美濃(198・204), 伊万里, 唐津(264)がある。93は青磁碗で, 見込みに蓮花とみられる花文が型押しされる。15世紀代のものか。151・152・157は珠洲播鉢で, 内傾する口縁部を持ち, V期に比定できる。151は口径17.6cmの小鉢で, 口縁部に櫛目波状文を施さず, 卸目の粗なものである。198は天目茶碗。204はSK179出土の破片と接合した灰釉の皿で, 底部に糸切り痕を残す。264は碗底部で, 高台裏に「吉」の墨書がある。

50号溝 (SD50, 第74・90・93図, 図版61・75・77・79)

A地区東地区Y100付近に位置する南北溝で, X40付近で西側へ90°屈曲する。埋土は黒褐色粘質土を基調としており, 屈曲部から西側は緩やかに浅くなる。SD50の西側は微高地状となっており, 建物としては捉えられないが柱痕の残る柱穴状の土坑をまとめて検出している。埋土中位～下位にかけて, 土師器, 珠洲(158), 青磁(98), 瀬戸美濃(212), 越中瀬戸(221), 木製品が出土する。98は青磁碗。158は珠洲播鉢で, 外傾する方頭口縁で, III～IV期頃のものか。212はSK68出土破片と接合した灰釉の瓶で肩部に3条の併行沈線が巡る。肩部内面に指押さえによる粘土接合痕が残る, 14世紀代のものか。木製品は長さ15cmの板材である。

55号溝 (SD55, 第74・79・86～88・90・91・98図, 図版68・69・72・73・75・77)

A地区東地区中央X41付近に位置する東西溝。SD44, SD46, SK110に切られ, SD108, SK68, SK179を切る。東端のSD46とSD44の間は, 埋った後に盛土され石敷とされており, 人為的に埋め戻されたと考えられる。埋土は黒褐色粘質土を主体としている。埋土下位から珠洲(105・143・146・162・163・179), 青磁(94), 木製品, 銅銭(323)が出土している。94はSK117出土破片と接合した蓮弁文の碗で, 被熱している。105は珠洲大甕。143はV期とみられる壺で, SK179出土破片と接合した。162は口縁に櫛目波状文を巡らせた播鉢で, V期のもの。323は銅銭で, 鑄により銭種は不明。木製品は底面から板材と下駄が出土している。

56号溝 (SD56, 第74・78・87・95図, 図版70・83)

A地区東地区に位置する東西溝で, SD55の南側を併走する。西側が浅く, 東端のSD46に切られる辺りが最も深い。埋土は黒褐色粘質土を基調としており, 埋土中位～下位にかけて, 土師器, 中世土師器(36), 珠洲, 木製品(274)が出土する。36は14世紀後半～15世紀のものともみられ, 被熱している。274は, 漆器皿で, 内面に朱漆で丸に巴文が描かれる。樹種はブナ属。

177号溝 (SD177, 第79図)

A地区東地区北辺に位置する東西溝で, SD108, SK68を切り, SK49, SK51, SK59に切られる。調査区外北側へ延びるが, B地区西地区へは続かない。埋土は黒褐色粘質土を基調とし, 下位はビート状の植物遺体を含む。埋土下位から珠洲壺胴部片が出土する。

203号溝 (SD203, 第73・89・91・96図, 図版61・74・75・84)

A地区中央地区南東角に位置する東西溝で, Y75付近で90°南へ屈曲する。1～3mの間隔をあけて北・西側をSD204が併走しており, SD204とともに南側を二重に囲む。埋土中位～下位にかけて土師器, 須恵器, 珠洲(126・171), 白磁, 青磁, 瀬戸美濃, 木製品(305)が出土する。171は

珠洲播鉢で、水平口縁の端部に櫛目波状文を巡らすV期のもので、6本1単位の卸目を密にひく。305は径9.7cmのヒノキ材の円形板で、両端に綴り皮が残る。曲物の底板か。

204号溝（SD204、第73・75・87・89・92・93・95・96図、図版60・61・69・74・76・77・81～84）

A地区中央地区の南東角に位置する東西溝で、SD203の外側を併走し、Y73付近で90°南へ屈曲する。SD203とともに南側を二重に区画する。東側は2004年度大門町調査のB地区（市道生源寺赤井線部分）SD30へつながる。北側から90°屈曲して西方へのびるSD240を切る。埋土中位～下位にかけて、中世土師器（49・50）、珠洲（127・128・181～183）、青磁（88・89）、瀬戸美濃（199）、越中瀬戸、木製品（277～282・297）などの遺物が出土した。49・50は中世土師器皿で、口縁部に一段の横ナデを施す。49は平坦な底部からやや直立気味の口縁が立ち上がる器形で、14世紀代のものか。88は青白磁の瓶類で、櫛状具による唐草文が施される。軸は水色を帯びた白色で、いわゆる梅瓶とみられる。182は珠洲播鉢で、24cm幅に8本1単位の卸目が密にひかれ、V期以降のものか。280は総黒の漆器皿、278は内面に朱漆で鶴とみられる文様が描かれる漆器椀。277・282は高めの高台に腰の張った器形の漆器椀。いずれも樹種はブナ属。297はスギ材の杓子形木器。

240号溝（SD240、第74・75・87・89・90・92～98図、図版6・60・69～71・73～77・79・81・83～86）

A地区中央地区から西地区へ抜ける東西溝。Y77付近で北から90°屈曲する。Y76～77付近の南北辺は、当初別の遺構としてSX206としていたが、東西辺の土層観察から一連のものとして判断し、SD240の一部とした。SD240は、北西方向を方形に囲む区画溝の一部と考えられる。南東方向を区画するSD204に切られるが、出土遺物に大きな時期差はない。埋土中位～下位にかけて中世土師器（51・64～68）、珠洲（129・148・159・184・185）、白磁（83）、青磁（90）、瀬戸美濃、瓦質土器、越中瀬戸（218・227～229・245）、八尾（254）、伊万里（258）、唐津、木製品（275・276・293・298・299・303・308）、石製品（313）、金属製品（317）などの遺物が出土している。中世土師器は、概ね15世紀代のもので、51は口縁部にスガが付着する。83は白磁小杯で、杯部の途中で屈曲し、口縁部は外反気味に立ち上がる。14世紀後半頃のものか。159は珠洲播鉢で、4本1単位の卸目を密に施文する。V期のもの。内面にスガが付着し、被熱している。184も内面及び断面にスガが付着しており、被熱資料。218は底部糸切り痕の小壺。227～229は越中瀬戸皿。227は灰軸の丸皿で、高台は露胎だが、内面は施釉され、見込みにおそらく二重16弁菊の印花が押捺される。被熱資料。275・276は朱漆で文様が描かれる漆器椀。276は扇、275は鶴とみられる。293は頭部を山形にした長さ32.5cmのスギの板材で、下端の一部と右側辺は欠損する。「□(カン) 般若十六善神□(護)」と墨書される。大般若転読法会の後にもう護符で、釘などで玄関先などに打ち付けておくものである¹⁷⁾。293の頭部にも釘孔とみられる小孔があく。裏面下半は削り痕がみられる。308は挟りのある台形状の部材。303は綴り皮の残る円形板で、曲物などの容器の底部か。ヒノキ材。313は梵字とみられる線刻のある板石であるが、表面の風化が激しい。317は長さ14.5cmの刀子。

274号溝（SD274、第74・95図、図版6・82）

A地区中央地区北西角に位置する南北溝。SD240（SX206）、SD275と一連の遺構で、北側を区画する南北辺の可能性ある。埋土中位から漆器（283）が出土した。283は、内湾する器形で、見込みに朱漆で蝶が描かれた皿である。ブナ材の木胎に、炭粉下地、漆1層塗りのはり用品である。

275号溝（SD275、第74・88図、図版72）

A地区中央地区北西角に位置する南北溝で、SD274同様方形区画の一边である可能性がある。埋土は褐色粘質土、黄灰色粘質土、黒褐色粘質土の水平堆積である。遺物は埋土中位から珠洲（112）

が出土している。112は短頸でくの字に屈折する口縁部の甕で、端部が方頭を呈するV期のもの。

276号溝（S D276, 第75・90図, 図版75）

A地区中央地区西よりに位置する東西溝で、東端をS D204に切られる。西端は浅くなりY66付近で途切れるが、農道をはさみA地区西地区のS D303と同一遺構の可能性ある。埋土は褐灰色粘質土を基調とし、埋土中位で土師器、珠洲（160）が出土する。160は、6本1単位の卸目を密に施す播鉢で、V期に比定される。

297号溝（S D297, 第74・95図, 図版6・83）

A地区中央地区東半の東西溝。南方を二重に区画するS D203とS D204の間に位置し、両者に切られる。埋土は黒褐色粘質土、炭化物混じりの黒色粘質土からなり、下層上面から漆器（285・286）が出土する。285は内外面ともに朱漆で簡略化された鶴丸文を描いた椀。286は内外面とも赤色の椀で、器壁は薄く、内面下部に段を有する。15世紀後半頃のものか。いずれもブナ属の木胎に、炭粉下地、漆1層塗りという普及型漆器であるが、上塗りには水銀朱による朱漆を用いている。

301号溝（S D301, 第73・88・93・96図, 図版62・72・77・84）

A地区西地区西半に位置する南北溝で、S D302の西側1mを併走する。S D301を境に西側は遺構が稀薄となる。西側肩には木杭列がみられ、ある程度埋まった後、黒褐色粘質土が一気に堆積しており、S D302とはほぼ同時代の遺構と考える。埋土中位～下位にかけて、中世土師器、珠洲（114）、白磁、瀬戸美濃（201）、越中瀬戸、伊万里、唐津、木製品（307）などの遺物が出土する。114はコの字状の形態を保つ長頸の口縁部の甕で、II期か。201は灰釉の椀。307は方形の挟りを持つアスナ口材の板材で、別材と組み合わせられていたと考えられる。

302号溝（S D302, 第73図, 図版62）

A地区西地区西半に位置する南北溝で、S D301の東側を併走する。埋土はビート状の植物遺体を含む黒褐色粘質土で、流れは緩やかであったと考えられる。埋土中から珠洲、青磁、瓦質土器、越中瀬戸、近世陶磁器が出土しており、S D302は中世以降近世の時代の溝と考えられる。

304号溝（S D304, 第75・96図, 図版62・85）

A地区西地区東端に位置し、幅2.5m、深さ1.16mを測る断面V字状の南北溝である。S D303を切り、S D240に切られる。埋土は黒褐色粘質土を基調とし、埋土中から珠洲、木製品（296・301）が出土する。296は連歯下駄で、かかと部分が欠損する。301は円形板。いずれもヒノキ材。

312号溝（S D312, 第74・83・87図, 図版69）

A地区西地区東半に位置する南北溝で、Y53付近で東へ90°屈曲し、東端はS K305に流れ込む。S K305をはさみ東側のS D303とは一連の遺構の可能性ある。S K341、S K348、S K349を切る。埋土は黒褐色粘質土を主体とし、埋土中位～下位にかけて中世土師器（41）、珠洲が出土する。41は底部に糸切り痕が残るロクロ成形の皿で、器壁は薄く体部が直線的に開く。15世紀後半のもの。

419号溝（S D419, 第75・87・94図, 図版62・69・79）

B地区中央地区に位置する南北溝で、緩やかな弧を描く。約1.5m西側をS D420が併走する。埋土は黒褐色砂質シルトで、下層は粘性が強くなる。埋土中から中世土師器（77）、珠洲、青磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、伊万里（259）、板状金属製品が出土しており、中世以降近世の溝と考えられる。77は口縁部内外面にタール状のススが付着しており、灯明皿に使用されたものと考えられる。259は小ぶりの染付椀で、丸型の湯飲み椀とみられる。18世紀代のものか。

421号溝（S D421, 第75・93図, 図版68・79）

B地区中央地区南辺に位置する。SD 419, SD 420 に切られ、調査区外へのびる。Ⅲ層上面で検出しているが、深さ 0.17 m と浅く削平を受けているとみられる。埋土は黒褐色粘土質シルトを主体とし、須恵器、中世土師器、珠洲、越中瀬戸 (231)、伊万里が出土する。231 は鉄軸の内壳皿。

453号溝 (SD453, 第75・89図, 図版74)

B地区中央地区南辺に位置する東西溝で、SD 454 に西端を切られる。埋土は黄灰色粘質シルトを基調とし、埋土中から珠洲 (125) が出土する。125 は珠洲壺底部である。

454号溝 (SD454, 第75・91・93図, 図版62・75・79)

B地区中央地区西端に位置する南北溝。西側肩に木杭を打ち板材を渡した護岸施設があり、板材には丸釘が打ち込まれていた。このため、近世以降近代の所産と考えられる。埋土は黒褐色粘土質シルト、黄灰色粘土質～砂質シルトで、埋土中から珠洲 (161)、青磁、瀬戸美濃、越前、越中瀬戸 (222・242・246)、伊万里が出土している。161 は幅 2.6 cm 本 1 単位の卸目を密に施す挿鉢で、口縁端部は内傾する。V期のものか。242 は底部に糸切り痕を残す鉄軸の灯明受皿。底部に重焼き痕がある。

487号溝 (SD487, 第75・87・90・93・98図, 図版75・77・79・86)

B地区東地区東端に位置する南北溝で、SD 484 を切る。SD 493, SD 505 との前後関係は不明で、ほぼ同時期の近世以降の所産と考えられる。埋土中から土師器、珠洲 (153)、青磁 (99)、越前、越中瀬戸 (223～225・234)、肥前陶磁器、鉄石英の原石、金属製品 (328) などが出土する。224・225 は火入れて、高台付近から 224 は直線的に、225 は丸みをもって立ち上がる。両者とも鉄軸が施され、見込みに重焼き痕が残る。225 は SD 493 出土の破片と接合している。234 は見込みに菊の印花文が押捺された皿で、16世紀後半～17世紀代のもの。328 は厚さ 0.1 cm の板状で、釘が残る。

493号溝 (SD493, 第75・93図, 図版78・79)

B地区東地区東端に位置する東西溝で、SD484 を切る。SD487 との前後関係は不明で、ほぼ同時期のものと考えられる。SD487以西では 8 m 南側を SD505 が併走している。埋土は黄灰色砂質シルトを基調とし、埋土中から土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸 (225・240)、肥前陶磁器が出土する。240 は鉄軸の内壳皿で、高台裏に「か□」の墨書がある。

B 土 坑

3号土坑 (SK 3, 第76・89・92図, 図版63・73・76)

A地区東地区東端に位置する楕円形土坑で、東へ落ち込む谷状地形 (SX 1) の西側肩にあり、SD 2 に切られる。埋土は黒褐色シルトを基調とし、4層下面から珠洲 (136・137・186) が出土した。136・137 は壺底部で、136 は内面にススが附着する。137 の底部は不整形形を呈する。186 は鉢底部で、内面の磨減が著しく卸目は不明である。内面及び断面にススの附着した被熱資料である。

4号土坑 (SK 4, 第76図)

A地区東地区東端に位置する長方形土坑。一部、調査区北側へかかる。東半分は約 0.1m 深くなる。埋土はブロック土混じりの黒褐色シルトが主体で、人為的に埋め戻した可能性がある。同様な埋土の長方形土坑 SK 5 が西側 5 m に位置しており、ほぼ同時期の遺構と考える。SK 5 からは中世土師器が出土しており、SK 4 は出土遺物はないが中世以降のものと考えられる。

38号土坑 (SK38, 第77・87図, 図版63・77)

A地区東地区中央付近に位置する不整形の土坑で、SD 2, SK 53 に切られる。北半 1.8 × 1.5 m の範囲では、埋土中位～下位に炭化物が層状に堆積する。この炭化物層より上部では、1 cm 大の炭化物粒の混入がみとめられた。また、炭化物層直上から中世土師器、珠洲、青磁 (100) が出土した。

39号土坑 (SK39, 第76図, 図版65)

A地区東地区中央付近に位置する。長さ1.64m, 幅1.55m, 深さ1.10mを測る円形土坑で, 埋土は炭化物混じりの黒色粘質土を基調とする。筒状に掘り込むことから, 素掘り井戸と考えられる。

42号土坑 (SK42, 第76・87・96図, 図版69・70・77・84)

A地区東地区中央付近, SK39の北側1mに位置する円形土坑。南側肩から青磁碗(95), 中央底面から中世土師器(37・38・42), 曲物(306)が出土している。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土で, 下位はビート状の植物遺体を含む。37・38はタール状のスガ口縁部に付着しており, 灯明皿として使用されていたとみられる, 14世紀後半のもの。42は器壁が薄く, 体部が直線的に開く15世紀後半のものか。95は見込み成型による花文のある青磁碗で, 14世紀代のもの。306は直径約13cmの底板の残るヒノキ材の曲物で, 側板の下端にタガを巡らせる。側板と底板は釘で結合される。

43号土坑 (SK43, 第76図, 図版63)

A地区東地区中央付近に位置する。底面に10~20cm大の円礫が敷かれたような状態で出土した。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土の単層で, 出土遺物はない。

51号土坑 (SK51, 第78・87・98図, 図版6・63・71・86・87)

A地区東地区中央付近に位置し, SK49に切られ, 楕円形を呈するとみられる。埋土中に45×20cmの樹皮を敷き, その上に中世土師器皿(78)を正位で据える。樹皮の下からは銅銭6枚(314)が重なった状態で出土しており, いわゆる「六道銭」と考えられることから, 墓の可能性が高い。埋土は褐色粘質土の単層で, 樹皮の上下で土質は変わらない。樹皮は非常に薄く, 腐食が進んでいたため取り上げは出来なかった。78は口縁部に一段の横ナアを施し, 器壁は薄く仕上げられる。15世紀代のものか。314は, 6枚の銅銭が密着しており, 銭種は永楽通寶2枚, 皇宋通寶2枚, 熙寧元寶1枚, 不明1枚の渡来銭からなる。

53号土坑 (SK53, 第77・88・89図, 図版72・73)

A地区東地区中央付近のSK38西側に隣接する楕円形土坑。SD44, SK38を切り, SK52に切られる。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土を主体とし, 埋土下位から珠洲(106・135)が出土する。106は壺口縁部で, IV~V期のものか。135は静止糸切り痕が残る壺底部。

59号土坑 (SK59, 第79・97図, 図版85)

A地区東地区西半に位置する。SD177の南側肩を切る楕円形土坑である。埋土は灰白色粘質土がブロック状に混じる黒褐色粘質土で, 中に炭化物が層状に堆積する。底面に突き刺さるような状態で砥石(309)が出土した。309は, 角柱状の砥石で, 4面全てが砥面として使用されている。

67号土坑 (SK67, 第80・81・88・90・97図, 図版65・72・73・75)

A地区東地区西端に位置する。SD56の西端にあたり, SD56, SK178を切る。深さ1.38mを測り, 筒状に掘り込む。埋土はビート状の植物遺体を含む黒色粘質土が主体をしめ, 埋土中位から下位にかけて土師器, 中世土師器, 珠洲(110・116~118・144・145・155), 硯(312)が出土する。素掘りの井戸と考えられる。壺の口縁部は少なくとも3個体あり, 116~118はIII~IV期に比定出来るか。110は叩打成形の中壺で, V期のもの。144・145はロクロ成形の壺で, 144は, 口縁部内外面にスガが付着する。IV期のものか。155は10本1単位の鉚目を施す播鉢。312は流紋岩製の硯片。

68号土坑 (SK68, 第79・89・92・96・98図, 図版6・64・73・74・76・77・84~86・88)

A地区東地区西半に位置する不整形土坑で, SD55, SD177に切られる。SK68の埋土上面は, 薄く炭化物混じりの黒褐色粘質土が盛土されており, 硬化面となっていた。この硬化面を剥がした面

で、SK68の平面プランを検出している。埋土は灰白色・灰黄褐色土と炭化物混じりの黒褐色粘質土が互層になっており、黒褐色粘質土上面を中心に中世土師器、珠洲(130・139・187)、瀬戸美濃、木製品(300・302)、焼石などの遺物が出土した。また、埋土上面の硬化面から五鈷杵(316)、西側肩から銅銭(315)、瀬戸美濃の瓶(212)が出土しており、墓の可能性はある。187は6本1単位の卸目を密に施す掘鉢で、底部外面にススが附着する。300は長さ8.6cmの板材で両端を削りだす。315は11枚の銅銭が重なった状態で出土しており、「六道銭」と考えられる。乳元重寶1枚、元豊通寶2枚、元祐通寶1枚、至道元寶1枚、景祐元寶1枚、皇宋通寶2枚、景德元寶1枚、不明2枚の渡来銭からなる。316は柄の上下に楯状の刃がつき、この中央の刃を囲むように四方に鈷がつく五鈷杵で、密教法具の一つである。柄の部分で折れており、片側端部のみが出土した。

79号土坑(SK79, 第76・88図, 図版64・72)

A地区東地区西端に位置する円形土坑。埋土は灰黄色シルト混じりの黒褐色粘質土の単層で、埋土中から土師器、珠洲(119)、焼石が投げ込まれたような状態で出土する。119は短頸で、やや丸みをもつ方頭口縁の甕で、IV期のもの。この他に、接合はしないが胴部破片が多数ある。

84号土坑(SK84, 第81・87図, 図版69)

A地区東地区西端に位置する円形土坑で、長径0.69m、短径0.64m、深さ0.69mを測る。埋土中から中世土師器(43)が出土している。43は体部が直線的に開く器形で、タール状のスが口縁部に附着しており、灯明皿として使用されていたと考えられる。15世紀後半頃のものか。

85号土坑(SK85, 第81・87図, 図版69)

A地区東地区西端に位置する円形土坑で、SK176を切る。西からSK78、SK84、SK85とはば2m間隔で直線上に並んでおり、建物の柱穴である可能性が高いが、対になる柱列がないため土坑としている。埋土中から中世土師器(52)が出土している。52は14世紀後半～15世紀のもの。

103号土坑(SK103, 第76・87図, 図版69)

A地区東地区西端に位置する。埋土は黒褐色粘質土、灰黄褐色砂質土からなり、黒褐色粘質土下面で中世土師器(69～71)が出土した。70・71は、器壁がやや厚く丸底で、15世紀代のものか。

110号土坑(SK110, 第79図)

A地区東地区西半に位置する長方形土坑で、SD55・SD56・SD109を切り、南端をSD2に切られる。埋土は炭化物が多量に混じる黒褐色粘質土で、埋土中位～下位にかけて珠洲が出土する。

115号土坑(SK115, 第80・81図)

A地区東地区西半に位置する直径0.28mの円形土坑で、SK116に切られる。径18cmの柱根が残る。柱根は芯持ち材で、底面は芯にむかって放射状に削る。上部は欠損している。

120号土坑(SK120, 第81・90図, 図版71)

A地区東地区西半に位置する不整形土坑で、埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土の単層である。南側の底面が一段窪んだ部分から珠洲の壺(141)が潰れた状態で出土した。141は長頸壺で、体部を綾杉状叩打で仕上げ、頸部に櫛目弧文、口縁端部に櫛目波状文を有する。Ⅲ期に比定される。

133号土坑(SK133, 第77図, 図版64)

A地区東地区南西角付近に位置する円形土坑で、SK132を切る。埋土は炭化物混じりの黒色粘質土で、柱根が残る。柱根は径10cmの芯持ち材で、底面は平坦で加工痕はない。

134号土坑(SK134, 第77・87図, 図版69)

A地区東地区南西角付近に位置する直径0.3mの円形土坑。埋土中から中世土師器(79)が出土す

る。79は平坦な底部から丸みをもった体部が立ち上がる。器壁は薄く、15世紀代のもの。

143号土坑（SK143, 第81・92図, 図版76）

A地区東地区南西角付近に位置する。底面中央が直径0.16mの円形に一段深くなり、柱痕とみられる。埋土中より珠洲（189）が出土する。189は9本1単位の卸目を密に施す摺鉢底部。

154号土坑（SK154, 第80・81図, 図版64）

A地区東地区西端に位置する円形土坑で、柱根が残る。柱根は径20cmの芯持ち材で、底面は芯にむかい放射状に削る。

155号土坑（SK155, 第81図, 図版64）

A地区東地区西半に位置する円形土坑。底面に0.04mの炭化物層が認められ、炭化物下の床面は硬化していた。出土遺物はない。

179号土坑（SK179, 第74・78・86・87・90・91・93・95図, 図版64・68・69・71・75・77・78・82・85）

A地区東地区西半に位置する長楕円形を呈する土坑。SD2, SD55, SD56に切られる。埋土は黒褐色粘質土を基調とし、中世土師器（45）、珠洲（143・164）、青磁（96）、瀬戸美濃（204）、木製品（288～292）が出土した。墓の可能性が考えられる。北側底面直上で漆器4点がまとまって出土している。96は、見込み型押しによる花文がみられる。外面は無文で、全面に施釉後底部外面の釉を輪状に削り取る。14世紀後半以降のもの。143はSD55出土破片と接合した壺で、V期か。164は直線的に開く器体に水平口縁をもつ。口縁端部と内面に横位の櫛目波状文を施しており、卸目は低い位置からひかれる。IV期に比定される。204はSD46出土破片と接合した灰釉の皿。292は端部が緩やかな弧を描くヒノキ材の薄い板材で、折敷とみられる。289～291は内外面赤色の椀で、288は内外面とも黒色漆の椀である。289は端反タイプで、器形分類では高級な漆下地漆器と同形だが、安価なブナ材を用い、炭粉沈下地に漆一層の簡素な普及型で、上塗りのみ朱漆を用いる。

205号土坑（SX205, 第88・93図, 図版65・72・79）

A地区中央地区東端に位置し、南端はSD234を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土を主体とする、溜池状の大型土坑である。埋土中位から下位にかけて、土師器、珠洲（113）、越中瀬戸（230）、唐津が出土する。113は方頭くの字口縁をもつ甕で、Ⅲ期か。230は鉄釉が施される皿で、被熱資料。

210号土坑（SK210, 第95図, 図版82）

A地区中央地区北辺に位置する円形土坑で、SD209に切られる。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土、黒色粘質土、灰白色砂混じりの黒色粘質土からなり、最下層から椀（287）が出土している。287はロクロ目が残り、外底面に柿渋が塗布される。

213号土坑（SK213, 第82図）

A地区中央地区南辺、SD203・SD204に二重に囲まれた内部に位置する円形土坑。埋土は黒褐色粘質土を基調とし、筒状に掘り込まれており、素掘り井戸の可能性が考えられる。

217号土坑（SK217, 第82図, 図版65）

A地区中央地区南辺、SD203・SD204に囲まれた内部に位置する。SK213の北側約2mにある円形土坑で、直径1.10mを測る。深さ1.42mをほぼ垂直に掘り下げており、井戸と考える。埋土最下層はピート状の植物遺体を多く含む。埋土中位から下位にかけて珠洲が出土している。

260号土坑（SK260, 第82図, 図版65）

A地区中央地区南辺に位置する方形土坑で、調査区外南側に延びる。埋土は黒褐色粘質土を基調と

し、東半は埋土中位に炭化物が層厚0.06m堆積する。炭化物層から中世土師器、珠洲が出土する。

267号土坑（SK267, 第82・87図, 図版69）

A地区中央地区南辺, SD203・SD204に区画された内側に位置し, SK215を切り, SK283に切られる。埋土は褐灰色粘質土単層で, 中世土師器(39), 珠洲甕胴部片が出土している。39は口縁部に一段の横ナデを施す, 14世紀後半～15世紀代のものか。

277号土坑（SK277, 第82・87・88・92・96図, 図版69・72・76）

A地区中央地区西半に位置し, SD204, SD276に切られる。埋土は灰黄色砂質土, 黒褐色粘質土で, 最下層はピート状の植物遺体を含む溜池状の大型土坑である。埋土中位から下位にかけて土師器片, 中世土師器(53), 珠洲(108・190・191), 木製品(295)が出土する。53は口縁端部にタール状のススが付着し, 灯明皿として使用されていたと考えられる。108は大甕で, 口縁はくの字状に深く折り返し, 端部を水平に挽きだしており, II期のものか。190は直線的にひらく器形に, 11本1単位の卸目をひく。191はやや内湾して立ち上がる器形に, 12本1単位の卸目を密にひく。295は, 連歯下駄の前歯の部分で, 後ろ半分は欠損する。樹種はスギである。

278号土坑（SK278, 第82・88図, 図版72）

A地区中央地区南西角付近に位置する円形土坑。西半分が一段深くなり, 底面中央よりは径0.14mの円形にさらに深くなり, 柱痕跡とみられる。埋土中から中世土師器, 珠洲(115)が出土する。

293号土坑（SK293, 第82・87・97図, 図版77・85）

A地区中央地区西端に位置し, 西半が調査区外にかかる。埋土は褐灰色粘土質シルト, 黒褐色粘質土, 灰色粘土からなり, 下層にむかい粘性が増す。SD294とは前後関係がなく, 同時期の遺構である。SK293の東側に溜池状の大型土坑SK277があり, SD294でつながっている。SK293の底面は平坦で, SK277より0.1～0.27m深いことから, SD294を通りSK277からSK293へ導水していた可能性がある。埋土中から珠洲, 青磁(104), 石製品(310)が出土している。104は軸が厚く不鮮明だが, 幅の広い蓮弁文を有する椀胴部で, 14世紀～15世紀代のものか。311は両端が欠損する角柱状の砥石で, 4面全てが砥面として使用されている。流紋岩製。

305号土坑（SK305, 第83・93図, 図版65・77）

A地区西地区東半に位置する大型土坑。SD312との間には前後関係はなく, 同時期の遺構で, SD312が流れ込む。底面中央部付近は径約1.4m, 深さ0.92mの円形に深くっており, 北辺から左巻きの渦巻き状に中央部にむけて深くなる。井戸の可能性はある。埋土中から土師器片, 須恵器片, 中世土師器, 珠洲, 瀬戸美濃(206)が出土する。206は灰軸端反皿で, 15世紀後半以降のもの。

342号土坑（SK342, 第83図）

A地区西地区中央付近に位置する円形土坑。底面に樹皮状の植物遺体が層状に堆積する。埋土は灰色粘質土混じりの黒色粘質土単層である。出土遺物はない。

351号土坑（SK351, 第84図, 図版65）

A地区西地区中央付近に位置する楕円形土坑で, SK385を切る。埋土は炭化物混じりの黒色粘質土単層で, 出土遺物はない。深さ0.94mの筒状の掘り込みをもち, 井戸の可能性はある。

365号土坑（SK365, 第83・93図, 図版79）

A地区西地区西半に位置する円形土坑で, 埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土である。埋土中から越中瀬戸(235)が出土している。235は, 見込みに菊花の印花を押捺した皿で, 16世紀後半のもの。

371号土坑（SK371, 第83図, 図版65）

A地区西地区西半に位置する円形土坑で、底面に8～20cm大の円礫が敷かれたような状態で出土した。埋土は黒褐色粘質土の単層である。A地区東地区のSK43でも類似した配石が検出されたが、出土遺物もなく、性格は不明である。

378号土坑（SK378, 第84・87・95図, 図版77・81）

A地区西地区西半に位置する不整形土坑で、南半は調査区外にかかる。埋土は黒色粘質土を基調とし、下層は粘性を増す。埋土中から白磁(84)、木製品(284)が出土した。84は白磁小皿の口縁で、被熱している。284は漆器椀で、内面に朱漆で簡略化された鶴とみられる文様が描かれる。

383号土坑（SK383, 第84・92図, 図版76）

A地区西地区中央付近、SD346の西肩を切る円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土で、底面から珠洲(192)が出土している。192は内面の磨減が著しく不鮮明であるが、1cmあたり3～5本の不定の原体で卸目をひく。内面及び断面にスガが付着しており、被熱している。

442号土坑（SK442, 第85図, 図版66）

B地区中央地区西半、SD435に西・北方を区画された内部に位置する。埋土は黄灰色粘土質シルトの単層で、径約10cmの柱根が残る。SK441, SK443と直線上に並んでおり、掘立柱建物の柱列になるとみられるが、対になる柱列は確認できず、土坑としている。区画溝SD435の方向とも一致しており、何らかの建物があったと考えられる。

446号土坑（SK446, 第85図, 図版66）

B地区中央地区東端に位置する不整形土坑で、一部調査区外にかかる。深さ0.2mの皿状の土坑だが、中央西よりが径0.4mの円形に深くなり、底面に柱根が残る。埋土は黒色粘土を基調とする。

455号土坑（SK455, 第85図, 図版66）

B地区中央地区中央北辺に位置し、一部調査区外にかかる。不整形土坑で、西端が径約1.2mの円形に一段深くなり、井戸の可能性もある。調査区北側へ幅約1.5mの溝が延びる。埋土中から土師器、須恵器、中世土師器が出土する。

468号土坑（SK468, 第85・96図, 図版68・85）

B地区西地区西端に位置する円形土坑で、SD456, SD458に切られる。黒褐色粘土質シルト、灰色細砂の水平堆積である。深さ0.58mを測り井戸の可能性が考えられる。埋土中から中世土師器、木製品(302)が出土した。302は、厚さ0.3cmのスギの円形板で、曲物などの底板とみられる。この他に、厚さ1.0cmの板材が出土している。

C 包含層出土遺物

土器・陶磁器（第87～94図, 図版69～80）

中世土師器(44・48・55～63・73～76・80～82)、白磁(85～87)、青磁(91・92・97・101～103)、珠洲(111・120～122・134・149・150・165～170・172・173・193～196)、瀬戸美濃(197・200・203・207～211・213～215・217)、越中瀬戸(219・220・226・236・237・241・243・248)、瓦質土器(249～253)、肥前陶磁器(255～257・260・262・263・265・266・268・269)などがある。

中世土師器は概ね14世紀後半から15世紀代のものである。44は底部から直線的にひらく器形で、口縁部にタール状のスガが付着しており、灯明皿として使用されていたものであろう。48は口縁部成形のもので、器壁が薄く、直線的にひらく体部をもつ。15世紀後半以降のものか。60～63は口縁部に一段の横ナデを施す小型の皿。81・82は二段のナデを施し、上段はつまみ上げるようになる。

白磁 85～87は、皿底部で、85は黄色味を帯びた軸がかかる。86・87は内底面の釉を輪状に剥ぎ取る。青磁は、全て碗である。91は鍋蓮弁文を有する14世紀代のもの。97は見込みに型押しの花文がある。101は線描きの細蓮弁文を有し、釉は水色味を帯びる15世紀後半のもの。102・103は体部はゆるく内湾し、口縁部が外反するもので、内外面とも無文である。

珠洲は、壺(111・134・149・150)、甕(120～122)、播鉢(165～170・172・173・193～196)がある。111は緩やかに外反する口頭をもつ叩打壺で、口縁端部は肥厚する。Ⅳ期か。120は方頭の直立気味な短頭くの字口縁で、Ⅴ期のもの。122は円頭のくの字口縁で、肩部にヘラ刻みがみられるⅤ期のものか。165・166は外傾口縁でⅣ期に比定される。169は三角頭の内傾口縁をもち、5本1単位の卸目を粗にひく中鉢で、Ⅴ期。172・173は口縁端部に櫛目波状文を巡らすⅤ～Ⅵ期のもの。193～195は幅広の太い原体で密な卸目を施す。Ⅴ期か。196はやや内湾する体部の鉢で内面無文。

瀬戸美濃は、天目茶碗(197・203)、平碗(200)、皿(207～210)、卸皿(211)、瓶類(213～215)、合子(217)がある。197は体部が屈曲しS字状口縁の天目茶碗で、内反り高台をもつ大窯Ⅱ段階以降のもの。200は灰釉の平碗で窖窯後期Ⅲ期か。208・209は灰釉の端反皿。211は口縁端部に内側へ三角形に肥厚させた卸皿で、窖窯後期Ⅳ期のものか。213はやや張る肩部に3条の沈線が巡る灰釉の瓶類である。217は合子の蓋と考えられ、頂部に灰釉がかかる。中心から放射状に五つの楕円形隆帯を貼り付け、間に円形の瘤を貼り付ける。13世紀後半頃ののものか。

越中瀬戸は、小壺(219)、小杯(220)、火入れ(226)、皿(236・237・241)、播鉢(243)、花瓶(248)がある。219は底部に糸切り痕が残る鉄軸の小壺。220は平底の小杯で、無釉である。236・237は見込みに16弁菊の印花文が押捺される皿。241は高台裏に墨書がみられる。243は7本1単位の卸目を放射状にひき、見込みは六角形または巴状にひく播鉢で、17世紀代のものか。248は底部に糸切り痕が残る鉄軸の花瓶で、下膨れ気味の体部がくびれて平底の底部になる。

瓦質土器は、249・250は内湾する体部の肩に1～2条の隆帯を巡らせる。250は2条の隆帯間に花菱文のスタンプが押捺される。251・252は垂直に立ち上がる。250・252は体部上部に窓を有する風炉である。253は緩やかに弧を描き、円盤状を呈する。暖房具等の蓋と類似する⁸⁸。

肥前陶磁器は碗(255～257・265)、皿(260・262・263・266・268)、播鉢(269)である。256は小ぶりの端反碗で、格子文が描かれる。257は口縁部外面に雷文が巡る染付碗。青花の可能性もある。263は白磁型押し角皿。266・268は内底面に蛇の目軸剥ぎする銅緑釉の皿で、内野山窯系のもの。

土製品(第94図、図版80)

土製品(270～272)がある。270は中心に孔のあく栓状のもの。271は鳥形で、底部から頭部にむけて斜めの孔があく。272は径約9cmに復元される羽口片で、外面にガラス質の融解物が付着する。

石製品(第97図)

硯(311)がある。311は硯の小片で、凝灰岩製。

金属製品(第98図、図版86)

楔(325)、煙管(326・327)、銅銭(318～322)がある。325は、厚さ0.8cmの板状で、先端にむかい細くなる。326・327は煙管で、327は吸口で、端部が欠損する。318は永楽通寶(初鑄1408年)、319は寛永通寶(初鑄1636年)、320は開元通寶(初鑄845年)、321は嘉祐通寶(初鑄1056年)、322は政和通寶(初鑄1111年)である。321は322と2枚重なって出土している。319は書体から、寛永13年(1636)～万治2年(1659)鑄造の古寛永と呼ばれるもの。322は篆書の小平銭で、出土例は多い⁸⁹。

4 総括

安吉遺跡は、遺跡のはば中央部を東西に横断する形で、調査を行った。検出した遺構は、古墳時代の土坑 1 基、中近世の溝 92 条、土坑 356 基であり、その大半は中世に属す。出土遺物は土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、中国製陶磁器、瀬戸美濃、瓦質土器、越中瀬戸、肥前陶磁器、漆器を中心とした木製品、砥石などの石製品、青銅製の五鈷杵、銭、刀子などの金属製品等があり、大きく古墳時代中期、14 世紀～16 世紀、17 世紀～18 世紀の 3 時期のものがある。

(古墳時代・古代)

遺跡の位置する射水平野南西部は縄文時代～中世の遺跡が密に分布しており、特に弥生時代後期、奈良・平安時代を中心とする遺跡が顕著にみられる。今回は、古墳時代中期の土器が一括廃棄された土坑 1 基を確認したのみであるが、2004 年の調査でも古墳時代の遺構が確認されており、周辺に当該時期の集落が存在していたとみられる。また、B 地区を中心に古代の土師器・須恵器が出土しているが、調査区内では遺構を確認していない。

(中世・近世)

中世安吉遺跡周辺は、東西神楽川に挟まれている。神楽川は、射水丘陵から流れ出る和田川の下流部の事を指し、旧柳田郷竹原領より神楽川と呼び名を変えて、竹鼻付近で東西に分かれる。安吉遺跡の東側を回り込み北へ流れる本流は、東神楽川と呼ばれ、放生津潟へ流れ込む。西へ流れる西神楽川は放生津城の脇を通り、日本海へ通じていた。現在の和田川は、円池付近で西流し庄川に合流する。この神楽川は、江戸時代には遺跡東側の本田領まで帆掛け船がさかのぼっていたと伝えられており、中世でも物資の輸送・流通のルートとして利用されていたと考えられる。また、陸路としては、天正 13 (1585) 年に豊臣秀吉による佐々成政討伐の際に通ったとされる戸出・中田・水戸田・黒河・花木を抜ける中田道が南側 2.5 km に、旧北陸道が北側の大島地区境を通るなど、主要道が付近を通っていた。安吉遺跡は、こうした水陸双方の交通及び流通の便に恵まれた立地条件下にあったと考えられる。

中世期の安吉遺跡周辺については、2005 年刊行の安吉遺跡の報告書において古地図等から復元図が示されている¹⁰。また、増山城の報告¹¹においても、慶長 10 (1605) 年「越中国絵図」¹² にみえる街道や川の復元がなされている。第 72 図で作成したものは、この増山城版を基に、中世放生津の変遷をまとめた松山氏らの論考¹³において提示された放生津潟・河川流路等を加筆したものである。

遺構は A 地区を中心とし、L 字状に屈曲する区画溝を検出しており、東へ行くに従い稀薄になる。2004 年の調査でも市道生源寺赤井線と本田土合線の交差点付近を中心に、南北方向は遺構が粗になることから、遺跡の中心は交差点付近にあると考えられている。今回の調査では、建物跡を検出することはできなかったが、方形またはコの字状に囲む区画溝 S D 203・S D 204 及び S D 240・S D 274・S D 275 を検出しており、2004 年の調査で「富裕層の屋敷地あるいは居館的性格」を持つと看取された中世安吉遺跡の性格を裏付けるものといえる。S D 203・S D 204 による区画は 30m×40m 以上の東西にやや長い区画である。この他に、S D 203 等と同一方位を持つ溝群があり、いくつかの小区画を形成している。遺跡の核を成すであろう方形区画溝をもつ屋敷地は、2 回以上の切り合いを持ちながら、ほぼ同一方位での造成を繰り返していると考えられる。特記すべき遺構としては、出土遺物から墓坑の可能性のある土坑 3 基が A 地区東地区で検出されている。S K 51・S K 68・S K 179 はそれぞれ形態は異なるが副葬品とみられる土師皿や瀬戸瓶子、五鈷杵、銅銭、漆器などの遺物を伴っており、埋土は炭化物を多く含むもので、方形区画の外側に位置する。

出土遺物は、14世紀後半から16世紀代にかけてのものが主体となり、17世紀～18世紀代のものも一定量ある。中世段階の土器・陶磁器の種類毎の全体に対しての組成でみると、珠洲が48.2%と最も高く、次いで中世土師器が26.2%となる。中国製陶磁器11.5%、瀬戸美濃11.0%と一定量みられ、瓦質土器2.6%、八尾0.5%となる。県内の13世紀後半から15世紀にかけての城館など地域の中核的な遺跡では、京都系土師器が在地化し、土師器の役割が次第に低下する。14世紀末頃より瀬戸が加わり、陶磁器の比率が高まる傾向にある¹⁴。安吉遺跡では、土師器に比して、中国製陶磁器、瀬戸美濃の陶磁器類の比率が高い傾向にあるが、当該時期の県内居館と組成的にはほぼ変わらないと言える。この他に、護符とみられる木簡や、密教法具、六道銭とみられる銅銭など宗教的な遺物が出土している。木簡には「□大般若十六善神□(護か)」と墨書されており、大般若経転読法会の際に出される護符であろうとのことである。

また、漆器椀・皿19点が出土しており、このうち12点について漆塗膜分析を行った。その結果、全てが安価なブナ材を用い、炭粉下地、漆1層塗りの簡素な構造のもので、普及型漆器の典型であった。2004年度調査区出土の漆器7点についての分析でも、同様の結果が出ており、安吉遺跡において、普及型漆器が広く流通していたことが伺える。このうち総赤色漆器は4点21%みられる。赤色漆器は古代ではステータスシンボルであったが、13世紀末頃より寺院を中心に散見され、15世紀代には地方も含め、都市部や寺院、武士階級などで多くを占めるようになるとされており、安価な赤色漆器が農村でみられるのは16世紀半ば以降であるという¹⁵。安吉遺跡出土の総赤色漆器のうち3点は墓坑と考えられるSK179に伴う副葬品である。これらの赤色漆器もブナ材に、炭粉下地、漆1層塗りの普及型漆器であったが、上塗りは普及型のベンガラではなく、水銀朱を用いた朱漆であった。全形がわかる1点は、端反りタイプのもので、器形的には高級漆器と同形をとっており、仏具の可能性も考えられる。

過去の調査結果も含め、中世安吉遺跡は、方形に巡る区画溝(堀)を有する富裕層の屋敷地または居館の性格をもつものと考えられる。時期的には、出土遺物からみて15世紀から16世紀代にかけての頃に全盛があるといえる。中世安吉遺跡が全盛を迎えていたであろう時期に、安吉には「慶国寺」という真言系寺院が存在していたことが、文献史料から明らかになっている¹⁶。史料は「越中国般若野庄之内頭部集福寺堂供養舞樂受茶羅供記録」で、永享7(1435)年9月・10月に越中国射水郡・砺波郡の4つの寺で行われた法要の記録であり、ここに「安吉慶国寺」の記述がある。現在、安吉に寺院はなく、中世後期に廃絶したと考えられている。墓坑の可能性のある土坑が検出されたこと、密教法具である五結杵や、「□大般若十六善神□(護か)」銘の木簡など宗教的な遺物が出土したことは、中世安吉遺跡が寺院の性格を有する可能性を示すと考えられよう。安吉の西1.3kmの八塚C遺跡¹⁷では、コの字状の区画溝(堀)をもつ屋敷地が検出され、堀から「愛染坊常住」と墨書された折敷が出土し、真言系寺院跡と推定されている。八塚C遺跡の区画溝のあり方や、出土遺物の組成などは、安吉遺跡と類似するものがあり、明確な寺院跡と考えられる遺構は検出されていないが、安吉遺跡A地区を含む周辺は「安吉慶国寺」の可能性が高い。

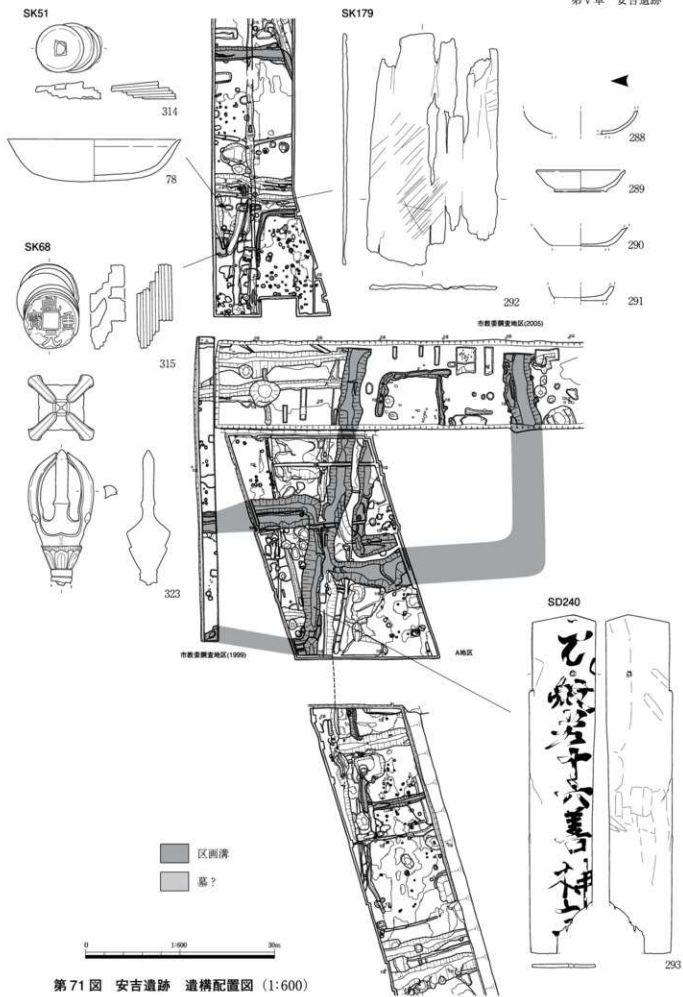
その後、近世になると、東西溝SD2と調査区東側を中心とした溝群のみになる。出土遺物は、越中瀬戸、肥前陶磁器で構成され、越中瀬戸は66.7%と高い比率を示す。SD2からは、越中瀬戸がまとめて出土するが、肥前陶磁器は比して破片が小さく混入の域を出ない。また、SD2からは、水田の所有者を示す木簡が出土しており、16世紀後半以降、17世紀代には中世の屋敷地は廃絶したとみられる。その後は、耕地化し、周辺には水田が広がっていたと想定される。

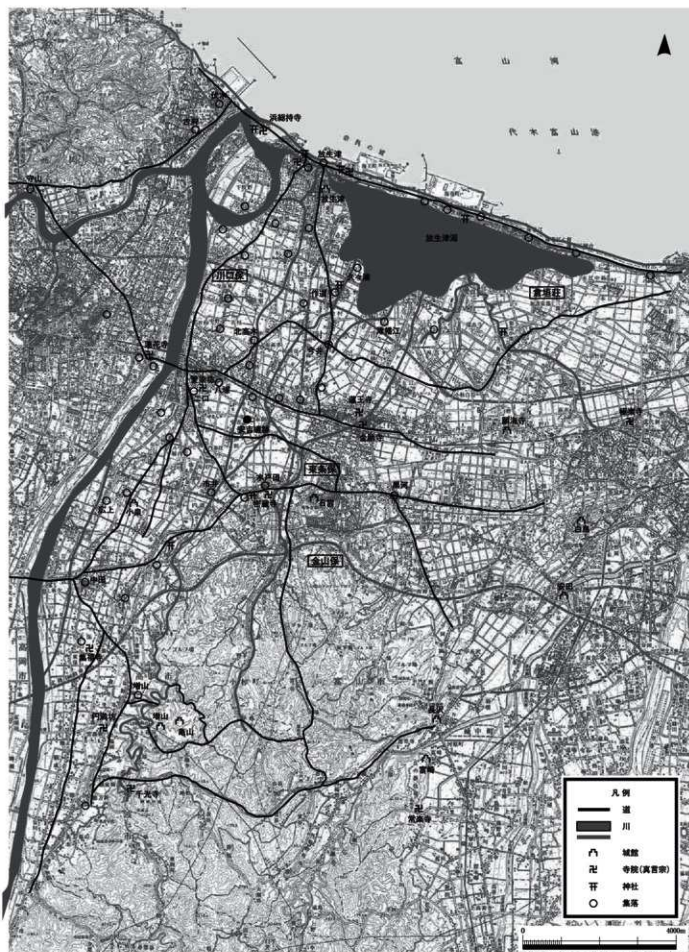
注

- 注1 大門町教育委員会 1997「大門東部地区埋蔵文化財発掘調査報告 県営は場整備事業に伴う試掘調査報告」
- 注2 大門町教育委員会 1999「安古遺跡発掘調査報告 町道本田土合線拡張改良工事に係る発掘調査報告」
- 注3 大門町教育委員会 2005「安古遺跡発掘調査報告(3) 町道生源寺赤井線造成に係る埋蔵文化財発掘調査」
- 注4 財団法人富山県文化振興財団 2009「北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(9)」
- 注5 財団法人富山県文化振興財団 2010「北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(10)」
- 注6 松山光宏氏(射水市教育委員会)に判読・ご教示をいただいた
- 注7 松山光宏氏に判読・ご教示をいただいた。「大般若転読法会」の際に、般若菩薩を主尊として、「般若経の守護神」である十六善神を配した掛け軸をまつ。日本では大般若転読法会は、奈良時代から行われていたことが「日本書紀」から伺える。現在でも真言系寺院などで行われ、その際には「十六善神」をまつている。
- 注8 福井県一乗谷朝倉氏遺跡第36次調査出土の石製行火(バンドコ)の蓋に形似する。富山県南砺市梅原胡摩堂遺跡では、瓦質のバンドコが出土しており、形状から暖房具の蓋の可能性が考えられる。
垣内光次郎 1990「中世北陸の暖房文化」『石川考古学研究会々誌第33号』石川考古学研究会
財団法人富山県文化振興財団 1996「梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)」
- 注9 永井久美男 1994「中世の出土銭 出土銭の調査と分類」兵庫埋蔵銭調査会
永井久美男 1998「近世の出土銭Ⅱ 分類図版篇」兵庫埋蔵銭調査会
- 注10 注3に同じ 小矢部市石動図書館蔵「越中四郡絵図(正保一万治1644~1661年間)などより作成
- 注11 西井龍儀 2008「第5章 文献調査 3古地図に見る交通路」『増山城跡総合調査報告書』砺波市教育委員会
- 注12 東京大学総合図書館(南英文庫)蔵「越中国絵図」慶長10(1605)年
- 注13 文献史料、発掘成果、中世石造物の分布などから放生津湖や河川流路を含めた中世期の状態を復元している。
松山光宏・金三津美則 2008「中世放生津の都市構造と変遷」『港湾をともなう守護所・戦国期城下町の総合的研究 北陸を中心に』研究代表者 仁木 宏
- 注14 宇野隆夫 1997「越中国における陶磁器の流通と組成」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会
- 注15 四柳嘉章 1997「北陸の中世漆器」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会
- 注16 松山光宏 2009「中世砺波・射水の舞臺曼荼羅供 寺院と芸能」『砺波散村地域研究所研究紀要第26号』砺波市立砺波散村地域研究所
松山光宏 2009「可視顕化された権力 越中守護と真言系寺院」『富山市日本海文化研究所紀要第22号』富山市日本海文化研究所
- 注17 大高町教育委員会 2000「八塚C遺跡 民間分譲宅地造成事業に伴う発掘調査報告(2)」

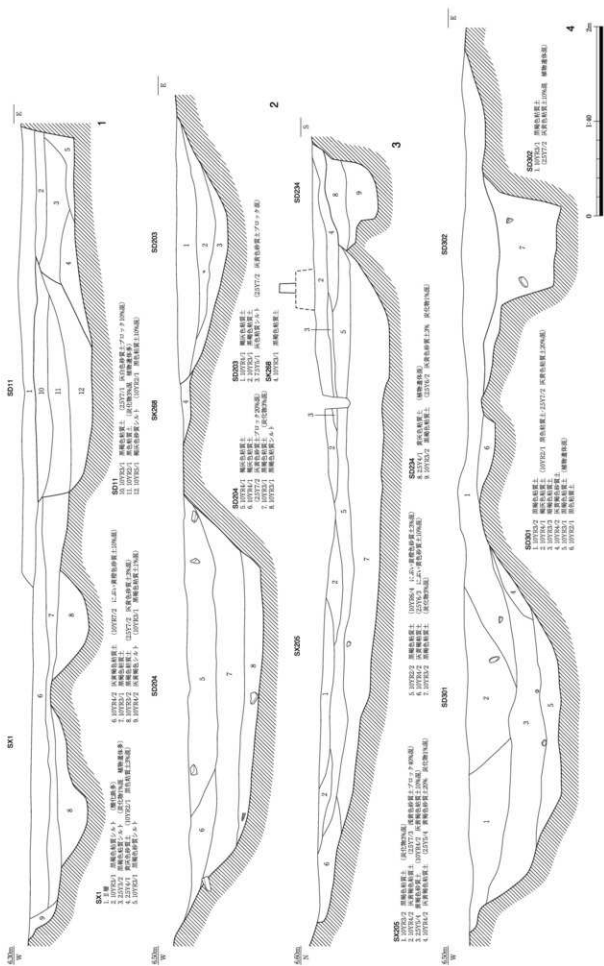
参考文献

- 青木一彦・井上 都・久々忠義・宗 継子・多賀令史 1998「中世の放生津について」『大境第19号』富山考古学会
- 久々忠義・林寺巖州 1994「射水平野の遺跡 神楽川流域を探る」『大境第16号』富山考古学会
(財)富山県文化振興財団 1996「梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)」
- 鈴木公雄 1999「出土六道銭」『出土銭貨の研究』東京大学出版会
- 北陸中世土器研究会 1991「城館遺跡出土の土器・陶磁器」
- 北陸中世土器研究会 1997「中・近世の北陸 考古学が語る社会史」桂書房
- 北陸中世土器研究会 2002「中世北陸の城館と寺院」
- 山川公見子 2006「仏具」『季刊考古学第97号 中世寺院の多様性』雄山閣
- 四柳嘉章 2006「ものと人間の文化史 漆Ⅰ・Ⅱ」法政大学出版局



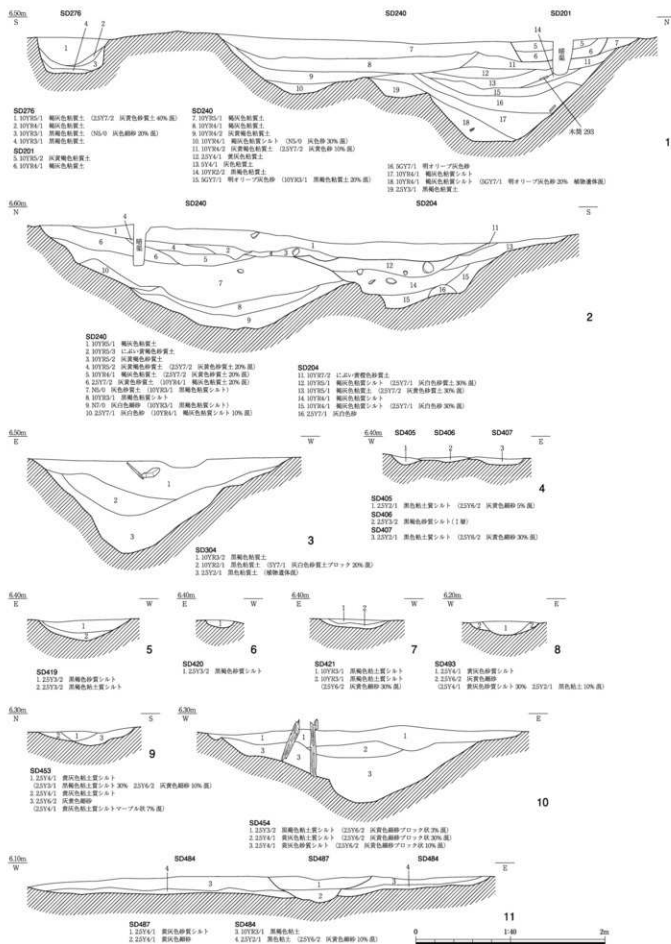


第72図 中世安吉遺跡と周辺図 (1:10,000)



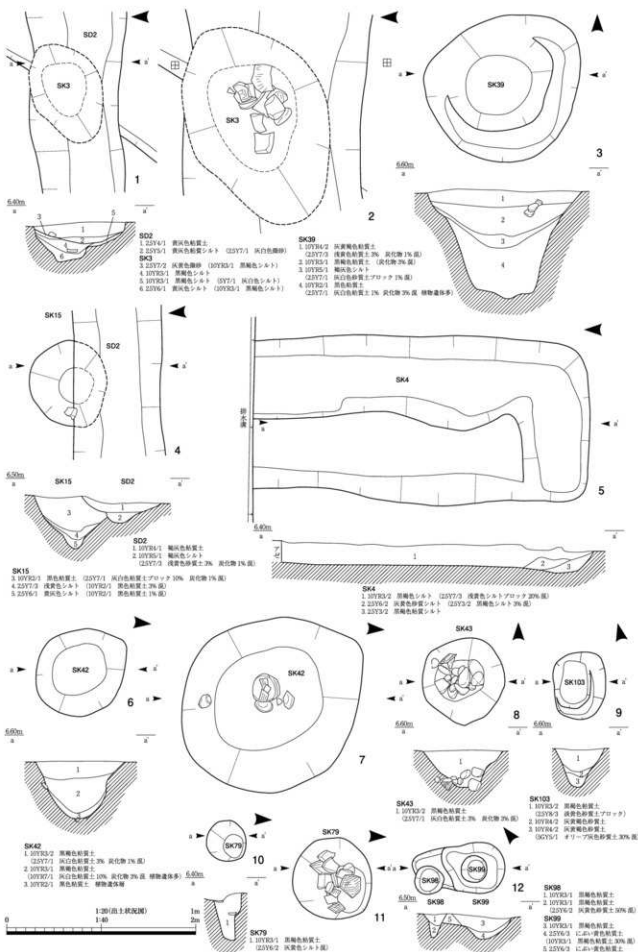
第73図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SX1・SD11 2. SD203・SD204・SK268 3. SX205・SD234 4. SD301・SD302



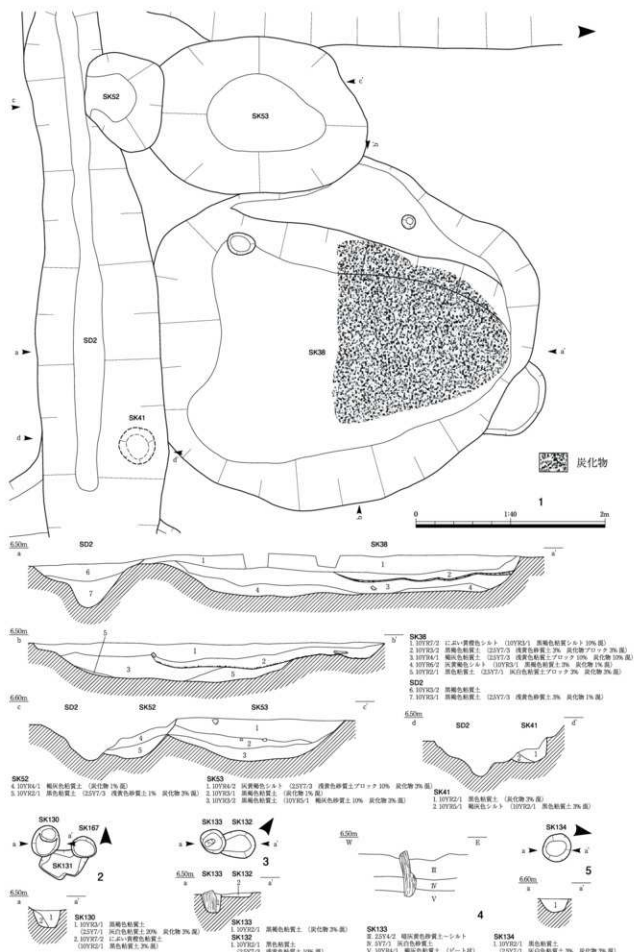
第75図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SD201・SD240・SD276 2. SD204・SD240 3. SD304 4. SD405・SD406・SD407 5. SD419
6. SD420 7. SD421 8. SD493 9. SD453 10. SD454 11. SD484・SD487



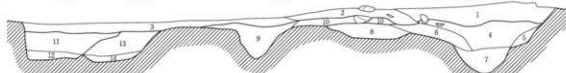
第76図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SD2・SK3 2. SK3 出土状況 3. SK39 4. SD2・SK15 5. SK4 6. SK42
7. SK42 出土状況 8. SK43 9. SK103 10. SK79 11. SK79 出土状況 12. SK98・SK99



第 77 図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SK38・SK41・SK52・SK53 2. SK130 3. SK132・SK133 4. SK133 断削 5. SK134

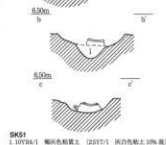
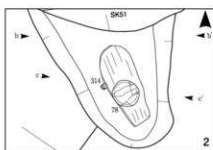


1. 10YK3-1 黒褐色粘質土 (炭化物 3% 混)
 2. 10YK7-2 灰白-黄褐色砂質シト (礫 20% 混)
 3. 10YK3-1 黒褐色粘質土
- SO44**
4. 10YK3-2 黒褐色粘質土 (炭化物 3% 混)
 5. 10YK3-3 堆積粘質土 (23Y7-1 灰白粘質土アロップ 30% 混)
 6. 10YK4-2 灰黄褐色粘質土 (23Y7-1 灰白粘質土 3% 炭化物 3% 混)
 7. 10YK2-1 黒色粘土 (23Y7-1 灰白粘質土 3% 混 硬砂混在率)
 8. 10YK4-2 灰黄褐色粘質土 (23Y7-1 灰白粘質土アロップ 30% 炭化物 3% 混)

- SO46**
9. 10YK3-2 黒褐色粘質土 (23Y7-3 黄褐色粘質土アロップ 1% 炭化物 3% 混)
 10. 10YK3-1 黒褐色粘質土

- SO56**
11. 10YK3-1 黒褐色粘質土 (炭化物 3% 混)
 12. 10YK3-2 黒褐色粘質土 (C-1 炭)

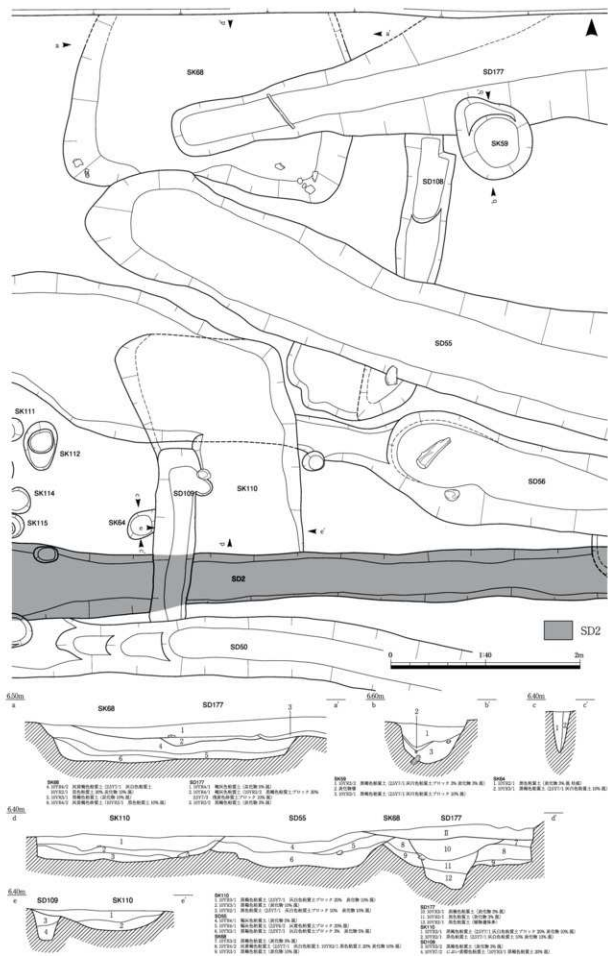
- SK179**
13. 10YK3-1 黒褐色粘質土 (炭化物 3% 混)
 14. 10YK3-2 黒褐色粘質土 (炭化物 3% 混)



1. 10YK4-1 黒褐色粘質土 (23Y7-1 灰白粘質土 10% 混)

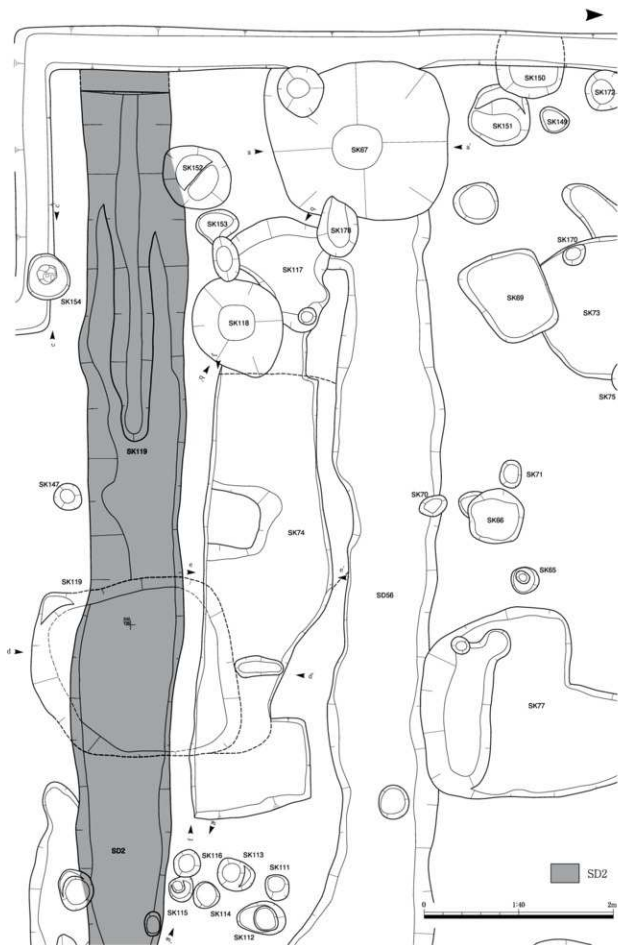
第 78 図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SK51・SK179・SD44・SD46・SD56 2. SK51 出土状況

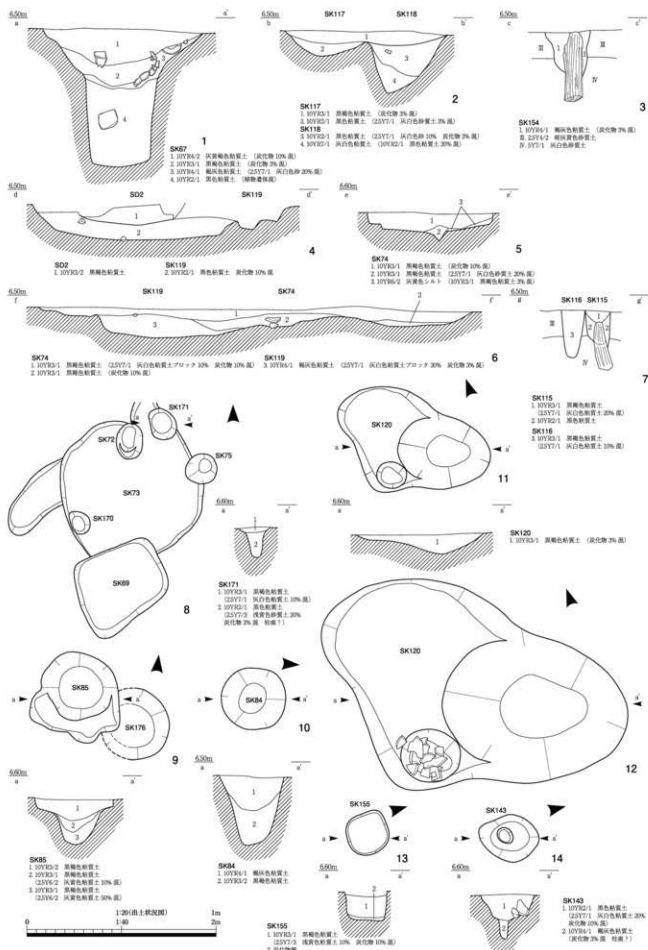


第79図 安吉遺跡 遺構実測図

SK59・SK64・SK68・SK110・SD55・SD109・SD177

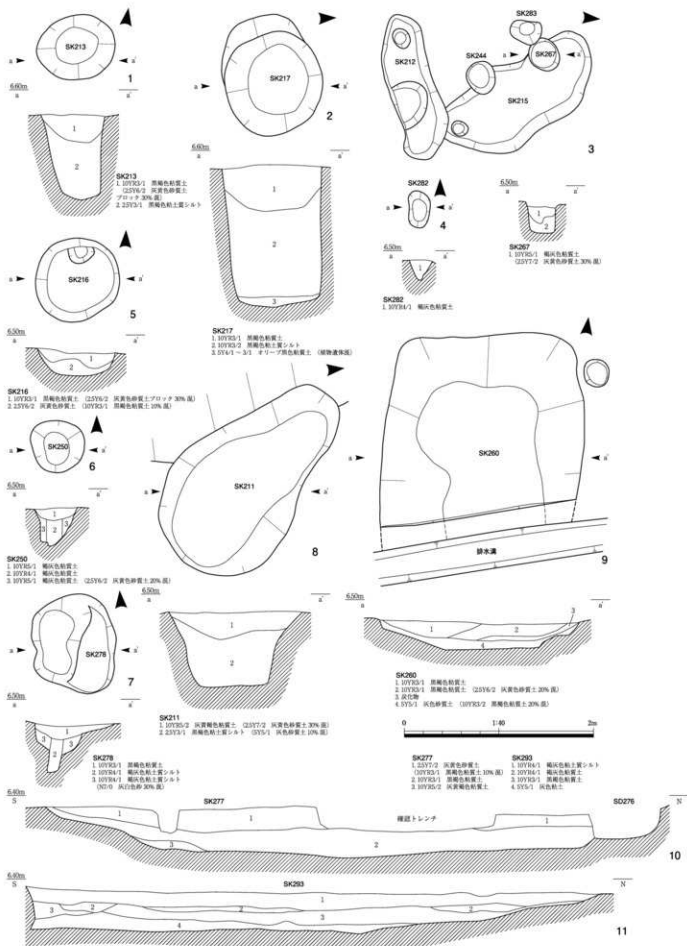


第80図 安吉遺跡 遺構実測図
SK67・SK74・SK115・SK117・SK118・SK119・SK154



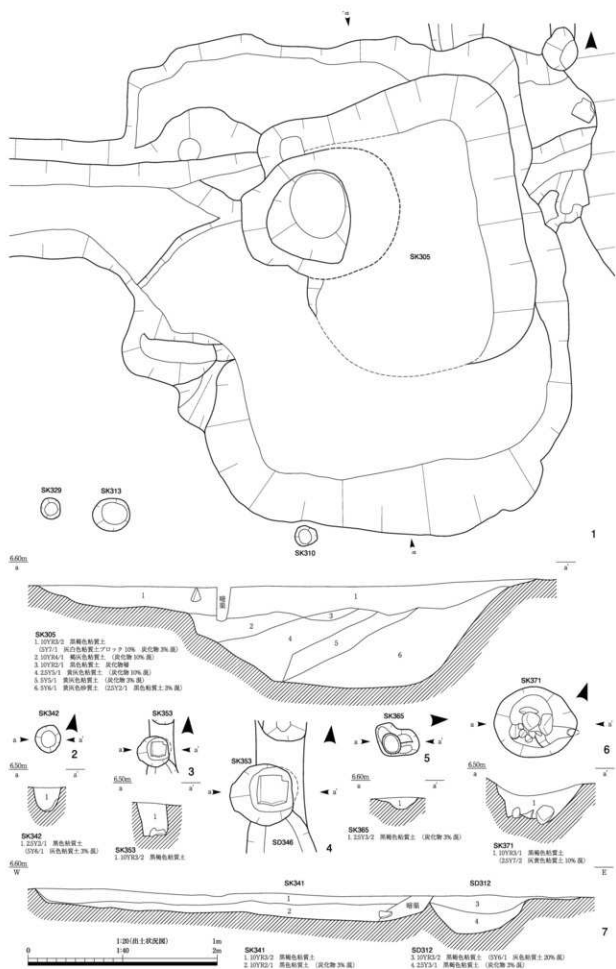
第 81 図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SK67 2. SK117・SK118 3. SK154 断削 4. SD2・SK119 5. SK74 6. SK74・SK119
7. SK115・SK116 断削 8. SK171 9. SK85 10. SK84 11. SK120 12. SK120 出土状況 13. SK155
14. SK143



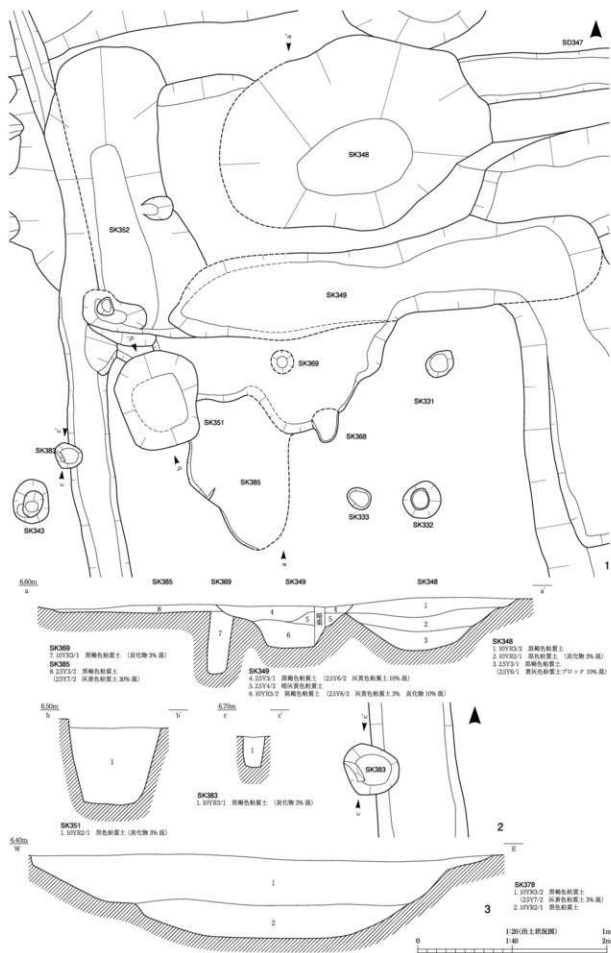
第 82 図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SK213 2. SK217 3. SK267 4. SK282 5. SK216 6. SK250 7. SK278 8. SK211 9. SK260 10. SK277
11. SK293



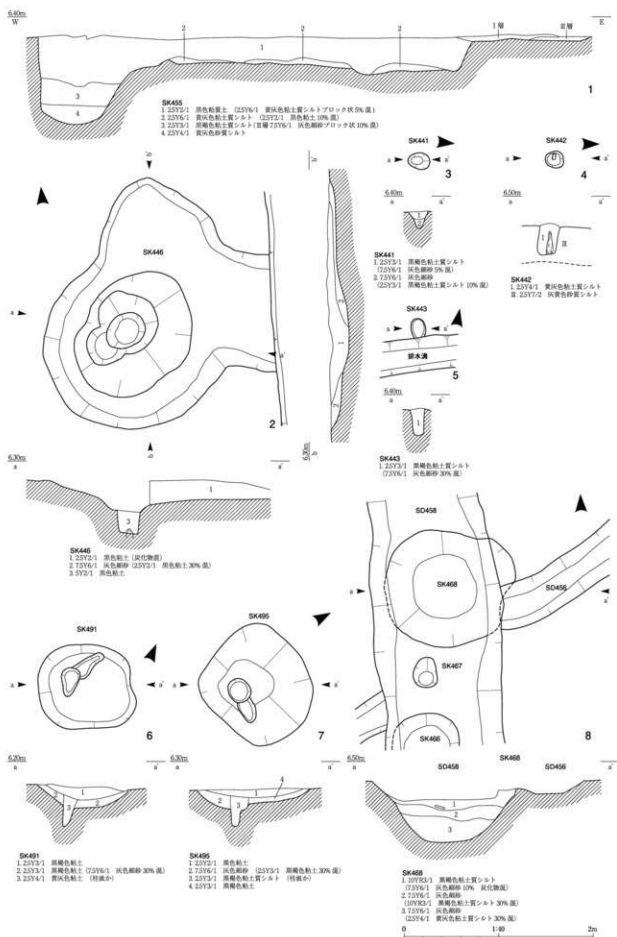
第83図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SK305 2. SK342 3. SK343 4. SK343 出土状況 5. SK365 6. SK371 7. SK341・SD312



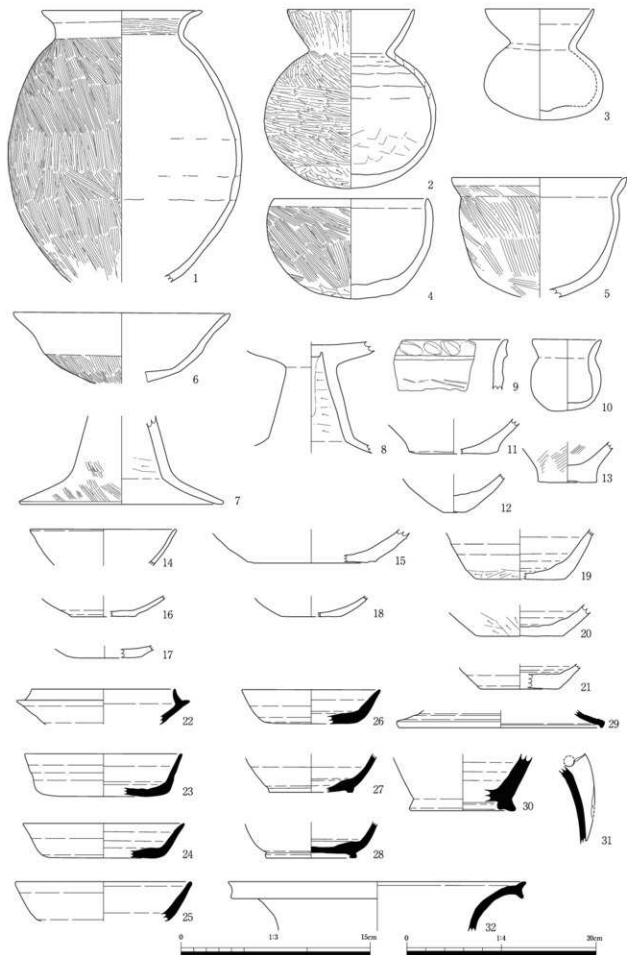
第 84 圖 安吉遺跡 遺構測圖

1. SK348 · SK349 · SK351 · SK369 · SK383 · SK385 2. SK383 出土狀況 3. SK378

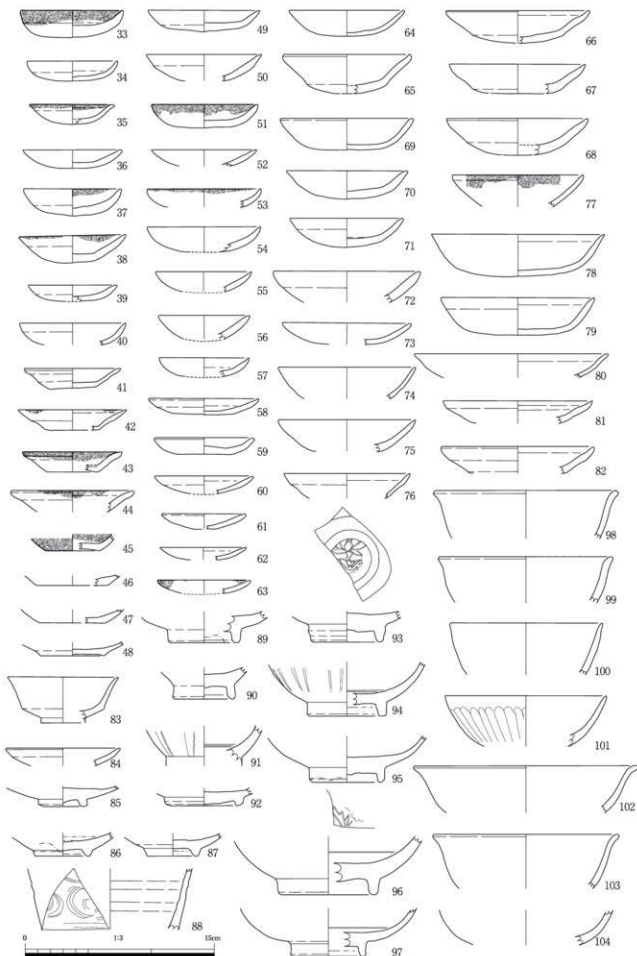


第85図 安吉遺跡 遺構実測図

1. SK455 2. SK446 3. SK441 4. SK442 5. SK443 6. SK491 7. SK495 8. SK468

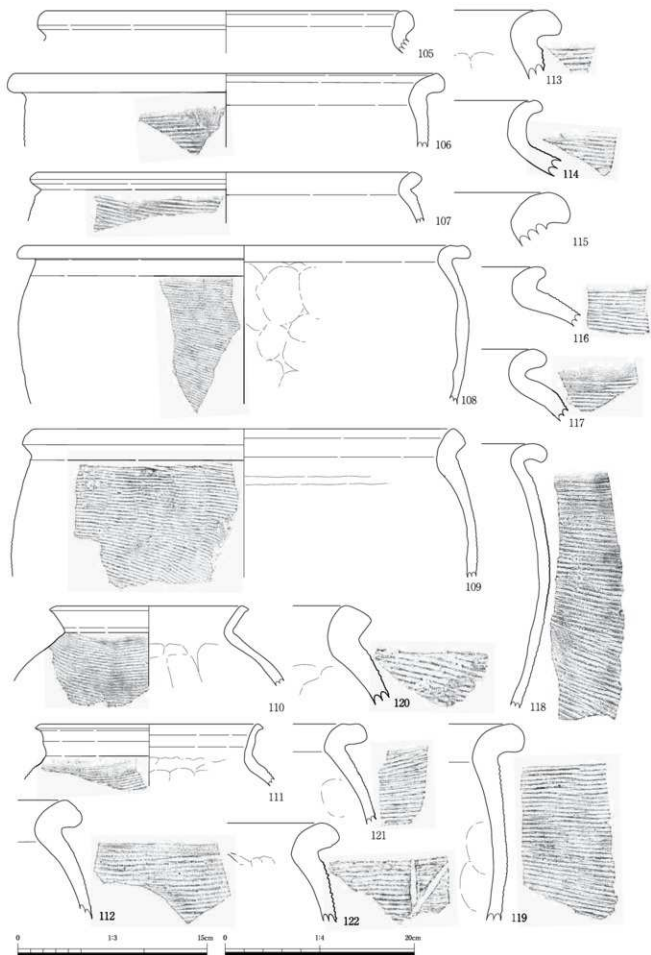


第86図 安吉遺跡 遺物実測図 (1 1/4, 2~32 1/3)
SK66 (1~8)



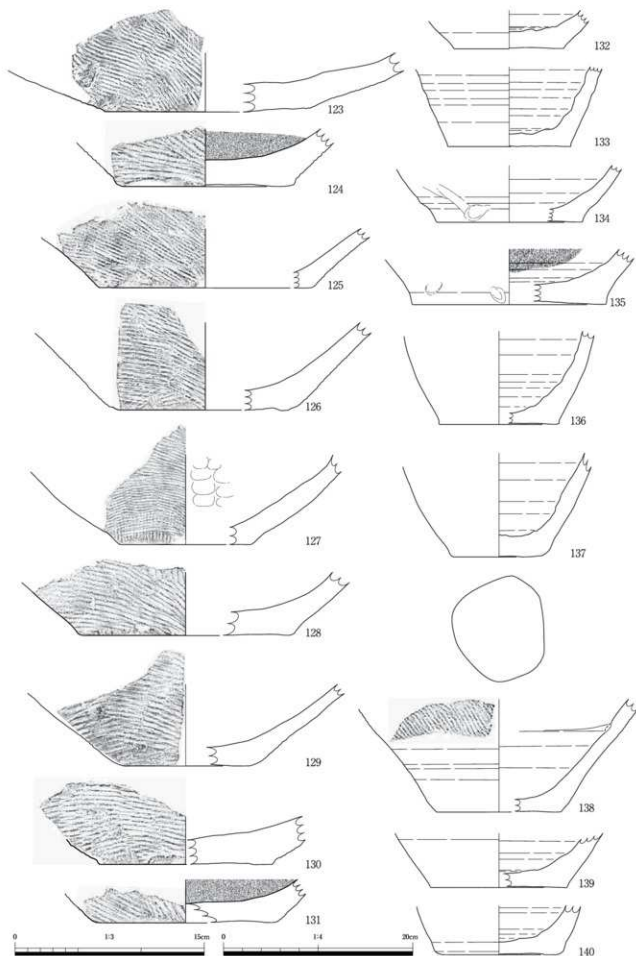
第87図 安吉遺跡 遺物実測図 (1/3)

SD44(33~35) SD46(93) SD55・SK117(94) SD56(36) SD204(49・50・88・89) SD240(64~68・90)
 SD312(41) SD419(77) SD487(99) SK38(100) SK42(37・38・42・95) SK51(78) SK84(43) SK85(52)
 SK99(46・47) SK103(69~71) SK134(79) SK179(45・96) SK221(72) SK267(39) SK277(53) SK282(54)
 SK293(104) SK378(84) SX206(51・83)



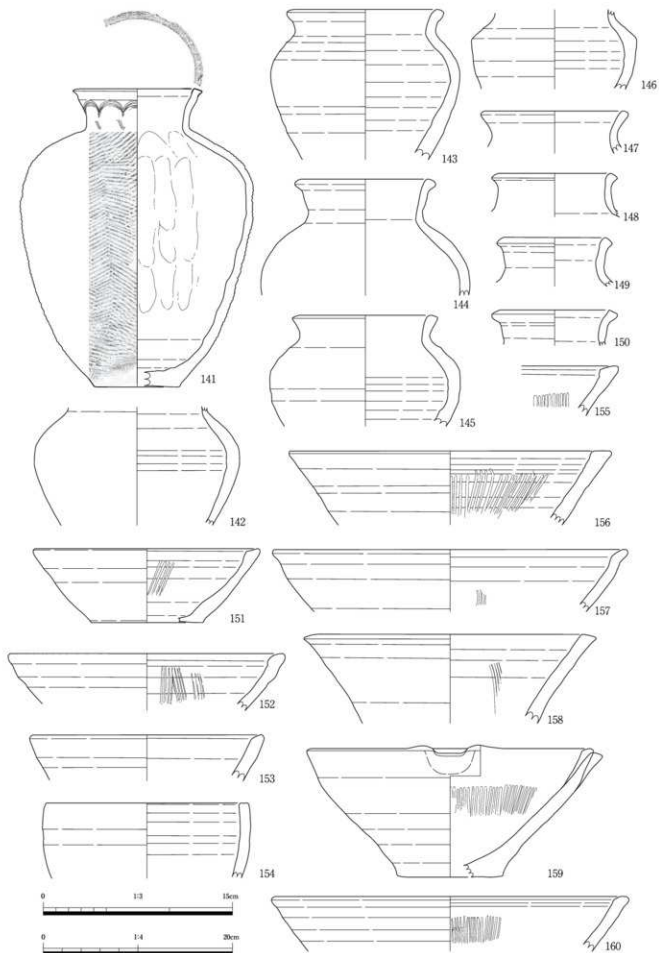
第 88 図 安吉遺跡 遺物実測図 (112~121 1/3, 105~111 1/4)

SD55(105) SD275(112) SD301(114) SK53(106) SK67(110・116~118) SK79(119) SK202(107)
SK277(108) SK278(115) SK353(109) SX205(113)



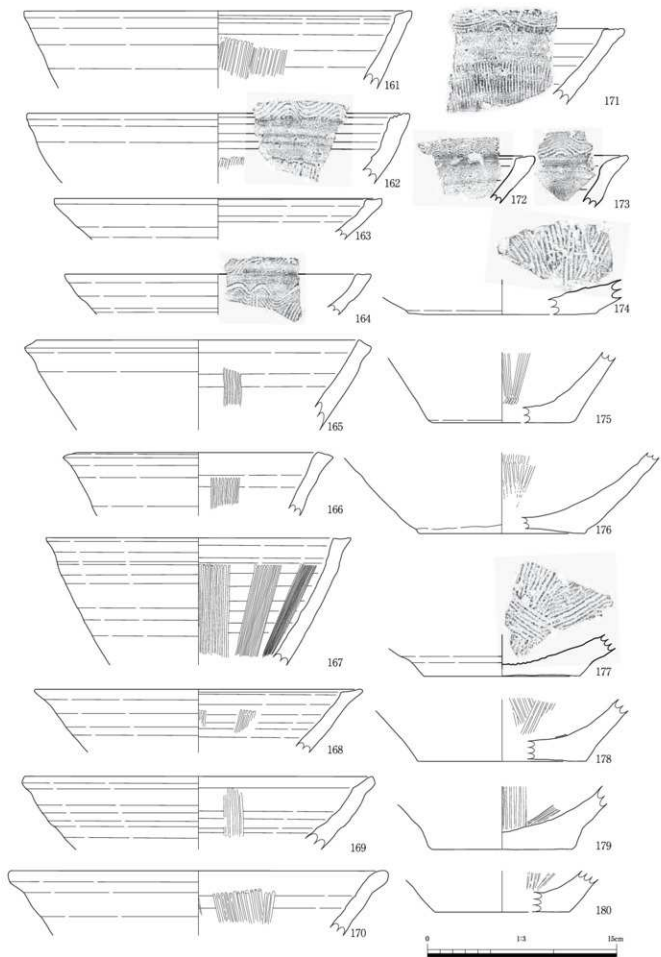
第 89 図 安吉遺跡 遺物実測図 (123~125・128・140 1/3, 126・127 1/4)

SD44(124・133) SD46(123・132) SD203(126) SD204(127・128) SD240(129) SD453(125)
SK3(136・137) SK53(135) SK68(137・139) SK74(131・140) SX1(138)



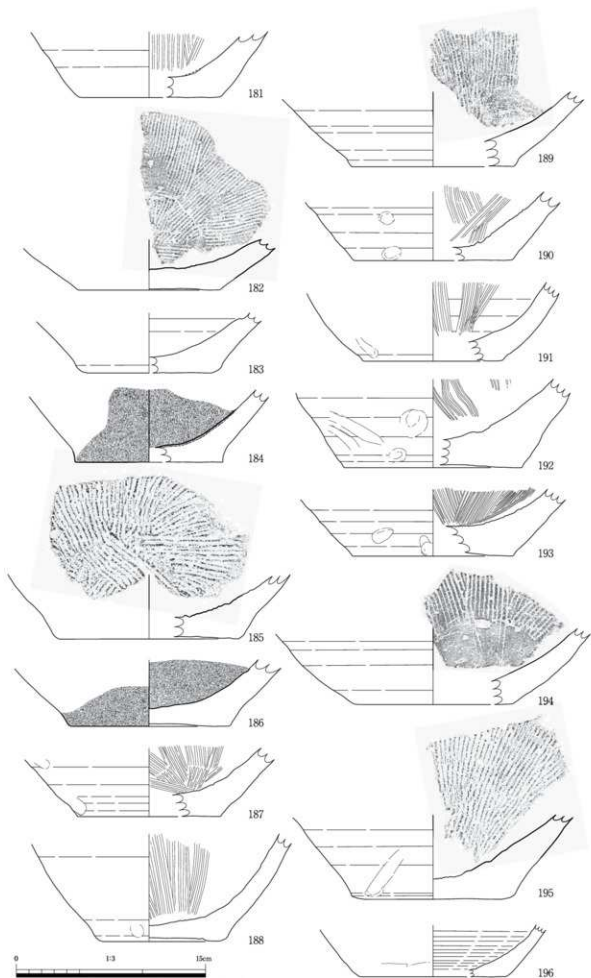
第90図 安吉遺跡 遺物実測図 (142~158 1/3, 144・159・160 1/4)

SD44(156) SD46(151・152・157) SD50(158) SD55(146) SD55・SK179(143) SD201(147)
 SD240(148・159) SD276(160) SD487(153) SK67(144・145・155) SK120(141) SX1(142・154)



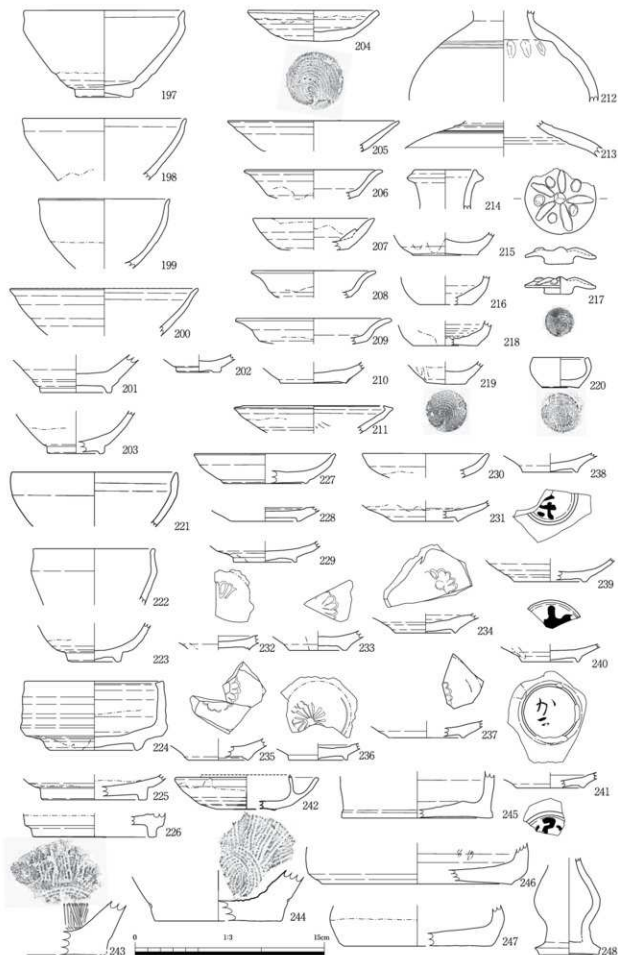
第91図 安吉遺跡 遺物実測図 (1/3)

SD2(174・175) SD6(176) SD44(177) SD46(178) SD55(162・163・179) SD178(180) SD203(171)
SD454(161) SK179(164)



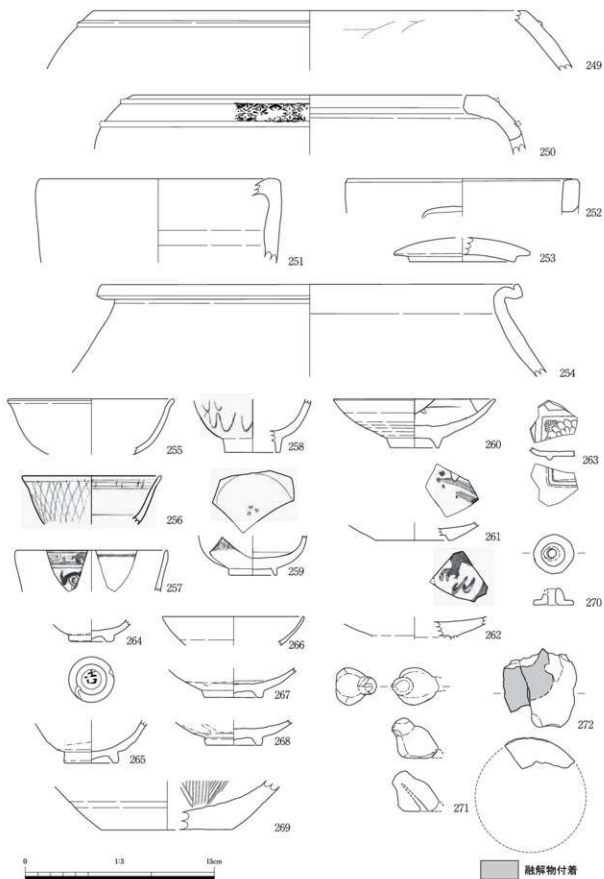
第92図 安吉遺跡 遺物実測図 (1/3)

SD204(181~183) SD240(184) SK3(186) SK68(187) SK119(188) SK143(189) SK277(190・191)
SK383(192) SX206(185)



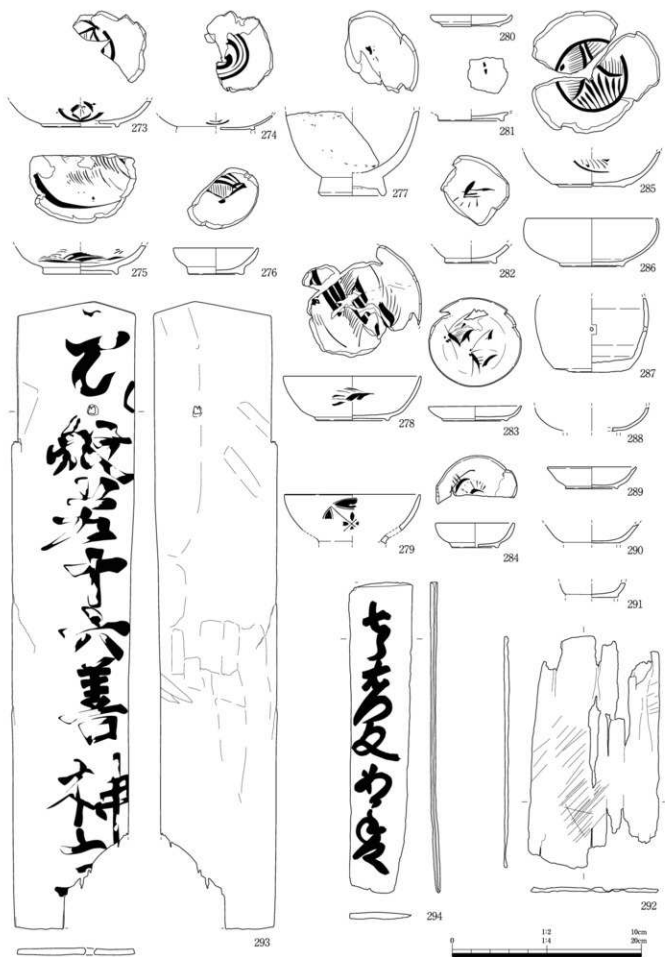
第93図 安吉遺跡 遺物実測図 (1/3)

SD2(232・238) SD44(216) SD46(198) SD46・SK179(204) SD50(221) SD50・SK68(212)
 SD201(233・239・244) SD204(199) SD240(218・227~229・245) SD301(201) SD421(231)
 SD454(222・242・246) SD487(223・224・234) SD487・SD493(225) SD493(240) SK4(205)
 SK216(247) SK305(206) SK341(202) SK365(235) SX205(230)



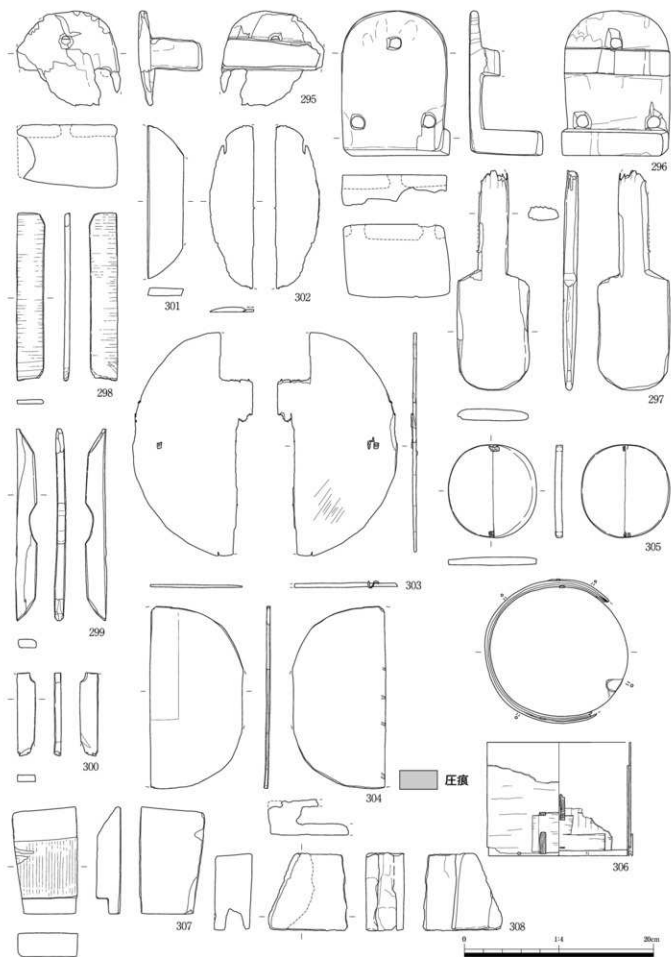
第94図 安吉遺跡 遺物実測図 (1/3)

SD2(261・267) SD46(264) SD240(258) SD419(259) SX206(254)



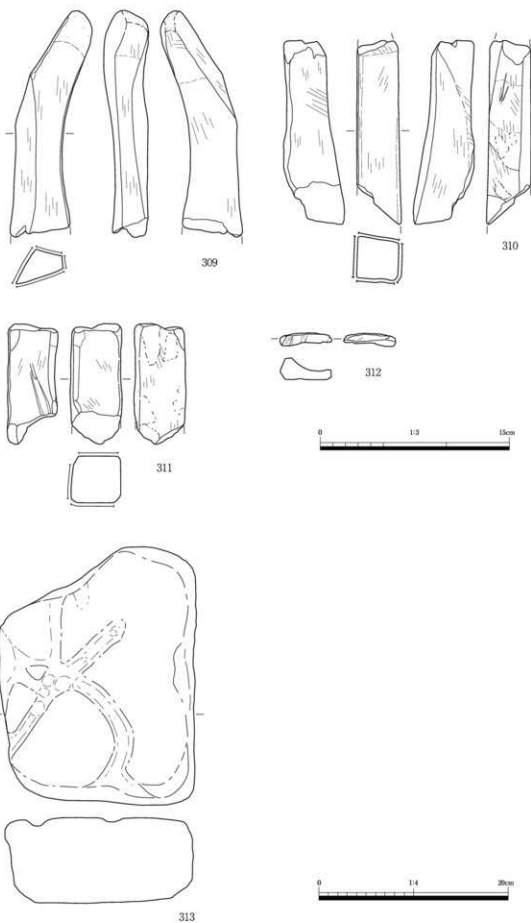
第95図 安吉遺跡 遺物実測図 (293・294 1/2 273~292 1/4)

SD2 (294) SD6 (273) SD56 (274) SD204 (277~282) SD240 (293) SD274 (283) SD297 (285・286)
 SK179 (288~292) SK210 (287) SK378 (284) SX206 (275・276)

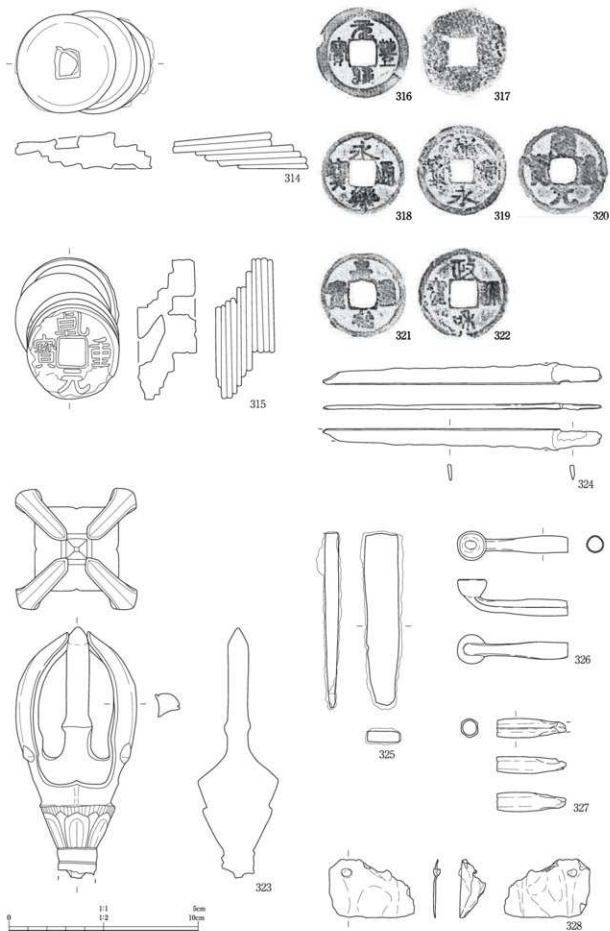


第96図 安吉遺跡 遺物実測図 (1/4)

SD203(305) SD204(297) SD240(298・299・303) SD301(307) SD304(296・301) SK42(306) SK68(300)
 SK102(304) SK277(295) SK468(302) SX206(308)



第97図 安吉遺跡 遺物実測図 (309~312 1/3, 313 1/4)
SD240(313) SK59(309) SK67(312) SK293(310)



第98図 安吉遺跡 遺物実測図 (314~323 1/1 324~328 1/2)
 SD44(316) SD55(317) SD240(324) SD487(328) SK51(314) SK68(315・323)

第28表 安吉遺跡 溝一覽(1)

遺跡番号	地区	座標 (北緯/東経)	施設	出土遺物	時期	掘り合わせ	特記事項	詳細番号	図版番号
SD1	A	(1340)	0.50	土師器・須恵器・漆器	中世	<SD11・SD12	SD11の北側が溝へ落ち込む状況発見	73	
SD2	A	0.87	0.17	須恵器、中世土師器・漆器、青磁、越中瀬戸、唐津、伊万里、木製	中世末～近世?	>SK3・SD6・SK34・SK15・SD19・SD44・SD46・SK34・SK38・SK70・SD109・SK110・SK119・SK74・SK132	最も新しい埋めの東西溝、SD201と同一遺構 2004年大門町調査区SD42と同一遺構	76・81	61
SD6	A	2.11	0.45	中世土師器・漆器、漆器、焼石	中世	<SD2・SD11 >SK13		74	
SD10	A	0.50	0.10		中世				
SD11	A	1.41	0.42	土師器・漆器、加工物	中世	<SK1 >SD6	SD12との間に石敷の中央あり	73・74	61
SD12	A	(1.43)	0.86	漆器	中世	<SK1			61
SD18	A	0.67	0.24		中世				
SD19	A	0.80	0.19		中世	<SD2			
SD44	A	2.12	0.92	土師器、須恵器、中世土師器・漆器、白磁、瀬戸瓦器、越中瀬戸、鏡	中世	<SD2・SD46・SK33 >SD55	SD46と併走する南北溝、SD46との間に石敷	74・75・79	61
SD46	A	1.13	0.60	土師器、須恵器、中世土師器・漆器、青磁、瀬戸瓦器、唐津、伊万里	中世	<SD2 >SD55・SD56・SK49・SK38・SD44		74・78	61
SD50	A	1.32	0.31	土師器・漆器、青磁、瀬戸瓦器、越中瀬戸、加工物	中世	<SD2	L字に屈曲する南北溝	74	61
SD55	A	1.32	0.41	漆器、青磁、下駄、板材、鏡	中世	<SD41・SD46・SK110 >SD68・SD108・SK179		74・79	
SD56	A	1.10	0.34	土師器、中世土師器・漆器、漆器	中世	>SK4・SK7・SK77・SK179 <SD46・SK110		74・78	
SD208	A	0.48	0.45		中世	<SD55			
SD109	A	0.44	0.32		中世	<SD2・SD50・SK110		79	
SD175	A	0.42	0.06		中世	<SK73			
SD177	A	(1.17)	0.78	漆器	中世	>SD68・SD108 <SK49・SK51・SK59		79	
SD301	A	0.58	0.28	漆器、越中瀬戸、伊万里	中世末～近世?	>SK203・SD206・SK228・SK229・SK260・SK250・SK292・SK269・SD246	SD2と同一遺構	75	
SD303	A	3.20	0.99	土師器、須恵器、漆器、瀬戸瓦器、白磁、青磁、円形板	中世	<SD302 >SK208・SD297・SD280・SK284・SK295	SD304とも1:90°に屈曲する区画溝	73	61
SD304	A	4.09	0.73	中世土師器・漆器、瀬戸瓦器、越中瀬戸、青磁、青白磁、越中瀬戸、漆器、内子、加工物	中世	>SD240・SD297・SD276・SK277・SD280	SD303とも1:90°に屈曲する区画溝 2004年大門町調査区SD303と同一遺構	73・74・75	60・61
SK205	A	(6.30)	0.93	土師器・漆器、越中瀬戸	中世	>SK263・SD294		73	
SK206	A	3.03	0.99	須恵器、中世土師器・漆器、八尾?、瀬戸瓦器、白磁、漆器、加工物	中世	<SD201 >SK237・SK228・SD269	SD240の一部 90°屈曲する区画溝か	74	
SD309	A	0.48	0.30		中世	>SK210			
SD311	A	0.36	0.11	漆器	中世	>SK233			
SD318	A	1.27	0.59		中世	<SK265		73	
SD325	A	0.29	0.10	越中瀬戸	中世				
SD240	A	3.30	0.65	須恵器、中世土師器・漆器、瀬戸瓦器、越中瀬戸、青磁、青白磁、越中瀬戸、漆器、内子、加工物、板材、鏡類のある石、刀子	中世	<SD201・SD204 >SK246・SK247・SD274・SD275・SD304・SK266・SD347・SK330		74・75	60
SD289	A	3.66	0.48	中世土師器	中世	<SK348・SD206			
SD274	A	1.65	0.62	漆器	中世	<SD240・SD275		74	
SD275	A	0.90	0.67	漆器	中世	<SD240 >SD274		74	
SD276	A	0.87	0.46	土師器・漆器	中世	<SD294 >SD277	SD303と同一遺構か	75	
SD280	A	0.30	0.14	土師器・漆器	中世	<SD203・SD204			
SD294	A	1.47	0.47		中世		SD293と同時期		
SD296	A	0.47	0.14		中世				
SD297	A	1.77	0.43	漆器	中世	<SD240・SD204		74	
SD301	A	4.00	0.90	中世土師器・漆器、瀬戸瓦器、白磁、越中瀬戸、唐津、伊万里、近世陶器、加工物	中世～	>SD384	SD302とは同時期	73	62
SD302	A	2.21	0.73	漆器、灰質土器、青磁、越中瀬戸、近世陶器	中世～		SD301とは同時期	73	62
SD303	A	1.47	0.44		中世	<SD294・SK206	SD312と同一遺構か		
SD304	A	2.50	1.16	漆器、下駄、板材、円形板、加工物	中世	<SD240 >SD303		75	62
SD312	A	1.38	0.55	中世土師器・漆器	中世	<SK305 >SD208・SK349・SK341	SD303と同一遺構か	74・83	
SD328	A	0.42	0.07	土師器	中世?	<SK206			
SD340	A	0.26	0.14		中世	>SK341			
SD346	A	0.80	0.23	漆器	中世	<SK332・SK303・SD240 >SK383・SK385			
SD347	A	0.47	0.10		中世	<SK348・SK383			
SD367	A	0.62	0.25		中世	<SK382 >SK372・SK373			
SD376	A	0.42	0.17		中世	>SK374	SD377と同一遺構		
SD377	A	0.38	0.18		中世		SD376と同一遺構		
SD384	A	(3.40)	0.153		中世	<SD201			
SD402	B	0.90	0.07						
SD403	B	0.93	0.04						
SD405	B	0.35	0.11						
SD406	B	0.50	0.08			>SD407・SD426・SD427・SD428 <SD406・SD419	北側で2つに分岐	75	
SD406	B	0.92	0.15	近世陶器(草鞋?)	近世	>SD405・SD407・SK411・SK413		75	
SD407	B	(0.63)	0.04	漆器		<SD406		75	
SD408	B	0.42	0.12				古い溝か		

第28表 安吉遺跡 溝一覧 (2)

遺跡番号	地区	幅元 (m)		出土遺物	時期	切り合い	特記事項	溝図番号	断面番号
		幅	深さ						
SD409	B	0.37	0.11						
SD410	B	0.63	0.07						
SD419	B	0.97	0.21	中世土師器・珠洲・瀬戸瓦器・青磁・ 越中瀬戸・伊万里	近世	>SK405・SD421・SK422	SD420との併走	75	62
SD420	B	0.30	0.05	青磁	近世	>SK16・SD21・SD23	SD419との併走	75	62
SD421	B	0.62	0.17	越前器・中世土師器・珠洲・越中瀬戸・ 伊万里	近世	<SD419・SD420		75	
SD423	B	0.46	0.08			<SD420			
SD426	B	0.20	0.18			<SD405			
SD427	B	0.27	0.11			<SD405			
SD428	B	0.21	0.15			<SD405			
SD429	B	0.45	0.12			>SD400	SD430とつながる可能性有		
SD430	B	0.50	0.06			<SD429	SD429とつながる可能性有		
SD431	B	0.37	0.07						
SD435	B	0.76	0.12	土師器?			直先に溝がある様 SK433が続く可能性有		62
SD436	B	0.25	0.05						
SD448	B	0.67	0.14			<SD403	直先に溝がある様		
SD450	B	0.96	0.18			<SD454			
SD451	B	0.51	0.19						
SD453	B	1.29	0.33	珠洲		>SK462・SD462 <SD464		75	
SD454	B	4.04	0.63	珠洲・越前・瀬戸瓦器・青磁・越中瀬戸・ 伊万里	近代	>SD463	西側溝の状況のみ	75	62
SD456	B	0.61	0.11			<SD458			
SD458	B	1.74	0.15			>SD456・SK466・SK467・SK468			62
SD459	B	0.37	0.09						
SD462	B	0.21	0.19	珠洲・伊万里	近世		SK461との切り合いは不明		
SD464	B	0.26	0.11				SD463との切り合いはなく、SD463の一部 とも考えられる		
SD470	B	(0.50)	0.23						
SD482	B	1.00	0.08	土師器?		<SD487 >SD494	SD483・SD484との切り合い不明		
SD483	B	2.64	0.20	土師器?		<SD483・SD485 >SD487・SD488	SD482との切り合い不明		
SD484	B	3.30	0.15	土師器?		<SD487・SD488	SD483との切り合い不明	75	
SD487	B	1.33	0.07	土師器・青磁・越前・越中瀬戸・ 越前・伊万里・鉄石瓦・板瓦・瓦葺瓦製品	近世以降	>SD484	SD489との切り合い不明 SD485と同時期か		
SD493	B	0.81	0.22	土師器?・近世器・珠洲・越中瀬戸・ 越前・伊万里	近世以降	>SD483・SD484・SD494		75	
SD494	B	0.43	0.10			<SD482・SD483			
SD496	B	1.36	0.26	土師器?		>SK302			62
SD497	B	1.90	0.31	土師器?		<SD483・SD485 >SD488・SK303	SD496と併走する		62
SD498	B	0.67	0.10			<SD483・SD487			
SD499	B	0.67	0.08						
SD504	B	0.33	0.06						
SD505	B	0.75	0.10			近世以降	>SD483・SD496・SD497	SD487と同時期か	

第29表 安吉遺跡 土坑一覧 (1)

遺跡番号	地区	遺構種類	幅元 (m)		出土遺物	時期	切り合い	特記事項	溝図番号	断面番号	
			幅	深さ							
SK3	A	土坑	円形	1.11	0.75	0.23	珠洲	中世	<SK2		75, 62
SK4	A	土坑	長方	(3.87)	1.73	0.38		中世			75
SK5	A	土坑	長方	(2.80)	1.71	0.60	中世土師器	中世			
SK7	A	土坑	円形	0.47	0.36	0.27		中世			
SK8	A	土坑	円形	0.72	0.72	0.80		中世			柱礎
SK9	A	土坑	円形	0.70	0.67	0.17	土師器・珠洲	中世			
SK12	A	土坑	円形	(0.7)	0.73	(0.33)	0.41	中世			<SK6
SK14	A	土坑	円形	1.26	(1.17)	0.19		中世			<SK2
SK15	A	土坑	円形	0.90	0.82	0.54	中世土師器・珠洲	中世			75, 61
SK16	A	土坑	円形	0.30	0.30	0.40		中世			
SK17	A	土坑	円形	0.80	0.60	0.07		中世			
SK20	A	土坑	不整	1.20	(0.79)	0.34	越前器	中世			
SK21	A	土坑	円形	0.68	0.74	0.23		中世			柱礎
SK22	A	土坑	円形	0.73	0.71	0.08		中世			
SK23	A	土坑	円形	0.80	0.80	0.17		中世			
SK24	A	土坑	円形	0.30	0.27	0.14		中世			
SK25	A	土坑	円形	0.52	0.50	0.07		中世			
SK26	A	土坑	円形	0.24	0.22	0.14		中世			
SK27	A	土坑	円形	0.20	0.20	0.18		中世			
SK28	A	土坑	円形	0.80	0.30	0.11		中世			
SK29	A	土坑	円形	0.30	0.36	0.22		中世			
SK30	A	土坑	円形	0.66	0.37	0.16		中世			
SK31	A	土坑	円形	0.27	0.27	0.23		中世			
SK32	A	土坑	円形	0.30	0.30	0.16		中世			柱礎
SK33	A	土坑	円形	0.30	0.26	0.22		中世			柱礎
SK34	A	土坑	円形	0.24	0.22	0.23		中世			
SK35	A	土坑	不整	(1.80)	0.71	0.10		中世			
SK36	A	土坑	円形	0.25	0.25	0.09		中世			
SK37	A	土坑	円形	0.70	(0.56)	0.68	珠洲	中世			
SK38	A	土坑	不整	(3.95)	2.63	0.41	中世土師器・珠洲・青磁	中世	<SK2・SK3		柱状物等 77, 63
SK39	A	土坑	円形	1.44	1.56	1.10		中世			瓦葺瓦の片 75, 65
SK40	A	土坑	円形	0.73	0.68	0.86	珠洲	中世			
SK41	A	土坑	円形	(0.80)	(0.60)	(0.26)		中世			<SK2
SK42	A	土坑	円形	0.80	0.80	0.80	中世土師器・白磁・焼けた土塊・ 越前	中世			77
SK43	A	土坑	円形	0.91	0.89	0.36		中世			
SK45	A	土坑	円形	0.26	0.22	0.43		中世			
SK47	A	土坑	円形	0.18	0.18	0.12		中世			
SK48	A	土坑	円形	1.37	0.77	0.36		中世			
SK49	A	土坑	円形	(1.89)	(1.90)	0.12		中世			
SK51	A	土坑	円形	0.60	0.58	0.12		中世	>SK127・SK31 <SD46		
SK52	A	土坑	円形	1.00	0.82	0.33		中世	<SK49 >SD127		特定の土に層を正で置き、その層から 掘り出されて出土。層の可能性あり 75, 63
SK53	A	土坑	円形	(2.19)	1.44	0.48	珠洲	中世	<SK2 >SK33		77
SK54	A	土坑	円形	(1.02)	(0.30)	0.29		中世	<SK2 >SK36		72
SK55	A	土坑	円形	0.64	0.64	0.13		中世	<SK2・SD46		

第29表 安吉遺跡 土坑一覽(2)

遺跡番号	地区	遺跡種類	平野別	規模(m)		出土遺物	時期	切り合わせ	特記事項	埋没番号	附帯番号
				長さ	幅						
SK28	A	土坑	溝内	0.75	0.70	0.60	中世	<SK2、SK6			
SK29	A	土坑	不整	0.81	0.78	0.53	縄文	>SK177		79	
SK30	A	土坑	溝内	0.25	0.12	0.08	中世		積層1		
SK61	A	土坑	溝内	0.22	0.22	0.18	中世				
SK62	A	土坑	溝内	0.33	0.30	0.21	中世		積層7		
SK63	A	土坑	溝内	0.27	0.35	0.07	中世				
SK64	A	土坑	溝内	0.30	0.30	0.23	土器部				79
SK65	A	土坑	溝内	0.28	0.28	0.37	中世				
SK66	A	土坑	溝内	0.71	0.60	0.19	土器部	区画下	炭化物層		79 63
SK67	A	土坑	溝内	1.06	1.06	0.66	土器部、中世土器部、漆器、磁石		漆器(土器以外の瓦器性あり)		80 81 63
SK68	A	土坑	溝内	2.38	0.20	0.36	中世土器部、漆器、瀬戸瓦器		漆器の残骸となって出土。炭化物層。漆の付着性あり		79 64
SK69	A	土坑	不整	0.96	0.78	0.13	中世	>SK72			
SK70	A	土坑	溝内	0.30	0.22	0.12	中世	<SK2			
SK71	A	土坑	溝内	0.30	0.23	0.10	中世	<SK2			
SK72	A	土坑	溝内	0.36	0.28	0.15	中世	<SK2			
SK73	A	土坑	不整	1.50	1.47	0.07	漆器部	<SK69、SK75、SK171 >			
SK74	A	土坑	不整	0.90	1.20	0.17	中世土器部、漆器、瀬戸瓦器	SK175、SK72、SK170			
SK75	A	土坑	溝内	1.27	0.92	0.18	土器部、中世土器部、漆器、瀬戸瓦器	<SK2、SK66 >SK119		80 81	
SK76	A	土坑	溝内	0.47	0.42	0.27	中世	>SK73			
SK77	A	土坑	不整	2.29	1.96	0.30	中世	<SK69			
SK78	A	土坑	溝内	0.70	0.55	0.40	中世土器部、漆器				
SK79	A	土坑	溝内	0.41	0.41	0.78	土器部、漆器、磁石			76 64	
SK80	A	土坑	溝内	0.68	0.34	0.43	漆器部				
SK81	A	土坑	溝内	0.39	0.37	0.26	中世				
SK82	A	土坑	溝内	0.47	0.30	0.27	中世				
SK83	A	土坑	不整	0.59	0.47	0.59	土器部、中世土器部		積層7		
SK84	A	土坑	溝内	0.69	0.64	0.69	中世土器部		積層10		81
SK85	A	土坑	不整	0.92	0.90	0.43	土器部、中世土器部	>SK176	積層10		81
SK86	A	土坑	溝内	0.40	0.47	0.53	土器部				
SK87	A	土坑	不整	0.54	0.37	0.21	漆器部				
SK88	A	土坑	溝内	0.27	0.22	0.17	中世				
SK89	A	土坑	溝内	0.52	0.50	0.38	漆器部、中世土器部				
SK90	A	土坑	溝内	0.67	0.45	0.27	中世				
SK91	A	土坑	溝内	0.69	0.36	0.23	漆器部				
SK92	A	土坑	溝内	0.31	0.27	0.28	中世				
SK93	A	土坑	溝内	0.34	0.24	0.13	中世				
SK94	A	土坑	溝内	0.63	0.52	0.34	中世				
SK95	A	土坑	溝内	0.34	0.26	0.27	中世				
SK96	A	土坑	溝内	0.30	0.28	0.07	中世				
SK97	A	土坑	溝内	0.70	0.51	0.66	中世				
SK98	A	土坑	溝内	0.42	0.31	0.10	中世	切り合わせ1		76	
SK99	A	土坑	溝内	0.70	0.63	0.53	中世土器部	切り合わせ2		76	
SK100	A	土坑	溝内	0.31	0.29	0.07	中世				
SK101	A	土坑	溝内	0.52	0.45	0.42	漆器部、中世土器部				
SK102	A	土坑	溝内	0.77	0.72	1.01	丹靨陶				
SK103	A	土坑	溝内	0.70	0.50	0.78	中世土器部				76
SK104	A	土坑	溝内	0.47	0.41	0.60	土器部				
SK105	A	土坑	溝内	0.23	0.20	0.08	中世				
SK106	A	土坑	溝内	0.27	0.24	0.13	中世				
SK107	A	土坑	溝内	0.71	0.63	0.24	中世土器部				
SK108	A	土坑	溝内	0.27	0.10	0.26	漆器部	>SK20、SK56、SK109 <SK2	炭化物層		79
SK111	A	土坑	溝内	0.28	0.23	0.28	中世				
SK112	A	土坑	溝内	0.50	0.36	0.39	中世				
SK113	A	土坑	溝内	0.59	0.34	0.33	中世				
SK114	A	土坑	溝内	0.58	0.36	0.35	中世				
SK115	A	土坑	溝内	0.58	0.38	0.19	漆器部	<SK116	積層		80 81
SK116	A	土坑	溝内	0.40	0.37	0.20	中世	>SK115			81
SK117	A	土坑	不整	1.47	0.93	0.26	中世土器部、漆器	<SK116	SK2000出土層出土層と重なって(傾斜して)いるか?		80 81
SK118	A	土坑	溝内	0.88	0.68	0.59	中世	<SK117			80 81
SK119	A	土坑	不整	2.13	1.90	0.14	土器部、漆器	<SK2、SK24			80 81
SK120	A	土坑	溝内	1.69	1.02	0.21	漆器部				81
SK121	A	土坑	溝内	0.42	0.42	0.09	中世				
SK122	A	土坑	不整	0.41	0.30	0.15	中世				
SK123	A	土坑	不整	0.47	0.28	0.23	中世				
SK124	A	土坑	溝内	0.58	0.38	0.09	中世				
SK125	A	土坑	溝内	0.60	0.45	0.44	中世土器部				
SK126	A	土坑	溝内	0.18	0.16	0.05	中世				
SK127	A	土坑	溝内	0.24	0.22	0.09	中世				
SK128	A	土坑	溝内	0.29	0.29	0.10	中世				
SK129	A	土坑	溝内	0.34	0.31	0.06	中世				
SK130	A	土坑	溝内	0.32	0.30	0.08	中世	<SK111	積層		77
SK131	A	土坑	不整	0.50	0.28	0.19	中世	>SK130、SK167			
SK132	A	土坑	溝内	0.30	0.28	0.06	中世	<SK133			77
SK133	A	土坑	溝内	0.31	0.28	0.10	中世	>SK132			77 64
SK134	A	土坑	溝内	0.30	0.30	0.09	中世土器部				77
SK135	A	土坑	溝内	0.27	0.25	0.20	中世				
SK136	A	土坑	溝内	0.30	0.25	0.04	中世				
SK137	A	土坑	溝内	0.40	0.38	0.17	中世				
SK138	A	土坑	溝内	0.34	0.30	0.30	中世				
SK139	A	土坑	溝内	0.21	0.18	0.16	中世				
SK140	A	土坑	溝内	0.27	0.22	0.22	中世				
SK141	A	土坑	溝内	0.23	0.20	0.23	中世				
SK142	A	土坑	不整	0.41	0.30	0.27	中世				
SK143	A	土坑	溝内	0.62	0.50	0.38	漆器部				81
SK144	A	土坑	溝内	0.40	0.35	0.39	中世				
SK145	A	土坑	溝内	0.39	0.27	0.30	中世				
SK146	A	土坑	不整	0.44	0.38	0.23	中世				
SK147	A	土坑	溝内	0.33	0.30	0.28	中世				
SK148	A	土坑	溝内	0.40	0.30	0.13	漆器部				積層7
SK149	A	土坑	溝内	0.32	0.27	0.21	中世				
SK150	A	土坑	溝内	0.77	0.66	0.17	中世	<SK151			
SK151	A	土坑	溝内	0.84	0.60	0.19	中世	>SK150			
SK152	A	土坑	溝内	0.71	0.62	0.40	中世	<SK2			
SK153	A	土坑	溝内	0.85	0.52	0.09	中世				
SK154	A	土坑	溝内	0.48	0.45	0.26	中世				
SK155	A	土坑	溝内	0.44	0.44	0.27	中世				
SK156	A	土坑	溝内	0.32	0.24	0.28	中世				
SK157	A	土坑	不整	0.60	0.69	0.28	中世				
SK158	A	土坑	溝内	0.34	0.30	0.04	中世				
SK159	A	土坑	溝内	0.36	0.27	0.29	中世土器部				>SK160
SK160	A	土坑	溝内	0.27	0.26	0.06	中世	<SK159			
SK161	A	土坑	溝内	0.52	0.20	0.25	中世				
SK162	A	土坑	溝内	0.49	0.37	0.25	中世				積層7
SK163	A	土坑	溝内	0.28	0.27	0.09	中世				
SK164	A	土坑	溝内	0.35	0.30	0.13	中世				
SK165	A	土坑	溝内	0.24	0.20	0.05	中世				

第29表 安吉遺跡 土坑一覽 (3)

遺跡番号	地区	遺跡種類	平面形状	縦長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期	埋り方 ¹⁾	特記事項	検出番号	図説番号	
SK106	A	土坑	横円	0.41	0.28	0.35		中世					
SK167	A	土坑	円	0.27	0.22	0.17		中世	<SK131				
SK168	A	土坑	円	0.22	0.20	0.20		中世					
SK169	A	土坑	横円	0.64	0.60	0.18		中世					
SK170	A	土坑	円	0.27	0.20	0.23		中世	<SK73				
SK171	A	土坑	円	0.26	0.26	0.26	漆器	中世	>SK73			柱礎	
SK172	A	土坑	円	0.43	0.39	0.10	近世陶器下	中世下					
SK173	A	土坑	円	0.18	0.18	0.14		中世					
SK174	A	土坑	円	0.32	0.30	0.30		中世					
SK176	A	土坑	円	0.75	0.53	0.10		中世					
SK178	A	土坑	不整	0.62	0.43	0.33	土師器、土師土器蓋	中世	>SK60				
SK179	A	土坑	長方	4.00	1.38	0.47	土師器、中世土師器、漆器、銅刀、銅釘、銅環、漆器、磁器	中世	<SK02、SK05、SK06	SK05出土土師器と銅合、墓坑の可能性あり	74、78	64	
SK202	A	土坑	不整	1.50	1.00	0.19	漆器、漆器蓋	中世下	>SK03				
SK203	A	土坑	不整	7.20	6.50	0.90	土師器、漆器、漆器蓋、中世土師器	中世	>SK028、SK203	埋高次		65	
SK204	A	土坑	円	1.76	0.96	0.29		中世	>SK203、SK208				
SK205	A	土坑	円	0.34	0.32	0.04		中世	<SK207				
SK210	A	土坑	横円	0.80	0.76	0.76	漆器	中世	<SK009				
SK211	A	土坑	円	2.23	1.26	0.49		中世				82	
SK212	A	土坑	円	1.00	0.69	0.29	漆器	中世					
SK213	A	土坑	円	0.65	0.79	0.79	土師器	中世				墓坑の可能性あり	82
SK214	A	土坑	円	0.90	0.90	0.54		中世					
SK215	A	土坑	不整	1.60	0.73	0.08		中世	<SK204、SK207				
SK216	A	土坑	円	0.90	0.90	0.31	中世土師器	中世				82	
SK217	A	土坑	円	1.10	1.03	1.42	漆器、土師土器蓋	中世				82、65	
SK218	A	土坑	不整	3.20	1.60	0.26		中世	>SK208、SK219	墓坑の可能性あり			
SK219	A	土坑	円	0.90	0.75	0.30		中世	>SK78				
SK220	A	土坑	不整	2.30	1.82	0.13	土師器	中世下	<SK01、SK01				
SK221	A	土坑	円	1.12	1.08	0.79	中世土師器、漆器	中世	<SK01、SK220				
SK222	A	土坑	円	0.36	0.32	0.10		中世					
SK223	A	土坑	円	0.30	0.21	0.12		中世					
SK224	A	土坑	円	0.50	0.43	0.13		中世					
SK225	A	土坑	円	0.37	0.36	0.10		中世					
SK226	A	土坑	不整	1.28	1.20	0.24		中世	<SK227				
SK227	A	土坑	横円	0.58	0.58	0.18		中世	>SK226				
SK228	A	土坑	不整	0.77	0.75	0.31		中世	<SK018、SK018				
SK229	A	土坑	不整	2.08	1.27	0.74		中世	<SK01				
SK230	A	土坑	円	1.05	0.70	0.13		中世	>SK209				
SK231	A	土坑	円	0.42	0.39	0.18		中世					
SK232	A	土坑	横円	0.41	0.40	0.10		中世	<SK021				
SK236	A	土坑	円	1.02	0.93	0.14		中世					
SK237	A	土坑	不整	2.60	2.00	0.61	漆器	中世	<SK006				
SK238	A	土坑	横円	1.60	1.20	0.40	漆器蓋	中世					
SK239	A	土坑	横円	0.70	0.49	0.11		中世	埋り方なし				
SK241	A	土坑	横円	0.88	0.83	0.84	中世土師器	中世	>SK242、SK249				
SK242	A	土坑	円	0.40	0.40	0.30		中世	<SK018、SK018				
SK244	A	土坑	円	0.34	0.30	0.46		中世	>SK75				
SK245	A	土坑	円	0.46	0.32	0.67		中世					
SK246	A	土坑	横円	1.13	0.38	0.98		中世	<SK040、SK076				
SK247	A	土坑	横円	1.20	0.42	0.22		中世	<SK040、SK076				
SK248	A	土坑	横円	1.60	1.30	0.50		中世	>SK089				
SK250	A	土坑	円	0.55	0.55	0.29		中世				82	
SK251	A	土坑	円	0.42	0.42	0.46		中世				柱礎	
SK252	A	土坑	円	0.38	0.36	0.17		中世					
SK253	A	土坑	円	0.35	0.29	0.21		中世					
SK254	A	土坑	円	0.45	0.40	0.38		中世					
SK255	A	土坑	円	0.80	0.58	0.20		中世					
SK256	A	土坑	方	1.22	0.97	0.14		中世	<SK006、SK207				
SK257	A	土坑	円	0.63	0.60	0.38		中世	>SK258				
SK258	A	土坑	横円	0.90	0.75	0.41		中世	<SK207、SK218				
SK259	A	土坑	横円	0.70	0.67	0.40		中世	<SK201				
SK260	A	土坑	方	12.10	2.10	0.35	中世土師器、漆器	中世				82、65	
SK261	A	土坑	不整	0.54	0.43	0.37		中世					
SK262	A	土坑	円	0.57	0.50	0.30		中世					
SK263	A	土坑	横円	0.53	0.50	0.39		中世	<SK001、SK005				
SK264	A	土坑	不整	0.54	0.43	0.24		中世					
SK265	A	土坑	横円	1.32	1.28	0.60	土師器、漆器	中世	<SK021、SK230				
SK266	A	土坑	円	0.98	0.30	0.13		中世					
SK267	A	土坑	円	0.54	0.30	0.31	中世土師器、漆器	中世	>SK75、SK281			82	
SK268	A	土坑	円	1.07	0.70	0.88		中世	<SK01				
SK270	A	土坑	円	0.35	0.30	0.38		中世					
SK271	A	土坑	円	0.30	0.30	0.43		中世					
SK272	A	土坑	横円	0.73	0.50	0.48		中世					
SK273	A	土坑	不整	0.81	0.53	0.10	土師器、中世土師器	中世					
SK277	A	土坑	不整	6.30	4.49	0.80	土師器、中世土師器、漆器、下駄	中世	<SK004、SK076	埋高次		82	
SK278	A	土坑	不整	0.88	0.61	0.67		中世				82	
SK279	A	土坑	不整	1.50	1.15	0.72	中世土師器、漆器	中世					
SK281	A	土坑	円	0.60	0.30	0.28		中世					
SK282	A	土坑	円	0.40	0.32	0.18	漆器蓋、中世土師器	中世				82	
SK283	A	土坑	円	0.40	0.29	0.48		中世	>SK282				
SK284	A	土坑	不整	0.47	0.38	0.27		中世	<SK003				
SK285	A	土坑	円	0.29	0.25	0.05		中世					
SK286	A	土坑	円	0.30	0.27	0.24		中世					
SK287	A	土坑	横円	0.35	0.32	0.28		中世					
SK288	A	土坑	円	0.30	0.26	0.13		中世					
SK289	A	土坑	円	0.50	0.53	0.17		中世	>SK289				
SK290	A	土坑	円	0.45	0.40	0.37		中世	<SK289				
SK291	A	土坑	円	0.30	0.36	0.38		中世					
SK292	A	土坑	円	0.90	0.67	0.17		中世	<SK001、SK006				
SK293	A	土坑	不整	1.00	0.90	0.50	漆器、磁器下、土師器、銅釘、銅合	中世				82	
SK295	A	土坑	横円	0.37	0.28	0.43		中世	<SK003	埋高次、SK094と同時期			
SK305	A	土坑	不整	5.25	4.74	1.38	土師器、漆器蓋、中世土師器、漆器、土師土器蓋	中世	<SK003、SK012	赤井の可能性あり SK003、SK012と同時期		83、65	
SK307	A	土坑	円	0.35	0.29	0.64		中世					
SK308	A	土坑	円	0.28	0.28	0.40		中世					
SK309	A	土坑	横円	0.54	0.30	0.11		中世					
SK310	A	土坑	円	0.24	0.22	0.30		中世					
SK311	A	土坑	円	0.27	0.24	0.11		中世					
SK313	A	土坑	円	0.40	0.34	0.25		中世					
SK314	A	土坑	円	0.30	0.30	0.18		中世				柱礎？	
SK315	A	土坑	円	0.24	0.24	0.41		中世					
SK316	A	土坑	円	0.42	0.30	0.30		中世					
SK317	A	土坑	円	0.30	0.28	0.21		中世	<SK018				
SK318	A	土坑	円	0.24	0.20	0.11		中世	<SK317				
SK319	A	土坑	円	0.32	0.27	0.55		中世					
SK320	A	土坑	円	0.34	0.30	0.15		中世	<SK001				
SK321	A	土坑	円	0.28	0.23	0.18		中世	>SK320				
SK322	A	土坑	円	0.28	0.28	0.28		中世					

第29表 安吉遺跡 土坑一覧(4)

遺構番号	地区	遺構種類	平形状	幅間(m)	長さ	深さ	出土遺物	時期	切り方	特記事項	神田番号	宮田番号
SK301	A	土坑	溝内	0.52	0.31	0.43		中世				
SK324	A	土坑	円	0.24	0.22	0.33		中世				
SK325	A	土坑	円	0.40	0.20	0.17		中世	<SK208			
SK326	A	土坑	不整	0.87	0.67	0.36		中世	>SK325・SK328			
SK327	A	土坑	円	0.48	0.48	0.25		中世				
SK329	A	土坑	円	0.22	0.22	0.27		中世				
SK330	A	土坑	溝内	0.44	0.38	0.19		中世	>SK341			
SK331	A	土坑	円	0.30	0.27	0.33		中世				
SK332	A	土坑	円	0.40	0.37	0.56		中世				
SK333	A	土坑	円	0.28	0.22	0.17		中世				
SK334	A	土坑	円	0.37	0.32	0.33		中世				
SK335	A	土坑	円	0.30	0.25	0.08		中世				
SK336	A	土坑	円	0.44	0.37	0.33		中世				
SK337	A	土坑	円	0.30	0.27	0.23		中世		柱痕?		
SK338	A	土坑	円	0.28	0.28	0.23		中世				
SK339	A	土坑	円	0.17	0.39	0.21		中世		柱痕?		
SK341	A	土坑	不整	(4.30)	(2.60)	0.22	中世土器類、麻材・釘類遺	中世	<SK312・SK330・SK340		83	
SK342	A	土坑	円	0.30	0.30	0.23		中世				83
SK343	A	土坑	円	0.17	0.38	0.04		中世		柱痕?		
SK344	A	土坑	円	0.35	0.32	0.10		中世				
SK345	A	土坑	不整	2.15	(2.00)	1.27		中世				
SK348	A	土坑	溝内	(2.00)	2.07	0.92		中世	>SK317・SK350・<SK349		84	65
SK349	A	土坑	溝内	0.17	0.39	0.21		中世	>SK348・SK369・SK380・<SK312		84	65
SK350	A	土坑	溝内	1.05	0.66	0.94		中世	>SK349・SK348			
SK351	A	土坑	溝内	1.05	0.66	0.94		中世	>SK349・SK366・<SK317・SK387	溝内の可能性あり	84	65
SK352	A	土坑	不整	3.06	1.10	0.39		中世				
SK353	A	土坑	円	0.35	0.32	0.32	漆器	中世	>SK356		83	
SK354	A	土坑	円	0.28	0.28	0.21		中世				
SK355	A	土坑	円	0.34	0.23	0.23		中世				
SK358	A	土坑	円	0.23	0.23	0.17		中世				
SK357	A	土坑	溝内	0.28	0.35	0.35		中世				
SK358	A	土坑	溝内	0.57	0.43	0.12		中世				
SK359	A	土坑	溝内	0.77	0.56	0.13		中世				
SK360	A	土坑	円	0.60	0.47	0.21		中世				
SK361	A	土坑	円	0.24	0.22	0.23		中世				
SK362	A	土坑	円	0.33	0.28	0.39		中世				
SK363	A	土坑	円	0.28	0.28	0.27		中世				
SK364	A	土坑	円	0.30	0.28	0.27		中世				
SK365	A	土坑	円	0.45	0.30	0.33	縄文銅刀	中世				83
SK366	A	土坑	円	0.36	0.30	0.21		中世				
SK368	A	土坑	円	0.34	0.28	0.43		中世	<SK285			
SK369	A	土坑	円	0.20	0.24	0.24		中世	<SK329・SK385			84
SK370	A	土坑	溝内	2.90	1.39	0.11	漆器	中世				
SK371	A	土坑	不整	0.90	0.75	0.42		中世				
SK372	A	土坑	円	1.21	(1.13)	0.39		中世	<SK397			
SK373	A	土坑	円	0.73	0.70	0.34		中世	<SK397			
SK374	A	土坑	不整	(1.44)	1.30	0.16		中世	<SK370			
SK375	A	土坑	溝内	1.16	0.62	0.30		中世				
SK378	A	土坑	不整	4.27	(2.00)	0.93	白磁・漆器	中世				84
SK380	A	土坑	円	0.75	0.71	0.62		中世	>SK381	柱痕		
SK381	A	土坑	円	0.34	0.23	0.21		中世	>SK380			
SK382	A	土坑	円	0.24	0.24	0.46		中世				
SK383	A	土坑	円	0.30	0.30	0.33	漆器	中世				84
SK385	A	土坑	不整	5.60	(4.00)	0.32		中世	<SK340・SK351・SK372・SK348		84	
SK401	B	土坑	溝内	0.50	0.23	0.08		中世	>SK390・SK398			
SK411	B	土坑	円	0.36	0.30	0.33		中世	<SK406			
SK412	B	土坑	不整	1.44	1.20	0.11	漆器	中世				
SK413	B	土坑	溝内	0.86	0.72	0.18		中世	<SK406			
SK414	B	土坑	円	0.30	0.28	0.16		中世				
SK415	B	土坑	溝内	0.30	0.39	0.28		中世				
SK416	B	土坑	溝内	0.52	0.38	0.16		中世	<SK420			
SK417	B	土坑	溝内	0.32	0.27	0.38		中世				
SK418	B	土坑	溝内	0.88	0.43	0.27		中世				
SK422	B	土坑	溝内	0.81	0.70	0.03		中世	<SK405・SK419			
SK424	B	土坑	溝内	0.46	0.36	0.10		中世	<SK425			
SK425	B	土坑	溝内	0.36	0.25	0.12		中世	<SK424			
SK432	B	土坑	溝内	0.70	0.39	0.05		中世				
SK433	B	土坑	溝内	(1.02)	0.50	0.12		中世	<SK433	SK433の継ぎの可能性がある		
SK434	B	土坑	円	0.62	0.49	0.13		中世				
SK437	B	土坑	円	0.38	0.30	0.10		中世				
SK438	B	土坑	円	0.20	0.20	0.10		中世				
SK439	B	土坑	円	0.29	0.31	0.07		中世				
SK440	B	土坑	溝内	0.57	0.54	0.18		中世				
SK441	B	土坑	円	0.24	0.18	0.19		中世				
SK442	B	土坑	円	0.18	0.18	0.18		中世				
SK443	B	土坑	円	0.30	0.16	0.27		中世				85
SK446	B	土坑	不整	2.60	(2.42)	0.36		中世		柱痕・SK441・SK443とともに柱列になる可能性がある		85
SK447	B	土坑	溝内	0.27	0.25	0.07		中世		柱痕		85
SK448	B	土坑	円	0.34	0.34	0.11		中世		柱痕		85
SK452	B	土坑	溝内	0.38	0.24	0.10		中世				
SK455	B	土坑	不整	4.80	2.77	1.60	土器類?・麻器類・中世土器類?	中世	<SK453			
SK457	B	土坑	円	0.30	0.26	0.18		中世	>SK469	溝内の可能性あり		85
SK460	B	土坑	不整	2.04	0.24	0.19		中世				
SK461	B	土坑	不整	3.21	0.63	0.17		中世		SK462との切り合いは不明		
SK465	B	土坑	溝内	1.30	0.34	0.09		中世				
SK466	B	土坑	円	0.70	0.70	0.29		中世	<SK458			
SK467	B	土坑	溝内	0.30	0.28	0.08		中世	<SK458			
SK468	B	土坑	溝内	(1.80)	1.30	0.38	中世土器類・麻材・竹器類	中世	<SK456・SK458	溝内の可能性あり SK455内の土坑 中央部が分りず縁に近くなる		85
SK469	B	土坑	溝内	0.44	0.36	0.08		中世				
SK481	B	土坑	溝内	1.24	1.00	0.52	土器類?・中世土器類?	中世				
SK485	B	土坑	溝内	0.64	0.49	0.07		中世		直線 出現		
SK486	B	土坑	溝内	0.66	0.43	0.09		中世				
SK488	B	土坑	溝内	(1.35)	0.48	0.17		中世				
SK489	B	土坑	不整	0.90	0.82	0.14	縄文?	中世				
SK490	B	土坑	円	0.47	0.38	0.12		中世				
SK491	B	土坑	溝内	1.10	0.92	0.48		中世				85
SK492	B	土坑	円	0.18	0.18	0.14		中世				
SK495	B	土坑	円	1.30	1.30	0.38		中世				85
SK499	B	土坑	溝内	0.81	0.45	0.15	土器類?	中世				
SK501	B	土坑	溝内	0.48	0.39	0.11		中世				
SK502	B	土坑	円	0.49	0.43	0.21		中世	<SK496			
SK503	B	土坑	溝内	1.25	(1.25)	0.41	土器類	中世	<SK497			

第30表 安吉遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(2)

期	遺跡	発掘年度	発掘者	品名	数量	調査方法		出土位置	調査者	図面	写真	備考	
						調査方法	調査者						
B	141	30	A	300.100	陶器	1	100	100	100	100	100		
	142	30	A	300.101	陶器	1	100	100	100	100	100		
	143	30	A	300.102	陶器	1	100	100	100	100	100		
	144	30	A	300.103	陶器	1	100	100	100	100	100		
	145	30	A	300.104	陶器	1	100	100	100	100	100		
	146	30	A	300.105	陶器	1	100	100	100	100	100		
	147	30	A	300.106	陶器	1	100	100	100	100	100		
	148	30	A	300.107	陶器	1	100	100	100	100	100		
	149	30	A	300.108	陶器	1	100	100	100	100	100		
	150	30	A	300.109	陶器	1	100	100	100	100	100		
	C	151	30	A	300.110	陶器	1	100	100	100	100	100	
		152	30	A	300.111	陶器	1	100	100	100	100	100	
		153	30	A	300.112	陶器	1	100	100	100	100	100	
		154	30	A	300.113	陶器	1	100	100	100	100	100	
		155	30	A	300.114	陶器	1	100	100	100	100	100	
		156	30	A	300.115	陶器	1	100	100	100	100	100	
		157	30	A	300.116	陶器	1	100	100	100	100	100	
		158	30	A	300.117	陶器	1	100	100	100	100	100	
		159	30	A	300.118	陶器	1	100	100	100	100	100	
		160	30	A	300.119	陶器	1	100	100	100	100	100	
D		161	30	A	300.120	陶器	1	100	100	100	100	100	
		162	30	A	300.121	陶器	1	100	100	100	100	100	
		163	30	A	300.122	陶器	1	100	100	100	100	100	
		164	30	A	300.123	陶器	1	100	100	100	100	100	
		165	30	A	300.124	陶器	1	100	100	100	100	100	
		166	30	A	300.125	陶器	1	100	100	100	100	100	
		167	30	A	300.126	陶器	1	100	100	100	100	100	
		168	30	A	300.127	陶器	1	100	100	100	100	100	
		169	30	A	300.128	陶器	1	100	100	100	100	100	
		170	30	A	300.129	陶器	1	100	100	100	100	100	
	E	171	30	A	300.130	陶器	1	100	100	100	100	100	
		172	30	A	300.131	陶器	1	100	100	100	100	100	
		173	30	A	300.132	陶器	1	100	100	100	100	100	
		174	30	A	300.133	陶器	1	100	100	100	100	100	
		175	30	A	300.134	陶器	1	100	100	100	100	100	
		176	30	A	300.135	陶器	1	100	100	100	100	100	
		177	30	A	300.136	陶器	1	100	100	100	100	100	
		178	30	A	300.137	陶器	1	100	100	100	100	100	
		179	30	A	300.138	陶器	1	100	100	100	100	100	
		180	30	A	300.139	陶器	1	100	100	100	100	100	
F		181	30	A	300.140	陶器	1	100	100	100	100	100	
		182	30	A	300.141	陶器	1	100	100	100	100	100	
		183	30	A	300.142	陶器	1	100	100	100	100	100	
		184	30	A	300.143	陶器	1	100	100	100	100	100	
		185	30	A	300.144	陶器	1	100	100	100	100	100	
		186	30	A	300.145	陶器	1	100	100	100	100	100	
		187	30	A	300.146	陶器	1	100	100	100	100	100	
		188	30	A	300.147	陶器	1	100	100	100	100	100	
		189	30	A	300.148	陶器	1	100	100	100	100	100	
		190	30	A	300.149	陶器	1	100	100	100	100	100	

第31表 安吉遺跡 木製品一覧

群別	遺物	写真図版	地区	遺構	出土地点	台帳番号	種類	材質	法量 (cm)			備考	
									長さ	幅	厚さ		
95	273	81	A	SD6		M090570	漆器	ブナ属	10.0	5.0	1.0	○	底面L/2 内外面漆絵 榎木取り
	274	83	A	SD56	X41Y98	M090579	漆器	ブナ属	9.5	6.5	1.5	○	L/2用 内外面漆絵 榎木取り
	275	83	A	SD240	X36Y77	M090576	漆器	ブナ属	12.0	7.5	2.8		L/2用 内外面漆絵 榎木取り
	276	81	A	SD240	X38Y76	M090569	漆器	ブナ属	7.5	6.0	3.8		L/3用 内面漆絵 榎木取り
	277	81	A	SD204	X30Y73	M090562	漆器	ブナ属	10.5	9.0	1.0		取上L7% 内外面漆絵 榎木取り
	278	82	A	SD204	X35Y75 下層	M090565	漆器	ブナ属	15.0	10.0	1.0	○	底面全周 L 内外面漆絵 榎木取り
	279	81	A	SD204	X35Y76	M090578	漆器	ブナ属	5.0	3.0	0.5		L/2用 L/3用 内外面漆絵 榎木取り
	280	82	A	SD204	X35Y75	M090563	漆器	ブナ属	9.0	9.0	1.4		(ほぼ)完全 漆絵 榎木取り
	281	81	A	SD204	X35Y74	M090560	漆器	ブナ属	4.3	3.5	0.5		底面 内面漆絵 榎木取り
	282	83	A	SD204	X30Y72	M090564	漆器	ブナ属	7.0	6.0	2.0		内外面漆絵 榎木取り
	283	6・82	A	SD274		M090561	漆器	ブナ属	10.0	10.0	1.6	○	(ほぼ)完全 内面漆絵 榎木取り
	284	81	A	SK378		M090554	漆器	ブナ属	8.0	4.5	0.4	○	内面漆絵 榎木取り
	285	83	A	SD297		M090566	漆器	ブナ属	16.0	14.0	3.5	○	底面ほぼ全周 内外面漆絵 榎木取り
	286	6・83	A	SD297		M090567	漆器	ブナ属	15.0	15.0	4.0	○	(ほぼ)完全 漆絵 榎木取り
	287	82	A	SK210		M090568	漆器	ブナ属	11.0	11.0	5.5		榎目
	288	82	A	SK179	X41Y101	M090574	漆器	ブナ属	9.5	5.5	2.0	○	取上L7% L/2 L/3用 漆絵 榎木取り
	289	82	A	SK179	X41Y101	M090573	漆器	ブナ属	8.5	8.0	2.3	○	取上L7% L/3 底面全周 漆絵 榎木取り
	290	82	A	SK179	X41Y101	M090572	漆器	ブナ属	8.0	7.0	2.5	○	取上L7% L/1 底面全周 漆絵 榎木取り
	291	82	A	SK179	X41Y101	M090571	漆器	ブナ属	7.0	6.5	2.6	○	底面全周 漆絵 榎木取り
	292	85	A	SK179	X41Y101	M090552	円形板	ヒノキ	24.6	13.0	0.5		榎目
	293	6・81	A	SD240	Y67ライン付法sec2空層	M090580	木匁	スギ	32.5	6.2	0.3		(カン?) 般若十六番神護 榎目
	294	81	A	SD2	X40Y101	M090551	木匁	アスナド	16.3	3.3	0.2		七郎石門わか子区 榎目
	295	82	A	SK277	sec2層	M090582	下敷	スギ	11.0	10.4	6.6		榎目 (之持)
	296	82	A	SD304	X29Y58	M090555	下敷	ヒノキ	14.5	10.4	6.9		治榎目 (之持)
	297	84	A	SD204	X28Y73	M090575	杓子?	スギ	23.0	7.5	1.5		榎目
	298	84	A	SD240	X35Y77 下層	M090600	加工材	アスナド	17.5	2.8	0.6		板状 両端加工 榎目
	299	84	A	SD240	X35Y77 空層	M090598	加工材	スギ	20.3	2.1	0.9		中央抉り 榎目
300	84	A	SK568		M090593	加工材	スギ	8.6	1.7	0.7		板状 両端抉り 榎目	
301	85	A	SD304	X29Y58	M090556	円形板	ヒノキ	16.0	3.7	0.8		榎目	
302	85	B	SK498	上層 (空層)	M090601	円形板	スギ	17.5	4.8	0.3		榎目	
303	85	A	SD240	X35Y77 下層	M090599	円形板	ヒノキ	23.3	10.8	0.4		榎目	
304	84	A	SK102	下層	M090595	円形板	スギ	19.0	9.7	0.4		榎目	
305	84	A	SD103	X33Y75	M090596	円形板	ヒノキ	9.7	9.4	0.7		縦じり 榎目	
306	84	A	SK42		M090567	巻物	ヒノキ	12.6	13.0	10.0		底面あり 榎・炭とも榎目	
307	84	A	SD301	X29Y40	M090583	加工材	アスナド	10.7	6.7	2.3		手鋸	
308	84	A	SD240	X36Y77	M090590	加工材	スギ	8.0	7.5	3.6		板状	

第32表 安吉遺跡 石製品一覧

群別	遺物	写真図版	地区	遺構	出土地点	台帳番号	種類	材質	法量 (cm・g)				備考
									長さ	幅	厚さ	重さ	
97	309	85	A	SK59		J990202	砥石	流紋岩	17.8	3.5	2.8	270.55	4層とも砥面
	310	85	A	SK290	上層	J990209	砥石	流紋岩	14.3	3.2	3.2	301.12	4層とも砥面
	311	85	B		X71Y192 I	J990212	砥石	流紋岩	8.5	3.6	3.4	209.21	
	312		A	SK67		J990203	硯	凝灰岩	4.0	0.9	1.6	4.74	焼熟資料
	313	85	A	SD240	X36Y66	J990210	磨石のある石	凝灰質砂岩	24.5	30.0	8.5	7800	

第33表 安吉遺跡 金属製品一覧

群別	遺物	写真図版	地区	遺構	出土地点	台帳番号	種類	材質	法量 (cm・g)				備考
									長さ	幅	厚さ	重さ	
98	314	6・86・87	A	SK51		K990052	鏡	銅	3.5	2.5	0.9	18.34	6枚重なって出土
	315	6・86・88	A	SK68	No 1	K990055	鏡	銅	4.5	2.5	1.6	31.33	11枚重なって出土
	316	86	A	SD44	X42Y103	K990051	鏡	銅	2.5	2.5	0.15	1.73	沈没遺棄
	317	86	A	SD55	X42Y99	K990053	鏡	銅	2.3	2.2	0.1	2.30	
	318	86	A		X36Y96 II	K990061	鏡	銅	2.2	2.2	0.1	1.65	永年遺棄
	319	86	A		X41Y96 III層上面	K990062	鏡	銅	2.4	2.4	0.1	3.20	永年遺棄
	320	86	A		X30Y99 II	K990063	鏡	銅	2.4	2.4	0.1	1.39	同沈没遺棄
	321	86	A		X31Y74 II	K990064	鏡	銅	2.3	2.3	0.1	2.69	巻物遺棄 328と重なって出土
	322	86	A		X31Y74 II	K990065	鏡	銅	2.4	2.4	0.1	3.01	政和遺棄 327と重なって出土
	323	6・86	A	SK68	X43Y98 埋土上面	K990054	五輪作? 青銅?	鉄	6.4	3.0	3.0	64.39	
	324	86	A	SD240	sec2空層	K990056	刀子	鉄	14.5	1.0	0.2	9.11	
	325	86	A		X34Y74 II	K990058	剣	鉄	9.2	2.0	0.8	60.82	
	326	86	A		X33Y81 II	K990059	鎌首	銅	5.6	1.6	1.0	8.61	
	327		B		X61Y137 I b	K990068	鎌首	銅	3.5	0.9	0.8	4.94	
	328	86	B	SD487	X72Y179	K990067	板状	鉄?	4.3	2.9	0.1	6.42	釘あり

第Ⅵ章 棚田遺跡

1 概要

棚田遺跡は、庄川右岸の射水平野南西部に位置する。下条川と和田川にはさまれた微高地上に立地し、標高は7.3～8.2mを測り、東側が低くなる。現況は、市道市井二口線と市道八塚串田線間の水田で、遺跡西側は市道八塚串田線をはさんで本江大坪Ⅰ遺跡と接する。調査区は遺跡の中央を東西に横断し、西側の本線及び変電施設建設予定地の水田のみをA地区とし、残りの本線部分をB地区とした。検出した遺構は、溝40条、土坑87基で、調査区内に散在する。出土遺物は少ないが、弥生時代終末期～古墳時代、中世～近世の2時期のものがある。なお、弥生時代終末～古墳時代にかけての時期の土器については、ここでは古代の土師器との区別のため弥生土器の表記を用いている。

2 層序

層序は、Ⅰa層：灰黄褐色砂質シルト、黒褐色粘質土（表土）、Ⅰb層：黒褐色粘質土（耕作土）、Ⅱ層：黄灰色粘質土（遺物包含層）、Ⅲ層：灰色粘質土、黄褐色粘質土（遺構検出面・地山）、Ⅳ層：黄灰色砂質シルト（地山）となる。調査区は東西に長いが、基本層序は概ね一致する。Ⅰa層、Ⅰb層はA地区西側で最も厚く、東へ向かって薄くなる。Ⅰb層は現水田の床土とみられる層で、A地区で厚く、西側に隣接する本江大坪Ⅰ遺跡C地区東端でも確認されている。Ⅱ層は層厚が5～10cmと薄く部分的にしか遺存しない。弥生時代から古代にかけての遺物を含むが、細片が多く量は少ない。調査区の大半はⅠ層直下に遺構検出面であるⅢ層が露出している。現況水田面からⅢ層上面までの深度は、A地区西端で0.8～1.1m、B地区西端で0.3～0.4m、B地区東端で0.1～0.25mを測り、B地区東半分は耕作等の後世の削平を受けている。

3 遺構・遺物

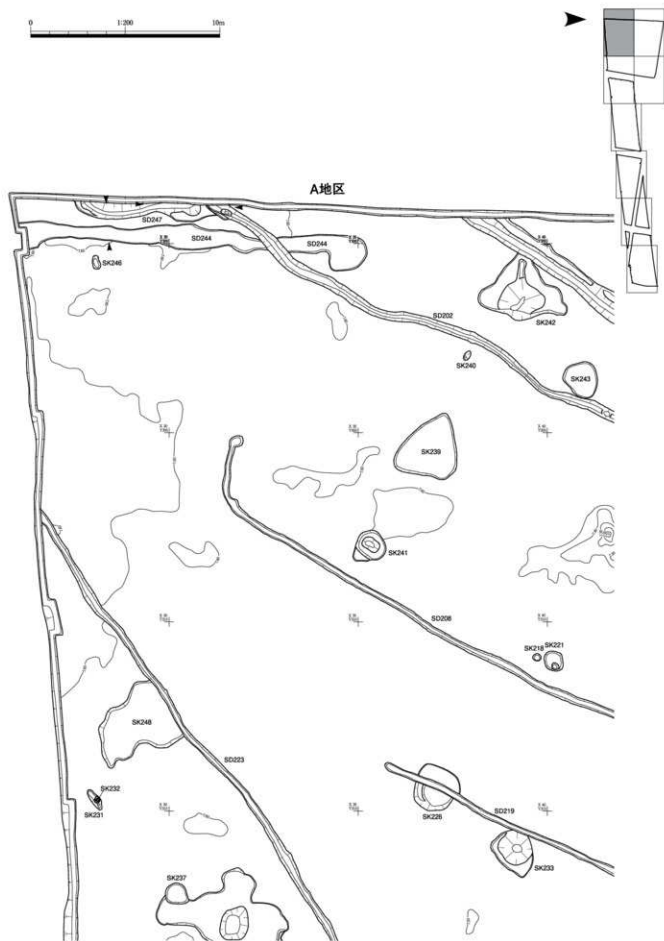
(1) 溝

1号溝（SDⅠ、第107・110図、図版91・93・94）

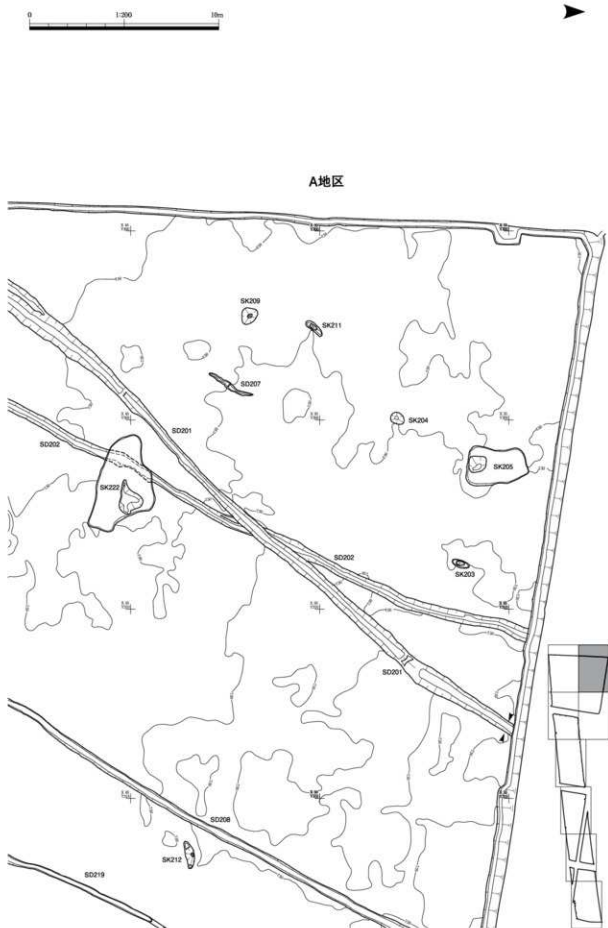
B地区東端から87mに渡り検出した東西溝で、東端に環状の木組施設を持つ。この木組施設の内側は一段深くなっており、導水施設とみられる。SD2、SD3、SD70とはそれぞれ直角に交わるが、土層観察からは前後関係はなく同時期の遺構と考えられる。SD70と直交する部分にも東端と同様の木組施設を持つ。SDⅠはSD57、SD65、SD68、SD69を切る。Ⅰb層途中で掘り込み面があることから、近世以降近代の用水路とみられる。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲（34）、越前、越中瀬戸、伊万里（52・53）、板状金属片などがあるが、土師器、須恵器は小片で摩耗が激しく混入と考えられる。この他に、帝國在郷軍人会会員徽章が東側木組内部から出土している。

7号溝（SD7、第108・111図、図版7）

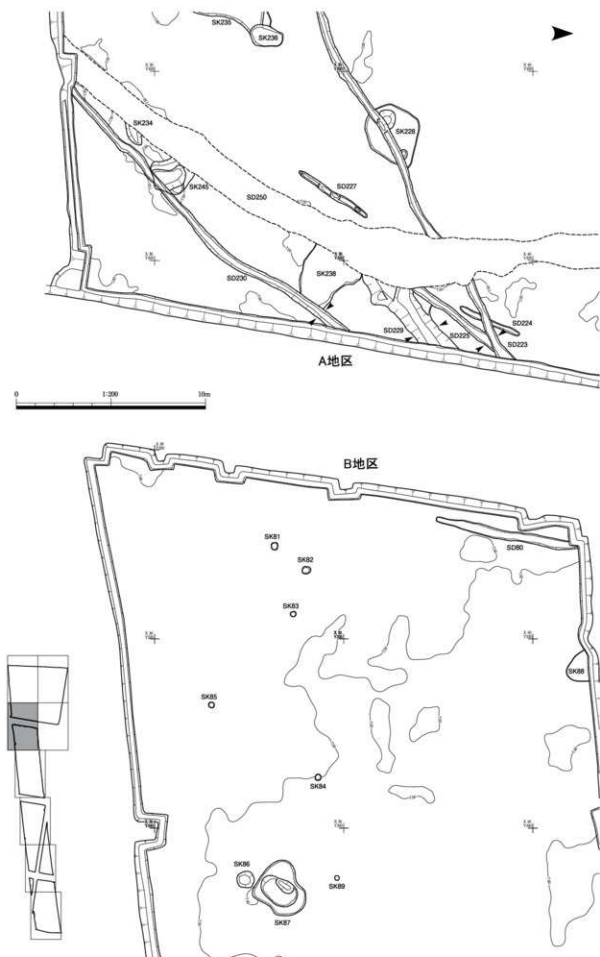
B地区東半に位置する南北溝で、両端は調査区外へ続く。SK8を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土単層である。SK8のやや北より底面で、伏せられた状態の漆器（61）が出土してい



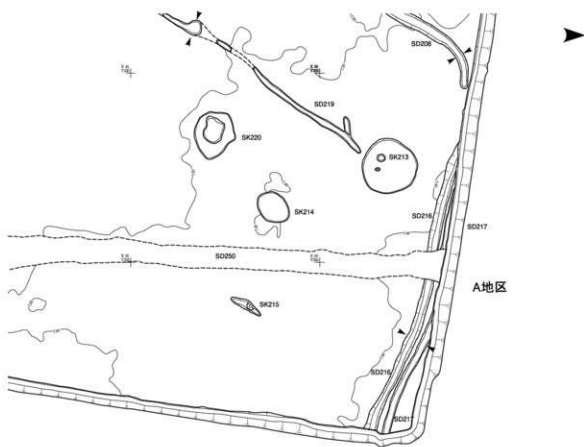
第99図 棚田遺跡 遺構全体図 (1:200)



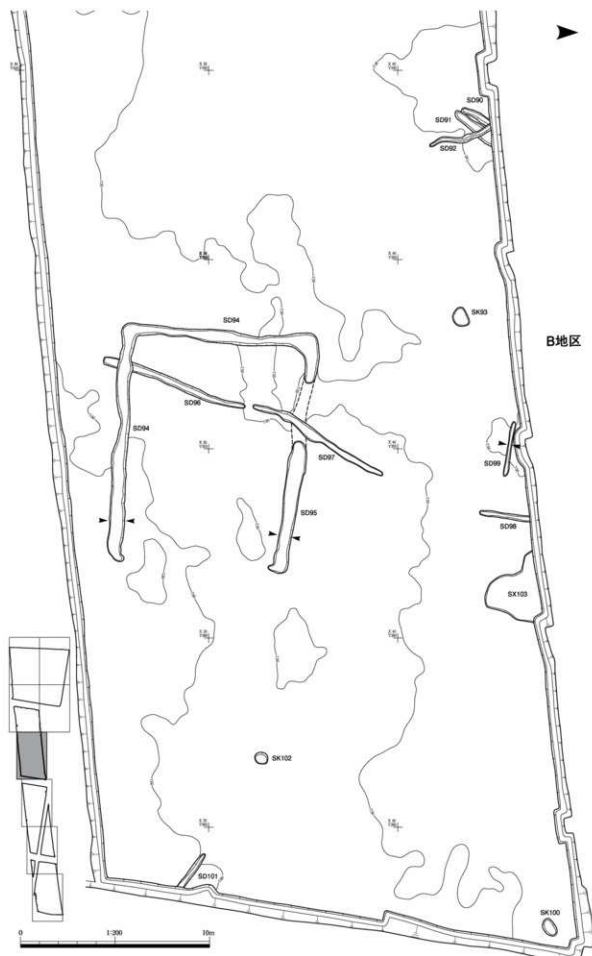
第100図 棚田遺跡 遺構全体図 (1:200)



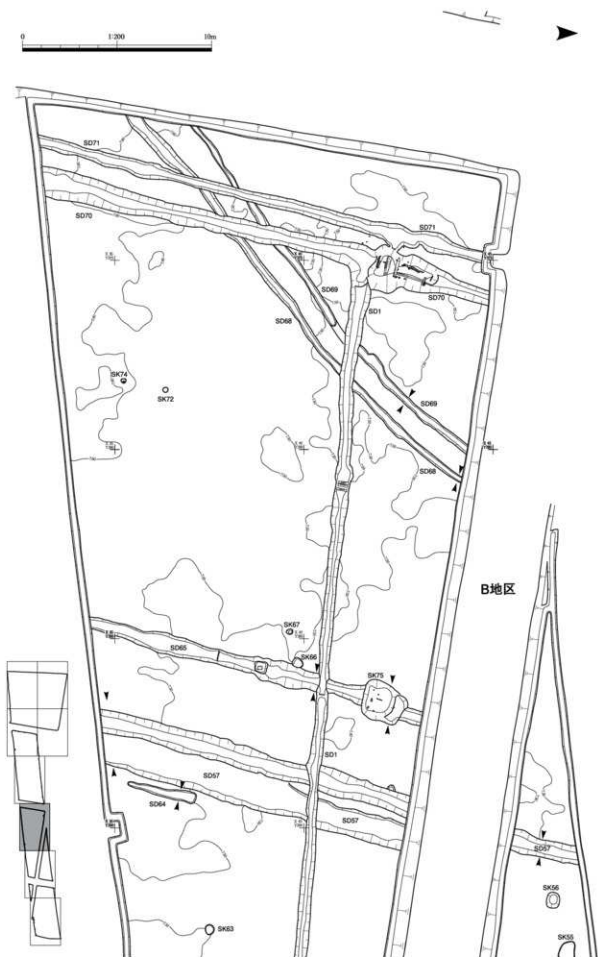
第101図 柵田遺跡 遺構全体図 (1:200)



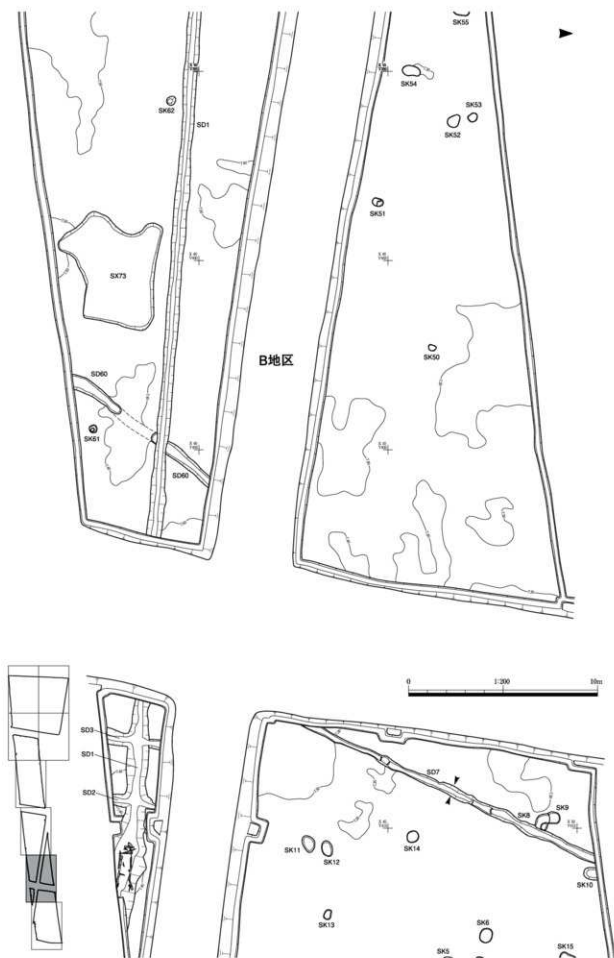
第102図 棚田遺跡 遺構全体図 (1:200)



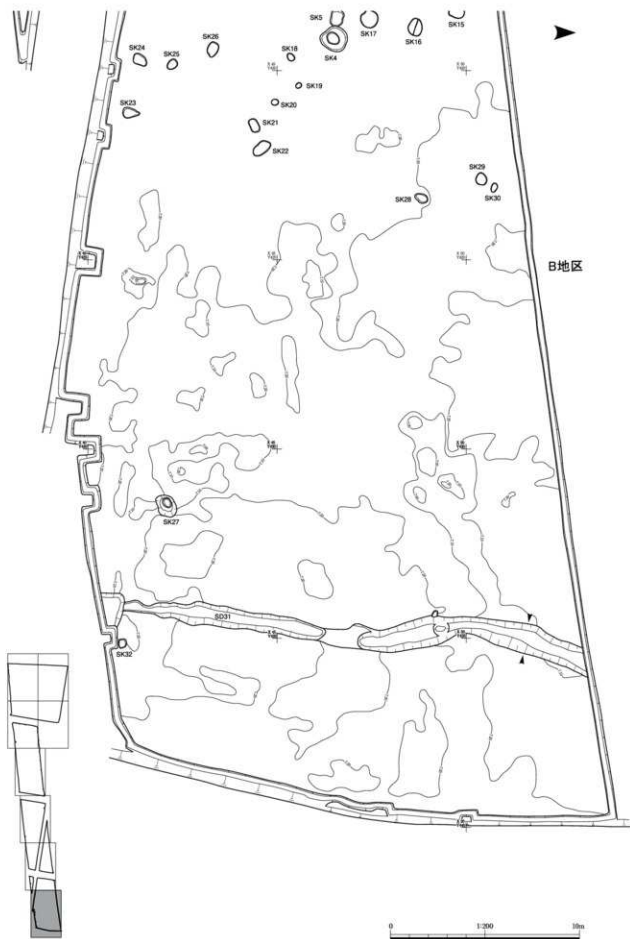
第103図 柵田遺跡 遺構全体図 (1:200)



第104図 棚田遺跡 遺構全体図 (1:200)



第105図 榑田遺跡 遺構全体図 (1:200)



第106図 棚田遺跡 遺構全体図 (1:200)

る。61は内面赤色外面黒色の椀蓋で、つまみから外面全体に金粉で蔓草文様の蒔絵が施される。樹種はケヤキで、地の粉下地に漆を塗った上質のものである。17世紀以降のものか。

31号溝（SD 31, 第108・109図, 図版92）

B地区東端に位置する南北溝。後世の削平を受けており、溝底面部分を検出した。埋土は黒褐色粘質土単層である。埋土上面で弥生土器（6）が出土している。6は内外面ハケ調整の壺底部で、弥生時代終末～古墳時代前期にかけての時期のものか。

57号溝（SD 57, 第108・110図, 図版93・94）

B地区中央付近に位置する南北溝で、SD 1に切られる。幅3mで西側1mほどが一段深くなる。農道をささみ北側では、東側の浅い部分は削平を受けており、西側の一段深い部分のみを検出した。埋土は黒褐色粘質土を基調とする。埋土中から青磁、伊万里、唐津（57）が出土した。

65号溝（SD 65, 第108・110図, 図版94）

B地区中央付近に位置する南北溝で、SD 57の西側4mを併走する。SD 1に切れ、SK 66, SK 75を切る。埋土は黒褐色粘質土を基調とし、下位は褐色砂が混じる。埋土中から中世土師器、伊万里（50・51）、唐津が出土する。51は二重格子文の皿で、18世紀後半のもの。

68号溝（SD 68, 第108図）

B地区中央西よりに位置する。南西から北東方向へSD 69と約1mの間隔をあけて併走する。SD 1, SD 70, SD 71に切られる。SD 69とともに道路の側溝の可能性がある。出土遺物はない。

70号溝（SD 70, 第107・110・111図, 図版7・93・94）

B地区中央西よりに位置する南北溝。SD 1と直交するが断面観察からは前後関係はなく、同時期の遺構と考えられる。SD 1と直交する部分に木組施設を有し、北側が一段深くなる。SD 68, SD 69を切る。埋土は浅黄色粘質土混じりの黒褐色粘質土の単層で、埋土下位から中世土師器、珠洲（36）、青磁、越中瀬戸（43・49）、伊万里（54）、唐津、木製品（62）、楕円形状の金属製品などの遺物が出土する。この他には混入とみられる土師器、須恵器がある。36は珠洲の播鉢胴部。43は見込みに16弁菊の印花が押捺された皿で、17世紀後半～18世紀のもの。49は底部糸切り痕を残す鉄軸の壺。54は口縁部が外上方に開く器形の染付椀で、外面に草花文を描く。18世紀代のものか。62は木組施設に材として使われていたもので、内面黒色外面赤色に漆を塗り分けたヒノキの板材で、両端を作り出し目釘跡を持つ。組み合わせられる部分には漆塗りはないことから、箱状のものであろう。

71号溝（SD 71, 第107図）

B地区中央西よりに位置する南北溝で、SD 70と幅1mの間隔をあけて併走しており、同時期の遺構と考える。SD 68, SD 69を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土単層である。埋土中位から下位にかけて、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、伊万里、唐津などの遺物が出土する。土師器、須恵器は小片で磨滅していることから、混入とみられる。

94号溝（SD 94, 第108図, 図版91）

B地区西半に位置する。SD 95につながり、南北10.5m、東西13mの方形に巡る。耕作等による削平を受けており、幅0.69～0.8m、深さ0.05mを測る。埋土は炭化物混じりの褐色粘質土単層で、SD 96, SD 97を切る。出土遺物はなく、帰属時期は不明であるが、周辺包含層からは弥生時代終末～古墳時代前期の土器が出土しており、古墳の周溝の可能性もある。棚田遺跡の北西約600mの二口油免遺跡では、1辺19m、幅1.5mの方形に巡る溝が検出され、墳丘が削平された方墳（1号墳）とされている⁸¹。SD 94は二口油免遺跡1号墳より若干小さいが、形態は類似する。

99号溝 (SD 99, 第108・110図, 図版94)

B地区西半に位置する東西溝。幅 0.23m, 深さ 0.05mを測り, 埋土は炭化物混じりの黒色粘質土単層である。埋土上位から須恵器, 伊万里 (56) が出土している。56 は口紅を施した菊花型打ちの染付皿。口径 10.2 cmで, 小皿の中でも小ぶりな「手塩皿」である。高台裏まで施釉されている。

201号溝 (SD 201, 第108・110図, 図版94)

A地区西端に位置する。SD 202, SK 242 を切る。埋土は黒褐色粘質土を基調とする。埋土中から青磁 (31), 越中瀬戸, 伊万里, 唐津 (58・59) が出土しており, 近世以降の時期と考える。31 は青磁盤底部である。58 は褐色の素地に白色土を刷毛で塗り織状の文様を描く, いわゆる刷毛目唐津の鉢で, 17世紀後半以降のもの。59 は播鉢底部。

202号溝 (SD 202, 第108図)

A地区西端に位置する南北溝。SD 244, SD 247 を切り, SD 201, SK 222 に切られる。埋土は黄灰色粘質土の単層で, 埋土中から土師器, 須恵器が出土しているが, 小片のため, 時期不明。

208号溝 (SD 208, 第108・109図, 図版92)

A地区中央付近に位置する南北溝で, 南端は西側へL字状に屈曲する。東側 6~7mの間隔でSD 219 が併走する。埋土は黄灰色粘質土, 灰色粘質土で, 埋土中から弥生土器が出土する。4 は外面ハケ調整の壺肩部。5 は壺底部で, 4 と 5 は同一個体の可能性がある。11 は高杯の杯部。古墳時代前期前半頃のものか。

219号溝 (SD 219, 第108・109図, 図版92)

A地区中央に位置する南北溝で, SD 208 の東側を併走する。埋土は黒褐色粘質土の単層で, 埋土中から弥生土器 (2) が出土する。2 は, 短頸有段壺の口縁部で, 口縁部は外傾が強い。

229号溝 (SD 229, 第108・109図, 図版92)

A地区東端に位置し, 調査区外へ延びる。SD 225, SD 250 に切られる。埋土は灰黄褐色粘土質シルト, 黒褐色粘質土で, 埋土中から弥生土器が出土している。1 は外面ミガキ内面下半ハケ調整の壺で, 胴部は球状を呈する。古墳時代前期初頭のものか。

250号溝 (SD 250, 第109図, 図版91・92)

A地区東半に位置する南北溝。I層直下からII層を掘り込んでおり, 近代以降の溝と考える。土層確認の断割り時に弥生土器 (3) が完形で出土しているが, 混入と考えられる。3 は直口壺。外面調整は胴部上半はハケの後ミガキ, 下半はケズリで, 内面は輪積み痕が残る。古墳時代前期前半のもの。

(2) 土坑

14号土坑 (SK14, 第108図)

B地区東半に位置する円形土坑。I a層直下で検出しており, 深さ 0.07mと浅いが, 後世の削平を受けているものと考えられる。埋土は黒褐色粘質土単層で, 珠洲播鉢, 唐津鉢胴部が出土している。

25号土坑 (SK 25, 第108・110図, 図版93)

B地区東半に位置する楕円形土坑。SK 14 と同様に I a層直下での検出で, 後世の削平を受けており, 深さは 0.05mと浅い。埋土は黒褐色粘質土単層で, 珠洲 (37) が出土している。37 は壺の口縁部で, 長頸で端部の挽き出しが弱く, 嘴ないし舌端状を呈する。II~III期か。

75号土坑 (SK 75, 第108・110図, 図版94)

B地区中央付近に位置する不整形土坑で, SD 65 に切られる。南半が一段深くなり, 底面に直径 10~20 cmの杭が4本刺さった状態で出土した。埋土は黒色粘質土と, 黒色粘質土がブロック状に混じる

黄灰色粘質土に分かれる。埋土中から伊万里(55)が出土した。55は染付の丸型湯飲み椀で、外面に竹笹文が描かれる。高台裏まで釉がかかり、端部に砂が付く。18世紀後半から幕末のもの。

(3) 包含層出土遺物

土器・陶磁器(第109・110図、図版92～94)

出土量は少なく、小片が多い。図化できたものには弥生土器(6～10・12～15)、須恵器(16～24・27・28)、土師器(25・26)、白磁(30)、珠洲(32・33・35・38～40)、越中瀬戸(41・42・44～48)、唐津(60)等がある。6は壺底部、7～10は甕、12～15は高杯である。7は有段口縁、8～10はくの字状口縁部を有する。8は口縁端部を刻み、外面にススが付着する。9は面取りする。いずれも小片で、詳細が不明なものが多く時期の決めてに欠けるが、遺構出土と同時期のものと考えられ、白江～古府クルビ式のものか。須恵器は16～24は杯で、9世紀代のものとみられ、24は高台裏に線刻がある。27は口縁外面に縞波状文を有す8世紀代のものか。25は土師器椀で、内面にススが付着する。30は端反りの白磁小杯で、断面に漆状の黒色物質が付着する。32・33・35は珠洲播鉢。32は端部が外反し内端を揃上げた口縁で、「*」状の刻印が施される。Ⅱ期に比定できるか。38～40は甕で、38・39はくの字状に深く屈折し、端部を方頭または円頭におさめた口縁でⅢ期のもの。越中瀬戸は比較的多く出土している。42は天目茶椀。4～47は皿で、46は見込みも16弁菊の印花が押捺される。47は高台裏に「あさう」の墨書がある。48・49は鉄軸の小壺。60は唐津播鉢。

石製品(第109図、図版92)

ガラス質安山岩製の石鏃(29)。29は茎がなく基部が直線的で、三角形を呈する平基無茎鏃である。

金属製品(第111図)

B地区から銅銭が2点出土している。63、64ともに寛永通寶。63は背に「文」を鋳出すいわゆる「文銭」と呼ばれるもので、寛文8(1668)～天和3(1683)年間に鋳造されたものである。

4 総括

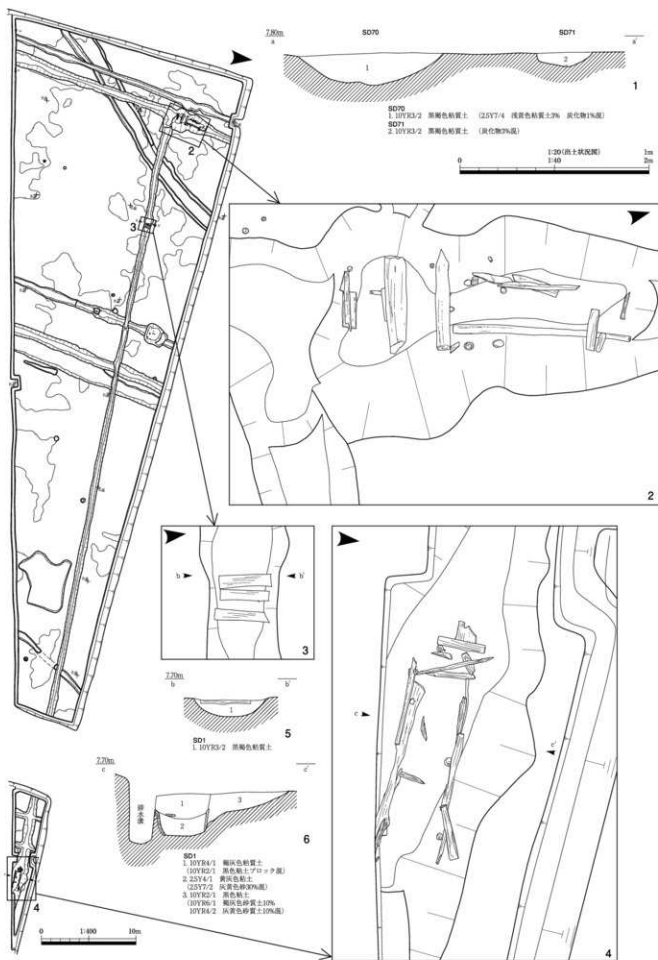
棚田遺跡では溝40条、土坑87基を検出したが、後世の耕作等による削平を受けており、東半の遺存状態は良くない。遺跡の主体となる時期は、弥生時代終末～古墳時代前期と近世の2時期と考える。

弥生時代終末～古墳時代前期は、調査区西側を中心に溝を検出している。方形に巡るSD94・95は二口油免遺跡1号墳と同様な古墳周溝と考えられる。出土遺物から月影Ⅱ～白江式に主体があり、下限は古府クルビ式頃とみられる。周辺には二口油免遺跡、本江畑田Ⅰ遺跡等の集落遺跡が同時期に存在しており、本江大坪Ⅰ遺跡と同様に、こうした集落の縁辺にあたると思われる。調査区西側は、1993年の試掘調査で確認された弥生時代末～古墳時代の遺構集中地点の南辺にあたり、遺跡の中心は北側に広がるものとみられる。

古代以降は積極的な利用はされていない。9世紀代の遺物は出土しているが、遺構を伴わず、詳細は不明である。17世紀以降になって道路跡及び用排水路かとみられる溝を中心とした遺構が散見されるにとどまる。1993年の試掘調査で確認された古代～中世の遺構の集中地点は、調査区南側に隣接する水田であることから、遺跡の中心は南側にあるものと考えられる。

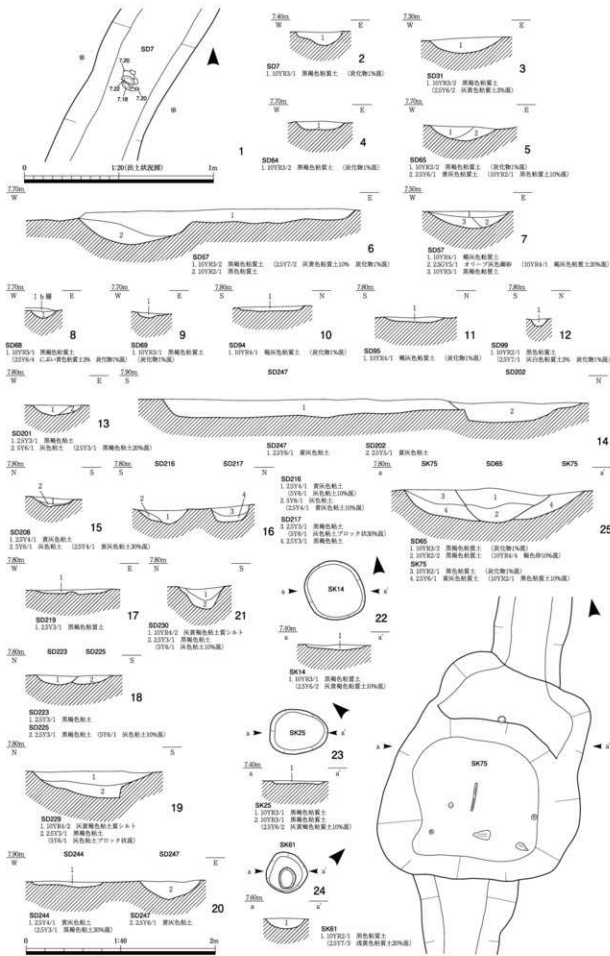
注

注1 大門町教育委員会 1998「二口油免遺跡発掘調査概要 庄川右岸改修関連住宅団地事業に係る調査」



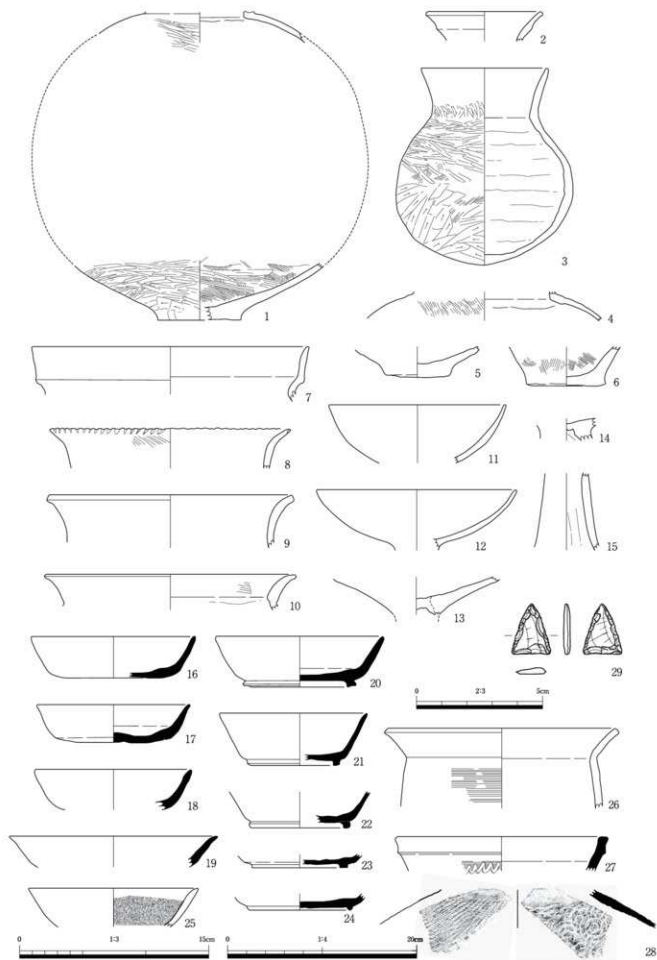
第107図 棚田遺跡 遺構実測図

1. SD70・SD71 2~4. SD1出土状況 5・6. SD1

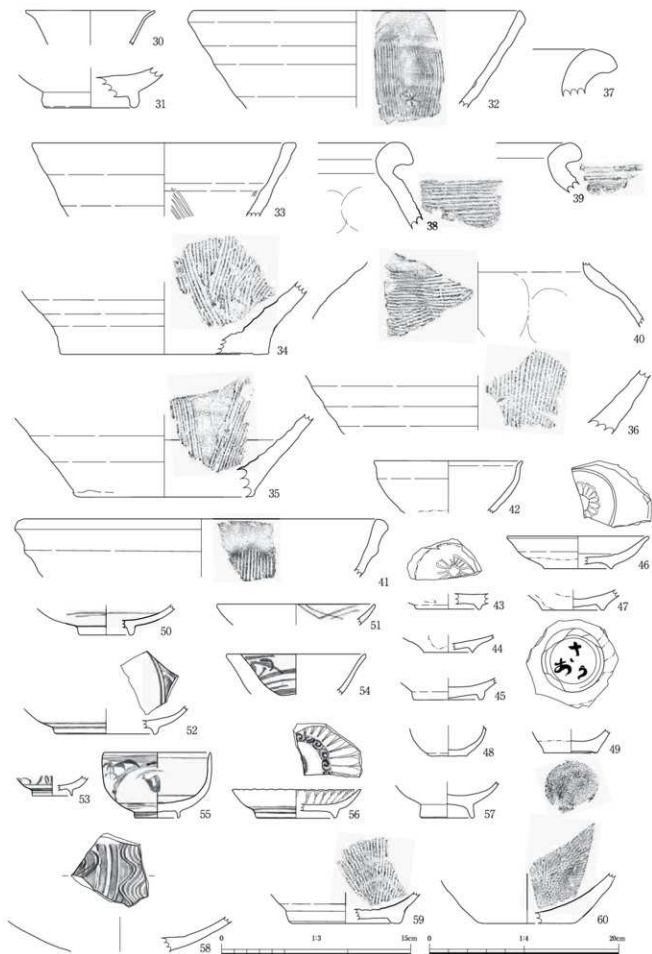


第108図 標田遺跡 遺構実測図

1. SD7出土状況 2. SD7 3. SD31 4. SD64 5. SD65 6・7. SD57 8. SD68 9. SD69 10. SD94
 11. SD95 12. SD99 13. SD201 14. SD202・SD247 15. SD208 16. SD216・SD217 17. SD219
 18. SD223・SD225 19. SD229 20. SD244・SD247 21. SD230 22. SK14 23. SK25 24. SK61
 25. SD65・SK75

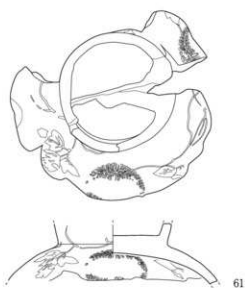


第109図 棚田遺跡 遺物実測図 (29 2/3, 1~26 1/3, 27・28 1/4)
 SD31 (6) SD208 (4・5・11) SD219 (2) SD229 (1)

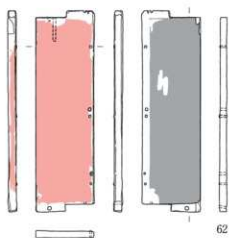


第110図 標田遺跡 遺物実測図 (30・31・33~57 1/3, 32・58~60 1/4)

SD1(34・52・53) SD57(57) SD65(50・51) SD70(36・43・49・54) SD99(56) SD201(31・58・59)
SK25(37) SK75(55)



61



62



63



64



第111図 棚田遺跡 遺物実測図 (63・64 1/1, 61 1/2, 62 1/4)
SD7(61) SD70(62)

第34表 棚田遺跡 溝一覧

遺構番号	地区	規模 (m)		出土遺物	時期	切り合い	特記事項	採掘 番号	写真 図版
		幅	深さ						
SD1	B	1.13	0.29	土師器・須恵器・珠洲・越前?・ 越中瀬戸・伊万里・近世陶器、金 属板、帝冠在野軍人会員印章	近世～	>SD57・SD60・ SD65・SD68・SD69	堀状の本組2箇所 SD2・SD3・SD70は 同時期(切り合いなし)	107	91
SD2	B	0.65	0.36		近世～		SD1と同時期(切り合いなし)		
SD3	B	0.79	0.19		近世～		SD1と同時期(切り合いなし)		
SD7	B	0.42	0.19	漆器	近世～	>SK8		108	
SD31	B	1.51	0.15	養生土器				108	
SD57	B	3.14	0.29	青磁・唐津・伊万里	近世～	<SD1	幅0.90m深さ0.23m	108	
SD60	B	0.74	0.10			<SD1			
SD64	B	0.53	0.07	近世陶器	近世～			108	
SD65	B	1.24	0.30	中世土師器・唐津・伊万里	近世～	<SD1・SK66・SK75		108	
SD68	B	0.45	0.05			<SD1・SD70・SD71	SD69と併走 道路状遺構(側溝)の可能性あり	108	
SD69	B	0.37	0.08			<SD1・SD70・SD71	SD68と併走 道路状遺構(側溝)の可能性あり	108	
SD70	B	2.40	0.46	土師器・須恵器・中世土師器・珠 洲・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万 里・近世陶器・漆塗り板、堀状金属	近世～	>SD68・SD69	SD1から分岐(切り合いなし)分岐地点に 堀状の本組施設	107	
SD71	B	0.70	0.21	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲 ・唐津・伊万里	近世～	>SD68・SD69	SD70と併走、同時期	107	
SD80	B	0.46	0.10						
SD90	B	0.39	0.11			<SD91			
SD91	B	0.47	0.06			>SD90 <SD92			
SD92	B	0.30	0.10			>SD91			
SD94	B	0.69	0.09			>SD96	方形に高る SD95と同一遺構	108	91
SD95	B	0.80	0.05				SD94と同一遺構	108	91
SD96	B	0.44	0.05			<SD94	SD97と同一遺構		
SD97	B	0.37	0.03				SD96・SD98と同一遺構		
SD98	B	0.32	0.06				SD97と同一遺構		
SD99	B	0.23	0.05	須恵器・伊万里				108	
SD101	B	0.35	0.08						
SD201	A	1.09	0.28	青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里	近世	>SD202・SK242		108	
SD202	A	0.50	0.24	土師器・須恵器		<SD201・SK222 >SD244・SD247		108	
SD207	A	0.28	0.15						
SD208	A	0.67	0.14	養生土器			難照に届ける溝	108	
SD216	A	0.53	0.17			<SD250	SD217と併走	108	
SD217	A	0.44	0.20			<SD250	SD216と併走	108	
SD219	A	0.30	0.06	養生土器		>SK226・SK233	SD208と併走	108	
SD223	A	0.45	0.08			>SD224・SD225・ SK228・SK248 <SD250		108	
SD224	A	0.27	0.07			<SD23			
SD225	A	0.55	0.11			<SD223・SD250 >SD229		108	
SD227	A	0.39	0.07						
SD229	A	1.30	0.31	養生土器	養生	<SD225・SD250		108	
SD230	A	0.53	0.25			>SK238・SK245		108	
SD244	A	0.99	0.06			<SD202		108	
SD247	A	(0.86)	0.19			<SD202		108	
SD250	A	1.67	0.37	養生土器	近代?		養生土器は掘入か		91

第35表 棚田遺跡 土坑一覽

遺跡番号	地区	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	切り合い	特記事項	押印 番号	写真 枚数
			長さ	幅	深さ						
SK4	B	不整	1.44	1.36	0.29			<SK5			
SK5	B	楕円	(0.85)	0.64	0.08			>SK4			
SK6	B	楕円	0.79	0.66	0.07						
SK8	B	楕円	(0.90)	0.65	0.25			<SK7 >SK9			
SK9	B	楕円	0.63	(0.52)	0.08			<SK8			
SK10	B	楕円	(0.67)	0.63	0.30						
SK11	B	楕円	0.97	0.64	0.10						
SK12	B	楕円	0.86	0.57	0.06						
SK13	B	楕円	0.54	0.27	0.08						
SK14	B	円	0.63	0.62	0.07	珠洲・勝津	近世			108	
SK15	B	方	0.85	0.56	0.08						
SK16	B	楕円	0.90	0.73	0.19						
SK17	B	円	0.92	0.92	0.10						
SK18	B	楕円	0.46	0.37	0.07						
SK19	B	円	0.34	0.29	0.07						
SK20	B	円	0.39	0.32	0.06						
SK21	B	楕円	0.77	0.46	0.08						
SK22	B	楕円	1.05	0.60	0.09						
SK23	B	楕円	0.89	0.55	0.09						
SK24	B	楕円	0.81	0.54	0.07						
SK25	B	楕円	0.62	0.47	0.05	珠洲	中世?			108	
SK26	B	不整	0.71	0.55	0.08						
SK27	B	不整	1.30	0.97	0.29						
SK28	B	楕円	0.72	0.50	0.08						
SK29	B	楕円	0.68	0.58	0.08						
SK30	B	楕円	0.59	0.31	0.06						
SK32	B	円	0.49	0.40	0.10						
SK50	B	楕円	0.42	0.30	0.14						
SK51	B	楕円	0.60	0.44	0.06						
SK52	B	不整	0.79	0.68	0.07						
SK53	B	円	0.52	0.43	0.06						
SK54	B	楕円	0.95	0.51	0.09						
SK55	B	不整	1.03	0.80	0.13						
SK56	B	楕円	0.83	0.67	0.40						
SK61	B	円	0.44	0.44	0.18	土師器	古代一			108	
SK62	B	円	0.51	0.44	0.30						
SK63	B	円	0.55	0.47	0.08						
SK66	B	不整	0.68	(0.49)	0.14			<SD65			
SK67	B	円	0.34	0.29	0.15						
SK72	B	円	0.27	0.27	0.08						
SK73	B	不整	5.31	4.99	0.09				溝ち込み状 柱あり?		
SK74	B	円	0.25	0.23	0.03						
SK75	B	不整	2.40	1.95	0.41	伊万釜	近世一	<SK65		108	
SK81	B	円	0.40	0.35	0.08						
SK82	B	円	0.45	0.40	0.07						
SK83	B	円	0.30	0.29	0.15						
SK84	B	円	0.35	0.33	0.19						
SK85	B	円	0.32	0.32	0.19						
SK86	B	円	0.91	0.79	0.18						
SK87	B	不整	2.82	2.10	0.25						
SK88	B	不整	1.58	1.17	0.09						
SK89	B	円	0.23	0.23	0.08						
SK93	B	不整	1.05	0.81	0.07						
SK100	B	不整	1.00	0.63	0.08						
SK102	B	円	0.74	0.63	0.06						
SK103	B	不整	3.67	(2.90)	0.07				溝ち込み状 柱あり?		
SK203	A	楕円	0.93	0.39	0.30						
SK204	A	円	0.77	0.58	0.18						
SK205	A	不整	3.12	2.00	0.24						
SK209	A	不整	0.82	0.82	0.28						
SK211	A	楕円	1.10	0.57	0.16						
SK212	A	楕円	1.46	0.47	0.29						
SK213	A	円	2.99	2.90	0.13						
SK214	A	楕円	1.91	1.49	0.14						
SK215	A	楕円	1.82	0.50	0.18						
SK218	A	円	0.43	0.39	0.14						
SK220	A	不整	2.50	2.21	0.13						
SK221	A	楕円	1.02	0.96	0.12						
SK222	A	不整	5.30	3.23	0.28						
SK226	A	円	2.35	2.13	0.17						
SK228	A	楕円	2.91	2.73	0.16						
SK231	A	楕円	1.23	0.45	0.15						
SK232	A	円	0.17	0.14	0.18						
SK233	A	不整	2.57	1.91	0.26						
SK234	A	不整	(0.70)	0.70	0.18						
SK235	A	不整	7.02	3.90	0.26						
SK236	A	楕円	1.77	1.12	0.14						
SK237	A	楕円	1.15	1.10	0.07						
SK238	A	不整	(2.70)	2.50	0.14						
SK239	A	楕円	3.35	3.17	0.11						
SK240	A	楕円	0.57	0.31	0.22						
SK241	A	楕円	1.90	1.64	0.25						
SK242	A	不整	4.07	(3.70)	0.29						
SK243	A	不整	1.96	1.80	0.11						
SK245	A	不整	2.10	(1.37)	0.54						
SK246	A	楕円	0.73	0.38	0.30						
SK248	A	不整	(4.30)	3.72	0.20						

第36表 棚田遺跡 土器・陶磁器一覽

種別	遺物	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	図柄	流量 (cm)		時期	詳細時期	胎土色調		釉色調		備考	
								口径	底径			底径	高さ	底径	高さ		
1	92	A	S2029		焼土土器	壺		4.6		奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR7/2	2.0	灰白色			
2	92	A	S2029	X4Y20a	焼土土器	壺	9.0			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR6/2	2.0	灰白色			
3	92	A	S2030	X4Y21c	焼土土器	壺	9.9	15.6		奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR6/4	2.0	灰白色			
4	92	A	S2028	X3Y219	焼土土器	壺				奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR2/4	2.0	灰白色			
5	92	A	S2028	X3Y218	焼土土器	壺				奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10Y2/3	2.0	黄白色			
6	92	B	SD11	X4Y425 1 b	焼土土器	壺	6.3			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR8/2	2.0	黄褐色			
7	92	A	X3Y218		焼土土器	壺	23.9			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR2/4	2.0	灰白色			
8	92	B	X3Y260 1 b		焼土土器	壺	19.2			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR2/2	2.0	灰白色		1. 堀内出土品目録	
9	92	B	X3Y 487 20		焼土土器	壺	19.2			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR2/2	2.0	灰白色			
10	92	A	X4Y206 49Y?		焼土土器	壺	19.8			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR2/4	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
11	92	A	S2026	X4Y226	焼土土器	甕?	12.8			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10Y2/3	2.0	黄白色			
12	92	A	X4Y219		焼土土器	甕形?	15.8			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR2/2	2.0	灰白色			
13	92	A	X4Y 107219-220 1 2		焼土土器	甕形?	15.8			奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR2/2	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
14	92	B	X3Y266		焼土土器	甕形?				奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR2/4	2.0	灰白色			
15	92	A	X2Z 31Y205 1		焼土土器	甕形?				奈良-古墳	白I-古墳ナホケ?	10YR6/6	2.0	褐色		堀内出土品目録	
16	92	B	X3Y487 2		磁器器	杯	13.0	3.2		古代	BC	5YR/3	2.0	灰色			
17	92	A	X3Y262 2		磁器器	杯	12.0	3.0		古代	BC	10YR/2	2.0	黄褐色			
18	92	B	X3Y480 1 a		磁器器	杯	12.4			古代	BC	10YR8/2	2.0	灰白色		1. 堀内? 2. 堀内?	
19	92	B	X3Y272 1 b		磁器器	杯	16.4			古代	BC	5R/ 2	2.0	灰色			
20	92	A	X3Y260 2		磁器器	杯	13.2	4.0		古代	BC	2B7Y/1	2.0	灰白色			
21	92	B	X5Y430 1 b		磁器器	杯	7.0	4.2		6.3	古代	BC	5YR/1	2.0	灰色		
22	92	B	X4Y260		磁器器	杯	8.0			古代	BC	3Y7/1	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
23	92	B	X3Y354 1 b		磁器器	杯	7.6			古代	BC	5YR/1	2.0	灰色			
24	92	B	X3Y284 1 b		磁器器	杯	8.0			古代	BC	2Y8Y/1	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
25	92	B	X4Y487 2		土器器	瓶	13.4			古代	BC	10YR2/4	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
26	92	B	X3Y436 2		土器器	壺	18.0			古代	BC	10YR2/4	2.0	灰白色			
27	92	B	X4Y264 1 b		磁器器	壺	20.0			古代	BC	2B7Y/1	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
28	92	B	X4Y266 2		磁器器	壺				古代	BC?	5YR/1	2.0	灰色			
29	92	B	X2Y101 1 b		白磁	小瓶	10.2			中世	18C	2B7Y/1	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
30	94	A	S2031	X2Y210	陶器	甕			7.2	中世	18C-	2Y8Y/1	2.0	灰白色		1. 堀内出土品目録	
31	94	B	X4Y266 1 b		漆器	磁鉢	16.4			中世	3前期?	2Y7Y/2	2.0	黄褐色		堀内	
32	92	A	X2Y261 2		漆器	磁鉢	20.9			中世	前期	2Y7Y/2	2.0	黄褐色			
33	94	B	SD1	X3Y414	漆器	磁鉢			16.6	中世		5YR/1	2.0	灰色		堀内出土品目録	
34	92	B	X4Y284 1 b		漆器	磁鉢			14.0	中世		5Y5/1	2.0	灰色			
35	92	B	SD19	X4Y226	漆器	磁鉢				中世		2Y8Y/1	2.0	黄褐色			
36	92	B	SD25		漆器	壺				中世	前期?	5R/ 2	2.0	灰色			
38	92	B	X4Y260 1 b		漆器	壺				中世	前期	2Y8Y/1	2.0	黄褐色			
39	92	B	X4Y425 1 b		漆器	壺				中世	前期	5YR/1	2.0	灰色			
40	92	A	X4Y260 1		漆器	壺				中世		2Y8Y/1	2.0	黄褐色			
41	94	B	X4Y438 1	堀内遺跡?	漆器	甕	28.1			近世	17C-18C	10YR6/4	2.0	灰白色		1. 堀内出土品目録	
42	94	B	X4Y280 1 b	堀内遺跡? 天目山遺跡	漆器	甕	11.7			近世	17C-18C	2Y8Y/1	2.0	灰白色		10YR2/2 2. 堀内	
43	94	B	SD19	X4Y226	漆器	中瓶?			5.2	近世	17C-18C	10YR6/4	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
44	94	B	X4Y440 2	堀内遺跡?	漆器	中瓶?			4.0	近世	17C-18C	10YR2/3	2.0	灰白色		10YR2/2 2. 堀内	
45	94	B	X3Y322 1 b	堀内遺跡?	漆器	中瓶?			5.5	近世	17C-18C	7Y2R/4	2.0	灰白色			
46	94	B	X2Y262 1	堀内遺跡?	漆器	小瓶	11.2	2.0		5.1	近世	17C-18C	5YR/1	2.0	灰白色		堀内出土品目録
47	94	B	X4Y260 1 a	堀内遺跡?	漆器	中瓶?			4.9	近世	17C-18C	10YR2/2	2.0	黄褐色		堀内出土品目録	
48	94	B	X4Y260 1 b	堀内遺跡?	漆器	中瓶?			3.1	近世	17C-18C	10YR2/2	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
49	94	B	SD19	X4Y226	漆器	中瓶?			4.8	近世	17C-18C	2Y7Y/2	2.0	黄褐色		堀内出土品目録	
50	94	B	SD46	X4Y266	伊豆系	瓶	4.3			近世	18C前-	5Y7/2	2.0	灰白色		堀内? 1. 堀内? 2. 堀内出土品目録	
51	94	B	SD46	X3Y266	伊豆系	瓶	12.4			近世	18C前-	5YR/1	2.0	灰白色		堀内? 1. 堀内? 2. 堀内出土品目録	
52	94	B	SD1	X3Y414	伊豆系	瓶			8.2	近世	18C-	5R/ 2	2.0	灰色		堀内? 1. 堀内? 2. 堀内出土品目録	
53	94	B	SD1	X3Y416	伊豆系	小瓶			3.2	近世	17C前-	10YR/1	2.0	灰白色		堀内? 1. 堀内? 2. 堀内出土品目録	
54	94	B	SD19	X4Y226	伊豆系	瓶	11.0			近世	18C	5R/ 2	2.0	灰色		堀内? 1. 堀内? 2. 堀内出土品目録	
55	94	B	SD75		伊豆系	瓶	8.4	5.2		3.5	近世	18C前-18C	5R/ 2	2.0	灰色		堀内? 1. 堀内? 2. 堀内出土品目録
56	94	B	SD99		伊豆系	瓶	10.2	2.2		6.4	近世	17C	10YR/1	2.0	灰白色		堀内? 1. 堀内? 2. 堀内出土品目録
57	94	B	SD17	X3Y266	伊豆系	瓶			4.3	近世	17C前-	2Y7Y/4	2.0	黄褐色		堀内出土品目録	
58	94	A	SD101	X2Y212	伊豆系	鉢				近世	17C前中-	10YR5/3	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
59	94	A	SD101	X3Y311	伊豆系	鉢			12.0	近世	18C	7Y2R/2	2.0	灰白色		堀内出土品目録	
60	94	B	X4Y260 1 b		伊豆系	鉢			10.2	近世	18C-	2Y8Y/2	2.0	灰白色		堀内出土品目録	

第37表 棚田遺跡 木製品一覽

種別	遺物	写真 図版	地区	遺構	出土地点	台帳番号	種類	材質	流量 (cm)		備考	
									長さ	幅		厚さ
1111	61	7	B	SD7	X20Y416	M09060	漆器	ナヤキ	9.5	9.5	2.4	内面非出葉 金漆貼 横木取り
	62	7	B	SD70	X42Y276	M09060	加工材	ヒノキ	21.3	6.0	0.7	両面漆塗り 内面非出葉 漆貼 柾目

第38表 棚田遺跡 石製品一覽

種別	遺物	写真 図版	地区	出土地点	台帳番号	種類	材質	流量 (cm - g)				備考	
								長さ	幅	厚さ	重さ		
109	29	92	B	X42Y287 1 b	排水溝	X090213	石製	ガラス管安山岩	1.9	1.5	0.25	0.81	

第39表 棚田遺跡 金属製品一覽

種別	遺物	地区	出土地点	台帳番号	種類	材質	流量 (cm - g)				備考	
							長さ	幅	厚さ	重さ		
1111	63	B	X30Y431 1 b		K090076	鏡	銅	2.5	2.5	0.15	3.05	寛永通寶 裏「文」
	64	B	X3Y287 1 b		K090077	鏡	銅	2.5	2.5	0.1	2.90	寛永通寶

第Ⅶ章 本江大坪Ⅰ遺跡

1 概要

本江大坪Ⅰ遺跡は、庄川右岸の射水平野南西部に位置する。下条川と和田川に挟まれた微高地上に在る。和田川沿いには自然堤防状の微高地が点在しており、本江大坪Ⅰ遺跡はこのひとつに立地する。現況は水田及び畑地で、標高は東側で 7.9m、西側で 8.4mを測り、東側（C地区）に向けて緩やかに傾斜する。遺跡の東側は市道八塚串田線ををさんで棚田遺跡、西側は市道柳町大門本江線ををさんで本江畑田Ⅰ遺跡と接している。調査区は遺跡を東西に横断しており、西側から、道路や用水を境に A・B・C の 3 地区とした。検出した遺構は、溝 45 条、土坑 157 基である。遺物量は少なく、帰属時期の不明な遺構が大半であるが、弥生時代から古墳時代にかけての遺物を伴う遺構が調査区内に散在している。また、周辺には本江畑田Ⅱ遺跡や二口油免遺跡などの弥生時代～古墳時代の遺跡がみられることから、遺跡の時期は弥生時代終末から古墳時代にあたると考えられる。なお、弥生時代終末から古墳時代前期にかけての土器については、ここでは古代の土師器との区別のため弥生土器の表記を用いている。

2 層序

層序は、Ⅰ層：暗灰黄色粘質土（表土・耕作土）、Ⅱ層：黒色粘質土（遺物包含層）、Ⅲ層：黄褐色粘質土～シルト、灰オリブ色粘質土～砂質シルト（遺構検出面・地山）となる。調査地区は東西に長い、概ね基本層序は一致している。Ⅱ層は A・B 地区では残存状態が悪く部分的な確認で、B 地区中央部ではⅠ層直下にⅢ層が露出する。Ⅱ層は弥生時代、中世～近世の両方の遺物を包含するが、いずれも少量である。Ⅲ層は粘質土を基調とするが、B 地区中央部では部分的に砂質シルト～砂質土となり、微高地状になっている。この部分では直径 0.2～0.3m の円形土坑が集中して検出された。遺構検出は、全地区をととしてⅢ層上面で行っており、現況水田面から遺構検出面（Ⅲ層上面）までの深度は、A 地区で 0.2～0.35m、B 地区で 0.36～0.5m、C 地区で 0.4～0.5m を測る。

3 遺構・遺物

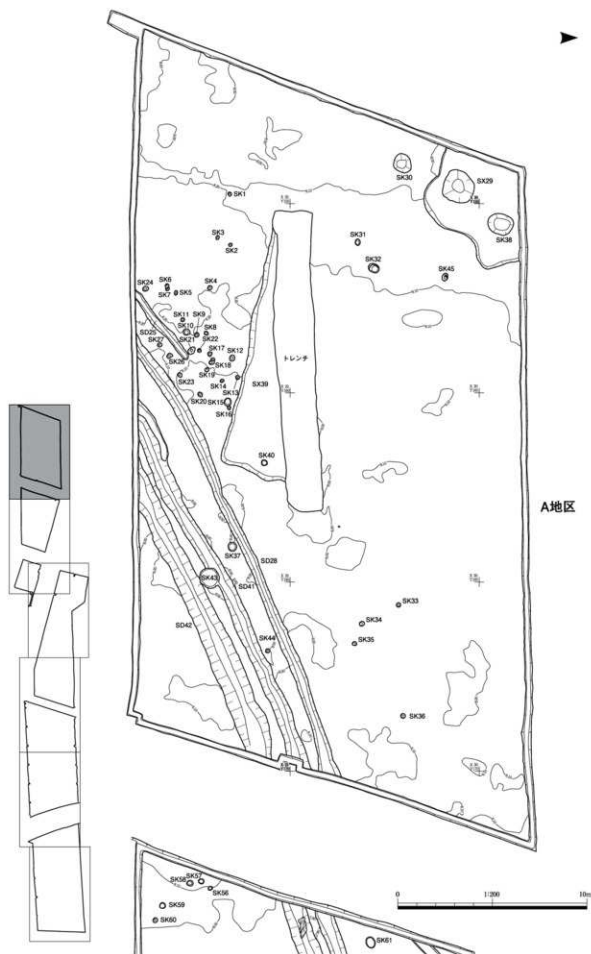
(1) 溝

25号溝（S D25、第118・120図、図版101）

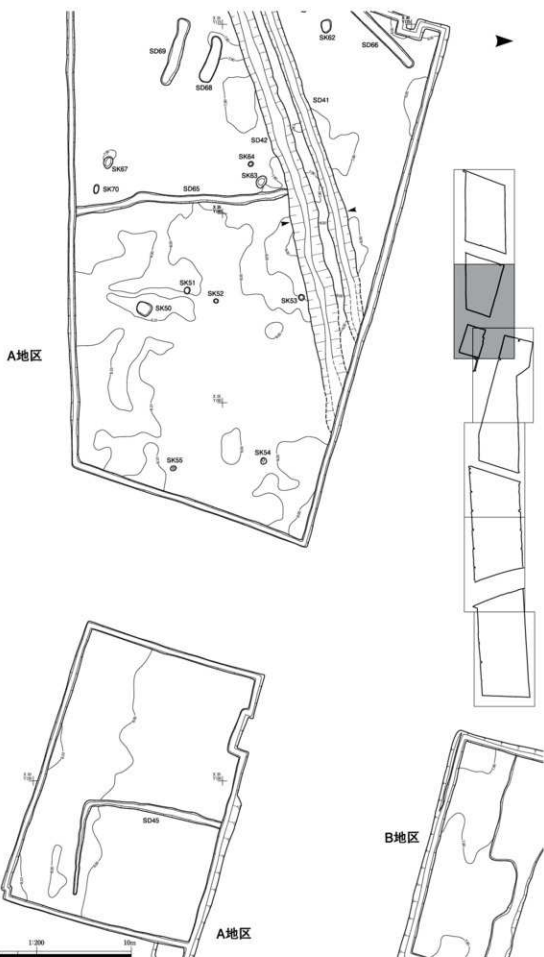
A地区西地区南辺に位置し、調査区外南側から北東方向に延びる。1.2mの間隔をあけてS D28と並走する。埋土は炭化物混じりの黒褐色砂質シルトの単層で、須恵器甕胴部片（16）が出土している。16は外面平行叩き、内面同心円状の当て具痕の破片で、外面には自然軸がかかる。

28号溝（S D28、第118図、図版99）

A地区西地区南辺に位置し、S D28、S D41と並走する。A地区中央地区のS D66と同一遺構の可能性が有る。出土遺物はなく、帰属時期は不明。



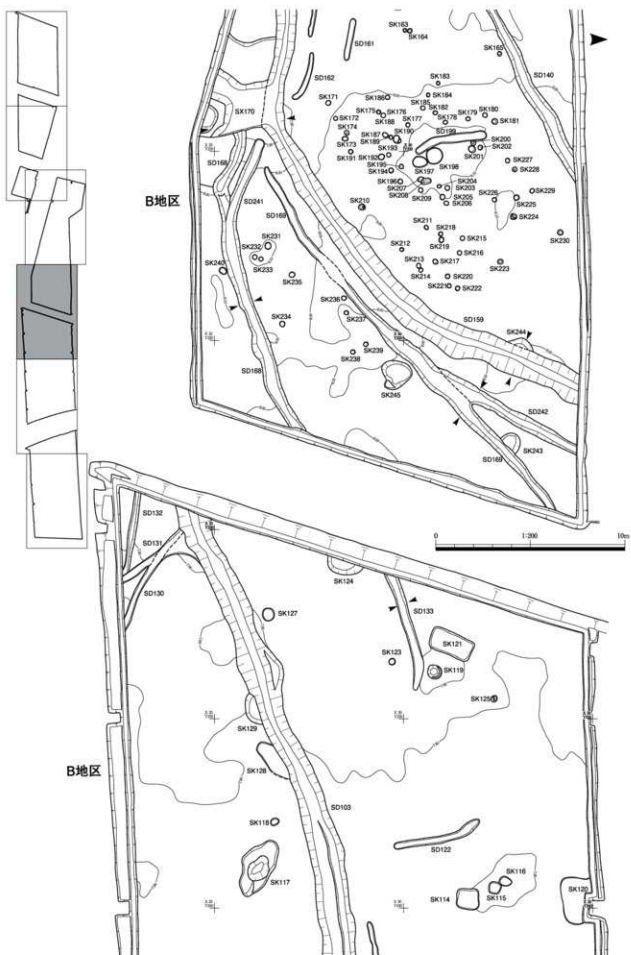
第112図 本江大坪 I 遺跡 遺構全体図 (1:200)



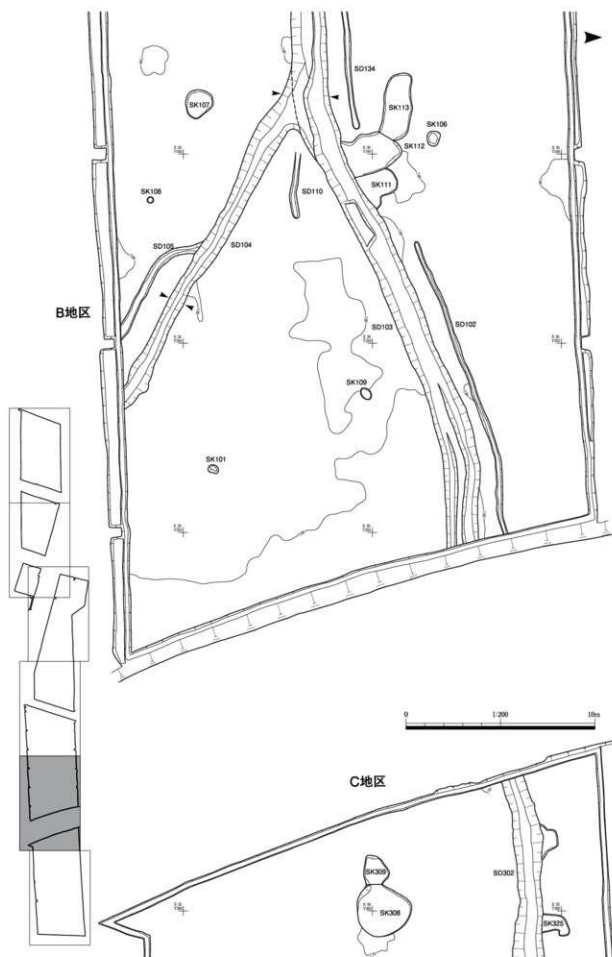
第 113 图 本江大坪Ⅰ遺跡 遺構全体図 (1:200)



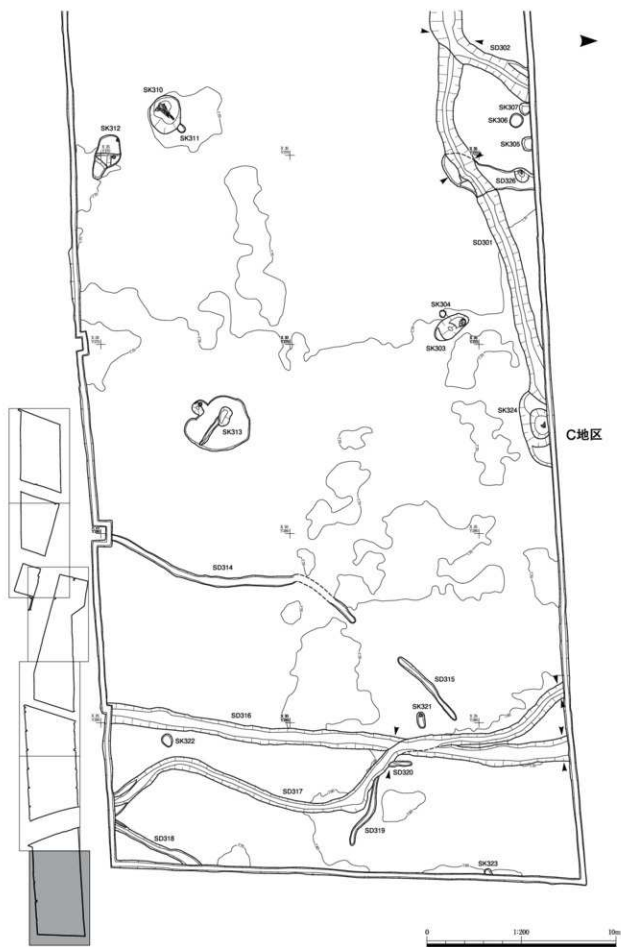
第114図 本江大坪I遺跡 遺構全体図 (1:200)



第 115 図 本江大坪Ⅰ遺跡 遺構全体図 (1:200)



第116図 本江大坪I遺跡 遺構全体図 (1:200)



第 117 図 本江大坪Ⅰ遺跡 遺構全体図 (1:200)

41号溝 (SD41, 第118～120図, 図版99・100)

A地区西地区から中央地区にかけて検出した。SD42と0.5～0.7mの間隔で並走する深さ0.41mの溝で、断面は逆台形を呈する。埋土は黒褐色粘質土を基調とし、炭化物が混じる。埋土中位から弥生土器(3)が潰れたような状態で出土している。3は器面は風化により荒れているが外面ハケ調整の甕で、ススが附着する。弥生時代終末～古墳時代にかけての時期のものと考えられる。

42号溝 (SD42, 第118・119図, 図版99)

SD41の東側を並走する。断面逆台形を呈する溝。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土を基調とする。出土遺物はなく、帰属時期は不明であるが、並走するSD41と同時代の遺構と考えられ、弥生時代～古墳時代のものか。

103号溝 (SD103, 第118・119図)

B地区東地区を東西方向に貫流する。西部1号用水路をさみC地区SD302へつながるとみられる。SD104・130・131・301より新しい溝で、SD301との重複するX35Y268付近で北へ屈曲する。埋土は黄灰色粘質土を基調とする。出土遺物は弥生時代終末～古墳時代の甕胴部が出土している。

143号溝 (SD143)

B地区西地区に位置する東西溝で、西側は方形の土坑状に幅広になる。SD140・150・152・156と並走する。SD161と同一遺構の可能性ある。出土遺物はなく、時期は不明。

150号溝 (SD150)

B地区西地区南辺に位置する東西溝。浅いU字状の断面を呈し、埋土は炭化物混じりの黄灰色粘質土単層である。SD152・156と一連の遺構とみられ、3.5m程の間隔でSD143と並走する。出土遺物は弥生時代終末～古墳時代の甕とみられる土器片が出土している。

159号溝 (SD159, 第118図)

B地区西地区南辺から北向きに蛇行する溝。SX170, SK244を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土を基調とする。出土遺物に弥生土器の甕胴部片がある。

168号溝 (SD168, 第118・120図, 図版100)

B地区西地区南東角に位置する東西溝。SD141に切られる。西側はSX170に流れ込む。農道をさみ、B地区東地区のSD133と同一遺構の可能性ある。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土を基調とする。出土遺物には弥生時代終末～古墳時代にかけての甕・高杯があり、高杯(9)はSK128出土の破片と接合している。

169号溝 (SD169, 第118図)

B地区西地区の南東角付近から北東角へ抜ける。SD242, SK243を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土単層である。出土遺物は土師器碗の底部片があるが、いずれも小片で図化できない。

301号溝 (SD301, 第118・120図, 図版100)

C地区北辺よりに位置する東西溝。SD326, SK324を切り、SD302に切られる。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土の水平堆積で、最下層は粗砂混じりとなる。出土遺物は最下層から弥生土器が出土している。1は底部丸底の鉢で、有段またはくの字状に屈曲する口縁部がつくとみられる。

302号溝 (SD302, 第118・119図)

C地区北西角付近に位置する。B地区のSD103につながると思われ、SD301と重複する辺りから北へ屈曲する。SD301, SK325を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土を主体とし、埋土下位から弥生土器片が出土している。

316号溝 (S D316, 第118図, 図版99)

C地区東端に位置する南北溝。S D317を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土単層で、埋土中から弥生土器が出土している。S D317出土の2と良く似た胎土の赤彩された破片であることから、S D317とは切り合い関係はあるが、大きな時期差ではないと考えられる。

317号溝 (S D317, 第118・120図, 図版99・100)

C地区東端を蛇行する南北溝。S D319, S D320を切り、S D316に切られる。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土単層で、底から若干浮いた位置から弥生土器が出土する。2は有段口縁の鉢で、内外面ともに赤彩された精製品である。口縁部の有段は退化しており、月影Ⅱ～白江式のものか。

(2) 土坑

32号土坑 (S K32, 第119・120図, 図版99・100)

A地区西地区の北西角付近に位置する楕円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色砂質土を基調とする。底面から若干浮いた位置から、高杯(10)が杯部を下に倒立した状態で出土している。10は脚裾が屈曲して開く器形で、器面は被熱のため剥離しており、調整は不明。古府クビ式のものか。

39号土坑 (S X39, 第120図, 図版101)

A地区西地区中央付近に位置する不整形土坑。確認トレンチに切られる浅い落ち込み状のものである。遺跡の西側境の市道柳町本江大門線と平行して皿層が幅約5mほど硬化した箇所があり、旧農道と考えられる。この旧農道の両側にはS X39, S X29の浅い落ち込み状の遺構が位置している。I層混じりの黒褐色粘質土を埋土としており、S X39, S X29は旧水田の可能性が高い。出土遺物は珠洲(26)がある。

43号土坑 (S K43)

A地区西地区南東角付近に位置する。S D41・S D42を切る円形土坑で、直径1.05m、深さ0.94mを測る。筒状の掘方で、埋土は黒褐色粘質土、黄灰色粘質土である。素掘り井戸の可能性もある。

45号土坑 (S K45, 第119図)

A地区西地区北西角付近に位置する楕円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒色砂質シルト単層で、底面西よりが一段深くなっており、柱痕跡の可能性もある。埋土下位から弥生土器片が出土している。

50号土坑 (S K50, 第120図, 図版101)

A地区中央南よりに位置する。平面隅丸方形を呈し、埋土は黒褐色砂質シルト単層の浅い土坑である。埋土中から越中瀬戸(29)が出土している。29は内禿の灰釉皿で、見込みに軸止めの段がある。見込みには16弁菊花の印花を施し、重ね焼き痕を残す。

70号土坑 (S K70, 第119・120図, 図版99・100)

A地区中央地区南辺よりに位置する楕円形土坑。埋土は炭化物混じりの褐色粘質土単層で、底面から潰れたような状態の弥生土器(4)が出土した。4は甕で、風化のため器面はあれているが内外面ともナアとみられる。平底の器形で、弥生時代終末ころのもの。

107号土坑 (S K107, 第119図, 図版99)

B地区東地区中央付近に位置する浅い皿状の土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土単層である。底面から弥生土器(甕胴部片)が出土しているが、風化のため器面が脆く圮化していない。

124号土坑 (S K124, 第119図)

B地区東地区西辺に位置し、調査区西側へ延びており、東側半分を検出した。埋土は炭化物混じりの黒色粘質土単層で、中位から下位にかけて弥生土器片が出土する。

127号土坑（SK127, 第119図, 図版99）

B地区東地区西よりに位置する円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘質土で、底面から潰れた状態の弥生土器が出土している。外面ハケの寛胴部片である。

128号土坑（SK128, 第119・120図, 図版99・100）

B地区東地区西よりに位置する不整形土坑。北側はSD103に切られる。埋土は炭化物混じりの黒色粘質土の単層で、底面から高杯脚部（9）が出土している。9はSD168出土の破片と接合しており、外面は磨滅のため調整不明であるが、赤彩されていた可能性がある。

170号土坑（SX170, 第118図）

B地区西地区南辺に位置する不整形土坑。SD168が流れ込む溜池状の土坑で、調査区南側へ延びる。SD159に切られる。埋土は灰白色粘土ブロック混じりの黒褐色粘質土を基調とする水平堆積である。埋土下位は植物遺体を多く含む。

310号土坑（SK310, 第119図）

C地区南西角付近に位置する円形土坑。SK311を切る。埋土は炭化物混じりの黒色粘質土を基調とする水平堆積で、埋土下位から弥生土器片が出土している。底面南端から北側へ木根が倒れた状態で出土しているが、加工痕のない自然木である。

325号土坑（SK325, 第119図）

C地区北西角付近に位置する不整形土坑。南側をSD302に切られる。埋土は灰白色粘質土混じりの黄灰色粘質土で、底面から弥生土器片が出土する。

（3） 包含層出土遺物

土器・陶磁器（第120図, 図版100・101）

遺物出土量は少なく、破片も小さなものが多い。5～8は弥生土器である。いずれも風化が進み器面の状態はあれている。5は内外面ハケ調整の寛。6はくの字状口縁の端部が上方に肥厚し、受け口風。弥生時代終末～古墳時代前期前半のものか。11～17は須恵器。11～14は9世紀代の杯で、11の底部には「十」状の墨書がみられる。18・19は土師器碗。18は磨滅のため不明瞭だが、底部は回転糸切り。20～22は中国製青磁。21・22は龍泉窯系の鎗蓮弁文の碗。23は中国製白磁皿。太宰府分類Ⅲ類1か。24・25は珠洲播鉢。24は口縁端部に櫛目波状文を巡らすV期のもの。27・28は越中瀬戸の天目茶碗。27は断面にススが附着する。30は越中瀬戸の播鉢。31は伊万里で、型押し of 紅皿。32～34は唐津。33は鉢底部で、高台裏から体部にかけてススが附着する。見込みには、砂目跡が残る白色の化粧土による文様が描かれる。34は蛇の目釉剥ぎの皿。内野山窯系のもの。

石製品（第121図, 図版102）

磨製石斧（35）、砥石（36）がある。35はC地区SD301南岸付近で出土した磨製石斧の刃部で、閃緑岩製のもの。36は流紋岩製の中砥で、砥面は3面か。

金属製品（第121図, 図版102）

簪（37）、釘（38）、銅銭（39・40）、鉄滓がある。38は角釘で、頭部を扁平に叩きつぶして片側から折り曲げている。39・40はSK313の東側肩で40を上に乗って出土した。39は1068年初鑄の北宋銭「熙寧元寶」で、40は1078年初鑄の北宋銭「元豊通寶」である⁸³。C地区で鉄滓1点が出土している。

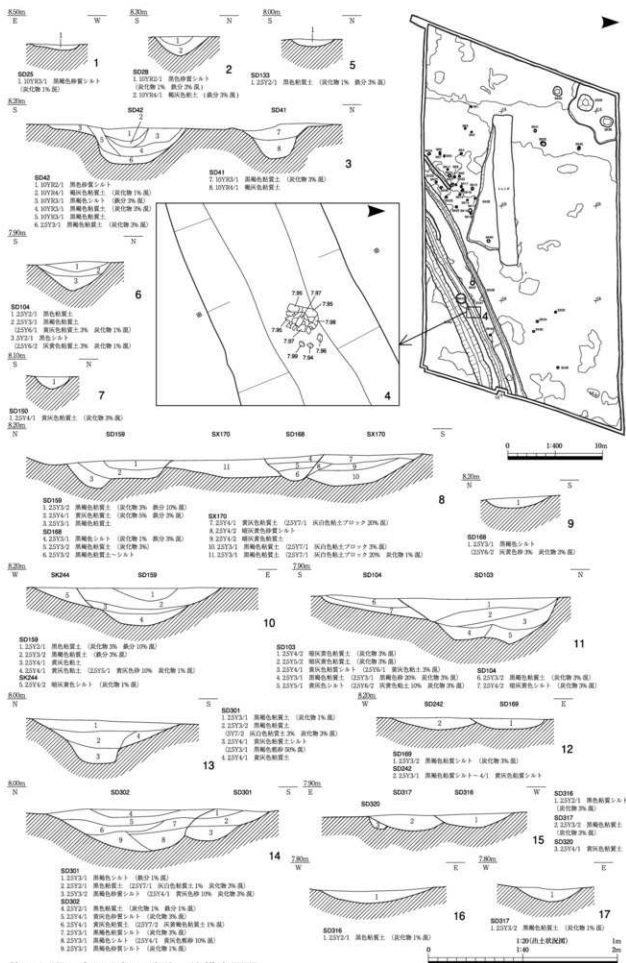
4 総括

本江大坪Ⅰ遺跡では溝 45 条、土坑 157 基を検出した。遺構出土遺物から、遺跡の主体となる時期は月影Ⅱ～白江式にかけてとみられ、古府クルビ式(10)が下限になると考えられる。周辺には古墳の周溝が確認された二口油免遺跡^{注4}や、玉造関係遺物の出土した本江畑田Ⅰ遺跡^{注5}、本田宮田遺跡などの集落遺跡が同時期に存在しており、本江大坪Ⅰ遺跡はこうした集落の縁辺にあたると思われる。

古代以降は近世に至るまで、積極的な土地利用はなされていない。9世紀代、17世紀～18世紀代の遺物が僅かに出土しているが、細片で全形を復元できるものは少ない。奈良・平安時代から中世の遺構・遺物が確認された1994年の調査地区は今回の調査区の南側水田であることから、遺跡の中心は南側にあるものと思われる。(金三津道子)

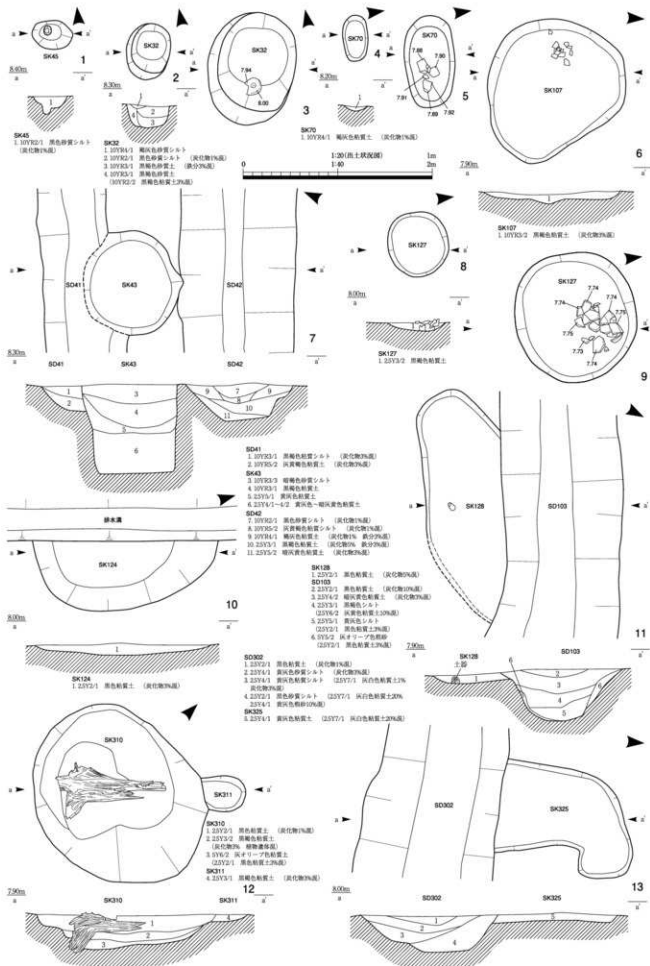
注

- 注1 大門町教育委員会 1997「大門東部地区埋蔵文化財発掘調査報告 県営は場整備事業に伴う試掘調査報告」
 注2 財団法人富山県文化振興財団 2009「北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(9)」
 注3 永井久美男 1994「中世の出土銭」兵庫埋蔵銭調査会
 注4 大門町教育委員会 1998「二口油免遺跡第Ⅱ次発掘調査概報」
 大門町教育委員会 2005「二口油免遺跡発掘調査報告(4)」
 注5 大門町教育委員会 2005「富山県大門町 本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告(2)」
 射水市教育委員会 2007「本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告(3)」



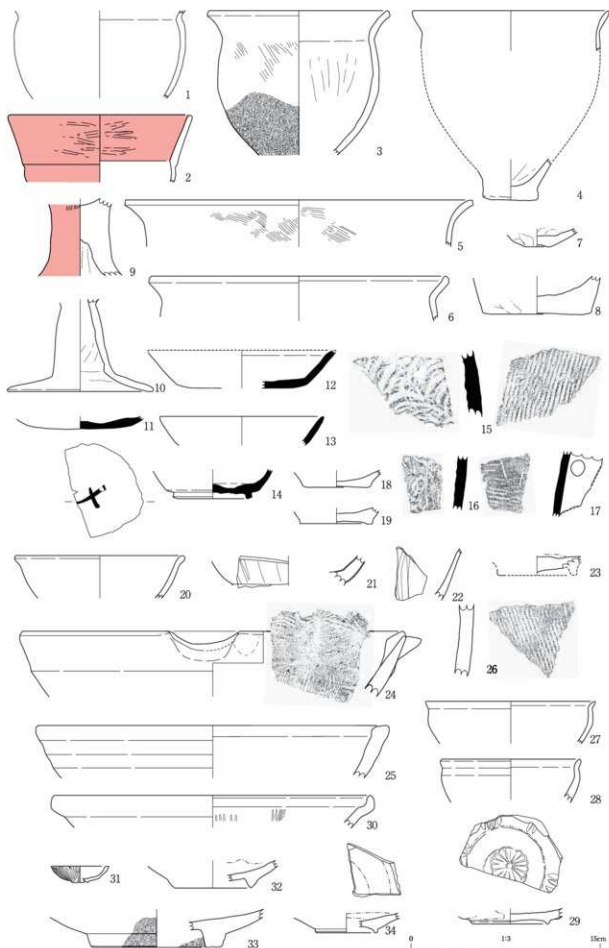
第118図 本江大坪I遺跡 遺構実測図

1. SD25 2. SD28 3. SD41・SD42 4. SD41出土状況 5. SD133 6. SD104 7. SD150
8. SD159・SD168・SX170 9. SD168 10. SD159・SK244 11. SD103・SD104 12. SD169・SD242
13. SD301 14. SD301・SD302 15. SD316・SD317・SD320 16. SD316 17. SD317



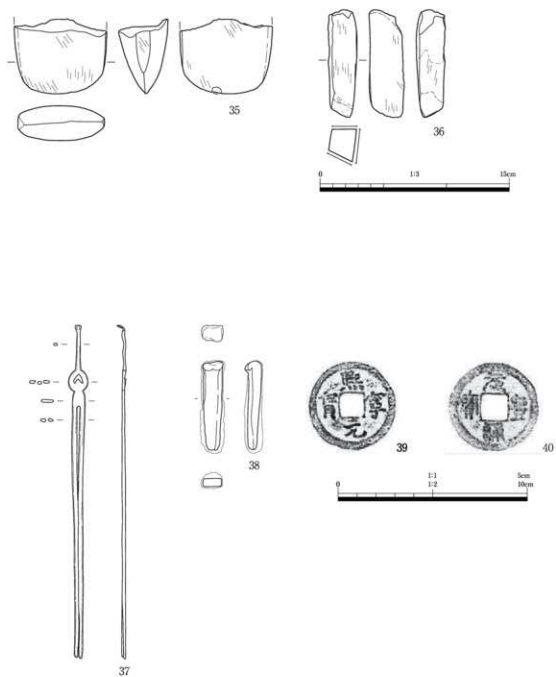
第119図 本江大坪Ⅰ遺跡 遺構実測図

1. SK45 2. SK32 3. SK32出土状況 4. SK70 5. SK70出土状況 6. SK107 7. SK43・SD41・SD42
 8. SK127 9. SK127出土状況 10. SK124 11. SK128・SD103 12. SK310・SK311 13. SK325・SD302



第120図 本江大坪Ⅰ遺跡 遺物実測図 (1/3)

SD25 (16) SD41 (3) SD168・SK128 (9) SD301 (1) SD317 (2) SK32 (10) SK50 (29) SK70 (4)
SX39 (26)



第121図 本江大坪Ⅰ遺跡 遺物実測図 (39・40 1/1, 37・38 1/2, 35・36 1/3)

第40表 本江大坪Ⅰ遺跡 溝一覧

遺構番号	地区	規模 (m)			出土遺物	時期	切り合い	特記事項	採掘番号	図版番号
		幅	長さ	深さ						
SD25	A	0.45	0.13						118	
SD28	A	0.61	0.22					SD66と同一遺構か	118 99	
SD41	A	0.95	0.41	弥生土層?	弥生~古墳?	<SK43			118・119 99	
SD42	A	1.58	0.57			>SD65			118・119 99	
SD46	A	0.43	0.07							
SD65	A	0.41	0.17			>SD42				
SD66	A	0.54	0.17					SD28と同一遺構か		
SD68	A	0.65	0.10							
SD69	A	0.60	0.06							
SD102	B	0.29	0.11							
SD103	B	1.87	0.44	弥生土層?	弥生~古墳?	>SD104・SK111・SK112・SK128・SK129・SD130		SD300と同一遺構	118・119	
SD104	B	0.83	0.31			>SD105 <SD103			118	
SD105	B	0.45	0.10			<SD104				
SD110	B	0.32	0.09							
SD122	B	0.40	0.06							
SD130	B	0.33	0.14			>SD131 <SD103				
SD131	B	0.42	0.10			<SD130 >SD132				
SD132	B	0.40	0.19			<SD131				
SD133	B	0.53	0.07	弥生土層	弥生~古墳?				118	
SD134	B	0.31	0.05							
SD140	B	0.80	0.17			<SK141				
SD143	B	3.29	0.12							
SD149	B	0.27	0.09							
SD150	B	0.41	0.15	弥生土層	弥生~古墳?				118	
SD152	B	0.40	0.19							
SD156	B	0.53	0.09							
SD159	B	1.60	0.51	弥生土層	弥生~古墳?	>SK170・SD241・SK244			118	
SD161	B	0.30	0.11							
SD162	B	0.30	0.06					SD166と同一遺構か		
SD166	B	0.27	0.07			<SK142				
SD168	B	0.72	0.18	弥生土層	弥生~古墳?	>SK170 <SD241			118	
SD169	B	0.89	0.11	土層跡		>SD242・SK243			118	
SD199	B	0.46	0.06					切り合い+交し		
SD241	B	0.63	0.15			>SD168 <SD159				
SD242	B	0.50	0.15			<SD169			118	
SD301	C	1.17	0.47	弥生土層	弥生~古墳?	<SD302 >SK324・SD326			118	
SD302	C	1.50	0.46	弥生土層	弥生~古墳?	>SD301・SK325		SD103と同一遺構	118・119	
SD314	C	0.58	0.06					SD315と同一遺構か		
SD315	C	0.35	0.06							
SD316	C	1.26	0.20	弥生土層	弥生~古墳?	<SD317			118 99	
SD317	C	0.78	0.21	弥生土層	弥生~古墳?	>SD316・SD319・SD320			118 99	
SD318	C	0.37	0.20							
SD319	C	0.31	0.10			弥生~古墳?	<SD317			
SD320	C	0.26	0.06			弥生~古墳?	<SD317		118	
SD326	C	0.93	0.09			弥生~古墳?	<SD303			

第41表 本江大坪Ⅰ遺跡 土坑一覧 (1)

遺構番号	地区	規模 (m)			出土遺物	時期	切り合い	特記事項	採掘番号	図版番号
		平面形	長さ	幅						
SK1	A	円	0.22	0.20	0.15					
SK2	A	円	0.20	0.18	0.20					
SK3	A	円	0.22	0.17	0.11					
SK4	A	円	0.27	0.22	0.14					
SK5	A	円	0.25	0.16	0.21					
SK6	A	円	0.21	0.21	0.30		なし			
SK7	A	円	0.24	0.16	0.10		なし			
SK8	A	円	0.25	0.20	0.17					
SK9	A	円	0.26	0.24	0.19					
SK10	A	円	0.35	0.35	0.27					
SK11	A	円	0.20	0.20	0.12					
SK12	A	円	0.32	0.28	0.16					
SK13	A	円	0.22	0.22	0.18					
SK14	A	円	0.21	0.17	0.14					
SK15	A	円	0.42	0.38	0.12		なし			
SK16	A	円	0.24	0.19	0.16		なし			
SK17	A	円	0.25	0.22	0.15					
SK18	A	不整	0.40	0.30	0.20		なし			
SK19	A	円	0.25	0.20	0.10					
SK20	A	円	0.34	0.24	0.15					
SK21	A	円	0.45	0.33	0.24					
SK22	A	円	0.21	0.21	0.10					
SK23	A	円	0.26	0.22	0.18					
SK24	A	円	0.34	0.26	0.08					
SK26	A	円	0.30	0.22	0.24					
SK27	A	円	0.27	0.23	0.13					
SX29	A	不整	(5.90)	(4.90)	0.45		>SK38	落ち込み状		
SK30	A	円	1.02	0.92	0.27					

第41表 本江大坪Ⅰ遺跡 土坑一覽(2)

遺跡番号	地区	平面形	規模 (m)		深さ	出土遺物	時期	切り合ひ	特記事項	採掘 番号	図録 番号
SK31	A	円	0.24	0.25	0.08						
SK32	A	楕円	0.60	0.46	0.26	弥生土器?	弥生~古墳?			119	99
SK33	A	円	0.24	0.24	0.12						
SK34	A	円	0.27	0.25	0.20						
SK35	A	円	0.23	0.21	0.15						
SK36	A	円	0.24	0.24	0.11						
SK37	A	円	0.47	0.44	0.08						
SK38	A	円	1.36	1.10	0.37			<SK29			
SK39	A	不整	(12.60)	(3.54)	0.12	雉西		>SK40	磨石片・灰		
SK40	A	円	0.30	0.30	0.09			<SK30			
SK43	A	円	1.05	(1.05)	0.94			>SD41	表層より非??		
SK44	A	円	0.23	0.23	0.12						
SK45	A	楕円	0.44	0.30	0.20	弥生土器?	弥生~古墳?			119	
SK50	A	隅丸方	0.80	0.68	0.07	縄中継戸					
SK51	A	円	0.38	0.30	0.13						
SK52	A	円	0.25	0.23	0.10						
SK53	A	円	0.32	0.30	0.09						
SK54	A	円	0.35	0.30	0.15						
SK55	A	円	0.32	0.25	0.16						
SK56	A	円	0.27	0.20	0.14						
SK57	A	円	0.32	0.27	0.08						
SK58	A	円	0.34	0.30	0.11						
SK59	A	円	0.30	0.30	0.04						
SK60	A	円	0.29	0.24	0.16						
SK61	A	楕円	0.60	0.47	0.08						
SK62	A	楕円	0.65	0.54	0.09						
SK63	A	楕円	0.66	0.50	0.16						
SK64	A	円	0.30	0.25	0.15						
SK67	A	楕円	0.65	0.46	0.23						
SK70	A	楕円	0.50	0.27	0.08	弥生土器?	弥生~古墳?			119	99
SK101	B	楕円	0.56	0.42	0.28						
SK106	B	円	0.80	0.65	0.29						
SK107	B	不整	1.55	1.45	0.13	弥生土器	弥生~古墳?			119	99
SK108	B	円	0.35	0.34	0.07						
SK109	B	不整	0.70	0.55	0.08						
SK111	B	不整	(1.90)	(1.80)	0.17			<SD103 - SK112			
SK112	B	楕円	(2.94)	2.05	0.16			<SD103	>SK113 - SK113		
SK113	B	楕円	(3.60)	1.49	0.08			<SK112			
SK114	B	隅丸方	1.17	1.12	0.09						
SK115	B	円	0.66	0.64	0.08						
SK116	B	不整	0.69	0.50	0.10						
SK117	B	不整	3.29	1.71	0.38						
SK118	B	楕円	0.48	0.37	0.07						
SK119	B	円	0.75	0.72	0.22						
SK120	B	隅丸方	1.96	(1.60)	0.04						
SK121	B	長方	2.31	1.17	0.08						
SK123	B	円	0.37	0.33	0.04						
SK124	B	(円)	1.93	(0.74)	0.12	弥生土器	弥生~古墳?			119	
SK125	B	円	0.36	0.33	0.24						
SK127	B	円	0.69	0.63	0.40	弥生土器	弥生~古墳?			119	99
SK128	B	楕円	(2.50)	0.89	0.12	弥生土器	弥生~古墳?	<SD103	SD68出土土器と整合	119	99
SK129	B	円	1.81	(0.69)	0.21			<SD103			
SK141	B	方	2.72	2.20	0.08			<SD140 - SK142			
SK142	B	不整	(0.70)	0.66	0.10			<SK141			
SK144	B	不整	2.00	1.11	0.05						
SK145	B	不整	0.77	0.69	0.06						
SK146	B	楕円	1.96	0.82	0.11						
SK147	B	円	0.70	0.54	0.03						
SK148	B	円	1.85	1.23	0.04						
SK151	B	円	0.62	0.48	0.08						
SK153	B	円	0.28	0.25	0.05						
SK154	B	不整	1.07	0.64	0.12						
SK155	B	円	0.43	0.43	0.11						
SK157	B	楕円	0.45	0.30	0.07						
SK158	B	不整	2.75	1.61	0.10						
SK160	B	円	0.32	0.30	0.07						
SK163	B	円	0.20	0.20	0.06						
SK164	B	円	0.25	0.23	0.07						
SK165	B	円	0.27	0.21	0.07						
SK167	B	不整	1.36	0.65	0.10			>SD195			
SK170	B	不整	4.70	(3.60)	0.38			<SD199 - SD168	磨池状?	118	
SK171	B	円	0.29	0.29	0.03						
SK172	B	円	0.23	0.22	0.04						
SK173	B	円	0.34	0.25	0.06						
SK174	B	円	0.27	0.27	0.12						
SK175	B	円	0.34	0.24	0.17						
SK176	B	円	0.26	0.24	0.08						
SK177	B	円	0.25	0.22	0.07						
SK178	B	円	0.24	0.22	0.04						
SK179	B	円	0.25	0.22	0.06						
SK180	B	円	0.24	0.24	0.06						

第41表 本江大坪I遺跡 土坑一覽(3)

遺構番号	地区	平面形	規模 (m)		出土遺物	時期	切り合い	特記事項	探検番号	図説番号
			長さ	幅						
SK181	B	円	0.32	0.30	0.14					
SK182	B	円	0.24	0.21	0.05					
SK183	B	円	0.22	0.22	0.05					
SK184	B	円	0.24	0.18	0.03					
SK185	B	円	0.24	0.22	0.06					
SK186	B	円	0.24	0.24	0.06					
SK187	B	円	0.31	0.25	0.05					
SK188	B	円	0.21	0.21	0.04					
SK189	B	円	0.43	0.31	0.05		<SK190			
SK190	B	円	0.28	0.21	0.06		>SK189			
SK191	B	円	0.24	0.22	0.15					
SK192	B	円	0.38	0.30	0.12					
SK193	B	円	0.24	0.24	0.09					
SK194	B	円	0.39	0.37	0.18					
SK195	B	円	0.24	0.24	0.06					
SK196	B	円	0.29	0.27	0.10					
SK197	B	円	0.77	0.60	0.06					
SK198	B	楕円	0.89	0.79	0.09					
SK200	B	円	0.27	0.25	0.22					
SK201	B	円	0.37	0.36	0.18					
SK202	B	円	0.26	0.23	0.08					
SK203	B	円	0.27	0.26	0.07					
SK204	B	円	0.22	0.20	0.09					
SK205	B	円	0.30	0.26	0.08					
SK206	B	円	0.25	0.20	0.07					
SK207	B	円	0.38	0.27	0.05		<SK208			
SK208	B	楕円	0.55	0.31	0.16		>SK207			
SK209	B	円	0.24	0.24	0.10					
SK210	B	円	0.38	0.33	0.12					
SK211	B	円	0.24	0.22	0.10					
SK212	B	円	0.23	0.20	0.12					
SK213	B	円	0.27	0.22	0.06					
SK214	B	円	0.24	0.21	0.05					
SK215	B	円	0.24	0.24	0.07					
SK216	B	円	0.24	0.24	0.06					
SK217	B	円	0.31	0.25	0.10					
SK218	B	円	0.25	0.22	0.10					
SK219	B	円	0.30	0.29	0.11					
SK220	B	円	0.26	0.25	0.09					
SK221	B	円	0.23	0.20	0.09					
SK222	B	円	0.25	0.23	0.12					
SK223	B	円	0.29	0.27	0.10					
SK224	B	円	0.33	0.30	0.11					
SK225	B	円	0.30	0.30	0.11					
SK226	B	円	0.26	0.23	0.11					
SK227	B	円	0.26	0.22	0.07					
SK228	B	円	0.27	0.27	0.16					
SK229	B	円	0.28	0.22	0.11					
SK230	B	円	0.30	0.29	0.13					
SK231	B	円	0.37	0.31	0.05					
SK232	B	円	0.27	0.25	0.06					
SK233	B	円	0.24	0.24	0.05					
SK234	B	円	0.32	0.27	0.07					
SK235	B	円	0.33	0.29	0.06					
SK236	B	円	0.29	0.24	0.03					
SK237	B	円	0.25	0.23	0.03					
SK238	B	円	0.23	0.23	0.04					
SK239	B	円	0.27	0.24	0.04					
SK240	B	楕円	0.42	0.34	0.07					
SK243	B	円	1.11	0.80	0.07		<SD189			
SK244	B	円	1.44	0.50	0.03		<SD189			
SK245	B	不整	1.64	1.50	0.19					
SK303	C	不整	2.00	1.00	0.48					
SK304	C	円	0.40	0.32	0.08					
SK305	C	楕円	0.74	0.51	0.05					
SK306	C	楕円	0.74	0.69	0.06					
SK307	C	楕円	0.67	0.51	0.07					
SK308	C	円	2.84	2.65	0.27					
SK309	C	不整	1.52	1.37	0.33					
SK310	C	円	1.95	1.88	0.29	弥生土器	弥生～古墳？	>SK311	調査？	119
SK311	C	円	0.45	0.40	0.11			<SK310		119
SK312	C	不整	2.58	1.31	0.19					
SK313	C	不整	3.33	3.30	0.11					
SK321	C	楕円	0.86	0.40	0.12					
SK322	C	楕円	0.70	0.57	0.07					
SK323	C	(円)	0.39	0.30	0.25					
SK324	C	不整	4.20	1.37	0.41		弥生～古墳？	<SD301		
SK325	C	不整	1.33	0.90	0.08	弥生土器	弥生～古墳？	<SD302		119

第42表 本江大坪Ⅰ遺跡 土器・陶磁器一覽

押出 遺物	写真 図版	地区	遺跡	出土地点	種類	数量	法量 (g)			時期	評定時期	胎土色調		備考		
							口徑	器高	底径			胎土色	胎土色			
1	100	C	X3030	X307360	粘土土器	鉢					粘土-古陶	黄赤-白紅	2578-3	黄褐色		
2	100	C	X2037	X27236	粘土土器	鉢	14.2				粘土-古陶	黄赤-白紅	2577-3	黄褐色		赤部 5784号赤褐色
3	100	A	X2041	X247166	粘土土器	鉢	14.2				粘土-古陶	黄赤-白紅	2577-3	黄褐色		内面スス付着
4	100	A	X2670		粘土土器	壺	13.5	13.0	4.3		粘土-古陶	黄赤-白紅	2578-3	黄褐色		器底のため磨整不明確
5	100	A		X30727	粘土土器	壺	27.4				粘土-古陶	黄赤-白紅	2577-3	黄褐色		にふい-黄褐色
6	100	A		X25749	粘土土器	壺	23.4				粘土-古陶	黄赤-白紅	2577-3	黄褐色		にふい-黄褐色
7	100	C	X30730		粘土土器	壺			3.1		粘土-古陶	黄赤-白紅	2578-3	黄褐色		にふい-黄褐色
8	100	B		X30726	粘土土器	壺?			8.6		粘土-古陶	黄赤-白紅	2577-3	黄褐色		器底
9	100	B	X2169 X2128	X30725	粘土土器	高杯					粘土-古陶	黄赤-白紅	2577-3	黄褐色		器底のため磨整不明確 内面赤部が認められる
10	100	A	X2632		粘土土器	高杯			11.4		粘土-古陶	黄赤-白紅	2578-3	黄褐色		器底 器底のため磨整不明確
11	101	B		X30720	磁器	杯					古代	黄	2578-3	黄褐色		器底?
12	101	A		X30719	磁器	杯	14.7	3.6			古代	黄	2577-1	黄褐色		
13	101	B		X28745	磁器	杯	12.8				古代	黄	2578-3	黄褐色		
14	101	B		X28745	磁器	杯			6.2		古代	黄中-黄	2576-1	黄褐色		
15	101	A		X30716	磁器	壺					古代	黄	2577-1	黄褐色		
16	101	A	X2625		磁器	壺					古代	黄	2577-1	黄褐色		
17	101	A		X27162	磁器	菓子籠					古代	黄	2578-4	にふい-黄褐色		
18	101	B		X31739	土器	瓶			5.1		古代	黄	2578-3	黄褐色		器底のため磨整不明確
19	101	B		X30722	土器	瓶			5.8		古代	黄	2578-4	にふい-黄褐色		
20	101	B		X27239	青磁	瓶	13.3				中世	黄	2576-1	黄褐色		器底赤褐色
21	101	C		X30726	青磁	瓶					中世	黄	2576-1	黄褐色		器底赤褐色
22	101	B		X28727	青磁	瓶					中世	黄	2576-1	黄褐色		器底赤褐色
23	101	C		X30728	白磁	瓶			6.0		中世	黄	2576-1	黄褐色		内面磨整の跡へ? 太厚部? 器底1.2cm
24	101	B		X28745	緑釉	壺	30.2				中世	黄	2576-1	黄褐色		
25	101	A		X28716	緑釉	壺	27.6				中世	黄	2576-1	黄褐色		
26	101	A	X2629	X25740	緑釉	壺					中世	黄	2578-2	黄褐色		
27	101	B		X31725	緑中黄? / 天目系陶	瓶	13.3				中世	黄	2577-2	にふい-黄褐色		器底スス付着
28	101	C		X27280	緑中黄? / 天目系陶	瓶	11.0				近世	黄	2577-1	黄褐色		
29	101	A	X2620		緑中黄? / 天目系陶	瓶			6.0		近世	黄	2577-3	黄褐色		印文 (16号) 裏面赤褐色
30	101	C		X30724	磁器	鉢	25.0				近世	黄	2578-2	黄褐色		
31	101	A		X25740	伊豆系	灰皿	4.6	1.3	1.2		近世	黄	2576-1	黄褐色		器底赤褐色
32	101	A		X29717	磁器	皿			6.0		近世	黄	2578-3	にふい-黄褐色		器底赤褐色
33	101	A		X27179	唐津	鉢			10.4		近世	黄	2576-2	黄褐色		内面スス付着 内面磨整跡 白色の化粧土による文様
34	101	A		X28712	唐津	皿			4.8		近世	黄	2578-3	にふい-黄褐色		内面山吹色 裏の日輪ハズ

第43表 本江大坪Ⅰ遺跡 石製品一覽

押出 遺物	写真 図版	地区	出土地点	台帳番号	種類	材質	法量 (cm・g)				備考		
							長さ	幅	厚さ	重さ			
121	35	102	C	X367274	I層	D900215	磨製石芥	閃緑岩	6.0	6.8	3.9	300.21	砥面は3面か
									8.0	2.8	2.5	79.59	

第44表 本江大坪Ⅰ遺跡 金属製品一覽

押出 遺物	写真 図版	地区	出土地点	台帳番号	種類	材質	法量 (cm・g)				備考		
							長さ	幅	厚さ	重さ			
121	37	102	A	X267186	I層	K090078	鈔	鉄	9.4	0.5	0.2	7.87	
									4.8	1.2	0.7	13.78	
									2.3	2.3	0.15	2.99	
									2.4	2.4	0.15	3.41	

第Ⅷ章 自然科学分析

水上遺跡・赤井南遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡では、平成22年度・23年度に自然科学分析を行った。5遺跡はいずれも射水平野南西部に位置しており、同一の地域条件を有している。出土遺物の時期や遺跡の時代を考慮しながら、相互の比較検討をすることで、広い分野から遺跡の理解を深めることに努めた。

石材鑑定は、5遺跡出土の石製品20点について行い、当時の石材利用状況を検討することを目的とした。棚田遺跡を除く4遺跡では、中世以降の砥石12点が出土しており、このうち9点75%が流紋岩であった。流紋岩の砥石は中砥であり、鎌等を研ぐのに多用される砥石の石材であることから、中世以降の当該地域においては、同一の石材選択がなされており、ごく一般的な状況を呈していたと考えられる。

樹種同定は、本江大坪Ⅰ遺跡を除く4遺跡出土の61点について行った。全体的には漆器類でブナ属・ケヤキが用いられている他は、スギを中心とした針葉樹を多用している。富山県を含む日本海側の地域では、木製品にスギを多用する傾向にあり、今回の結果もこれに一致する。安吉遺跡においては、小型の曲物や木簡、加工材にアスナロやヒノキといったヒノキ科の針葉樹が比較的まとまってみられ、ほぼ同時期の水上遺跡の曲物が全てスギであったのとは、用途に応じた使い分けがあった可能性がある。

漆塗膜分析は、安吉遺跡12点、棚田遺跡1点の計13点について行った。安吉遺跡については、全てブナ属の木目に、炭粉下地、漆を1層塗りした汎用品であった。文様部分は、水銀朱を用いた朱漆によって描かれている。2004年度の市教委調査地区出土の漆器7点についても漆塗膜分析が行われており、今回と同様、ブナ属の木目に、炭粉下地、漆1層塗りという結果が出ている。安吉遺跡は15世紀～16世紀代の時期のもので、簡略化された普及型漆器が広く流通していたことを示している。棚田遺跡の漆器蓋はケヤキ材に、砂泥じり粘土によるいわゆる地の粉塗下地とし、黒色漆を塗ったもので、金粉による蒔絵が施された、上質なものである。

自然科学分析は、赤井南遺跡の古代道路側溝・溝・井戸の埋土12点について、道路周辺の街路樹の有無等を含めた古環境の復元を目的として行った。古代・中世をとおしてイネ科のほかヨモギなどの草本が多く分布し、開けており、周囲にはハンノキなどの湿地林または河辺林が分布する環境下であったことを示す結果となった。赤井南遺跡を含む5遺跡は、ほぼ同一の地域に密集していることから、分析の結果得られた景観は、他の遺跡にも共通したものと想定される。また、赤井南遺跡における古代のある時期にはベニバナ、中世段階にはソバ、キュウリ、アブラナなどの栽培が示唆された。

放射性炭素年代測定(AMS)は、赤井南遺跡の杭・柱5点および井戸内出土の種実2点の計7点で行った。古代道路に伴う整地層に打ち込まれた柱・杭については、SP340で古材の転用または、古い時期のもの可能性を示す値となったが、その他は古木効果を考慮する必要はあるものの、概ね遺構の推定時期である7世紀～8世紀の値となった。このことにより、古代道路と同時期の杭列であったことが判明した。井戸出土のモモの核は13世紀～14世紀の年代となり、調査時の所見による遺構の推定年代と矛盾しない値となった。

1 赤井南遺跡出土の種実遺体群

島田亮仁

1 はじめに

赤井南遺跡は射水市を流れる下条川と和田川に挟まれた沖積平野に立地し、神楽川によって形成された自然堤防上に展開している。周辺一帯は古代では射水郡三嶋郷にあたり、中世では東福寺領東条荘に推定されている。遺跡からは古代の道路（SD102とSD103を側溝とする）が約60mにわたって確認されている。また、側溝であるSD102の北側には平行に走る溝（SD101）があり、SD102とSD101の間には柱穴や杭が確認され、板垣などの構造物の存在が推定されている。

2 試料と方法

試料は大きく2種類ある。一つは発掘調査中に現地では拾い上げられた比較的目的に付く大きな種実遺体であり、もう一つは土層断面からサンプリングされた堆積物である。堆積物については可能な限りオープニング1.0mmを用いて水洗選別し、出来るだけ多くの種実遺体を得ることとつとめた。また、100ccについてはオープニング0.25mmを用いて水洗選別した。篩上の残渣を双眼実体顕微鏡で観察し、同定は科・属・種の階級で主に現生標本との対比で行った。分類群の後にアルファベットがつくものは、いくつかのタイプに分けることが可能なものである。

遺構	試料	時期	篩の日・体積		遺構	試料	時期	篩の日・体積		遺構	層位	時期	篩の日・体積									
			1.0mm	0.25mm				1.0mm	0.25mm				1.0mm	0.25mm								
SD101	①	古代	1400cc	100cc	SD102	①	古代	800cc	100cc	SD103	SE325	動物中位	中世	800cc	100cc							
	②	古代	700cc	100cc		②	古代	1200cc	100cc							②	古代	2600cc	100cc	動物中位	中世	現地取り上げ
	③	古代	300cc	100cc		③	古代	2400cc	100cc							③	古代	1300cc	100cc	SE152	-	中世
					④	古代	1100cc	100cc	④	古代	400cc	100cc										

第45表 分析試料一覧

3 同定結果

同定の結果、木本7分類群、木本と草本を含む2分類群、草本41分類群の計50分類群が確認された。

木本6分類群はすべて落葉広葉樹である。これらは、日当たりの良い開けた場所などに生育する分類群で、二次林を構成したり、人里に生育する分類群である。草本については、13分類群が水湿地性植物であり、このうちミクリ属、コウホネ属の一部、ヘラオモダカ、オモダカ、オモダカ科、ウキヤガラ、ホタルイ属A・B、ミズアオイ属は池や水田、溝などの比較的水深の浅い環境に生育する抽水性植物である。また、ミゾソバ、イボクサ、クサネムも水田や溝などに生育する分類群である。カヤツリグサ属、スゲ属、セリ科なども水湿地性植物を多く含む分類群である。陸性植物は10分類群であり、エノコログサ属、ヒユ属、スベリヒユ?、ナデシコ科、ザクロソウ、カタバミ属、イヌコウジュ属、ナス科、メナモミ属は、道端や畑、荒地などやや乾燥しているような環境に生育するものである。栽培植物には、木本のモモと草本のイネ、シソ属の2分類群が同定されている。

分類群の特徴を第46表に記載し、同定結果は第47表にまとめた。また、代表的な分類群については写真を示した。

4 種実遺体群集の特徴

全体をみると、種数では木本7分類群、草本41分類群と草本が卓越している。草本のうち水湿地性植物としては13分類群、陸性植物としては10分類群が確認されている。また、古代の溝（SD101～

SD103)の層序における出現傾向をみると、①・②の下位は種実遺体の種数・個体数共に多く、③・④の上位(SD101は③のみ)ほど減少傾向にある。以下に、遺構ごとに種実遺体群集の特徴をみていくことにする。

(1) SD101

古代の道路の側溝(SD102・SD103)に平行に走る溝である。種実遺体群の種数・個数ともにSD102やSD103と比較して著しく少ない。草本のみ8分類群が確認されており、木本は確認されていない。草本で最も多く検出されたのはホタルイ属Aとウキヤガラであり、次に多いのがオモダカ科、イボクサである。他にミクリ属、オモダカ、イヌコウジュ属がある。8分類群の中で6分類群が水湿地性植物であり、水田や溝などのやや浅い水域に生育する。陸性植物としてはイヌコウジュ属の1分類群があり、道端、畑などやや乾燥した環境に生育する。

(2) SD102

古代の道路の側溝である。木本で4分類群、木本と草本を含む2分類群、草本30分類群の計36分類群が確認されている。種数・個数において木本が少なく、草本が卓越している。木本ではハンノキ属、クワ属、ブドウ属、ニワトコがごく少量検出されている。これらは人里近くに普通に生育する分類群である。草本で最も多く検出されたのはイヌコウジュ属とウキヤガラであり、次に多いのがホタルイ属A、ミゾソバ、タデ属Aである。他にミクリ属、ヘラオモダカ、オモダカ、イネ、エノコログサ属、イボクサ、シソ属、メナモミ属がある。草本のうち11分類群が水湿地性植物であり、ウキヤガラ、ホタルイ属A、ミゾソバ、ミクリ属、ヘラオモダカ、オモダカ、イボクサが含まれる。陸性植物としては5分類群があり、イヌコウジュ属、エノコログサ属、ナデシコ科、シソ属、メナモミ属がある。栽培植物ではイネ、シソ属があり、イネは穎が検出されている。

(3) SD103

古代の道路の側溝である。木本で4分類群、木本と草本を含む1分類群、草本33分類群の計38分類群が確認されている。出現傾向はSD102と類似しており、種数・個数において木本が少なく、草本が卓越している。また、水湿地性植物が種数・個数共に多いことや、出現している分類群も類似している。木本ではキイチゴ属、クワ属、アカメガシワ、ニワトコがごく少量検出されている。草本で最も多く検出されたのはイヌコウジュ属とキンボウゲ属であり、次に多いのがヘラオモダカ、オモダカ、オモダカ科、クサネムである。他にミクリ属、コウホネ属、イネ、エノコログサ属、ウキヤガラ、ホタルイ属A・B、イボクサ、ミズアオイ属、ミゾソバ、スベリヒユ?、カタバミ属、シソ属、ナス科、メナモミ属がある。草本のうち13分類群が水湿地性植物であり、陸性植物としては7分類群がある。この陸性植物にはイヌコウジュ属、エノコログサ属、スベリヒユ?、シソ属、ナス科、メナモミ属が含まれる。栽培植物ではイネ、シソ属が確認されている。

(4) SE325

中世の井戸である。木本で1分類群、草本8分類群の計9分類群が確認されている。種数・個数において木本が少なく、草本が卓越している。木本ではモモ、草本ではイネ、ヒユ属、ザクロソウ、ナデシコ科が検出されている。水湿地性植物にはイネがあり、陸性植物としてはヒユ属、ザクロソウ、ナデシコ科が含まれる。栽培植物では木本のモモと草本のイネがある。

(5) SE152

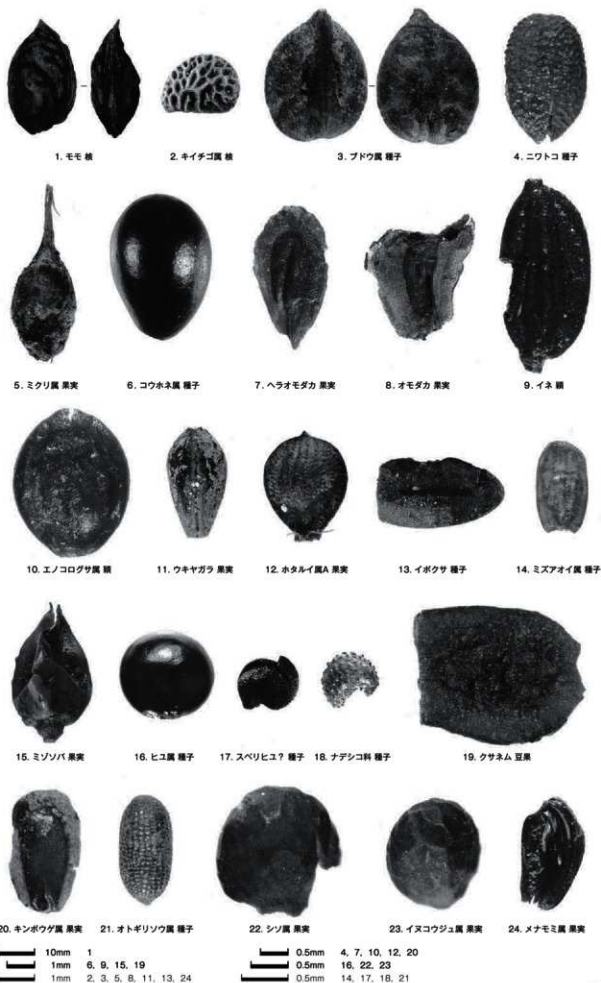
中世の井戸である。木本のモモが確認されており、その他の種実遺体は確認されていない。

1 種実遺体同定

分類群 (和名/学名)	属名	赤井山遺跡 (I1AM)																								遺物単位 数(個)	遺物単位 数(個)	遺物単位 数(個)
		ND101						ND102						ND103						遺物単位 数(個)	遺物単位 数(個)	遺物単位 数(個)						
		①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥									
		0000	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017				0018					
遺物	Total	70	102	1	1	0	1	208	101	100	47	1	10	100	20	102	0	100	0	100	17	100	10	0	1	1		
遺物	Total	70	102	1	1	0	1	208	101	100	47	1	10	100	20	102	0	100	0	100	17	100	10	0	1	1		

第 47 表 種実同定結果一覧

写真 1 赤井南遺跡出土種実遺体



2 射水市赤井南遺跡の自然科学分析報告

株式会社古環境研究所

1 はじめに

赤井南遺跡は、射水市赤井に所在し、富山平野北西部を北流する庄川の右岸の沖積平野（射水平野）上に位置する奈良時代から戦国時代の遺跡である。平成 22 年度の発掘調査において幅約 8 メートル、長さ約 60 メートルの古代道路遺構が両側に側溝を伴って検出された。

今回、古代溝、古代道路側溝および中世井戸の埋土を対象に植物珪酸体分析と花粉分析を実施し、当時の周辺植生と環境について検討することになった。

2 試料

分析試料は、古代溝 SD101 埋土の試料③（I 層）、試料②（I 層）、試料①（①層）の 3 点、古代道路側溝 SD102 埋土の試料④～②（②層）、試料①（⑤層）の 4 点、同じく SD103 埋土の試料④～②（①層）、試料①（②層）の 4 点、および古代～中世の井戸 SE325 埋土（曲物中位）の 1 点の計 12 点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

3 分析法

（1）植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-3}g$ ）を乗じて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

（2）花粉分析

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から 1 cm³ を採量
- 2) 0.5% リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

- 4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
- 5) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）を施す
- 6) 再び水酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300～1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。なお、この処理を施すと、花粉壁が完全には保存されないクスノキ科は検出されない。

4 分析結果

(1) 植物珪酸体分析

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 48 表および第 122 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕イネ、イネ（穎の表皮細胞由来）、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族 A（チガヤ属など）、ジュズダマ属型

〔イネ科-タケ亜科〕ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科-その他〕表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、莖部起源、未分類等

〔樹木〕その他

(2) 花粉分析

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 34、樹木花粉と草本花粉を含むもの 6、草本花粉 33、シダ植物胞子 2 形態の計 75 である。これらの学名と和名および粒数を第 49 表に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第 123 図に示した。主要な分類群は顕微鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複雑維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ノグロミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、サンショウ属、ウルシ属、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ミズキ属、ツツジ科、モクセイ科、タニウツギ属、スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕クワ科-イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ニワトコ属-ガマズミ属

〔草本花粉〕ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、マルバオモダカ、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソ

バ属, アカザ科-ヒユ科, ナデシコ科, キンボウゲ属, アブラナ科, ツリフネソウ属, ノブドウ, キカシグサ属, アリノトウグサ属-フサモ属, チドメグサ亜科, セリ亜科, オオバコ属, オミナエシ科, ゴキツル, キュウリ属, タンポポ亜科, キク亜科, オナモミ属, ヨモギ属, ベニバナ
〔シダ植物胞子〕単条溝胞子, 三条溝胞子

2) 花粉群集の特徴

それぞれの地点において下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する(第122図)。

・古代溝 SD101: 下部の試料①, ②においては, 花粉構成, 組成ともに極めて類似した傾向を示す。樹木花粉が約 35%, 草本花粉が約 50% を占める。樹木花粉では, スギを主にハンノキ属, コナラ属コナラ亜属, プナ属が出現する。草本花粉では, イネ科(イネ属型を含む), カヤツリグサ科が優占し, ヨモギ属が伴われ, ミズアオイ属, オモダカ属が出現する。試料③では, 草本花粉の占める割合が増加する。草本花粉のイネ科(イネ属型を含む)が高率に出現し, カヤツリグサ科は半減, ソバ属が出現する。樹木花粉のスギが減少する。

・古代道路側溝 SD102: 試料①~④においては, 花粉構成, 組成ともに極めて類似した傾向を示す。樹木花粉が約 35% から約 40%, 草本花粉が約 45% から約 50% を占める。樹木花粉では, スギを主にハンノキ属, コナラ属コナラ亜属, プナ属, クマシデ属-アサダが出現する。草本花粉では, イネ科(イネ属型を含む), カヤツリグサ科が優占し, ヨモギ属が伴われ, オモダカ属, ミズアオイ属が出現する。試料②ではベニバナも認められる。この出現傾向は, SD101 の試料①, ②の構成, 組成とほぼ同じである。

・古代道路側溝 SD103: 試料①~④においては, 花粉構成, 組成ともに極めて類似した傾向を示す。樹木花粉が約 35%, 草本花粉が約 45% を占める。樹木花粉では, スギを主にハンノキ属, コナラ属コナラ亜属, プナ属, クマシデ属-アサダ, ニレ属-ケヤキが出現する。草本花粉では, イネ科(イネ属型を含む), カヤツリグサ科が優占し, ヨモギ属が伴われ, オモダカ属, ミズアオイ属, アリノトウグサ属-フサモ属が出現する。この出現傾向は, SD101 の試料①, ②, SD102 の構成, 組成と類似する。中世の井戸 SE325: 樹木花粉が約 15%, 樹木・草本花粉が約 25%, 草本花粉が約 35% を占める。樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科が特徴的に多く, 草本花粉ではイネ科(イネ属型を含む)が優占し, カヤツリグサ科, アブラナ科, ヨモギ属, アカザ科-ヒユ科が伴われる。ソバ属, キュウリ属が出現する。樹木花粉では, スギ, ハンノキ属が比較的多い。

5 考察

(1) 植物珪酸体分析

1) 稲作の可能性について

稲作跡(水田跡)の検証や探査を行う場合, 一般にイネの植物珪酸体(プラント・オパール)が試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に, そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。なお, 密度が 3,000 個/g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから, ここでは判断の基準を 3,000 個/g として検討を行った。

SD101 では試料③~①について, SD102 では試料④~①について, SD103 では試料④~①について, SE325 では埋土について分析を行った。その結果, これらのすべての試料からイネが検出された。このうち, SD101 の試料③と試料②, SD103 の試料③, SE325 の埋土では, イネの密度が 5,000~6,900 個/g と高い値であり, SD102 の試料④と試料③でも 3,000 個/g 以上と比較的高い値である。また, SE325

の埋土では、イネの籾殻（穎の表皮細胞）に由来する植物珪酸体も認められた。

以上の結果から、SD101, SD102, SD103, SE325の埋土の堆積当時は、周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で各遺構内にイネの植物珪酸体もしくは稲葉が混入したと推定される。また、SE325については、籾殻が混入した可能性も考えられる。

2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ族型（キビが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡ではSD103の試料③からジュズダマ属型が検出された。密度は1,400個/gと低い値である。ジュズダマ属には食用や薬用となる栽培種のハトムギが含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態から栽培種と野草のジュズダマとを識別するには至っていない。同層準ではヨシ属が比較的多く検出されていることから、ここで検出されたものは野草のジュズダマに由来する可能性が考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題とした。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、ほとんどの試料からヨシ属、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木（その他）が検出され、部分的にキビ族型やススキ属型なども検出されたが、いずれも比較的少量である。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢となっている。

以上の結果から、各遺構の埋土の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはウシクサ族やササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）などが生育していたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が分布していたと考えられる。

(2) 花粉分析

それぞれの地点において、花粉群集の特徴から植生および環境の復元を行う。

1) 古代溝 SD101：下部の試料①、②（①層、I層）の時期は、周辺にはイネ科、カヤツリグサ科を主にヨモギ属などの草本が多く、溝周辺にも分布していた。ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節の水生物が溝および周囲に生育し、溝は低湿な状態であった。イネ属型が検出されているが、周辺地域の水田を反映したものと考えられる。周辺地域の森林は、スギ林を主に、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹林が分布していた。試料③（I層）の時期になると、イネ属型が増加し、ソバ属が検出されることから、水田が拡大し畑も営まれていたと推定される。試料③（I層）の層準が耕作土であった可能性が考えられる。

2) 古代道路側溝 SD102：試料①～④（⑤層、②層）の時期をとおして、周辺にはイネ科、カヤツリグサ科を中心にヨモギ属など草本が多く生育していた。ガマ属-ミクリ属、オモダカ属、ミズアオイ属、イボクサ、タデ属サナエタデ節の水生物が溝周辺に生育し、溝は低湿な状態であった。イネ属型が検出されるが、周辺地域の水田を反映したものと考えられる。周辺地域の森林植生は、スギ林を主に、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹が分布していた。これらは、SD101下部と極めて類似した植生である。試料②からペニバナが検出され、ペニバナが周辺で染織等に利用

されていた可能性があり、時期的に考えると周辺地域で生産されていた可能性もある。

3) 古代道路側溝 SD103: 試料①～④(②層, ①層)の時期は、いずれも周辺にイネ科, カヤツリグサ科を中心にヨモギ属などの草本が多く分布していた。溝周辺には、ガマ属-ミクリ属, オモダカ属, ミズアオイ属, イボクサ, タデ属サナエタデ節の水生植物が生育し、溝は低湿な状態であった。イネ属型が検出されているが、やはり周辺地域の水田を反映したものであろう。周辺地域は、スギ林を主に、ハンノキ属, コナラ属コナラ亜属, ブナ属などの落葉広葉樹の分布する森林植生であった。こうした植生・環境は、SD101 下部や SD102 と極めて類似する。

4) 中世の井戸 SE325: 周辺における植生は、SD101 下部, SD102, SD103 と同様であるが、特徴的にクワ科-イラクサ科が多く、SE325 の周囲に生育していたと考えられる。栽培植物のソバ属, キュウリ属, 栽培植物を多く含むアブラナ科, 典型的な畑作雑草のアカザ科-ヒユ科もやや多く、周囲で畑が営まれていたと推定される。

6 まとめ

SD101, SD102, SD103, SE325 の埋土の堆積当時は、周辺にはイネ科, カヤツリグサ科を主にヨモギ属などの草本が多く分布し、開けた環境であった。周辺の比較的乾燥したところには、ウシクサ族やササ属(チマキザサ節やミヤコザサ節)などが生育していた。これら溝は、ヨシ属をはじめ水生植物が生育し、湿潤な状態であった。周辺は、比較的低温な環境であり、水田稲作が行われていたと推定された。ハンノキ属の検出から、低温なハンノキの湿地林ないし河辺林も分布していた。樹木花粉は特に層位的変化に乏しく、地域的な森林の反映と考えられ、スギ林を主にコナラ属コナラ亜属, ブナ属の落葉広葉樹が分布していた。SD102 の②層の時期には、ペニバナが染織等に利用された可能性が示唆された。SE325 では、ソバ属, キュウリ属, アブラナ科などの畑の分布が推定された。SD101 の上部試料③(Ⅰ層)になると、本地点周辺も水田が拡大し、畑も営まれていた。

(分析者: 植物珪酸体分析・杉山真二, 花粉分析・金原正子)

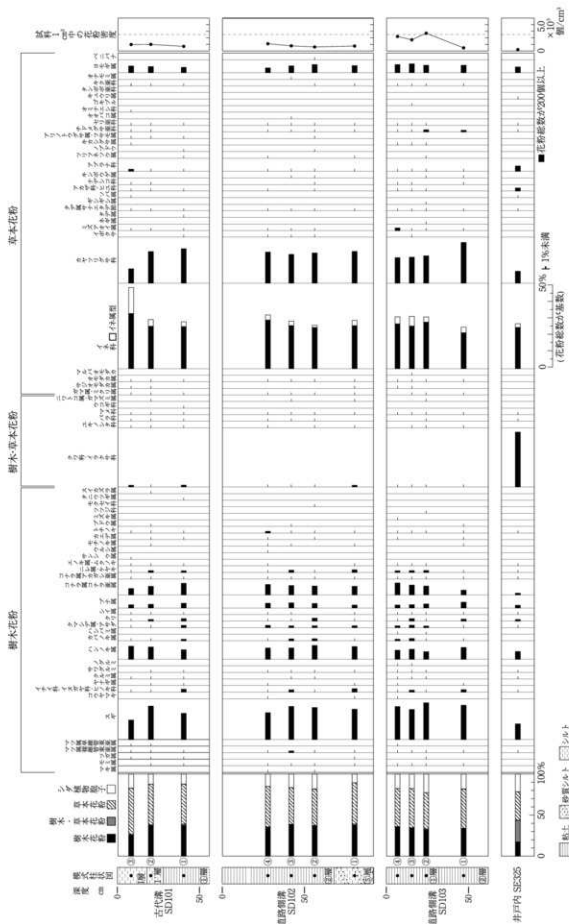
(文責者: 杉山真二, 金原正子, 松田隆二)

文献

- 金原 正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
 島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, p.60.
 杉山 真二・藤原 宏志 (1986) 機軸細胞珪酸体の形態によるタケ類科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-. 考古学と自然科学, 19, p.69-84.
 杉山 真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学, 同成社, p.189-213.
 中村 純 (1967) 花粉分析. 古今書院, p.82-102.
 中村 純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.
 中村 純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.
 中村 純 (1980) 日本産花粉の標識. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, p.91.
 藤原 宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
 藤原 宏志・杉山 真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探索-. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.
 安田 喜憲・三好 教夫 (1998) 関東地方の植生史. 図説日本列島植生史. 朝倉書店, p.73-81.

第49表 赤井南遺跡における花粉分析結果

分類群	第101			第102			第103			第104
	1層	2層	3層	1層	2層	3層	1層	2層	3層	
学名	表名									
Arboreal pollen	樹木花粉									
<i>Podocarpus</i>			1			1				
<i>Abies</i>		1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Thuja</i>		2	1	2		1	1	1	1	1
<i>Pinus vulgaris Diploxylon</i>		5	6	8	6	10	3	1	8	8
<i>Pinus vulgaris Heteroxylon</i>		1								3
<i>Cycas japonica</i>	118	197	147	119	194	161	124	121	189	221
<i>Sciadopitys verticillata</i>							1			49
<i>Taxaceae-Cephalotaxaceae-Ceprenaceae</i>		7	19	6	14	7	14	9	13	3
<i>Sassa</i>		2	2	1			1	2	1	1
<i>Agrostis</i>		3	1	3		4	1	2	1	1
<i>Pennisetum rhegale</i>		1	6	1	3	3	2	4	5	4
<i>Phalaris strabuscula</i>								1		1
<i>Abies</i>	79	73	61	60	67	76	52	64	64	66
<i>Betula</i>	4	4	10	6	12	11	5	11	15	7
<i>Corylus</i>								1		1
<i>Carpinus-Corylus japonica</i>	4	9	15	10	11	10	8	13	16	10
<i>Castanea cremata</i>	4	10	16	4	9	15	3	9	16	4
<i>Castanopsis</i>		3	2	1	2	6		6	9	2
<i>Fagus</i>	19	21	30	21	30	22	12	21	21	24
<i>Quercus vulgaris Lophobalanus</i>	38	50	74	66	54	44	36	63	61	62
<i>Quercus vulgaris Cyclobalanus</i>	6	3	4	3	5	2	1	3	3	4
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	9	11	10	4	14	7	11	12	11	12
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	1	1	1	1	1		1	2	2	1
<i>Zanthoxylum</i>										
<i>Rhus</i>				1						
<i>Alnus</i>		1		1	2					1
<i>Acer</i>		3	1	1	2		1	3		1
<i>Acerulus arbutina</i>		5	5	9	7	4	4	3	7	4
<i>Hic</i>						1				1
<i>Cornus</i>								1		
<i>Ericaceae</i>										
<i>Oleaceae</i>										1
<i>Urticaceae</i>							1			
<i>Urtica</i>				1						
Arboreal-Nonarboreal pollen	樹木・非樹木花粉									
<i>Medicago-Urticaceae</i>	樹木・非樹木花粉									
<i>Saxifragaceae</i>	10	4	12	2	4	1	7	2	2	2
<i>Ronaceae</i>	2	2	1	3	3	1	1	1	2	6
<i>Leguminosae</i>	1	1	2	2	2	1	2	3	3	1
<i>Araliaceae</i>	1	3	5	4	2	5	3	5	3	5
<i>Araliaceae</i>			2	1						
<i>Gnaphalium-Hibiscus</i>										2
Nonarboreal pollen	非樹木花粉									
<i>Alnus</i>	1	1	5	2	2	1	2	3	2	1
<i>Agrostis</i>	1	2					1	1	1	
<i>Sagittaria</i>	6	7	7	5	3	5	3	11	5	6
<i>Galium persianifolium</i>										2
<i>Ononis</i>	324	249	308	215	252	206	176	315	269	280
<i>Oryza tpe</i>	104	41	30	23	27	32	22	50	42	31
<i>Cyperaceae</i>	87	186	220	136	169	152	130	179	164	164
<i>Astilbeae Isotalis</i>										37
<i>Monochoria</i>	8	1	2	3	1	2		18	8	4
<i>Alisma</i>										4
<i>Polygonum</i>										1
<i>Polygonum sect. Peristaria</i>	4	5	2	6	7	7	6	4	4	4
<i>Rumex</i>										1
<i>Fagopyrum</i>										
<i>Chenopodiaceae-amaranthaceae</i>	2	1	4	1			1	1	2	1
<i>Caryophyllaceae</i>	3							1	1	1
<i>Ranunculaceae</i>										3
<i>Cruciferae</i>	13	5	2	1	1	2	2	2	5	2
<i>Impatiens</i>										3
<i>Asperulopsis leucophaea</i>										17
<i>Rutaceae</i>										
<i>Rutaceae</i>	4							1	4	2
<i>Haloragis-Myrtilloides</i>	2	1	1							
<i>Hydrocotylaceae</i>	2	4		3	6	5	1	7	9	13
<i>Aquifolium</i>	4	2	3	3	3	3	2	2	2	1
<i>Plantaginaceae</i>										1
<i>Valerianaceae</i>	1									
<i>Actinostemon latifolius</i>										1
<i>Cucurbitaceae</i>										
<i>Lactucaceae</i>	3									
<i>Asteraceae</i>	1	3	1				5	1	4	2
<i>Karwinsk</i>										
<i>Arenaria</i>	41	36	35	21	41	41	29	38	36	45
<i>Carduus</i>										18
Fern spore	シダ植物孢子									
<i>Medullosa type spore</i>	202	187	147	127	190	183	80	249	219	202
<i>Tetrasporon type spore</i>	5	3	3	1	1	1	1	3	5	2
Unknown pollen	未特定花粉									
Arboreal pollen	307	412	446	296	441	370	283	490	432	460
Arboreal-Nonarboreal pollen	14	12	21	11	8	11	12	8	7	18
Nonarboreal pollen	677	545	284	426	517	447	380	651	602	666
Total pollen	998	980	1051	739	966	828	673	1157	1041	996
Relative frequency of total pollen	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
Unknown pollen	11	10	12	5	6	9	10	7	12	9
Fern spore	シダ植物孢子									
<i>Medullosa</i> 種類	207	140	130	120	191	183	81	252	224	204
<i>Tetrasporon</i> 種類	5	3	3	1	1	1	1	3	5	2
Stone cell	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion remains	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	(++)	(+)	(+)	(+)	(++)	(++)	(++)	(++)	(+)	(++)



第123図 赤井南遺跡における花粉ダイアグラム

写真 2 赤井南遺跡の植物珪酸体 (プラント・オパール)

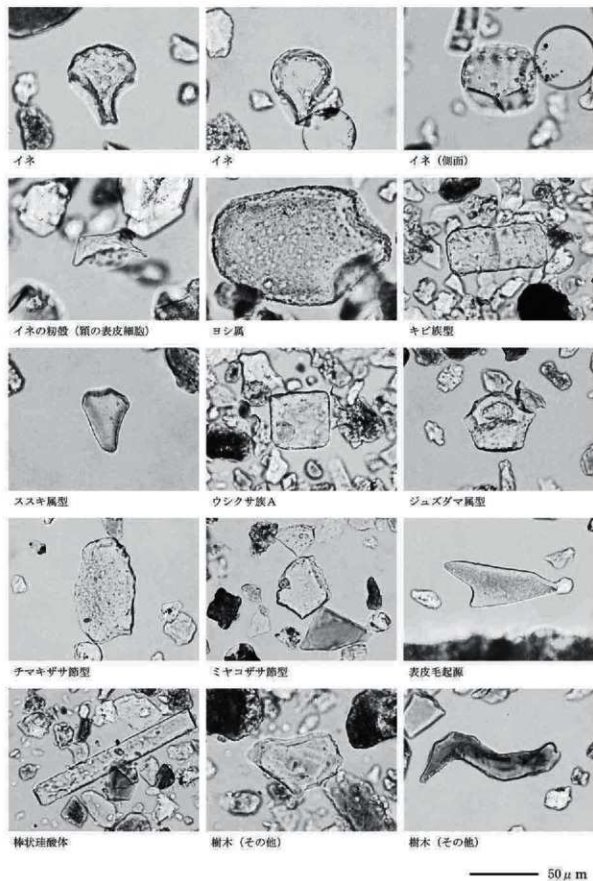
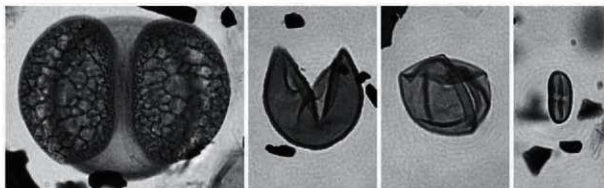


写真 3 赤井南遺跡の花粉 I

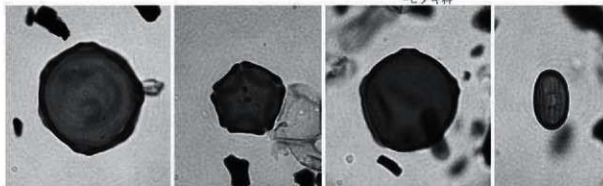


1 マツ属複維管束亜属

2 スギ

3 イチイ科-イヌガヤ科
-ヒノキ科

4 クリ

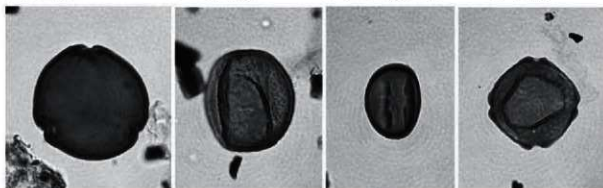


5 クルミ属

6 ハンノキ属

7 クマシデ属-アサダ

8 シイ属

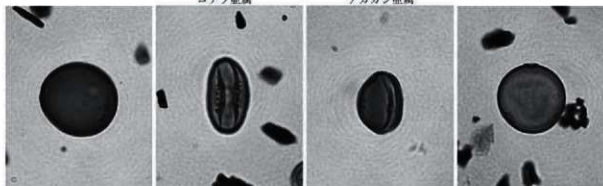


9 ブナ属

10 コナラ属
コナラ亜属

11 コナラ属
アカガシ亜属

12 ニレ属-ケヤキ



13 エノキ属-ムクノキ

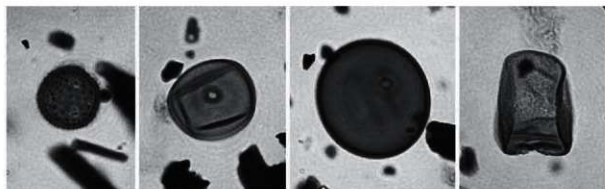
14 トチノキ

15 ブドウ属

16 クワ科-イラクサ科

— 10 μm

写真 4 赤井南遺跡の花粉 II

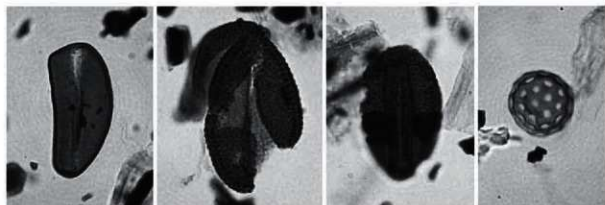


17 オモダカ属

18 イネ科

19 イネ属型

20 カヤツリグサ科

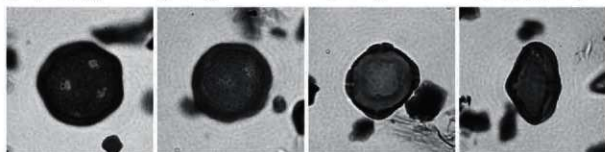


21 ミズアオイ属

22 ソバ属

23 ソバ属

24 アカザ科-ヒユ科

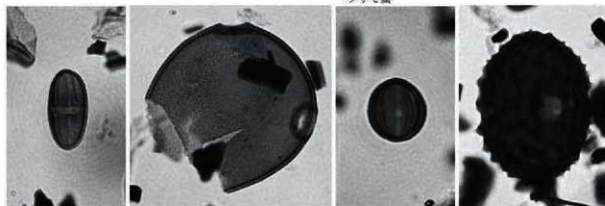


25 ナadeshiko科

26 キンボウグ科

27 アリノトウダサ属
-フサモ属

28 チドメグサ亜科



29 セリ亜科

30 キュウリ属

31 ヨモギ属

32 ベニハナ

— 10 μ m

3 放射性炭素年代測定

株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤茂・尾寄大真・丹生越子・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1 はじめに

赤井南遺跡は富山県射水市赤井地内に所在する。古代、中世、近世の遺構が同一面で検出されており、土器などが出土していない建物や井戸は年代の推定が困難である。井戸 SE152 と SE325 は年代を推定できる土器などが無いため、井戸廃絶時の祭祀に用いられた可能性の高いモモ種子の放射性炭素年代測定を行い、井戸廃絶年代の根拠とする。また、SD101 と SD102 との間の整地層は板塀などの地業の可能性があり、整地層に打ちこまれた柱や杭 16 本は、塀などの建造物の可能性を示唆している。これらの柱や杭のうち形態や位置が特徴的なものを選んで放射性炭素年代測定を行い、整地層との時期関係を明らかにする。放射性炭素年代測定は、加速器質量分析法 (AMS法) により行った。

2 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第 50 表のとおりである。SE152 の試料はモモ核 1 点である (PLD-18607)。SE325 の試料は曲物中位から出土したモモ核 1 点である (PLD-18608)。なお、遺構の時期は発掘調査所見から 8-9 世紀あるいは 13-14 世紀と推定されている。SD101 と SD102 との間の整地層に打ちこまれた柱や杭については、残存している中でできるだけ外側の年輪を採取した。各試料の詳細を述べると、杭 SP340 は最外年輪以外で部位不明の 1 年輪 (PLD-18609)、柱 SP345 はおそらく辺材と見られる 1 年輪 (PLD-18610)、杭 SP332 は最外年輪以外で部位不明の数年輪 (PLD-18611)、杭 SP344 は最外年輪以外で部位不明の 1 年輪 (PLD-18612)、杭 SP337 は最外年輪以外で部位不明の 1 年輪 (PLD-18613) である。なお、遺構の時期は発掘調査所見から 8-9 世紀と推定されている。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5 SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3 結果

第 51 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、第 124 図に暦年較正結果を示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いもの

第50表 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-18607	試料No.31 台帳番号: M10001 遺跡名: 赤井南遺跡 遺構コード: SE152 出土地点: - 種類: 種実(モモ)	試料の種類: 生の種実(モモ核1点) 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-18608	試料No.32 台帳番号: D100002 遺跡名: 赤井南遺跡 遺構コード: SE225 出土地点: 曲物中位 種類: 種実(モモ)	試料の種類: 生の種実(モモ核1点) 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-18609	試料No.33 台帳番号: M100009 遺跡名: 赤井南遺跡 遺構コード: SP340 出土地点: - 種類: 杭	試料の種類: 生材 試料の性状: 最外年輪以外で部位不明(1年輪) 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-18610	試料No.34 台帳番号: M100020 遺跡名: 赤井南遺跡 遺構コード: SP345 出土地点: - 種類: 柱	試料の種類: 生材 試料の性状: 辺材(1年輪) 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-18611	試料No.35 台帳番号: M100021 遺跡名: 赤井南遺跡 遺構コード: SP332 出土地点: - 種類: 杭	試料の種類: 生材 試料の性状: 最外年輪以外で部位不明(数年輪) 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-18612	試料No.36 台帳番号: M100023 遺跡名: 赤井南遺跡 遺構コード: SP344 出土地点: - 種類: 杭	試料の種類: 生材 試料の性状: 最外年輪以外で部位不明(1年輪) 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-18613	試料No.37 台帳番号: M100024 遺跡名: 赤井南遺跡 遺構コード: SP337 出土地点: - 種類: 柱	試料の種類: 生材 試料の性状: 最外年輪以外で部位不明(1年輪) 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)

第51表 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年대에校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-18607 (試料No.31)	-26.90 \pm 0.13	721 \pm 19	720 \pm 20	1271AD(68.2%)1286AD	1263AD(95.4%)1292AD
PLD-18608 (試料No.32)	-27.02 \pm 0.14	571 \pm 19	570 \pm 20	1324AD(40.1%)1345AD 1393AD(28.1%)1408AD	1313AD(57.1%)1358AD 1387AD(38.3%)1415AD
PLD-18609 (試料No.33)	-24.82 \pm 0.12	1706 \pm 20	1705 \pm 20	263AD(13.8%)278AD 329AD(5.4%)385AD	257AD(27.6%)302AD 316AD(67.8%)402AD
PLD-18610 (試料No.34)	-25.61 \pm 0.14	1279 \pm 19	1280 \pm 20	685AD(38.1%)718AD 743AD(30.1%)769AD	675AD(95.4%)773AD
PLD-18611 (試料No.35)	-25.85 \pm 0.13	1274 \pm 19	1275 \pm 20	687AD(37.6%)721AD 741AD(30.6%)770AD	676AD(95.4%)775AD
PLD-18612 (試料No.36)	-25.58 \pm 0.13	1481 \pm 19	1480 \pm 20	565AD(68.2%)606AD	547AD(95.4%)632AD
PLD-18613 (試料No.37)	-25.59 \pm 0.12	1300 \pm 19	1300 \pm 20	669AD(38.2%)694AD 701AD 5.9%)707AD 748AD(24.1%)765AD	663AD(63.4%)723AD 740AD(32.0%)771AD

を算出することである。

^{14}C 年代の暦年校正には OxCal4.1 (校正曲線データ: IntCal09) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。

4 考察

以下、 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) に着目して、結果を整理する。

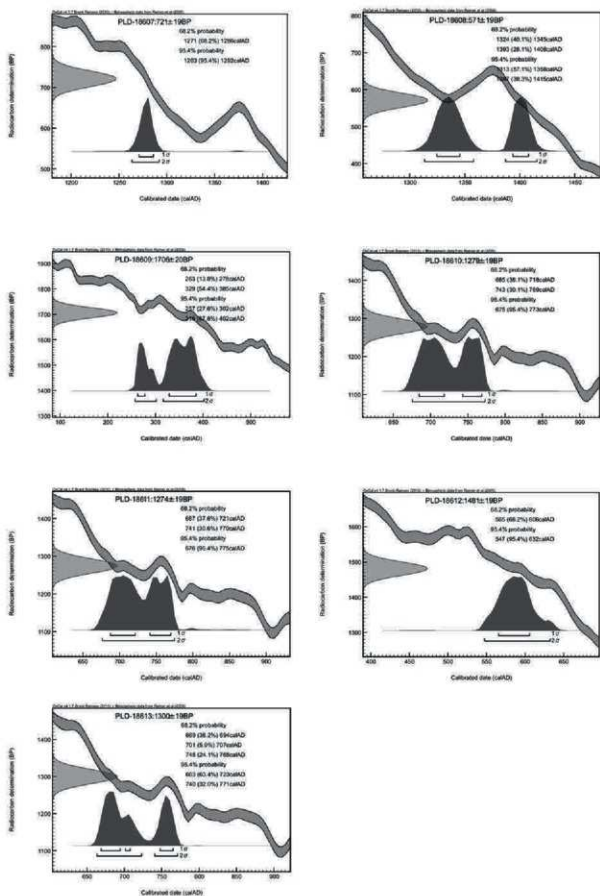
SE152 出土のモモ核 (PLD-18607) は 1263-1292 cal AD (95.4%) で、13 世紀後半の範囲を示した。SE325 出土のモモ核 (PLD-18608) は 1313-1358 cal AD (57.1%) および 1387-1415 cal AD (38.3%) で、14 世紀前半～15 世紀前半の範囲を示した。SE152 と SE325 の時期は、発掘調査所見に基づき 8～9 世紀あるいは 13～14 世紀と推定されていたが、得られた年代はこれに矛盾しない。

SD101 と SD102 との間の整地層に打ちこまれた柱や杭について述べると、SP340 (PLD-18609) は 257-302 cal AD (27.6%) および 316-402 cal AD (67.8%) で、3 世紀後半～5 世紀初頭の範囲を示した。ただし木材の場合、最外年輪部分を測定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると最外年輪から内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。杭は最外年輪を欠く部位不明の材であり、年代測定の結果が古木効果の影響を受けている可能性、すなわち木材が実際に枯死・伐採された年代よりも古い年代を示している可能性を考慮する必要がある。発掘調査所見によると遺構の時期は 8～9 世紀と推定されており、測定結果と大きな差がある。仮に内側の年輪だったとしても、樹輪数百年の木から取られた材であると想定しなければならず、説明が難しい。古材の転用も考えられる。また、SP340 が推定よりも古い時期に打ちこまれた杭だった可能性もある。SP345 (PLD-18610) は 675-773 cal AD (95.4%) で、7 世紀後半～8 世紀後半の範囲を示した。柱はおそらく辺材と見られ、古木効果の影響は小さいと考えられる。発掘調査所見に基づく推定時期は 8～9 世紀であり、測定結果と整合する。SP332 (PLD-18611) は 676-775 cal AD (95.4%) で、7 世紀後半～8 世紀後半の範囲を示した。8～9 世紀とする遺構の推定時期と整合する。ただし、杭は最外年輪を欠く部位不明の材であり、古木効果の影響を考慮する必要がある。SP344 (PLD-18612) は 547-632 cal AD (95.4%) で、6 世紀中頃～7 世紀前半の範囲を示した。これは、8～9 世紀とする遺構の推定時期より若干古い。杭は最外年輪を欠く部位不明の材であり、古木効果の影響を考慮する必要がある。SP337 (PLD-18613) は 663-723 cal AD (63.4%) および 740-771 cal AD (32.0%) で、7 世紀後半～8 世紀後半の範囲を示した。8～9 世紀とする遺構の推定時期と整合する。ただし、杭は最外年輪を欠く部位不明の材であり、古木効果の影響を考慮する必要がある。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337-360.
 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会。
 Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.

3 放射性炭素年代測定



第124図 暦年較正結果

4 安吉遺跡他出土石製遺物の石材鑑定

株式会社パレオ・ラボ 藤根 久・中村賢太郎

1 はじめに

安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡・赤井南遺跡・水上遺跡は、射水市中央部の射水平野南西部に位置し、下条川と庄川水系の和田川に挟まれた微高地に立地する。このうち安吉遺跡は中世（14～16世紀中心）、棚田遺跡は弥生時代終末～古墳時代および中世～近世、本江大坪Ⅰ遺跡は弥生時代後半～古墳時代および中世～近世、赤井南遺跡は古代および中世～近世、水上遺跡は中世（13～14世紀中心）などの遺構・遺物からなる。ここでは、安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡・赤井南遺跡・水上遺跡から出土した石製遺物の石材について検討した。

2 試料と方法

石製遺物は、安吉遺跡から5点、棚田遺跡から1点、本江大坪Ⅰ遺跡から2点、赤井南遺跡から2点、水上遺跡から10点である（第52表）。石製遺物の石材鑑定は、主に肉眼により行った。なお、USBマイクロスコープを用いて代表的な石材の表面組織を撮影した（写真5）。

3 結果

第52表に、肉眼による石製遺物の石材鑑定を行った結果を示す。以下に、鑑定した石器にみられた岩石のうち、典型的な岩石の特徴について記載した。岩石の記載は、表面観察による色調や構成鉱物、岩石組織あるいは断面の特徴等について行った。なお、岩石名？は、付した岩石名の可能性が高いが、風化が著しいなど岩石組織が明瞭でなく明確に鑑定できなかった岩石である。

- 1) 粘板岩（写真5-1）：黒灰色、泥質であり片理構造を示す岩石である。
- 2) 黒色頁岩（写真5-2）：黒色、光沢がある。随所に石英脈が見られる。
- 3) 凝灰岩類（写真5-3）：白色～灰色、泥質～シルト質～砂岩質の岩石である。
- 4) 流紋岩（写真5-4）：白色～黄白色～乳白色、斑晶質。流理構造が見られる岩石もある。
- 5) ガラス質安山岩（写真5-5）：黒色～灰色、無斑晶、ガラス質。風化の著しい岩石もあり、貝殻状断面を呈す。
- 6) 閃緑岩（写真5-6）：小型の石英、長石類、黒雲母、輝石類の等粒状組織からなるやや有色鉱物の多い岩石である。
- 7) 滑石（写真5-7）：黒色、表面は樹脂のような光沢を呈し、手触り感において滑らかで軟質である。

4 考察

第53表に、各遺跡についての石製遺物と岩石種を集計した表を示す。なお、石製遺物名および岩石名における？付きは、相当する遺物名および岩石名に含めて示した。以下では、各遺跡から出土した石製遺物について、使用石材の特徴について述べる。

[安吉遺跡] 中世（14～16世紀中心）の石製遺物は、線刻のある石が凝灰岩類、硯が粘板岩、砥石が凝灰岩類、流紋岩である。

[棚田遺跡] 出土した石製遺物は、ガラス質安山岩からなる石鏃である。なお、棚田遺跡の主要な遺構・遺物は弥生時代終末～古墳時代および中世～近世であるが、石鏃の時期はそれより古い可能性が

あると考えられている。

[本江大坪Ⅰ遺跡] 弥生時代後半～古墳時代の磨製石斧が閃緑岩、中世～近世の砥石が流紋岩である。

[赤井南遺跡] 中世～近世の砥石が流紋岩、近世の硯がシルト質の凝灰岩である。

[水上遺跡] 中世（13～14世紀）の石製遺物は、砥石は流紋岩が多く砂質質の凝灰岩を含む、温石が滑石、碁石が硬質の黒色頁岩である。中世より古い時期と考えられる磨製石斧が軽石質の凝灰岩である。

第52表 石製遺物の石材鑑定結果

No.	遺跡名	台帳番号	遺物番号	遺構コード	出土地点	種類	材質
551	安吉	I090202	309	A-SK59		砥石	流紋岩
552	安吉	I090203	312	A-SK67		硯	粘板岩
553	安吉	I090209	310	A-SK293	上層	砥石	流紋岩
554	安吉	I090210	313	A-SD240	X36Y66	縞帯のある石	凝灰質砂岩
555	安吉	I090212	311	B	X71Y192 Ⅰ層	砥石	凝灰岩
556	棚田	I090213	29	B	X42Y387 Ⅰb層 排水溝	石鏝	ガラス質安山岩
557	本江大坪Ⅰ	I090215	35	C	X36Y274 Ⅱ層	磨製石斧	閃緑岩
558	本江大坪Ⅰ	I090216	36	C	X30Y281 Ⅱ層	砥石	流紋岩
774	赤井南	I100001	152	SD4	X33Y33 No.13	硯	凝灰岩シルト
775	赤井南	I100003	146	SK305	No.1	砥石	流紋岩
776	水上	I100011	121	SK86		砥石	流紋岩
777	水上	I100012	116		X37Y66 Ⅰ層	磨製石斧	軽石質凝灰岩
778	水上	I100013	118	SK413	上層	温石	滑石
779	水上	I100014	123	SK413	上層	砥石	流紋岩
780	水上	I100016	117	SD1	X18Y27	碁石	黒色頁岩
781	水上	I100017	119	SD120	X23Y30	砥石	流紋岩
782	水上	I100018	120	SD252	X33Y48	砥石	流紋岩
783	水上	I100019	122	SK434		砥石	流紋岩
784	水上	I100023	124		X13Y13 Ⅰ層	砥石	凝灰質砂岩
785	水上	I100025	125		X19Y36 Ⅰ層	砥石	凝灰質砂岩

第53表 器種毎の岩石種の集計表（?付きは岩石・遺物相当種に含めた）

大分類	中分類	材質	安吉		棚田		本江大坪Ⅰ		赤井南		水上			総計	
			縞帯のある石	硯	砥石	石鏝	磨製石斧	砥石	硯	砥石	磨製石斧	砥石	温石		碁石
堆積岩類	砂質岩	粘板岩		1										1	
		黒色頁岩												1	1
	火山砂質岩	凝灰岩			1										1
		凝灰岩シルト							1						1
		凝灰質砂岩	1									2			3
火成岩類	火山岩	軽石質凝灰岩									1			1	
		流紋岩			2			1		1		5		9	
		ガラス質安山岩				1									1
	深成岩	閃緑岩					1							1	
鉱物類	滑石											1		1	
総計			1	1	3	1	1	1	1	1	1	7	1	1	20

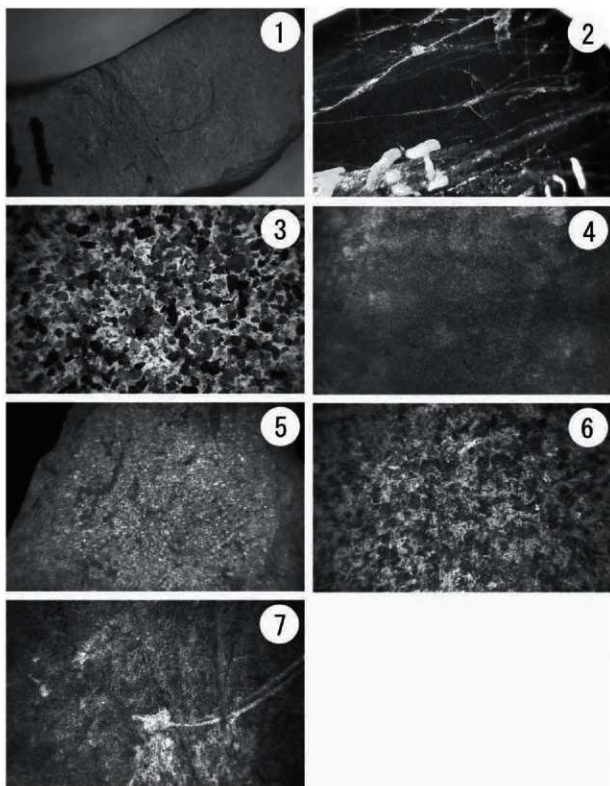


写真5 石製品石材のマイクロスコープ写真

1. 粘板岩 (安吉, 312) 2. 黒色頁岩 (水上, 117) 3. 凝灰質砂岩 (安吉, 313)
 4. 流紋岩 (水上, 122) 5. ガラス質安山岩 (棚田, 29)
 6. 閃緑岩 (本江大坪 I, 35) 7. 滑石 (水上, 118)

5 安吉遺跡他 出土木製品の樹種同定

株式会社バレオ・ラボ 黒沼保子

1 はじめに

安吉遺跡・棚田遺跡・赤井南遺跡・水上遺跡はいずれも射水市に所在する遺跡で、安吉遺跡では中世、棚田遺跡では古墳時代・中世～近世、赤井南遺跡では古代～近世、水上遺跡では鎌倉時代～室町時代の遺構や遺物が検出されている。この4遺跡から出土した木製品の樹種同定を行なった。

2 試料と方法

試料は漆器を中心として、曲物や下駄、加工木などの木製品である。安吉遺跡のA区・B区から36点(No.1～36)、棚田遺跡のB区から2点(No.37, 38)、赤井南遺跡から10点(No.459～468)、水上遺跡の井戸内から出土した12点(No.469～480)の合計60点である。樹種同定の方法は、剃刀を用いて試料の3断面(横断面・接線断面・放射断面)から切片を採取し、ガムクロラルで封入してプレパラートを作製した。これを顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

3 結果

樹種同定の結果、針葉樹はスギ、ヒノキ、アスナロの3分類群、広葉樹はヤナギ属、ブナ属、ケヤキの3分類群、合計6分類群が確認された。結果の一覧を第55表に示す。以下に同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を写真に示す。

(1) スギ *Cryptomeria japonica*(L.f.) D.Don スギ科 写真6 1a-1c (No.33)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急か穏やかで、晩材部の幅は広い。樹脂細胞は主に晩材部に接線状に配列する。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。スギは暖帯・温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で切削加工は容易、保存性は中庸で、割裂性は大きい。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa*(Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 写真6 2a-2c (No.5)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で1分野に2個存在する。ヒノキは温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性、耐湿性は著しく高く狂いが少ない。

(3) アスナロ *Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc. ヒノキ科 写真6 3a-3c (No.35)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、樹脂細胞が豊富である。分野壁孔は小型のスギ型～ヒノキ型で、1分野に不揃いに3～4個存在する。アスナロは温帯に分布する常緑高木である。材は耐朽性・保存性が高い。

(4) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 写真7 4a-4c (No.460)

やや小型の道管が単独もしくは数個複合してやや密に散在する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列の異性である。道管放射組織間の細胞では円形の壁孔が明瞭である。ヤナギ属は暖帯、温帯、寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケシウヤナギ、コゴメヤナギ、シダレヤナギなど日本では90種程ある。材は全般に軽軟で強度は低いが、韌性があり切削加工は容易である。

(5) ブナ属 *Fagus* ブナ科 写真7 5a-5c (No.17)

単独の道管が密に散在し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類がある。ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は堅硬・緻密・靱性があるが保存性は低い。

(6) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 写真7 6a-6c(No.37)

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状～斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は異性で上下端の細胞に大きな結晶をもつ。ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や河畔によく生育する。材は重硬で狂いが少ない。

4 まとめ

各遺跡の樹種別の集計を第54表に示す。安吉遺跡では、スギ、ヒノキ、アスナロ、ブナ属の4分類群が確認された。曲物は底板・側板ともにヒノキで、木取りも柾目であった。漆器はすべてブナ属で、木取りは横木取りであった。杓子?はスギで木取りは柾目、木簡はスギとアスナロで木取りは板目と柾目、円形板はスギとヒノキで木取りはすべて柾目であった。下駄はスギとヒノキで、木取りは板目と追柾目であるが、いずれも芯持であった。加工材はスギとアスナロで木取りは削出、柾目、半割であった。棚田遺跡では、漆器はケヤキで横木取り、加工材はヒノキで柾目取りであった。赤井南遺跡

第54表 遺跡別の樹種集計

樹種/用途	安吉遺跡					棚田遺跡				赤井南遺跡				水上遺跡				計
	曲物	漆器	杓子?	木簡	下駄	円形板	加工材	漆器	加工材	水瓶栓	盤	柱	杭	曲物	漆器類	井戸板	底板	
スギ			1	1	1	2	3					3	4	3		5	1	24
ヒノキ	2				1	4		1										9
アスナロ				1			2											3
ヤナギ属										1								1
ブナ属		19									1			1				21
ケヤキ								1		1				1				3
計	2	19	1	2	2	6	5	1	1	1	1	4	4	3	2	5	2	61

では、水瓶がヤナギ属で木取りは樹皮付の芯持丸木、盤はケヤキで木取りは柾目であった。柱材はスギとブナ属で木取りは半割、柾目、割材であった。杭材はすべてスギで木取りは割材とミカン割りであった。水上遺跡では、曲物はすべてスギで木取りは板目、漆器はブナ属とケヤキで木取りは横木取り、井戸板はすべてスギで木取りは柾目、板目、追柾目であった。底板はヒノキとスギで木取りは板目であった。全体的には、漆器類でブナ属とケヤキ、水瓶栓でヤナギが検出されている他は、スギを中心とした針葉樹が多い結果となった。漆器類の木地には、全国的にブナ属のほかサクラ属やトチノキなど加工容易な散孔材や、ケヤキやクリといった重厚な広葉樹を用いることが多く、富山県内の梅原胡麻堂遺跡、田尻遺跡、五社遺跡など多数の遺跡においてもブナ属、ケヤキ、トチノキの漆器類が多数検出されている(バリノ・サーヴェイ, 2009)。安吉遺跡ではスギ以外にもヒノキやアスナロといったヒノキ科が比較的多くみられた。針葉樹は木理直通で割裂性が大きいため加工が容易であり、また全般に水湿にも強い水場での利用に適する。今回の対象遺跡のある地域を含む日本海側地域では木製品にスギを多用する傾向があり、今回の結果と一致するとと言える。

引用文献

- バリノ・サーヴェイ (2009) 中尾新保谷内遺跡の自然科学分析. 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所編「中尾茅野遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江遺跡」: 1276. 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所.
山田 昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 - 用材から見た人間・植物関係史 - . 植生史研究特別第1号: 242p. 日本植生史学会.

第 55 表 樹種同定結果一覧

No.	台帳番号	遺跡名	遺物番号	遺構コード	出土地点	種類	樹種	木取り
1	M090551	安吉	294	A-SD2	X40Y101	木簡	アスナロ	板目
2	M090552	安吉	292	A-SK179	X41Y101	円形板	ヒノキ	板目
3	M090554	安吉	284	A-SK378	-	漆器	ブナ属	横木取り
4	M090555	安吉	296	A-SD304	X29Y58	下駄	ヒノキ	追板目(志持)
5	M090556	安吉	301	A-SD304	X29Y58	円形板	ヒノキ	板目
6-1	M090557	安吉	306	A-SK42	-	曲物(底板)	ヒノキ	板目
6-2	M090557	安吉	306	A-SK42	-	曲物(側板)	ヒノキ	板目
7	M090560	安吉	281	A-SD204	X35Y74	漆器	ブナ属	横木取り
8	M090561	安吉	283	A-SD274	-	漆器	ブナ属	横木取り
9	M090562	安吉	277	A-SD204	X30Y73	漆器	ブナ属	横木取り
10	M090563	安吉	280	A-SD204	X35Y75	漆器	ブナ属	横木取り
11	M090564	安吉	282	A-SD204	X30Y72	漆器	ブナ属	横木取り
12	M090565	安吉	278	A-SD204	X35Y75 下層	漆器	ブナ属	横木取り
13	M090566	安吉	285	A-SD297	-	漆器	ブナ属	横木取り
14	M090567	安吉	286	A-SD297	-	漆器	ブナ属	横木取り
15	M090568	安吉	287	A-SK210	-	漆器	ブナ属	横木取り
16	M090569	安吉	276	A-SX206	X38Y76	漆器	ブナ属	横木取り
17	M090570	安吉	273	A-SD6	-	漆器	ブナ属	横木取り
18	M090571	安吉	291	A-SK179	X41Y101	漆器	ブナ属	横木取り
19	M090572	安吉	290	A-SK179	X41Y101	漆器	ブナ属	横木取り
20	M090573	安吉	289	A-SK179	X41Y101	漆器	ブナ属	横木取り
21	M090574	安吉	288	A-SK179	X41Y101	漆器	ブナ属	横木取り
22	M090575	安吉	297	A-SD204	X28Y73	杓子?	スギ	板目
23	M090576	安吉	275	A-SX206	X36Y77	漆器	ブナ属	横木取り
24	M090578	安吉	279	A-SD204	X35Y76	漆器	ブナ属	横木取り
25	M090579	安吉	274	A-SD56	X41Y98	漆器	ブナ属	横木取り
26	M090580	安吉	293	A-SD240	Y67ライン付近sec⑨層	木簡	スギ	板目
27	M090582	安吉	295	A-SK277	sec⑨層	下駄	スギ	板目(志持)
28	M090583	安吉	307	A-SD301	X29Y40	加工材	アスナロ	半割
29	M090590	安吉	308	A-SX206	X36Y77	加工材	スギ	削出
30	M090593	安吉	300	A-SK68	-	加工材	スギ	板目
31	M090595	安吉	304	A-SK102	下層	円形板	スギ	板目
32	M090596	安吉	305	A-SD203	X33Y75	円形板	ヒノキ	板目
33	M090598	安吉	299	A-SD240	X35Y67 ②層	加工材	スギ	板目
34	M090599	安吉	303	A-SD240	X35Y67 下層	円形板	ヒノキ	板目
35	M090600	安吉	298	A-SD240	X35Y67 下層	加工材	アスナロ	板目
36	M090601	安吉	302	B-SK68	上層(①層)	円形板	スギ	板目
37	M090604	欄田	61	B-SD7	X50Y416	漆器	ケヤキ	横木取り
38	M090605	欄田	62	B-SD70	X42Y376	加工材	ヒノキ	板目
459	M100001	赤井南	56	SD103	X18Y30No.1	盤	ケヤキ	板目
460	M100002	赤井南	44	SD102	X25Y20No.1	水瓶椀	ヤナギ属	芯持丸木・欄皮付き
461	M100013	赤井南		SP346	-	柱	スギ	芯持半割(or丸木)
462	M100015	赤井南		SP334	-	柱	ブナ属	割材
463	M100018	赤井南		SP335	-	杭	スギ	割材
464	M100019	赤井南		SP331	-	杭	スギ	割材
465	M100020	赤井南		SP345	-	柱	スギ	半割
466	M100021	赤井南		SP332	-	杭	スギ	割材
467	M100023	赤井南		SP334	-	杭	スギ	ミカン割り
468	M100024	赤井南		SP337	-	柱	スギ	板目
469	M100031	水上	109	SD1	X20Y27	漆器椀	ブナ属	横木取り
470	M100033	水上	112	SK118	-	曲物	スギ	板目
471	M100034	水上	113	SK118	-	曲物	スギ	板目
472	M100035	水上	115	SK128	-	曲物	スギ	板目
473	M100039	水上	110	SK434	-	底板?	ヒノキ	板目
474	M100040	水上		SK118	No.1	井戸側(板)	スギ	追板目
475	M100041	水上		SK118	No.2	井戸側(板)	スギ	追板目
476	M100042	水上		SK118	No.3	井戸側(板)	スギ	板目
477	M100043	水上		SK118	No.4	井戸側(板)	スギ	板目
478	M100044	水上		SK118	No.5	井戸側(板)	スギ	板目
479	M100045	水上	111	SK118	-	底板	スギ	板目
480	M100047	水上	114	SK128	-	漆器椀	ケヤキ	横木取り

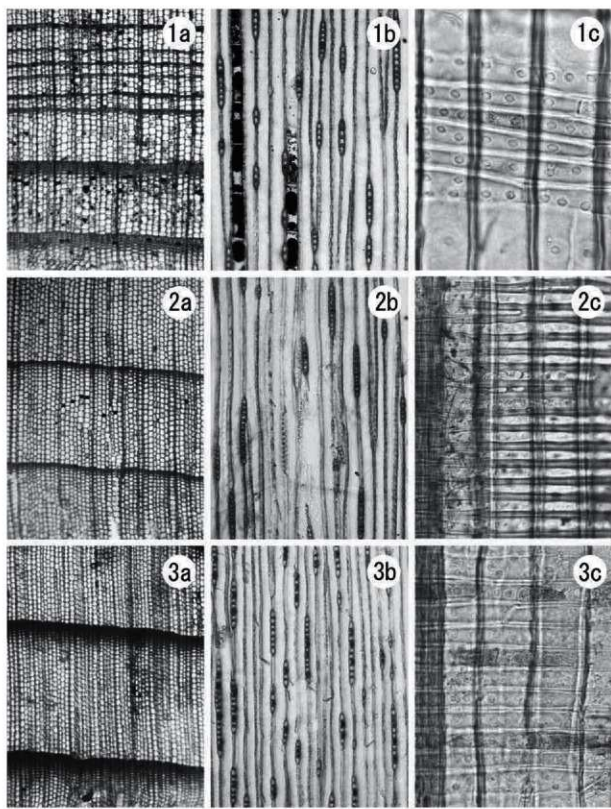


写真 6 出土木製品の光学顕微鏡写真

1a-1c.スギ (No.33) 2a-2c.ヒノキ (No.5) 3a-3c.アスナロ (No.35)

a:横断面 (スケール=500 μm) b:接線断面 (スケール=200 μm) c:放射断面 (スケール=50 μm)

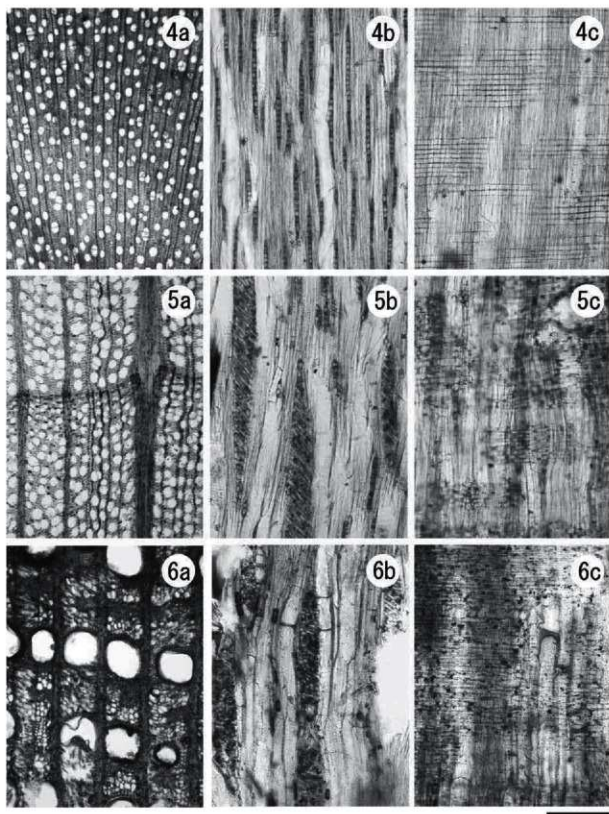


写真7 出土木製品の光学顕微鏡写真

4a-4c. ヤナギ属 (No.460) 5a-5c. プナ属 (No.17) 6a-6c. ケヤキ (No.37)

a:横断面 (スケール=500 μ m) b:接線断面 (スケール=200 μ m) c:放射断面 (スケール=200 μ m)

6 安吉遺跡および棚田遺跡出土漆器の塗膜分析

株式会社パレオ・ラボ 藤根久・米田恭子

1 はじめに

安吉遺跡および棚田遺跡は、射水市中央部の射水平野西部に位置し、下条川と庄川水系の和田川に挟まれた微高地に立地する。このうち安吉遺跡は中世（14～16世紀中心）、棚田遺跡は弥生時代終末～古墳時代および中世～近世などの遺構・遺物からなる。ここでは、安吉遺跡および棚田遺跡から出土した漆器について、それぞれ塗膜薄片を作製し、顕微鏡観察、X線分析および赤外分光分析を行い、塗膜の構造および材料を検討した。

2 試料と方法

分析試料は、安吉遺跡の漆器12点、棚田遺跡の漆器1点である(第56表)。各塗膜試料は、第56表に示す塗膜層を木胎とともに極少量採取した。塗膜試料は、高透明エポキシ樹脂を使用して試料を包埋した後、薄片作製機を用いて断面の薄片を作製した。

第56表 塗膜分析を行った漆器類とその詳細

No.	遺跡	種類	遺物No.	枝No.	部位	塗り	特徴	下地	木胎	FT-IR	樹種	
1	安吉	漆器	284	1	内面	文様	赤	○	×		2の内風	ブナ属
				3	外面		風	○	○			
		漆器	283	1	内面	文様	赤	○	○		内の風	ブナ属
				2	外面		風	○	○			
		漆器	278	1	内面	文様	赤	○	○		風	ブナ属
				2	外面		風	○	○			
		漆器	285	1	内面	文様	赤	○	○		風	ブナ属
				2	外面		風	○	○			
		漆器	286	1	内面		赤	○	○		赤	ブナ属
				2	外面		風	○	○			
		漆器	287	2	外面底部		風	○	○		1の風	ブナ属
							赤	○	○			
漆器	273	3	内面		赤	○	○		ブナ属			
			外面		赤	○	○					
漆器	291		内面		赤	○	○	赤	ブナ属			
漆器	290		内面		赤	○	×	赤	ブナ属			
漆器	289		内面		赤	○	○	赤	ブナ属			
漆器	288		外面		黒(やや褐色)	○	○	黒	ブナ属			
漆器	274	1	内面		褐色～赤	○	×		ブナ属			
		2	外面	文様	赤	○	○	黒				
漆器	61	1	内面		赤		土下地	×		ケヤキ		
		2	外面	絵	金		土下地	○				
		3	外面		黒		土下地	○	黒			

各塗膜薄片は、予め塗膜構造を調べるために光学顕微鏡で観察し、無機成分を調べるためにエネルギー分散型X線分析装置が付属した走査型電子顕微鏡で調べた。観察および測定は、走査型電子顕微鏡(日本電子株式会社製 JSM-5900LV、以後SEM)による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型X線分析装置(同 JED-2200)による定性・簡易定量分析を行った。また、漆成分を調べるために、赤外分光分析を行った。試料は、各塗膜の表面部分において手術用メスなどを用いて2mm角程度を薄く削り取った。採取した試料は、押しつぶして厚さ1mm程度に截断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟んで、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光㈱製 FT/IR-410、IRT-30-16)を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

3 結果および考察

塗膜薄片の光学顕微鏡観察および分析の結果は、以下の通りである。なお、各試料の塗膜のX線分析は、その測定結果を第57表に示した。また、各試料の表面部分の赤外吸収スペクトル図は

第125図に示した。縦軸が透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber (cm⁻¹);カイザー)である。各スペクトル図はノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す(第58表)。

第57表 各塗膜試料の塗膜層の分析結果(単位%)

試料No.	点分析	無機顔料	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₃	Cl	K ₂ O	CaO	FeO	Ati ₂ O ₃	HgO	Total
1	1	c2層(灰砂(Hg))	-	-	-	6.91	-	-	0.32	-	4.30	-	88.46	99.99
2	1	c2層(灰砂(Hg))	-	1.21	0.31	7.62	-	0.77	1.46	5.75	-	-	82.87	99.99
3	1	c2層(灰砂(Hg))	1.48	-	-	11.17	1.33	-	0.11	1.05	-	-	84.88	98.54
4	1	c2層(灰砂(Hg))	4.35	-	1.44	4.48	-	1.98	2.12	-	1.93	-	83.71	95.66
5	1	c2層(灰砂(Hg))	-	-	0.30	9.68	0.55	-	2.83	-	5.95	-	80.69	100.00
	2	c2層(灰砂(Hg))	1.73	1.10	-	6.25	-	-	-	-	0.23	-	90.69	98.27
7	2	c2層(灰砂(Hg))	2.13	-	-	3.92	-	1.13	0.01	1.77	-	-	91.02	97.85
8		c2層(灰砂(Hg))	0.49	1.36	-	8.33	0.28	-	-	5.57	1.63	-	82.34	99.51
9		c2層(灰砂(Hg))	2.75	0.76	-	5.07	1.40	-	-	1.11	3.15	-	85.76	97.25
10		c2層(灰砂(Hg))	-	-	-	6.25	-	1.58	-	-	0.61	-	91.56	100.00
12	2	c2層(灰砂(Hg))	1.58	-	3.82	8.94	-	1.08	-	-	-	-	84.58	98.42
13	1	c1層(灰砂(Hg))	0.96	0.82	1.01	5.46	-	1.60	0.57	0.32	3.54	-	85.71	99.03
	2	c3層金(灰砂混じり)	-	-	3.43	-	0.36	2.60	-	5.43	6.49	64.24	17.45	100.00

[安吉遺跡No.1漆器(内面,外面)]

この漆器は、外面に黒色漆が塗布され、内面には黒色漆に赤色の漆絵が施されている。内面漆絵の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層c1層およびc2層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層c1層は透明の褐色層からなり、塗膜層c2層は不透明の黒色層からなる(写真8-1a)。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀(HgO)が最大88.46%含まれていた(写真8-1b,第57表)。

外面黒色漆の塗膜構造は、木胎のほか下地層b層、塗膜層c1層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層c1層は透明の褐色層からなる。なお、このc1層の表面は、やや褐色の酸化層が見られる(写真8-2a)。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール(No6~No8)とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される(第125図-1)。

[安吉遺跡No.2漆器(内面,外面)]

この漆器は、外面に黒色漆が塗布され、内面には黒色漆に赤色の漆絵が施されている。内面漆絵の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層c1層およびc2層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層c1層は透明の褐色層からなり、塗膜層c2層は不透明の黒色層からなる(写真8-3a)。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀(HgO)が最大82.87%含まれていた(写真8-3b,第57表)。

外面黒色漆の塗膜構造は、木胎のほか下地層b層、塗膜層c1層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層c1層は透明の褐色層からなる。なお、このc1層の表面は、やや褐色の酸化層が見られる(写真8-4a)。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール(No6~No8)とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される(第125図-2)。

[安吉遺跡No.3漆器(内面,外面)]

この漆器は、内面および外面に黒色漆に赤色の漆絵が塗布されている。内面漆絵の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層c1層およびc2層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層c1層は透明の褐色層からなり、塗膜層c2層は不透明の黒色層からなる(写真9-1a)。水銀朱の粒

第58表 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	特外-6
7	1270.86	46.3336	特外-7
8	1218.79	47.5362	特外-8
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 84.88% 含まれていた（写真 9-1b, 第 57 表）。

外面黒色漆の塗膜構造は、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなる。なお、この c1 層の表面は、やや褐色の酸化層が見られる（写真 9-2a）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-3）。

〔安吉遺跡 No.4 漆器（内面、外面）〕

この漆器は、内面および外面に黒色漆に赤色の漆絵が塗布されている。内面漆絵の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層および c2 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなり、塗膜層 c2 層は不透明の黒色層からなる（写真 9-3a）。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 83.71% 含まれていた（写真 9-3b, 第 57 表）。

外面黒色漆の塗膜構造は、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなる。なお、この c1 層の表面は、やや褐色の酸化層が見られる（写真 9-4a）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-4）。

〔安吉遺跡 No.5 漆器（内面、外面）〕

この漆器は、内面および外面に赤色漆が塗布されている。内面赤色漆の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層および c2 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は薄い透明の褐色層からなり、塗膜層 c2 層は不透明の黒色層からなる（写真 10-1a）。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 80.69% 含まれていた（写真 10-1b, 第 57 表）。

外面赤色漆の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層および c2 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は薄い透明の褐色層からなり、塗膜層 c2 層は不透明の黒色層からなる（写真 10-2a）。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 90.69% 含まれていた（写真 10-2b, 第 57 表）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-5）。

〔安吉遺跡 No.6 漆器（外面底部）〕

この漆器は、外面底部に赤色漆が塗布されている。外面底部の塗膜観察では、木胎のほか塗膜層 c1 層？からなる。塗膜層 c1 層？はやや透明の褐色層からなる（写真 11-1a）。表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール（No6～No8）とは一致しなかった（第125図-6）。

〔安吉遺跡 No.7 漆器（内面、外面）〕

この漆器は、内面および外面に赤色漆が塗布されている。内面漆絵の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層および c2 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなり、塗膜層 c2 層は不透明の黒色層からなる（写真 10-3a）。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 91.02% 含まれていた（写真 10-1b, 第 57 表）。

内面黒色漆の塗膜構造は、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなる。なお、この c1 層の表面は、やや褐色の酸化層が見られる（写真 10-4a）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール吸収ピーク（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-7）。

[安吉遺跡 No.8 漆器（内面）]

この漆器は、内面および外面に赤色漆が塗布されている。内面赤色漆の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層および c2 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は薄い透明の褐色層からなり、塗膜層 c2 層は薄い不透明の黒色層からなる（写真 11-2a）。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 82.34% 含まれていた（写真 11-2b, 第 57 表）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール吸収ピーク（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-8）。

[安吉遺跡 No.9 漆器（内面）]

この漆器は、内面および外面に赤色漆が塗布されている。内面赤色漆の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層および c2 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなり、塗膜層 c2 層は不透明の黒色層からなる（写真 11-3a）。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 85.76% 含まれていた（写真 11-3b, 第 57 表）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール吸収ピーク（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-9）。

[安吉遺跡 No.10 漆器（内面）]

この漆器は、内面および外面に赤色漆が塗布されている。内面赤色漆の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層および c2 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなり、塗膜層 c2 層は不透明の黒色層からなる（写真 11-4a）。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 91.56% 含まれていた（写真 11-4b, 第 57 表）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール吸収ピーク（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-10）。

[安吉遺跡 No.11 漆器（外面）]

この漆器は、内面および外面に黒色漆が塗布されている。外面黒色漆の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。なお、この c1 層の表面は、やや褐色の酸化層が見られる（写真 12-1a）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール吸収ピーク（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-11）。

[安吉遺跡 No.12 漆器（内面、外面）]

この漆器は、内面および外面に黒色漆に赤色の漆絵が塗布されている。内面黒色漆の塗膜構造は、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなる。なお、この c1 層の表面は、やや褐色の酸化層が見られる（写真 12-2a）。

外面漆絵の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層 c1 層および c2 層からなる。下地層b層は微細な炭粉からなる。塗膜層 c1 層は透明の褐色層からなり、塗膜層 c2 層は不透明の黒色層からなる（写真 12-3a）。水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀（HgO）が最大 84.58% 含まれていた（写真 12-3b, 第 57 表）。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオール吸収ピーク（No6～No8）とほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される（第125図-12）。

[棚田遺跡 No.13 漆器 (内面, 外面)]

この漆器は、内面に赤色漆が塗布され、外面には黒色漆に金漆絵が施されている。内面赤色漆の塗膜観察では、木胎のほか下地層b層、塗膜層c1層およびc2層からなる。下地層b層は砂混じり粘土からなる。塗膜層c1層は不透明の黒色層からなる(写真13-1a)。塗膜層c1層は、水銀朱の粒子が含まれ、X線分析では水銀(HgO)が最大85.71%含まれていた(写真13-1b, 第57表)。

外面金漆絵の塗膜構造は、木胎のほか下地層b1~b3層、塗膜層c1~c3層からなる。下地層b1層およびb3層は砂混じり粘土からなり、b2層は黒色層(炭層?)である。塗膜層c1層はやや濁った褐色層からなり、c2層は透明褐色層である。塗膜層c3層は、塗膜層c2層の上に一部載る(写真13-2a)。塗膜層c3層は、X線分析では金(Au)が最大64.24%含まれ、水銀(HgO)も17.45%含まれていた(写真13-2b, 第57表)。また、外面黒色漆の塗膜構造は、木胎のほか下地層b1層およびb2層、塗膜層c1層からなる。下地層b1層は砂混じり粘土からなり、b2層は黒色層(炭層?)である(写真13-3a)。

表面塗膜層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオールの吸収ピーク(No6~No8)とはほぼ一致したことから、漆塗膜層と判断される(第125図-13)。

第59表 塗膜分析の結果(塗膜数,無機成分,下地成分,塗膜材料)

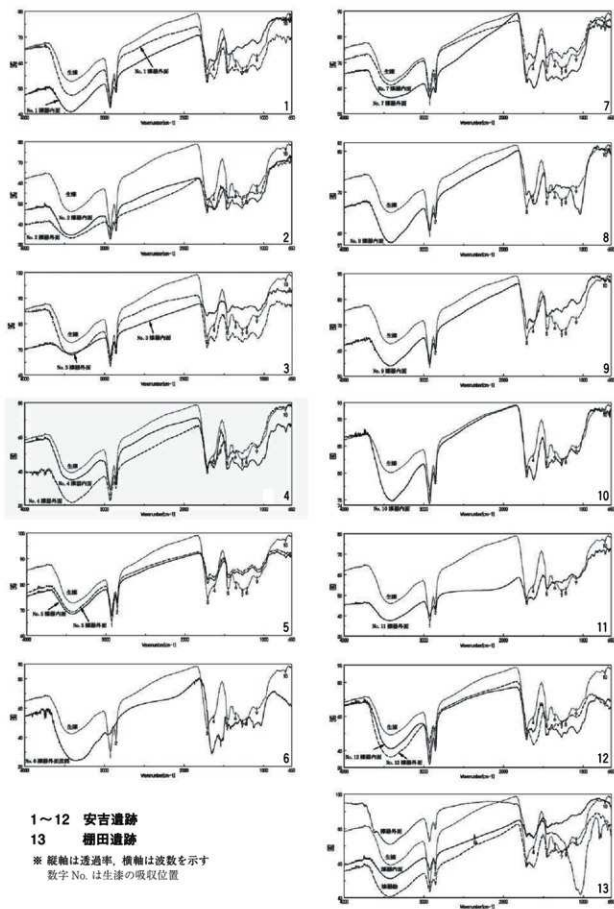
No.	遺跡	種類	遺物No.	枝No.	部位	塗り	特徴	塗膜成分	塗膜層数	測定点の主な成分	下地層
1		漆器	284	1	内面	絵	赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
				3	外面	絵	黒	漆	c1層		炭層
2		漆器	283	1	内面	絵	赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
				2	外面	絵	黒	漆	c1層		炭層
3		漆器	278	1	内面	絵	赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
				2	外面	絵	黒	漆	c1層		炭層
4		漆器	285	1	内面	絵	赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
				2	外面	絵	黒	漆	c1層		炭層
5	安吉	漆器	286	1	内面		赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
				2	外面		赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
6		漆器	287		外面底部		黒	漆以外の成分	c1層?		炭層
7		漆器	273	2	内面		黒	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
				3	外面		赤	漆	c1層		炭層
8		漆器	291		内面		赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
9		漆器	290		内面		赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
10		漆器	289		内面		赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
11		漆器	288		外面		黒(やや褐色)	漆	c1層		炭層
12		漆器	274	1	内面		褐色~赤	漆	c1層		炭層
				2	外面	絵	赤	漆	c1層,c2層	c2層:水銀朱(Hg)	炭層
13	棚田	漆器	61	1	内面		赤	漆	c1層,c2層	c1層:水銀朱(Hg),c2層:砂混じり粘土	砂混じり粘土層
				2	外面	絵	金	漆	c1層,c2層,c3層	c3層:金(水銀朱混じり)	砂混じり粘土層,炭層
				3	外面		黒	漆(劣化)	c1層		砂混じり粘土層,炭層

4 おわりに

安吉遺跡および棚田遺跡から出土した漆器について、それぞれ塗膜薄片を作製し、顕微鏡観察、X線分析および赤外分光分析を行い、塗膜の構造および材料を検討した。

その結果、多くの漆器では、黒色漆に水銀朱を混ぜた赤色(朱)漆絵を施した木胎漆器であった。また、漆器No.13は、砂混じり粘土の下地層に黒色漆を施し、金粉による蒔絵漆器であった。

なお、漆器No.6の外側底部の黒色部は漆以外の成分であった。



第125図 塗膜表面赤外分光スペクトル図

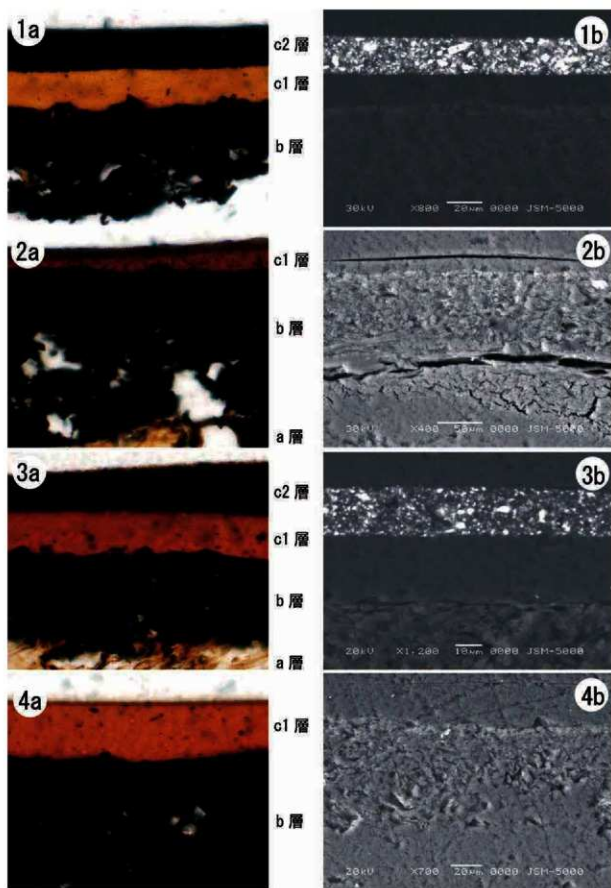


写真 8 安吉遺跡出土漆器の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b)

1. 漆器No.1の内面 2. 漆器No.1の外表面 3. 漆器No.2の内面 4. 漆器No.2の外表面

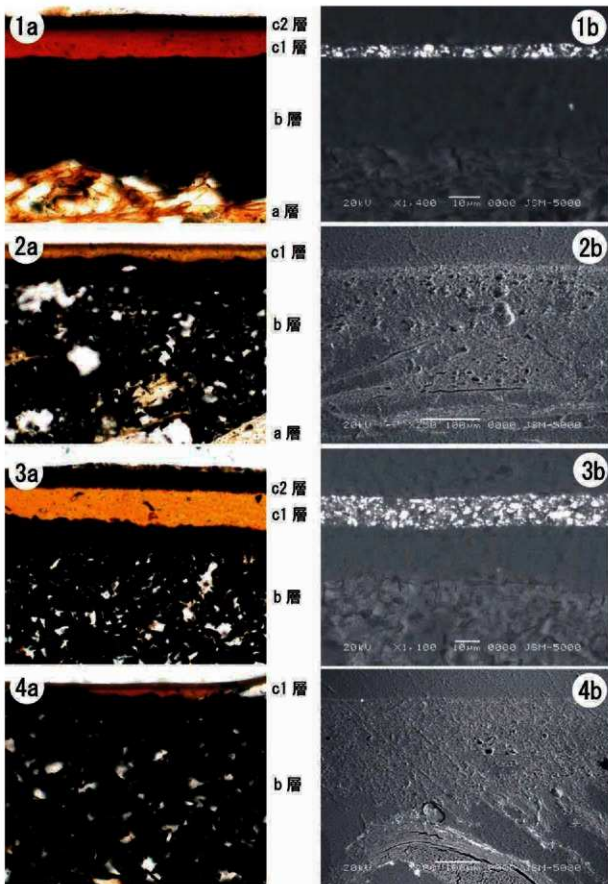


写真 9 安吉遺跡出土漆器の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b)

1. 漆器No.3の内面 2. 漆器No.3の外表面 3. 漆器No.4の内面 4. 漆器No.4の外表面

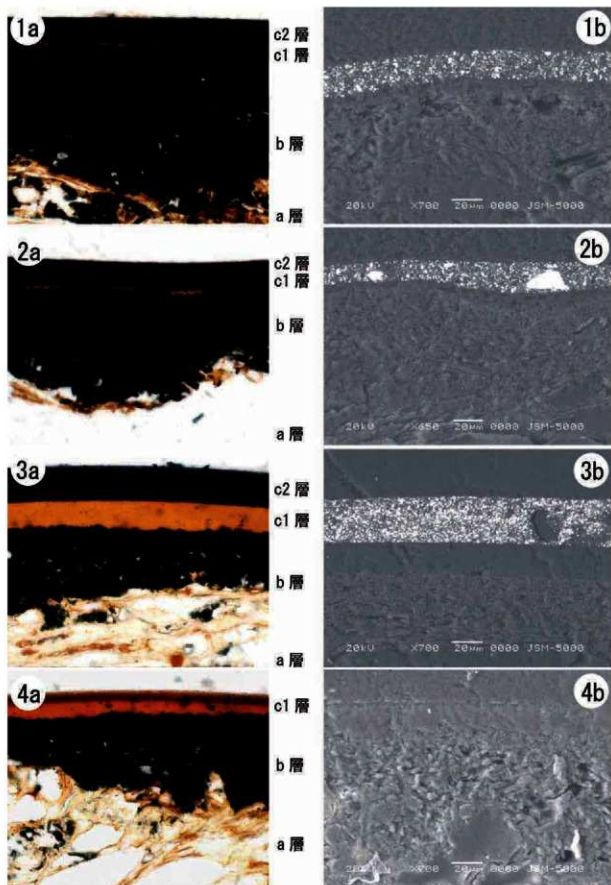


写真10 安吉遺跡出土漆器の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b)

1. 漆器No.5の内面 2. 漆器No.5の外表面 3. 漆器No.7の内面 4. 漆器No.7の外表面

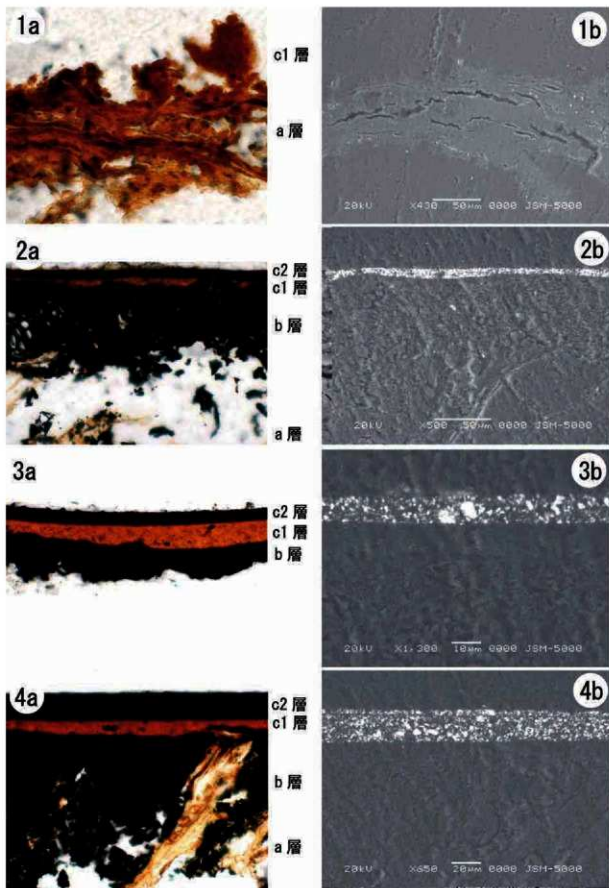


写真11 安吉遺跡出土漆器の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b)

1. 漆器No.6の外底面 2. 漆器No.8の内面 3. 漆器No.9の内面 4. 漆器No.10の内面

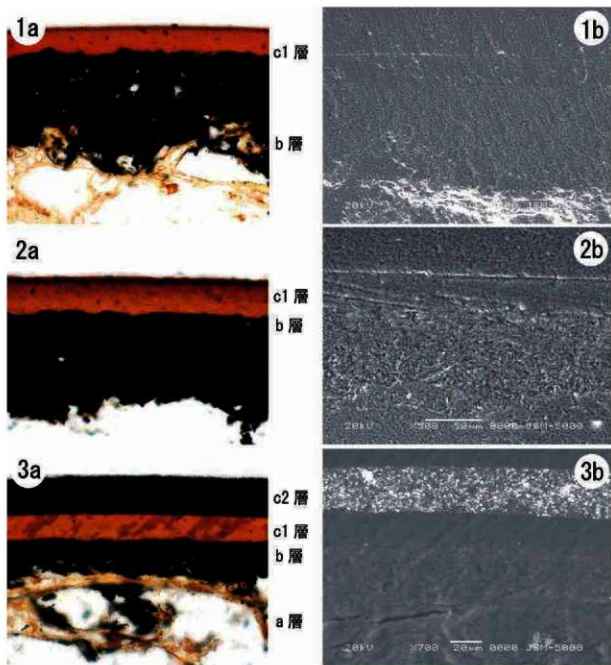


写真12 安吉遺跡出土漆器の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b)

1. 漆器No.11の外面 2. 漆器No.12の内面 3. 漆器No.12の外面

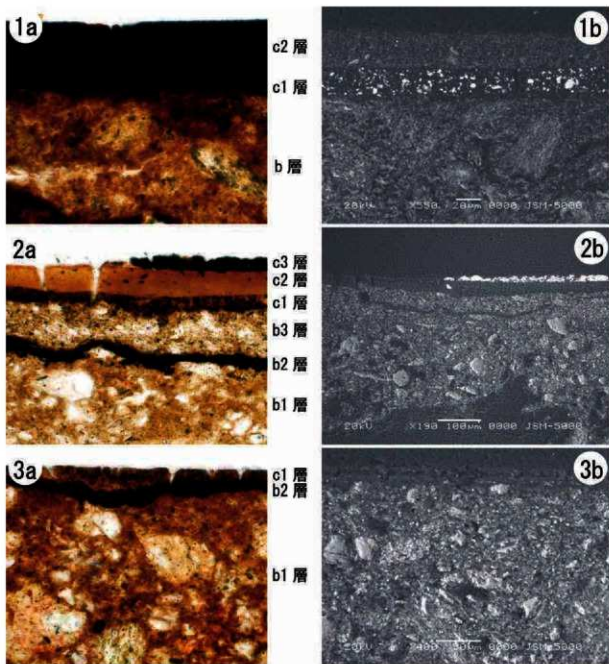


写真13 柵田遺跡出土漆器の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b)

1. 漆器の内面 2. 漆器の外表面絵付け 3. 漆器の外表面黒漆

写 真 图 版



遺跡遠景

1. 水上遺跡・赤井南遺跡(南東から) 2. 棚田遺跡・安吉遺跡(西から)



水上遺跡

1. 全景(東から) 2. 西区全景(南西から)



赤井南遺跡

1. 全景(東から) 2. 古代道路(東から)



赤井南遺跡
古代道路側溝出土遺物



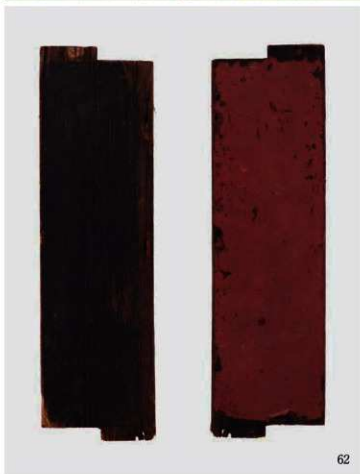
安吉遺跡

1. 全景(南東から) 2. 区画溝(東から)



安吉遺跡

出土木製品・金屬製品



62



61

棚田遺跡

1. 全景(北から) 2. 出土木製品



本江大坪 I 遺跡

1. 全景(西から) 2. B地区全景(東から)



航空写真（1946年 米軍撮影）

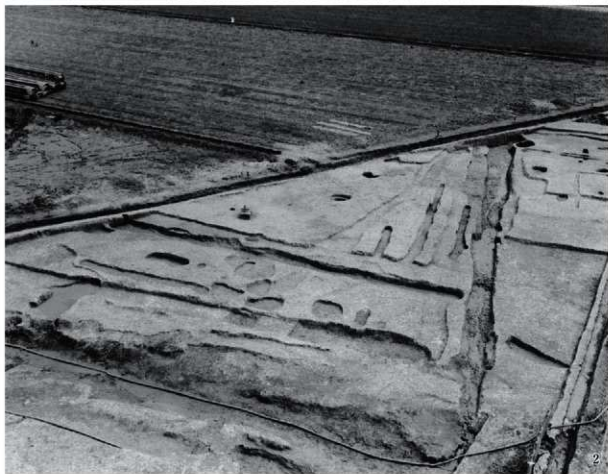
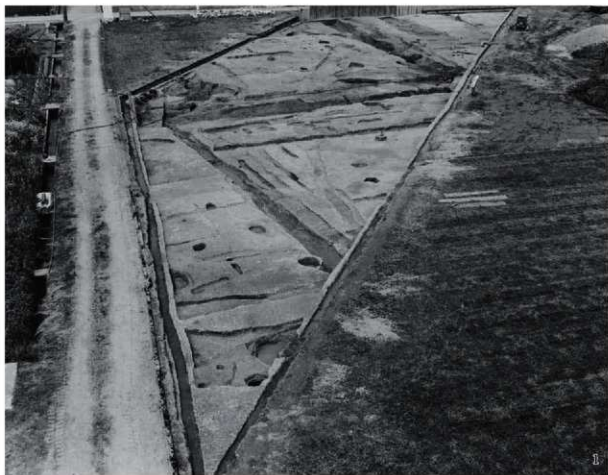


航空写真 (2007年 国土地理院撮影)



水上遺跡

1. 遺跡遠景(北から) 2. 遺跡遠景(南から)



水上遺跡 全景・溝

1. 西区全景(南西から) 2. SD33・SD38・SD41(北東から)



水上遺跡 全景・溝

1. SD1 (北から) 2. 中央西・東区全景(南から)



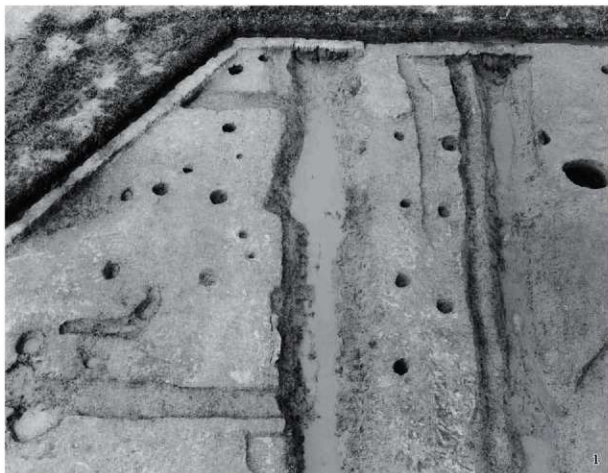
水上遺跡

1. 中央東区全景(北から) 2. 東区全景(南西から)



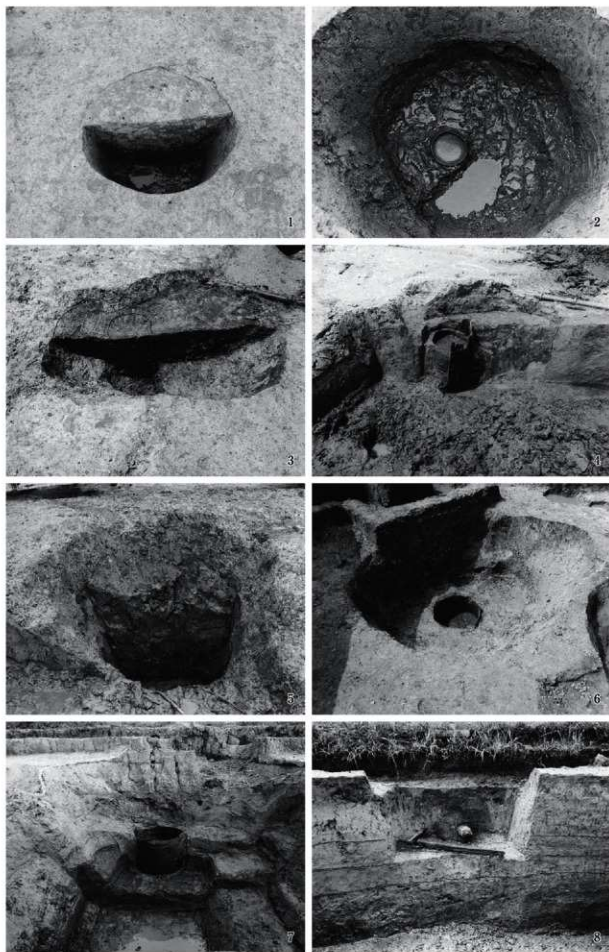
水上遺跡 土坑・溝

1. SK515 (東から) 2. SD386 (東から)



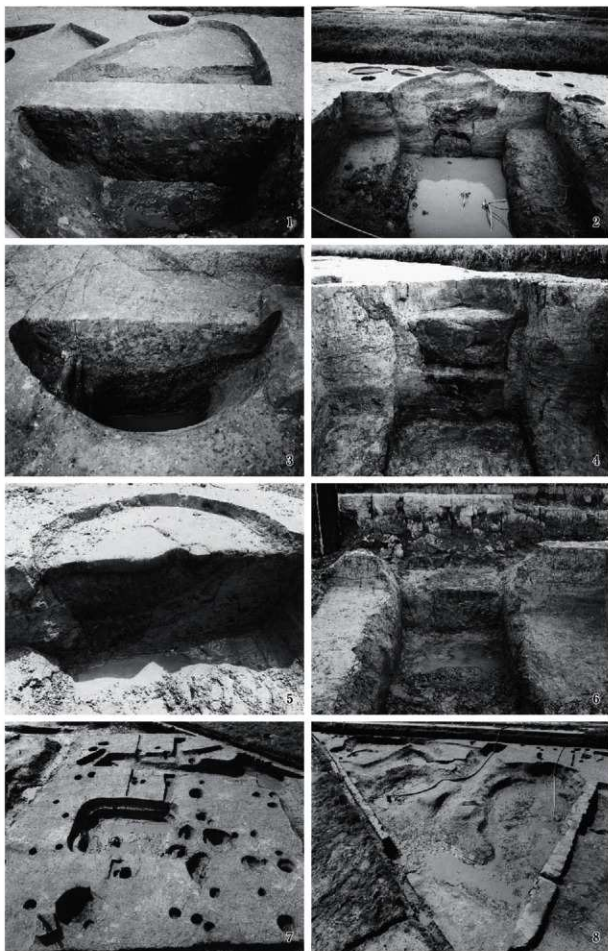
水上遺跡 掘立柱建物

1. SB1 (南西から) 2. SB2・SB3・SB4 (南西から)



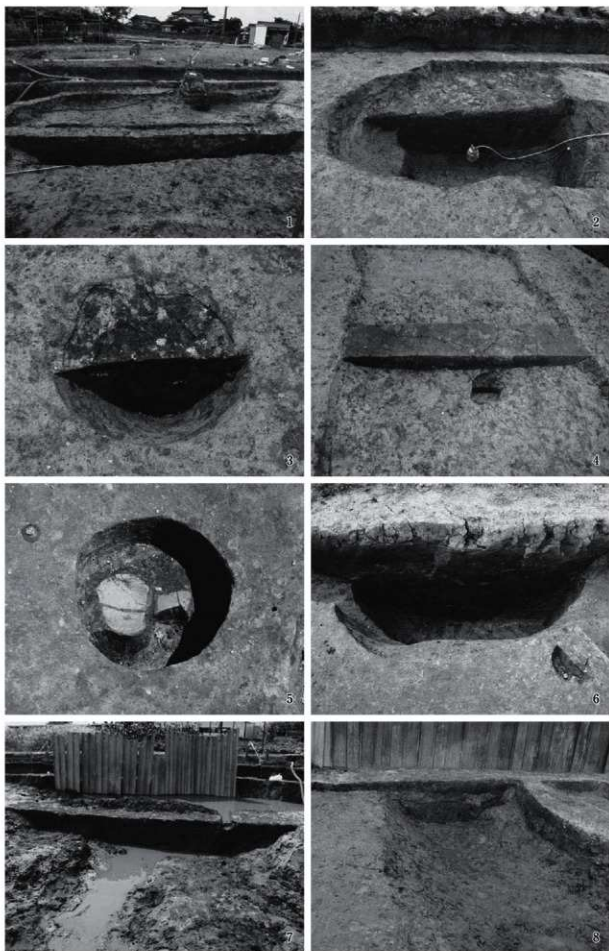
水上遺跡 井戸

1. SE112 (西から) 2. SE112 遺物出土状況 (北東から) 3. SE118 (東から) 4. SE118 断割 (東から)
 5. SE127 (北から) 6. SE128 (北から) 7. SE128 断割 (西から) 8. SE236 断割 (北から)



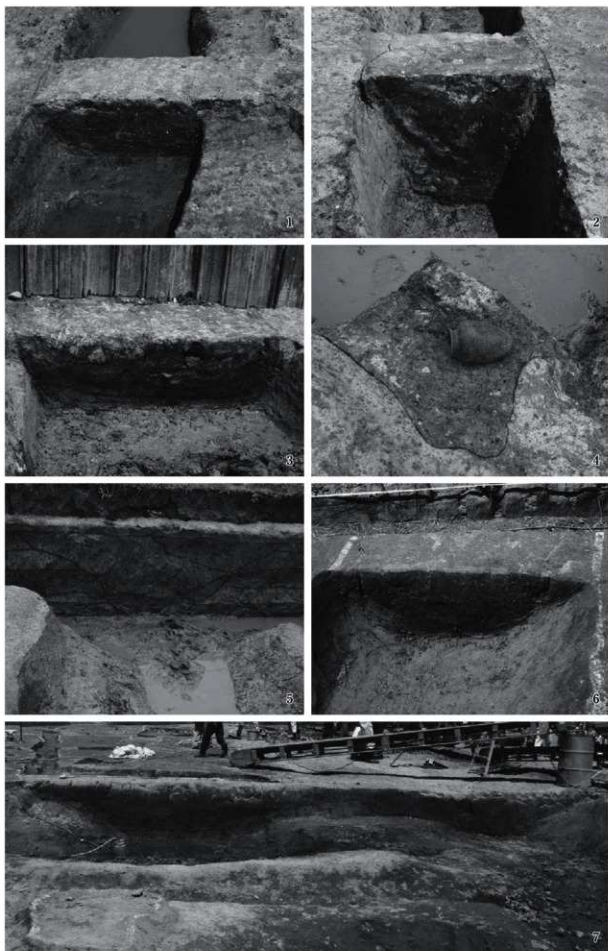
水上遺跡 井戸・土坑

1. SE339 (西から) 2. SE339 断割 (西から) 3. SE346 (南西から) 4. SE355 断割 (南から)
5. SE449 断割 (西から) 6. SE529 断割 (東から) 7. SK356 (東から) 8. SK413・SK416・SK429・SK515 (東から)



水上遺跡 土坑・溝

1. SK61 (南から) 2. SK119 (南から) 3. SK42 (東から) 4. SK62 (南から)
 5. SK311 遺物出土状況 (北から) 6. SK349 (南から) 7. SD1 (東から) 8. SD1 (西から)



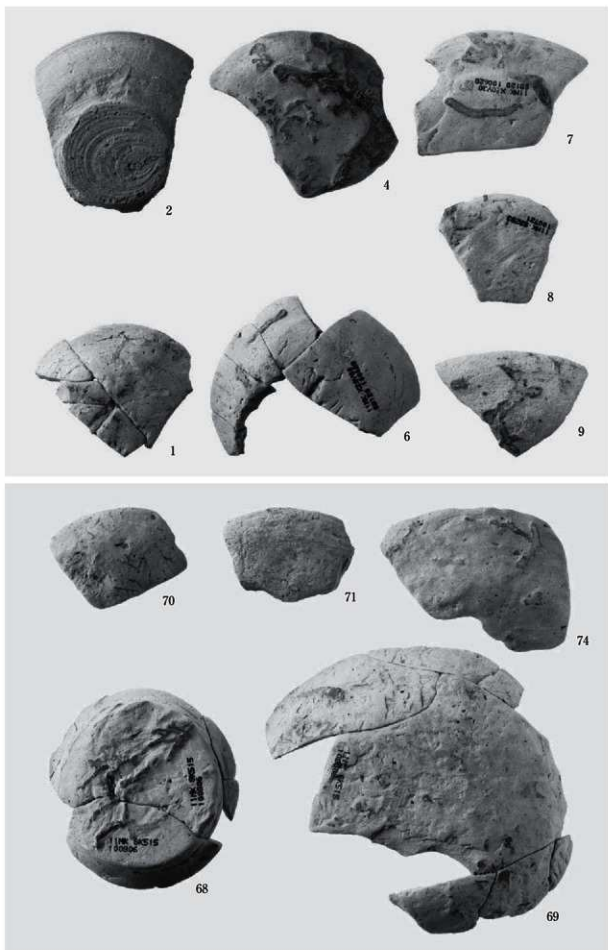
水上遺跡 溝

1. SD33 (北から) 2. SD45 (西から) 3. SD120 (西から) 4. SD120 遺物出土状況 (西から)
5. SD167 (東から) 6. SD167 (南から) 7. SD430・SK515 (西から)



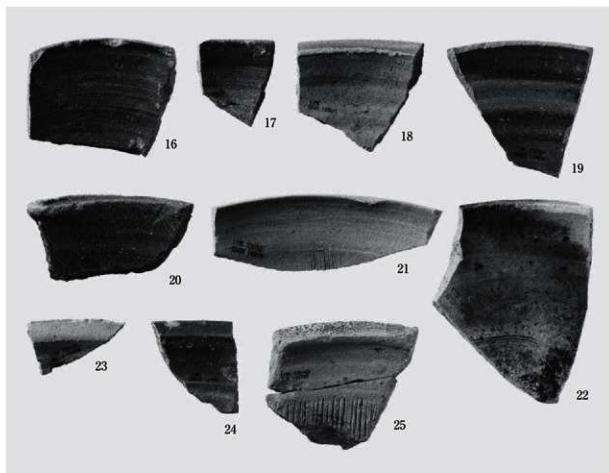
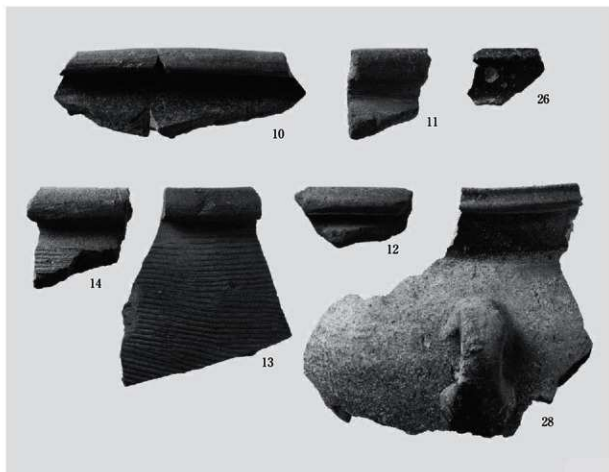
水上遺跡 土器・陶磁器

SD1 SD120 SE112 SE127 SK356 SK413



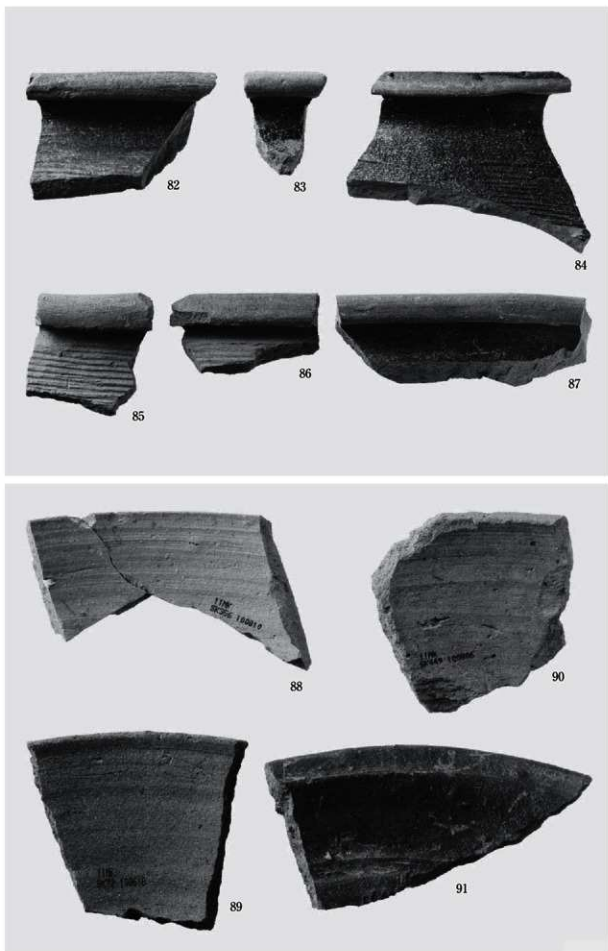
水上遺跡 土器

SD1 SD45 SD120 SD283 SE104 SK57 SK253 SK515



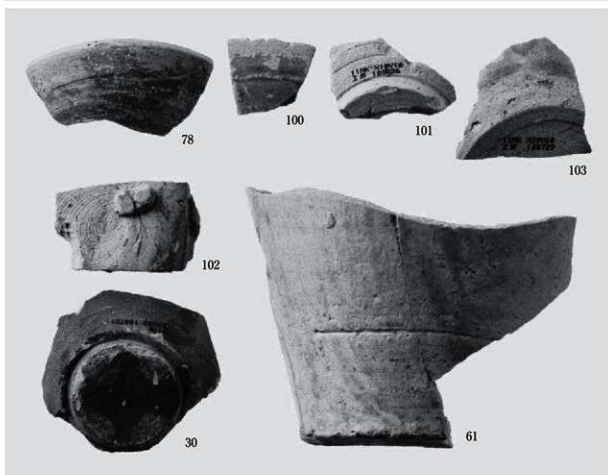
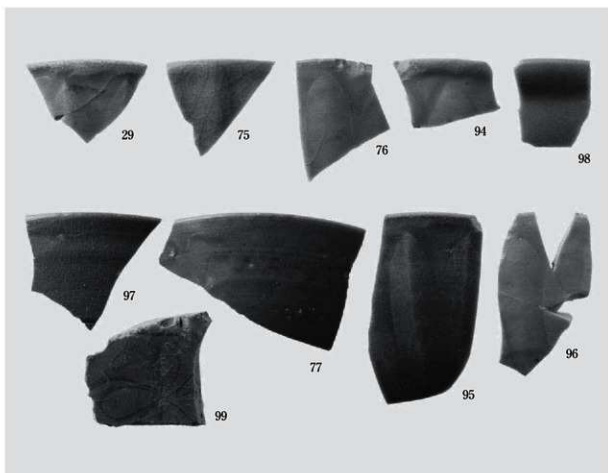
水上遺跡 陶磁器

SD1 SD38 SD47 SD120 SD167 SD187 SD211 SD430 SD510



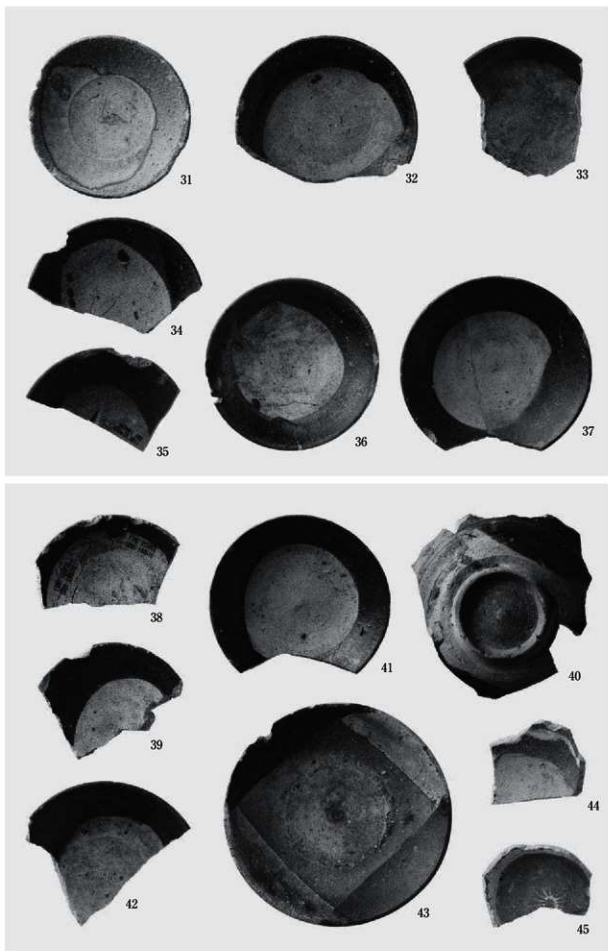
水上遺跡 陶磁器

SE72 SE449 SK356 SK429 包含層

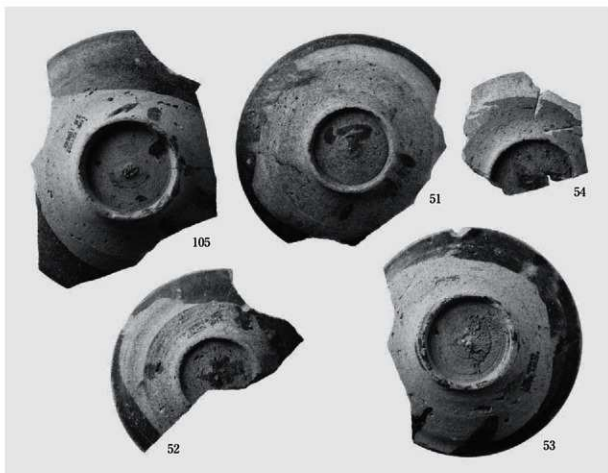
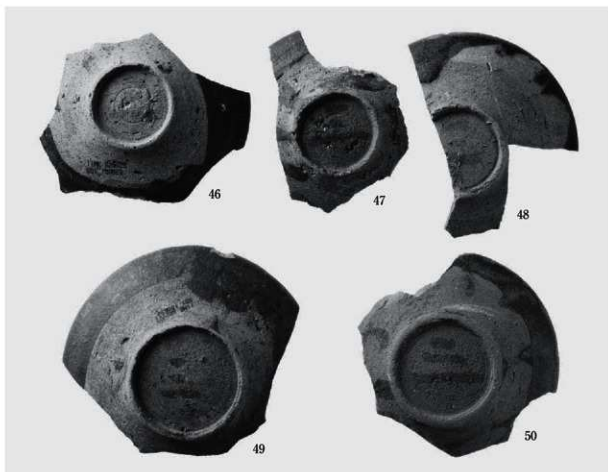


水上遺跡 陶磁器

SD1 SD120 SD283 SE64 SE110 SK401 SK515 包含層



水上遺跡 陶磁器
SD1 SD167 SD430



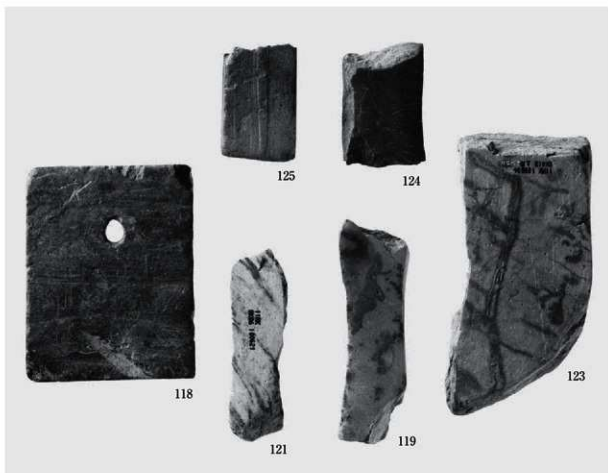
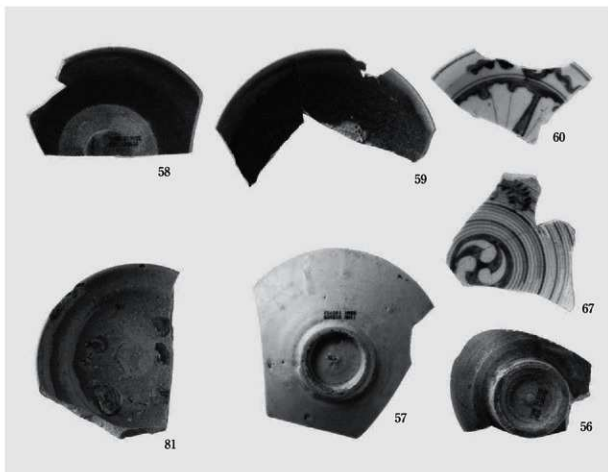
水上遺跡 陶磁器

SD1 SD167 SK61 包含層



水上遺跡 陶磁器

SD1 SD167 SD430 SK61 包含層



水上遺跡 陶磁器・石製品

SD1 SD120 SD167 SK61 SK86 SK413 包含層



109

114



113



115

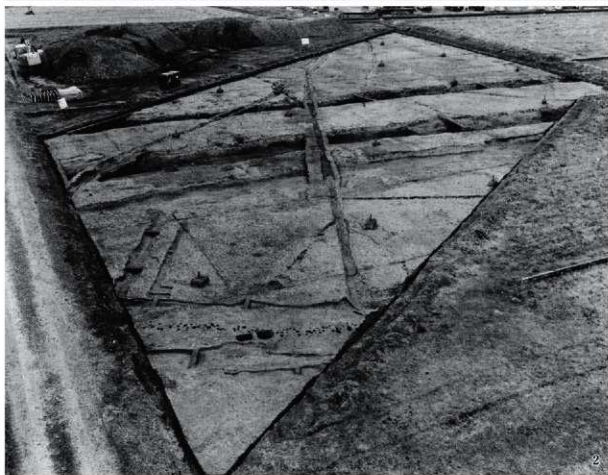


112



赤井南遺跡

1. 全景(北から) 2. 西区全景(西から)



赤井南遺跡

1. 西区全景(東から) 2. 西区全景(北東から)



赤井南遺跡

1. 中区全景(西から) 2. 中区全景(東から)



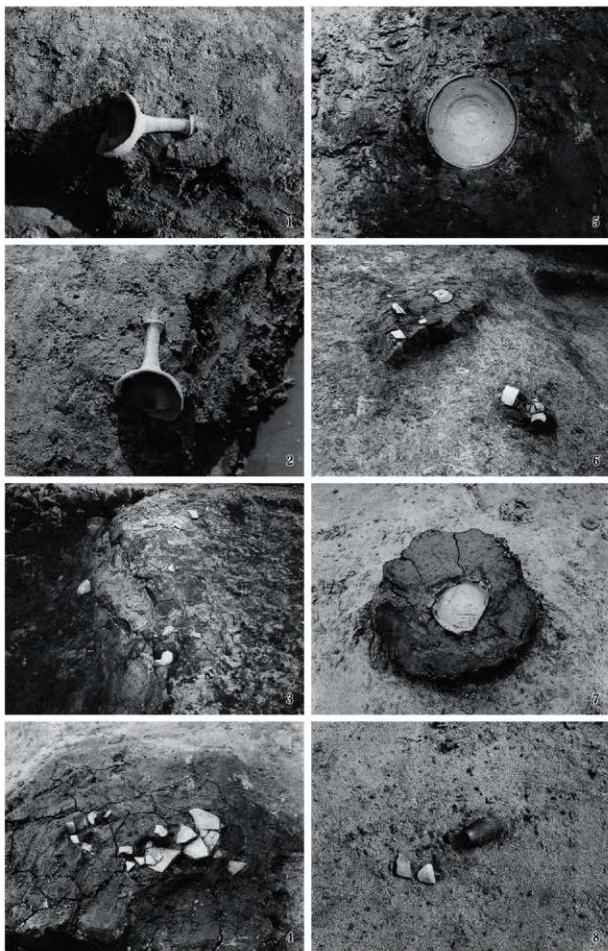
赤井南遺跡

1. 中東区全景(東から) 2. 東区全景(南から)



赤井南遺跡（古代）溝・道路

1. SF1（東から） 2. SD102 aセクション（西から） 3. SD103 dセクション（西から） 4. SD103 aセクション（西から）
5. SD103 cセクション（西から）



赤井南遺跡（古代）溝

1. SD102 須恵器水瓶出土状況(北から) 2. SD102 須恵器水瓶出土状況(東から) 3. SD102 須恵器出土状況(東から)
 4. SD102 土師器出土状況(東から) 5. SD102 墨書土器出土状況(東から) 6. SD102 須恵器出土状況(北から)
 7. SD102 須恵器出土状況(北から) 8. SD102 土師器出土状況(北から)



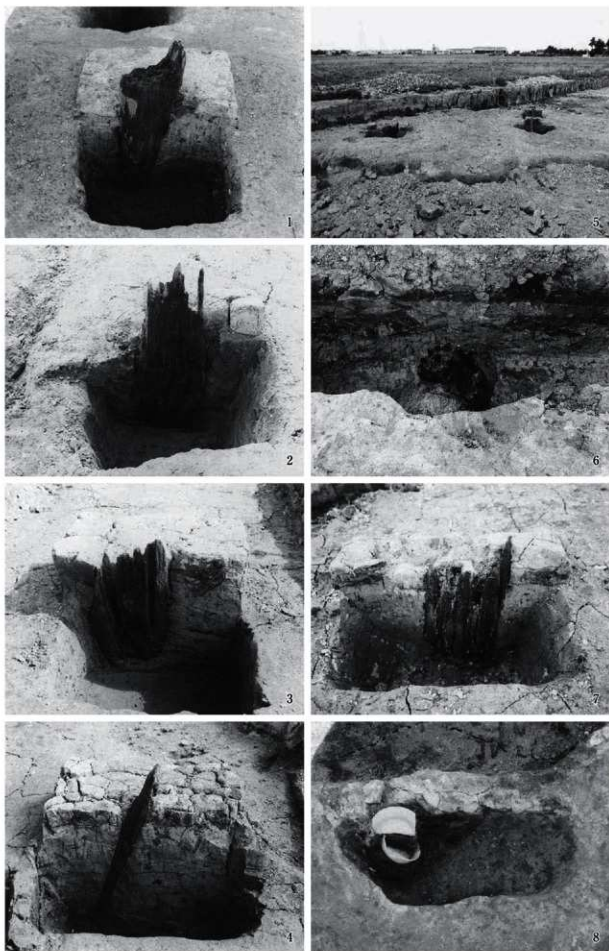
赤井南遺跡 (古代) 溝

1. SD103 dセクション(東から) 2. SD103 木製盤出土状況(北から) 3. SD103 遺物出土状況(西から)
 4. SD103 土師器出土状況(北から) 5. SD101・SD121 間整地層(西から) 6. SD101・SD121 間整地層土師器出土状況(西から)
 7. SD121 (東から) 8. SD102・SD121 (北から)



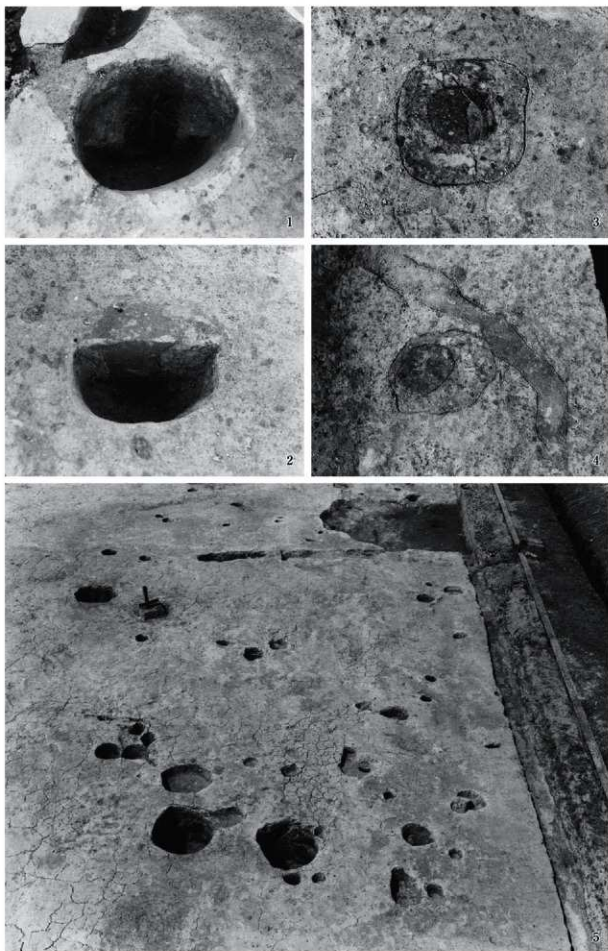
赤井南遺跡 (古代) 溝・柱穴

1. SD101・SD102 (西から) 2. SD101 aセクション(東から) 3. SD101 Cセクション(東から)
4. SP331～SP339 断割(東から) 5. SP331～SP339 断割(南から)



赤井南遺跡（古代）柱穴・土坑

1. SP332 断割(南から) 2. SP337 断割(西から) 3. SP340 断割(南から) 4. SP341 断割(南から)
 5. SP343～SP346 断割(南から) 6. SP345 (南から) 7. SP346 断割(南から) 8. SK210 須恵器出土状況(西から)



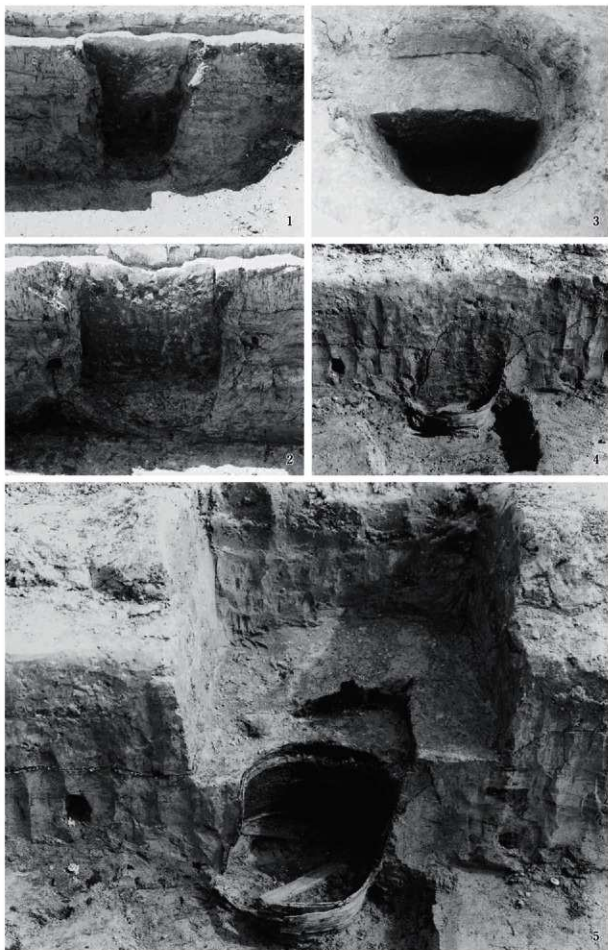
赤井南遺跡（中世）柱穴

1. SP150 柱出土状況(北東から) 2. SP153 (北から) 3. SP195 (南から) 4. SP232・噴砂(南から)
5. 中区東端ブロック(南から)



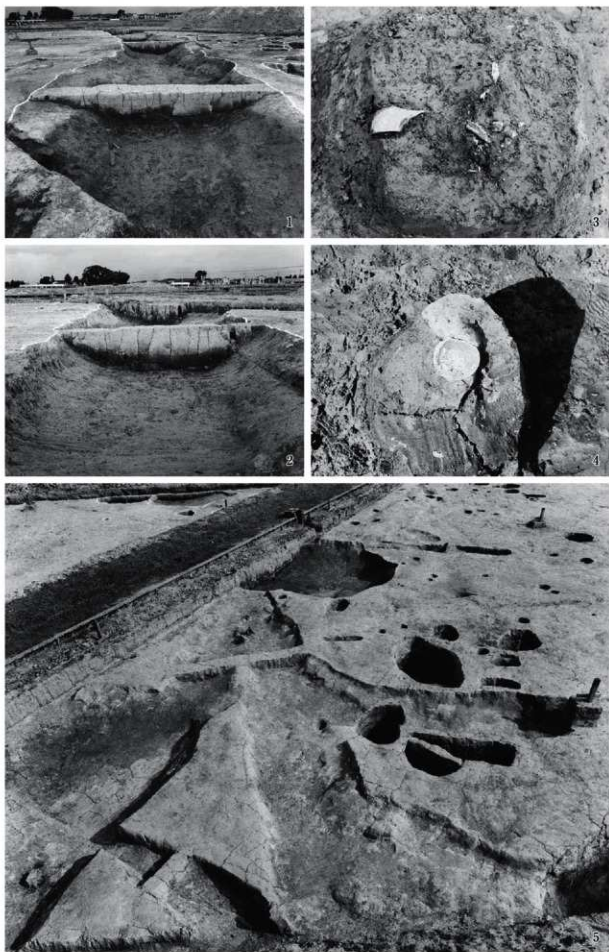
赤井南遺跡（中世）井戸

1. SE225・SE252・SK200（北から） 2. SE152（東から） 3. SE260（南から） 4. SE268（南から）
5. SE286 中世土師器出土状況（北から）



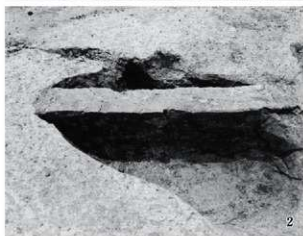
赤井南遺跡（中世）井戸

1. SE303 断割（東から） 2. SE304 断割（東から） 3. SE323（北西から） 4. SE325（北西から）
5. SE325 断割（北西から）



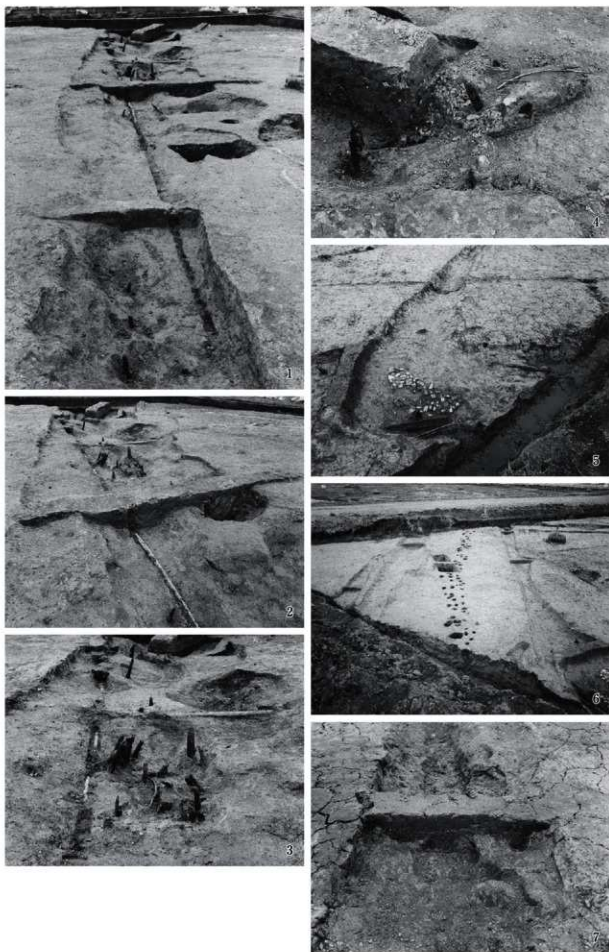
赤井南遺跡（中世）溝

1. SD123 aセクション(西から) 2. SD123 Cセクション(西から) 3. SD123 骨・須恵器出土状況(東から)
4. SD123 中世土師器出土状況 5. SD204～SD206 (北から)



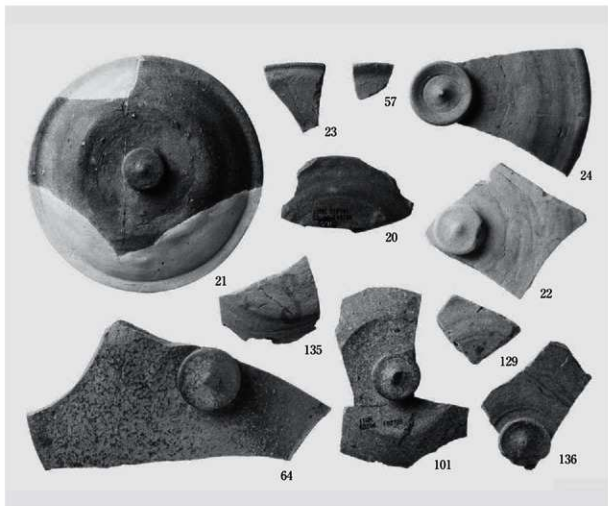
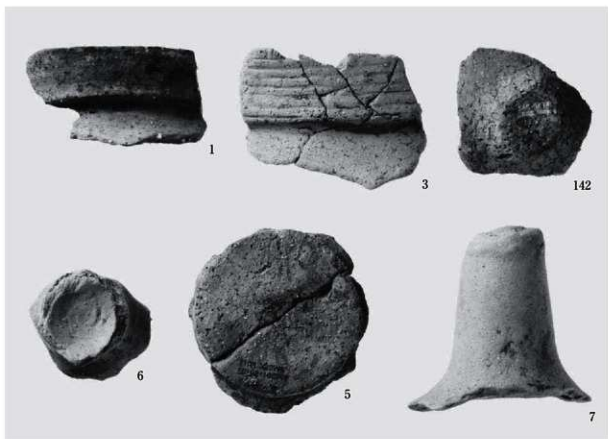
赤井南遺跡（中世）土坑

1. 中区西側ブロック（東から） 2. SK136（北から） 3. SK135（北から） 4. SK163（南西から）
5. SK270 土師器出土状況（南から）



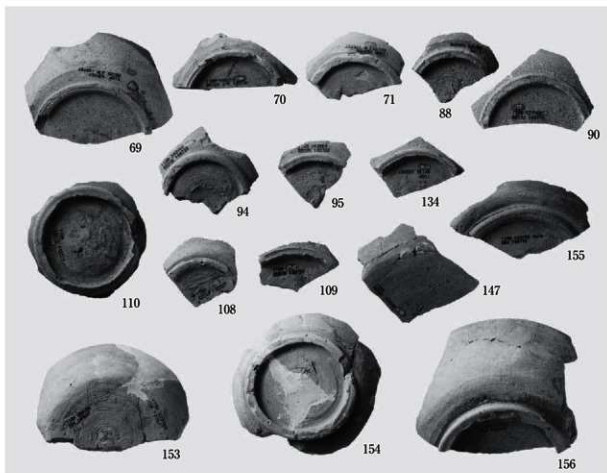
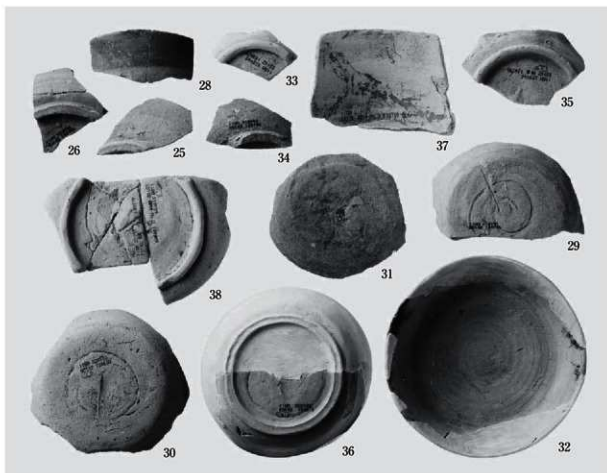
赤井南遺跡（近世～近代）溝

1. SD2（東から） 2. SD2・SK124（東から） 3. SD2 杭・珠洲出土状況（東から） 4. SD2 杭・骨出土状況（南から）
 5. SD4 北端遺物出土状況（北西から） 6. SA1（北西から） 7. SD4（南から）



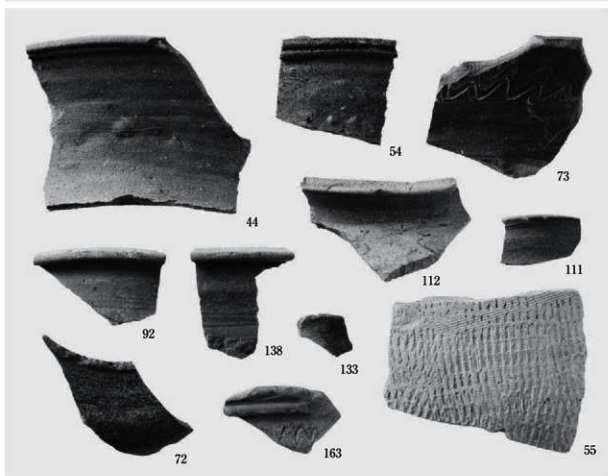
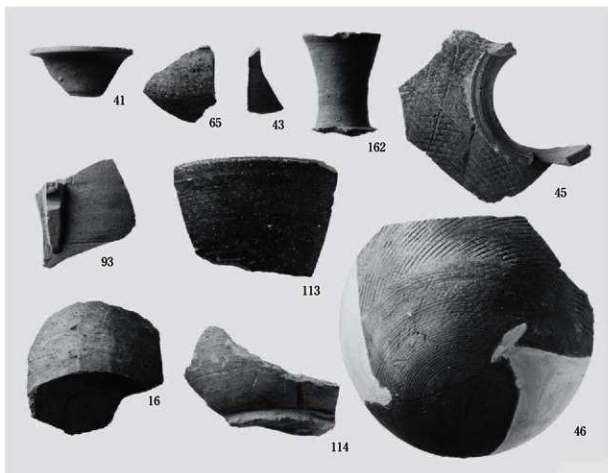
赤井南遺跡 土器

SD101 SD102 SD121 SD146 SD206 SE212 SK135 SK200



赤井南遺跡 土器

SD4 SD102 SD123 SD205 SD315 SK135 SK322



赤井南遺跡 土器

SD102 SD103 SD123 SD203 SD204 SD315 SE318 SK200 包含層



66



19



67



68



31



40



2

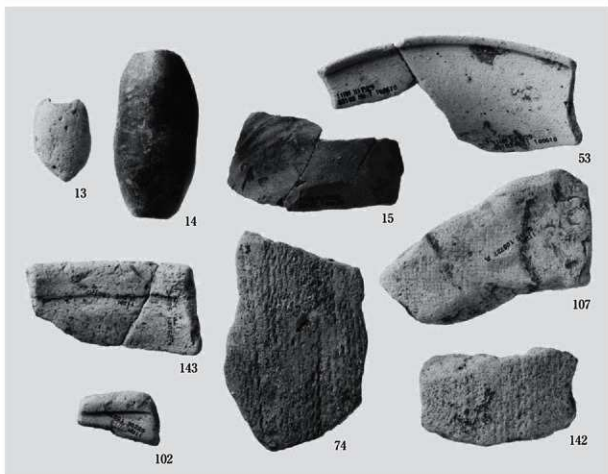
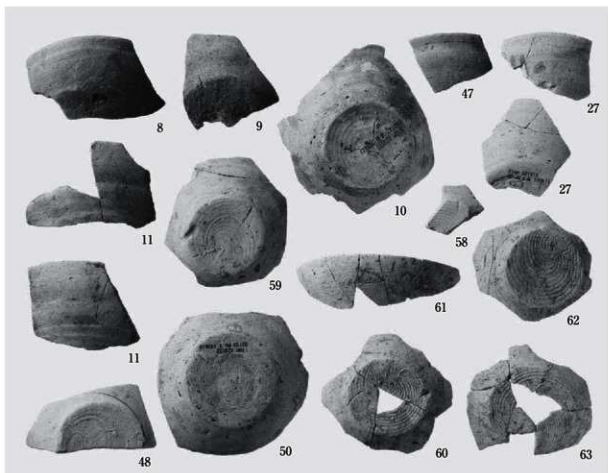


42



39

赤井南遺跡 土器
SD101 SD102 SK210



赤井南遺跡 土器・土製品

SD101・SD102 調整地層 SD102 SD103 SD121



17



49



141



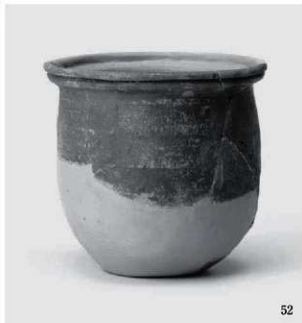
17



51

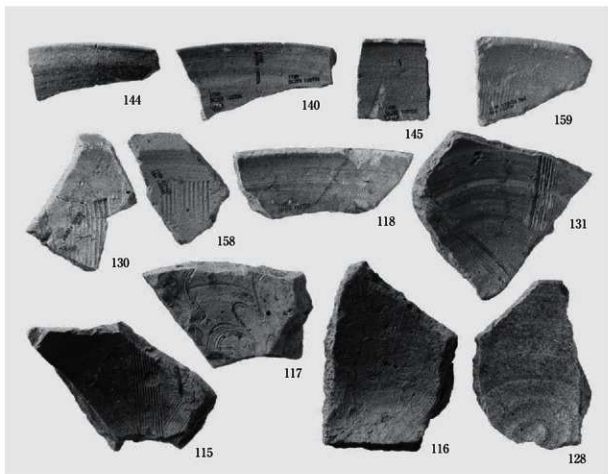
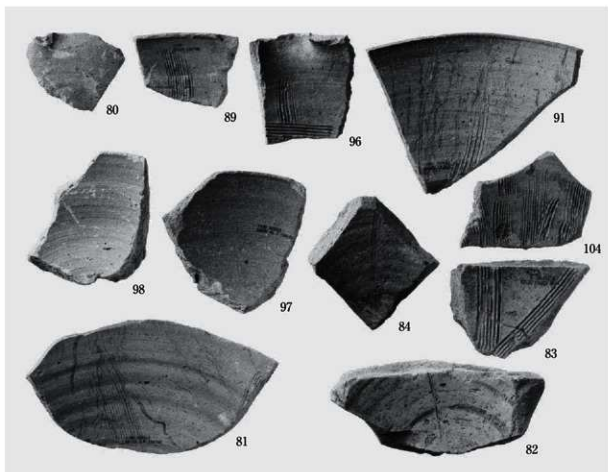


18



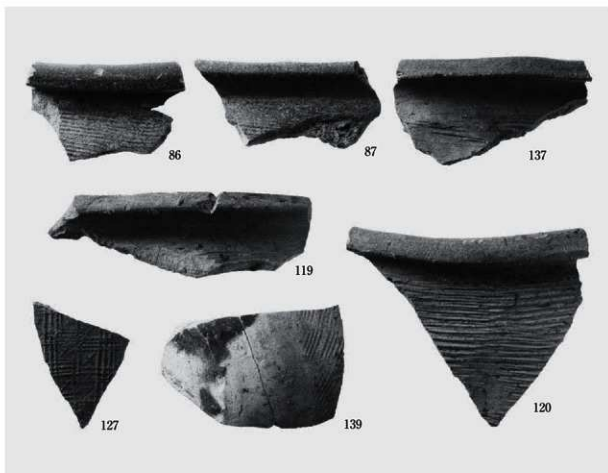
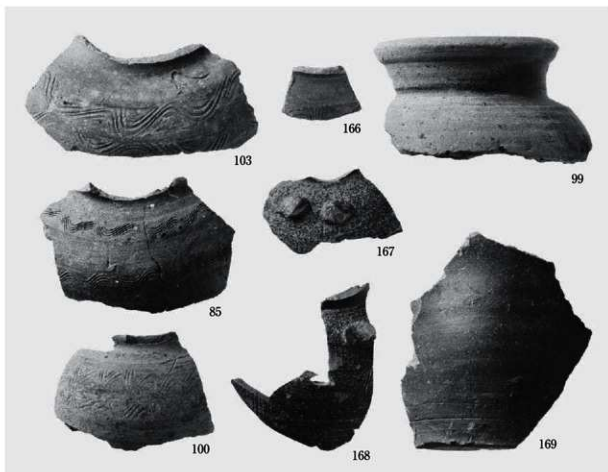
52

赤井南遺跡 土器
SD102 SD103 SK270



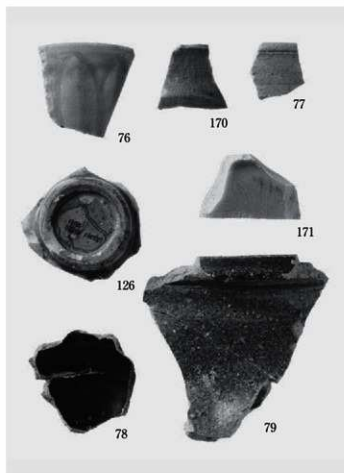
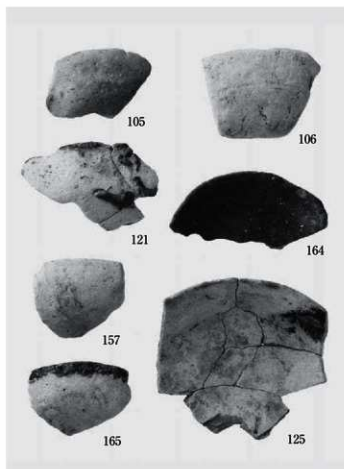
赤井南遺跡 陶磁器

SD4 SD123 SD129 SD202 SD205 SD206 SD315 SD316 SE238 SK200 SK259 SK285

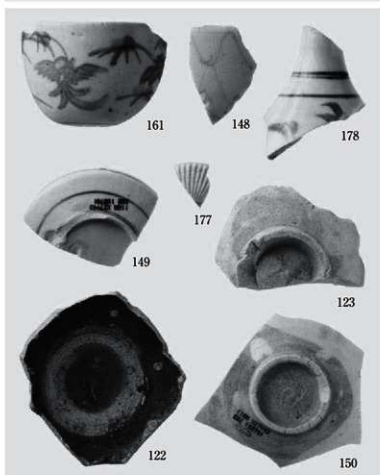
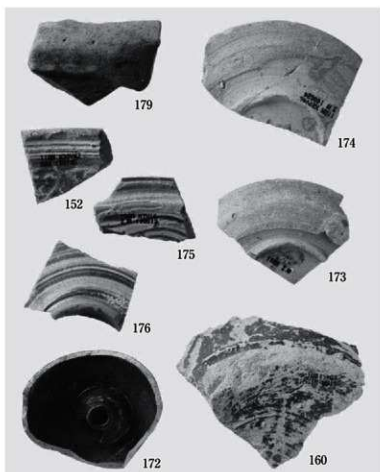


赤井南遺跡 陶磁器

SD123 SD205 SD206 包含層



赤井南遺跡 土器・陶磁器・木製品
SD103 SD123 SD316 包含層



赤井南遺跡 土器・陶磁器・石製品
SD2 SD4 SD315 SK305 包含層



安吉遺跡

1. 遺跡遠景(南から) 2. B地区全景(北から)



安吉遺跡

1. A地区全景(北から) 2. A地区東地区(西から)



安吉遺跡

1. A地区中央地区(東から) 2. A地区西地区(東から)



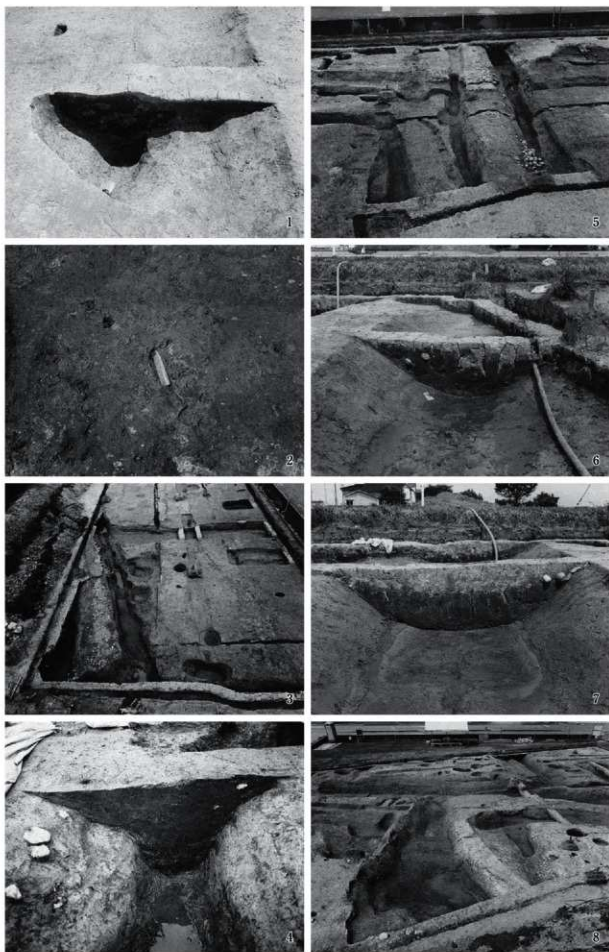
安吉遺跡

1. B地区中央地区(西から) 2. B地区東地区(西から)



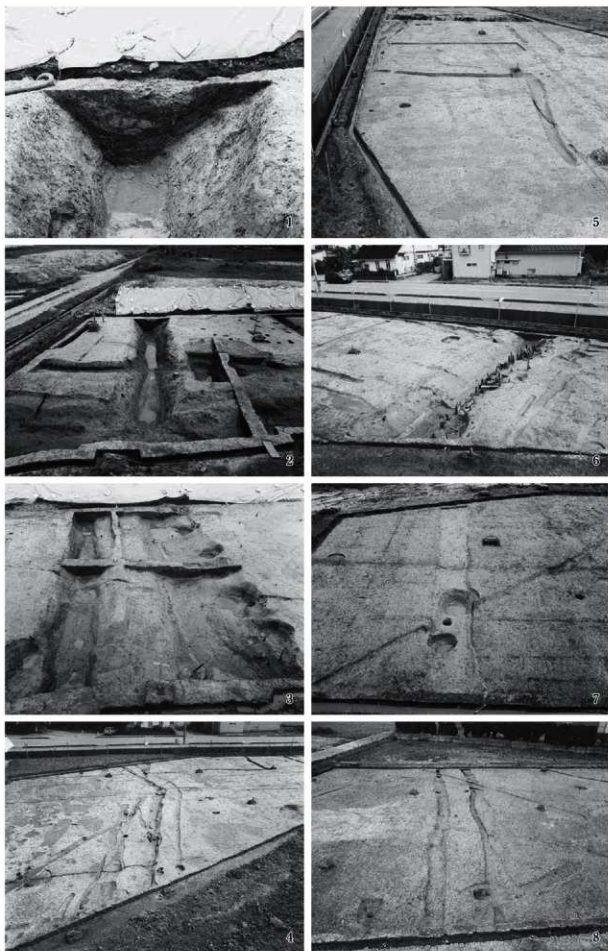
安吉遺跡 溝

1. SD240 (北から) 2. SD240 (南から) 3. SD204・SD240 合流部(東から) 4. SD240 (東から)
5. SD240 木簡出土状況(南から)



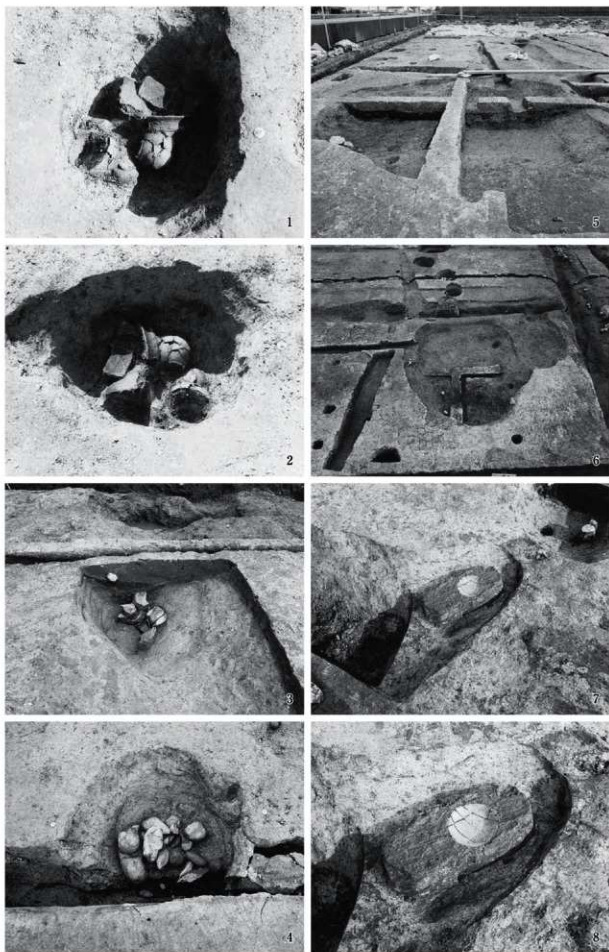
安吉遺跡 溝

1. SD2・SK15 (西から) 2. SD2 木簡出土状況(南から) 3. SD11・SD12 (東から) 4. SD44 (南から)
 5. SD44・SD46・SD50 (南から) 6. SD203 (西から) 7. SD204 (西から) 8. SD203・SD204 (南から)



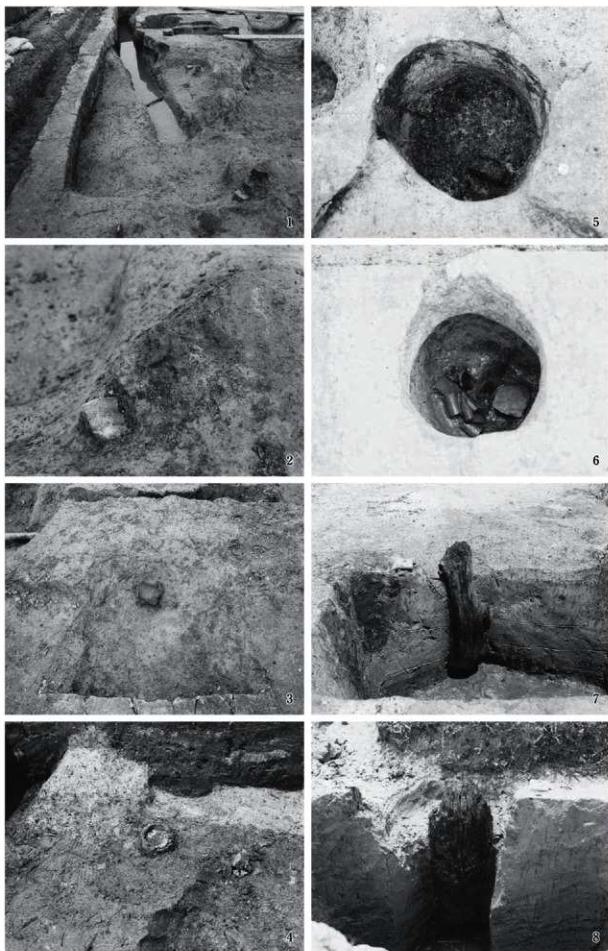
安吉遺跡 溝

1. SD304 (北から) 2. SD304 (北から) 3. SD301・SD302 (北から) 4. SD419・SD420 (北から)
5. SD435 (東から) 6. SD454 (北から) 7. SD458 (南から) 8. SD496・SD497 (南から)



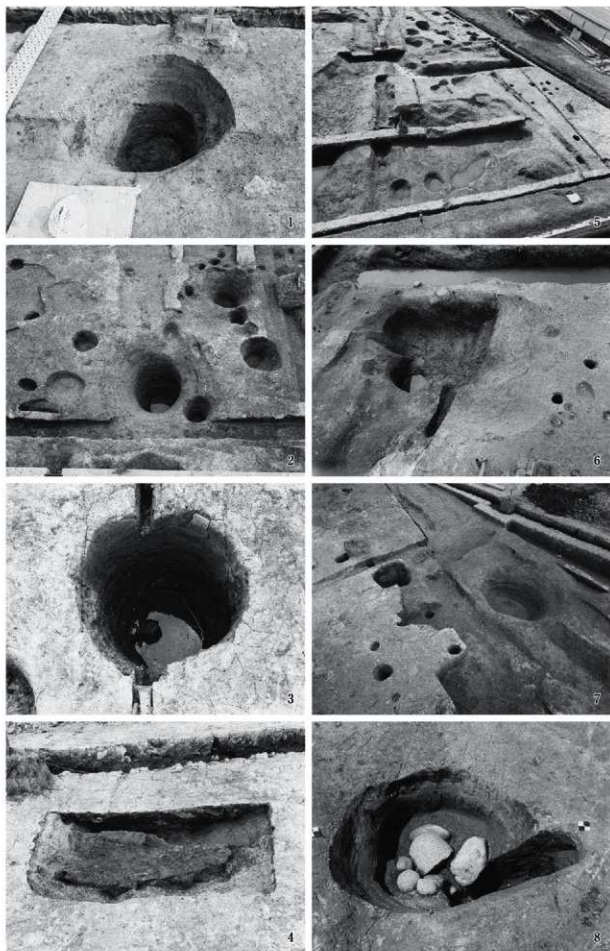
安吉遺跡 土坑

1. SK66 遺物出土状況(北から) 2. SK66 遺物出土状況(東から) 3. SK3 遺物出土状況(西から) 4. SK43 (北から)
 5. SK38 (西から) 6. SK38 炭化物出土状況(北から) 7・8. SK51 遺物出土状況(北から)



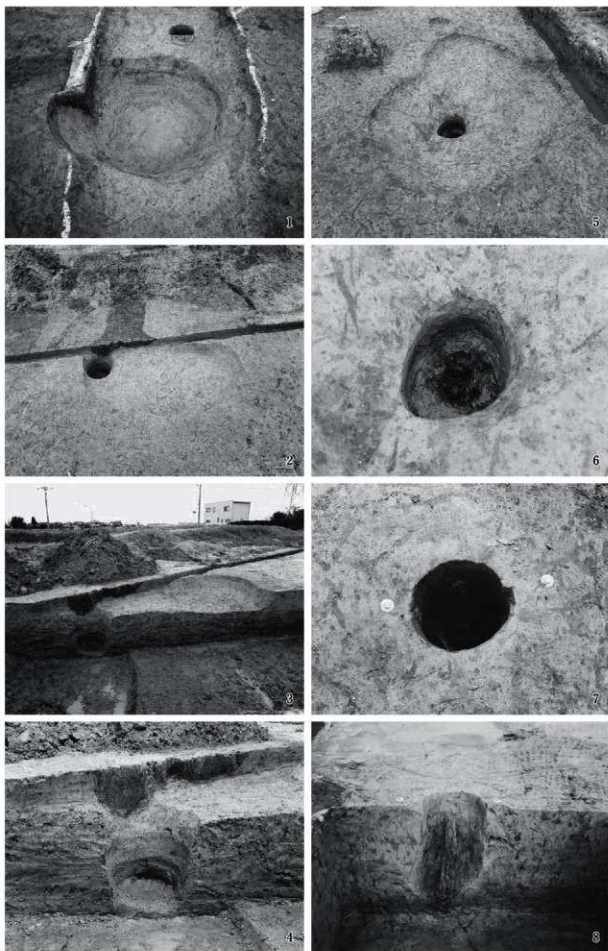
安吉遺跡 土坑

1. SK68 (西から) 2. SK68 遺物出土状況(北から) 3. SK179 遺物出土状況(北から) 4. SK179 漆器出土状況(東から)
5. SK155 炭化物出土状況(西から) 6. SK79 遺物出土状況(東から) 7. SK133 断削(南から) 8. SD154 断削(北から)



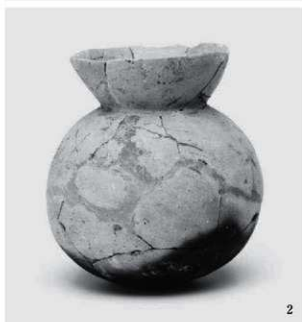
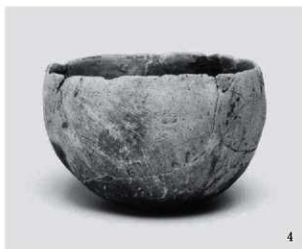
安吉遺跡 土坑

1. SK39 (北から) 2. SK67 (東から) 3. SK217 (北西から) 4. SK260 炭化物出土状況(北から)
 5. SX205 (東から) 6. SK305 (西から) 7. SK348・SK349・SK351 (南東から) 8. SK371 (南から)

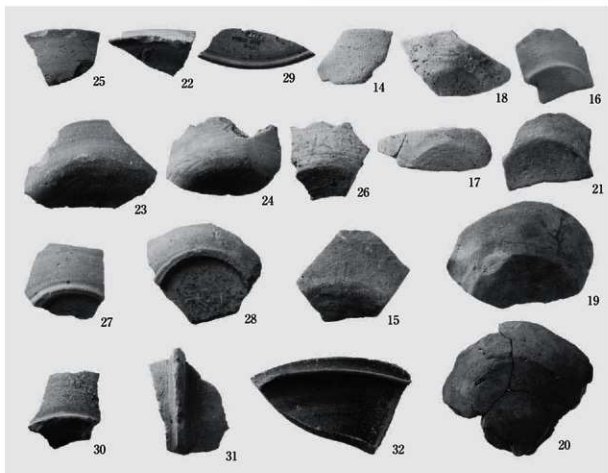


安吉遺跡 土坑

1. SK468 (北から) 2. SK455 (南から) 3・4. SK455 断割(南から) 5. SK446 (南から)
 6. SK446 柱根(南から) 7. SK442 (東から) 8. SK442 断割(東から)

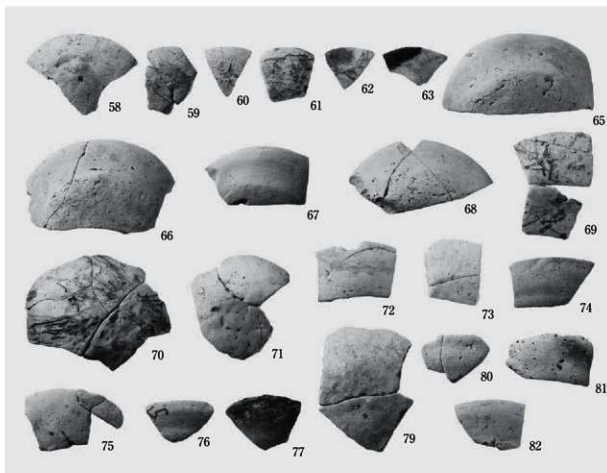
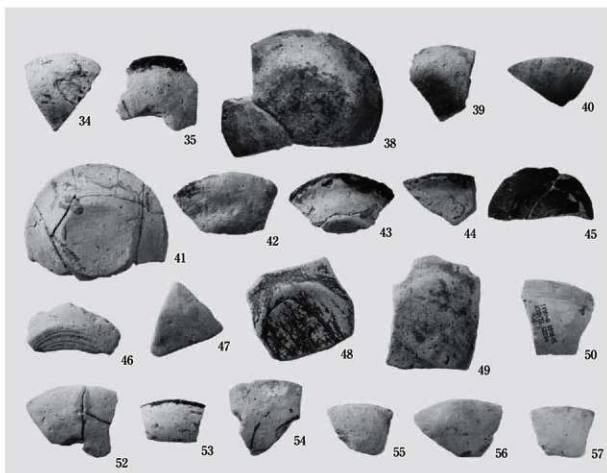


安吉遺跡 土器
SK 66



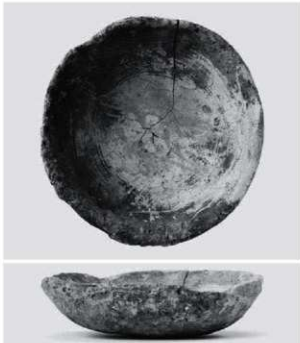
安吉遺跡 土器

SD44 SD46 SD55 SD421 SD481 SK20 SK66 SK89 SK176 SK179 SK365 SX1 包含層



安吉遺跡 土器

SD44 SD55 SD204 SD240 SD312 SD419 SK42 SK84 SK85 SK99 SK103 SK134 SK221 SK267
SK277 SK282 SK341 SK179 包含層



安吉遺跡 土器

SD44 SD56 SK42 SX206



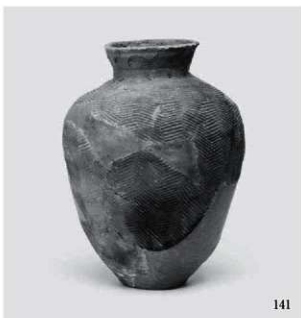
64



78



254



141



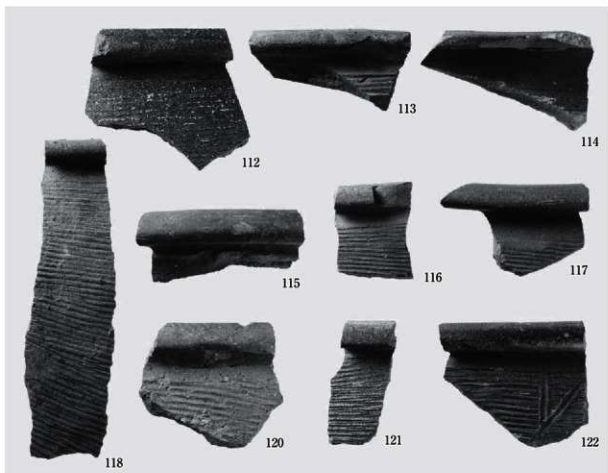
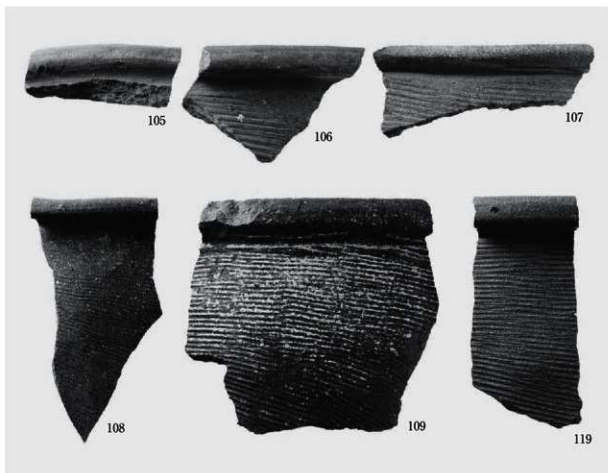
143



253

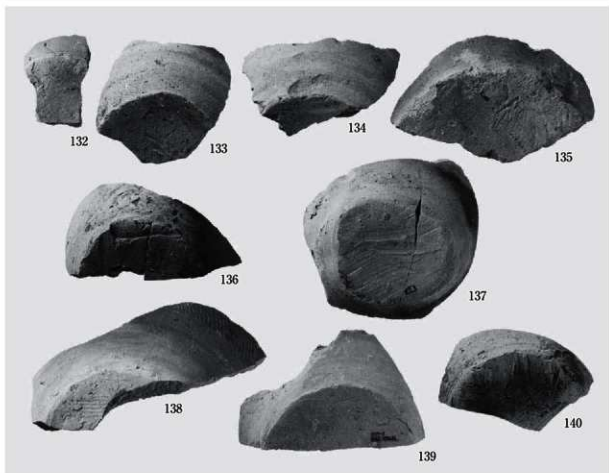
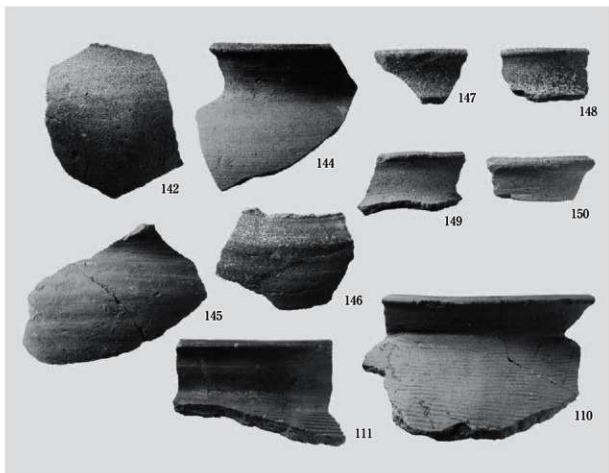
安吉遺跡 土器・陶磁器

SD240 SK51 SK120 SK179 SX206 包含層



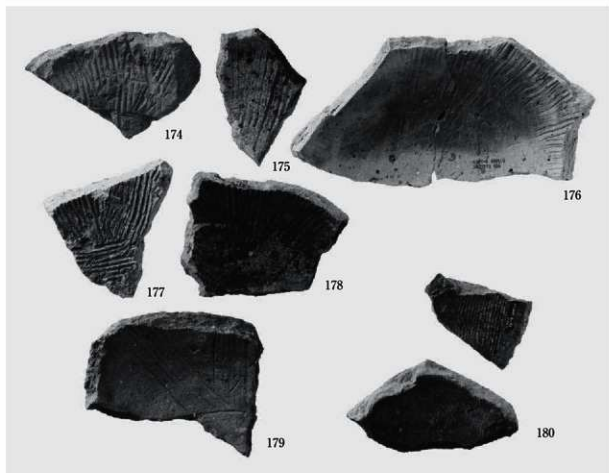
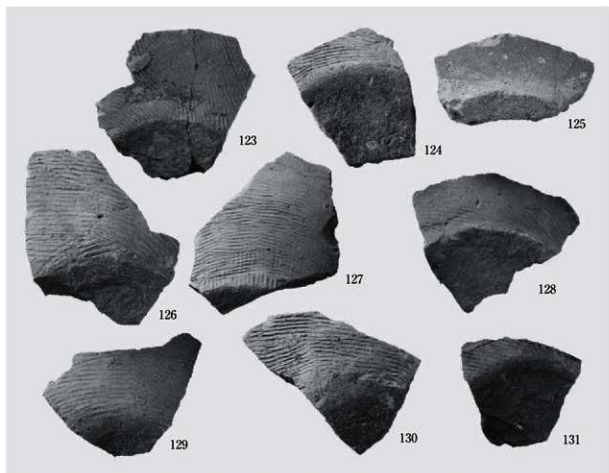
安吉遺跡 陶磁器

SD55 SD275 SD301 SK53 SK67 SK79 SK202 SK277 SK278 SK353 SX205 包含層



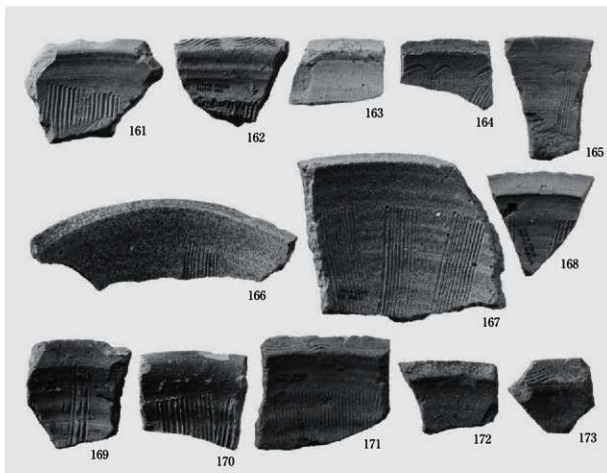
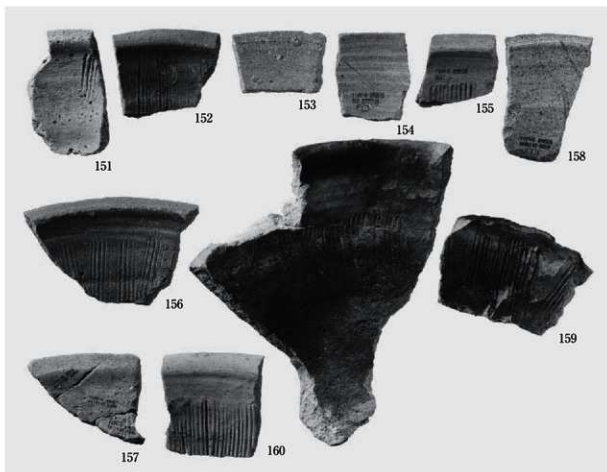
安吉遺跡 陶磁器

SD44 SD46 SD55 SD201 SD240 SK3 SK53 SK67 SK68 SK74 SX1 包含層



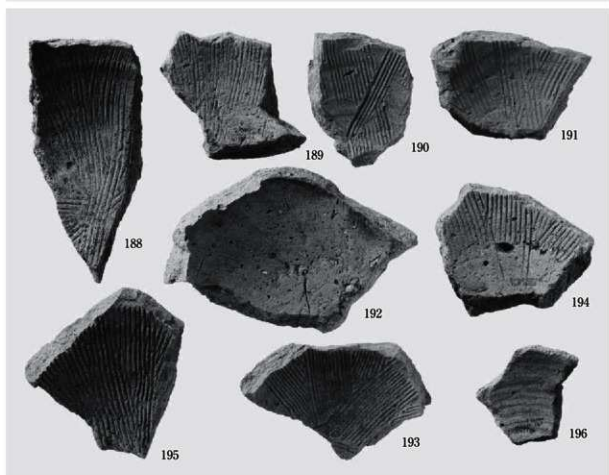
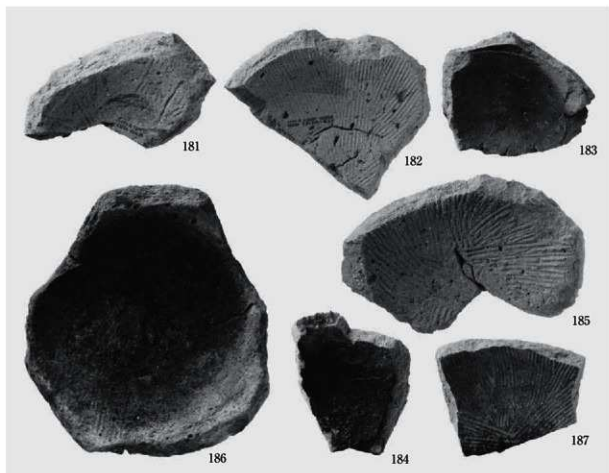
安吉遺跡 陶磁器

SD2 SD6 SD44 SD46 SD53 SD178 SD203 SD204 SD240 SD453 SK68 SK74



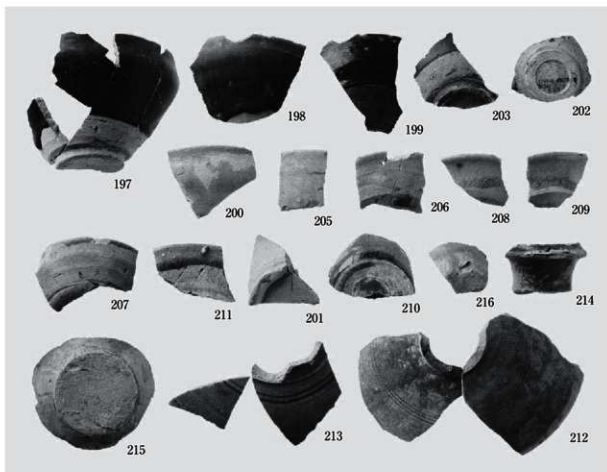
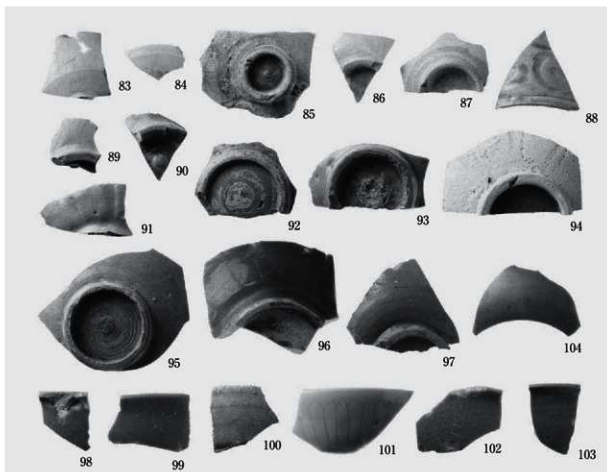
安吉遺跡 陶磁器

SD44 SD46 SD50 SD55 SD203 SD240 SD276 SD454 SD487 SK67 SK179 SX1 包含層



安吉遺跡 陶磁器

SD204 SD240 SK3 SK68 SK119 SK143 SK277 SK383 SX206 包含層



安吉遺跡 陶磁器

SD44 SD46 SD50 SD55 SD87 SD204 SD240 SD301 SD487 SK38 SK42 SK68 SK117 SK179
SK293 SK305 SK341 SK378 SX206 包含層



204



217



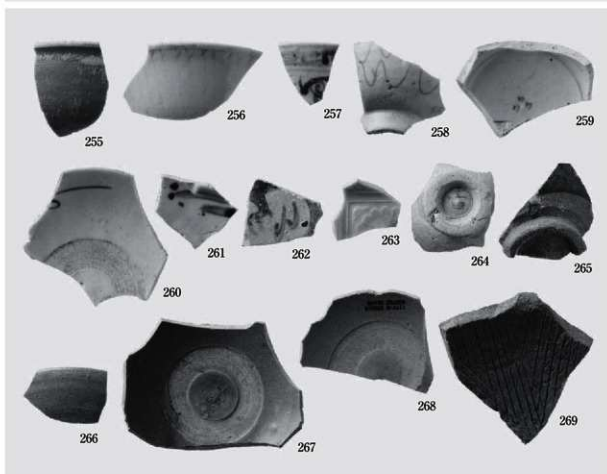
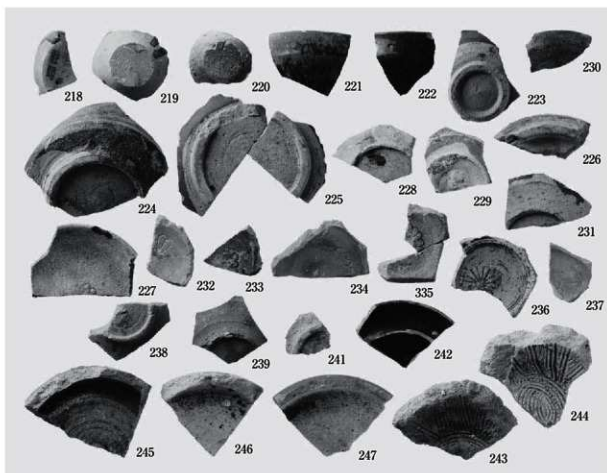
240



248

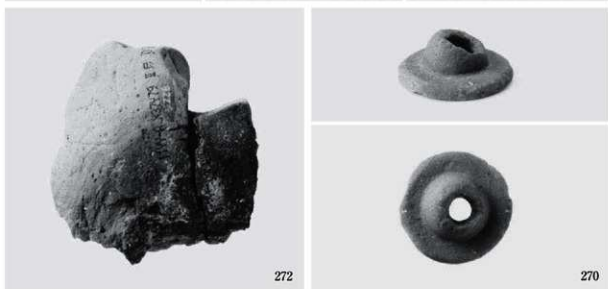
安吉遺跡 陶磁器

SD46 SD179 SD493 包含層



安吉遺跡 陶磁器

SD2 SD46 SD50 SD201 SD240 SD419 SD421 SD454 SD487 SD493 SK216 SK365 SX205 包含層





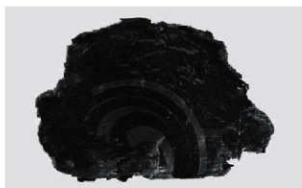
安吉遺跡 木製品

SD2 SD6 SD204 SD240 SK378 SX206 包含層



安吉遺跡 木製品

SD204 SD274 SK179 SK210



274



285



282



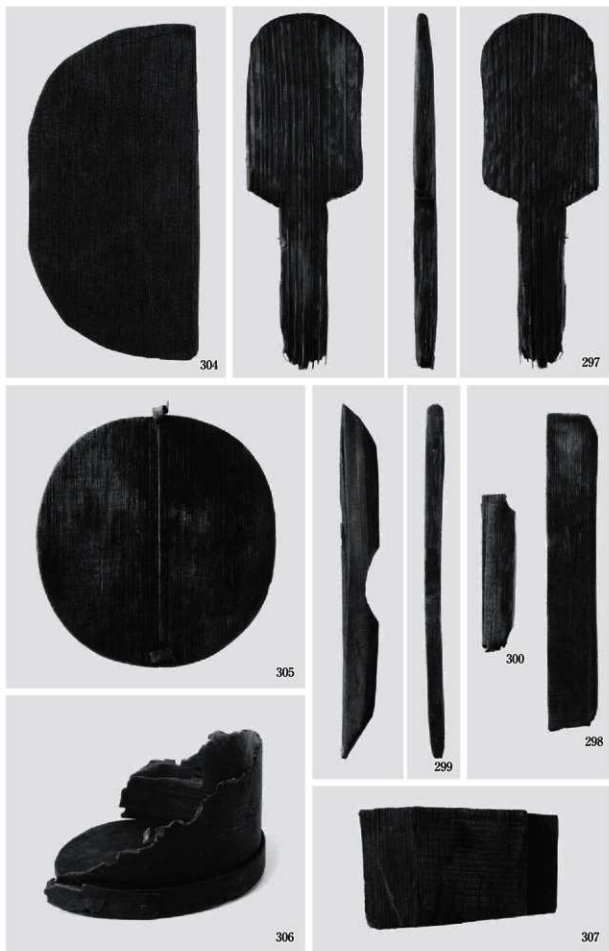
286



275

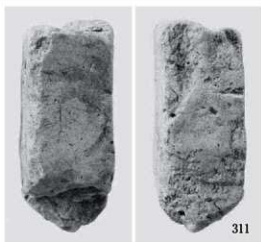
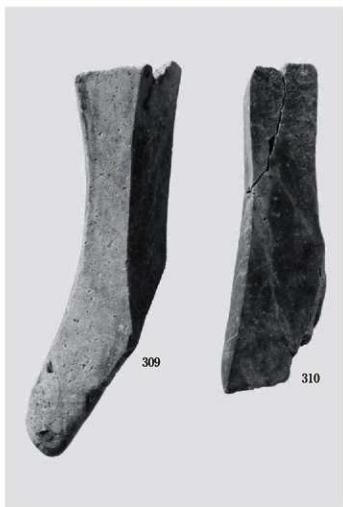
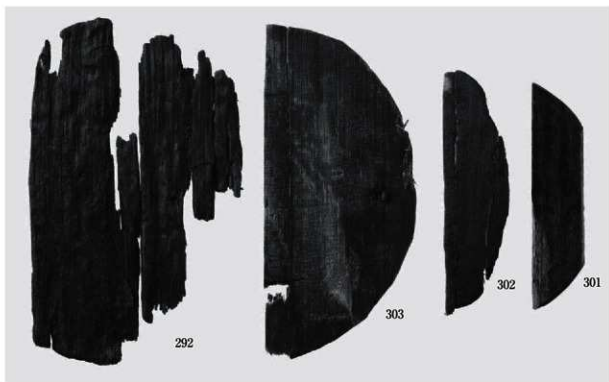
安吉遺跡 木製品

SD56 SD204 SD297 SX206



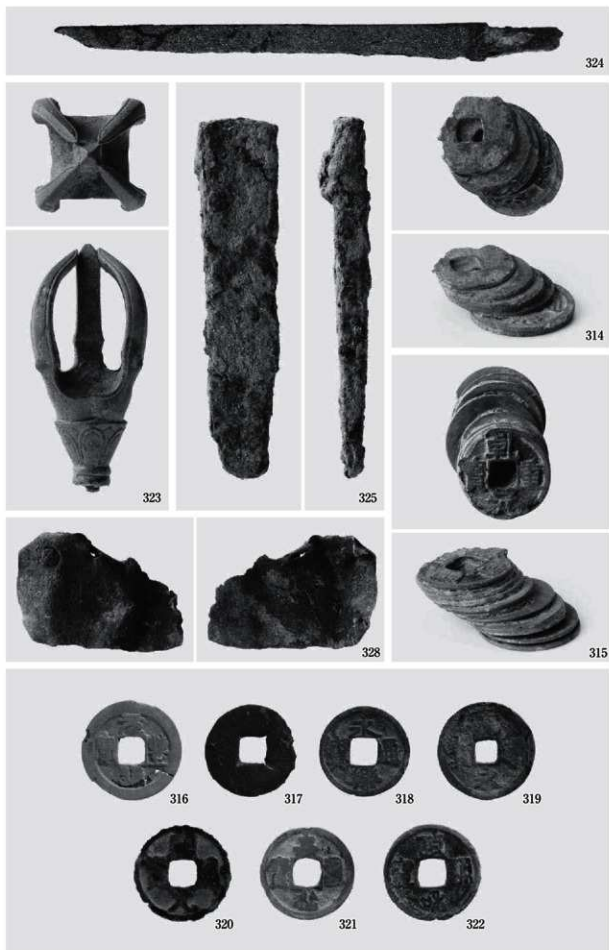
安吉遺跡 木製品

SD203 SD204 SD240 SD301 SK42 SK68 SK102



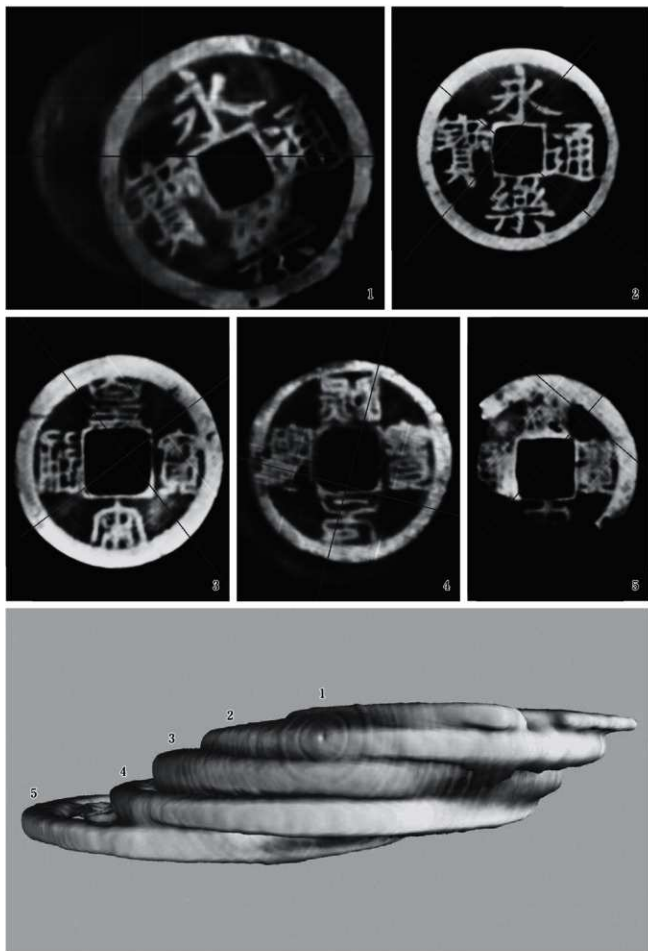
安吉遺跡 木製品・石製品

SD240 SD304 SK59 SK68 SK179 SK293 包含層



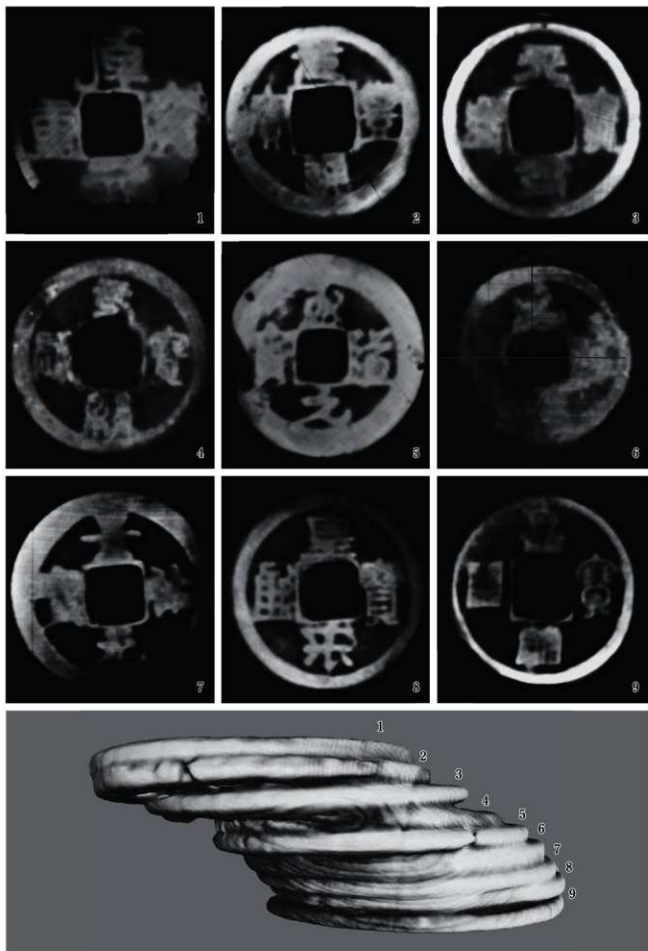
安吉遺跡 金屬製品

SD44 SD45 SD240 SD487 SK51 SK68 包含層

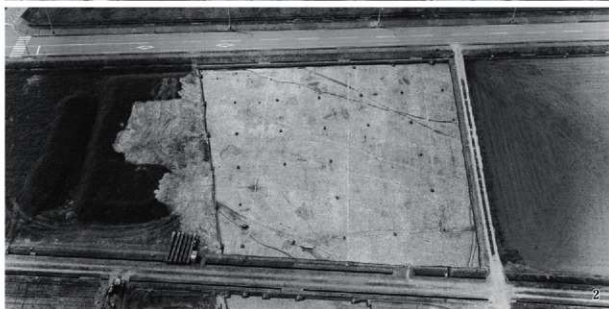


安吉遺跡 古銭CT画像(314)

SK51



安吉遺跡 古錢CT画像(315)
SK68



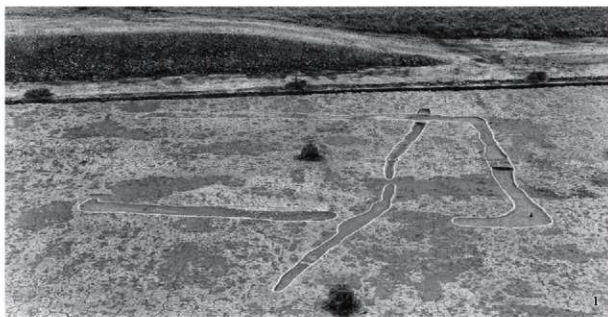
棚田遺跡

1. 遺跡遠景(南から) 2. A地区全景(東から) 3. B地区全景(北から)



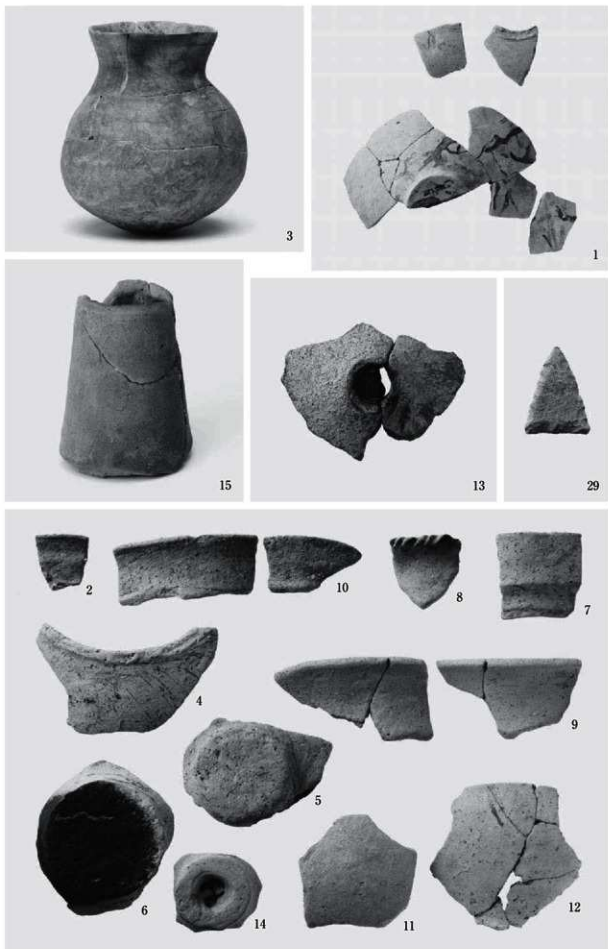
榑田遺跡

1. A地区全景(西から) 2. B地区全景(西から)



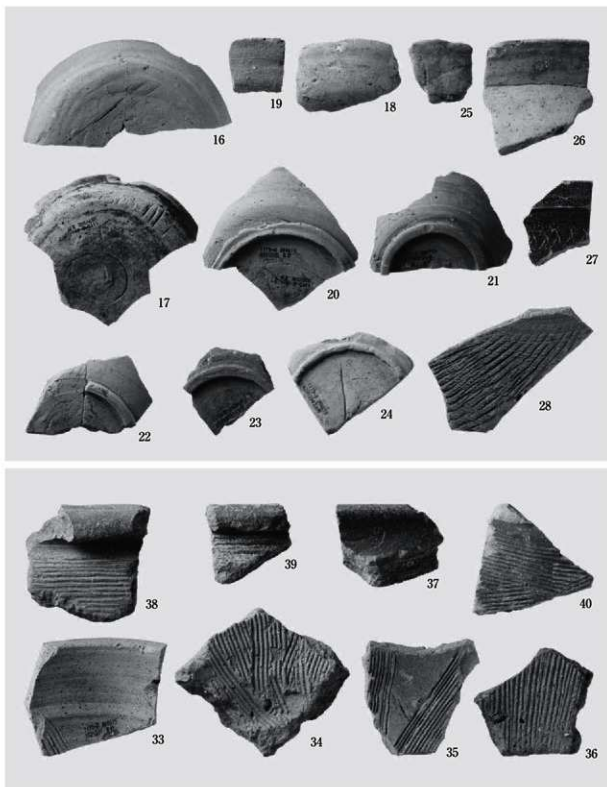
棚田遺跡 溝

1. SD94・SD95 (北から) 2. SD1 東端木組(西から) 3. SD1 東端木組(北から) 4. SD1 西端木組(北から)
5. A地区南東ブロック(北東から) 6・7. SD250 遺物出土状況(北東から)



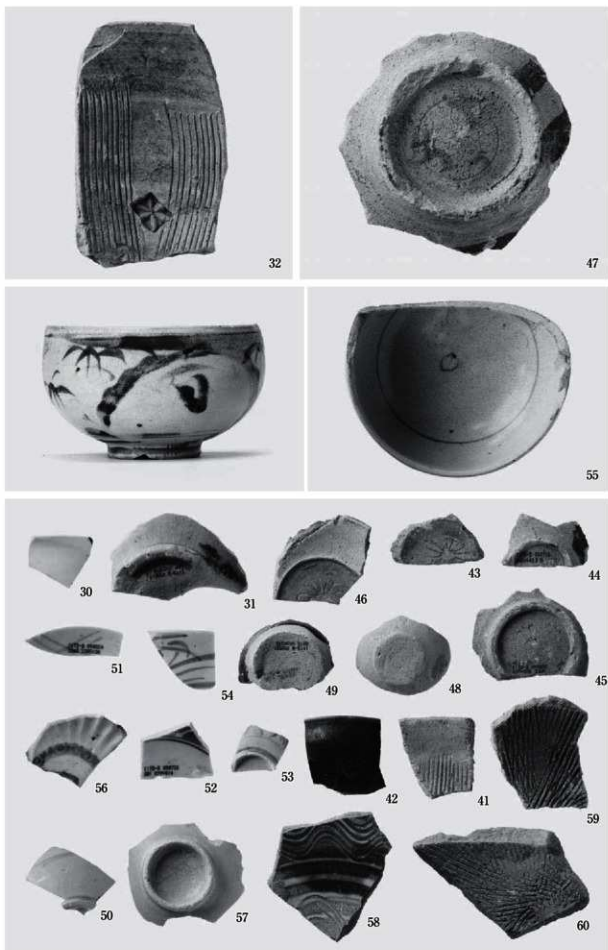
棚田遺跡 土器

SD31 SD208 SD219 SD229 SD250 包含層



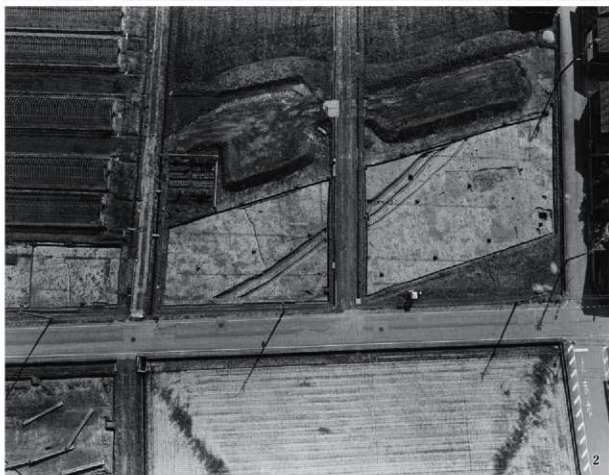
棚田遺跡 土器・陶磁器

SD1 SD57 SD70 SK25 SK75 包含層



棚田遺跡 陶磁器

SD1 SD57 SD65 SD70 SD99 SD201 SK75 包含層



本江大坪 I 遺跡

1. 遺跡遠景(西から) 2. A地区全景(北から)



本江大坪 I 遺跡

1. B地区全景(南から) 2. C地区全景(南から)



本江大坪 I 遺跡

1. A地区全景(西から) 2. B地区全景(東から)



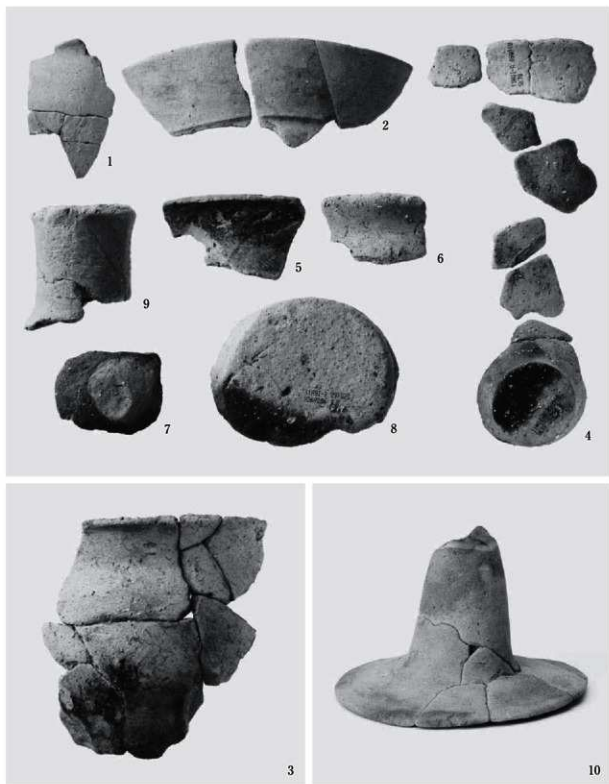
本江大坪 I 遺跡

1. B地区西半(東から) 2. C地区全景(西から)



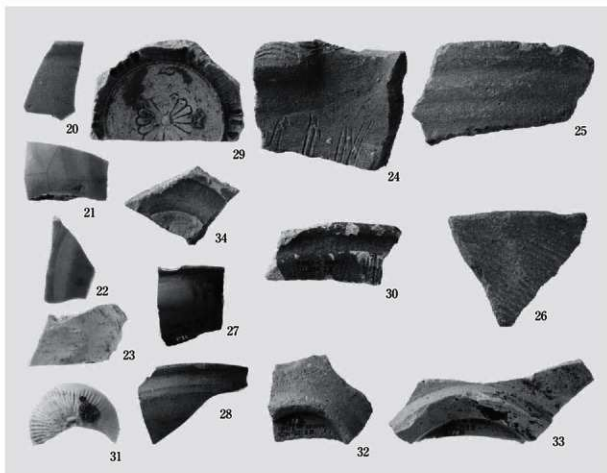
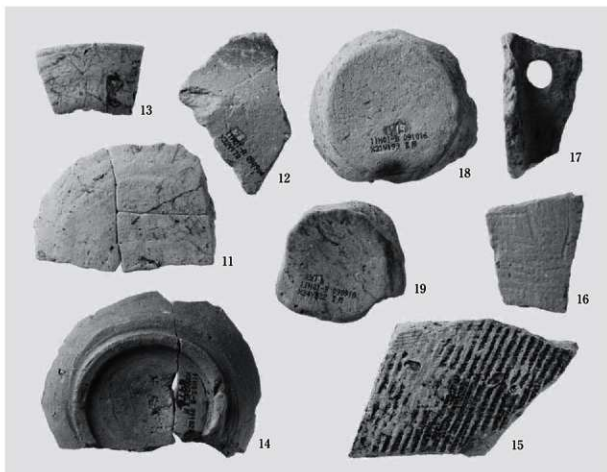
本江大坪 I 遺跡 溝・土坑

1. SD28・SD41・SD42 (東から) 2. SD41 遺物出土状況(西から) 3. SD316・SD317 (南から)
 4. SK32 遺物出土状況(北から) 5. SK70 遺物出土状況(東から) 6. SK107 遺物出土状況(東から)
 7. SK127 遺物出土状況(東から) 8. SK128 遺物出土状況(南から)

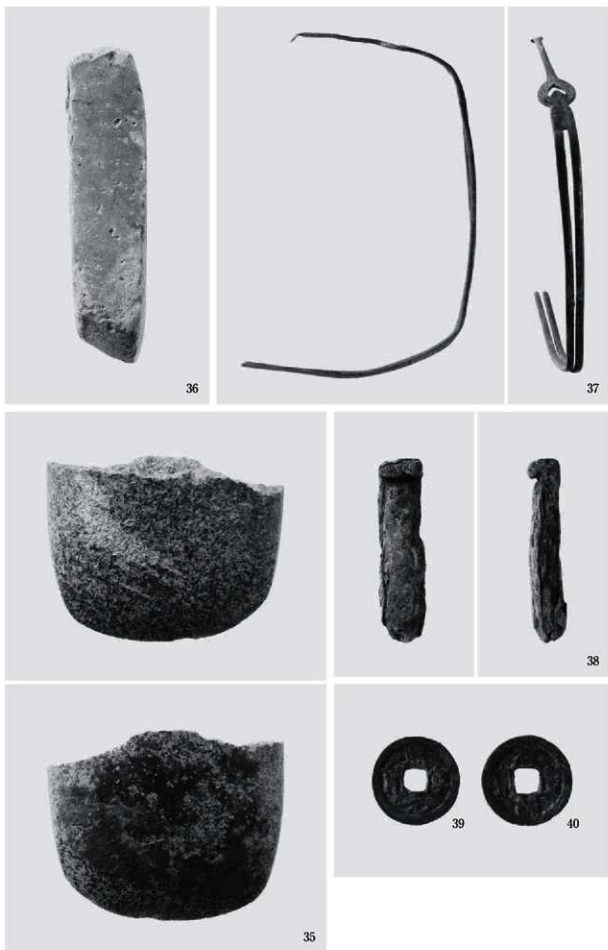


本江大坪 I 遺跡 土器

SD41 SD168 SD301 SD317 SK32 SK70 SK128 包含層



本江大坪 I 遺跡 土器・陶磁器
SD25 SK50 SX39 包含層



本江大坪 I 遺跡 石製品・金属製品
包含層

報告書抄録

ふりがな	みずかみいせき・あかいみなみいせき・やすよしせき・たなだいせき・ほんごうおつほいちいせきはつつちょうさきうこく							
書名	水上遺跡・赤井南遺跡・安吉遺跡・榎田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡発掘調査報告							
副書名	北陸新幹線建設に伴う奥越文化財発掘調査報告							
シリーズ名	富山県文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第50集							
編者名	菅田 薫・越前慎子・金三津道子・青山 晃・高田亮仁							
編集機関	財団法人富山県文化財発掘調査事務所							
所在地	〒900-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL. 076-442-4229							
発行年月日	西暦 2012年3月16日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °			
みづかみ 水上	いほづし 射水市 しんがわにち 新開発	16211	381026 383067 384022	36度 43分 27秒	137度 04分 36秒	20100420～ 20100830	2.917	北陸新幹線建設 に伴う事前調査
あかいみなみ 赤井南	いほづし 射水市 あかい 赤井	16211	384019	36度 43分 25秒	137度 04分 21秒	20100430～ 20100809	3.875	
やすよし 安吉	いほづし 射水市 やすよし 安吉	16211	382059	36度 43分 19秒	137度 04分 01秒	20090417～ 20090716	5.689	
えのり 榎田	いほづし 射水市 えのり 榎田	16211	383049	36度 43分 14秒	137度 03分 37秒	20090610～ 20090911	8.179	
ほんごうおつほいち 本江大坪Ⅰ	いほづし 射水市 ほんごうおつほいち 大門本江	16211	382054	36度 43分 14秒	137度 03分 24秒	20090824～ 20091119	5.468	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
水上	集落	中近世	掘立柱建物4棟、井戸26基、溝67状、土坑306基、大型土坑11基		中世土師器、珠洲、越前、瀬戸美濃、青磁、越中瀬戸、肥前陶磁、木製品、石製品			
赤井南	集落	古代	道路2条、溝12条、土坑1基、杭16基		土師器、須恵器、土製品、瓦、木製品		道路遺構(御溝)から人面墨書の土師器甕出土	
		中近世	掘立柱建物2棟、井戸15基、溝35条、土坑158基		中世土師器、珠洲、八尾、瀬戸美濃、瓦質土器、越中瀬戸、肥前陶磁、木製品、石製品、金属製品			
安吉	集落	古墳時代	土坑1基		土師器		古墳時代中期の遺物一括出土	
		中近世	溝92条、土坑356基		中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸美濃、瓦質土器、越中瀬戸、肥前陶磁、木製品、石製品、金属製品			
榎田	集落	弥生～古墳時代	溝3条		弥生土器、石製品		「□大般若十六善神護」の木簡出土	
		中近世	溝37条、土坑87基		土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、越中瀬戸、肥前陶磁、木製品、金属製品			
本江大坪Ⅰ	集落	弥生～古墳時代	溝45条、土坑157基		弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、青磁、白磁、越中瀬戸、肥前陶磁、石製品、金属製品			
要 約	射水平野南西部の下桑川と和田川にはさまれた微高地上に位置する5遺跡の調査を行った。水上遺跡は13世紀～15世紀前半を中心とする集落遺跡である。赤井南遺跡は、古代から近世までの複合遺跡で、8世紀後半～9世紀の古代道路や杖列を伴う整地遺構が検出され、寺院や祭祀に関連するとみられる遺物も出土している。安吉遺跡は14世紀後半～16世紀を主体とし、密教法具や護符などの宗教的の遺物が出土しており、文献史料にも見える「慶園寺」の可能性が高い。榎田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡は弥生時代後期～古墳時代にかけての遺物が出土している。周辺は弥生時代～古墳時代にかけての遺跡が密集しており、こうした遺跡の縁辺部にあたる。							

2012 (平成24) 年3月5日 印刷

2012 (平成24) 年3月16日 発行

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第50集

水上遺跡
赤井南遺跡
安吉遺跡 発掘調査報告
棚田遺跡
本江大坪Ⅰ遺跡

— 北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅳ—

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 076-442-4229

印刷 越浜印刷株式会社

〒939-8214 富山市黒崎松ノ木割624
TEL 076-425-0283

